地方独立行政法人　神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター

ISSN　0913-5901

年報

第36号　　令和２年度

神奈川県立がんセンター

年　　報

第36号　令和２年度

KANAGAWA CANCER CENTER

神奈川県立がんセンター

ミッション（病院の使命）

神奈川県のがん医療の中枢機関として、県内の医療機関と連携をはかり、
県民に最良のがん医療を提供します。

ビジョン（目指す病院像）

患者さんに選ばれ、職員が生きがいと誇りを持てる病院を目指します。

バリュー（行動指針）

●患者さんの人権尊重と個人情報の保護
患者さんの意思と権利を尊重し、個人情報を適正に管理します

●安全で質の高い医療の提供
がん専門病院として最良の医療を提供します

●先進医療の開発と臨床研究の推進
新しいがんの診断治療法の開発と臨床研究機能の強化を行います

●人材の育成
優れた医療人の育成のため、がん診療に係わる医療従事者の教育研修を推進します

●経営基盤の強化
医療資源の最大利活用に努め、健全な病院経営のため不断の努力をします

〈がんセンターマークの由来〉令和元年制定
神奈川県立がんセンター Kanagawa Cancer Center の頭文字「KCC」を図案化。
最新鋭の技術や機器等の近未来をイメージし、さらに、がんセンター「K」が
情報等を波動のように発信していく様を「CC」で表したもの。

は　じ　め　に

皆様に令和２年度の年報をお届けします。

令和２年は、同年１月に神奈川県内で国内第１例目の新型コロナ感染症患者が発生して以来、猛威を振るったこの感染症の対策に翻弄された１年でした。翌年２月には「神奈川モデル」の重点医療機関協力病院に指定され、緩和病棟を閉鎖しコロナ対応病床を確保しました。加えて、コロナ対応で看護師を重点配置する必要があるため、一般病棟を一病棟閉鎖せざるを得ませんでした。結局がん診療の病床は70床減ることとなりました。日本対がん協会の調査によると、がん検診の中止や受診控えのため令和２年受診者は30%減少しました。また国立がん研究センターの調査では同年にがんの診断治療を受けた件数は約６万件減少したこともわかりました。このようなコロナ禍による病床減と受診控えは病院の運営にも大きな打撃となりました。具体的には、前年と比べ、入院延患者数は11%、病床稼働率は10%、新入院患者数５%、初診患者数６%、手術件数５%、内視鏡検査件数８%、それぞれ減少しました。一方で平均在院日数は0.8日短くなり、外来化学療法件数は７%増加するなど、病床の有効利用と外来治療へのシフトで通常診療への影響を極力軽減しようとする現場の努力も見て取れました。

学術研究面では、コロナ禍で多忙を極める中で、病院職員が筆頭著者である査読制の英語学術論文数は前年比26%増と大幅に増えました。臨床研究所でも重粒子線治療を併用した複合免疫療法の臨床研究や日本医療研究開発機構（AMED）の競争的資金による免疫チェックポイント阻害剤の患者層別化マーカーの探索研究、難治がん、希少がん、小児がんを対象とした患者由来マウス異種移植片PDXやオルガノイドの研究、がんゲノム研究、未病の概念を導入した県下のゲノムコホート研究、などを精力的に推進しました。

さて、この原稿を書いている時点で国内の新規コロナ感染患者数は大変少なくなっていますが、海外では新たな変異株が広がりつつあるようです。今年の春のアルファ株による第４波、夏のデルタ株による第５波、そして新たなオミクロン株による第６波が来るのかどうか予断を許しません。医療を取り巻く環境はかつてない程に大きく急速に変動しています。コロナ禍はさらに予測不能の逆境となりました。この逆境を乗り越えるためには柔軟な対応がいかに重要か再認識させられました。私たちにはがん診療の中断という選択肢はありません。できない理由、やらなくても良い理由を探して、今までと同じに留まろうとする気持ちではこの激変する医療環境には対応できないことは自明です。これからもがん診療の維持とさらなる向上に向け不断の努力をする所存です。

皆様の一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和３年12月

地方独立行政法人神奈川県立病院機構
神奈川県立がんセンター
総長　**中 山 治 彦**

目　　次

はじめに

＜総　括　編＞

第１章　概　　要

第１節　設立趣旨・沿革…… 1

第２節　施設・設備…… 3

1　施設概要…… 3

2　病棟・病床構成…… 5

3　主なる医療機器一覧…… 6

第３節　組　織

1　組　　織…… 8

(1)　組 織 表…… 8

(2)　組織別常勤職員配置状況…… 10

(3)　役 職 者…… 12

(4)　任期付医師／配置状況…… 13

第４節　所内会議・委員会…… 14

第２章　病院業務

第１節　概　　要…… 16

第２節　医 療 局…… 17

第３節　がんゲノム診療センター…… 28

第４節　重粒子線治療センター…… 28

第５節　医療技術部…… 29

第６節　看 護 局…… 32

第７節　医療管理部…… 32

第８節　患者支援部…… 34

第９節　医療安全推進室…… 37

第10節　地域連携室…… 39

第11節　感染制御室…… 39

第12節　新規治療開発支援センター…… 40

第13節　生体試料センター…… 41

第３章　事務局業務

第１節　概　　要…… 41

第２節　総務企画課…… 41

図 書 室

第３節　財務経営課…… 42

第４節　医事・診療情報管理課…… 43

院内がん登録

第４章　臨床研究所業務
第１節　概　　要…… 44
第２節　研究業務…… 45
第３節　実験動物施設…… 47
第４節　神奈川県悪性新生物登録…… 48
第５章　研修・研究…… 49
第６章　病院ボランティア会ランパスの活動…… 51

＜研　究　編＞

第１章　臨床研究所
第１節　研究課題一覧…… 53
第２節　研究業績…… 55
第３節　臨床研究所・病院共同研究一覧…… 62
第４節　その他の学術講演…… 63
第５節　公的研究費による研究一覧…… 63
第６節　臨床研究所セミナー…… 67
第７節　県民のための公開行事…… 67
第２章　病　　院
第１節　研究課題一覧…… 68
第２節　研究業績…… 97
第３節　その他の学術講演…… 145
第４節　公的研究費による研究一覧…… 154
第５節　主催学会・セミナー…… 163
第６節　県民のための公開行事…… 163
第３章　所内研究会
第１節　所内カンファレンス一覧…… 164
第２節　所内研究会…… 165
１　病院・研究所研究会…… 165
２　看護研究会…… 165
３　臨床腫瘍セミナー…… 166
４　学術セミナー…… 166

＜統　計　編＞

凡　　例
表１　診療業務総括表…… 168
表２　収益的収入及び支出（令和２年度）
⑴　がんセンター…… 169
⑵　重粒子線治療施設…… 170
表３　診療報酬診療行為別割合（令和２年度）…… 171

表４　診療科別外来患者数…… 172
表５　外来新患者年齢別数…… 176
表６　外来新患者地域別数…… 177
表７　診療科別入院・退院患者数…… 178
表８　入院患者年齢階級別数…… 182
表９　入院患者地域別数…… 183
表10　科別死亡退院患者数・剖検数…… 184
表11　手術件数
⑴　臓器別・部位別手術件数…… 186
⑵　科別手術件数…… 187
表12　麻酔別手術件数…… 187
表13　放射線検査件数…… 188
表14　放射線治療件数（光子線）
⑴　第１リニアック…… 190
⑵　第２リニアック…… 191
⑶　第３リニアック…… 192
⑷　第４リニアック…… 194
⑸　小線源治療…… 196
表15　放射線治療件数（重粒子線）
⑴　重粒子照射室１…… 197
⑵　重粒子照射室２…… 198
⑶　重粒子照射室３…… 199
⑷　重粒子照射室４…… 200
⑸　その他関連業務件数…… 201
表16　ラジオアイソトープ検査件数（体外測定）…… 202
表17　臨床検査統計
⑴　臨床検査統計…… 204
⑵　病理検査詳細…… 206
⑶　血液形態検査詳細…… 207
⑷　細菌検査詳細…… 208
⑸　生理機能・超音波検査詳細…… 209
⑹　治験検体処理検査詳細…… 210
⑺　輸血検査詳細…… 211
⑻　委託検査の概要…… 212
⑼　日直・当直検査の詳細…… 213
表18　内視鏡室実績…… 214
表19　外来化学療法室／処置室／外来採血室実績
⑴　外来化学療法室業務量　…… 215
⑵　処置室業務量　…… 215

⑶　外来化学療法数の年次推移（平成20年度～令和２年度）…… 215
⑷　外来採血室業務量…… 215
表20　薬剤科業務統計
⑴　薬剤件数…… 216
⑵　医薬品情報（Ｄ．Ｉ）業務件数 …… 216
⑶　薬剤管理指導業務…… 216
⑷　麻薬使用数量…… 218
表21　⑴　患者給食数…… 220
⑵　栄養相談・指導数…… 220
表22　退院患者年齢階級別性別数…… 221
表23　退院患者地域別数…… 222
表24　⑴　退院患者（延）疾病分類⑴…… 223
⑵　退院患者（延）疾病分類⑵…… 224
表25　院内がん登録
⑴　院内がん新登録（令和元年）…… 226
⑵　年次別院内がん登録数及び追跡調査状況（令和元年）…… 228
⑶　新登録患者数（主要部位別・性別・年齢階級別）（令和元年）…… 230
⑷　新登録患者数（地区別）（令和元年）…… 231
表26　神奈川県悪性新生物登録
⑴－１　がん罹患数・粗罹患率・年齢調整罹患率（部位・性別）（2017年）…… 232
⑴－２　罹患数（主要部位・性・年齢階級別）（2017年）…… 234
⑴－３　罹患率（主要部位・性・年齢階級別）（2017年）…… 235
⑵－１　罹患数（主要部位・性・二次保健医療圏別）（2017年）…… 236
⑵－２　粗罹患率（主要部位・性・二次保健医療圏別）（2017年）…… 237
⑵－３　年齢調整罹患率（主要部位・性・二次保健医療圏別）（2017年）…… 238
⑶　届出罹患の５年相対生存率（主要部位・性別）（2013年）…… 239

総　　括　　編

第１章　概　　要

第１節　設立趣旨・沿革

昭和38年４月に成人病センターとして発足し、がんを中心に、高血圧症、糖尿病などの成人病患者を対象に診療を行ってきた。

その後昭和61年４月に、神奈川県におけるがん診療の中核的医療機関として、悪性腫瘍患者の診断と進行がんの治療を行うための専門病院として位置付けられ、名称をがんセンターと改めた。また、これに合わせて、臨床研究所を付置し、がんの発生原因に関する基礎研究や診断及び治療方法の開発など、臨床と直結した研究に取り組むこととした。

平成19年１月には、厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院として指定を受け、神奈川県におけるがん診療の連携体制並びにがん患者に対する相談支援及び情報提供の拠点としての役割を担うこととなった。

平成27年12月には、国内では５番目、がん専門病院併設施設としては世界で初めての重粒子線治療施設での治療を開始した。

さらに令和元年９月には、厚生労働大臣からがんゲノム医療拠点病院として指定を受け、がんゲノム医療においても、拠点病院としての役割を担うこととなった。

この間、運営形態は、平成17年４月に神奈川県の組織として病院事業庁が設置され、それまでの地方公営企業法の一部適用から全部適用となった。さらに平成22年４月に地方独立行政法人法に基づく「地方独立行政法人神奈川県立病院機構」に移行し、柔軟で弾力的な運営を行うことにより、自立した経営が求められることとなった。また平成25年11月には、PFI事業により新病院を新築、移転し、施設の維持・管理業務や医療周辺業務は特定目的会社により運営されることとなり、現在に至っている。

昭和36年４月		県立成人病センター建設準備事務局の設置
38	3	許可病床31床完成
38	4	診療開始（内科、外科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科）
39	10	本館内部改造、許可病床55床となる。
41	6	許可病床65床となる。
44	2	新館建設工事完成、許可病床250床となる。
44	4	泌尿器科の設置 放射線科診断部門が放射線第一科となる。 治療部門が放射線第二科となる。
45	3	ラジオアイソトープ棟新築工事完成
52	4	許可病床244床となる。 呼吸器科、消化器科、循環器科設置、放射線第一科が放射線診断科、放射線第二科が放射線治療科となり、検査部門が検査科と病理科に分かれる。
昭和56	6	麻酔科の設置
57	12	CT・ラルス東完成
59	10	第一期増改築工事完成 （管理診療棟　188床）
61	3	第二期改築工事完成（東病棟227床　研究棟、放射線治療棟、講堂棟、機械棟）
61	4	許可病床415床となる。整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科の設置。 神奈川県立がんセンターに名称変更（総務局、病院、臨床研究所）
62	1	紹介型病院承認（制度改正により平成６年３月廃止）
62	4	レジデント制度の設置
平成４年11月		新医療従事者公舎（88戸）完成
6	11	倫理会議の発足
8	4	企画調査室と地域保健課を統合し、新企画調査室を設置
11	5	事故防止対策会議の設置
11	7	増改築工事（管理・医局、Ｂ棟）完成
11	9	院外処方の全面実施
12	3	増改築工事（Ａ棟）完成
12	4	ICU病棟、無菌病棟、緩和ケア対応病棟の開設。総務局及び診療科の再編。精神科、歯科口腔外科の設置。修練医制度の設置。治験管理室の設置
12	10	検査第四科、検査第五科が設置される。 検査の一部を院内委託検査（ブランチ・ラボ）へ移行
13	3	トータルオーダリングシステム一部稼働開始
14	3	トータルオーダリングシステムに伴う予約センター業務開始。緩和ケア病棟の運用開始
14	12	厚生労働大臣から地域がん診療拠点病院として指定される。
15	2	㈶日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定を得る。
15	3	㈱日本環境認証機構（JASO）よりISO14001環境マネジメントシステムの認証を得る。
17	4	地方公営企業法を全部適用。病院事業の経営組織を一般行政組織から独立し、病院事業庁となる。

平成18年４月　治験管理室、地域医療連携室、総合整備推進室の設置

19　1　厚生労働大臣から都道府県がん診療連携拠点病院として指定される。

20　2　㈶日本病院機能評価機構による病院機能評価の認定更新。

20　4　企画情報部を設置し、その下に医療相談支援室（旧・地域医療連携室）を設置した。DPC算定病院となる。

22　4　地方独立行政法人へ移行（地方独立行政法人神奈川県立病院機構）、総合整備推進部と医療評価安全部を設置組織を再編した。レジデントと修練医を任期付職員とした。

24　1　電子カルテシステム稼働

24　4　組織規程の改正に伴い、医療安全推進等を正式な組織に位置づけたほか、企画情報部、総合整備推進部を病院に移行。 組織を再編した。

25　11　PFI方式による新病院への移転、運営を開始した。
新病院において業務を開始した。

26　4　感染制御室、漢方サポートセンター、がんワクチンセンター、東洋医学科、免疫療法科、リハビリテーション科及び臨床研究所にがん免疫療法研究開発学部を設置。核医学科の廃止に伴い放射線診断科を放射線診断・IVR科と精神科を精神腫瘍科と改称した。
また、総合整備推進室を３月末で廃止。

26　6　神奈川がん臨床研究･情報機構を廃止した。

26　10　腫瘍組織センター設立

27　4　緩和ケア・患者支援部を新設し、その下に緩和ケアセンター及び患者支援センターを設置、診療施設管理部を新設し、その下に一般診療施設管理室及び重粒子線治療管理室を設置、放射線治療部を新設し、その下に放射線腫瘍科、重粒子線治療科（重粒子線治療センター）及び物理工学科を設置した。
また､東洋医学科(漢方サポートセンター)、免疫療法科（がんワクチンセンター）と改編した。

27　12　がん専門病院に併設される施設としては、世界で初めてとなる重粒子線治療施設「i-Rock」を開設し、治療を開始した。

28　4　病院の下に腫瘍組織センター及び臨床研究所を位置づけ、診療施設管理部及び放射線治療部を廃した。
緩和ケア・患者支援部にアピアランスサポートセンター及びリハビリテーションセンターを新設。
医療局に放射線治療科、その下に放射線腫瘍科、重粒子線治療科を設置。
病院の下に重粒子線治療センターを設置し、その下に重粒子線診療部、放射線技術科（重粒子線担当）を新設するとともに物理工学科及び重粒子線治療管理室を配した。

平成29年１月　腫瘍組織センターを生体試料センターに改組した。

29　3　検査科・委託検査室で国際規格であるISO15189を認定取得した。

29　4　医療技術科を臨床工学科へ改正

29　5　二俣川駅北口と病院正面玄関とを結ぶシャトルバスの運行を開始

30　9　手術支援ロボット「ダビンチ」を導入
前立腺センター設立

31　4　事務局を総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課、地域連携課に再編し、企画情報部を廃止した。
緩和ケア・患者支援部を患者支援部に改称し、その下に患者医療対話推進室を新設した。
病院の下にがんゲノム診療センターを設置し､医療局にがんゲノム診療科を設置した。
放射線治療科の下の放射線腫瘍科、重粒子線治療科の区分を廃止した。
物理工学科を重粒子治療センターから医療技術部に移管した。

令和元年４月　重粒子線治療管理室を廃止し、機能を総務企画課へ移管した。

元　6　治験管理室を新規治療開発支援センターと改称した。

元　9　公益財団法人 日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定（機能種別版評価項目3rdG：Ver.2.0）を受けた。

元　9　厚生労働大臣からがんゲノム医療拠点病院に指定された。

2　4　地域連携課を病院長の下に位置づけ地域連携室と改称した。リハビリテーションセンターを患者支援部から医療技術部へ移管しリハビリテーション技術科と改称した。

3　2　新型コロナウイルス神奈川モデル重点医療機関協力病院に認定された。

第２節　施 設 ・ 設 備

１　施設概要

所在地	横浜市旭区中尾２丁目３番２号	横浜市旭区中尾１丁目２番８号
用途	病院敷地ほか	医療従事者宿舎ほか
面積	37,425.56㎡	4,992.00㎡

⑴　建築概要

敷地面積	37,425.56㎡	
	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
建築面積	11,842.14㎡	3,009.12㎡
延床面積	51,463.93㎡	6,999.47㎡
構造	RC造／免震	RC造／耐震
階数	地上７階、地下１階	地上２階、地下１階
病床数・定員数	415＋外来化学療法60	―
工期	2011年７月～2013年７月	2012年11月～2014年10月
付属施設	駐車場棟、院内保育施設、防災倉庫、 マニホールド室、バイク置場、自転車置場	―
容積率	149.07%	
建蔽率	39.68%	
軒高	28.462m	

⑵　部門別面積

	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
病棟	14,838.91㎡	―
外来	4,440.38㎡	―
診療	13,664.89㎡	1,840.31㎡
供給	6,585.85㎡	0㎡
管理	6,555.35㎡	893.53㎡
その他	5,378.55㎡	4,265.63㎡
計	51,463.93㎡	6,999.47㎡

(3) 設備概要

	病院棟・管理研究棟	重粒子線治療棟
空　調　設　備	中央式、冷5,510kW、温2,100kW、熱源：都市ガス、電気　熱源機器：空冷HPチラー、ガス焚冷温水（ジェネリンク）・ターボ冷凍機（水蓄熱用）、蒸気ボイラー、空調方式：外調機＋FCU、PAC	空調方式：空気調和機（全空気）、空気調和機（外調機）＋パッケージ型空気調和機（EHP） 熱源機器：空冷HPチラー温水・冷水 精密温調チラー温水
衛　生　設　備	給水：市水・受水槽・加圧給水方式、給湯：中央式給湯、排水：屋内合流、ガス：都市ガス（中圧導管）、雑用水：加圧給水方式	給水：加圧給水方式（管理棟より供給） 雑用水：加圧給水方式（管理棟より供給） 排水：合流式、 ガス：都市ガス（管理棟より供給）
電　気　設　備	特別高圧66kV　２回線受電　特高変圧器12,500kVA×２、非常用発電機：ガスタービン2,500kVA　A重油　CGS 370kW×２ 直流電源設備:800Ah　MSE　無停電電源設備:150kVA　MSE、情報通信設備　PBX、セキュリティ、ナースコール	特別高圧66kV（本館特高変電所より受電） 非常用発電機:ディーゼル544kVA　A重油、直流電源設備:400Ah、無停電電源設備:150kVA、ITV、セキュリティ、ナースコール
搬　送　設　備	昇降機：乗用1,000kg ６台/1,600kg １台/900kg １台/750kg １台、寝台用1,000kg ３台、人荷用1,750kg １台 エスカレータ２台、搬送機：小荷物専用昇降機50kg ４台、オートリフト50kg １台、気送管８ステーション	昇降機：乗用1,000kg ２台

２　病棟・病床構成

病床数415床のうち１床室119室、４床室74室で、各病床はそれぞれカーテンで区切ることができる。

令和２年４月１日現在

階別	病棟	主な診療科	病床数	室数
７階	７Ｅ	緩和ケア内科	20	１床室　20
	７Ｗ	血液内科 腫瘍内科	30	４床室　3 １床室　18
６階	６Ｅ	形成外科 皮膚科 乳腺内分泌外科 婦人科	50	４床室　10 １床室　10
	６Ｗ	呼吸器内科 呼吸器外科 脳神経外科	49	４床室　10 １床室　9
５階	５Ｅ	頭頸部外科 形成外科 皮膚科 乳腺内分泌外科 泌尿器科	50	４床室　10 １床室　10
	５Ｗ	呼吸器内科 腫瘍内科 血液内科 骨軟部腫瘍外科	50	４床室　10 １床室　10
４階	４Ｅ	消化器内科（消化管・肝胆膵） 消化器外科（大腸・肝胆膵）	50	４床室　10 １床室　10
	４Ｗ	消化器内科（肝胆膵） 消化器外科（胃食道）	50	４床室　10 １床室　10
３階	３Ｅ	ICU科	24	４床室　3 １床室　12 （HCU　24床）
	３Ｓ	循環器内科 腫瘍内科 消化器内科（消化管） 放射線腫瘍科	42	４床室　8 １床室　10
計			415	４床室　74 １床室　119

3　主なる医療機器一覧

病院棟１階

品　　名	型　　式	関係セクション
（放射線診断部門）		
全身用コンピュータ断層撮影装置	キャノン Aquilion ONE	放射線診断技術科
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝 Aquilion CXL	〃
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝 Aquilion RX	〃
一般撮影Ｘ線装置	東芝 MRAD-A80S/1H	〃
血管撮影Ｘ線装置	フィリップス Allra Xper FD20	〃
フラットパネル型Ｘ線テレビ装置	東芝 Winscope 6000	〃
デジタル乳房Ｘ線撮影装置	シーメンス MAMMOMAT Inspiration	〃
デジタルFPD搭載型Ｘ線テレビ装置	日立 Medites CREA	〃
画像処理装置（FCR）	富士 PROFECT	〃
画像処理装置（FPD）	富士 CALNEO システム	〃
骨密度測定装置	GE PRODIGY PRIMO	〃
磁気共鳴断層撮影装置	シーメンス MAGNETOM Skyra 3T	〃
磁気共鳴断層撮影装置	シーメンス MAGNETOM Aera 1.5T	〃
多目的デジタルFED搭載型Ｘ線テレビ装置	日立 VerseFlex VISTA	〃
（検査部門）		
全自動輸血検査機器システム	オーソ･クリニカル･ダイアグノスティックス社オーソビュゾン	検　査　科
超音波診断装置	GE ロジックE10	〃
超音波診断装置	フィリップスエレクトロニクスジャパン社EPIQ5	〃
超音波診断装置	日立 ARIETTA850	〃
超音波診断装置	フィリップス・ジャパンCX50Xper	〃
心臓用超音波診断装置	フィリップス・ジャパンiE33	〃
全自動細胞解析システム	ベクトン･ディッキンソン製BD FACSLyric フローサイトメーター	〃
（手術部門）		
内視鏡下手術用ビデオシステム	ストライカー 1488HD及び1588HD	手　術　室
外科用Ｘ線撮影装置	日立シリウス130HP	〃
移動型デジタル式汎用X線透視診断装置	GEヘルスケア社 OEC Elite CFD 31 ErgoC	〃
CT及びMRI定位脳手術装置	（米国）ラジオニクス社 BRW型	〃
手術用顕微鏡システム	カールツァイス社 OPMPENTERO900	〃
低温プラズマ滅菌機	ジョンソンエンドジョンソンステラッド100S	〃
手術室モニタリングシステム及び 手術部門コンピューターシステム	日本光電工業㈱ モニタリングシステムBSM-6701、 コンピューターシステムCAP-2500	〃
手術支援ロボットサージカルシステム	Intuitive Surgical社 daVinci X	〃
ICU患者監視装置	日本光電工業㈱CNS-9601、BSM6701	Ｉ　Ｃ　Ｕ　科
集中治療室等モニタリングシステム及び 集中治療部門生体情報管理	日本光電　CAP-2100	〃
（外来部門）		
コルポスコープ	オリンパス OCS5-STD	婦　人　科
超音波内視鏡装置	オリンパス EU-ME2、UCT-260、UE-260	内　視　鏡　室
内視鏡ビデオ装置システム	オリンパス EVIS-260	〃
マルチキャピラリーDNA解析装置（シークエンサー）	ベックマンコールター・CE2000システム	検　査　科

病院棟地下１階

品　　名	型　　式	関係セクション
（放射線治療部門）		
Ｘ線位置決め装置	東芝メディカルシステムズ社製　LX-40A	放射線治療技術科
Ｘ線位置決め装置	VARIAN社製　Acuity	〃
Ｘ線位置決め装置	島津製作所社製　UD150L-40F	〃
CT位置決め装置	東芝メディカル社製　AquilionLB	〃
CT位置決め装置	GEヘルスケア社製　Optima CT580W	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製　Trilogy＋Exc Trac Xray System	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製　CLINAC iX	〃
治療装置（リニアック装置）	VARIAN社製　CLINAC iX	〃
治療装置（リニアック装置）	東芝メディカルシステムズ社製　PRIMUS M2-6323	〃
治療装置（腔内照射装置）	Nucletron社製　microSelectron HDR	〃
治療計画装置	VARIAN社製　Eclipse	〃
治療計画装置	ELEKTA社製　Monoco	〃
治療計画装置（腔内照射）	Nucletron社製　Oncentra	〃
治療計画支援ソフト	MIM Software社製　MIM Maestro	〃
（核医学部門）		
全身機能撮像システム	シーメンス E-cam Signature 180	放射線診断技術科
２検出器型デジタルガンマカメラ	シーメンス Symbia S	〃
陽電子－Ｘ線コンピュータ断層複合撮像システム	GEヘルスケア社製 Discovery MI.x-AM edition	〃

管理研究棟

品　　名	型　　式	関係セクション
（研究部門）		
レーザー走査型共焦点顕微鏡	カール・ツァイス社 LSM710	実　験　室
タイムラプス撮影機能つき蛍光顕微鏡	キーエンス　BZ9000	
自動遺伝子分析装置	アプライドバイオシステム社製 ジェネティックアナライザ3130	〃
次世代型DNAシークエンサー	ライフテクノロジー社 Ion PGM	〃
マルチバイオイメージャー	GEヘルスケア社　Typhoon FLA9500	〃
逆相プロテインアレイ作製装置	オーションバイオシステムズ社製Aushon2470マイクロアレイヤー	〃
デジタルPCR解析システム	バイオラッド・ラボラトリーズ社　QX200 Droplet Digital PCR C1000 Touch,PX1	中央機器室
全自動発光プレートリーダー	モレキュラーデバイスジャパン社　SpectraMax L	〃
サイトカイン産生細胞解析装置	エムエステクノシステムズ社　ImmunoSpot S6 ENTRY Analyzer	〃
小動物用in vivo イメージングシステム	パーキンエルマー社製　IVIS Lumina LT	動物実験施設
実験用X線照射装置	日立パワーソリューションズ社　MBR-1520R-4	〃
自動細胞分離解析装置	ベクトン・ディッキンソン社 BD FACSAria™ Ⅱ セルソーター	がん免疫療法研究開発学部
自動細胞解析装置	ベクトン・ディッキンソン社 BD FACSCanto™ Ⅱ フローサイトメーター	〃
循環腫瘍細胞（CTC）解析装置	ClearBridge Biomedics社 ClearCell FX システム	〃
タンパク質多項目同時測定システム	BIO-RAD社 Bio-Plex200	〃
全自動磁気細胞分離装置	Miltenyi社 autoMACS Pro Separator	〃
プレートリーダー	パーキンエルマー社 ARVOX4	〃

重粒子線治療棟地下１階

品　　名	型　　式	関係セクション
（重粒子線治療部門）		
重粒子線治療装置	東芝製 CI-1000	重粒子線治療科
全身用コンピュータ断層撮影装置	東芝メディカルシステムズ社製 Aquilion TSX-201A	〃
治療計画装置	エレクタ社製 Monaco	〃
内視鏡ビデオ装置システム	オリンパス社製 VISERA Pro	〃

第３節　組　　織

１　組　　織

(1)　組織表

組　　織　　表　　（2021年４月１日現在）

- 事務局
  - 総務企画課
  - 財務経営課
  - 医事・診療情報管理課
- 医療安全推進室
- 病院
  - 地域連携室
  - 患者支援部
    - 緩和ケアセンター
      - （緩和ケアチーム）
    - 患者支援センター
      - （がん相談支援室）
      - （入退院支援室）
      - （医療福祉相談室）
    - アピアランスサポートセンター
    - 患者医療対話推進室
  - 感染制御室
    - （院内感染対策チーム）
  - 医療管理部
    - 医療の質評価推進室
    - （栄養管理サポートチーム）
    - （褥瘡対策チーム）
    - 放射線治療品質保証室
  - 医療局
    - 循環器内科
    - 糖尿病・内分泌内科
    - 呼吸器内科
    - 呼吸器外科
    - 血液・腫瘍内科
    - 消化器内科
    - 消化器外科
    - 精神腫瘍科
    - 脳神経外科
    - 頭頸部外科
    - 形成外科
    - 皮膚科
    - 乳腺内分泌外科
    - 婦人科
    - 泌尿器科
      - （前立腺センター）
    - 骨軟部腫瘍外科
    - 放射線診断・IVR 科
    - 放射線治療科
    - 感染症内科
    - 東洋医学科（漢方サポートセンター）
    - 免疫療法科（がんワクチン・免疫センター）
    - 麻酔科
    - ICU 科
    - 緩和ケア内科
    - 歯科口腔外科
    - リハビリテーション科
    - 病理診断科
    - 輸血医療科
    - 遺伝診療科
      - （遺伝カウンセリングチーム）
    - がんゲノム診療科
  - がんゲノム診療センター
    - （がんゲノム診療相談センター）
    - （がんゲノム情報管理室）
    - （がんゲノム医療管理室）
    - （がんゲノム診断・治療検討室）
  - 重粒子線治療センター
    - （放射線治療科（重粒子線担当））
  - 医療技術部
    - 放射線診断技術科
    - 放射線治療技術科
    - 物理工学科
    - 検査科
    - 栄養管理科
    - 薬剤科
    - 臨床工学科
    - リハビリテーション技術科
  - 看護局
    - 外来看護科
    - 手術看護科
    - ３Ｅ病棟看護科
    - ３Ｓ病棟看護科
    - ４Ｅ病棟看護科
    - ４Ｗ病棟看護科
    - ５Ｅ病棟看護科
    - ５Ｗ病棟看護科
    - ６Ｅ病棟看護科
    - ６Ｗ病棟看護科
    - ７Ｅ病棟看護科
    - ７Ｗ病棟看護科
    - 看護教育科
  - 新規治療開発支援センター
  - 生体試料センター
- 臨床研究所
  - がん生物学部
  - がん分子病態学部
  - がん治療学部
  - がん予防・情報学部
  - がん免疫療法研究開発学部

組　織　表

（2020年４月１日現在）

- 事務局
  - 総務企画課
  - 財務経営課
  - 医事・診療情報管理課
- 医療安全推進室
- 病院
  - 地域連携室
  - 患者支援部
    - 緩和ケアセンター
      - （緩和ケアチーム）
    - 患者支援センター
      - （がん相談支援室）
      - （入退院支援室）
      - （医療福祉相談室）
    - アピアランスサポートセンター
    - 患者医療対話推進室
  - 感染制御室
    - （院内感染対策チーム）
  - 医療管理部
    - 医療の質評価推進室
    - （栄養管理サポートチーム）
    - （褥瘡対策チーム）
    - 放射線治療品質保証室
  - 医療局
    - 循環器内科
    - 糖尿病・内分泌内科
    - 呼吸器内科
    - 呼吸器外科
    - 血液・腫瘍内科
    - 消化器内科
    - 消化器外科
    - 精神腫瘍科
    - 脳神経外科
    - 頭頸部外科
    - 形成外科
    - 皮膚科
    - 乳腺内分泌外科
    - 婦人科
    - 泌尿器科
      - （前立腺センター）
    - 骨軟部腫瘍外科
    - 放射線診断・IVR 科
    - 放射線治療科
    - 東洋医学科（漢方サポートセンター）
    - 免疫療法科（がんワクチン・免疫センター）
    - 麻酔科
    - ICU 科
    - 緩和ケア内科
    - 歯科口腔外科
    - リハビリテーション科
    - 病理診断科
    - 輸血医療科
    - 遺伝診療科
      - （遺伝カウンセリングチーム）
    - がんゲノム診療科
  - がんゲノム診療センター
    - （がんゲノム診療相談センター）
    - （がんゲノム情報管理室）
    - （がんゲノム医療管理室）
    - （がんゲノム診断・治療検討室）
  - 重粒子線治療センター
    - （放射線治療科（重粒子線担当））
    - （放射線治療技術科（重粒子線担当））
    - （物理工学科（重粒子線担当））
  - 医療技術部
    - 放射線診断技術科
    - 放射線治療技術科
    - 物理工学科
    - 検査科
    - 栄養管理科
    - 薬剤科
    - 臨床工学科
    - リハビリテーション技術科
  - 看護局
    - 外来看護科
    - 手術看護科
    - ３Ｅ病棟看護科
    - ３Ｓ病棟看護科
    - ４Ｅ病棟看護科
    - ４Ｗ病棟看護科
    - ５Ｅ病棟看護科
    - ５Ｗ病棟看護科
    - ６Ｅ病棟看護科
    - ６Ｗ病棟看護科
    - ７Ｅ病棟看護科
    - ７Ｗ病棟看護科
    - 看護教育科
  - 新規治療開発支援センター
  - 生体試料センター
- 臨床研究所
  - がん生物学部
  - がん分子病態学部
  - がん治療学部
  - がん予防・情報学部
  - がん免疫療法研究開発学部

⑵　組織別常勤職員配置状況

2020年４月１日現在

（単位：人）

組織	一般事務	医師〈任期付〉	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医学物理士	品質管理士	保健師	福祉職	看護師	研究職	遺伝カウンセラー	診療情報管理士	合計
管理者	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7
総長		1																	1
病院長		1																	1
副院長		3													1				4
統括部長		1																	1
事務局	24	12〈12〉	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	37
事務局長	1																		1
副事務局長	1																		1
総務企画課	9	12〈12〉																	21
財務経営課	7																		7
医事・診療情報管理課	6																	1	7
医療安全推進室	0 (1)	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1 (5)
医療安全推進室長		(1)																	0 (1)
医療安全推進室	(1)	(1)	(1)	(1)											1				1 (4)
地域連携室	3	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3 (1)
地域連携室長		(1)																	0 (1)
地域連携室	3																		3
患者支援部	0 (3)	0 (4)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	21 (5)	0	0	0	24 (12)
患者支援部長		(1)																	0 (1)
緩和ケアセンター		(1)													4				4 (1)
患者支援センター	(1)													3	16 (1)				19 (2)
アピアランスサポートセンター															1 (1)				1 (1)
患者医療対話推進室	(2)	(2)													(3)				0 (7)
感染制御室	0	0 (2)	0 (1)	0 (1)	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1 (5)
感染制御室室長		(1)																	0 (1)
感染制御室		(1)	(1)	(1)	(1)										1				1 (4)
医療管理部	0 (0)	0 (4)	0 (0)	0		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2 (4)
医療管理部長		(1)																	0 (1)
医療の質評価推進室		(2)																	0 (2)
放射線治療品質保証室		(1)										2							2 (1)
医療局	0	105〈22〉(13)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	106 (13)
医療局長		0 (1)																	0 (1)
循環器内科		1																	1
糖尿病内科		1																	1
呼吸器内科		6〈1〉																	6
呼吸器外科		5〈1〉																	5
血液・腫瘍内科		8〈1〉(2)																	8 (2)
消化器内科		12〈4〉(1)																	12 (1)
消化器外科		15〈4〉(1)																	15 (1)
精神腫瘍科		1																	1
脳神経外科		2																	2
頭頸部外科		4〈2〉																	4
形成外科		1																	1
皮膚科		0																	0
乳腺内分泌外科		7〈3〉																	7
婦人科		6〈1〉																	6
泌尿器科		5〈1〉(1)																	5 (1)
骨軟部腫瘍外科		3〈1〉																	3
放射線診断・ＩＶＲ科		7〈1〉																	7
放射線治療科		8〈2〉																	8
東洋医学科（漢方サポートセンター）		1																	1

組織	一般事務	医師	〈任期付〉	薬剤師	診療放射線技師	臨床検査技師	管理栄養士	臨床工学技士	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	医学物理士	品質管理士	保健師	福祉職	看護師	研究職	遺伝カウンセラー	診療情報管理士	合計
免疫療法科（がんワクチンセンター）			(2)																	0 (2)
麻酔科		3																		3
ＩＣＵ科		1																		1
緩和ケア内科		1																		1
歯科口腔外科		1																		1
リハビリテーション科			(1)																	0 (1)
病理診断科		6	(1)																	6 (1)
輸血医療科			(1)																	0 (1)
遺伝診療科			(1)															1		1 (1)
がんゲノム診療科			(1)																	0 (1)
がんゲノム診療センター	0 (1)	0	(4)	0 (1)	0	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 (2)	0 (2)	0	0	0 (11)
がんゲノム診療センター長		0	(1)																	0 (1)
がんゲノム診療センター	(1)		(3)	(1)		(1)										(2)	(2)			0 (10)
重粒子治療センター	0 (0)	0	(1)	0	0 (10)	0	0	0	0	0	0	0 (1)	0	0	0	0	0	0	0	0 (12)
重粒子治療センター長		0	(1)																	0 (1)
重粒子治療センター					(10)							0 (1)								0 (11)
医療技術部	0	1	(4)	27 〈0〉 0	44	30 (2)	8	3	4	2	1	4	0	0	0	0	0	0	0	124 (6)
医療技術部長		1																		1
放射線診断技術科					19															19
放射線治療技術科					25															25
物理工学科			(1)									4								4 (1)
検査科						30 (2)														30 (2)
栄養管理科			(1)				8													8 (1)
薬剤科				27																27
臨床工学科			(1)					3												3 (1)
リハビリテーション科			(1)						4	2	1									7 (1)
看護局	0	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	425 (2)	0	0	0	425 (2)
看護局長																(1)				0 (1)
副看護局長																4				4
外来看護科																58				58
手術看護科																31				31
３Ｅ病棟看護科																29				29
３Ｓ病棟看護科																30				30
４Ｅ病棟看護科																33				33
４Ｗ病棟看護科																31				31
５Ｅ病棟看護科																30				30
５Ｗ病棟看護科																29				29
６Ｅ病棟看護科																29				29
６Ｗ病棟看護科																30				30
７Ｅ病棟看護科																26				26
７Ｗ病棟看護科																30				30
看護教育科																3 (1)				3 (1)
看護局																32				32
新規治療開発支援センター	1	0	(3)	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	7 (3)
新規治療開発支援センター長			(1)																	0 (1)
新規治療開発支援センター	1		(2)	3		1										2				7 (2)
生体試料センター	0	0	(1)	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (1)
生体試料センター部長		0	(1)																	0 (1)
生体試料センター						2														2
臨床研究所	1	6		0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13 〈5〉	0	0	22
臨床研究所長		1																		1
臨床研究所	1	5				2											13 〈5〉			21
現員	29 (5)	130 〈34〉 (39)		30 0 (3)	44 (12)	35 (4)	8	3	4	2	1	4 (1)	2	0	3	451 (9)	13 〈5〉 (2)	1	1	761 (75)

※ （ ）は、所内の兼務業務職員で外数
※ □は、兼務で外数
※ 〈 〉は、任期付医師（旧修練医）、任期付研究員、任期付職員で内数

(3) 役職者

2020年4月1日現在

役職名	氏名
総長	中山治彦
病院長	金森平和
事務局長	和田篤
副院長	酒井リカ
〃	森本学
〃	岸田健
〃	齊木由紀子
統括部長（リハビリテーション部門）	水落和也
副事務局長	市田明子
総務企画課長	(兼) 市田明子
財務経営課長	清水裕一
医事・診療情報管理課長	松葉菊子
地域連携室長	(兼) 金森平和
患者支援部長	(兼) 岸田健
緩和ケアセンター長	(兼) 太田周平
患者支援センター長	(兼) 古矢尚子
アピアランスサポートセンター長	得みさえ
患者医療対話推進室長	(兼) 酒井リカ
医療管理部長	(兼) 森本学
新規治療開発支援センター長	(兼) 上野誠
医療安全推進室長	(兼) 森本学
放射線治療品質保証室長	(兼) 吉田大作
医療の質評価推進室長	(兼) 森本学
感染制御室長	(兼) 村上修司
医療局長	(兼) 岸田健
循環器内科部長	常松尚志
呼吸器内科部長	齋藤春洋
呼吸器外科部長	伊藤宏之
血液・腫瘍内科部長（血液）	田中正嗣
〃（腫瘍）	(兼) 酒井リカ
消化器内科部長（肝胆膵）	上野誠
〃（消化管）	町田望
消化器外科部長（胃食道）	大島貴
〃（〃）	尾形高士
〃（肝胆膵）	森永聡一郎
〃（大腸）	塩澤学
精神腫瘍科部長	横尾実乃里
脳神経外科部長	佐藤秀光
頭頸部外科部長	古川まどか
形成外科部長	清水調
乳腺内分泌外科部長（内分泌）	岩崎博幸
〃（乳腺）	山下年成

役職名	氏名
婦人科部長	加藤久盛
泌尿器科部長	岸田健
骨軟部腫瘍外科部長	比留間徹
放射線診断・IVR科部長	栗原宏明
放射線治療科部長	加藤弘之
〃	吉田大作
東洋医学科（漢方サポートセンター）部長	板倉英俊
免疫療法科（がんワクチン・免疫センター）部長	(兼) 笹田哲朗
麻酔科部長	藤田久栄
ICU科部長	髙野修身
緩和ケア内科部長	太田周平
リハビリテーション科部長	(兼) 水落和也
病理診断科部長	横瀬智之
輸血医療科部長	(兼) 田中正嗣
遺伝診療科部長	(兼) 成松宏人
がんゲノム診療センター長	(兼) 酒井リカ
重粒子線治療センター長	鎌田正
放射線治療科（重粒子線担当）部長	(兼) 加藤弘之
放射線治療技術科（重粒子線担当）科長	(兼) 大澤幸夫
物理工学科（重粒子線担当）科長	(兼) 吉田大作
医療技術部長	森永聡一郎
放射線診断技術科長	渡辺優
放射線治療技術科長	大澤幸夫
物理工学科長	(兼) 吉田大作
検査科長	堀口早苗
栄養管理科長	(兼) 森永総一郎
薬剤科長	岸本有佳
臨床工学科長	(兼) 森永総一郎
リハビリテーション技術科長	(兼) 水落和也
看護局長	(兼) 齊木由紀子
副看護局長（業務担当（総務））	清水奈緒美
〃（教育担当）	安江佳子
〃（業務担当）	茂木光代
副看護局長	古矢尚子
生体試料センター長	(兼) 宮城洋平
臨床研究所長	宮城洋平
がん分子病態学部長	(兼) 宮城洋平
がん治療学部長	(兼) 宮城洋平
がん予防・情報学部長	成松宏人
がん免疫療法研究開発学部長	笹田哲朗

⑷　任期付医師

①　任期付常勤医

がん診療における専門かつ高度な知識と技術を習得した臨床医を育成し、神奈川県のがん医療を支援する目的として任期付常勤医制度を設けている。

期間は３年以内、雇用形態は週38時間45分勤務の任期付職員である。医学部卒業後４年以上の臨床経験を修了した医師（麻酔医及びICU科医師について３年以上）を対象とし、希望する診療科に専属しながら専門的な臨床を経験する。採用は配属指名を受けた診療科の科長が責任を持って人員を確保し、院内の配属される診療科の指定は診療状況を勘案、調整して総長が決定する。採用人数は年度によって変わることがある。なお、終了後、常勤スタッフになる場合もある。

②　レジデント

医学部卒業後、臨床研修を修了した医師を対象に、幅広い視野と優れた技量をもった「がん臨床医」の育成を目的としてレジデント制度を設けている。

期間は原則２年間（平成15年度採用までは原則３年間。現在は本人希望により３年間の場合もある。）、雇用形態は週38時間45分勤務の任期付職員である。平成18年度までは、医学部卒業後２年以上の臨床経験を修了した医師を対象としたが、臨床研修制度の改定に伴い、平成19年度から24年度まで、原則として後期研修を２年以上経験した卒後４年以上の医師、平成25年度募集からは後期研修を１年以上経験した医師を対象とする専門研修とした。平成24年度までは最初の年に放射線診断科および病理診断科を各３ヶ月必修研修で、その他の期間は希望する専攻科あるいは専攻コースの診療科で研修した。

募集の詳細はホームページに掲載し、筆記試験・面接により採用が決定される。

採用実績は全国からで、平成30年度６名、平成31年度６名、令和２年度６名となっており、令和３年度については５名程度の募集となっている。

任期付常勤医及びレジデント配置状況

2020年４月１日

（単位：人）

診療科名	任期付常勤医	レジデント
循環器内科		
糖尿病内科		
呼吸器内科	1	
呼吸器外科	1	2
血液内科		
腫瘍内科	1	
消化器内科	4	2
消化器外科	4	3
精神腫瘍科		
脳神経外科		
頭頸部外科	2	
形成外科		
皮膚科		
乳腺内分泌外科	3	2
婦人科	1	1
泌尿器科	1	
骨軟部腫瘍外科	1	
放射線診断・IVR科		
放射線治療科	1	
東洋医学科		
免疫療法科		
麻酔科		
ICU科		
緩和ケア内科		
歯科口腔外科		1
リハビリテーション科		
病理診断科		1
輸血医療科		
遺伝診療科		
計	20	12

第４節　所内会議・委員会

	名　　称	事　務　局
1	管理者会議	総務企画課
2	病院運営会議	総務企画課
3	病院経営企画会議	財務経営課
4	機種等選定会議	財務経営課
5	薬事審議会議	薬剤科
6	診療材料検討会議	財務経営課
7	DPC・適正診療報酬請求検討会議	医事・診療情報管理課
8	経営懇話会	財務経営課
9	医療安全管理会議	医療安全推進室
10	リスクマネージャー会議	医療安全推進室
11	医療安全推進室会議	医療安全推進室
12	院内感染対策会議（ICC）	総務企画課
13	院内感染対策チーム（ICT）	総務企画課
14	医療機器安全管理会議	財務経営課
15	倫理委員会	新規治療開発支援センター
16	治験審査委員会	新規治療開発支援センター
17	研究倫理審査委員会	新規治療開発支援センター
18	利益相半反 (COI) 委員会	総務企画課
19	放射線治療安全管理委員会	総務企画課
20	有害事象検討会議	医療安全推進室
21	治験費等運用調整会議	新規治療開発支援センター
22	診療録検討会議	医事・診療情報管理課
23	クリニカルパス会議	医事・診療情報管理課
24	輸血療法検討会議	検査科
25	がん薬物療法検討会議	薬剤科
26	キャンサーボード運営会議	地域連携室
27	がん薬物療法専門医取得に関わる研修制度運営会議	地域連携室
28	緩和ケアセンター会議	地域連携室
29	栄養管理会議	栄養管理科
30	栄養サポートチーム（NST）運営委員会	栄養管理科
31	遺伝カウンセリング外来運営会議	医事・診療情報管理課
32	リハビリテーション運営会議	リハビリテーションセンター
33	手術支援ロボット運用検討会議	財務経営課
34	内視鏡室運営会議	財務経営課
35	希少がんボード運営会議	地域連携室
36	外来運営会議	医事・診療情報管理課
37	病棟運営・地域医療連携会議	医事・診療情報管理課
38	診療科科長会議	総務企画課
39	看護科長会議	看護局
40	HCU 病棟運営会議	看護局
41	手術室運営会議	財務経営課
42	臨床検査会議	検査科
43	放射線画像診断運営会議	放射線診断技術科

	名　　称	事　務　局
44	超音波検査運営会議	検査科
45	生体試料センター運営委員会	生体試料センター
46	医療技術部会議	1年ごとに輪番
47	周術期センター会議	医事・診療情報管理課
48	核医学 PET 運営会議	放射線診断技術科
49	前立腺センター運営会議	総務企画課
50	地域連携会議	地域連携室
51	患者サービス検討会議	財務経営課
52	投書箱運営会議	総務企画課
53	ボランティア活動推進会議	総務企画課
54	相談・苦情対応検討会議	総務企画課
55	情報セキュリティー管理会議	総務企画課
56	広報企画会議	総務企画課
57	都道府県がん診療連携拠点病院企画会議	地域連携室
58	図書室運営会議	総務企画課
59	ゆめいろネット運用検討会議	地域連携室
60	レジデント制度運営会議	総務企画課
61	病院診療科統合データベースシステム運用調整会議	総務企画課
62	医療情報システム運用調整会議	医事・診療情報管理課
63	病院情報システム更新検討会議	総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課
64	院内学術セミナー運営委員会	総務企画課
65	防災対策会議	総務企画課
66	衛生委員会	総務企画課
67	放射線安全会議	総務企画課
68	医療ガス安全管理会議	総務企画課
69	医療従事者等勤務環境改善委員会	総務企画課
70	院内保育施設あり方検討会議	総務企画課
71	兼業許可等検討委員会	総務企画課
72	工事発注方法審査会議	財務経営課
73	臨床研究所遺伝子組換え生物等安全委員会	臨床研究所
74	動物実験委員会	臨床研究所
75	職務発明検討会議	臨床研究所
76	病院・臨床研究所共同研究会議	臨床研究所
77	臨床研究所運営会議	臨床研究所
78	重粒子線治療センター管理運営会議	総務企画課
79	重粒子線治療施設診療委員会	総務企画課
80	神奈川県立病院がん基金運営会議	総務企画課
81	神奈川県がん診療連携協議会	地域連携室
82	国外出張者選考委員会	総務企画課
83	服務・人権侵害調査会	総務企画課
84	病院の質向上委員会	総務企画課
85	手術室のあり方委員会	財務経営課
86	看護師が行う静脈注射検討会議	看護局
87	「看護の日」および「看護週間」記念行事準備会議	看護局
88	がんゲノム診療センター運営会議	総務企画課
89	がんゲノム診療センター会議	がんゲノム医療管理室

第２章　病　院　業　務

第１節　概　　要

当センターは都道府県がん診療連携拠点病院として､｢神奈川県のがん医療の中枢機関として、県内の医療機関と連携をはかり､県民に最良のがん医療を提供する｣ことをミッションに掲げている。しかしながら、１月に国内初の新型コロナウイルス感染症の報告があり、２月には大型クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」が横浜港に停泊し、多くの患者が県内の医療施設に収容されたことなど、令和２年は不穏な年明けとなった。当院では２月にコロナ感染対策会議を立ち上げ、感染防御に関する物品確保とマニュアル作成等のために毎週定例会を開いた。令和２年度には、繰り返される「感染の波」と「緊急事態宣言」の中で､｢感染予防」と「がん診療の維持」が当院の命題となった。年末には感染症患者のケアを担当していた職員１名の感染が判明したが、大事には至らずに年を越すことができた。しかし、コロナ禍でのがん診療は困難を極め、令和３年１月には、院内クラスターを経験することとなった。２週間で患者13名と職員２名に感染が確認されたため、臨時の病棟運用を行い、感染対策を強化した。この結果、短期間で感染を収束させることはできたものの、感染対策の代償として、病棟閉鎖は避けられず、一部の診療科には不便が生じた。年度末には神奈川モデルに参加するため、緩和ケア病棟（20床）を感染症対応病棟に転用し、一般病棟を一部閉鎖して人員を確保した。コロナ禍に伴う検診・受診控えの影響で、特に５月～７月は初来院患者が減少したが、その後、受診患者数は回復傾向に転じた。しかし、コロナ感染の蔓延が好転することはなく、本年報は、奇しくもコロナ禍が病院業務に与えた影響を報告することになった。

令和２年度にセンター組織の一部改正があり、医療安全推進室は臨床研究所の管理も含めて総長の管理下に置かれることになったが、年報ではこれまで通り病院業務に包括した。新入院患者数は11,259人で前年度（11,862人）比は94.9%であった。年度末の院内クラスターと病棟閉鎖によって病床稼働率は74.1%と前年度（90.3%）に比べて著明に低下したが、病床利用の回転率を上げた結果、平均在院日数は10.8日（前年度11.6日）まで短縮された。コロナ禍の中、初来院者数や手術件数が前年度比で約５％の減少にとどまったことは職員の努力の賜物と思われる。以下、各部門の概要を紹介する。

看護局では、“患者･家族に寄り添う看護とヘルシーワークプレイス”をキーワードに掲げ、⑴ 新型コロナウイルスの感染拡大防止、⑵ 患者・家族のニーズを尊重した医療の提供、⑶ WLBを考えた働き方を重点課題として取り組んだ。

医療技術部は放射線診断技術科、放射線治療技術科、物理工学科、検査科、栄養管理科、薬剤科、臨床工学科、リハビリテーション技術科からなっている。すべての診療の重要な下支え部門であり、各部門が協調して質の高いがん医療の提供に貢献している。

患者支援部は緩和ケアセンター、患者支援センター、アピアランスサポートセンター、患者医療対話推進室で構成されている。緩和ケアセンターは緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟を有機的に統合する役割を担っている。患者支援センターは地域医療連携機能と相談機能を担当している。後者はがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの役目も果たしており、昨年度は6,512件の相談に対応した。アピアランスサポートセンターでは372人の個別相談を行った。患者医療対話推進室は医療スタッフと患者・家族との架け橋の役割を担っている。

医療管理部は医療の質評価推進室、栄養管理サポートチーム、褥瘡対策チーム、放射線治療品質保証室を統括している。

医療安全推進室では、職種間の相互理解を深めながら、それぞれの専門性を発揮して患者の安全確保に努めた。ヒヤリ・ハット事例および医療事故報告は3,377件で、前年度より98件増加した。医師の報告数は前年度81件（2.5％）から101件（3.0％）に微増した。レベル別内訳はレベル０が499件、レベル１が2,126件、レベル２が676件、レベル３ａが72件、レベル３ｂが４件、レベル４、５は０件であった。医療安全の前期および後期講習会の出席率は、それぞれ99.4％、99.9％で、前年度より改善がみられた。

感染制御室では院内感染対策チーム（ICT）による各種サーベイランス、院内ラウンド・抗菌剤適正使用ラウンドが行われている。令和３年１月の院内クラスター発生時は、病院を挙げて対応し、比較的短期間に収束を得ることができた。年間を通してコロナ感染対策に多くの時間を要したが、次年度以降も重点課題である。

地域連携室は病院長直轄の組織に変更され、地域医療機関や健診センターへの訪問に加えて、新たに地域連携システムとがん診療連携施設登録証を導入した。

がんゲノム診療センターは「がんゲノム医療拠点病院」として、エキスパートパネルを自施設で開催した（前年度75例から令和２年度は282例に増加）。

重粒子線治療センターは診療開始から６年目に入り、令和元年夏から治療室を３室に増やしたこともあり、治療患者数は前年度480人から542人に増加した。

新規治療開発支援センターでは治験や臨床研究の管理や実務を行っている。新規受託研究数は96件（前年度98件）、実施症例数は1,437例（前年度859例）で、毎年その需要は増している。

生体試料センターは、初来院患者全員から包括同意を得ることを目標に活動を続けている。今年度の包括同意取得数は3,844件で、約3,000件の試料を取集・保存した。

第２節　医　　療　　局

循環器内科

当科の業務内容は「当センターでがん治療を行う患者さんの循環器領域の疾患に関して適切なサポートを行い、手術、化学療法、放射線療法等が循環器合併症を起こすことなく円滑に安全に施行できるように努める事」である。

１．担がん患者の循環器疾患の診療

高齢者が多くなり循環器系疾患合併症率が高くなっている。病状が不安定、新たに疾患がみつかった場合には、担当科と協力して当科でフォローし、がんの治療が一段落したところで、かかりつけ医に紹介している。

２．がん治療前の循環器リスク評価

担当各科からの依頼で耐術能評価や化学療法施行前の心機能評価などのリスク評価を行っている。心エコー、トレッドミル負荷試験、ホルター心電図、下肢静脈エコー、薬物負荷心筋シンチ等を組み合わせて評価している。冠動脈ＣＴ，冠動脈造影が必要になった場合は他院に検査を依頼している。

３．急患対応

がん治療中に発症する循環器系疾患に対し迅速な対応をしているが、重症例は近隣病院に紹介している。

４．定期的な心機能評価

心毒性のある薬剤を使用する化学療法では、開始前及び治療中に心エコーを行い、心機能チェックしている。さらなる進歩により、がん患者さんの質の高い生活を応援したいと考えている。

2020年度度診療実績

再来患者数	7,014名
定時併診依頼患者数	2,257名
心臓超音波検査	2,650件
下肢静脈超音波検査	933件
運動負荷心電図検査	207件
ホルター型心電図検査	97件
薬物負荷心筋シンチ	56件

文責：常松尚志

糖尿病・内分泌内科

１．スタッフ

堀井三儀

２．診療実績

当科の診療内容は当院でがん治療を行う方の糖尿病・代謝疾患、内分泌疾患の診断・治療を行い、がん治療が円滑に行えるようサポートすることである。令和２年度の診療実績は外来新患件数293件、入院併診新患件数198件、外来延べ患者数2,795名であった。病状が安定した患者はかかりつけ医に逆紹介する一方で、地域医療機関から当院への頻回通院が必要な患者の紹介を受けることで病診連携を深めている。令和２年度に科名を糖尿病内科から糖尿病・内分泌内科に変更したことで、院内外に診療内容をより正確に伝えることができ、受診患者の疾患理解向上・不安軽減に繋がった。

３．教育・人材育成

新型コロナウイルス感染症の影響により病院外での啓発活動は困難だったが、病棟単位での勉強会を行った。

４．展望

糖尿病・内分泌疾患を持つ方が安心してがん診療を受けられるよう、スタッフへの教育・研修機会の設定や新たな患者教育資材の作成・利用を通じて診療レベルの向上を目指す。

文責：室橋祐子　堀井三儀

呼吸器内科

１．スタッフ

齋藤春洋、加藤晃史、近藤哲郎、村上修司、中原善朗、臼井　亮

２．診療実績

外来患者数累計21,917人、初診患者数は1,011人、セカンド・オピニオン137件。入院患者数累計9,693人、新入院患者数1,011人であり、コロナ禍においても前年度の水準を維持していた。週２回の気管支鏡検査（BF）、週１回の胸部CT検査も担当し、BF件数は482件、CT検査は3,980件であり読影レポートの作成も行っている。新規治験は10件、臨床研究は10。学術英語論文は34本、筆頭は５本であった。

３．教育・人材育成

近隣の複数の医師会で肺癌検診として胸部Ｘ線読影を行っている。前年度まで行っていた「肺がん読影会」はコロナのため開催できず。当科が主幹で第187回日本肺癌学会関東支部学術集会を初のオンラインで開催した（R2/7/20）。全国若手医師対象の画像診断講習会として「肺がん画像診断セミナー」をオンラインで開催した（R3/3/6）。

４．展望

引き続き治験・臨床試験に積極的に参加し、あらたな治療のエビデンスの確立に貢献する。

文責：齋藤春洋

呼吸器外科

１．スタッフ

伊藤宏之、永島琢也、足立広幸、江里口大介、菊池章友、根本大士、レジデント小野沢博登、レジデント三浦　隼

２．診療実績

診療の「見える化」を重視しており、積極的にクリニカルパスを活用している．2020年度は約91.3％にパスを適用し、完遂率は92.8％、パス適応例の平均在院期間は9.1日であった．朝と夕方はチーム全員で検査結果や患者さんの訴え、看護師からの報告を確認し、情報・方針・問題点の共有化と多職種連携に重点を置いている。

日本胸部外科学会に報告した2020年の手術件数は467件であり、前年より40件減少した。原発性肺癌290件（前年比－45件）、転移性肺腫瘍67件（＋３件）、縦隔腫瘍19件（－３件）などであった。原発性肺癌に対する術式は、肺葉切除171件（気管支形成14例）、区域切除55件、部分切除63件、肺全摘１件であった。コロナ禍によるがん検診控えにより、早期肺がんの受診が減ったためが主因と推測される。

３．教育・人材育成

レジデント２名を受け入れた。

４．展望

県民に信頼される診療科を目指して、患者さんとご家族の気持ちを尊重しつつ最良の医療が提供できるように、職員間および患者・家族とのコミュニケーションを充実していきたい。また呼吸器内科、病理診断科、放射線・重粒子線治療科との連携を深め、呼吸器グループとして地域医師会でのがん検診活動の啓蒙を行い、またホームページ上でも積極的に情報発信を継続していきたい。

文責：伊藤宏之

血液・腫瘍内科（血液）

１．スタッフ

金森平和（病院長）、田中正嗣、立花崇孝、宮﨑拓也、泉　陽彦

２．診療実績

７Ｗ病棟（無菌）入院延患者数は9,678人（H30）、9,797人（R1）から9,642人に減少し、患者一人当たりの単価も106,008円（H30）、112,868円（R1）から110,117円に減少していた。無菌治療室加算額は20.1千万（H30）、20.3千万（R1）から19.6千万に減少した。同種造血幹細胞移植は65例に65回の移植（７例の再移植を含む）が行われた。移植年患者の年齢は16～71歳（中央値55歳）で、高齢患者と再発再移植患者の増加（７人）により、強度減弱前処置は58例（89％）と多かった。疾患別では、AML 28例、ALL 12例、その他の白血病 ３例、MDS 11例、CML １例、MPN ３例、ML ７例であった。ドナー別では、血縁ドナーから14例、骨髄バンクドナーから12例、臍帯血バンクから39例の移植が行われた。外来患者延数はR1（4,059人）より若干増加（4,318人）した。移植後患者指導管理料の算定は136件（R1）から95件と減少した。算定の対象となる外来ができる看護師の異動の影響が大きいと考えられる。また、患者同士の親交を深め、病棟スタッフとのつながりを継続する「白血病患者を対象とした講演会・交流会」を毎年開催していたが、コロナ禍のため中止した。

３．教育・人材育成

若手スタッフの泉陽彦に診療、研究について指導した。

４．展望

令和２年度は国立がん研究センター中央病院が行う移植拠点病院事業に地域拠点病院として参加した。この事業を通して核移植施設との連携、情報交換を密に行い移植診療の技術向上を図ると共に地域の紹介元施設との連携を深め、患者リクルートを積極的に行う。

文責：田中正嗣

血液・腫瘍内科（腫瘍）

１．スタッフ

酒井リカ、高橋寛行、鈴木泰生、松村彩子、徳永真由美、貫井　淳

２．診療実績

2020年４月～2021年４月の延べ新患数（他科からの併診含む）は327人であり、内訳は成熟リンパ系悪性腫瘍197人（悪性リンパ腫180人、骨髄腫17人）、上皮性悪性腫瘍86人（原発不明がん43人、神経内分泌がん10人、悪性黒色腫２人、甲状腺がん２人、その他29人）、その他44人であった。上皮性腫瘍の中では原発不明がんとして紹介される患者割合が最も多く、がん遺伝子パネル検査を介した治療の可能性について早い段階から提案できるように心掛けた。2020年度の累計外来患者延数12,595名（初来院患者214名、セカンドオピニオン外来23件）、累計入院患者延数8,798名、平均在院日数14.1日、自家造血幹細胞移植数21件であった。また、外来化学療法室担当診療科として副作用対策等のマネージメント業務も担当した。企業治験４件、多施設共同医師主導臨床試験５件であった。学術英語論文は12件（うち筆頭２件）であった。

３．教育・人材育成

講演は、患者会向け１回、学会主催教育セミナー２回、学術集会における教育講演１回、都道府県がん診療連携拠点病院を対象の講演を１回おこなった（いずれもWEB形式）。人材育成の面では、診療科スタッフの経験年数に応じ、新たな資格取得にむけての準備・指導を行った。

４．展望

引き続き、日常臨床においては丁寧な説明のもと、多職種と連携して標準治療を適切に提供する。また、医師主導臨床試験や治験を介した治療開発にも積極的に取り組ん

でいく。

文責：酒井リカ

消化器内科（消化管）

１．スタッフ

町田　望、井口靖弘、古田光寛、金田義弘、林　慧、石田彩花

２．診療実績

今年度から新部長が着任し、新規スタッフ１名を加え６名体制となった。５月はCOVID-19の影響もあり初診患者数・内視鏡検査数の低下が見られたものの他の月はほぼ前年度と変わらない検査数だった。薬物療法対象患者を他科より受け入れたことも影響し、内視鏡的胃瘻造設術の件数が大幅増加となった。新部長就任により当科新規治験責任医師数は明らかに増加した。

３．教育・人材育成

在籍２年目となる医師に対し内視鏡的粘膜下層切開剥離術の術者指導を積極的に行った。院内においては診療科キャンサーボード、外科・放射線科合同キャンサーボードを通じて教育した他、内科地方会、日本臨床腫瘍学会学術大会にて研究発表を行った。また全国の医師や医療スタッフを対象に複数回講演を行った。

４．展望

親切丁寧な診療を実施するとともに高度専門機関として当院が全国規模で認知されるよう新たなエビデンス構築のための研究実施に注力する。その結果として県民・連携医療機関に選ばれる価値ある病院となるように引き続き努力していく。

文責：町田　望

消化器内科（肝胆膵）

１．スタッフ

上野　誠、小林　智、福島泰斗、手塚　瞬、佐野裕亮、長島周平、大石梨津子、紺野直紀（レジデント）、田中　聡（レジデント）、森本　学

２．診療実績

肝胆膵がんの早期診断、進行がんにおける化学療法を主として集学的治療を行っている。2020年度は、肝細胞がん126人、膵がん476人、胆道がん181人を診療した。集学的治療として、肝細胞がんに対し、経皮的ラジオ波焼灼術76件、肝動脈塞栓術97件を行った。内視鏡的胆管膵管造影、胆道ドレナージ897件、超音波内視鏡590件を施行した。臨床試験として、肝胆膵癌で複数の企業治験、JCOGグループの複数の医師主導臨床研究を行っている。

３．教育・人材育成

２名のレジデントを受け入れた。

４．展望

一日でも早く、絶対に患者を断らないをモットーに、難治癌である肝胆膵がんの克服、早期診断のため、近隣病院との連携を重視して、診療を行っている。

文責：上野　誠

消化器外科（胃食道）

１．スタッフ

大島　貴、尾形高士、山田貴允、藤川寛人、神尾一樹、高橋恒輔、渡邊勇人、公盛啓介

２．診療実績

本年度の総手術件数は311件であった。胃外科手術は227件で、うちロボット支援下を含む腹腔鏡下手術は82件であった。食道外科手術は84件で、うち胸腔鏡下手術は36件であった。本年度に掲載された学術英語論文は48本あり、うちＲ２年度の当科スタッフメンバーが筆頭著者または責任著者となったものは25本であった。手術件数はコロナ禍の大きな影響を受けずに増加した。学会発表は減少した一方、学術英語論文数を増加させることができた。

３．教育・人材育成

昨年度より開始したロボット手術支援下手術では、３名が術者として手術を完遂した。食道癌に対する胸腔鏡下手術も４名が術者となって手術を担当した。１名のレジデント（２年目）には、腹腔鏡下手術および学位研究を積極的に指導した。現在、２名が食道専門医を、３名が内視鏡外科認定医の取得を目指している。研究面では、臨床研究所および国内外との共同研究を積極的に行い、研究生を含めてであるが、７名の学位研究の指導を開始し、そのうち１名が本年度に学位を取得した。

４．展望

胃癌、食道癌に対し、チーム医療で最良の治療を行うことに全力で取り組み、患者さんとその家族はもとより、多くのクリニックや病院の医師に信頼され、「県民に対する医療」により大きく貢献するよう、あらゆる努力をしていきたい。さらに、多施設共同臨床研究はもちろんのこと、臨床研究所や国内外の多くの大学や研究施設とグローバルな共同研究を積極的に行い、多くの学会発表、学術英論文の発表を行うことも通じて、臨床および研究面での教育及び人材育成を推進していきたいと考えている。

文責：大島　貴

消化器外科（大腸）

１．スタッフ

塩澤　学、佐藤純人、三箇山洋、岡本浩直、井口健太、高村卓志、額田　卓

２．診療実績

大腸癌の紹介患者の減少もあり特に比較的早期の大腸癌手術件数の減少を認めている。コロナ禍でもあり検診受診の減少などの影響も否定はできない。当科の特徴は再発転移大腸癌の治療を薬物療法から根治手術までを科内でシームレスに行うことであり地域の病院、クリニックからの信頼を得ている。これらの患者はコロナ禍でも影響を受けずにご紹介いただいている。臨床研究法改訂もありJCOGを中心とした第３相試験は継続して行われているものの当科の参加する多施設試験は観察研究が多くなってきている。

３．教育・人材育成

神奈川県内の医師を対象としたがん薬物療法セミナー、手術手技に関するセミナーをウェブで開催。手術教育では他の病院では手術困難な症例の手術を行っており手術技術の継承にも貢献している。2020年度は日本内視鏡外科学会技術認定医に当科から２名受験し２名ともに合格、資格を修得した。

４．展望

神奈川県内での当科の役割は他の病院では治療困難な症例を治療していくことである。そのためには紹介医および患者のニーズに応えるべくどのような患者も受け入れる体制としている。当科でしかできない特色を持った治療を模索し、今後も地域の大腸癌医療の発展に貢献していく予定である。

文責：塩澤　学

消化器外科（肝胆膵）

１．スタッフ

森永聡一郎、山本直人、村川正明、上岡祐人、河原慎之輔（レジデント）

２．診療実績

2020年の全手術は206例で新型コロナ流行の中、わずかな減少にとどまった。主な手術術式では、膵切除125例；亜全胃温存膵頭十二指腸切除術　84例、 膵全摘出術　７例、 膵体尾部切除　34例（うち腹腔鏡下５例）、 肝切除47例（うち腹腔鏡下13例）であった。膵体尾部切除、肝切除（部分切除、外側区域切除）に導入した腹腔鏡下手術は増加傾向にある。膵癌治療件数は全国でも上位となるハイボリュームセンターであり、JCOG, JASPAC, AMED等の多施設共同研究のメンバーとして積極的に症例登録し新規治療の開発に貢献している。近年の化学療法の進歩に伴い当初切除不能であった膵癌から切除可能にコンバージョンする症例も増加しており、膵癌コンバージョン手術にも積極的に取り組んでいる。

３．教育・人材育成

１名のレジデントを受け入れ、肝胆膵外科学会高度技能医修練中である。

４．展望

膵癌治療件数が全国で上位の施設としてより多くの患者の治療をより安全に遂行していく。低侵襲手術の取り組みも、肝細胞癌のほか低悪性度膵腫瘍から膵癌まで拡大して腹腔鏡下手術を推進していく。今後は、重粒子センターとの共同をさらに進め、重粒子線治療を組み入れた膵癌術前治療の開発、膵癌コンバージョン切除症例の治療成績向上に向けた治療開発、肝細胞癌切除例と重粒子線治療例の前向きコホート比較試験等に取り組んでいく。

文責：山本直人

精神腫瘍科

１．スタッフ

横尾実乃里

２．診療実績

精神腫瘍科の主な診療内容は、入院および外来患者の精神症状に関するコンサルテーション･リエゾン業務である。COVID-19の影響があり、令和２年度の新規紹介患者数は186名にとどまった。

３．教育・人材育成

院内における緩和ケア研修会、神奈川県立保健福祉大学実践教育センターがん患者支援講座にて、精神腫瘍学に関する講義を行った。

４．展望

精神面のみならず、身体面や心理社会的背景を考慮した包括的なアセスメントと対応を行い、患者がその人らしさを失わずに治療に取り組めるよう、チームでささえるがん医療を今後もめざしたい。

文責：横尾実乃里

脳神経外科

脳神経外科の役割は主には悪性脳腫瘍の治療の他にも脳卒中やてんかん、意識障害等の対応を担っている。

脳腫瘍は、当科は悪性脳腫瘍の治療に特化しており、治療対象は原発の悪性腫瘍（神経膠腫ならびに脳原発悪性リンパ腫）、転移性脳腫瘍が主体である。悪性神経膠腫（グリオーマ）：WHO分類が2016年に改訂されグリオーマの診断に、病理診断と共に分子診断を加えることが診断確定に必要となり当院も対応している。

脳原発悪性リンパ腫：当院では、生検後、悪性リンパ腫の化学療法には、メトトレキセートやベレキシブルを使用している。

転移性脳腫瘍:転移性脳腫瘍が当院の治療の主体であり、手術件数も増えている。がん性髄膜炎に伴う水頭症の治療のためオマヤ貯留槽設置やシャント術を行っている。

脳梗塞：がんが進行することにより、凝固系の異常が生

じ、全身性の塞栓症を発症することがある（トルソー症候群）。全身塞栓のなかでも脳梗塞が致命的となる可能性があり、当科へ相談されることが多くなった。

重粒子治療：脳腫瘍の場合は　脊索腫が　重粒子治療の対象疾患であり脳神経外科が窓口となって対応している。

治験：グリオーマ、悪性髄膜腫、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍を対象とした日本発の「放射性薬剤64Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究」を2019年度より開始した。

当科の診療体制：二名の脳神経外科指導医で診療している。手術日の木曜日以外が外来日である。

文責：佐藤秀光

頭頸部外科

１　スタッフ

古川まどか、橋本香里、勝又徳行、川野雅子

２．診療実績

頭頸部腫瘍、頭頸部癌の新患患者はCOVID-19の影響をあまり受けず、例年通り月に平均30例の新規患者を受け入れた。重粒子線治療をご希望されて来院する患者数も順調に増加した。悪性黒色腫症例や、再発・転移頭頸部癌における免疫チェックポイント阻害剤による全身治療が適応となる患者も増加した。手術に関しては、小手術はCOVID-19の影響もあり他院に依頼し、進行癌の再建を伴う手術、化学放射線治療後の救済手術を積極的に行い、良好な結果を得ることができた。逆紹介症例も増加し新規患者の受け入れ態勢の強化を図るとともに、手術や化学放射線治療症例の治療スケジュールの見直しを行い、平均在院人数を12日から８日に短縮することができた。手術実績は、頭頸部手術 68 件（頸部郭清術27件　頭頸部腫瘍摘出術41件）、口腔咽喉頭手術30件　気管切開術25件。頭頸部外科医師による頸部超音波診断（穿刺吸引細胞診含む）は976例であった。

３．教育・人材育成

耳鼻咽喉科専門医・指導医、頭頸部がん専門医・指導医、気管食道科専門医、がん治療認定医を有する指導者のもと、耳鼻咽喉科専門医を目指す専攻医、頭頸部がん専門医、気管食道科専門医を目指す各段階に置かれた医師が、それぞれの研修プラグラムに乗っ取った形で教育をうけ研修を行った。

４．展望

一般医療者にはなかなか理解されにくい領域の１つである頭頸部領域の疾患や治療、治療後の状態などについて、地域の医療施設や介護関係者に対して勉強会、講習会などの場を積極的に設け、地域医療と連携を取りながら安全かつ質の高いがん医療を患者がうけられるような仕組みを構築していく。

文責：古川まどか

形成外科

１．スタッフ

清水　調

２．診療実績

がんセンターの形成外科は他診療科と協力して、円滑なあるいは、より良い癌治療を行うことが主な任務である。症例としては乳癌術後の乳房再建手術、頭頸部腫瘍外科の手術後の機能的あるいは整容的再建、骨軟部腫瘍外科やその他の科の腫瘍切除後の再建手術などが挙げられる。また、内科やその他の科からの依頼で、リンパ節生検や皮膚生検も多数行っている。その中でも乳房再建手術は当科の中で高い比重を占める。2019年度に使用出来なくなった人工乳房（シリコンインプラント）と再建で使用する組織拡張器（エキスパンダー）が使用出来るようになったため、2020年度は乳房再建手術の再開が可能となった。また、悪性黒色腫を中心に、皮膚悪性腫瘍の手術も行ってきたが、現在は皮膚科の常勤医が不在のため、原則皮膚悪性腫瘍の治療を行っていないため、これらの手術は行わなかった。2020年の手術内訳は、入院手術96のうち、形成外科26、乳腺外科43、骨軟部腫瘍外科11、頭頸部腫瘍外科１、脳神経外科１、婦人科５、消化器外科４、その他５。外来手術115のうち、他科からの依頼のリンパ節生検を含む生検手術が101。また乳癌あるいは乳癌術後後遺症に対して、組織拡張器を挿入する手術は35症例36乳房、人工乳房挿入手術は20症例21乳房であった。

３．教育・人材育成

特記事項なし

４．展望

2019年７月より一時、乳房再建用の人工乳房と組織拡張器が使用できなくなったが、2020年は2018年以前の約６－７割程度まで手術症例数が戻った。さらに2020年末よりさらに使用出来るシリコンインプラントの種類が増えたので、2021年は2018年までと同数くらいまで症例数を戻していきたい。また、リンパ節生検は複数の科より依頼されるようになり、さらに多くの科からの依頼を積極的に引き受け、症例を増やしていきたい。

文責：清水　調

乳腺内分泌外科（乳腺）

１．スタッフ

山下年成、山中隆司、松原由佳、戸田宗治、岡本　咲、安川美緒、松井愛唯

２．診療実績

乳腺腫瘍の診療は手術を除き、外来での検査・診断や薬物療法が中心となっている。当科では手術などの急性期治療や抗癌剤治療へより集中できるように地域連携パスを用いたクリニックとの連携を積極的に進めている。2020年度

の実績はコロナ禍で一時期手術を制限したにも関わらず乳腺手術件数437件（乳房切除321件、部分切除106件、良性10件）であった。病床の有効利用のため、センチネルリンパ節生検を行わない患者は手術前日入院とし、自己管理できる患者については外来でドレーンを抜去するなどした。

臨床研究に関しては多くの治験、医師主導治験、臨床試験に参加し、企業治験も急増している。再発乳癌の一部のタイプに対して免疫チェックポイント阻害剤や当院が認可に大きく関わったトラスツズマブデルクステカンが使えるようになった。このような薬剤では通常の抗癌剤と違う免疫関連有害事象や間質性肺炎などの副作用があり、各科の協力のもと対策を行っている。今後も多くの臨床試験、治験に関わっていき有効な新規薬剤の承認や、新たなエビデンスの創出に向けて尽力したい。

遺伝性乳癌卵巣癌に対しては遺伝診療科と連携してカウンセリングや予防手術を行っている。また臨床研究面では臨床研究所の協力を得て新規研究を立ち上げており、基礎研究にも貢献をしていきたい。

文責：山下年成

乳腺内分泌外科（内分泌）

１．スタッフ

岩崎博幸、戸田宗治、村山大輔（レジデント）

２．診療実績

内分泌外科の対象疾患は、甲状腺がんだけではなく、甲状腺腫の大きなバセドウ病や副甲状腺疾患も専門としている。手術症例は進行がんが多く、進行再発甲状腺がんや未分化がんの治療が中心である。他院で手術を受けた後に再発や転移が起きた症例にも再手術や追加治療を行うがん拠点病院としての役割を担っている。特に進行症例に対する拡大手術に加えて、遠隔転移に対するI-131（放射性ヨード）内用療法や、病勢進行分化がんや未分化がんに対する分子標的薬の治療を数多く経験し、その成績を国内外に発信している。2020年度手術件数は114件であった。そのうち甲状腺がんは81例であるが、甲状腺がんの紹介は進行がんが多いため、手術内容は、縦隔郭清や他臓器合併切除などの拡大手術の比率が高くなっている。I-131内用療法は、入院、外来アブレーションと合わせて2020年度は昨年度と同じ71件であった。

３．教育・人材育成

主に甲状腺がんの手術を難易度の高い手術まで習得する目的で今年度から医局ローテートに加えレジデント１名を受け入れた。高度の進行がんや未分化がんであっても、必要ならば手術と放射性ヨウ素（I-131）内用療法や分子標的薬治療を行い、長期生存を目指している。

４．展望

2021年６月には日本内分泌外科学会総会を当科部長岩崎が学会長として開催する予定であり、全国的に当施設をアピールできる良い機会と考える。

文責：岩崎博幸

婦　人　科

１．スタッフ

加藤久盛、小野瀬亮、近内勝幸、北川雅一、若林玲南、上野悠太

レジデント　祐森明日菜

２．診療実績

初診数は565例であった。外来セカンドオピニオンは75例であり、県内はもちろんのこと全国各地の医療機関よりご相談戴いている。

神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍対策部によれば2020年の婦人科悪性腫瘍治療患者総数は313例であり、２位の263例を大きく引き離し神奈川県内施設で連続第１位であった．初期子宮体癌を中心に腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術を施行しており、2019年４月からは婦人科内視鏡専門医を配し骨盤内リンパ郭清に着手している。ロボット支援下手術も施設認定を獲得し行っている。臨床試験の精度管理にも力を入れており2020年12月にはJCOG（日本臨床腫瘍グループ）の監査総合評価　優（excellent）を獲得している。学術英語論文は２本あった。

３．教育・人材育成

臨床遺伝専門医１名､細胞診専門医１名の合格を導いた。１名のレジデントを受け入れた。

また一般向けの教育啓蒙を目的にメディアより１名が取材を受け「名医が教える日本人の病気の最新治療－子宮体癌」と題して掲載された。

４．展望

腹腔鏡手術、ロボット支援下手術のニーズはますます高まっており低侵襲性の手術として今後も症例数を重ねていきたい。また重粒子線治療も進行子宮頚部腺癌をはじめ婦人科領域の悪性黒色腫も先進医療Ａとして治療可能であり、全国より受け入れていきたい。

文責：加藤久盛

泌 尿 器 科

１．スタッフ

岸田　健（副院長）、逢坂公人、鈴木孝尚、小泉充之、柴田洋佑、野口毅朗

２．診療実績

新患数は新型コロナ感染症の影響で前年比104人減の560人。平成30年９月から重粒子線治療の初診も前立腺センターとして対応しているが、新患＋重粒子も前年比190人減の1,052人であった。逆紹介を積極的に行い、初診予約までの平均日数は５日と短縮が進んでいる。また入院につ

いては、実入院患者数1,211人、入院患者延数9,432人と増加、平均在院日数は7.7日と短縮し、この傾向は年々顕著になっている。

手術については、総手術件数は699件で前年比33件減少した。主な内訳は、経尿道的内視鏡手術142件、前立腺全摘は開腹22件、腹腔鏡36件、ロボット支援手術167件、腎摘は開腹６件、腹腔鏡43件、腎部分切除は開腹２件、腹腔鏡３件、ロボット支援手術36件、膀胱全摘は開腹４件、ロボット支援手術11件、後腹膜リンパ節郭清12件、前立腺生検229件であった。ロボット支援手術は計214件と前年比42件の増であるが、他科も参入しこれ以上は増やせないことが課題となっている。前立腺癌では手術＋放射線治療で国内最多数の治療を施行した（いい病院2021　朝日新聞出版）。

３．教育・人材育成

ロボット支援前立腺全摘プロクターを２名が新規取得し、腹腔鏡手術技術認定医に１名が合格した。臨床研究所との共同研究３本を遂行中。英文論文２本が採用された。

４．展望

数より質の向上に努め、研究、論文発表にも積極的に取り組んでいきたい。

文責：岸田　健

骨軟部腫瘍外科

１．スタッフ

比留間　徹、根津　悠、徳永雅彦

２．診療実績

2020年度の初診患者数は387人で例年と同等であったが、手術件数が245件で最近の220～230件に比べ増加傾向にあった。

手術の内訳は、切開生検術61件、原発性骨腫瘍切除術は22件で良性が６件、悪性（骨の肉腫）が16件、原発性軟部腫瘍は114件で良性49件、悪性65件であった。転移性骨軟部腫瘍の手術は19件で骨腫瘍９件、軟部腫瘍10件であった。その他の手術は29件であった。

2020年度重粒子線治療を行った骨軟部腫瘍症例のうち当科が介入した件数は48件で, 例年の150～200％に増加した。組織型は、骨の肉腫では骨肉腫・骨未分化多型肉腫４件、軟骨肉腫４件、脊索腫９件であり、軟部肉腫は脂肪肉腫12件、未分化多型肉腫など未分化肉腫８件、solitary fibrous tumor ４、その他７件であった。

３．教育・人材育成

当科は、日本整形外科学会の専門医制度研修施設および複数の大学の整形外科専門研修連携施設を担っている。

４．展望

稀少疾患である骨軟部腫瘍診療において、今後も神奈川県内の中心的役割を担っていく。一方全国的には、手術・化学療法・放射線治療・重粒子線治療・リハビリテーションが可能な数少ない施設であり、これらを併用した新たな治療開発を行っていきたい。

文責：比留間　徹

放射線診断・IVR科

１．スタッフ

栗原宏明、土井内恒弘、堀川　歩、山本弥生、日野彩子、小嶋大地

２．診療実績

放射線診断科では診療業務として年間約28,000件のCT検査と年間約6,900件のMRI検査、年間3,900件程のPET検査を含む核医学検査を実施し、その管理・運営を行うと同時に画像検査結果に対する画像診断報告書を作成している。これらの検査実績についてがんの診療を専門とするがん診療拠点病院の中では、医師一人あたりの検査数は年約6,000件を超える。また、IVR実施件数も年間600件を超えて実施しており、近年著明な増加傾向にある。限られた人員と設備の中で検査の管理運用を行い、効率よく検査を実施してきている。

３．教育・人材育成

日本専門医機構認定　放射線科専攻プログラムの基幹施設として２名の専攻医を受入れた。

４．展望

日本ではがんの好発年齢ともいえる65歳以上の人口が年々増加し2040年には3,868万人のピークに達すると推計されている。治療の進歩に伴うがん患者の予後改善とフォローアップ期間の延長を考慮すれば、今後も当センターを受診される患者数は増加し、必要とされる放射線画像診断検査数、IVR件数も増加していくことと予想される。引き続き放射線画像診断検査の管理運用を適切に行い、効率よく検査を実施しつつ、これら検査に係る診療体制の強化を目指す。

文責：栗原宏明

放射線治療科（光子線治療部門・重粒子線治療部門）・重粒子線治療センター

１．スタッフ

鎌田　正（重粒子線治療センター）、加藤弘之（兼任）、吉田大作（兼任）、芹澤慈子（兼任）、溝口信貴（兼任）、高草木陽介（兼任）、土田圭祐（兼任）、阿武　和（兼任）、加納希生（放射線科専攻医）

２．診療実績

2021年度実績として、光子線治療部門として、X線による外部照射治療1,255症例（うち271症例は高精度治療）、密封小線源治療56症例、重粒子線治療部門として542症例

（先進医療Ａ、先進医療Ｂ、保険診療）の治療を行なった。光子線治療部門として日本臨床腫瘍研究グループ（JCOG）の臨床研究にも参加している。重粒子線治療は、神奈川県立がんセンター・新規医療開発センターを通して重粒子線治療多施設共同臨床研究（J-CROS）の全例登録事業への登録を行なっている。当診療科の国内発表は６件、英語論文は３本、和文論文は１本であった。

３．教育・人材育成

１名の放射線科専攻医を受け入れ研修中である。群馬大学、横浜市立大学、埼玉医科大学・国際医療センター、それぞれの医機構認定放射線科専門研修プログラムの研修連携施設となっている。これらに加えて、自治医科大学、杏林大学、がん研究会有明病院などから非常勤医師を受け入れ、重粒子線治療を含む当施設での研鑽を積んでいただいている。また、杏林大学、自治医科大学には当スタッフを社会人大学院生として受け入れていただいている。

４．展望

「安全かつ継続可能で科学を推進する放射線治療の提供」をスローガンに、高精度な光子線治療と、世界的にも稀有な医療技術である重粒子線治療を、より多くの必要とする患者さんに適切に提供していきたい。

文責：加藤弘之

東洋医学科（漢方サポートセンター）

１．スタッフ

板倉英俊

２．診療実績

手術・放射線・抗がん剤等の治療補助・合併症の軽減、ならびに体力維持によるQOLの向上を主目的とした診療を行った。COVID-19の影響を受け、累計外来人数は、7,710人とわずかに減少した。

３．教育・人材育成

日本東洋医学会の研修施設として、一人の研修医師を受け入れた。東邦大学薬学部で講義を行った。

４．展望

神奈川県における漢方医学の教育・研修の機会を増やしていきたい。

文責：板倉英俊

免疫療法科（がんワクチン･免疫センター）

１．スタッフ

笹田哲朗、氷室秀知

２．診療実績

当科では、がん免疫療法の臨床的有用性を科学的に検証するため、がん免疫療法の臨床試験・臨床研究を実施している。令和２年度には、① 肺がんに対する術後補助化学療法後のペプチドワクチン維持療法（第Ⅱ相）、② 難治性軟部肉腫に対するNY-ESO-1抗原を標的としたワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法（第Ⅰ・Ⅱ相）、③ 標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）のランダム化比較試験（第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ相）、④ 標準治療不応の進行・再発胃がんに対する局所放射線療法と抗PD-1抗体併用療法（第Ⅰ・Ⅱ相）の４種の臨床試験を実施した。さらに、免疫チェックポイント阻害薬や重粒子線治療の免疫学的影響に関する臨床研究を、呼吸器内科、泌尿器科、血液・腫瘍内科、頭頸部外科、放射線治療科、消化器外科と共同で実施した。学術英語論文は10本あり、学会発表６件を行った。

３．教育・人材育成

横浜市立大学大学院でがん免疫療法に関する講義を行った。

４．展望

当科の医師は臨床研究所（がん免疫療法研究開発学部）を兼任し、がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施している。臨床研究所で得られた研究成果をもとに当科で臨床試験を実施することにより、現時点では治療法のないがん患者に新しいがん免疫療法の提供を可能とすることを目標としている。

文責：笹田哲朗

麻　酔　科

１．スタッフ

藤田久栄、佐々木俊郎、越後結香、他非常勤医師45名

２．診療実績

手術室で行われる局所麻酔以外のすべての手術で麻酔科の診療を行っている。外来診療では麻酔科管理症例の術前診察のほか慢性疼痛症例の内服治療を行っている。麻酔科管理症例は3,340件であり内訳は、全身麻酔　2,400件，硬膜外麻酔併用全身麻酔　766件，脊髄くも膜下麻酔または硬膜外麻酔　13件，その他（静脈麻酔　鎮静など）　161件であった。分離肺換気麻酔は　557件であった。安全で質の高い麻酔科診療を提供するために最も必要なことは麻酔科医師の確保である。常勤医師に加えて非常勤医師の応援により麻酔科の診療は支えられている。複数の大学や医療施設からの派遣医師、週３日までの非常勤医師など勤務形態が複雑であった。毎回派遣する麻酔科医師が変わる施設を減らして週３日勤務の非常勤医師を増やして習熟した麻酔科医師による診療ができる体制を構築した。前年度から引き続く新型コロナウイルス感染症（COVID-19）を予防するために、全身麻酔の導入時と覚醒時のエアゾルが発生する処置を行っている間のPPE（Personal Protective Equipment）を開始した。麻酔科外来で手術患者に術前１ヶ月間の発熱などの症状を問診してCOVID-19感染が疑わしい患者をスクリーニングした。さらに術前COVID-19・

PCR検査を開始した。入院時に胸部X線を撮影してPCR検査から入院までの感染にも対応できる体制を構築した。COVID-19感染患者に対応した手術室を準備してシミュレーションを行った。世界的なパンデミックの影響を受けて医療器材・薬剤の供給が不安定となったが、関係各所と緊密に連携してやり繰りした。

３．教育・人材育成

提携病院より初期研修医を受け入れた。特殊な麻酔管理を要する手術や当院で初めて行われる術式などでは手術前に麻酔科医だけではなく主治医　看護師を含めてカンファランスを行った。手術室安全ワーキングに参加し手術室内での安全管理を主導した。

４．展望

安全・安心・快適な周術期を患者さんに提供できるようスタッフは技術の研鑽に励み、知識を深める努力を行っている。複雑な手術術式、長時間に及ぶ手術、高齢者や全身状態不良の手術が増加することが予想され麻酔科医師の拡充をめざしていく。看護師はじめコメディカルとのコミュニケーションをはかり業務を進めていく。

文責：佐々木俊郎

ＩＣＵ科

１．スタッフ

高野修身

２．診療実績

HCU病棟在室中の患者も、主治医が主体となって診療を行うが、ICU科では、主に呼吸、循環などを中心に全身管理のサポートを行っている。令和２年４月より令和３年３月までの１年間の当病棟への入室総数は2,812名で、前年度に比べ65名減少した。診療科別では、呼吸器外科488名、乳腺内分泌外科476名、消化器外科大腸338名、消化器外科胃食道318名、泌尿器科293名、婦人科255名、消化器外科肝胆膵235名、骨軟部腫瘍外科174名、頭頚部外科108名、脳外科45名、形成外科20名、消化器内科肝胆膵19名、血液内科13名、呼吸器内科13名、腫瘍内科12名、消化器内科消化管５名であった。HCUへの入室目的では、予定手術の術後管理目的2,575名、緊急手術の術後管理目的122名、呼吸管理目的41名、循環管理目的20名、蘇生後管理目的９名、血液浄化目的４名、中枢神経系管理目的２名、その他48名であった。人工呼吸器装着患者数は107名、延べ管理日数は572日、血液浄化療法では、CHDFを４名の患者に行い延べ施行日数は34日、血液吸着療法を２名の患者に３回、血漿交換を１名の患者に１回行った。

３．教育・人材育成

当科では継続的な研修医、レジデントの受け入れは行っていないが、2019年度より足柄上病院の初期研修医１ヶ月間の研修を行っている。初年度は１名、2020年度は３名受け入れ、2021年度も３名を予定している。

４．展望

HCU病棟では、医療事故、院内感染防止を重点目標として取り組んできた。今後も継続してこれらの防止に努めていきたい。必ずしも最先端の医療を追うわけではなく、標準的な医療を安全に提供できることを目標とし、スタッフの知識や意識を高めることが重要と考えている。

文責：髙野修身

緩和ケア内科

１．スタッフ

太田周平、田村文彦

２．診療実績

緩和ケア病棟：令和２年度は222名の入院患者を受け入れた。例年300名前後であったので２割強の落ち込みであった。covid-19感染症のために緊急事態宣言が発出された４～５月に入院患者数がほぼ半数となったことと、令和３年３月以降は７Ｅ病棟が感染症患者受け入れ病棟に転換されたためである。県内・全国でも緩和ケア病棟の減床・閉鎖が起こり、当院に限った変化ではなかった。感染拡大防止のために面会制限が徹底され、家族との時間を病棟内で過ごせなかった患者さんには本当に申し訳なかったと思う。

緩和ケア内科外来：院内併診がほとんどで31件であった。当院入院中患者については緩和ケアチームで担当するようにしたところ、結果的に純粋に外来管理患者数は減少した。外来では大量オピオイド使用時の相談が多い。

３．教育・人材育成

緩和ケア病棟での実習を要する看護系の大学院生の教育や緩和医療専門医受験の要件を満たすための実習指導など行った。「がん医療従事者のための緩和ケア研修会」については規模を縮小し、covid-19感染症対策を入念に講じて開催した。

４．展望

基礎疾患を有する方がcovid-19による死亡率が高いとされるが、癌終末期のphaseの方への影響は確定していない。コロナ禍において在宅リモートワークが推進されたように、癌終末期在宅療養もやってみたら十分にできることが広く認知されるきっかけになったかもしれない。緩和ケア病棟を再度稼働するとしても、根本的に緩和ケア病棟の必要性・社会的役割が今後問われる時代になると思われる。

文責：太田周平

歯科口腔外科

１．スタッフ（令和元年度）：

歯科医師　光永幸代（医長）、髙瀬さやか（レジデント）、小栗千里（非常勤）

歯科衛生士　松田喜久美（非常勤）、豊濱千里（非常勤）

２．診療実績

歯科口腔外科初診（併診・再初診含む）589件

３．教育・人材育成

令和２年度より１年目レジデントとして髙瀬さやか先生（横浜市立大学顎顔面口腔機能制御学所属）が在籍され、がん口腔支持療法のエビデンス、理論、臨床を学んでおります。

４．展望

当科は中央診療部門の一つとして、がん治療に際して必要な歯科治療や、治療合併症への対応としての口腔外科診療に携わっています。当科外来予約の混雑のせいで十分お手伝いできない患者さんもおられますが、がんセンターにおける均等な歯科受診の機会と、原病の治療に沿った歯科介入、口腔支持療法が提供できるよう努力を続けて参ります。

当科は歯科治療ユニット２台のみの小さな診療室で診療しており，ハード面での制約は否めません。一方でがん治療に際しての口腔管理介入も浸透し、患者さんの理解だけでなく地域の歯科医院での連携の受け入れも広がりつつあります。令和２年度も前年度からの継続事業として横浜市、鎌倉市など近隣歯科医師会様との交流も深められる機会を多く頂きました。これからも地域歯科医院との連携や、口腔外科としての病診連携にも引き続き力を入れて参りたいと考えております。また、所属学会での活動なども通して国内外の最新の知見を学び、当院での研究にも繋げて参る所存です。

文責：光永幸代

リハビリテーション科

１．スタッフ

水落和也

２．診療実績

リハビリテーション科新患患者数は1,760名で2019年度1,845名から4.6％の減であった。入院新患は1,587名から1,497名の5.7％の減。外来新患は258名から263名の微増であり、COVID-19が入院患者減の最大の要因と推察した。

依頼元科の内訳は円グラフに示す通り。乳腺内分泌外科28％、消化器外科肝胆膵８％、消化器外科胃食道７％、腫瘍内科７％、リンパ浮腫相談外来７％が上位５科であるが、消化器内科、呼吸器外科、婦人科が増加傾向であった。

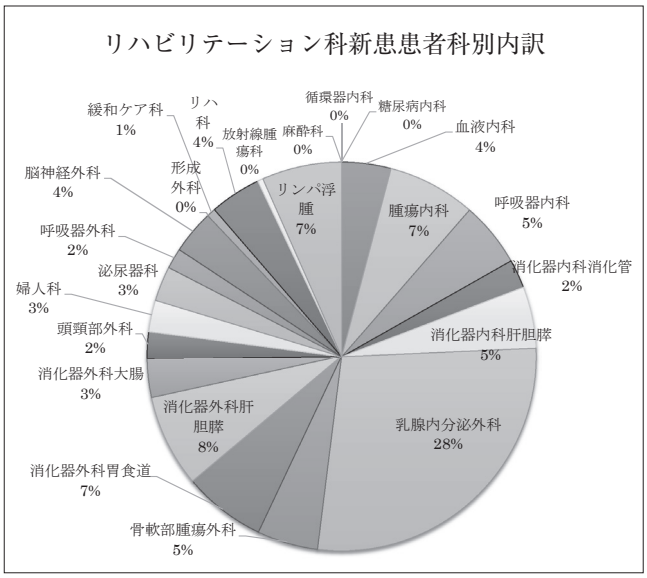
３．教育・人材育成

リハビリテーション科医師は１名であり人材育成を行う環境にない。

４．展望

がん患者の高齢化、併存疾患の多様化、がん先進医療に伴う機能障害の複雑化によりリハビリテーション診療はがん診療に欠かすことのできない構成要素になっている。都道府県がん診療連携拠点病院、特定機能病院にふさわしいリハビリテーション診療態勢の構築が急務である。

文責：水落和也



病理診断科

１．スタッフ

横瀬智之、河内香江、大久保陽一郎、鷲見公太、鈴木理樹、吉岡恵美

２．診療実績

①　病理組織検査

2020年１月１日から同年12月31日の集計である．病理組織検査総件数は12,029件、迅速組織診断766件、細胞診8,179件、病理解剖９件。

②　業務改善／新規業務

病理報告書未読（確認漏れ）の対策継続中。核酸品質管理の為の基盤創成を行った。

③　院内活動

各種カンファレンスに参加。CPC開催（17回）。

④　治験業務

５年前より病理診断科で病理組織関連の治験について担当し始め、事前の病理検体処理の打合せ、スタートアップにも参加。常時、薄切業務の技術向上に努めている。また、要望も多岐にわたり今後、術前治療に対する治験が増加した場合には、再度体制構築が必要となると思われる。

３．教育・人材育成

①　病理ローテータ-レジデント：３ヶ月の期間、当科で研修するレジデントに病理診断学の基礎とがんに関する研究・発表を指導した。

②　当科研修生：小野響子先生が登録更新。

③　現員確保のため、人材獲得を目指していたが、諸事情で不可となった。

４．展望

がんゲノム診療とともに、各科の組織検体を用いたバイオマーカー検査が増加し、その対応に追われつつある。今後、リキッドバイオプシーも導入されると思われるが、組織の需要は治験と併せ、増加傾向にあると思われることから、人員の確保と検体の質の向上に励むことが要求される。

文責：横瀬智之

輸血医療科

１．スタッフ

田中正嗣（兼務）、金錦　麗（兼務）、原田法彰（兼務）

２．業務実績

１）業務改善

①輸血同意書の有効期限を撤廃し、血液疾患など長期輸血依存患者にも適切に対応できるよう改定した。

②輸血後感染症検査について、「輸血された患者全例に実施すべきではない」との通達が輸血・細胞治療学会からなされ、院内ルールもこれに準じて改定した。

③細菌汚染製剤の注意喚起が日本赤十字社からなされ、輸血実施前～施行中の製剤外観確認に関するお知らせを作成し、全病棟・外来・手術室に周知した。

２）製剤使用量と廃棄量

①赤血球濃厚液（前年）：使用量5,424単位（6,356単位）、廃棄量46単位（38単位）、廃棄率0.85％（0.6％）、損失額417,036円（336,794円）

②新鮮凍結血漿（前年）：使用量506単位（448単位）（120mL= １単位換算）、廃棄量18単位（24単位）、廃棄率3.56％（5.36％）、損失額164,898円（214,944円）

③濃厚血小板（前年）：使用量17,690単位（21,280単位）、廃棄量30単位（40単位）、廃棄率0.17％（0.19％）、損失額245,232円（319,500円）

廃棄に伴う損失は827,166円で前年（871,238円）よりやや減少したが、期限切れによる廃棄が多く、貴重な献血の有効利用および病院経営の視点から引き続き廃棄血を減らす努力が必要である。

３）有害事象

なし

３．教育・人材育成

なし

４．展望

本年はCOVID-19の影響もあり輸血使用量が変動した。期限切れの廃棄血を出さないよう、対応を強化していきたい。今後は移植関連業務の教育も行い、人材育成に取り組んでいく。

文責：田中正嗣

遺伝診療科

１．スタッフ

成松宏人、羽田恵梨、佐藤　杏

２．診療実績

【遺伝カウンセリング外来】

本年度は128家系136名のクライエントに対して、のべ227回の遺伝カウンセリングを行った。このうち99家系は遺伝性乳がん卵巣がん症候群（HBOC）についてであり、HBOC診療が一部保険収載された影響による来談件数の増加がみられた。その他、Lynch症候群は６家系、多発性内分泌腫瘍症２型は４家系、家族性大腸腺腫症は３家系、Li-fraumeni症候群は１家系、複数の遺伝性腫瘍が疑われたのは４家系、がんゲノムプロファイリング検査後の来談は11家系であった。遺伝学的検査は全82件実施した（研究含む）。

【遺伝カウンセラーのみの面談】

遺伝性腫瘍の拾い上げを行う目的で、乳がん患者619名と面談を実施した。その他、各科からの依頼では50名と面談を行った。また、コンパニオン診断の遺伝学的検査に関する説明補助として94名に面談を実施した。

【リスク低減手術】

乳腺外科・婦人科と連携し、HBOCのリスク低減卵管卵巣摘出術が５名、リスク低減乳房切除術が１名に実施された。

３．教育・人材育成

臨床遺伝専門医研修中の医師および職員を対象とした臨床遺伝に関する研修会を月１回実施した。

４．展望

今後はコンパニオン診断やがんゲノムプロファイリング検査の適用条件拡大も想定されるため、体制整備と並行して、医療従事者及び患者を対象とした教育の機会も増やしていきたい。

文責：佐藤　杏

がんゲノム診療科

１．スタッフ

廣島幸彦

２．診療実績

2019年８月からがんゲノムプロファイリング検査を開始し、2021年３月末までに372例実施した。2019年９月には「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、12月から自施設内でエキスパートパネルを週１回開催し、2021年３月末までに合計358症例を検討した。外来診療では、院外からの検査依頼患者を担当し、初診患者116名（令和２年度:76名）に対して検査説明、同意取得、結果説明を行った。

３．教育・人材育成

がんゲノム医療連携病院を対象にがんゲノムプロファイ

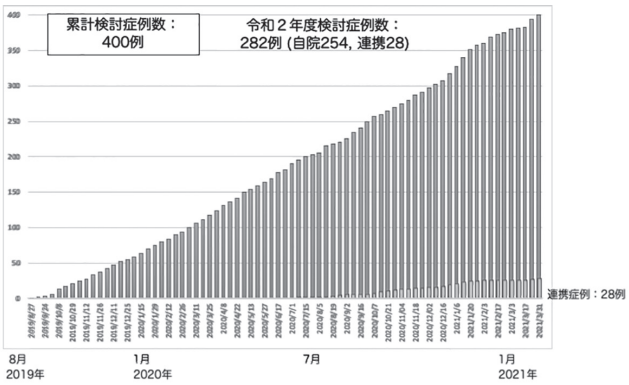
リング検査に関する院内見学説明会を１回開催した。また、がん診療連携拠点病院等意見交換会、横浜市立大学医学部附属病院キャンサーボードにおいて、がんゲノムプロファイリング検査に関するプレゼンテーションを行った。

４．展望

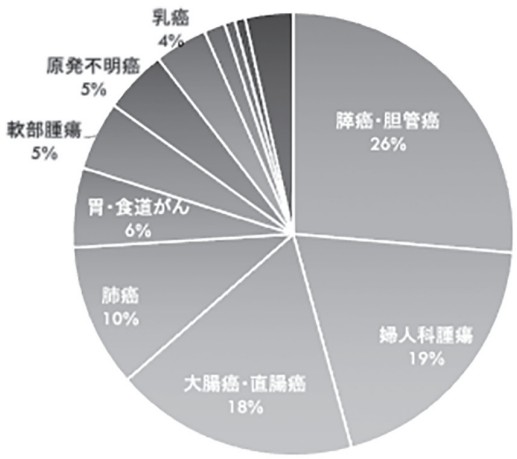
現行の遺伝子パネル検査のエキスパートパネルの運営整備とともに、現行検査は未だ不充分であることから、新規ゲノム検査の開発研究（先進医療B：Upfront NCCオンコパネル、新規遺伝子パネル検査：TSO500などの実施）を臨床研究所と協力して行っていく。

文責：廣島幸彦

（遺伝子パネル検査累積実施数）



（癌腫別内訳）



第３節　がんゲノム診療センター

がんゲノム診療センター

がんゲノム診療センターは、県内の医療施設に対してがんゲノム診療の連携拠点病院としての取組を推進する目的で設置された。がんゲノム診断・治療検討室、ゲノム情報管理室、がんゲノム診療相談センター、がんゲノム医療管理室の４室で構成され、センター長以下15名（兼務14名、専従１名）が、がんゲノム医療に係る諸手続や県民からの電話相談等に対応している。

当センターでは令和元年８月よりがんゲノムプロファイリング検査の受検者登録を開始（同年６月に保険収載）し、令和元年度の同検査の登録数は154件、令和２年度は254件と著名に増加した。がんゲノムプロファイリング検査は指定医療機関の専門家会議（エキスパートパネル：EP）での結果検討とレポート作成が必須であるが、当院は令和元年９月19日に厚生労働省より「がんゲノム医療拠点病院」に指定され、12月より自施設のEPを開始した（それ以前は国立がん研究センター EPと連携）。令和元年度は、自施設EPで75例、令和２年度は282例（うち連携病院28例）を検討し、レポートを作成した。

また、神奈川県立こども医療センター、昭和大学横浜市北部病院、藤沢市民病院に対してがんゲノムプロファイリング検査の実施に向けた研修会を開催した。

第４節　重粒子線治療センター

放射線治療技術科　（重粒子線担当）

１．スタッフ

大澤幸夫、大津和義、勝木芳幸、高橋　友、吉野慎一、塩入憲二、鴇矢祐治、小倉昌也、斎藤雄介、志賀杏実、菅満喜人、黒須敦司

２．診療実績

延べ人数は前立腺4,717人（1,037人増）、その他（頭頚部、骨軟部腫瘍、肺、消化器、婦人科等）1,868人（573人増）となった。

令和２年の新規患者数は令和元年421人から131人増の552人となった（令和２年度は542名）。令和元年、夏より３室運用を開始した結果である。

今後さらにその他部位が増えることが予想されるので、固定具作成・位置決めCTの枠の見直しをした。

３．教育・人材育成

学会発表、研修会及び講習会等に積極的に参加し、個々の知識技術向上のために日々努力している。

４．展望

治療患者数はさらに増加すると思われるので、固定具作成、位置決めCTの並行運用及び、４室運用を見据えての教育・人材育成をしていく。

肺、肝臓、膵臓等呼吸性移動を伴う部位には、呼吸同期スキャニング照射を行っている。今後も最先端技術を取り入れながら、患者さん１人ひとりに寄り添った治療を提供出来るように日々の研鑽に努めて行く。

文責　大澤幸夫

第５節　医 療 技 術 部

放射線診断技術科

１．スタッフ

渡邉　優、片野克彦、大塚叔宏、石井幸弘、石渡靖、江成一二、新開佐和子、長瀬智明、林　智史、木幡良子、鈴木悠一、深井正隆、佐藤伶美、中村浩希、大槻有紀、岩田薫子、悴田優紀、清本龍正、五十嵐莉紗

２．業務実績

例年と比較し感染対策を厳しく行っている中、前年比増となる検査が多かった。

一般撮影は年間60,411人（前年比＋5.1%）。CT検査は80,859人（前年比＋6.3%）, MRI検査10,520人（前年比＋8.8%）ともに増加した。血管撮影は629人（前年比＋21.2%）と増加した。核医学部門は、シンチグラムが1,162人（前年比－5.3%）と減少した。PET-CTは2,624人（前年比＋8.7%）、内服療法による放射線治療は69人（前年比－22.5%）であった。

３．教育・人材育成

放射線取扱主任者講習等認定資格に関する学会・研修会参加５件。学会発表１件。

４．展望

関係関連部署と協力し、患者さんに優しく高度な医療情報の提供を目指している。

院内でCT ／ MRI検査を行えないことがあり長年の課題となっているが、予約時間の工夫や運用面での努力により検査数の減少は抑えている。CT，MRIは供給能力に対して需要が大きく限界に達してきており、検査内容が複雑化してきている昨今ではこれ以上の増は非常に厳しい。今後装置の大幅な移設・新規増設も含め、病院全体で取り組んでいく必要性がある。

文責：花坂信明

放射線治療技術科（光子線部門）

１．スタッフ

大澤幸夫、佐藤公彦、谷口大樹、瀧澤俊一、村田智津、伊藤和正、白戸友和、室賀啓太郎、沖田絵里、青木麻美、小林航平、塚原愛海、藤井優作、渡辺翔太

２．治療実績

延べ人数は通常治療15,994人（1,109人減少）、強度変調放射線治療（IMRT）7,628人（335人増加）、定位放射線治療（SRT）234人（51人増加）、小線源治療（RALS）168人（21人減少）となった。2019年に対して通常治療 0.94倍、IMRT 1.05倍、SRT 1.28倍、RALS 0.89倍となった。通常治療の減少は高精度なIMRTやSRTが増加したためと思われる。収益は昨年より増加しており、がんセンター新棟移転後２番目の収益であった。

３．教育・人材育成

放射線治療計画の一部を放射線技師が担当することによりスキルアップを行っている。また新人に対してOJTを取り入れ教育プログラムを作成し教育を行っている。

４．展望

高精度な放射線治療を積極的に取り入れ、従来の治療も含め安全で安心できる放射線治療を行っている。今年度は新規に導入した機器は無く、リニアック４台と、密封小線源治療装置１台、X線位置決め装置２台、CT位置決め装置２台、治療計画装置８台、放射線治療計画支援装置１台、放射線治療RISが稼動している。患者への負担も少なく高精度な放射線治療として、強度変調放射線治療（IMRT）や定位放射線治療（SRT）に加えて、呼吸同期治療法、VMAT等の新しい治療にも取り組んでいる。今後も常に情報収集に努め機器の更新、人材育成を行い一人でも多くの患者さんに対してより良い医療が提供できるように日々の研鑽に努めて行く。

文責：大澤幸夫

物理工学科

当科は重粒子線治療に係わる装置の運転維持管理、及び個々の症例に対する治療計画立案とその線量分布検証を通して、高品質の重粒子線治療を安定して供給することを主な業務としている。重粒子線治療装置i-ROCKは、世界最先端の炭素線高速３次元スキャニング照射法を有し、また世界的にも類の少ない全治療室にRail-on in-room CTを備えた施設である。2020年度は５名の常勤（うち任期付１名）、２名の非常勤の体制で業務をおこなってきた。重粒子装置の日常的な運転・維持管理は、支援業務委託先のエンジニ

ア（８名）と一緒に行っている。朝６時半から装置の点検・立ち上げを開始し、ビームの調整・線量校正、室内機器の動作確認を経て、９時からの患者治療にあたる。治療終了後には、患者治療計画の全例に対してビームを用いた線量分布検証をおこなう。その他、治療チームのワークフローに沿った治療スケジュールの管理・調整を行ってきた。患者の治療計画立案においては､医師の処方のもとで､スキャニング線量分布の最適化をおこなっているが、さらに治療期間中に取得したin-room CTを用いた線量分布の臨床的検証を通して、個々の患者の治療精度のさらなる向上に努めている。また研究外部資金を複数獲得し、従来からの共同研究と合わせて放射線治療部門全体の研究体制の強化とその推進を担っている。

文責：吉田　大作

検　査　科

１．スタッフ

堀口早苗、為藤葉子、小澤悦子、山本敏晴、佐々木健司、小堤由香、細谷和子、佐川孝夫、大宮章子、関山晶子、平嶋麻里、酒井麻衣、原田和樹、林　麗奈、滝澤梨紗、金錦麗、石崎　恵、清水彩那、原田法彰、雪吉祥恵、佐藤祐一、那須隆二、市川雄一、杉山加奈、田中亜由美、堤　節江、澤口芽生、江藤里香、森下千尋、鶴長明美、赤尾昭子、岩撫成子、非常勤18名、SRL16名

２．業務実績

院内検査総数は3,172,872件（前年度3,175,570件、前年比99.9％）、採血件数は102,838件（前年度103,304件、前年比99.6％）、採血１日平均427人（前年度427人、前年比100.0％）とCOVID-19の影響で若干、減少がみられた。2020年12月にISO15189更新認定審査を受け、３月に適合と認められた。

３．教育・人材育成

COVID-19の影響により予定していた実習生３名の受入れは中止となった。各学会や資格取得試験も中止となったが、Webによる学会や研修等を積極的に受講した。

４．展望

ISO15189の要求事項に基づき、迅速で質の高い検査と情報を提供し、がん専門病院の診療の一端を担っていくと共に、ICT、NST、治験、がんゲノム医療等、チーム医療へも積極的に参加し、幅広くサポートを行っていく。また採血待ち時間短縮のために予約時間に合わせた対応を考えていきたい。

文責：堀口早苗

栄養管理科

１．スタッフ

藤井理恵薫、平山麻実子、須原広子、伊藤洋平、永岡澄音、鈴木　栞、秋山紘槻、小原晴世

２．業務実績

栄養指導件数はCOVID-19の影響もあり前年度比81%と減少の状況であった。病棟訪問等入院患者対応も前年度比72.8%であった。感染防止策の一環で訪問を減らしたためであった。外来化学療法の患者へ栄養指導対象の拡大をしたところであったが、感染対策で外来の訪問も減っている状況である。「化学療法を乗り切る栄養・料理教室」の開催も同様、感染防止対策で休会している状況であった。周術期センターに参画し術前の栄養状態改善のための栄養相談を実施した。給食管理は衛生管理を徹底してニュークックチルシステムで提供され喫食率は77.2％であった。がんセンター独自のがん支援食の割合が前年度より上回り26.3％を占める状況であった。

３．教育・人材育成

管理栄養士養成校の実習については緊急事態宣言期間に重なり実習受け入れ辞退することとした。そのほかオンラインで実践研究センター主催のがん支援講座にて講演等、感染対策に配慮しながら啓発活動は行った。

４．展望

栄養管理科では今後、入院から退院後の外来までシームレスに栄養管理ができるようシステム作りを検討している。栄養状態の評価と適切に、早期に栄養介入できるようスキルアップとシステム作成に努力している。外来化学療法患者の低栄養と食に関わる副作用に対し積極的に介入していきたい。

文責：藤井理恵薫

薬　剤　科

１．スタッフ

岸本有佳・櫻井　学・原田知彦・大川貴子・有木かみな・大西利佳・戸津舞衣子・新本小百合・高橋　篤・山永雄介・加藤真子・齋藤圭祐・今渕　瞳・近藤丈博・福田真弓・古越幸奈・近藤智洋・安藤佐紀子・松本美樹・西崎百合絵・相馬光里・丸田愛美・齊藤太紀・橋本瑞希

２．業務実績

令和２年度診療報酬改定において連携充実加算が新設され、150件算定した。地域の薬局や病院薬剤部との連携がさらに重要となっている。後発品については13品目を切り替え、医薬品費の削減にも取り組んでいる。抗がん剤治療については入院ミキシング件数9,440件、外来ミキシング件数27,156件。年々レジメンの内容も複雑になり、調整にかかる時間も長くなっているが、待ち時間の対策にも力をいれている。また、コロナウイルスの流行に伴い、入院の薬剤管理指導は6,678件、外来指導件数は4,300件、外来が増えているが指導算定は専門資格をもつ薬剤師が行う必要があり、資格取得者の育成が課題となっている。

３．教育・人材育成

レジデント１名、薬科大学実習生12名、がん研修生１名を受け入れ、地域病院と連携し、調剤薬局を対象とした研

修会を１回行った。

４．展望

今後地域の病院や薬局に向けた研修の充実やレジメン内容や検査値の公開、情報の発信等が必要になり、果たす役割も大きくなる。特定機能病院を目指すにあたり感染・医療安全・緩和分野については専従者も求められており、人材育成が今後の課題である

文責　岸本有佳

臨床工学科

１．スタッフ

小林　徹、川口　一夫、東　光宏

２．業務実績

主な業務は手術室業務（手術支援ロボットダヴィンチ・麻酔器管理）、HCU業務（人工呼吸器管理･特殊体外循環）、幹細胞採取等の臨床業務、院内医療機器の保守点検・管理である。

本年度のダヴィンチ手術件数は255件、麻酔器管理は3,374件、人工呼吸器点検ラウンドは453件、医療機器保守点検業務数は21,420件であった。

特殊体外循環療法件数（CRRT、DHP、PA等）は72件であり、夜間・休日に対し緊急対応を行っている。幹細胞採取、骨髄処理、ドナーリンパ球採取件数は32件であった。

兼務業務として、足柄上病院及び循環器呼吸器病センターに出向し、不整脈治療及び医療機器の保守点検を行っている。

３．教育・人材育成

「医療機器安全使用のための研修」「医療機器の正しい取扱い」「医療機器新規購入に伴う取扱い説明」など医療従事者への勉強会・講習会を32回開催した。「医療機器安全使用に必要な情報の収集と周知」に対し、医療機器の不具合や安全情報等の必要な情報を収集し、医療従事者に「医療安全ニュース」を提供した。

技術・知識向上のため、学会・講習会などにも積極的に参加し、医療機器、治療成績の向上に努めている。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりWEBセミナーの参加となった。

４．展望

今後益々増大し高度化・複雑化する医療機器の安全担保と有効性維持の担い手として、安全で質の高い医療の提供を目指していきたい。又、人材育成の面では資格取得・研修受講の促進を行っていきたい。

文責　川口一夫

リハビリテーション技術科

１．スタッフ

理学療法士PT３名、作業療法士OT２名、言語聴覚士ST１名のスタッフ数は過去３年の最低数と同様であった。スタッフに長期休暇が必要となった時期もあり、さらに少人数での厳しい業務対応となった。

２．診療実績

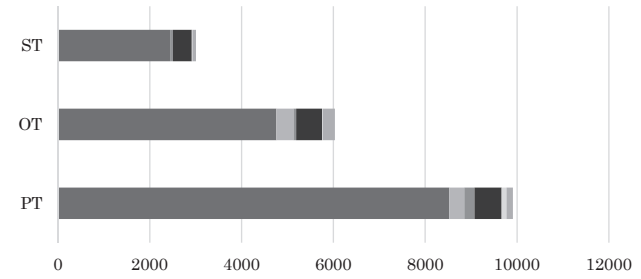
新患患者数は医療局リハビリテーション科の項に記した。年間リハビリテーション実施数（単位数）は18,952単位であり、前年度（22,950単位）を17.5％下回った。今年度初めて実施単位数で定められた年度目標（26,650単位）に遠く及ばず、残念な結果となった。十分なスタッフ数を確保できなかったことが最大の要因である。

３．教育・人材育成

COVID-19感染対策のため例年実施していた療法士の学生実習は実施せず。

４．課題

院内組織改編により患者支援部から医療技術部へと所属変更となったため、患者支援部との連携が希薄になったことは残念である。がんサポーティブケアの重要な構成要素であるリハビリテーション部門は、がん患者支援部門への配置が望ましい。



	PT	OT	ST
がん患者リハ	8521	4757	2442
運動器リハ	330	375	0
呼吸器リハ	221	58	65
脳血管疾患等リハ	592	564	408
廃用症候群リハ	106	13	14
算定なし	142	267	77

第６節　看　　護　　局

〈ミッション〉

がんと共に今を生きる患者に寄り添い、その人らしさを大切にした最良の看護を提供します

〈ビジョン〉

１　患者家族の尊厳および権利を擁護し、患者の意思決定に必要な支援をします。

２　がん看護の専門性を重視した、患者家族に信頼される看護を提供します。

３　専門職として看護に誇りとやりがいを持てる組織を作ります。

2020年度　重点課題

キーワード“患者・家族に寄り添う看護とヘルシーワークプレイス”

⑴　新型コロナウイルスの感染拡大防止

⑵　患者・家族のニーズを尊重した医療の提供

⑶　WLBを考えた働き方

到達目標評価

⑴　職員が感染しない

⑵　院内感染を起こさない

患者・家族対応、研修方法の工夫や実習調整、環境調整等について検討し、感染防止に努めた。COVID-19感染症のクラスターが発生したが、感染症対応病棟の運用を開始し、水平感染を防止できた。

⑶　その人らしく生活者として、療養継続ができる看護の提供

多職種と連携した入院前支援システムを構築し、新たに胃食道外科患者の入院前問診を開始した。また、安全な看護の提供に向けて、転倒転落防止対策として療養環境調整や患者指導、さらに薬剤関連の取り組みにより事故防止対策に努めた。今後も取り組みを継続し、看護の質の担保に努める。

⑷　働き方改革の意味を理解し、補完しあえる職場づくり

各セクションで業務改善による業務の効率化や多職種との連携に取り組んだ。補完体制への理解も深まり、職場環境の改善につながった。

第７節　医 療 管 理 部

医療の質評価推進室

医療の質評価推進室は、医療の質を測定・評価してその向上を図ることを目的とし、以下の活動を主導している。

Cancer Quality Indicator（CQI）研究会：５大がんを対象に診療プロセスをDPCデータ等を用いて分析し、その結果をCQI研究会参加施設間で比較・評価することで、医療の質の改善・均てん化を支援している全国CQI研究会に参加している。参加施設数も190施設以上に増え、疾患・術式ごとの件数や平均在院日数等の様々な項目について参加施設間の比較がグラフで表示される「がん診療分析ツール」の利用も可能となった。全国CQI研究会は隔年開催のため、2020年度は未開催だった。

Quality Indicator（QI）研究会：2010年に発足した当センター独自の活動組織であり、多職種により構成されている。「質の高い医療を提供しているか」「安全で安心な医療を提供しているか」「患者さんの視点にたった病院経営が行われているか」「医療人材の確保が適切か」「業務運営の改善や効率化が行われているか」という５つの視点に基づいて測定項目を設定し、測定結果は総括報告書の作成・配布によって公表・フィードバックしている。

病院の質向上委員会：病院機能評価の受審活動を引き継ぎ、病院の質改善に関する活動を継続して行う。管理者および各部署からの多職種職員により構成されている。前回の病院機能評価における指摘事項を元に、改善への具体的な取り組みを行うとともに、次回の受審にむけた問題点の検討を行っている。

栄養サポートチーム（NST）

栄養サポートチーム（以下、NST）は、がんセンターにおいて全ての患者が適切な栄養管理を受けられるよう院内栄養管理の向上を図るため、栄養管理会議の下部組織として設置された。平成17年７月31日より稼働し、同年10月１日、日本臨床栄養代謝学会（旧：日本静脈経腸栄養学会）で稼働施設として認定された。平成19年４月１日よりNST 専門療法士教育認定施設として許可された。

メンバーは、医師、歯科口腔外科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士、管理栄養士、計29名で、消化器外科 尾形医師をリーダーに活動した。

１．NST対象患者の回診及び栄養処方の提言

毎週水曜日午後、主治医、看護師などの他職種からの依頼に対するカンファレンス・病棟回診を行った。依頼症例について、栄養評価、病態に合わせた経静脈栄養および経腸栄養の投与プランの提案を行った。栄養状態モニタリング対象者のうち、栄養状態が治療に負の影響を及ぼすとNSTが判断した患者もサポート対象に含め、必要栄養量と投与栄養状況の報告、輸液内容の提案を行った。

依頼症例数：31人

NSTカンファレンス開催回数：50回

延べ回診回数：102回

栄養状態モニタリングにおける延べ提言回数：10回

２．運営委員会の開催

奇数月の第２木曜日にNST活動の適正かつ効率的な運営を図るため、NST運営委員会を開催した。

３．教育および広報活動の実施

COVID-19感染対策の一環で、例年行われている院内外医療関係者を対象にした勉強会の開催は見送られた。

褥瘡対策チーム

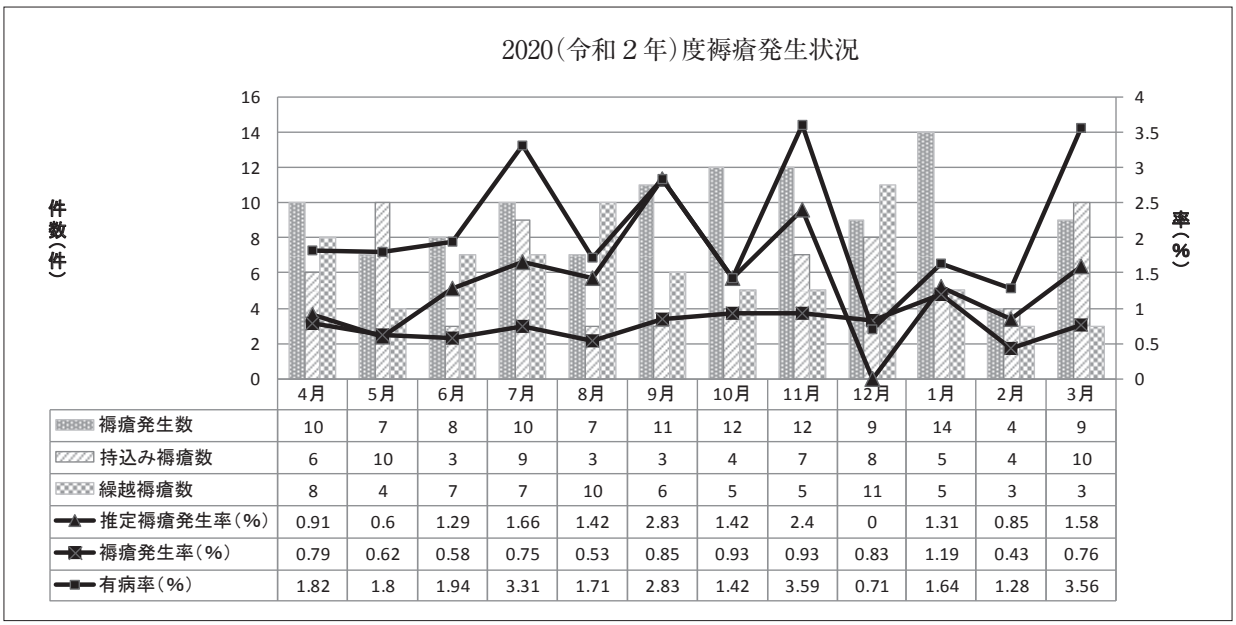
褥瘡対策は入院基本料の算定要件となっており、医療の質保証のひとつとして位置づけられています。褥瘡は、患者のQOLの低下をきたすだけでなく、医療費の増大にもつながり、予防ケアが重要です。褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定のための施設基準を整備し、重点的な褥瘡予防ケアに取り組んでいます。

褥瘡対策チームでは、褥瘡発生率や有病率などのデータを蓄積し、毎月の会議で動向をモニタリングしており、2020年度の褥瘡患者はのべ184件で、褥瘡発生率は0.77％でした。褥瘡回診は130件／年行い、褥瘡の改善・治癒に取り組みました。褥瘡ハイリスク患者ケア加算の実績は、2344件／11,720,000円でした。

当院では標準マットレスにウレタンフォームマットレスを採用しています。エアマットレスやポジショニングクッションなども整備し、褥瘡予防ケアに努めています。また、スキンケアリンクナース委員会と協力して、褥瘡対策に関わる書類の入力の徹底、継続的な褥瘡に関する勉強会の実施を行い、基本的な褥瘡予防ケアを実践しています。その結果、褥瘡発生率は１％以下で推移しています。

高齢化、がん治療の継続による皮膚や組織の脆弱化、病状進行による全身状態の悪化により、褥瘡発生リスクが高い患者が多くなることが予測されます。今後も、褥瘡対策チームは院内の褥瘡対策の中心的な存在として、褥瘡対策に取り組み引き続き褥瘡発生率１％以下を目指していきます。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
算定数（500点）	206	175	187	187	198	204	185	196	210	207	167	222	2,344
収益金額（加算×5,000円）	1,030,000	875,000	935,000	935,000	990,000	1,020,000	925,000	980,000	1,050,000	1,035,000	835,000	1,110,000	11,720,000



放射線治療品質保証室

当室は室長（放射線治療科部長兼任）と専従の医学物理士２名で構成される。 放射線治療科および放射線治療技術科と連携した、外部放射線治療および小線源治療の品質保証を主たる業務とする。日常的な業務としては、リニアック・治療計画装置のハードウエア・ソフトウエアの品質管理、医師が作成した治療計画の物理的・技術的な検証を含めたダブルチェック、高精度放射線治療（強度変調放射線治療、定位放射線治療）の治療計画作成・データ検証を担当している。

日常的に多くの高精度放射線治療実施可能な環境が順調に整備されてきている。高精度放射線治療は腫瘍に高線量を効果的に投与することが可能である。い方、システムや人的なエラーが発生すると重大な医療事故につながる危険もはらんでいる。当室では日本放射線腫瘍学会をはじめとした放射線治療関連学会から発行されている各種ガイドラインに準じ、放射線治療の安全性確保に努めている。これからも安全に放射線治療を実施することができるよう、絶えずシステムの品質管理や医療安全に対する取り組みを精力的に継続していく。

第８節　患 者 支 援 部

概　　要

令和２年度の患者支援部の目標は以下の３つ、すなわち「入院前から退院にむけての療養支援をより円滑に行います」、「地域連携室の設置により初来院患者の増加を目指します」、「医療の質向上を目指し、チーム医療を推進します」であった。「患者さんはじめ県民に、より信頼され選ばれる病院を目指します」が病院目標として掲げられており、これを達成すべく都道府県がん診療連携病院として、院内外のがん相談支援体制や病診連携、緩和ケア体制の強化に努めた。

当部門は、緩和ケアセンター・患者支援センター（がん相談支援室、医療福祉相談室、入退院支援室）・アピアランスサポートセンターと密な連携をとり業務を行なっている。

緩和ケアセンター

緩和ケアセンターは、緩和ケアチーム、緩和ケア外来、緩和ケア病棟を有機的に統合する役割を担っている。苦痛のスクリーニングの実施、がん看護外来、リエゾン精神看護専門看護師外来、緩和ケアチーム活動により、診断期からの緩和ケアの提供を行った。月１回の定例会議のほか、テーマ別に関係者が集まり、定期的にカンファレンスを開催した。また、患者・家族を対象に緩和ケアについての啓発活動として緩和ケア週間を開催した。

１．看護外来実績

令和元年度のがん看護外来での対応件数は、延べ患者数439件、リエゾン精神看護専門看護師外来での対応件数は、420件であった。

２．医療従事者対象研修会の開催

研修会開催実績

No	研修会名	テーマ	対象者	参加者数
1	介護職のためのストーマケア講習会	ストーマケアについて	介護職	コロナにより中止
2	介護職のためのストーマケア講習会	ストーマケアについて	介護職	コロナにより中止
3	看護師のための緩和ケア研修会（院外出張研修）	がん治療の今と緩和ケア病棟ついて	看護師	コロナにより中止
4	看護師のための緩和ケア研修	基本的緩和ケアについて	院内看護師	６名（コロナにより縮小）
5	訪問看護のための緩和ケア研修会		訪問看護師	コロナにより中止

３．緩和ケア週間

令和２年10月４日㈰～10月10日㈯の期間、緩和ケア週間を開催した。コロナ感染症拡大防止により、緩和ケアに関する、リーフレット設置・ポケットティッシュの配布、イベントなどは中止した。院内の装飾は横断幕・のぼりなど最小限とした。ホスピタルストリートには、ACPに関するポスター掲示を行い、もしも手帳については使い方の相談を行った。また、ACPに関する啓発ビデオを全職員に向けて視聴できるようにした。

患者支援センター

患者支援センターは、地域医療連携機能と相談機能を担い、がん患者の心理社会的な問題へ総合的に対応するよう、メディカルソーシャルワーカーと看護師、メディカルアシスタント、事務の多職種で構成された部署である。がん相談支援室、医療福祉相談室、入退院支援室で組織され、役割分担しつつ業務を遂行している。相談支援担当は、がん診療連携拠点病院のがん相談支援センターの機能を併せて担う。

令和２年度に担当した主な業務と実績は次のとおりである。

〈受付機能〉

受付業務：初診受付、セカンドオピニオン受付、検査申し込み受付、緩和ケア病棟入棟申し込み受付

〈医療連携機能〉

がん相談支援室：患者受け入れに関する紹介元との医療連携

入退院支援室：逆紹介の推進、院内・院外（医療・福祉資源）の関係者との連携による療養支援

地域連携クリニカルパス（前立腺がん術後地域連携パス13件　乳がん術後地域連携パス367件）

逆紹介612件（歯科連携243件含む）

医療連携強化を目的とした研修会・会議の開催

医療連携の強化を目的とした連携医療機関の訪問

〈相談機能〉

がん診療連携拠点病院がん相談支援センターとして、院内・院外の患者・家族、医療機関等からの相談対応（電話相談4,068件、対面相談2,115件、その他329件／計6,512件）

療養等に関する患者・家族の意思決定支援（実件数1,675件、延べ6,546件）

〈がん診療連携拠点病院がん相談支援センターとしての機能〉

患者会活動支援およびがん患者サロンの運営支援：COVID19感染症により休止であったが、がん患者サロンは10月よりオンラインで再開

就労支援：ハローワーク出張相談14件、社会保険労務士相談46件、両立支援コーディネータ（がん専門相談員）101件

がん診療連携拠点病院　相談支援部会事務局として会議・研修会等の活動推進

表１　医療連携実績（入退院支援室）

		令和元年度	令和２年度
病　院	外来	663	281
	入院	100	52
	他院	1	2
	不明	0	148
	小計	764	488
診療所	外来	520	438
	入院	130	154
	他院	31	0
	不明	0	226
	小計	681	818
訪問看護ステーション	外来	244	326
	入院	190	203
	不明	2	385
	小計	436	914
福祉施設	外来	1	20
	入院	7	19
	他院	5	10
	小計	13	49
その他		0	10
合　計		1,894	2,279

＊令和２年度より集計方法変更のため、前年度との誤差あり

表２　相談対応実績

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
相談支援	607	475	538	541	557	488	549	609	551	531	469	597	6,512
退院支援延べ数	162	155	201	171	117	140	166	163	164	153	161	232	1,985
実　　数	44	93	99	98	73	98	105	99	105	116	161	232	1,323

表３　がん相談支援における主な相談内容（上位10項目，重複カウントあり）

No	相談内容	件数
1	がんの治療	1,780
2	不安・精神的苦痛	1,605
3	受診方法・入院	1,327
4	医療費・生活費・社会保障制度	1,013
5	症状・副作用・後遺症	959
6	医療機関との関係	555
7	医療機関紹介	435
8	緩和ケア	369
9	転院	346
10	セカンドオピニオン	284

表４　研修会・会議の実績

研修会名	テーマ	対象者	参加者数	日　時
地域連携懇親会	COVID-19感染症のため開催せず	院内外医師及び地域連携に関わる医療スタッフ		
相談支援部会主催 第１回神奈川県がん相談員研修会（オンライン）	小児・AYA世代がん患者における妊孕性への支援について	神奈川県内のがん専門相談員	31施設 62名	令和２年11月９日㈭ 15時15分～17時15分
相談支援部会主催 第２回神奈川県がん相談員研修会（オンライン）	コロナ禍におけるがん相談支援センターの運用について	神奈川県内のがん専門相談員	31施設 63名	令和３年２月16日㈭ 14時30分～17時
第１回がん患者サロンピアサポーター研修 （オンライン）	がん患者サロンの意義と方法	患者会関係者	11名	令和２年９月25日㈮ 16時～17時30分
第２回がん患者サロンピアサポーター研修 （オンライン）	がん患者サロンの意義と方法（オンライン患者サロンの運営について）	患者会関係者	14名	令和３年３月５日㈮ 13時30分～15時

アピアランスサポートセンター

アピアランスサポートセンターは、がん治療等に伴う外見上の変化による苦痛を抱える患者支援を行う目的で、平成28年度から新たに設置された。専従の看護師１名とアピアランスサポートセンター長の組織でスタートし、ウイッグなどのサンプルを準備し、専用の相談室を１室整備している。アピアランスサポートセンターの業務は、専従看護師のほか患者支援センター相談支援担当の看護師、MSWが専従看護師と協働して業務を遂行した。

令和２年度は個別相談（372人）を実施した。コロナウィルス感染症の影響によりスキンケアに関する情報発信やメイクに関する体験を含むセミナー等の開催は中止とした。

表１　個別相談件数

男女	男	女	計
外　来	21	311	332
入　院	6	26	32
他　院	2	6	8
合計件数	29	343	372

化療関連	29	303	332
手術関連	0	37	37
そ の 他	0	3	3
合計件数	29	343	372

患者医療対話推進室

2020年度の患者支援部患者医療対話推進室は、医療メディエーターの平田と室長の酒井の２名体制であった。2020年４月～2021年３月の メディエーション件数は19件であり、これにかかわる三者面談14回、二者面談を21回、計35回の面談を当推進室で行った。また、患者医療対話推進室への相談・問い合わせ件数は40件あり、これにかかわる医療者からの相談への対応を54回、患者・家族からの相談への対応５回、延べ59回の相談に推進室として対応した。これらの案件は、必要に応じ投書箱検討会議や相談・苦情検討会議等で共有した。メディエーションに入る前には、状況に応じて、事務局、関係者とともに事前打ち合わせ（ロールプレイ他）を複数回行うとともに、事後の振り返りを行った。また、継続案件については管理者を交え定期的にミーティングを行った。

教育・人材育成として、2020年11月24日に早稲田大学大学院法務研究科を講師に迎え、院内の診療科責任医を主な対象として医療メディエーション研修を集合研修の形式で開催し、医師31名、看護師８名を含む計40名が研修に参加した。また、医療メディエーターは、４月に院内新規採用者・転勤者を対象として、医療メディエーターの役割について説明を行った。さらに、11月11日、12日に神奈川県立病院機構本部が開催した医療メディエーション研修のサポートを行った。その他、山形県病院事業新規採用研修において、医療メディエーションにかかわるオンライン講演（ZOOM）をおこなった。

今後も医療スタッフと患者・家族の懸け橋となるべく、多職種と連携して患者医療対話推進室の運営に取り組んでいきたい。

第９節　医療安全推進室

医療安全推進室は、病院全体の医療安全に関することを担当する部署として2005年４月に開設され、専従の医療安全管理責任者（副院長）、専従の医療安全管理者（看護科長）のほか、副事務局長、医薬品安全管理責任者・麻薬管理責任者（薬剤科科長）、医療機器安全管理責任者（医療技術部長）、放射線技術科長、副看護局長で構成されている。

近年、がん治療はますます高度で専門的になっており、それに伴うリスクも生じている。そのため、より一層の安全管理体制の充実を目的とし、安全ラウンド、安全に関する情報の共有化、マニュアルの整備および周知、職員に対する医療安全研修・教育などを行い、医療安全の推進に力を注いでいる。医療安全と医療の質の向上は切り離すことができず、部門・職種を問わず組織横断的な活動が重要である。各医療チームとの連携を強化しながら、職種間の相互理解を深め、それぞれの専門性を発揮しながら患者の安全を確保し、質の高い医療の実現に貢献することを目標に活動している。

■　医療安全推進室の主な業務

1．ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告、有害事象報告の収集と分析
2．医療事故防止策の立案と運用状況の評価
3．医療事故発生時の情報収集と対応
4．医療安全に関わる患者からの相談と対応
5．医療安全に関する研修の企画と実施
6．医療安全に関する情報の収集と広報

■　令和２年度の主な活動内容

- 麻薬関連マニュアル（再整備）
- 多職種スタッフで多角的に検証を行う転倒・転落対策（ワーキングの発足）
- 現場における安全点検（安全ラウンドの開始）
- リスクマネージャー会議の活性化（報告から議論共有へ）

■　月別　ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告

レベル	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計	前年度
0	33	40	38	65	37	44	44	41	35	42	30	50	499	373
1	175	177	219	227	194	170	180	184	170	163	124	143	2,126	1,964
2	55	66	50	59	74	44	60	59	64	41	44	60	676	640
3a	7	11	5	6	7	5	4	5	6	6	4	6	72	71
3b	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4	3
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	270	295	313	358	312	263	289	289	275	252	202	259	3,377	
前年度	276	271	285	287	301	249	290	286	280	263	264	227	3,279	

■　事象別ヒヤリ・ハット事例及び医療事故報告

事　　象		レベル0	レベル1	レベル2	レベル3a	レベル3b	レベル4	レベル5	件数	(内：患者誤認件数)
指示・情報伝達		65	158	19	0	0	0	0	242	53
薬剤(処方･与薬･調剤･製剤管理)		202	880	19	0	0	0	0	1,315	16
	注射・点滴	114	308	106	15	0	0	0	543	7
	内服薬	68	540	101	0	0	0	0	709	8
	その他	20	32	11	0	0	0	0	63	1
輸血		1	62	2	0	0	0	0	65	0
治療・処置・診察		11	64	12	2	0	0	0	89	4
	手術	2	9	2	0	0	0	0	13	1
	麻酔	0	1	1	0	0	0	0	2	0
	その他治療	4	23	2	0	0	0	0	29	2
	処置	3	23	5	2	0	0	0	33	0
	診察	2	8	2	0	0	0	0	12	1
医療用具（機器）使用管理		32	53	9	1	0	0	0	95	0
ドレーン･チューブ類使用･管理		9	259	121	21	0	0	0	410	1
検査		44	161	62	1	0	0	0	268	15
療養上の場面		19	171	210	24	3	0	0	427	3
	転倒・転落	0	193	192	21	3	0	1	309	0
	給食・栄養	16	54	13	1	0	0	0	84	32
	その他	3	24	5	2	0	0	0	34	1
その他		116	316	24	9	1	0	0	466	25
合　　計		499	2,124	6	73	4	0	0	3,377	117

■　報告者内訳

職　　種	令和元年度 件数（%）	令和２年度 件数（%）	内　患者誤認件数
医　　師	81（ 2.5）	101（ 3.0）	9
看　護　師	2,848（86.9）	2,830（83.8）	73
薬　剤　師	62（ 1.9）	94（ 2.8）	4
臨床検査技師	90（ 2.7）	78（ 2.3）	2
放射線技師	62（ 1.9）	43（ 1.3）	1
理学・作業・言語療法士	2（ 0.1）	2（ 0.1）	0
栄　養　士	21（ 0.6）	22（ 0.7）	0
事　務　職	98（ 3.0）	129（ 3.8）	24
そ　の　他	15（ 0.5）	78（ 2.3）	4
合　　計	3,279（100）	3,377（100）	117

＊令和元年度からは、医師報告は「ヒヤリ・ハット」に限ったものとし、「有害事象」はカウントに含めず。

■　医療安全研修受講率

- 第１回医療安全研修　「医療ガス」「放射線検査による被ばくとリスク「簡易懸濁・隔壁開通」　99.4%
- 第２回医療安全研修　「転倒･転落」「危険薬について」99.9%
- 救急蘇生訓練
  ナンバーファイブ実施訓練

第10節　地 域 連 携 室

事務局の中にあった地域連携課が令和２年度から病院長直属の地域連携室に変わった。スタッフは常勤職員３名、契約職員１名の計４名で、患者支援センターと協力して地域連携の強化と集患活動に努めた。今年度の特徴は、診療情報提供時に新型コロナウイルス感染に関するチェック項目が加わり、手続きが煩雑になった点であった。また、連携がんパスの強化を含めた逆紹介を推進するために、「二人主治医制」を掲げて、患者および医療機関への周知を開始した。主な業務と実績は以下の通り。１）診療科と協力しながら地域医療機関・健診センター等へ訪問（70件、前年度48件）、２）診療科紹介ビラを作成し、返書に同封、３）診療科案内（冊子）を作成し、地域医療機関へ配布、４）地域連携システム（メディマップ）導入（60件の医療機関と契約）、５）がん診療連携施設登録証の発行（47件）、６）呼吸器グループと協力して、肺がん検診の普及活動（医師会に協力依頼）、７）広報誌「リンクKANAGAWA」の発行（３回）、８）診療情報公開サービス「かもめ・ゆめいろネット」の推進（登録累計59施設）を行った。また、神奈川県がん診療連携協議会の事務局として、コロナ禍におけるWEB会議を４回行った。

第11節　感染制御室　院内感染対策チーム（Infection Control Team：ICT）

ICTは、すべての患者・職員を感染から守り、安全な医療環境を提供するための院内感染対策会議の実働組織であり、感染制御を担う感染制御医師（ICD）と感染管理認定看護師（CNIC）、薬剤師、臨床検査技師、事務局職員ほか多職種で構成される。平成26年４月医療管理部に感染制御室が設置され、令和２年度はICD ２名とCNIC １名、薬剤師１名、臨床検査技師１名が所属する。平成27年４月からは横浜市立大学附属市民総合医療センターの感染症専門医師が感染症コンサルトを行っている。

平成30年度より感染防止対策加算１、感染防止対策地域連携加算に加え、抗菌薬適正使用支援加算を申請している。

感染防止対策加算１　連携施設：横浜市立大学附属市民総合医療センター

感染防止対策地域連携加算　連携施設：桜ヶ丘中央病院、横浜鶴ヶ峰病院、横浜甦生病院

〈令和２年度の主な活動内容〉

・院内感染対策会議（月１回）
・ICT会議（月１回）
・ICTラウンド（毎週１回）
・抗菌剤適正使用ラウンド（毎週１回）
・院内感染対策講習会
　前期内容：新型コロナウイルス感染症の感染対策
　後期内容：インフルエンザ・ノロウイルス対策、新型コロナウイルス感染症対策
・抗菌薬適正使用講習会
　前期内容：薬剤耐性菌問題、抗菌薬の適正使用など
　後期内容：MRSA治療における新たな展開
・院内感染対策マニュアルの改訂：消毒薬の期限と使用法、ディスポーザブル製品の有効期限、COVID-19感染対策など
・サーベイランス：薬剤耐性菌、中心静脈カテーテル関連血流感染、針刺し切創血液体液曝露、手術部位感染
・手指消毒剤使用量調査
・感染事例発生時の対応：薬剤耐性菌検出、感染性腸炎、カンジダ血症例、インフルエンザ発生、COVID-19疑いと陽性例

第12節　新規治療開発支援センター

1　概　　要

新薬の開発は、医学の進歩にとってかかすことのできないものであり、近年の新治療によりがんの生存率は大きく向上している。新薬開発までには、十分に安全性と有効性を確認する必要があり、そのために科学的根拠に基づいた、品質の高い臨床試験を実施することが求められている。新規治療開発支援センターは、当初治験管理室として平成12年４月から設置されていたが、令和元年６月の組織改正で新規治療開発支援センターとして新発足したものである。

具体的には、「医薬品（医療機器・再生医療等製品）の臨床試験の実施の基準に関する省令」、「医薬品（医療機器・再生医療等製品）の製造販売後の調査及び試験の実施の基準に関する省令」、及び神奈川県立がんセンターにおいて実施される治験に必要な手続き等を定めた「神奈川県立がんセンターにおける治験に係る標準的業務手順書」に基づき治験等の受託研究を実施している。

また、「臨床研究法」、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」、及び神奈川県立がんセンターにおいて実施される医学系研究に必要な手続き等を定めた「神奈川県立がんセンターにおける人を対象とする医学系研究に関する取扱い手順書」に基づき医学系研究を実施している。

職員は、医療職のセンター長・副センター長・薬剤師のもと、一般事務２名、非常勤事務９名、CRC（Clinical Research Coordinator）８名、DM（Data Manager）７名の計30名となっている。

⑴　治験審査委員会及び研究倫理審査委員会

第１章第４節所内会議・委員会参照

⑵　CRC業務

治験コーディネーター（CRC）は、治験実施計画を遵守した精度の高い治験を実施するため、医師をはじめ治験に係わる各スタッフに治験について正しく理解してもらうよう説明すること、被験者に対しては人権・福祉を保証し安心して治験に参加してもらえるよう十分なケアを提供するなど治験が適正に実施できるように調整する重要な役割を担っている。

当室は６名常勤・１名契約・１名非常勤のCRCを配置しており、薬剤師４名、看護師３名、臨床検査技師２名となっている。

⑶　DM業務

データマネージャー（DM）は臨床研究の質を確保するため、臨床研究用データベースへのデータ入力やスケジュールの管理など、臨床研究を適正に実施できるように調整する重要な役割を担っている。

⑷　令和２年度 受託研究実施状況

区　　分	新規受託件数（件）		実施件数（症例）		収　入　額（円）	
	２年度	元年度	２年度	元年度	２年度	元年度
治　　験	52	55	337	306	421,869,920	477,415,130
製造販売後臨床試験	2	3	7	7	4,193,609	1,992,201
製造販売後調査	8	9	63	133	1,606,000	3,476,500
副作用報告	5	4	5	10	77,000	170,158
臨床研究	29	27	1,025	403	13,216,334	11,037,080
計	96	98	1,437	859	440,962,863	494,091,069

※実施した52件の治験は、新規抗がん剤を始め第Ⅰ相～第Ⅲ相の臨床試験である。

⑸　令和２年度 臨床試験研究実施状況

科	件	科	件
呼吸器内科	6	乳腺内分泌外科	2
呼吸器外科	3	消化器内科	6
血液腫瘍内科	5	消化器外科	5
がんゲノム診療科	1	臨床研究所	1

※２科以上の共同研究は責任医師所属科による

第13節　生体試料センター

生体試料センターは、センター長１名（臨床研究所長が兼任）、医師１名（臨床研究所がん分子病態学部と兼務）、臨床検査技師３名（うち１名は非常勤）、事務補助・informed consent（IC）業務補助３名（非常勤）の人員構成で、患者への包括的な研究協力へのIC業務と、組織および研究用血液試料の収集、保管・管理業務を主務とし、個別同意で実施される臨床研究での検体収集支援、IC業務支援も業務の一環として積極的に実施した。

初回、初来院患者全員への包括同意IC実現に向け、本年度は消化管内科において医師予約による初診時外来ICを開始し、総IC数は前年度より約300件増加し3,844件となった。外来での研究用採血収集の仕組み構築により、利用価値の高い治療前血液試料の収集が可能となった。

IC数の増加に伴い、令和２年度は、年間血液（血清／ゲノムDNA）2,126件、凍結組織828件を収集し、別途、神奈川県立病院機構・循環器呼吸器病センターより凍結組織30件を受け入れた。また、がんセンターの医師、研究者の研究、或いは外部施設との共同研究に、凍結組織159件、新鮮生組織147件、血清451件、末梢血ゲノムDNA 47件の試料を提供した。新鮮生組織の提供は迅速な処理が必要となるが、他部門と連携しスムーズな検体提供の体制を整えることにより前年比３倍の提供実績となった。この中には、生体試料センターが試料収集・提供の中核を担う文部科学省科学研究費新学術領域研究「学術研究支援基盤形成」の「コホート・生体試料支援プラットフォーム」（http://cohort.umin.jp/）との共同研究分も含まれる。試料を提供した全ての研究課題について、がんセンター研究倫理審査委員会での審査・承認を受けている。

平成27年度から超低温庫管理業務の外部委託を開始し、検体試料の高品質な管理に寄与している。検体の利用頻度が高まり、がんセンター外で管理委託している冷凍庫からの検体試料取出し業務が増加した。

第３章　事 務 局 業 務

第１節　概　　要

事務局は、事務局長、副事務局長のもと総務企画課、財務経営課、医事・診療情報管理課の３課により構成されており、センターの運営の調整、人事給与、施設管理、経理、診療費等の管理等に関する業務を行っている。

第２節　総 務 企 画 課

総務企画課は、常勤職員８名、契約職員４名及び非常勤職員４名、合計16名（令和２年４月１日現在）でセンターの運営に関わる院内、院外との調整、人事・給与、施設管理、中期計画・年度計画等の取りまとめ及び広報業務等を行っている。

図　書　室

１　利用者サービス

⑴　利用時間：24時間
　（司書不在時でもテンキーで入室可）

⑵　主な業務
・資料の貸出、返却
・文献複写
・相互貸借
・文献検索
・レファレンスサービス　等

２　図書館設備・機器

・利用者用パソコン　７台
・電子カルテ（GX）用パソコン　１台
・カラープリンター　１台
・コピー機　１台
・閲覧席　10席
・キャレル席　８席

３　電子リソース

・Up to Date
・メディカルオンライン
・医中誌Web
・最新看護索引Web

図書室資料　利用状況

１．単行本・雑誌購入数：令和２年度予算執行額

単行本購入数	洋書	0冊	0円
	和書	0冊	0円
	計	0冊	0円
雑誌購入数	外国雑誌※	57誌	23,592,951円
	国内雑誌	33誌	1,208,973円
	計	90誌	24,801,924円
図書費合計			24,801,924円

※データーベース等含む

２．蔵書冊数

	令和元年度末	令和２年度増加分	合計
単行本	3,319冊	42冊	3,361冊
製本雑誌	2,058冊	0冊	2,058冊
計	5,377冊	42冊	5,419冊

図書室利用統計

		令和元年度	令和２年度
入室者数（*24時間開室だが、司書在室時間内での数とした）		3,033	3,168
資料利用	貸出冊数	478	705
	返却冊数	463	457
相互貸借	依頼件数	257	204
	受付件数	337	384
データベース	Up to Date	1,159	540
	メディカルオンライン	3,805	4,434
	医中誌Web	7,112	6,385
	最新看護索引Web	76	74

第３節　財務経営課

財務経営課は、常勤職員８名と非常勤職員２名の合計10名（令和２年４月１日現在）であった。

１　主な業務

・予算・決算・監査業務
・経費（委託料、賃借料、修繕費、消耗品費等）の執行
・材料費（薬品、診療材料等）の執行
・医療機器等の資産の購入と管理
・受託研究費、研究研修費の管理と執行
・各研究助成金の管理と執行
・PFI事業の契約及び調整
・出納事務

２　令和２年度の実績

・競争性の確保及び経費の有効活用のため、緊急時以外の薬品購入について、入札を実施するとともに、価格交渉を粘り強く行った。
・材料の購入、医療機器の保守及び修繕について、医師や技師と連携した価格交渉を積極的に行った。

第４節　医事・診療情報管理課

令和元年度に従来の医事課と情報システム管理室、企画調査室のがん登録担当が統合され、医事・診療情報管理課として新たに組織された。令和２年度の職員数は、常勤職員８名（うち診療情報管理士３名）、契約職員２名、非常勤職員９名の合計19名であった。

１　主な業務

・医業収益等の収入調定業務
・未収金対策
・DPC請求及びDPC調査データの作成に係る業務
・院内がん登録
・病歴管理、診療統計に係る業務
・医療情報システムの運用管理・調整
・医師の事務作業補助に係る業務
・その他診療業務全般の調整に関すること

２　令和２年度の実績

・DPCの分析データや医事統計をもとに、診療科毎に医師、管理職及び事務職員でディスカッションを行い、経営改善を図った。
・令和２年度診療報酬改定への対応として、各部門との調整や医事会計システム等の設定及び施設基準の届出を行うとともに、説明会の実施により職員へ周知し、新たに保険収載された医学管理料や処置等の確実な算定に向けて取り組んだ。

３　病歴管理

退院患者の疾病分類（平成７年よりICD-10を使用）、病歴管理情報のデータ入力、診療記録の確認、サマリーの点検、サマリー作成率の集計を行っている。

令和２年の退院患者数は延べ11,689人であった。このうちがん患者は10,313人で88.2％を占める。

４　院内がん登録

院内がん登録は、成人病センターとして発足した昭和38年から登録カードにより開始し、登録の対象は悪性腫瘍と一部の良性・境界悪性の腫瘍を登録している。平成２年より電算化の処理を行っている。

院内がん登録の目的は、病院内の対がん活動の状況を把握しがんの早期発見と治療、予後の向上に役立つことにあり、ひいては地域レベル、国レベルのがん対策や腫瘍登録などの共同研究への参加を容易にして、研究・研修にも役立てることにある。

平成28年より「がん登録等の推進に関する法律」の施行により全国がん登録が開始され、法令により標準登録様式2016年版に準拠した院内がん登録を行っている。

院内におけるがん患者の把握漏れがないように資料の集積と、より正確・迅速な情報の入手と提供を主眼として登録業務を行っている。

昭和38年から医師主導による入院患者を対象とした院内がん登録を行っていたが、平成22年より院内がん登録担当者による全診療科の全がん登録を入院・外来に関わらず開始した。

平成30年の院内がん登録数は4,799件となっており、前年より1.7％増となっている。

昭和38年からの院内がん登録累積数は統計編 表25-⑵に示すとおり93,347件となっている。

主要部位における新登録状況は、統計編 表25-⑴に示すとおりで肺がん676件（14.1％）と最も多く、次いで、乳がんが572件（11.9％）、前立腺がん488件（10.2％）、胃がん（8.9％）、大腸がん406件（8.5％）（結腸239件・直腸167件）、膵臓がん360件（7.5％）の順に多い。

地区別では統計編 表25-⑷に示すとおりで県内全域にわたってはいるが、横浜市内が2,904件で60.5%を占め、そのうち旭区が892件（18.6%）、ついで瀬谷区が353件（7.4%）と周辺地区の患者が多い。県外の患者は317件（6.6%）となっている。

当院への来院経路は、紹介によるものが4,239件で88.3%と最も多く、他疾患経過観察中491件（10.2%）、自主受診64件（1.3%）、剖検・その他・不明５件であり、紹介制が定着している。

症例区分は、初発がんの初回治療または治療継続症例が3,877件（80.8%）、初回治療終了後の紹介が514件（10.7%）であった。

初発がんの登録数は3,515件だった。このうち診断時病期（治療前病期）は０期210件（6.0%）、Ⅰ期1,145件（32.6%）、Ⅱ期486件（13.8 %）、Ⅲ期458件（13.0 %）、Ⅳ期745件（21.2%）、適応外または不明471件（13.4%）であった。

平成11年より登録後５年目および10年目を対象とする予後調査を施行し、平成18年からは登録後３年目についても施行し、登録内容の充実を図っている。予後に関する個人情報の把握は年々困難になってきているが院内の各セクションからの情報・紹介医師や家族からの連絡・外来の通院状況の把握・地域がん登録からの情報等により予後情報が集積されるよう周知を図っている。令和元年は11,102件の予後調査を実施した。受診確認による判明数は7,779件（70.1%）、住民票による照会は3,323件（29.9%）であった。消息不明は255件（前年より63件増）であり、そのうち当院へ申請された居住地に住民票が登録されていないもの、住民票照会不同意が155件（前年より72件増）、住民票交付不可が100件（前年より９件減）であった。予後調査実施内の消息判明率は97.7%であった。

平成30年におけるがん登録死亡判明数は、院内死亡数が699件（前年より2.3％増）、院外死亡数が1,081件（前年よ

り1.2％増)、その内訳としては他施設死亡277件（10.5％減)、自宅死亡335件（24.2％増)、不明及びその他469件（8.3％減）であった。全登録に対する死亡判明率は44.3%であり、その約半数はすでに死亡が判明している。

平成11年よりMicrosoft Accessによる院内がん登録を開始、平成24年11月よりHos-canR puls、平成29年よりHos-canR Nextにシステムを変更した。

がん登録の分類は標準登録様式に準拠し平成16年よりICD-O-3を使用し、平成18年よりがん登録の局在分類にもICD-O-3を使用している。病期分類は平成30年登録はUICCによるTNM悪性腫瘍の分類第８版を使用している。（統計編はICD10に変換 表22～表25参照）

第４章　臨床研究所業務

第１節　概　　要

Ⅰ　はじめに

神奈川県立がんセンター臨床研究所は、がんの総合的な研究を臨床部門との連係のもとに行いがん医療に貢献するとして、昭和61年４月に開設されている。神奈川県立がんセンター及び神奈川県立病院機構の使命である、県内医療水準の向上、県民の健康の確保及び増進に貢献する研究を遂行した。年度を通じてCOVID-19への対応による制約と事業計画の一部変更を余儀なくされたが、概ね通常通りの研究業務を遂行した。

Ⅱ　組織体制と運営

病院との密接な協調・連携のもと、本年度は、がん生物学部、がん分子病態学部、がん治療学部、がん免疫療法研究開発学部、がん予防・情報学部の５研究学部を中心に研究を実施した。学部横断的に課題に取り組む研究ユニットについては、研究員の移動に伴い、患者由来オルガノイド開発ユニットの担当研究業務がが生物学部の研究業務の中心を占めることとなったので、年度初期に発展的に解消した。学部長／ユニット長のもと、常勤の研究員、技官に加えて、ポスドクに相当する特別研究員、特任研究員、外部資金で雇用する多数の研究員、実験助手、事務補助、大学／企業から研究員・研究生を受け入れて精力的に研究業務を進めた。

研究業務は、各研究学部の研究室に加えて、臨床研究所共通部門である、細胞培養室、組織標本作製室、二つの共焦点顕微鏡・蛍光顕微鏡用暗室、次世代シークエンサー、逆相タンパク質アレイ（RPPA）など大型共通機器が設置されている中央機器・共通実験室、動物実験施設と液体窒素保管室などの施設設備を利用して実施した。臨床研究所事務局には４名（常勤１名、非常勤３名）が勤務し、科学研究費補助金、日本医療研究開発機構（AMED）の研究開発費を始めとする外部研究資金の申請･成果報告、管理･監査、研究者登録、などの実務を支援し、外部資金の獲得にも寄与した。また、組換えDNA実験安全委員会、動物実験委員会、RI実験委員会、など研究活動に必要な委員会の遂行を補助した。

対外的な活動は、COVID-19の影響で大きく制限された。本年度の外部講師を招いた臨床研究所セミナーは、参加者を限定して、１回のみ開催するに留まった。また、例年、科学技術週間に合わせて開催している「県民のための公開講演会」を中止した。例年参加している「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」、「中学生・高校生を対象としたかながわサイエンスサマー」は、行事そのものが中止され、結果として、科学教室「がん細胞を見つけ出せ！」を中止した。

臨床研究所の運営は、2019年度に、がんセンター連携研究会議を発展的に解消して設置された、「臨床研究所運営会議」、「病院・臨床研究所共同研究会議」、のもとに円滑に遂行された。臨床研究所運営会議は毎月開催し、議事録を管理者会議に報告した。この他、臨床研究所長が主催する研究所全体会議と主任研究員以上によるスタッフ会議、及び、研究プログレス（研究学部、研究ユニットの研究進捗状況報告会）（原則として月１回)、臨床研究所長と研究学部部長による部長会（原則として週１回）を実施し、円滑な研究業務の遂行に努めた。論文抄読会、詳細な研究データの検討会などは、各研究学部／研究ユニット単位で実施した。

Ⅲ　業務

⑴　各部門の研究概要

１）がん生物学部

がん生物学部では、これまでに有効な治療法が確立されていない難治、希少癌のプレシジョンメディシン実現に向けて、オルガノイドライブラリーを用いた短期間での治療効果予測系の確立と、分子間相互作用のネットワークモデルの構築と数理学的解析を用いた新規治療法開発を行っている。

２）がん分子病態学部

遺伝子変異・発現解析、病理形態学的解析を軸にがん分子診断技術の開発研究を進めると同時に、より効果的な診断法、治療法・治療薬を開発するための新たな分子標的発掘を目指して、がんの虚血低栄養微小環境、脂肪組織とがんの進展、がん患者に合併する血栓塞栓症を標的に、がんセンター内外とも共同して研究を進めた.

３）がん治療学部

遺伝子発現解析、ゲノム解析やタンパク質の解析から標的となる分子を探索し、新たな診断薬、治療薬に関する研究・開発を行っている。また、患者腫瘍を移植したモデルマウスを作製し、研究開発の基盤整備を行っている。

４）がん予防・情報学部

本学部は30年以上にわたり神奈川県のがん登録を担っている。2016年には大規模ゲノムコホート研究「神奈川県みらい未病コホート研究」立ち上げた。これらの疫学・公衆衛生の研究資産を知的基盤としての活用し、神奈川県および神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科と連携して神奈川県の掲げる未病対策やヘルスイノベーションにつながるチャレンジングな取り組みを行っている。

５）がん免疫療法研究開発学部

がん免疫診断･治療に関する基礎研究･トランスレーショナル研究を実施し、得られた研究成果をがんワクチン・免疫センター（免疫療法科）で臨床応用することにより、科学的根拠に基づいた“次世代がん免疫療法”の確立を目指している。

⑵　共同研究

共同研究はセンター病院および外部機関と積極的に行っている。

１）病院との共同研究は臨床各科の医師が主となって研究テーマを提案し、それに研究員が協力する形で行われている。本年度は20課題が選定され研究が実施された。

２）外部研究機関との共同研究は、国内外、産学を問わず積極的に行っている。共同研究先は以下の通りである（順不同）。国立がん研究センター、千葉県立がんセンター、東京大学、東京大学医科学研究所、東北大学、岩手医科大学、金沢大学、大阪大学、東京農工大学、岐阜大学、滋賀医科大学、大阪府立大学、京都府立医科大学、山形大学、帝京大学、札幌医科大学、横浜市立大学、名古屋大学、名古屋市立大学、静岡県立大学、久留米大学、三重大学、愛媛大学、岡山大学、東海大学、聖マリアンナ医科大学、神奈川県立循環器呼吸器病センター、一般社団法人JBCRG（Japan Breast Cancer Research group）、ブライトパスバイオ株式会社、味の素株式会社、大鵬薬品工業株式会社、Abnova Corporation東ソー株式会社、株式会社新日本科学。

⑶　研究成果

当研究所の研究員が関与した英文論文は54編、学会発表数は35題であった。また特許の取得・出願は３件であった。研究内容や成果の詳細は各研究部門の項を参照されたい。

⑷　その他の業務

１）「生体試料センター」の運営

臨床研究所は生体試料センターの運営に中心的役割を果たしている。（詳細は「生体試料センター」の項を参照。）

２）県民の方々への情報発信

県民の方々への情報発信として例年　①４月の科学技術週間における「県民のための公開講演会」の主催、②７月の「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」への参加（ポスターの展示とミニ講演）、③８月の「かながわサイエンスサマー」への参加（中高生を対象とした科学教室）を行ってきたが、本年度はCOVID-19の感染予防の観点からすべて中止となった。

第２節　研　究　業　務

がん生物学部

がん生物学部の研究業務は大きく２つに分類される。

１．患者由来オルガノイドライブラリーの構築（研究材料つくり）

新規治療薬や診断薬は基礎研究の成果であるが、新薬開発の成功率は著しく低いのが現状である。その原因は多種多様であるが、基礎研究で使用している培養細胞株が原因の一つであることが指摘されている。例えば、いくつかの培養細胞株は、臓器の由来が異なること、生体内の性質を遺伝子変異レベルやタンパク質レベルで保持していないことが明らかになっている。特に、分化癌培養細胞株は、分化度が維持されていないことが報告されている。これらの問題点を解決する手法として、我々はオルガノイド培養法の開発と最適化を行い、患者由来オルガノイドライブラリーの構築を行なっている。

２．新規治療法開発のための道具つくり

がん生物学部では、上述の研究材料つくりと並行して、解析手法の開発を行なった。具体的には、当研究部で保有する抗MT1-MMP抗体を用いたADC などの治療薬や診断薬としての実験系の構築やがん－間質相互作用の可視化を目指した実験系の構築を行なった。今後上述のオルガノイドライブラリーや当病院が保有する臨床検体を用いた解析を行なっていく予定である。

がん分子病態学部

がん分子病態学部では、常勤スタッフに外部資金で雇用した研究員、実験助手を加えて、経常研究５課題、企業との共同研究２課題、文科省科学研究費の助成を受けた13課題（５課題で研究代表)、病院・臨床研究所共同研究４課題、を中心に精力的に研究活動を進め、また、計30編の英文論文（共著、in pressを含む）を発表した。また、当センターにおける臨床研究基盤整備の一環として生体試料センター運営の中心としてに尽力すると共に、COVID-19 pandemicに関わる神奈川県の緊急施策に対応し、がん予防情報学部のSARS-CoV2抗体陽性者の市中モニタリング調査を支援した。

研究業務は、がん細胞自体とがん細胞を取り巻く微小環境（Tumor Micro-Environment, TME）の双方を視野に入れた質的ながんの診断や治療の分子標的の探索、がんの本態解明に資する基盤的な研究と、その２つの融合を大きな一つの軸として、経常研究「がん組織における低酸素環境を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発」、「がん骨転移の克服を目指した新規治療法の開発」を進めた。TMEの特徴として知られる低酸素、低栄養の２つのストレス環境が相乗的に働く条件下で、がん細胞に発現が誘導される遺伝子に関する研究では、三大栄養素の一つ脂質を貯蔵する脂肪滴とがん細胞死との関連、がん細胞の上皮間葉転換との関連などに新知見を得た。また、難治性がんである膵臓がんを対象に、低酸素ｘ低栄養で誘導される遺伝子が、膵がん早期診断の血液マーカーとなる可能性を見出して、企業との共同開発研究に着手した。がん骨転移の克服を目指した研究では、骨転移巣に存在する骨髄脂肪の機能を解明するため、マウス骨脂肪髄モデルを確立、骨髄内の脂肪前駆細胞から脂肪細胞の分化誘導法を樹立し、皮下脂肪細胞と比較し分化に関わる遺伝子が異なること、培養上清ががん細胞株の増殖能を変化させることを明らかにした。

TMEが陥る低酸素環境と関連して、腫瘍循環器病学の主たるテーマで、がん患者の予後不良の一因ともなる血栓塞栓症の発症メカニズム解明とその制御に関する研究も、中心的な研究テーマの一つとして取り組んでいる。本年度は、肝胆膵内科と共同し、がん細胞の組織因子（血液凝固第３因子）発現と血栓塞栓症の関連、白血球細胞外トラップNETsとの関連について研究を進めた。また、マイクロパーティクルとしてがん細胞が細胞外にも放出する組織因子の、遺伝子を分子生物学的手法で欠失させた細胞を作製し、免疫不全動物に移植する血栓塞栓発症モデルの実験にも着手した。また、組織因子が起点となる血液凝固経路の抑制因子ホモログに関する企業との共同研究を進め、同因子を卵巣がん腫瘍マーカーとして実用化するために重要な成果を挙げた。

がん分子病態学部は、当センターのがんゲノム診療センター／臨床研究所がん治療学部、病理診断部門、臨床各科と密接に連携し、がんゲノム研究も精力的に進めている。本年度は、予後不良の胎児型肺腺がんのゲノム解析研究で、ゲノム変異シグネチャーの解析から、同がんを、通常肺腺がん型、サーファクタント欠損型に分類する成果を挙げ、論文に報告した。また、肺腺がんの遺伝子パネル検査でも希少なEGFR遺伝子変異を同定して症例報告した。

がん治療学部

先端的がん医療開発・支援ユニット：がんゲノム研究の専門的知識を活かして、がんゲノム医療拠点病院としてエキスパートパネルを週一回開催し、今年度224例を検討した。また、研究面では、現行の遺伝子検査で病的変異を同定できなかった３症例に対して、全ゲノムシークエンスを実施した。さらに、難治性がん、希少がん、小児がんの患者由来がんモデルの整備を行った。

がん分子標的探索ユニット：これまでに悪性中皮腫の高精度診断マーカー・シアル化HEG1を発見し、特異的抗体SKM9-2を開発した。令和２年度は、SKM9-2の定常領域をヒト化した遺伝子を複数構築し、特定済みのエピトープペプチドを用いて抗体の結合性の解析を行い、SKM9-2抗体のヒト化に成功した。さらに、アミノ酸置換により最適な親和性と生化学的安定性をもったヒト化SKM9-2抗体の遺伝子配列の改良を行い、ヒトIgGの各サブクラスの遺伝子に接続して、すべてのサブクラスで生産が可能であることを確認した。培養上清から抗体を精製し、それぞれの親和性をBiacoreにて測定し、in vivoイメージング抗体薬のための医薬品候補配列を決定した。

がん予防・情報学部

本学部は30年以上にわたり神奈川県のがん登録を担っている。2016年には大規模ゲノムコホート研究「神奈川県みらい未病コホート研究」立ち上げた。これらの疫学・公衆衛生の研究資産を知的基盤としての活用し、未病対策やヘルスイノベーションにつながる取り組みを行っている。

特に、ヘルスケア・ニューフロンティア政策および効果的ながん対策を目標に掲げる神奈川県や、次世代のヘルスケア・医療のイノベーター育成を掲げる神奈川県立保健福祉大ヘルスイノベーション研究科と密接に連携して研究活動を進めている。主な研究活動は以下である。

がん登録事業：2020年は2019年の罹患96,780件、死亡小票86,794件を収集した（死亡小票のうち35,306件が該当した)。2021年６月末の総マスタ件数は1,533,792件となった。

がん検診精度管理事業：がん検診の精度（感度・特異度）をがん登録とがん検診のデータをマッチングさせることにより精度管理指標として算出するもの。2019年より横浜市から事業委託された横浜市医師会との共同研究として事業を開始している。システムが完成し、2020年度には最初の主要ながん検診の感度･特異度を横浜市医師会に報告した。

ゲノムコホート研究（神奈川県みらい未病コホート研究）：健康な状態からゲノム情報を含めた網羅的な生活習慣、健診検診データをビックデータ化し、疾患リスクを明らかにして、未病対策（疾病予防）に役立てることが目的。2020年度は藤沢市、南足柄市、県内企業および後述の新型コロナウイルス抗体保有状況調査として横浜市でベースライン調査を実施し1,487人の新規研究協力者を獲得し、3,291人の研究協力者の情報を収集した。

介入コホート研究（ME-BYO and ME-RISEプロジェクト）：ゲノムコホートのプラットフォームを使い、最先端技術を使った、予防医療介入を行い評価し、社会実装につなげる、先進的かつ挑戦的な取り組み。民間企業やアカデミアと連携で2019年から研究を開始している。2020年は「疾患リスク予測モデルを介入指標にした健康介入」、「ヘルスケアロボットを使った介護予防法開発プログラム」の研究を継続して実施した。また、新型コロナウイルス抗体保有状況調査もコホート研究のプラットフォームを活用して実施した。

AIを活用した医療介入システムの開発：拡張知能（Augmented intelligence：AI）の機能の一つであるChatbotを遺伝診療に活用する研究。2020年度は患者を対象とした臨床研究を実施した。

がん免疫療法研究開発学部

科学的根拠に基づいた新規がん免疫療法を確立するため、がん免疫診断・治療に関する基礎研究・トランスレーショナル研究を実施している。本学部の目標は、得られた研究成果をもとに新たなシーズを育成し、がんワクチン・免疫センターで臨床試験（治験）を実施することにより、現時点では治療法のないがん患者に新しいがん免疫療法の提供を可能とすることである。現在、以下の研究プロジェクトに取り組んでいる。

⑴　次世代がん免疫療法の開発

がん免疫療法は“第４の治療法”として注目されているが、今後さらに発展するためには克服すべき問題点も多い。我々は、次世代がん免疫療法として、① 免疫系からは非自己として認識されるために強力な特異的Ｔ細胞反応の誘導が期待できる“がん特異的遺伝子変異”を標的としたがんワクチン療法、② 悪性中皮腫特異抗原を標的としたキメラ抗原受容体遺伝子導入Ｔ（CAR-T）細胞療法、③ 重粒子線照射と免疫療法とを併用した複合免疫療法、などの臨床応用を目指した研究を実施している。

⑵　がん免疫療法バイオマーカーの開発

がん免疫療法の治療効果が得られない原因の一つとして、がん細胞での免疫逃避や担がん患者における免疫抑制などの問題が指摘されている。本研究では、がん患者における免疫抑制メカニズムを詳細に検討するとともに、がん免疫療法の臨床効果を予測するための診断法・バイオマーカーを開発することにより、がん免疫療法の臨床効果改善に寄与することを目指している。

第３節　実験動物施設

実験動物施設は、SPFマウス用飼育室３室、SPF動物用実験室、Conventionalマウス･ラット用飼育室、ウサギ飼育室、Conventional動物用実験室、検疫室、洗浄室、倉庫、床敷処理室、管理室、シャワー室等からなり、総面積317.4㎡の施設である。本施設は「がんセンター動物実験規程」に基づき管理運営されている。実験動物は「動物の愛護及び管理に関する法律」、「実験動物の適正な実施に向けたガイドライン」（日本学術会議）、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」（環境省告示）等を遵守した形で取り扱われている。すべての研究計画は同委員会において審議され、上記の法律、ガイドライン、告示等に従っている計画が承認される。また、遺伝子組換え生物等を取り扱う実験に関しては、事前に当センターの「遺伝子組換え生物等安全委員会」による承認を得ることが申請の必要条件となっている。遺伝子改変動物（トランスジェニックマウス等）や遺伝子組換え培養細胞を移植した動物等は「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（カルタヘナ法）、「研究開発等に係る遺伝子組換え生物等の第二種使用等に当たって執るべき拡散防止措置等を定める省令」を遵守する形で管理、使用されている。また、本施設では国際規格に対応した飼育箱やインビボイメージングシステム「IVIS」を導入し動物愛護に即した飼育環境と低侵襲的な観察および動物数の低減化を実現している。

全施設は年１回の消毒が行われていて、毎月の施設内落下細菌検査により飼育環境の清浄度がチェックされている。また、施設内で飼育されているマウス・ラットの微生物学的モニタリングを年２回実施している。令和２年度は29研究課題が実施され、使用動物総数はマウス2,408匹、ラット０匹（延べ総数）であった。研究のために犠牲となった動物に感謝するとともに、動物愛護の精神を再確認するために、関係者全員の参加による動物慰霊祭を毎年実施している。

第４節　神奈川県悪性新生物登録事業

本事業は、神奈川県下における悪性新生物（がん）の罹患と死亡の情報を収集、整理、解析することにより罹患の現状を把握し、今後におけるがん対策の推進及び医療水準の向上に資することを目的とする。

神奈川県の悪性新生物登録事業（地域がん登録）は全国の中で５番目に早い1970年から開始され、50年もの長い歴史の間に蓄積された腫瘍データは202万件に及ぶ。

全国がん登録の届出状況

2016年１月１日より「がん登録等の推進に関する法律」（以下、法）に基づき始まった全国がん登録では、全ての病院が、原発性のがん罹患情報の届出義務を負う。2020年は、230届出医療機関（病院212、クリニック18）より、96,780件の届出があった（届出対象：2019年診断、暦年集計）。

地域がん登録の継続

神奈川県ではこれまで蓄積されたデータの継続性を鑑み、全国がん登録の26項目に加え、病期「T, N, M,ステージ」情報の提供を求めている。また、死亡票についても引き続き厚生労働省の承認を得て県下各保健所において作成した2019年人口動態調査死亡小票を採録した。

2020年度事業の実施状況

１．情報の収集

悪性新生物登録票の届出件数96,780件、死亡小票の採録件数86,794件、合計183,574件収集した。

２．入力件数

悪性新生物登録票入力件数96,780件、死亡小票入力件数35,306件、合計132,086件入力した。

令和３年６月末の総マスタ件数は1,533,792件である。

３．追跡調査

５年相対生存率を算出するための追跡調査では、2014年診断60,789件（一腫瘍一登録）のうち死亡情報のない32,455名を住民基本台帳ネットワークシステムと照合した。照合できなかった4,044名について県内58市区町村へ公用による住民票照会を実施、さらに県外転出者855名の住民票照会を414市区町村へ実施し予後の把握につとめた。

４．データの利用

データの利用申請は38件（地域がん登録35件、全国がん登録３件）であった。内訳は以下のとおり。

地域がん登録への利用申請　35件
- 届出医療機関からの予後調査依頼　23件
- 研究利用　６件（匿名化情報、継続利用申請含む）
- 行政への提供　６件（５年相対生存率等の統計５件、検診精度管理１件）

全国がん登録への利用申請　３件
- 法第18条（県知事による利用）１件
- 法第20条（病院等への提供）　１件
- 法第21条（研究的利用）１件

５．住所異動確認調査（全国がん登録）

住所異動確認調査とは、国立がん研究センターにおける2018年診断罹患確定へ向けた全国照合において、複数の候補者がいるものの、同一人物と判断しかねる症例について、住所異動の追加の情報を得ることによって同一人物判定を補助するものである。1,728件を県内市区町村56か所へ実施し、回答結果を全国がん登録システムへ入力した。

６．遡り調査（全国がん登録）

遡り調査とは、死亡者情報票で初めて把握されたがんについて、死亡診断書の作成にかかる医療機関または診療所へ遡ってのがん登録届出を求めるものである。国より対象者と調査対象医療機関が通知され（DCN通知）、都道府県がん登録室は対象医療機関へ遡り調査を通知、回答結果を全国がん登録システムに登録する。1,677件を258医療機関へ実施した。全国がん登録が開始され届出が義務となったことから、遡り調査対象件数は減少傾向にある。

７．神奈川県のがんの罹患状況（2017年診断）

2017年の本県のがんの罹患数は、69,698人（男39,251人、女30,447人）であった。そのうち県下医療機関からの届出によって登録されたのは66,081人、死亡票により確認されたものが3,617人であった。がんの部位別割合をみると、男で最も多いのは前立腺、次いで胃、結腸、女は乳房、次に結腸、子宮の順である。2016年と比較すると、男では前立腺、肺の割合が、女では子宮、肺、膵の割合が増加し、男の胃、肝・肝内胆管、女の結腸、胃は減少している。

2013年に診断された者の５年相対生存率は男64.9％、女71.8％であり、2012診断に比べ男女ともに高くなっている。生存率の高い部位は男で前立腺、皮膚、甲状腺、女は皮膚、甲状腺、乳房の順であり、逆に低い部位は男女ともに膵、胆のう・胆管、脳である。

第5章　研 修 ・ 研 究

国内研究（研修）受入

所　　属	研　修　者	受　入　部　署	受　入　期　間
個人	医　　師	乳腺内分泌外科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	乳腺内分泌外科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨床研究所（がん・予防情報学部）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	学　　生	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	婦人科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	東洋医学科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
横浜市立大学医学部	学　　生	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
東洋大学大学院	学　　生	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	研　究　員	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	研　究　員	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
慶応義塾大学大学院薬学部	学　　生	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（大腸）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器内科（肝胆膵）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨床研究所	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼吸器内科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	婦人科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器内科（肝胆膵）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（大腸）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼吸器外科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼吸器内科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
国立がん研究センター	研　究　員	消化器内科（肝胆膵）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
国立がん研究センター	研　究　員	消化器内科（肝胆膵）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
国立がん研究センター	研　究　員	消化器内科（肝胆膵）	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	血液・腫瘍内科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼吸器外科	2020. 4. 1～2021. 3. 31

所　　属	研　修　者	受　入　部　署	受　入　期　間
個人	医　　師	消化器外科（大腸）	2020. 6. 2～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨　床　研　究　所	2020. 6. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	がんゲノム診療科	2020. 6. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	遺　伝　診　療　科	2020. 4. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	病　理　診　断　科	2020. 7. 2～2021. 3. 31
個人	医　　師	臨　床　研　究　所	2020. 8. 11～2020. 9. 30
個人	医　　師	放射線診断・IVR科	2020. 8. 1～2020. 8. 31
個人	医　　師	血　液　内　科	2020. 9. 1～2020. 9. 30
個人	医　　師	I　C　U　科	2020. 9. 1～2020. 9. 30
個人	医　　師	放射線診断・IVR科・麻酔科	2020. 10. 1～2020. 11. 30
個人	医　　師	放射線診断・IVR科・緩和ケア科	2021. 2. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	骨軟部腫瘍外科	2021. 2. 1～2021. 2. 28
個人	医　　師	I　C　U　科	2021. 3. 1～2021. 3. 31
横浜国立大学　工学研究院	研　究　員	物　理　工　学　科	2020. 8. 1～2021. 3. 31
横浜国立大学大学院	研　究　員	物　理　工　学　科	2020. 8. 3～2021. 3. 31
横浜国立大学 研究推進機構	研　究　員	物　理　工　学　科	2020. 8. 3～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器内科（肝胆膵）	2020. 7. 7～2020. 7. 7
東京工業大学生命理工学院	研　究　員	臨　床　研　究　所	2020. 8. 14～2020. 9. 30
個人	医　　師	病　理　診　断　科	2020. 8. 28～2020. 9. 30
個人	医　　師	血　液　内　科	2020. 9. 24～2020. 9. 24
神奈川県立産業技術総合研究所	研　究　員	遺　伝　診　療　科	2020. 9. 3～2021. 3. 31
慶應義塾大学	研　究　員	臨床研究所　がん治療学部	2020. 10. 1～2021. 3. 31
慶應義塾大学	研　究　員	臨床研究所　がん治療学部	2020. 10. 1～2021. 3. 31
慶應義塾大学	研　究　員	臨床研究所　がん治療学部	2020. 10. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	消化器外科（胃食道）	2020. 12. 24～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	2020. 11. 11～2020. 11. 11
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	2020. 11. 11～2020. 11. 11
個人	医　　師	泌　尿　器　科	2020. 11. 13～2021. 3. 26
量子科学技術研究開発機構	研　究　員	放射線診断・IVR科	2020. 12. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	2021. 1. 1～2021. 3. 31
個人	医　　師	呼　吸　器　外　科	2021. 1. 25～2021. 3. 31

実習生受入

所　　属	人　員	受　入　部　署	受　入　期　間
横浜薬科大学	3名	薬　剤　科	2020. 8. 24～2020. 11. 8 2020. 11. 24～2021. 2. 14
北里大学薬学部	3名	薬　剤　科	2020. 8. 24～2020. 11. 8 2020. 11. 24～2021. 2. 14
千葉科学大学薬学部	2名	薬　剤　科	2020. 8. 24～2020. 11. 8
星薬科大学	3名	薬　剤　科	2020. 8. 24～2020. 11. 8 2020. 11. 24～2021. 2. 14
城西国際大学薬学部	1名	薬　剤　科	2020. 11. 24～2021. 2. 14
厚木市立病院	1名	薬　剤　科	2021. 2. 1～2021. 3. 26

（看護局）2020年度　院外からの研究受け入れ状況

所　　属	内　　容	受け入れ部署	対象者	期　間
横浜市立大学 医学研究科看護学専攻 博士前期課程	高齢がん患者の治療選択における看護師の意思決定支援 ―神奈川県内のがん診療連携拠点病院等の看護師を対象とした実態調査―	看　護　局	選定要件を満たす看護師332名	2020年７月１日 ～22日

（看護局）2020年度　看護実習生の受け入れ

所　　属	人　数	日　数	延べ人数	受け入れ期間
神奈川県立よこはま看護専門学校	35	47	298	2020年９月～12月
神奈川県立保健福祉大学	23	54	155	2020年９月～12月
東海大学健康科学部看護学科	9	4	36	2020年10月
慶應義塾大学看護医療学部	18	18	54	2020年10月～12月
関東学院大学看護学科	3	7	21	2020年９月
神奈川県立衛生看護専門学校	18	29	135	2020年９月～12月

（看護局）2020年度　卒後教育実習受入れ

所　　属	目　　的	研修者	人員	日数	延べ人数	受入期間等
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 看護学専攻がん看護専門看護師コース	がん薬物療法を受ける患者の持つ複雑な健康課題を理解するための多角的・包括的なアセスメント能力を養う。また、Evidence-based practice および理論、概念基盤に基づいて患者にとっての最良の状態をもたらすケア実践能力を養う。併せて、がん薬物治療過程におけるがん看護専門看護師の役割、機能について、ほかの専門職との協働を通して探索する。	看護師	1	8	8	2020年９月14日 ～25日
北里大学大学院 看護学研究科	複雑で対応の難しいがん患者や家族の問題をとらえ、苦痛の緩和、療養過程における問題解決や適応を促すために、包括的なアセスメントに基づいた看護を展開する能力を養う。がん患者・家族に対する長期的な支援の観点から療養過程を支援するための援助技術の修得を目指す。	看護師	2	5	10	2020年９月２日 ～13日

（看護局）2020年度　研修･見学受け入れ状況

所　　属	目　　的	研修者	人員	日数	延べ人数	受入期間等
神奈川県立よこはま看護専門学校	ユニフィケーション活動	看護教員	1	16	16	2020年４月１日 ～2021年３月31日

第６章　病院ボランティア会ランパスの活動

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2020年２月20日から活動を休止しており、今年度の活動は行われなかった。

研　　究　　編

第1章　臨　床　研　究　所

第1節　研究課題一覧

科　別	研　究　課　題	研究者名
がん生物学部	1　患者由来オルガノイドライブラリーの構築	星野大輔ほか4名
	2　新規抗体医薬開発	星野大輔ほか4名
	3　がん－間質相互作用の可視化	星野大輔ほか4名
がん分子病態学部	1　がん組織における低酸素環境を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発	小井詰史朗、中村圭靖、宮城洋平（がん分子病態学部）、岸田健（泌尿器科）、加藤久盛（婦人科）、森永聡一郎（消化器外科・肝胆膵）、山下年成（乳腺内分泌外科）、横瀬智之（病理診断科）
	2　がん関連血栓塞栓症を標的とした新規の早期診断マーカー・治療分子標的の開発	小井詰史朗、中村圭靖、宮城洋平（がん分子病態学部）、小林　智、上野　誠、森本　学（肝胆膵内科）、横瀬智之（病理診断科）、加藤久盛（婦人科）、山下年成（乳腺内分泌外科）
	4　転移・再発がんの新規治療法の開発につながる、がん-間質細胞相互作用の検索によるがん進展メカニズムの同定	佐藤慎哉、笠島理加、宮城洋平（がん分子病態学部）、星野大輔（がん生物学部）、廣島幸彦（がん治療学部）、鷲見公太、大久保陽一郎、河内香江、吉岡恵美、横瀬智之（病理診断科）、比留間　徹（骨軟部腫瘍外科）、山下年成（乳腺内分泌外科）、佐藤秀光（脳神経外科）、諸橋智恵（生体試料センター）
	5　分子ネットワーク解析による新規診断マーカー・治療分子標的の発掘－難治性・高悪性度の希少癌である胎児型肺腺癌の治療戦略開発を目指して－	笠島理加（がんゲノム診療センター／がん分子病態学部）、宮城洋平（がん分子病態学部／がん治療学部）、鈴木理樹（病理診断科）、横瀬智之（病理診断科）
	6　卵巣がん、膵がんを対象とするTFPI2の基礎／臨床研究	宮城洋平、小井詰史朗、太田幸秀（がん分子病態学部）、明庭昇平、大竹則久（東ソー株式会社）
	7　膵がん診断開発を指向する低酸素応答反応の研究	宮城洋平、中村圭靖（がん分子病態学部）、竹中克也（株式会社新日本科学）

科　別	研　究　課　題	研究者名
がん治療学部	先端的がん医療開発・支援ユニット： 1　消化器癌（特に膵癌）微小環境における細胞間相互作用の解明 2　小児、AYA世代がん肺転移モデルの樹立とインタラクトーム解析による新規標的分子の探索 3　患者由来腫瘍モデルをベースとした治療開発基盤整備 がん分子標的探索ユニット： 1　新しい中皮腫のがんマーカーの研究	 廣島幸彦ほか１名 廣島幸彦ほか１名 大津　敬 辻　祥太郎
がん予防・情報学部	1　神奈川県地域がん登録データを用いた疫学研究とがん対策への活用 2　がん予防を目的としたゲノムコホート研究の実施 3　がん登録データとがん検診データのリンケージによるがん検診精度管理 4　抗がん剤の費用対効果シミュレーションを活用した安全性評価方法の提案（レギュラトリーサイエンス研究） 5　拡張知能（AI）を活用した効率的な遺伝性腫瘍診療システムの開発 6　神奈川県みらい未病コホート研究における探索的介入研究　（ME-BYO and ME-RISEプロジェクト）	中村　翔、渡邉　要、成松宏人（がん予防・情報学部） 中村　翔、成松宏人（がん予防・情報学部）、羽田恵梨（遺伝診療科）、佐藤　杏（遺伝診療科）、宮城洋平（臨床研究所長）、小井詰史朗（がん分子病態学部）、牧田浩行（足柄上病院） 中村　翔、成松宏人（がん予防・情報学部） 成松宏人（がん予防・情報学部） 成松宏人（がん予防・情報学部）、羽田恵梨（遺伝診療科）、佐藤　杏（遺伝診療科） 中村　翔　齋藤義信　成松宏人（がん予防・情報学部）
がん免疫療法研究開発学部	1　次世代がん免疫療法の開発 2　がん免疫療法バイオマーカーの開発	紅露　拓、五十嵐友香、氷室秀知、川原　守、東島直子、長谷川香子、朝比奈佑希、笹田哲朗（がん免疫）、辻　祥太郎（がん治療）、横瀬智之（病理診断科）、岸田　健ほか５名（泌尿器科）、森永聡一郎ほか4名（消化器外科 肝胆膵）、加藤弘之、吉田大作ほか７名（放射線治療科） 五十嵐友香、氷室秀知、紅露拓、東島直子、折笠亜希子、若月　誠、笹田哲朗（がん免疫）、宮城洋平、横瀬智之（病理診断科）、斎藤春洋ほか６名（呼吸器内科）、岸田　健ほか５名（泌尿器科）、酒井リカほか４名（血液・腫瘍内科）、古川まどかほか４名（頭頸部外科）大島　貴ほか７名（消化器外科 胃食道）

第２節　研　究　業　績

がん生物学部

① 発表論文

1．*Nagano M, *Hoshino D, Toshima J, Seiki M, Koshikawa N (*equally contributed). NH2-terminal fragment of ZF21 protein suppresses tumor invasion via inhibiting the interaction of ZF21 with FAK. Cancer Science, 111(12): 4393-4404, 2020

2．Yoshida T, Suganuma N, Sato S, Toda S, Nakayama H, Masudo K, Okubo Y, Hayashi H, Yokose T, Koshikawa N, Rino Y, Iwasaki H, Miyagi Y, Masuda M, Hoshino D. Membrane type 1 matrix metalloproteinase regulates anaplastic thyroid carcinoma cell growth and invasion into the collagen matrix. Biochem Biophys Res Commun, 529(4): 1195-1200, 2020

3．Kikuchi K, Hoshino D. Sensitization of HT29 colorectal cancer cells to vemrafenib in three-dimensional collagen cultures. Cell Biol Intl, 44(2): 621-629, 2020

② その他出版物

1．室井　敦，星野大輔，清木元治，越川直彦：MT1-MMPのプロテアーゼ活性を通じたがん悪性化進展制御，膜タンパク質工学ハンドブック，Page 300-3006, 2020

がん分子病態学部

① 発表論文

1．Okubo Y, Nukada S, Shibata Y, Osaka K, Yoshioka E, Suzuki M, Washimi K, Kawachi K, Kishida T, Yokose T, Miyagi Y. Primary solitary fibrous tumour of the prostate: A case report and literature review. Malays J Pathol, 42(3): 449-453, 2020

2．Yamada A, Suzuki C, Shima H, Kida K, Adachi S, Yamamoto S, Narui K, Tanabe M, Shimizu D, Taniguchi R, Oshi M, Takabe K, Miyagi Y, Ichikawa Y, Ishikawa T, Endo I. Aldehyde Dehydrogenase 1-related Genes in Triple-negative Breast Cancer Investigated Using Network Analysis. Anticancer Res, 40(12): 6733-6742, 2020

3．Nagashima T, Oshima T, Hiroshima Y, Yokose T, Woo T, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Ito H, Nakayama H. Clinical Significance of Tumour CD44v and MIST1 Expression in Patients With Non-small-cell Lung Cancer. Anticancer Res, 40(11): 6407-6416, 2020

4．Onozawa H, Saito H, Sunami K, Kubo T, Yamamoto N, Kasajima R, Ohtsu T, Hiroshima Y, Kanamori H, Yokose T, Miyagi Y. Lung adenocarcinoma in a patient with a cis EGFR L858R-K860I doublet mutation identified using NGS-based profiling test: Negative diagnosis on initial companion test and successful treatment with osimertinib. Thorac Cancer, 11(12): 3599-3604, 2020

5．Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Res, 40(10): 5815-5821, 2020

6．Miyazaki K, Togo S, Okamoto R, Idiris A, Kumagai H, Miyagi Y. Collective cancer cell invasion in contact with fibroblasts through integrin-$\alpha 5\beta 1$/fibronectin interaction in collagen matrix. Cancer Sci, 111(12): 4381-4392, 2020

7．Muguruma M, Teraoka S, Miyahara K, Ueda A, Asaoka M, Okazaki M, Kawate T, Kuroda M, Miyagi Y, Ishikawa T. Differences in drug sensitivity between two-dimensional and three-dimensional culture systems in triple-negative breast cancer cell lines. Biochem Biophys Res Commun. Biochem Biophys Res Commun, 533(3): 268-274, 2020

8．Oshima T, Yoshikawa T, Miyagi Y, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Yokose T, Hiroshima Y, Aoyama T, Hayashi T, Ogata T, Cho H, Rino Y, Masuda M, Tsuburaya A, Sakamoto J. Biomarker analysis to predict the pathological response to neoadjuvant chemotherapy in locally advanced gastric cancer: An exploratory biomarker study of COMPASS, a randomized phase Ⅱ trial. Oncotarget, 11(30): 2906-2918, 2020

9．Yoshida T, Suganuma N, Sato S, Toda S, Nakayama H, Masudo K, Okubo Y, Hayashi H, Yokose T, Koshikawa N, Rino Y, Iwasaki H, Miyagi Y, Masuda M, Hoshino D. Membrane type 1 matrix metalloproteinase regulates anaplastic thyroid carcinoma cell growth and invasion into the collagen matrix. Biochem Biophys Res Commun 529(4): 1195-1200, 2020

10. Meier A, Nekolla K, Hewitt LC, Earle S, Yoshikawa T, Oshima T, Miyagi Y, Huss R, Schmidt G, Grabsch HI. Hypothesis-free deep survival learning applied to the tumour microenvironment in gastric cancer. J

Pathol Clin Res, 6(4): 273-282, 2020
11. Manabe S, Kasajima R, Murakami S, Miyagi Y, Yokose T, Kondo T, Saito H, Ito H, Kaneko T, Yamada K. Analysis of targeted somatic mutations in pleomorphic carcinoma of the lung using next-generation sequencing technique. Thorac Cancer 11(8): 2262-2269, 2020
12. Katayama K, Ishikawa D, Miyagi Y, Takemiya S, Okamoto N, Ogawa A. Qualitative analysis of cancer telephone consultations: Differences in the counseling needs of Japanese men and women. Patient Educ Couns, S0738-3991(20)30278-0, 2020
13. Nakamura M, Takano A, Thang PM, Tsevegjav B, Zhu M, Yokose T, Yamashita T, Miyagi Y, Daigo Y. Characterization of KIF20A as a prognostic biomarker and therapeutic target for different subtypes of breast cancer. Int J Oncol, 51(1): 277-288, 2020
14. Ikeda S, Kato T, Kenmotsu H, Ogura T, Iwasawa S, Iwasawa T, Kasajima R, Miyagi Y, Misumi T, Yamanaka T, Okamoto H. A phase Ⅱ study of atezolizumab for pretreated advanced/recurrent non-small cell lung cancer with idiopathic interstitial pneumonias: rationale and design for the TORG1936/AMBITIOUS study. Ther Adv Med Oncol, 12: 1758835920922022, 2020
15. Jikuya R, Kishida T, Sakaguchi M, Yokose T, Yasui M, Hashizume A, Tatenuma T, Mizuno N, Muraoka K, Umemoto S, Kawai M, Yoshihara M, Nakamura Y, Miyagi Y, Sasada T. Galectin-9 expression as a poor prognostic factor in patients with renal cell carcinoma. Cancer Immunol Immunother, 69(10): 2041-2051, 2020
16. Nakayama H, Kawachi K, Suganuma N, Yoshida T, Yamashita T, Yamanaka T, Matsubara Y, Kohagura K, Toda S, Nakamura Y, Miyagi Y, Rino Y, Masuda M. EZH2 and MMSET Were Identified as Potentially Useful Therapeutic Targets in Metaplastic Breast Carcinoma. Anticancer Res 40(4): 2133-2139, 2020
17. Samanta S, Tamura S, Dubeau L, Mhawech-Fauceglia P, Miyagi Y, Kato H, Lieberman R, Buckanovich RJ, Lin YG, Neamati N. Clinicopathological significance of endoplasmic reticulum stress proteins in ovarian carcinoma. Sci Rep, 10(1): 2160, 2020
18. Hagiwara A, Nakamura Y, Nishimoto R, Ueno S, Miyagi Y. Induction of tryptophan hydroxylase in the liver of subcutaneous tumor model of prostate cancer. Cancer Sci, 111(4): 1218-1227, 2020
19. Kasajima R, Yamaguchi R, Shimizu E, Tamada Y, Niida A, Tremmel G, Kishida T, Aoki I, Imoto S, Miyano S, Uemura H, Miyagi Y. Variant analysis of prostate cancer in Japanese patients and a new attempt to predict related biological pathways. Oncol Rep, 43(3): 943-952, 2020
20. Okamoto N, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Yamamoto N, Takiguchi N, Nabeya Y, Soda H, Fukasawa S, Kishida T, Shiozawa M, Yoshida A, Shimizu T, Fujimoto S, Ueda M, Inagaki S, Miyagi Y, Nagase H. A Nobel Multivariate Index for Cancer Risk Detection Based On the Serum Trace Elements: Metallo-Balance Method. J Cancer Epidemiol Prev (iMedPub), 5(1): 1-9, 2020
21. Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, Hiroshima Y, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo, 34(1): 461-467, 2020
22. Endo H, Hama N, Baghdadi M, Ishikawa K, Otsuka R, Wada H, Asano H, Endo D, Konno Y, Kato T, Watari H, Tozawa A, Suzuki N, Yokose T, Takano A, Kato H, Miyagi Y, Daigo Y, Seino KI. Interleukin-34 expression in ovarian cancer: a possible correlation with disease progression. Int Immunol, 32(3): 175-186, 2020
23. Suzuki M, Muroi A, Nojima M, Numata A, Takasaki H, Sakai R, Yokose T, Miyagi Y, Koshikawa N. Utility of a Reverse Phase Protein Array to Evaluate Multiple Biomarkers in Diffuse Large B-Cell Lymphoma. Proteomics Clin Appl, 14(1): e1900091, 2020
24. Wong JYY, Zhang H, Hsiung CA, Shiraishi K, Yu K, Matsuo K, Wong MP, Hong YC, Wang J, Seow WJ, Wang Z, Song M, Kim HN, Chang IS, Chatterjee N, Hu W, Wu C, Mitsudomi T, Zheng W, Kim JH, Seow A, Caporaso NE, Shin MH, Chung LP, An SJ, Wang P, Yang Y, Zheng H, Yatabe Y, Zhang XC, Kim YT, Cai Q, Yin Z, Kim YC, Bassig BA, Chang J, Ho JCM, Ji BT, Daigo Y, Ito H, Momozawa Y, Ashikawa K, Kamatani Y, Honda T, Hosgood HD, Sakamoto H, Kunitoh H, Tsuta K, Watanabe SI, Kubo M, Miyagi Y, Nakayama H, Matsumoto S, Tsuboi M, Goto K, Shi J, Song L, Hua X, Takahashi A, Goto A, Minamiya Y, Shimizu K, Tanaka K, Wei F, Matsuda F, Su J, Kim YH, Oh IJ, Song F, Su WC, Chen YM, Chang GC, Chen KY, Huang MS, Chien LH, Xiang YB, Park JY, Kweon SS, Chen CJ, Lee KM, Blechter B, Li H, Gao YT, Qian B, Lu D, Liu J, Jeon HS, Hsiao CF, Sung JS, Tsai YH, Jung YJ, Guo H, Hu Z, Wang WC, Chung CC, Burdett L, Yeager M, Hutchinson A, Berndt SI, Wu W, Pang H, Li Y, Choi JE, Park KH, Sung SW, Liu L, Kang CH, Zhu M, Chen

CH, Yang TY, Xu J, Guan P, Tan W, Wang CL, Hsin M, Sit KY, Ho J, Chen Y, Choi YY, Hung JY, Kim JS, Yoon HI, Lin CC, Park IK, Xu P, Wang Y, He Q, Perng RP, Chen CY, Vermeulen R, Wu J, Lim WY, Chen KC, Li YJ, Li J, Chen H, Yu CJ, Jin L, Chen TY, Jiang SS, Liu J, Yamaji T, Hicks B, Wyatt K, Li SA, Dai J, Ma H, Jin G, Song B, Wang Z, Cheng S, Li X, Ren Y, Cui P, Iwasaki M, Shimazu T, Tsugane S, Zhu J, Chen Y, Yang K, Jiang G, Fei K, Wu G, Lin HC, Chen HL, Fang YH, Tsai FY, Hsieh WS, Yu J, Stevens VL, Laird-Offringa IA, Marconett CN, Rieswijk L, Chao A, Yang PC, Shu XO, Wu T, Wu YL, Lin D, Chen K, Zhou B, Huang YC, Kohno T, Shen H, Chanock SJ, Rothman N, Lan Q. Tuberculosis infection and lung adenocarcinoma: Mendelian randomization and pathway analysis of genome-wide association study data from never-smoking Asian women. Genomics, 112(2): 1223-1232, 2020

25. Sawada Y, Kikugawa T, Iio H, Sakakibara I, Yoshida S, Ikedo A, Yanagihara Y, Saeki N, Győrffy B, Kishida T, Okubo Y, Nakamura Y, **Miyagi Y**, Saika T, Imai Y. GPRC5A facilitates cell proliferation through cell cycle regulation and correlates with bone metastasis in prostate cancer. Int J Cancer, 146(5): 1369-1382, 2020

② 学会等発表

1．河内香江，唐　小燕，**宮城洋平**，**佐藤慎哉**，吉岡恵美，鷲見公太，鈴木理樹，大久保陽一郎，横瀬智之：非典型的な組織形態と臨床経過を呈したlow-grade adenosquamous carcinomaの一例．第109回日本病理学会総会, 4/2020，福岡（Web）

2．**宮城洋平**，**笠島理加**，山口　類，井元清哉，青木一郎，上村博司，清水英悟，宮野　悟：Variant analysis of prostate cancer in the Japanese and prediction of related biological pathways. 第109回日本病理学会総会, 4/2020, 福岡（Web）

3．大久保陽一郎，**宮城洋平**，**佐藤慎哉**，吉岡恵美，鈴木理樹，鷲見公太，河　香江，亀田陽一，横瀬智之：Prognostic factors in patients with prostate cancer：A histopathological study．第109回日本病理学会総会, 4/2020，福岡（Web）

4．鷲見公太，**宮城洋平**，大久保陽一郎，河内香江，吉岡恵美，鈴木理樹，**佐藤慎哉**，横瀬智之：A study for vascular morphology and metastatic potential of Undifferentiated sarcoma．第109回日本病理学会総会, 4/2020, 福岡（Web）

5．**佐藤慎哉**，Alissa Weaver，**宮城洋平**：頭頚部癌由来エクソソームはephrin reverse signalingを介して血管新生を促進する．第109回日本病理学会総会，4/2020，福岡（Web）

6．高野　淳，**宮城洋平**，醍醐弥太郎：肺がんの新規バイオマーカー，治療標的分子候補URST1の解析．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

7．Mbugua Wachuka，高野　淳，シェベグジャブ バャルバット，祝　銘，**宮城洋平**，醍醐弥太郎：乳がんの新規バイオマーカー，治療標的分子URST7の同定．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

8．**佐藤慎哉**, **宮城洋平**：頭頚部癌由来細胞外分泌小胞はEphrin reverse signal活性化により血管新生を亢進する．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

9．**小井詰史朗**，**太田幸秀**，**中村圭靖**，**吉原光代**，**佐藤慎哉**, 横瀬智之，宮城悦子，**宮城洋平**：低酸素CD69発現誘導は卵巣明細胞がん細胞の生存能をインテグリン－フィブロネクチン相互作用依存的に増強させる．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

10. 大島　貴，木村弥生，廣島幸彦，公盛啓介，渡邊勇人，神尾一樹，高橋恒輔，藤川寛人，山田貴允，尾形高士，利野靖，益田宗孝，**宮城洋平**：リキッドバイオプシーを用いた局所進行胃癌における高度リンパ節転移の補助診断法の構築．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

11. 廣島幸彦，**笠島理加**，大津　敬，**宮城洋平**：膵癌早期再発におけるNFAT familyの役割．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

12. 目澤義弘，醍醐弥太郎，高野　淳，**宮城洋平**，横瀬智之，山下年成，丸山玲緒，清宮啓之，折茂　彰：ヒストン脱アセチル化の亢進は癌関連線維芽細胞の新規エピゲノム異常である．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

13. 小山　侑，目澤義弘，伊藤恭彦，小山拓洋，醍醐弥太郎，高野　淳，**宮城洋平**，横瀬智之，山下年成，菅原圭亮，樋野興夫，丸山玲緒，片倉　朗，折茂　彰：乳腺癌関連線維芽細胞においてRUNX3の発現は炎症性サイトカインの発現を抑制することで腫瘍抑制的に働く．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

14. **太田幸秀**, **小井詰史朗**, **佐藤慎哉**, **中村圭靖**, 宮城悦子, **宮城洋平**：Tissue factor pathway inhibitor-2（TFPI-2）は卵巣明細胞癌に特異的な免疫組織化学染色マーカーである．第79回日本癌学会学術総会, 10/2020, 広島（Web）

15. **笠島理加**，鈴木理樹，清水英悟，玉田嘉紀，新井田厚司，山口　類，井元清哉，古川洋一，宮野　悟，横瀬智之，**宮城洋平**：胎児性肺癌における遺伝子ネットワーク解析．第79回日本癌学会学術総会, 10/2020, 広島（Web）

16. 椎名　瞳，尾崎綾栞，多森翔馬，野崎優香，高澤涼子，佐々木和教，石黒　斉，**宮城洋平**，長嶋洋治，田沼靖一，大野茂男，秋本和憲：ステージⅢ-Ⅳ乳癌におけるGLO1-PKCλ共発現患者は予後不良である．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

17. 大津　敬，**笠島理加**，鷲見公太，廣島幸彦，片山琴絵，清水英悟，山口　類，井元清哉，宮野　悟，河村大輔，

石川俊平，横瀬智之，比留間　徹，**宮城洋平**：肉腫患者由来ゼノグラフトのRNA発現解析．第79回日本癌学会学術総会，10/2020，広島（Web）

がん治療学部

① 発表論文

（先端的がん医療開発・支援ユニット）

1．Kobayashi N, Takeda Y, Okubo N, Suzuki A, Tokuhisa M, **Hiroshima Y**, Ichikawa Y. Phase Ⅱ study of temozolomide monotherapy in patients with extrapulmonary neuroendocrine carcinoma. Cancer Sci, 112(5): 1936-1942, 2021

2．Matsuki H, **Hiroshima Y**, Miyake K, Murakami T, Homma Y, Matsuyama R, Morioka D, Kurotaki D, Tamura T, Endo I. Reduction of gender-associated M2-like tumor-associated macrophages in the tumor microenvironment of patients with pancreatic cancer after neoadjuvant chemoradiotherapy. J Hepatobiliary Pancreat Sci, 28(2): 174-182, 2021

3．Murata T, Hozumi C, **Hiroshima Y**, Shimoya K, Hongo A, Inubushi S, Tanino H, Hoffman RM. Co-implantation of Tumor and Extensive Surrounding Tissue Improved the Establishment Rate of Surgical Specimens of Human-Patient Cancer in Nude Mice: Toward the Goal of Universal Individualized Cancer Therapy. In Vivo, 34(6): 3241-3245, 2020

4．Nagashima T, Oshima T, **Hiroshima Y**, Yokose T, Woo T, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Ito H, Nakayama H. Clinical Significance of Tumour CD44v and MIST1 Expression in Patients With Non-small-cell Lung Cancer. Anticancer Res, 40(11): 6407-6416, 2020

5．Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, **Hiroshima Y**, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Res 40(10): 5815-5821, 2020

6．Oshima T, Yoshikawa T, Miyagi Y, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Yokose T, **Hiroshima Y**, Aoyama T, Hayashi T, Ogata T, Cho H, Rino Y, Masuda M, Tsuburaya A, Sakamoto J. Biomarker analysis to predict the pathological response to neoadjuvant chemotherapy in locally advanced gastric cancer: An exploratory biomarker study of COMPASS, a randomized phase Ⅱ trial. Oncotarget, 28; 11(30): 2906-2918, 2020

7．Igarashi K, Kawaguchi K, Murakami T, Miyake K, Kiyuna T, Miyake M, **Hiroshima Y**, Higuchi T, Oshiro H, Nelson SD, Dry SM, Li Y, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Singh SR, Tsuchiya H, Hoffman RM. Patient-derived orthotopic xenograft models of sarcoma. Cancer Lett, 469:332-339, 2020

8．Yazawa K, Nakamura F, Masukawa D, Sato S, **Hiroshima Y**, Yabushita Y, Mori R, Matsuyama R, Kato I, Taniguchi H, Goshima Y, Endo I. Low Incidence of High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia Lesions in a Crmp4 Gene-Deficient Mouse Model of Pancreatic Cancer. Transl Oncol, 13(3): 100746, 2020

9．Onozawa H, Saito H, Sunami K, Kubo T, Yamamoto N, Kasajima R , **Ohtsu T**, **Hiroshima Y**, Kanamori H, Yokose T, Miyagi Y. Lung adenocarcinoma in a patient with a cis EGFR L858R - K860I doublet mutation identified using NGS - based profiling test: Negative diagnosis on initial companion test and successful treatment with Osimertinib. Thoracic Cancer, 11(12): 3599-3604, 2020

10. Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, **Hiroshima Y**, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Cho H, Ito H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo, 34(1): 461-467. 2020

11. **Hiroshima Y**, Kasajima R, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, Yamamoto N, Oshima T, Morinaga S, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, Miyagi Y. Novel targets identified by integrated cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett, 469: 217-227, 2020

（がん分子標的探索ユニット）

1．Moriwaki Y, Kubo N, Watanabe M, Asano S, Shinoda T, Sugino T, Ichikawa D, **Tsuji S**, Kato F, Misawa H: Endogenous neurotoxin-like protein Ly6H inhibits alpha7 nicotinic acetylcholine receptor currents at the plasma membrane. Sci Rep, 10: 11996, 2020

2．Hiroshima K, Wu D, Hamakawa S, Tsuruoka S, Ozaki D, Orikasa H, Hasegawa M, Koh E, Sekine Y, Yonemori Y, Nabeshima K, **Tsuji S**, Miyagi Y, Imai K: HEG1, BAP1, and MTAP are useful in cytologic diagnosis of malignant mesothelioma with effusion. Diagn Cytopathol, 2020: 1–11, 2020

3．Naso JR, **Tsuji S**, Churg A: HEG1 is a highly specific and sensitive marker of epithelioid malignant

mesothelioma. Am J Surg Pathol, 44: 1143-1148, 2020

② その他出版物

1．**廣島幸彦**：がんゲノム医療．Journal of Clinical Rehabilitation 30(7)，2021

③ 学会等発表

1．手塚　瞬，**廣島幸彦**，高橋寛行，小林　智，上野　誠，酒井リカ．Clinical genome sequencing in pancreatic ductal adenocarcinoma．第18回日本臨床腫瘍学会，京都（Web開催），2/2021

2．**廣島幸彦**，笠島理加，**大津　敬**，宮城洋平．NFAT family contributes to early recurrence in pancreatic ductal adenocarcinoma．第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

3．**大津　敬**，笠島理加，鷲見公太，**廣島幸彦**，片山琴絵，清水英悟，山口　類，井元清哉，宮野　悟，河村大輔，石川俊平，横瀬智之，比留間　徹，宮城洋平．肉腫患者由来ゼノグラフトのRNA発現解析．第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

4．**菊地慶司**，**廣島幸彦**，大島　貴．Screening of the genes of which expression correlate with poor outcome in stomach cancer using TCGA data.第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

5．内山　護，菊地慶司，塩澤　学，中村圭靖，吉原光代，宮城洋平，横瀬智之．Correlation between expression of PRSS22 and recurrence after surgical resection of liver metastasis in CRC．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，12/2020

（がん分子標的探索ユニット）

6．**辻　祥太郎**，千葉靖典，久保田智巳：糖ペプチド認識抗体SKM9-2の結合構造解析．第11回グライコバイオロジクス研究会，Web，1/2021

7．金守悠希，森脇康博，今井浩三，**辻　祥太郎**：Evaluation of cytotoxicity of bispecific antibody against mesothelioma．第79回日本癌学会学術総会，Web，10/2020

8．金守悠希，森脇康博，三澤日出巳，今井浩三，**辻　祥太郎**：抗中皮腫効果を有する二重特異性抗体の開発．第40回日本分子腫瘍マーカー研究会，Web，9/2020

④ 特許

・**辻　祥太郎**ほか（出願人：地方独立行政法人神奈川県立病院機構，国立大学法人東京大学）：膜型ムチン様タンパク質の認識とその医療応用．（特願2020-135551：2020年８月11日）（日本国特許第6859498号：2020年３月30日）

がん予防・情報学部

① 発表論文

1．**Narimatsu H**, **Sakaguchi M**, **Nakamura S**, **Katayama K**. Future Patient Incidence in Hemato-Oncology: A Study Using Data from Cancer Registries in Japan. Risk management and healthcare policy, 13:2407-14, 2020

2．**Sugawara Y**, Murakami M, **Narimatsu H**. Use of Social Media by Hospitals and Clinics in Japan: Descriptive Study. JMIR Med Inform, 8(11):e18666, 2020

3．Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Eguchi H, Momozawa Y, Ikezaki H, Murata M, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, **Nakamura S**, **Narimatsu H**, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K. Study profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. J Epidemiol, 2020. Epub 2020/09/24.

4．**Watanabe K**, **Katayama K**, Yoshioka T, **Narimatsu H**. Impact of individual background on the unmet needs of cancer survivors and caregivers - a mixed-methods analysis. BMC Cancer, 20(1): 263, 2020

5．Yasui M, **Sakaguchi M**, Jikuya R, Tsutsumi S, Tatenuma T, Noguchi G, Umemoto S, **Katayama K**, **Narimatsu H**, Uemura H, Kishida T. Comparative effectiveness of surgery and radiotherapy for survival of patients with clinically localized prostate cancer: A population-based coarsened exact matching retrospective cohort study. Oncol Lett, 20(5): 150, 2020

6．Okamura Y, Sugiura T, Ito T, Yamamoto Y, Ashida R, Ohgi K, Sasaki K, **Narimatsu H**, Uesaka K. The prognostic roles of the prognostic nutritional index in patients with intraductal papillary mucinous neoplasm. Sci Rep, 11(1): 568, 2021

7．Sato A, Haneda E, Suganuma N, **Narimatsu H**. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using a Chatbot Augmented Intelligence Genetic Counselor: Development and Feasibility Study. JMIR Form Res, 5(2): e25184, 2021

② 学会等発表

1．羽田恵梨，佐藤　杏，谷島和美，緒方文子，山内桂子，

瀬畑善子，山中隆司，清水　哲，**成松宏人**：がん医療の多職種連携における認定遺伝カウンセラー®の役割．第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会，［オンライン開催］，8/2020

2．佐藤　杏，羽田恵梨，瀬畑善子，菅沼伸康，山下年成，**成松宏人**：当院における遺伝性乳がん卵巣がん症候群の懇話会の取り組み．第28回日本乳癌学会学術総会，［オンライン開催］，10/2020

3．長澤　誠，**中村　翔**，小熊祐子，**齋藤義信**，粕川隆士，**成松宏人**：HAL腰タイプを使用した運動プログラムがフレイル状態にある高齢者の運動self efficacyへの与える影響について．日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会，［オンライン開催］，11/2020

4．中村　翔，齋藤義信，成松宏人：Quality of life関連指標とME-BYO indexとの関連．第31回日本疫学会学術総会，佐賀［オンライン開催］，1/2021

5．**齋藤義信**，小熊祐子，今村晴彦，田島敬之，**中村　翔**，**成松宏人**:フレイルと住民主体のグループ運動との関連:横断研究．第31回日本疫学会学術総会，佐賀［オンライン開催］，1/2021

6．市原青葉，小熊祐子，**齋藤義信**，**成松宏人**，**中村　翔**，粕川　隆：ヘルスケアロボットHALの運動プログラムが身体活動・身体機能に与える影響について．第79回日本公衆衛生学会総会，京都［オンライン開催］，10/2020

7．田中琴音，**中村　翔**，中島　啓，**成松宏人**．低血糖と抑うつ状態の関連第．第31回日本疫学会学術総会，佐賀［オンライン開催］，1/2021

がん免疫療法研究開発学部

① 発表論文

1．Jikuya R, Kishida T, Sakaguchi M, Yokose T, Yasui M, Hashizume A, Tatenuma T, Mizuno N, Muraoka K, Umemoto S, Kawai M, Yoshihara M, Nakamura Y, Miyagi Y, **Sasada T**. Galectin-9 expression as a poor prognostic factor in patients with renal cell carcinoma. Cancer Immunol Immunother, 69(10): 2041-2051, 2020

2．Suekane S, Yutani S, Yamada A, **Sasada T**, Matsueda S, Takamori S, Toh U, Kawano K, Yoshiyama K, Sakamoto S, Sugawara S, Komatsu N, Yamada T, Naito M, Terasaki M, Mine T, Itoh K, Shichijo S, Noguchi M. Identification of biomarkers for personalized peptide vaccination in 2,588 cancer patients. Int J Oncol, 56(6): 1479-1489, 2020

3．Ohkuma R, **Yada E**, Ishikawa S, Komura D, Kubota Y, Hamada K, Horiike A, Ishiguro T, Hirasawa Y, Ariizumi H, Shida M, Watanabe M, Onoue R, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Kobayashi S, Tsunoda T, **Wada S.** High expression levels of polymeric immunoglobulin receptor correlate with chemoresistance and poor prognosis in pancreatic cancer. Oncol Rep, 44(1): 252-262, 2020

4．Noguchi G, Nakaigawa N, Umemoto S, Kobayashi K, Shibata Y, Tsutsumi S, Yasui M, Ohtake S, Suzuki T, Osaka K, Muraoka K, Hasumi H, Kondo K, **Igarashi Y**, **Sasada T**, Kishida T, Yao M. C-reactive protein at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. Cancer Chemother Pharmacol, 86(1): 75-85, 2020

5．Kazama K, **Otake J**, Shiozawa M, Sugano N, Sato S, Atsumi Y, Kano K, Murakawa M, Maezawa Y, Hashimoto I, Numata M, Satoyoshi T, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Sasada T**. Distribution of Regulatory T-Cells and Other Phenotypes of T-Cells in Tumors and Regional Lymph Nodes of Colorectal Cancer Patients. In Vivo. 2020 Mar-Apr; 34(2): 849-856.

6．Uchino Y, Muroya D, Yoshitomi M, Shichijo S, Yamada A, **Sasada T**, Yamada T, Okuda K, Itoh K, Yutani S. Investigation of factors associated with reduced clinical benefits of personalized peptide vaccination for pancreatic cancer. Mol Clin Oncol, 14(2): 39, 2021

7．Ohkuma R, **Yada E**, Ishikawa S, Komura D, Kubota Y, Hamada K, Horiike A, Ishiguro T, Hirasawa Y, Ariizumi H, Shida M, Watanabe M, Onoue R, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Kobayashi S, Tsunoda T, **Wada S**. High levels of human epididymis protein 4 mRNA and protein expression are associated with chemoresistance and a poor prognosis in pancreatic cancer. Int J Oncol, 12; 58(1): 57-69, 2020

8．Nakahara Y, Matsutani T, **Igarashi Y**, Matsuo N, **Himuro H**, Saito H, Yamada K, Murotani K, Hoshino T, Azuma K, **Sasada T**. Clinical significance of peripheral TCR and BCR repertoire diversity in EGFR/ALK wild-type NSCLC treated with anti-PD-1 antibody. Cancer Immunol Immunother, in press, 2021

9．**Igarashi Y**, **Sasada T**. Cancer Vaccines: Toward the Next Breakthrough in Cancer Immunotherapy. J Immunol Res, Volume 2020; Article ID 5825401, 2020

10. **Himuro H**, Kurata S, Nagata S, Sumi A, Tsubaki F, Matsuda A, Fujimoto K, Abe T. Imaging features in patients with SAPHO/CRMO: a pictorial review. Jpn J Radiol, 38(7): 622-629, 2020

② その他出版物

1．**氷室秀知**，**笹田哲朗**．バイオマーカー研究の最前線：腫瘍遺伝子変異量（TMB）とがん免疫応答．腫瘍内科

2020, 26(1)：10-17.

③ 学会等発表

1．長谷川香子，紅露　拓，中村有子，上田宏生，五十嵐友香，東島直子，近岡洋子，辰野健二，中村徳弘，川村猛，油谷浩幸，笹田哲朗：がん組織のペプチドミクス解析によるHLA class I結合ネオアンチゲン同定法の開発．第24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

2．五十嵐友香，中原善朗，松尾規和，東　公一，笹田哲朗：非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤治療前後での末梢血TCR/BCRレパトア解析の有用性．第24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

3．Kouro T, Higashijima N, Tsuji S, Imai K, Sasada T: 4-1BB CAR T cells targeting a novel malignant mesothelioma-specific antigen inhibit growth of mesothelioma cells. 第24回日本がん免疫学会総会, 札幌, 10/2020

4．影山愼一，宮原慶裕，石原幹也，北野滋久，山本　昇，加藤栄史，三嶋秀行，服部浩佳，舩越　建，小島隆嗣，笹田哲朗，岡本幸子，戸村大助，糠谷育衛，蝶野英人，峰野純一，池田裕明，渡辺　隆，珠玖　洋：NY-ESO-1/TCR-T細胞輸注後のサイトカイン放出症候群と輸注細胞の特性解析．第24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

5．Hasegawa K, Kouro T, Igarashi Y, Ueda H, Nakamura N, Aburatani H, Sasada T: Efficient identification of HLA-binding neoepitopes through peptidome analysis with clinical tumor tissues. 第79回日本癌学会学術総会, 広島，10/2020

6．Ohkuma R, Yada E, Ishikawa S, Komura D, Kubota Y, Hamada K, Horiike A, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, Sasada T, Murakami M, Takimoto M, Tsunoda T, Wada S: High expression of human epididymis protein 4 correlates with chemoresistance and poor prognosis for pancreatic cancer. 第79回日本癌学会学術総会, 広島, 10/2020

④ 特許

・成立：日本 特許番号：6792823
発明者：笹田哲朗，伊東恭悟，本山　悟
発明の名称：がん免疫療法の治療効果予測に有用な遺伝子多型
出願人：久留米大学，秋田大学
登録日：2020. 11. 11

・日本出願　国際出願番号：PCT/JP2018/045465
発明者：笹田哲朗，東　公一，松尾規和，星野友昭
発明の名称：がん免疫療法の予後予測のためのバイオマーカー
出願人：地方独立行政法人神奈川県立病院機構，久留米大学
出願日：2020. 6. 5

第３節　臨床研究所・病院共同研究一覧

	研　　究　　課　　題	研 究 者 名
共同１	甲状腺癌オルガノイドを用いた新規治療標的の同定とプレシジョンメディシンの確立	岩崎博幸（乳腺内分泌外科）ほか４名
共同２	膵癌PDXの遺伝子発現解析を用いた膵癌治療標的分子の同定	上岡祐人（消化器外科）ほか４名
共同３	腹腔内洗浄液中のmicroRNA解析による胃癌再発予測マーカーの検索	渡邊勇人（消化器外科）ほか８名
共同４	前立腺がん組織検体の品質向上およびがんゲノム解析に向けた基盤構築	大久保陽一郎（病理診断科）ほか６名
共同５	薬物療法の治療効果予測を目指したがん細胞シグナル伝達活性化の組織上解析	山中隆司（乳腺内分泌外科）ほか６名
共同６	重粒子線による免疫原性細胞死の検討	加藤弘之（放射線治療科・粒子線）ほか９名
共同７	ペンシルビームスキャニング法とワブラー法における重粒子線治療のRBEの比較	塚原愛海（放射線治療技術科）ほか５名
共同８	健常者と膵臓がん患者血液中における好中球細胞外トラップ量と血栓塞栓症発症リスクとの関連解析	小林　智（消化器内科・肝胆膵）ほか５名
共同９	がん性髄膜炎における免疫チェックポイント阻害薬の抗腫瘍効果およびその機序の解明	大島聡人（脳神経外科）ほか４名
共同10	急性GVHDのT細胞免疫反応を基盤とした診断・予後予測バイオマーカーの解析	宮崎拓也（血液内科）ほか４名
共同11	新たな尿路上皮癌のバイオマーカーの検索と臨床有用性の検討	小泉充之（泌尿器科）ほか７名
共同12	脂肪腫と高分化型脂肪肉腫の細胞診標本による鑑別診断の試み	杉山加奈（検査科）ほか10名
共同13	原発不明がんの原発巣同定、治療方針決定における遺伝子解析の役割	高橋寛行（腫瘍内科）ほか６名
共同14	尿路上皮癌の免疫チェックポイント阻害剤治療におけるirAEおよび治療奏効を予測しうるバイオマーカーの研究	柴田洋佑（泌尿器科）ほか８名
共同15	限局型小細胞肺癌における化学放射線療法が免疫チェックポイント分子におよぼす影響	中原善朗（呼吸器内科）ほか８名
共同16	甲状腺未分化癌の腫瘍内不均一性に注目した薬剤感受性評価	戸田宗治（乳腺内分泌外科）ほか２名
共同17	大腸癌におけるALK遺伝子変異の解析	額田　卓（消化器外科・大腸）ほか８名
共同18	胃癌腹膜播種の免疫学的メカニズムの解明	公盛啓介（消化器外科・胃食道）ほか10名
共同19	CLDN18-ARHGAP fusionを有する胃癌における臨床病理学的検討	金田義弘（消化器内科・消化管）ほか６名
共同20	後発リンパ節転移ならびに遠隔転移をきたした早期舌癌に対するゲノム解析	橋本香里（頭頸部外科）ほか３名

第４節　その他の学術講演

氏　名	題　　名	会　　合　　名	年月日	形式
〈がん分子病態学部〉 宮城洋平	前立腺がんゲノム変異とprecision medicine に向けた検体取り扱い	全国病理Scientific Meeting 2020，Web	2020年10月	講演
宮城洋平	小児がん肺転移PDXモデルの樹立とがん細胞間質相互作用解析―肺転移に対する新規治療開発を目指して―	患者由来がんモデル講演会2020（国立がん研究センター，Web）	2020年10月	講演
〈がん治療学部〉 廣島幸彦	膵癌間質プロテオミクスデータを用いた統合インタラクトーム解析	患者由来がんモデル講演会　東京	2020年10月	講演
廣島幸彦	膵癌間質プロテオミクスデータを用いた統合インタラクトーム解析	共同利用･共同研究拠点「マルチオミックスによる遺伝子発現制御の先端的医学共同研究拠点」研究報告会　横浜	2020年11月	講演
〈がん予防・情報学部〉 中村　翔	生活習慣とDNAの関係性を解き明かす「神奈川県みらい未病コホート研究」の取組み	ME-BYO Japan 2020 来場者向けセミナー	2020年10月	講演
〈がん免疫療法研究開発学部〉 笹田哲朗	がん免疫療法update ―基礎・TRの観点から	乳癌メディカルセミナー　横浜（WEB）	2021年３月３日	講演

第５節　公的研究費による研究一覧

１　厚生労働省・文部科学省

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究
課　　題　　名：EMT を介した生体組織構築と破綻の数理モデル（2020－2021年）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：甲状腺未分化癌患者由来オルガノイドによる新規薬剤感受性予測とバイオマーカーの確立（2020－2021年）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：甲状腺未分化癌におけるエピジェネティクスをターゲットとした治療戦略（2020－2021年）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：癌の骨転移に骨髄脂肪細胞から分泌されるホルモン・エクソソームが果たす役割の解明（2020−2022年）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：バイオバンクの効率的な利用に向けた品質予測法の開発（2020－2022年度）
研究代表者名(所属)：室井 敦（がん分子病態学部）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：低酸素かつ栄養飢餓の微小環境で発現誘導される膵癌早期診断マーカーの開発（2020－2022年度）
研究代表者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：PDXとCDK4阻害剤を用いた脱分化型脂肪肉腫の治療戦略の確立（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）、笠島理加（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：甲状腺未分化癌患者由来オルガノイドによる新規薬剤感受性予測とバイオマーカーの確立
（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：異所発現性血液凝固第７因子の癌の静脈血栓塞栓症、悪性化への役割の解明（2018－2020年度）
代表：小井詰史朗、分担：宮城洋平

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：甲状腺未分化癌におけるエピジェネティクスをターゲットとした治療戦略（2018－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：腫瘍由来のエリスロポエチンが子宮筋腫を巨大に増大させる機序の解明と臨床的応用（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：エリスロポエチンの子宮筋腫に対する増大効果をターゲットとした分子標的療法の開発
（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：癌の骨転移に骨髄脂肪細胞から分泌されるホルモン・エクソソームが果たす役割の解明
（2020－2022年度）
研究代表者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域「学術研究支援基盤形成」
課　　題　　名：コホート・生体試料支援プラットフォーム（2016－2021年度）
研究分担者名（所属）：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：がん微小環境情報を考慮したがんゲノム解析モデルの開発（2020－2022年度）
研究代表者名(所属)：笠島理加（がん分子病態学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究
課　　題　　名：アルギナーゼの活性化を介した大腸がん肝転移における新規制御機構の解明（2020－2021年度）
研究代表者名(所属)：項　慧慧（がん分子病態学部）

科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：低酸素かつ栄養飢餓の微小環境で発現誘導される膵癌早期診断マーカーの開発（2020－2022年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：がん微小環境情報を考慮したがんゲノム解析モデルの開発（2020－2022年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：膵癌微小環境におけるTGFβシグナリングの制御と腫瘍免疫との関連（2019－2021年度）
研究代表者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：膵癌における癌局所免疫が果たす役割の解明（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：廣島幸彦（がん治療学部）

科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：PDXとCDK4阻害剤を用いた脱分化型脂肪肉腫の治療戦略の確立（2019－2021年度）
研究分担者名(所属)：大津　敬（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：腫瘍血管の分子標的・シアル化HEG1の分子性状解析.（2019－2021年度）
研究代表者名(所属)：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：重症筋無力症に対する二重特異性抗体薬を用いた根治治療法の開発.（2020－2022年度）
研 究 分 担 者 名：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：データ包絡分析法を活用した個別化予防医療の開発（2017－2020年度）
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：片山佳代子（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・新学術領域「学術研究支援基盤形成」
課　　題　　名：コホート・生体試料支援プラットフォーム（2016－2021年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：厚生労働省科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
課　　題　　名：全国がん登録とがん検診のリンケージによるがん検診勧奨（2018－2020年度）
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）
研究分担者名(所属)：片山佳代子、中村翔、阪口昌彦（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（B）
課　　題　　名：進行膵癌に対するがん化学療法の費用対効果に関する検討　（赤沢学）（2019－2024年度）
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・基盤研究（C）
課　　題　　名：免疫チェックポイント阻害剤の汎用性向上の為の異所性リンパ濾胞誘導法の確立（2019－2021年度）
研究代表者名(所属)：五十嵐友香（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究
課　　題　　名：放射線誘発HIF依存microbiome変化による転移抑制とabscopal効果（2020－2022年度）
研究代表者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B）
課　　題　名：IL-22BP依存性制御性Ｂ細胞がアブスコパル効果に及ぼす影響の検討（2016－2020年度）
研究代表者名(所属)：氷室秀知（がん免疫療法研究開発学部）

２　日本医療研究開発機構

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：イメージング活用創薬の視点からの異分野技術融合によるシームレスな薬効評価システムの構築と実施（2016－2021年）
研究分担者名(所属)：星野大輔（がん生物学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
課　　題　名：アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発（2019－2023年度）
研究分担者名(所属)：宮城洋平（がん分子病態学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代がん医療創生研究事業標的探索研究タイプ領域D
課　　題　名：Liquid biopsyによる腫瘍特異的蛋白質分解断片をバイオマーカーとした早期膵癌診断法の開発（2020－2021年度）
研究分担者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発（2019－2021年度）
代研究分担者名(所属)：大津　敬（がん治療学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業（糖鎖創薬）
課　　題　名：新しい糖鎖創薬の標的・HEG1に対する抗体医薬の開発.（2018－2020年度）
研 究 代 表 者 名：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発.（2016－2021年度）
研 究 分 担 者 名：辻　祥太郎（がん治療学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
課　　題　名：アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発（2019－2023年度）
研究代表者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構・次世代がん医療創生研究事業
課　　題　名：新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発（2016－2021年度）
研究分担者名(所属)：笹田哲朗（がん免疫療法研究開発学部）

３　その他

研　究　費　名：公益財団法人金原一郎記念医学医療振興財団　第 34 回研究交流助成金
研究代表者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研　究　費　名：公益財団法人武田科学振興財団・令和２年度医学系研究助成
研究代表者名(所属)：佐藤慎哉（がん分子病態学部）

研　究　費　名：中外製薬
課　　題　名：がん予防・疫学および骨・間接領域における研究活動
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：タケダリサーチサポート
課　　題　　名：高血圧、糖尿病、脂質異常症の新規予防法および治療法開発を目的としたゲノムホート研究
：神奈川県みらい未病コホート研究
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：文部科学省　地域イノベーション・エコシステム形成プログラム　神奈川発「ヘルスケア・ニューフロンティア」先導プロジェクト
課　　題　　名：ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成　ゲノムコホートデータを活用したイノベーション基盤の形成
研究分担者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：地方独立行政法人 神奈川県立産業技術総合研究所 令和２年度先進異分野融合プロジェクト研究立案・推進事業
課　　題　　名：ゲノムコホートを活用したCOVID-19に関する市中モニタリングと対策研究基盤知見などの創出
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

研　究　費　名：神奈川県
課　　題　　名：未病指標の精緻化等に関する実証事業
研究代表者名(所属)：成松宏人（がん予防・情報学部）

第６節　臨床研究所セミナー

第１回
演　　題：これからの病理のか・た・ち
演　　者：藤井誠志（横浜市立大学大学院医学研究科・医学部 分子病理学 主任教授）
開催年月日：2020年11月20日㈮

第７節　県民のための公開行事

①４月の科学技術週間における「県民のための公開講演会」の開催、②７月の「かながわ発・中高生のためのサイエンスフェア」への参加（ポスターの展示とミニ講演）、③８月の「かながわサイエンスサマー」への参加（中高生を対象とした科学教室「がん細胞を探し出せ！」）は、本年度はCOVID-19の感染予防の観点からすべて中止となった。

第２章　病　　院

第１節　研究課題一覧

科　別	研　究　課　題	研究者名
呼吸器内科	1　腫瘍の完全切除術後補助化学療法を受けている／受けていない上皮成長因子受容体変異を有するステージＩＢ-ⅢＡ期非小細胞肺癌患者を対象にプラセボと比較してAZD9291の有効性及び安全性を比較検討する第Ⅲ相二重盲検無作為化プラセボ対照多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 2　ALK陽性進行非小細胞肺癌患者を対象に、１次治療としてLORLATINIB（PF-06463922）単剤療法とクリゾチニブ単剤療法を比較する第３相，無作為化，非盲検試験（ファイザー株式会社依頼の企業治験） 3　上皮成長因子受容体チロシンキナーゼ阻害剤による一次治療が無効であった上皮成長因子受容体遺伝子変異陽性かつT790M陰性のステージⅣ又は再発非小細胞肺癌患者を対象とした、ニボルマブ（BMS-936558）とペメトレキセド／プラチナ製剤又はニボルマブとイピリムマブ（BMS-734016）の併用療法をペメトレキセドとプラチナ製剤の併用療法と比較するランダム化オープンラベル試験（ブリストル・マイヤーズ　スクイブ株式会社依頼の企業治験） 4　早期NSCLC患者を対象にニボルマブ及びイピリムマブあるいはニボルマブ及びプラチナダブレットによる化学療法とプラチナダブレットによる化学療法を比較するランダム化オープンラベル第Ⅲ相試験（ブリストル・マイヤーズ　スクイブ株式会社依頼の企業治験） 5　進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象に、MK-3475をエトポシド及びシスプラチン又はカルボプラチンと併用投与する無作為化二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 6　白金製剤を含む初回化学療法中又は終了後に最初の病勢進行が認められたDLL3高発現の進行又は転移性小細胞肺癌（SCLC）患者を対象にrovalpituzumab tesirineとtopotecanを比較する無作為化，非盲検，多施設共同，第Ⅲ相臨床試験（アッヴィ合同会社依頼の企業治験） 7　進展型小細胞肺癌患者を対象に，白金製剤を含む一次化学療法後の維持療法としてrovalpituzumab tesirineを投与する無作為化，二重盲検，プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験（アッヴィ合同会社依頼の企業治験） 8　PD-L1高発現の転移性非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたMK-3475及びINCB024360の併用療法とMK-3475及びプラセボの併用療法を比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 9　治療薬を検討可能な体細胞遺伝子変異が血液検体より検出された，進行又は転移性の非小細胞肺癌患者を対象とした様々な標的療法薬の有効性及び安全性を評価する第Ⅱ/Ⅲ相多施設共同試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 10　ⅡＢ期又はⅢＡ期の切除可能非小細胞肺癌患者を対象とした術前補助療法／術後補助療法としてMK-3475併用又は非併用のプラチナ製剤併用化学療法を比較する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 11　日本人進行癌患者を対象としてREGN2810（抗PD-1抗体）の安全性	

科　別	研　究　課　題	研究者名
	及び薬物動態を検討する第１相試験（パレクセル・インターナショナル株式会社依頼の企業治験） 12　TKI抵抗性EGFR遺伝子変異陽性の転移性非小細胞肺癌（非扁平上皮癌）患者を対象としたペメトレキセド及びプラチナ製剤にMK-3475又はプラセボを併用投与する二重盲検、無作為化、第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 13　ＩＢ（腫瘍径４cm以上）～ⅢA期の未分化リンパ腫キナーゼ（ALK）陽性非小細胞肺癌の完全切除患者を対象に，術後補助療法におけるアレクチニブとプラチナ製剤併用化学療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 14　ステージⅣの非小細胞肺癌（NSCLC）を対象とした、一次治療としてのニボルマブ＋イピリムマブと化学療法との併用療法を、化学療法単独と比較する第Ⅲ相ランダム化試験（ブリストル・マイヤーズ　スクイブ株式会社依頼の企業治験） 15　治療歴を有するc-Met陽性非小細胞肺癌患者を対象としてTelisotuzumab Vedotin（ABBV-399）の安全性及び有効性を検討する第Ⅱ相非盲検試験（アッヴィ合同会社依頼の企業治験） 16　白金製剤を含む根治的化学放射線療法後に病勢進行が認められていない局所進行切除不能EGFR変異陽性非小細胞肺癌（ステージⅢ）患者を対象とした、維持療法としてのオシメルチニブの第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 17　高度催吐性抗悪性腫瘍薬（シスプラチン）投与患者を対象としたPro-NETU第Ⅲ相二重盲検比較試験（大鵬薬品工業株式会社依頼の企業治験） 18　PD-L1陽性［Tumor Proportion Score（TPS）≥１％］の転移性非小細胞肺癌の未治療患者を対象にレンバチニブ（E7080/MK-7902）の併用又は非併用下でペムブロリズマブ（MK-3475）を投与する無作為化二重盲検第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 19　局所進行又は転移性の非扁平上皮／扁平上皮型非小細胞肺癌患者を対象に，一次治療としてのペムブロリズマブとプラチナダブレット化学療法にカナキヌマブを併用投与し有効性および安全性をプラセボ併用投与と比較し評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，第Ⅲ相試験（CANOPY-1）比較試験（ノバルティス ファーマ株式会社依頼の企業治験） 20　PD-（L）1阻害薬及び白金製剤をベースとする化学療法による治療歴のある非小細胞肺癌（NSCLC）患者を対象に，ドセタキセルとカナキヌマブの併用投与の有効性及び安全性をドセタキセルとプラセボの併用投与と比較し評価するランダム化，二重盲検，プラセボ対照，第Ⅲ相試験（ノバルティス ファーマ株式会社依頼の企業治験） 21　ONO-7643 第Ⅲ相試験　がん悪液質を対象とした多施設共同非盲検非対照試験（小野薬品工業株式会社依頼の企業治験） 22　転移性非扁平上皮非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ＋ペメトレキセド＋プラチナ製剤（カルボプラチン又はシスプラチン）併用投与後のペムブロリズマブ+オラパリブ維持療法とペムブロリズマブ＋ペメトレキセド維持療法を比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	

科　別	研　究　課　題	研究者名
	23　転移性扁平上皮非小細胞肺癌の未治療患者を対象としたペムブロリズマブ＋カルボプラチン／タキサン（パクリタキセル又はnab-パクリタキセル）併用投与後のペムブロリズマブ＋オラパリブ維持療法併用投与とペムブロリズマブ単独投与を比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 24　切除不能なステージⅢ非小細胞肺癌患者を対象に、M7824及び化学放射線同時併用療法を使用後にM7824を投与した場合と化学放射線同時併用療法及びプラセボを使用後にデュルバルマブを投与した場合を比較する多施設共同、二重盲検、無作為化、比較対照試験（メルクバイオファーマ株式会社依頼の企業治験） 25　完全切除、病理病期Ⅱ-ⅢA期のEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がんに対するプラチナ併用療法+アテゾリズマブ術後補助化学療法の有効性および安全性を探索する多施設共同第Ⅱ相試験（医師主導治験） 26　KRAS p.G12C 変異を有する進行固形癌患者を対象としたAMG510単独投与、及びKRAS p.G12C変異を有する進行NSCLC患者を対象としたAMG510併用投与の安全性、忍容性、薬物動態、薬力学及び有効性を評価する第Ⅰ/Ⅱ相非盲検試験（アステラス・アムジェン・バイオファーマ株式会社依頼の企業治験） 27　活性型EGFR変異に対して過去の第一世代から第三世代EGFRチロシンキナーゼ阻害薬による前治療への獲得耐性を有するMET増幅、進行性又は転移性非小細胞肺癌（NSCLC）を対象としたテポチニブとオシメルチニブの併用療法を検討する第Ⅱ相単群試験（メルクバイオファーマ株式会社依頼の企業治験） 28　オシメルチニブ投与後病勢進行したEGFRm＋及びMET＋局所進行又は転移性非小細胞肺癌患者を対象にオシメルチニブとAZD6094を併用した際の有効性を検討する第Ⅱ相単群試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 29　未治療の進行悪性胸膜中皮腫患者を対象にMK-3475（ペムブロリズマブ）とシスプラチン及びペメトレキセドを併用投与した際の安全性及び有効性を評価する第Ⅰｂ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験） 30　前治療歴がありCEACAM5陽性腫瘍を有する転移性非扁平上皮非小細胞肺癌患者を対象にSAR408701をドセタキセルと比較する、ランダム化、非盲検、第Ⅲ相試験（サノフィ株式会社依頼の企業治験） 31　進展型小細胞肺癌の未治療患者を対象にベバシズマブ＋アテゾリズマブ＋カルボプラチン又はシスプラチン＋エトポシドの併用とプラセボ＋アテゾリズマブ＋カルボプラチン又はシスプラチン＋エトポシドの併用を比較する第Ⅲ相二重盲検ランダム化試験（中外製薬株式会社依頼の企業治験） 32　他の治験でデュルバルマブの投与を受けている又は投与歴のある患者を対象に長期の安全性及び有効性を評価する、非盲検、多施設、国際共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験） 33　アレクチニブ又はセリチニブによる治療中に進行したALK融合遺伝子陽性（ALK+）進行期非小細胞肺癌（NSCLC）患者に対するBrigatinibの国際共同第２相試験（武田薬品工業株式会社依頼の企業治験） 34　切除可能なⅡ～ⅢＢ期の非小細胞肺癌患者を対象に、術前補助療法として化学療法及びニボルマブ又はプラセボ投与後、外科的切除を施	

科　別	研　究　課　題	研究者名
	行後に術後補助療法としてニボルマブ又はプラセボを比較するランダム化二重盲検第Ⅲ相試験（ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社依頼の企業治験）	
	35　進行又は転移性RET融合遺伝子陽性非小細胞肺癌の初回治療としてselpercatinibをペムブロリズマブ併用あり／なしの白金製剤及びペメトレキセド療法と比較する多施設共同・無作為化・非盲検第Ⅲ相試験（日本イーライリリー株式会社依頼の企業治験）	
	36　日本人非小細胞肺癌患者を対象とした経口EGFR/HER2阻害薬TAK-788の第１/２相試験（武田薬品工業株式会社依頼の企業治験）	
	37　非切除ステージⅠ/Ⅱリンパ節転移陰性　非小細胞肺癌患者の治療として、体幹部定位放射線治療（SBRT）とデュルバルマブを併用する第Ⅲ相無作為化プラセボ対照二重盲検国際多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験）	
	38　完全切除を行ったⅡ～Ⅲ期のNSCLC患者において術後補助療法としてデュルバルマブを白金製剤を含む化学療法と併用した場合の有効性を検討する第Ⅲ相無作為化プラセボ対照二重盲検多施設共同試験（アストラゼネカ株式会社依頼の企業治験）	
	39　KRAS p.G12C変異を有する既治療の局所進行切除不能又は転移性NSCLC患者を対象としてAMG510をドセタキセルと比較する第Ⅲ相、多施設共同、ランダム化、非盲検、実薬対照試験（アムジェン株式会社依頼の企業治験）	
	40　切除不能な局所進行Ⅲ期非小細胞肺癌患者を対象にペムブロリズマブ（MK-3475）併用同時化学放射線療法後のペムブロリズマブとオラパリブの併用療法又はペムブロリズマブ単独療法を同時化学放射線療法後のデュルバルマブ単独療法と比較する第Ⅲ相試験（MSD株式会社依頼の企業治験）	
	41　高悪性度神経内分泌肺癌完全切除例に対するイリノテカン+シスプラチン療法とエトポシド+シスプラチン療法のランダム化比較試験（JCOG1205/JCOG1206）	加藤　晃史ほか１名
	42　高齢者進展型小細胞肺がんに対するカルボプラチン+エトポシド併用療法（CE療法）とカルボプラチン＋イリノテカン併用療法（CI療法）のランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験（JCOG1201）	加藤　晃史ほか１名
	43　EGFR遺伝子変異陽性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するゲフィチニブまたはオシメルチニブ単剤療法とゲフィチニブまたはオシメルチニブにシスプラチン+ペメトレキセドを途中挿入する治療とのランダム化比較試験（JCOG1404/WJOG8214Ｌ）	加藤　晃史ほか５名
	44　非小細胞肺癌に対するPD-1経路阻害薬の継続と休止に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1701）	加藤　晃史ほか５名
	45　高齢者切除不能局所進行非小細胞肺癌に対する低用量カルボプラチンを用いた化学放射線療法とカルボプラチン＋アルブミン結合パクリタキセルを用いた化学放射線療法を比較するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1914）	村上　修司ほか５名
	46　ドライバー遺伝子陰性・不明の未治療進行非小細胞肺癌に対するプラチナ製剤併用化学療法＋ペムブロリズマブとプラチナ製剤併用化学療法＋ニボルマブ＋イピリムマブのランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG2007）	村上　修司ほか５名
	47　JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク	加藤　晃史ほか５名

科　別	研　究　課　題	研究者名
	48　Cell free DNA を用いた次世代シーケンサーによる multiplex 遺伝子解析の有効性に関する前向き観察研究（LC-SCRUM-Liquid）	加藤　晃史ほか５名
	49　アジア人の非小細胞肺癌における個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究（LC-SCRUM-Asia）	加藤　晃史ほか５名
	50　非小細胞肺癌患者における薬物治療耐性後の個別化医療の確立を目指した、遺伝子スクリーニングとモニタリングのための多施設共同前向き観察研究（LC-SURUM-TRY）	加藤　晃史ほか５名
	51　PI3K/AKT/mTOR経路の遺伝子変異を含む稀な遺伝子異常を 有する小細胞肺癌の臨床病理学的、分子生物学的特徴を明らかにするための前向き観察研究（LC-SURUM-SMALL）	加藤　晃史ほか５名
	52　EGFR-TKIに不応となったT790M陽性、進行・再発肺腺癌を対象とした オシメルチニブ＋ベバシズマブの第Ⅰ相試験と、オシメルチニブ単剤との無作為化第Ⅱ相試験（WJOG8715L）	加藤　晃史ほか１名
	53　EGFR遺伝子変異を有する切除不能Ⅲ期非小細胞肺癌に対するゲフィチニブと胸部放射線治療同時併用療法の第Ⅱ相試験（WJOG 6911L）	齋藤　春洋ほか１名
	54　高齢進行非小細胞肺癌患者に対するPEG-G-CSF支持下のドセタキセル＋ラムシルマブ療法の多施設共同単群第Ⅱ相試験（WJOG9416Ｌ）	中原　善朗ほか５名
	55　ALK陽性進行期非小細胞肺がんに対するアレクチニブ治療後２次または３次治療としてのブリグチニブ多施設共同前向き観察研究（WJOG11919L）	村上　修司ほか３名
	56　EGFR遺伝子L858R変異陽性進行再発非扁平上皮非小細胞肺がんに対するエルロチニブ＋ラムシルマブとオシメルチニブを比較する第Ⅲ相臨床試験（WJOG14420L）	加藤　晃史ほか５名
	57　特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋nab-パクリタキセル＋ニンテダニブ療法とカルボプラチン＋nab-パクリタキセル療法のランダム化第Ⅱ相試験（J-SONIC）	加藤　晃史ほか５名
	58　EGFR遺伝子変異陰性進行非扁平上皮非小細胞肺癌に対するシスプラチン＋ペメトレキセド＋ベバシズマブ併用療法後の維持療法としてペメトレキセドとペメトレキセド＋ベバシズマブを比較するランダム化第Ⅱ相試験（TORG1321）	齋藤　春洋ほか４名
	59　既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するニボルマブとニボルマブ＋ドセタキセルのランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験（TORG1630）	中原　善朗ほか４名
	60　Sensitizing EGFR uncommon mutation 陽性未治療非扁平上皮非小細胞肺癌に対するAfatinib とChemotherapyを比較する第Ⅲ相試験（TORG1834）	加藤　晃史ほか５名
	61　特発性肺線維症合併した切除不能な小細胞肺癌に対するカルボプラチン+エトポシド＋ニンテダニブ併用療法の第Ⅱ相試験（TORG1835）	加藤　晃史ほか５名
	62　切除不能局所進行（Ⅲ期）非小細胞肺癌に対する化学放射線療法完遂直後のデュルバルマブ維持療法の第Ⅱ相試験（TORG1937）	臼井　亮ほか５名
	63　中枢神経系への転移を有するEGFR遺伝子変異陽性の患者でオシメルチニブが無効となった患者に対して、白金製剤＋ペメトレキセドと白金製剤＋ペメトレキセド+オシメルチニブの比較試験（TORG1938）	村上　修司ほか５名
	64　上皮成長因子受容体（EGFR）遺伝子変異陽性非扁平上皮非小細胞肺癌の初回治療におけるアファチニブからオシメルチニブへの切替療法の無作為化第Ⅱ相試験（TORG1939）	村上　修司ほか５名
	65　全身状態不良EGFR遺伝子変異陽性肺がん患者に対する初回化学療法	村上　修司ほか５名

科　別	研　究　課　題	研究者名
	としてのオシメルチニブ単剤療法の第Ⅱ相試験（TORG2040）	
	66　完全切除非扁平上皮非小細胞肺癌に対するペメトレキセド+シスプラチン併用療法とビノレルビン+シスプラチン併用療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（JIPANG）	齋藤　春洋ほか５名
	67　EGFR遺伝子変異を有する非小細胞肺癌患者に対する一次療法としてのベバシズマブ＋エルロチニブ併用療法とエルロチニブ単剤療法を比較する非盲検無作為化比較第Ⅲ相臨床試験（NEJ026）	齋藤　春洋ほか１名
	68　根治照射可能な進行・再発非小細胞肺癌でPS2あるいは高齢者に対する低用量カルボプラチン連日と胸部放射線同時併用療法後、デュルバルマブ維持療法の第Ⅱ相試験（NEJ039A）	臼井　亮ほか５名
	69　EGFRチロシンキナーゼ阻害薬と免疫チェックポイント阻害薬の投与順・投与間隔と間質性肺疾患発症リスクの関連を検討する多施設共同後ろ向き観察研究（NEJ040）	加藤　晃史ほか５名
	70　限定型小細胞肺癌に対する予防的全脳照射による認知機能への影響を評価する前向き観察研究（LOGIK1901）	中原　善朗ほか５名
	71　腎機能低下進行非扁平上皮非小細胞肺癌を対象としたカルボプラチン+nab-パクリタキセル+アテゾリズマブ併用療法の第Ⅱ相試験（LOGIK2002）	齋藤　春洋ほか５名
	72　局所進行胸腺癌に対するS-1とシスプラチンによる化学放射線同時併用療法の第Ⅱ相試験（LOGIK1605）	中原　善朗ほか５名
	73　第３世代EGFR-TKI（オシメルチニブ）の耐性機序にかかわるバイオマーカー探索に関する研究（LOGIK1607）	中原　善朗ほか５名
	74　希少なEGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺がんに対するオシメルチニブの第Ⅱ相試験（TCOG　UNICORN）	村上　修司ほか５名
	75　免疫チェックポイント阻害療法を受けた非小細胞肺癌患者の観察研究（REAL-KEY）	村上　修司ほか５名
	76　切除不能stageⅢ非小細胞肺癌患者における同時化学放射線療法後のデュルバルマブの長期安全性および有効性に関する観察研究（AYAME-Study）	中原　善朗ほか５名
	77　Epidermal Growth Factor Receptor activating mutation positive（EGFRm+）進行非小細胞肺がん（NSCLC）初回オシメルチニブ治療の効果、安全性及び増悪後の治療に関する観察研究（CSPOR-LC07-REIWA）	加藤　晃史ほか５名
	78　切除不能な進行・再発非小細胞肺癌患者に対するアテゾリズマブの他施設共同前向き観察研究（J-TAIL）	臼井　亮ほか５名
	79　切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（NSCLC）または進展型小細胞肺癌（ED-SCLC）患者に対するアテゾリズマブ併用療法の多施設共同前向き観察研究（J-TAIL2）	近藤　哲郎ほか３名
	80　小細胞肺癌における化学療法と免疫チェックポイント療法の併用療法が免疫チェックポイント分子におよぼす影響の解明	中原　善朗ほか14名
	81　肺がん患者におけるニボルマブ投与中の肺障害及び放射線肺臓炎に関する研究	加藤　晃史
	82　放射線治療が免疫チェックポイント分子に及ぼす影響の解明	中原　善朗ほか14名
	83　非小細胞肺癌を対象としたオンコマインDX Target TestマルチCDxシステムを用いた遺伝子パネル検査に関する研究	村上　修司ほか６名

科　　別	研　　究　　課　　題	研　究　者　名
呼　吸　器　外　科	1　切除可能なⅡ～ⅢＢ期の非小細胞肺癌患者を対象に、術前補助療法として化学療法及びニボルマブ又はプラセボ投与後、外科的切除を施行後に術後補助療法としてニボルマブ又はプラセボを比較するランダム化二重盲検第Ⅲ相試験（CheckMate77T）	伊藤宏之ほか12名
	2　早期NSCLC患者を対象にニボルマブ及びイピリムマブとプラチナダブレットによる化学療法を比較するランダム化オープン第Ⅲ相試験（Checkmate816）	伊藤宏之ほか12名
	3　非小細胞肺癌手術適応症例に対する周術期ONO-1101投与の多施設共同ランダム化比較試験（P-LAND，医師主導治験）	伊藤宏之ほか12名
	4　再発高リスク臨床病期Ⅰ期非小細胞肺がんに対する術前ニボルマブ療法の安全性・有効性探索試験（POTENTIAL，医師主導治験）	伊藤宏之ほか12名
	5　特発性肺線維症（IPF）合併非小細胞肺癌に対する周術期ピルフェニドン療法の術後急性増悪抑制効果に関する第Ⅲ相試験（NEJ034）	伊藤宏之ほか６名
	6　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。病理病期Ⅰ期（T1> ２cm）非小細胞肺癌完全切除例に対する術後化学療法の臨床第Ⅲ相試験（JCOG0707）	伊藤宏之ほか６名
	7　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。肺野末梢小型非小細胞肺癌に対する肺葉切除と縮小切除（区域切除）の第Ⅲ相試験（JCOG0802/WJOG4607Ｌ）	伊藤宏之ほか６名
	8　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。胸部薄切ＣＴ所見に基づく肺野型早期肺癌に対する縮小切除の第Ⅱ相試験（JCOG0804/WJOG4507L）	伊藤宏之ほか６名
	9　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。胸部薄切CT所見に基づくすりガラス影優位のcT1N0肺癌に対する区域切除の非ランダム化検証的試験（JCOG1211）	伊藤宏之ほか６名
	10　呼吸器悪性腫瘍に対する外科切除を含む標準的治療の確立。高悪性度神経内分泌肺癌完全切除例に対するイリノテカン＋シスプラチン療法とエトポシド＋シスプラチン療法のランダム化比較試験（JCOG 1205/1206）	伊藤宏之ほか12名
	11　臨床病期Ⅰ/Ⅱ期非小細胞肺癌に対する選択的リンパ節郭清の治療的意義に関するランダム化比較（JCOG1413）	伊藤宏之ほか６名
	12　特発性肺線維症合併臨床病期Ⅰ期非小細胞肺癌に対する肺縮小手術に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1708）	伊藤宏之ほか６名
	13　胸部薄切CT所見に基づく早期肺癌に対する経過観察の単群検証的試験（JCOG1906）	伊藤宏之ほか６名
	14　肺葉切除高リスク臨床病期ⅠA期非小細胞肺癌に対する区域切除と楔状切除のランダム化比較試験（JCOG1909）	伊藤宏之ほか６名
	15　病理学的N2非小細胞肺癌に対する術後放射線治療に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1916）	伊藤宏之ほか11名
	16　完全切除された非小細胞肺がんに対する術後補助化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン維持療法の第２相試験（医師主導治験）	伊藤宏之ほか10名
	17　縦隔リンパ節転移を有するⅢA期非扁平上皮非小細胞癌に対する術前導入療法としてのシスプラチン＋ペメトレキセド＋ベバシズマブ併用療法もしくは、シスプラチン＋ペメトレキセド＋同時胸部放射線照射（45Gy）後の手術のランダム化比較第Ⅱ相試験（PIT-1）	伊藤宏之ほか12名
	18　縦隔リンパ節転移を有するⅢA期肺原発扁平上皮癌に対する術前導	伊藤宏之ほか12名

科　　別	研　　究　　課　　題	研　究　者　名
	入療法としてのシスプラチン＋ティーエスワン+同時胸部放射線照射（45Gy）後の手術の第Ⅱ相試験（PIT-2）	
	19　肺尖部胸壁浸潤がん（Superior sulcus tumor）に対する術前導入療法としてのシスプラチン＋ティーエスワン＋同時胸部放射線照射（66Gy）後の手術の有効性検証試験（CRES3T）	伊藤宏之ほか12名
	20　肺切除後肺瘻に対するデジタルモニタリング胸腔ドレナージ法の至適胸腔内圧の検証：多施設共同無作為化比較試験（トパーズRCT2）	伊藤宏之ほか６名
	21　肺切除後肺瘻のない患者に対する胸水排液量によらない胸腔ドレーン抜去の有用性・安全性の検証：多施設共同無作為化比較試験（トパーズRCT3）	伊藤宏之ほか６名
	22　術前喀痰細胞診による経気道散布性腫瘍成分の検出に関する前向き介入研究	伊藤宏之ほか６名
血液・腫瘍内科（血液）	1　成人白血病関連疾患に対する同種造血幹細胞移植の成績向上に関する研究	田中正嗣
血液・腫瘍内科（腫瘍）	1　疫学調査「血液疾患登録」	酒井リカほか４名
	2　未治療CD5陽性びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対するDose-adjusted EPOCH-R/HD-MTX療法の第Ⅱ相試験	酒井リカほか１名
	3　消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたEP療法とIP療法のランダム化比較試験	酒井リカほか26名
	4　びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫高齢患者に対する高齢者機能評価を用いた適正治療に関する研究	酒井リカほか４名
	5　アグレッシブATL前向きコホート研究多施設共同前方視的観察研究。附随研究／検体バンキング	酒井リカほか４名
	6　アグレッシブATL前向きコホート研究　多施設共同前方視的観察研究	酒井リカほか４名
	7　新世代治療導入後の未治療NK/T細胞リンパ腫における治療実態把握と予後予測モデル構築を目的とした国内および東アジア多施設共同後方視的調査研究	酒井リカほか２名
	8　甲状腺原発悪性リンパ腫における分子生物学的解析に基づく臨床病理学的特徴	沼田　歩ほか２名
	9　原発不明がんの検討	酒井リカほか４名
	10　新たに診断された濾胞性リンパ腫患者に関する多施設前方視的観察研究	酒井リカほか４名
	11　高齢者古典的ホジキンリンパ腫の臨床病理学的特徴と治療に関する多施設共同後方視的観察研究	酒井リカほか４名
	12　未治療低腫瘍量進行期濾胞性リンパ腫に対するリツキシマブ療法早期介入に関するランダム化第Ⅲ相試験	酒井リカほか４名
	13　再発濾胞性リンパ腫に対するobinutuzumab＋bendamustine併用の第Ⅱ相試験	酒井リカほか４名
	14　高齢者または移植拒否若年者の未治療多発性骨髄腫患者に対するダラツムマブ＋メルファラン＋プレドニゾロン＋ボルテゾミブ（D-MPB）導入療法後のダラツムマブ単独療法とダラツムマブ＋ボルテゾミブ併用維持療法のランダム化第Ⅲ相試験	高橋寛行ほか４名
	15　高齢者悪性リンパ腫に対する抗がん剤治療の後方視的検討	佐久間敬之本ほか５名
	16　びまん性細胞型Ｂ細胞リンパ腫に対するメソトレキセート大量療法の検討	高橋寛行ほか５名

科　別	研　究　課　題	研究者名
消化器内科（消化管）	1　早期胃癌における内視鏡的粘膜切除術の適応拡大に対する第Ⅱ相試験JCOG0607	井口靖弘
	2　未分化型早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の適応拡大に関する第Ⅱ相試験（JCOG1009/1010）	井口靖弘
	3　食道癌術後難治性吻合部狭窄に対するステロイド併用EBDおよびステロイド併用RICのランダム化比較第Ⅱ/Ⅲ相試験（JCOG1207）	井口靖弘ほか５名
	4　消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたエトポシド/シスプラチン（EP）療法とイリノテカン／シスプラチン（IP）療法のランダム化比較試験（JCOG1213）	町田　望ほか５名
	5　早期食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の狭窄予防を目的とするステロイド内服療法およびステロイド局注療法のランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1217）	井口靖弘ほか５名
	6　高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃・食道胃接合部腺癌に対する術前trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化第Ⅱ相試験（JCOG1301C）	町田　望ほか５名
	7　切除不能または再発食道癌に対するCF（シスプラチン＋5-FU）療法とbDCF（biweeklyドセタキセル＋CF）療法のランダム化第Ⅲ相比較試験（JCOG1314）	町田　望ほか５名
	8　治癒切除後病理学的Stage Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1502）	町田　望ほか１名
	9　局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1509）	町田　望ほか５名
	10　切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel＋CDDP＋5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1510）	町田　望ほか５名
	11　臨床病期ＩＡ食道癌の深達度診断における超音波内視鏡の有用性に関する非ランダム化検証的試験（JCOG1604）	井口靖弘ほか５名
	12　局所切除後の垂直断端陰性かつ高リスク下部直腸粘膜下層浸潤癌（pT1癌）に対するカペシタビン併用放射線療法の単群検証的試験（JCOG1612）	井口靖弘ほか５名
	13　高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel＋Oxaliplatin＋S-1の第Ⅱ相試験（JCOG1704）	町田　望ほか５名
	14　消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス＋ランレオチド併用療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1901）	町田　望ほか５名
	15　早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術の高齢者適応に関する第Ⅲ相単群検証的試験（JCOG1902）	井口靖弘ほか５名
	16　大腸癌・大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析（COSMOS-CRC-01）	井口靖弘ほか５名
	17　標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験（CIRCUIT試験）	町田　望ほか５名
	18　胃癌・胃 GIST患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析（COSMOS-GC-01）	井口靖弘ほか５名
	19　未治療切除不能進行・再発胃癌に対するマイクロサテライト不安定性を評価する観察研究（WJOG13320GPS）	町田　望ほか５名

科　　別	研　　究　　課　　題	研　究　者　名
消化器内科（肝胆膵）	1　初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同ランダム化並行群間比較試験	森永聡一郎ほか
	2　切除可能膵癌に対する術前治療としてのS-1併用放射線療法とゲムシタビン+ S-1併用療法のランダム化第Ⅱ相試験（JASPAC 04）	森永聡一郎ほか
	3　根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法の第Ⅲ相試験	森本　学ほか
	4　切除不能肝細胞癌に対する肝動脈化学塞栓療法（TACE）とソラフェニブの併用療法第Ⅱ相臨床試験	森本　学ほか
	5　“JCOG1113：進行胆道癌を対象としたゲムシタビン+シスプラチン併用療法（GC療法）とゲムシタビン+S-1併用療法（GS療法）の第Ⅲ相比較試験の付随研究 胆道癌に対する薬剤の効果を予測する因子に関する研究”	森本　学ほか
	6　消化管・肝胆膵原発の切除不能・再発神経内分泌癌（NEC）を対象としたEP療法とIP療法のランダム化比較試験	上野　誠ほか
	7　“遠隔転移を有する膵癌患者におけるPegfilgrastim併用FOLFIRINOX療法（PegG FFX）の第Ⅱ相試験”	上野　誠ほか
	8　家族性膵癌登録制度の確立と日本国内の家族性膵癌家系における膵癌発生頻度の検討	上野　誠ほか
	9　PROP-UPⅡ（治癒切除不能進行性消化器・膵神経内分泌腫瘍の予後に関する前向き観察研究）	上野　誠ほか
	10　進行再発大腸癌におけるがん関連遺伝子異常のプロファイリングの多施設共同研究SCRUM-Japan GI-screen 2013-01-CRC	上野　誠ほか
	11　大腸癌以外の消化器・腹部悪性腫瘍におけるがん関連遺伝子異常のプロファイリングの多施設共同研究SCRUM-Japan GI-screen 2015-01-Non CRC	上野　誠ほか
	12　肝細胞癌に対する炭素イオン線治療の第Ⅱ相臨床試験	加藤弘之ほか
	13　C型肝炎患者におけるソホスブビル併用療法による肝線維化改善効果の検討	森本　学ほか
	14　進行・再発消化器・腹部悪性腫瘍におけるmicrosatellite instability（MSI）を検討する多施設共同研究 GI-SCREEN MSI	上野　誠ほか
	15　膵・胆道癌患者の血清由来マイクロRNA発現を用いた検出マーカーの研究	上野　誠ほか
	16　“【JCOG1407】局所進行膵癌を対象としたmodified FOLFIRINOX療法とゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法のランダム化第Ⅱ相試験”	上野　誠ほか
	17　“膵癌・乳癌・卵巣癌・前立腺癌いずれかの家族歴を有する、または、乳癌・卵巣癌・前立腺癌いずれかの既往歴を有する、遠隔転移を伴う膵癌を対象としたゲムシタビン/オキサリプラチン療法（GEMOX療法）の多施設共同第Ⅱ相試験（FABRIC study）附随研究家族歴を有する膵癌患者における生殖細胞系列変異に関する研究”	上野　誠ほか
	18　血漿中のアミノ酸プロファイルを用いた新たながんスクリーニング法の開発に関する研究	宮城洋平ほか
	19　“JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク肝胆膵内科・外科グループ”	森本　学ほか
	20　Borderline Resectable 膵癌を対象とした術前ゲムシタビン＋ナブパクリタキセル療法と術前Ｓ－１併用放射線療法のランダム化比較試験	森永聡一郎ほか
	21　JCOG1502C：治癒切除後病理学的Stage Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ小腸腺癌に対する	上野　誠ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	
	22　一般社団法人National Clinical Databaseへの手術・治療情報登録における個人情報の取り扱いについて	森永聡一郎ほか
	23　JCOG1315C 切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化比較同時対照試験	森永聡一郎ほか
	24　切除不能、局所療法不適の肝細胞癌に対する重粒子線治療の多施設共同臨床試験　J-CROS1505	加藤弘之ほか
	25 【Cancer-VTE Registry】がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究：多施設共同前向き登録研究	山田貴允ほか
	26　進行再発大腸癌における Angiogenesis Panelを検討する多施設共同研究 GI-SCREEN CRC-Ukit	上野　誠ほか
	27　結腸・直腸癌を含む消化器・腹部悪性腫瘍患者を対象としたリキッドバイオプシーに関する研究　GI-screen 付随研究	上野　誠ほか
	28　高齢進行非小細胞肺がん/膵がんに対する早期栄養・運動介入の多施設共同ランダム化第Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	29　個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究（Protocol No. NCCH1616）	宮城洋平ほか
	30　進行肝細胞癌を対象としたレンバチニブとシスプラチン肝動注化学療法の併用療法 –多施設共同第Ⅱ相試験	森本　学ほか
	31　切除不能・術後再発胆道癌に対する FOLFIRINOX療法の第２相試験	上野　誠ほか
	32　急速進行性がん患者・家族と医師の共感的コミュニケーションを促進するためのプログラムの有効性を検証する無作為化比較試験実施計画書（研究番号J-SUPPORT1704）	上野　誠ほか
	33 【JCOG1611】遠隔転移を有するまたは再発膵癌に対するゲムシタビン+ナブパクリタキセル併用療法/modified FOLFIRINOX 療法/S-IROX 療法の第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	上野　誠ほか
	34　消化器癌に対する全身化学療法施行時に発生した無症候性静脈血栓塞栓症に対するエドキサバンの安全性および有効性を検討する多施設共同前向き介入研究（ExCAVE study）	上野　誠ほか
	35 【JCOG1901】消化管・膵原発の切除不能進行・再発神経内分泌腫瘍に対するエベロリムス単剤療法とエベロリムス＋ランレオチド併用療法のランダム化第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	36　家族性膵癌家系または遺伝性腫瘍症候群に対する早期膵癌発見を目指したサーベイランス方法の確立に関する試験	上野　誠ほか
	37　腹膜播種を伴う膵癌に対するゲムシタビン/ナブ-パクリタキセル点滴静注+パクリタキセル腹腔内投与併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験	上野　誠ほか
	38　切除不能 Intermediate stage up-to-seven 基準外肝細胞癌におけるアテゾリズマブ+ベバシズマブ療法の有効性、安全性を検討する 多施設共同第Ⅱ相臨床研究	森本　学ほか
	39　JCOG1920：切除可能胆道癌に対する術前補助化学療法としてのゲムシタビン＋シスプラチン＋S-1（GCS）療法の第Ⅲ相試験	上野　誠ほか
	40　ゲムシタビン＝ベースの一次治療後の再発性または転移性膵癌に対するナノリポソーマルイリノテカンとS-1併用療法の第1/2相臨床試験	上野　誠ほか
	41　固形がん患者における初回治療時の 包括的ゲノムプロファイル検査の実現性と治療選択への有用性を評価する前向き研究	廣島幸彦ほか
	42　肝がん治療に関する後方視的観察研究	森本　学ほか
	43　“胆道癌の術後補助療法における薬剤感受性予測因子に関する探索的	森本　学ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	研究ver1.0”	
	44　SCRUM-Japan疾患レジストリを活用した新薬承認審査時の治験対照群データ作成のための前向き多施設共同研究	上野　誠ほか
	45　C型肝炎に対するDAA治療後の肝発がん予測におけるM2BPGiの有用性を検討する多施設共同観察研究	森本　学ほか
	46　治癒切除不能な進行･再発の結腸･直腸癌を対象としたHER2スクリーニングに関する研究 GI-screen 2013-01-CRC 付随研究	上野　誠ほか
	47　膵・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究	森永聡一郎ほか
	48　膵癌術前治療後症例における組織学的評価法の検討	森永聡一郎ほか
	49　腹腔洗浄細胞診陽性と診断された膵がん症例に関する後ろ向き観察研究	森永聡一郎ほか
	50　BCLC stage Bの肝細胞癌を対象としたレンバチニブの前向きコホート研究	森本　学ほか
	51　膵癌患者におけるLaminin γ-2 monomerおよびEphA2断片発現の意義の解明	上野　誠ほか
	52　JCOG1502C 登録患者の腫瘍組織試料・血液試料のバンキング	森本　学ほか
	53　革新的がんバイオマーカーラミニン γ2単鎖測定による高悪性度膵がん診断の実用化研究	越川　直彦ほか
	54　76歳以上の切除非適応膵癌患者に対する非手術療法の前向き観察研究	上野　誠ほか
	55　切除不能・再発膵腺扁平上皮癌に対する化学療法の治療成績に関する多施設共同後ろ向き観察研究	上野　誠ほか
	56　膵癌の生検組織を用いた予後予測因子の後ろ向き臨床研究	上野　誠ほか
	57　【JCOG1509B】JCOG-バイオバンク・ジャパン連携バイオバンクJCOG1509登録患者の凍結組織・血液バンキング	山田貴允ほか
	58　血液中のマイクロRNAを用いた各種がんの診断技術開発	上野　誠ほか
	59　内科系医療技術負担度調査	森本　学ほか
	60　切除不能退形成膵癌の治療成績に関する多施設共同後ろ向き観察研究	上野　誠ほか
	61　肝細胞がんに対するレンバチニブの有用性と生存期間に寄与する因子の多施設共同研究	森本　学ほか
	62　がん患者におけるHLA遺伝子の多様性に関する検討	笹田哲朗ほか
	63　HER2 発現胆道癌スクリーニング研究（HERB　preSCR）	上野　誠ほか
	64　膵癌の術前および術後予後予測因子の臨床応用に向けた前向き臨床試験	上野　誠ほか
	65　切除不能膵癌に対するFOLFIRINOX療法またはゲムシタビン＋ナブパクリタキセル併用療法により切除可能と判断された膵癌患者の登録解析研究	森永聡一郎ほか
	66　十二指腸狭窄を有する切除不能膵腺癌を対象とした初回化学療法導入前の狭窄解除方法に関する多施設共同後ろ向き観察研究	小林　智ほか
	67「進行胆道癌に対するニボルマブ+レンバチニブ併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験」に附随するバイオマーカーの探索研究（JCOG1808/NCCH1817-A1）	上野　誠ほか
	68　消化器内視鏡に関連する疾患、治療手技データベース構築	井口靖弘ほか
	69　ソラフェニブ単剤投与後の肝細胞癌症例に対するレゴラフェニブ投与の有効性と安全性の検討	森本　学ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	70　DS-8201aを投与された胆道がん患者における不応答機序および免疫関連バイオマーカーについての探索研究	上野　誠ほか
	71　膵癌症例に対する十二指腸ステントの有用性の検討	森本　学ほか
	72　血漿中細胞外RNA（ExRNA）プロファイルに基づく、新規がん診断補助人工知能（AI）の開発研究	宮城洋平ほか
	73　S-1術後補助療法中または終了後6ヵ月以内の再発膵癌に対するFOLFIRINOX療法またはgemcitabine+nab-paclitaxel療法の多施設共同後ろ向き観察研究	上野　誠ほか
	74　MSI-High肝胆膵領域癌に対する観察研究	小林　智ほか
	75　肝細胞癌に対する全身化学療法の効果と安全性に関する後ろ向き観察研究	森本　学ほか
	76　非根治膵がん患者の治療に対するマルコフ決定過程による最適診療モデルの開発	高木英明ほか
	77　小型肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除、開腹肝切除と経皮的ラジオ波焼灼療法の治療成績の比較：SURF trial付随研究	森永聡一郎ほか
	78　Repeated transarterial chemoembolization（TACE）with epirubicin-loaded superabsorbent polymer microspheres versus conventional TACE for hepatocellular carcinoma	福島泰斗ほか
	79　アジアの特定の進行固形癌における高頻度マイクロサテライト不安定性（MSI-H）又はDNAミスマッチ修復欠損（dMMR）の割合	上野　誠ほか
	80　胆膵がん患者血液中における好中球細胞外トラップ量と血栓塞栓症発症リスクとの関連解析	小井詰史朗ほか
	81　切除不能肝細胞癌に対する薬物療法に関する前向き観察研究（PRISM Study）	森本　学ほか
	82　局所進行膵癌（LAPC）症例に対する十二指腸ステントの有用性の検討	上野　誠ほか
	83　胃排出障害を呈する進行胆膵癌患者に対する十二指腸ステント留置とその後の化学療法の治療成績について	上野　誠ほか
	84　切除不能進行膵癌に対する化学療法予後因子の多施設共同後ろ向き検討	上野　誠ほか
	85　膵癌患者における血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析	森永聡一郎ほか
	86　肝癌患者における二次治療以降の薬物療法の有効性及び安全性の検討	森本　学ほか
	87　進行肝細胞癌におけるAngiogenesis Panelによる探索的研究	上野　誠ほか
	88　肝細胞がんに対するアテゾリズマブ+ベバシズマブの有用性と生存期間に寄与する因子の多施設共同研究	森本　学ほか
	89　肝細胞癌の分子標的治療、免疫治療における血中、組織バイオマーカーの解析	森本　学ほか
	90　切除不能消化器・原発不明 NET G3 に対する薬物療法の 治療成績に関する多施設共同後ろ向き観察研究（JOSC-2001）	上野　誠ほか
	91　肝細胞癌患者の血液循環腫瘍 DNA のゲノム・エピゲノム統合解析	森永聡一郎ほか
	92　高精度膵・胆道がんマイクロRNAパネルの構築と疾患検出性能の研究	上野　誠ほか
	93　進行肝細胞がん患者の一次治療としてニボルマブとソラフェニブを比較する無作為化多施設共同第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：ONO-4538-35/CA209459）	森本　学ほか
	94　進行性固形がん患者を対象にバイオマーカーを評価することを目的	上野　誠ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	としたMK-3475の臨床試験（KEYNOTE-158）（治験実施計画書番号：158）	
	95 “A Phase Ⅲ Study of BBI-608 plus nab-Paclitaxel with Gemcitabine in Adult Patients with Metastatic Pancreatic Adenocarcinoma転移性膵がん患者を対象としたBBI608とnab-パクリタキセル+ゲムシタビン併用の第３相試験（治験実施計画書番号：CanStem111P）”	上野　誠ほか
	96 治癒切除不能な膵癌患者を対象としたTBI-1401（HF10）の化学療法併用第I相試験（治験実施計画書番号：TBI1401-03）	上野　誠ほか
	97 “進行肝細胞癌患者に対する一次治療におけるデュルバルマブとトレメリムマブの第Ⅲ相無作為化非盲検多施設共同試験（HIMALAYA）（治験実施計画書番号：D419CC00002）”	森本　学ほか
	98 “日本人進行悪性腫瘍患者を対象としたINCB054828の安全性及び忍容性の非盲検、用量漸増、用量拡大、第Ⅰ相試験（治験実施計画書番号: INCB 54828-102）”	上野　誠ほか
	99 “固形癌患者を対象にアテゾリズマブ（抗PD-L1抗体）とベバシズマブ及び/又は他の抗悪性腫瘍薬との併用投与の安全性及び有効性を評価する非盲検,多施設共同第Ⅰｂ相臨床試験（治験実施計画書番号：GO30140）”	森本　学ほか
	100 切除不能肝細胞がん患者を対象に、第一選択治療としてのBGB-A317とソラフェニブの有効性及び安全性を比較する無作為化、非盲検、多施設共同第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：BGB-A317-301）	森本　学ほか
	101 “切除不能肝細胞がん日本人患者を対象に、抗PD-1モノクローナル抗体BGB-A317の安全性、忍容性、薬物動態及び予備的な抗腫瘍活性を検討する安全性導入サブスタディ（治験実施計画書番号：BGB-A317-301サブスタディ）”	森本　学ほか
	102 “A Phase 2, Open-Label, Single-Arm, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of INCB054828 in Subjects With Advanced/Metastatic or Surgically Unresectable Cholangiocarcinoma Including FGFR2 Translocations Who Failed Previous Therapy過去に奏効しなかったFGFR2 転座を伴う進行性／転移性又は外科的切除不能な胆管細胞癌患者を対象としたINCB054828 の有効性及び安全性を評価する非盲検、単群、多施設共同、第Ⅱ相試験（治験実施計画書番号：INCB 54828-202）”	上野　誠ほか
	103 “進行性の胆道がん患者に対するJPH203のランダム化比較第Ⅱ相試験（治験実施計画書番号：JPH203-SBECD-P2）”	上野　誠ほか
	104 標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験（治験実施計画書番号：TLP0-001-01）	上野　誠ほか
	105 “ONO-4538第Ⅱ相試験 膵がんを対象とした多施設共同非盲検試験（治験実施計画書番号：ONO-4538-83（TASUKI-83））”	上野　誠ほか
	106 “進行性肝細胞癌患者に対する一次治療としてのレンバチニブ（E7080/MK-7902）とペムブロリズマブ（MK-3475）の併用療法の安全性及び有効性をレンバチニブ単独療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（LEAP-002）（治験実施計画書番号：MK-7902-002（E7080-G000-311））”	森本　学ほか
	107 “アジア人の進行固形癌患者を対象としたBI 754091単剤投与及びBI 754091とBI 754111併用投与に関する非盲検，第Ⅰ相試験（治験実施計	森本　学ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	画書番号：1381-0004）”	
	108 “A Phase Ⅱ, Multicenter, Open-label Study to Investigate the Clinical Efficacy of M7824 Monotherapy in Participants With Locally Advanced or Metastatic Biliary Tract Cancer Who Fail or are Intolerant to First-line Platinum-Based Chemotherapy　1次治療のプラチナ系化学療法に不応又は不耐であった、局所進行又は転移性胆道癌患者を対象に、M7824単剤療法の臨床的有効性を検討する第Ⅱ相多施設共同非盲検試験（治験実施計画書番号：MS200647-0047）”	上野　誠ほか
	109 “A Phase Ⅲ, Randomized, Double-blind, Placebo-controlled, Multicenter Study of Transarterial Chemoembolization（TACE）in Combination with either Durvalumab Monotherapy or Durvalumab plus Bevacizumab Therapy in Patients with Locoregional Hepatocellular Carcinoma（EMERALD-1）　局所肝細胞癌患者を対象として、デュルバルマブ単独療法又はデュルバルマブとベバシズマブの併用療法と、肝動脈化学塞栓療法（TACE）との併用を評価する第Ⅲ 相無作為化二重盲検プラセボ対照多施設共同試験（EMERALD-1）（治験実施計画書番号：D933GC00001）”	森本　学ほか
	110　HER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対するDS-8201aの医師主導治験（治験実施計画書番号：NCCH1805）	上野　誠ほか
	111 “A Phase Ⅲ Randomized, Double-Blind, Placebo-Controlled, Multi Regional, International Study of Durvalumab in Combination with Gemcitabine plus Cisplatin versus Placebo in Combination with Gemcitabine plus Cisplatin for Patients with First-Line Advanced Biliary Tract Cancers（TOPAZ-1）　一次治療の進行胆道癌患者を対象としたゲムシタビン+シスプラチンとの併用療法におけるデュルバルマブを評価する第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照国際共同試験（TOPAZ-1）（治験実施計画書番号：D933AC00001）”	上野　誠ほか
	112　進行胆道癌に対するニボルマブ＋レンバチニブ併用療法の第I/Ⅱ相試験（治験実施計画書番号：JCOG1808/NCCH1817）	上野　誠ほか
	113　A Phase 2, Open-Label, Randomized Study to Assess the Antitumor Activity and Safety of Zolbetuximab（IMAB362）in Combination with Nab-Paclitaxel and Gemcitabine（Nab-P + GEM）as First Line Treatment in Subjects with Claudin 18.2（CLDN18.2）Positive, Metastatic Pancreatic Adenocarcinomaクローディン18.2（CLDN18.2）陽性の転移性膵腺癌患者を対象とした，Nab-パクリタキセル及びゲムシタビン（Nab-P + GEM）と併用する Zolbetuximab（IMAB362）の一次治療としての抗腫瘍活性と安全性を評価する第Ⅱ相非盲検ランダム化試験（治験実施計画書番号：8951-CL-5201）	上野　誠ほか
	114 “根治的肝切除術又は焼灼療法後の再発リスクが高い肝細胞癌患者を対象に、アジュバント療法としてのデュルバルマブ単独療法又はデュルバルマブとベバシズマブの併用療法を評価する第Ⅲ相無作為化二重盲検プラセボ対照多施設共同試験（EMERALD-2）（治験実施計画書番号：D910DC00001）”	森本　学ほか
	115　KRAS p.G12C 変異を有する進行固形癌患者を対象としたAMG 510 単独投与、及びKRAS p.G12C 変異を有する進行NSCLC 患者を対象としたAMG 510 併用投与の安全性、忍容性、薬物動態、薬力学及び有効性を評価する第Ⅰ/Ⅱ相非盲検試験（治験実施計画書番号：20170543）	加藤晃史ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	116 “A Phase Ⅱ/Ⅲ, Multicenter, Randomized, Placebo-controlled Study of Gemcitabine Plus Cisplatin With or Without Bintrafusp alfa (M7824) as First-line Treatment of Biliary Tract Cancer 未治療の胆道癌患者を対象とするbintrafusp alfa（M7824）又はプラセボとゲムシタビン及びシスプラチンを併用投与する第Ⅱ/Ⅲ 相多施設共同無作為化プラセボ対照試験（治験実施計画書番号：MS200647_0055）”	上野　誠ほか
	117 “A Phase 2, Open-Label, Single-Arm, Multicenter Study to Evaluate the Efficacy and Safety of Pemigatinib in Participants With Previously Treated Locally Advanced/Metastatic or Surgically Unresectable Solid Tumor Malignancies Harboring Activating FGFR Mutations or Translocations (FIGHT-207)　治療歴のある活性化FGFR突然変異又は転座を有する局所進行性／転移性又は外科的切除不能な固形悪性腫瘍患者を対象に、pemigatinib の有効性と安全性を評価する非盲検、単群、多施設共同、第Ⅱ相試験（FIGHT-207）（治験実施計画書番号：INCB 54828-207）”	上野　誠ほか
	118 “進行又は切除不能な胆道癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475及びゲムシタビン／シスプラチンの併用療法とプラセボ及びゲムシタビン／シスプラチンの併用療法を比較する第Ⅲ相無作為化二重盲検試験（治験実施計画書番号：966）”	上野　誠ほか
	119 “外科的切除又は焼灼療法後の再発ハイリスク肝細胞癌患者を対象とした，アクティブサーベイランスと術後補助療法としてのアテゾリズマブ（抗PD-L1抗体）及びベバシズマブ併用投与を比較する非盲検，ランダム化，多施設共同第Ⅲ相臨床試験（治験実施計画書番号：WO41535）”	森本　学ほか
	120 “FGFR2遺伝子再構成を伴う切除不能又は転移性の胆管癌患者を対象に、1次治療としてのPemigatinibの有効性及び安全性をゲムシタビン ＋ シスプラチン併用化学療法と比較して評価する非盲検、ランダム化、実薬対照、多施設共同、第Ⅲ相試験（FIGHT-302）（治験実施計画書番号：INCB 54828-302）”	上野　誠ほか
	121 “A Rollover Study to Provide Continued Access to Napabucasin for Patients Enrolled in Sumitomo Dainippon Pharma Oncology, Inc.-sponsored Napabucasin Protocols スミトモダイニッポンファーマオンコロジー社主導のナパブカシンの治験に登録された被験者を対象とする、ナパブカシンの継続投与のためのロールオーバー試験（治験実施計画書番号：BBI608-901）”	上野　誠ほか
	122　ONO-4538 第Ⅱ相試験 胆道がんを対象とした多施設共同非盲検非対照試験（治験実施計画書番号：ONO-4538-91（TASUKI-91）） 123　進行性又は転移性固形がんを対象としたONO-4578単剤投与及びONO-4578とONO-4538の併用投与における非盲検非対照用量漸増及び拡大試験（治験実施計画書番号：ONO-4578-01）	上野　誠ほか 大島　貴ほか
	124 “FGFR2 融合遺伝子陽性を有する切除不能進行性又は転移性の胆管癌患者に対するE7090の多施設共同，オープンラベル第２相試験（治験実施計画書番号：E7090-J000-201）”	上野　誠ほか
	125 “根治不能／非転移性の肝細胞癌患者を対象にレンバチニブ（E7080/MK-7902）、ペムブロリズマブ（MK-3475）及び肝動脈化学塞栓療法（TACE）の併用療法の有効性及び安全性をTACE 単独療法と比較す	森本　学ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	る二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（LEAP-012）（治験実施計画書番号：012）”	
	126　進行肝細胞癌患者の1次治療としてニボルマブとイピリムマブの併用療法をソラフェニブ又はレンバチニブと比較するランダム化多施設共同第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：CA2099DW）	森本　学ほか
	127　“切除不能局所進行/切除可能境界膵癌患者を対象としたS-1併用化学放射線療法＋ニボルマブのランダム化比較第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：JCOG1908E）"	上野　誠ほか
	128　“A Phase 3, Open-Label, Randomized Study of Futibatinib Versus Gemcitabine-Cisplatin Chemotherapy as First-Line Treatment of Patients with Advanced Cholangiocarcinoma Harboring FGFR2 Gene Rearrangements　FGFR2遺伝子再構成を伴う進行性胆管癌患者に対する一次化学療法のフチバチニブ療法とゲムシタビン+シスプラチン療法を比較する第Ⅲ相非盲検ランダム化試験（治験実施計画書番号：TAS-120-301）”	上野　誠ほか
	129　“切除不能/再発・進行性の膵がん患者を対象としたDFP-17729の有効性・安全性を検討する臨床第Ⅰ/Ⅱ相試験（治験実施計画書番号：DFP-17729-001）”	上野　誠ほか
	130　“Intermediate-stage 肝細胞癌患者を対象としてニボルマブ／イピリムマブ併用、ニボルマブ単独又はプラセボと肝動脈化学塞栓術（TACE）との併用療法を行うランダム化多施設共同二重盲検プラセボ対照第Ⅲ相試験（治験実施計画書番号：CA20974W）”	森本　学ほか
	131　ONO-4578第Ⅰ相試験遠隔転移を有する膵がん患者を対象に一次治療としてONO-4578、ONO-4538並びに標準治療であるmodified FOLFIRINOX（mFFX）療法又はゲムシタビン及びナブパクリタキセル（GnP）療法を併用する非盲検非対照試験（治験実施計画書番号：ONO-4578-04/ONO-4538-103）	上野　誠ほか
	132　“転移性膵管腺癌患者を対象とした，免疫療法をベースとした複数の併用療法の有効性と安全性を検討する，多施設共同，非盲検，ランダム化，第Ib/Ⅱ相アンブレラ試験（MORPHEUS-PANCREATIC CANCER）（治験実施計画書番号：WO39608）”	上野　誠ほか
	133　“IDH1変異を有する進行固形がん患者を対象としたLY3410738の第Ⅰ相試験（治験実施計画書番号：LOXO-IDH-20002）”	上野　誠ほか
	134　“チロシンキナーゼ阻害剤の治療により進行を認めたがん免疫療法未治療の進行肝細胞癌患者を対象としたランダム化オープンラベルRelatlimabとニボルマブ併用第Ⅱ相試験（治験実施計画書番号：CA224073）”	森本　学ほか
消化器外科（胃食道）	1　標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験（CIRCUIT試験）	大島　貴ほか
	2　研究課題名：進行胃癌に対する大網温存のランダム化第Ⅱ相試験	山田貴允ほか
	3　研究課題名：COMPASS試験バイオマーカー研究	大島　貴ほか
	4　研究課題名：胃癌のバイオマーカーを探索するJapan-UK-Singapore共同研究	大島　貴ほか
	5　SAMIT試験バイオマーカー研究	大島　貴ほか
	6　研究課題名：胃癌における「癌/間質」比	大島　貴ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	7　固形腫瘍術後標本におけるCancer stem cell marker発現の再発予測因子としての有用性の検討	大島　貴ほか
	8　腹腔内洗浄液中のmicroRNA解析による胃癌再発予測マーカーの検索	渡邊勇人ほか
	9　胃癌腹膜播種の免疫学的メカニズムの解明	公盛啓介ほか
	10　胃癌におけるKIAA1199発現のバイオマーカーおよび治療ターゲットとしての有用性	大島　貴ほか
	11　研究課題名：COMPASS-D試験バイオマーカー研究	大島　貴ほか
	12　固形癌患者の早期診断および個別化治療を目指したリキッドバイオプシーによる新規診断法の開発	大島　貴ほか
	12　食道癌の横断面による壁在性は術後の無再発生存に影響する	大島　貴ほか
	13　研究課題名：胃切除後骨粗鬆症の効率的スクリーニング方法の開発Efficient screening program of osteoporosis after gastrectomy（E-SPOG）	大島　貴ほか７名
	14　研究課題名：胃切除後骨粗鬆症患者に対するアレンドロン酸ナトリウムの経口投与および静脈投与の効果を評価する無作為化比較臨床第Ⅱ相試験	大島　貴ほか７名
	15　StageⅡ/Ⅲ 胃癌根治切除後の再発リスク層別化マーカーの同定	大島　貴ほか
	16　胃癌の周術期の炎症が予後に影響を及ぼす分子メカニズムの解明	大島　貴ほか13名
	17　胃癌症例における再発予後危険因子としての術前サルコペニアの意義	大島　貴ほか８名
	18　研究課題名：胃癌に対する胃全摘周術期のEPA加栄養剤ON/OFFの体重減少に及ぼす効果：Phase Ⅲ試験	山田貴允ほか８名
	19　研究課題名：臨床病期ⅠB/Ⅱ/Ⅲ食道癌に対する術前CF療法/DCF療法/CF-RT療法の第Ⅲ相比較試験（JCOG1109）	尾形高士ほか
	20　切除不能または再発食道癌に対するCF療法とDCF療法のランダム化第Ⅲ相比較試験（JCOG1314）	尾形高士ほか
	21　研究課題名：臨床病期Ⅰ期胃癌に対する腹腔鏡下幽門側胃切除術の開腹幽門側胃切除に対する非劣性を検証するランダム化比較試験（JCOG0912）	山田貴允ほか７名
	22　研究課題名：深達度SS/SE の切除可能胃癌に対する網嚢切除の意義に関するランダム化比較第Ⅲ 相試験（JCOG1001）	山田貴允ほか７名
	23　研究課題名：切除不能進行・再発胃癌を対象としたS-1/シスプラチン併用（CS）療法に対するドセタキセル/シスプラチン/S-1併用（DCS）療法の生存における優越性を検証するランダム化第Ⅲ相試験（JCOG1013）	山田貴允ほか７名
	24　研究課題名：病理学的Stage Ⅱ 胃癌に対するS-1 術後補助化学療法の期間短縮の意義を検討するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1104）	山田貴允ほか７名
	25　研究課題名：高度腹水を伴うまたは経口摂取不能の腹膜転移を有する胃癌に対する5-FU/l-LV 療法vs. FLTAX（5-FU/l-LV+PTX）療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試（JCOG1108）	山田貴允ほか７名
	26　研究課題名：高度リンパ節転移を有するHER2陽性胃がん/胃食道接合部腺がんに対する術前Trastuzumab併用化学療法の意義に関するランダム化Phase Ⅱ試験（JCOG1301C）	山田貴允ほか７名
	27　研究課題名：臨床病期I期胃癌に対する腹腔鏡下胃全摘術および腹腔鏡下噴門側胃切除術の安全性に関する非ランダム化検証的試験（JCOG1401）	山田貴允ほか７名

科　別	研　究　課　題	研究者名
	28　研究課題名：術前化学療法によりpCRとなった進行胃癌症例の長期予後調査	大島　貴ほか
	29　研究課題名：胃癌手術におけるサルコペニアの意義を評価する前向きの探索的研究	大島　貴ほか
	30　研究課題名：StageIV胃癌に対するConversion surgery	大島　貴ほか７名
	31　研究課題名：胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術　患者要因での対象拡大の妥当性に関する前向き研究	山田貴允ほか
	32　病理学的Stage Ⅱ/Ⅲで「vulnerable」な80歳以上の高齢者胃癌に対する開始量を減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1507）	山田貴允ほか
	33　局所進行胃癌における術後補助化学療法に対する周術期化学療法の優越性を検証することを目的としたランダム化比較第Ⅲ相試験（JCOG1509）	山田貴允ほか
	34　StageⅢの治癒切除胃癌に対する術後補助化学療法としてのTS-1＋Docetaxel 併用療法とTS-1 単独療法のランダム化比較第Ⅲ相試験JACCRO GC-07（START-2）	山田貴允ほか
	35　ハイリスク消化管間質腫瘍（GIST）に対する完全切除後の治療に関する研究	山田貴允ほか
	36　食道胃接合部癌に対する縦隔リンパ節および大動脈周囲リンパ節の郭清効果を検討する介入研究	大島　貴ほか
	37　Ramucirumab抵抗性進行胃癌に対するramucirumab＋Irinotecan併用療法のインターグループランダム化第Ⅲ相試験（RINDBeRG試験）	山田貴允ほか
	38　T3/T4aもしくはリンパ節転移を有する食道胃接合部腺癌に対する術前S-1＋Oxaliplatin併用療法の第Ⅱ相臨床試験（E-SOX）	尾形高士ほか
	39　T1-T4a/M0胃癌に対する胃全摘術の術後アップリード®摂取の忍容性を検証する第Ⅱ相試験	山田貴允ほか
	40　胃癌に対する全摘術後の末梢神経障害を伴う血清ビタミンB_{12}低下症例を対象に経口ビタミンB_{12}製剤の有効性と製剤の有効性と安全性を検証する多施設共同無作為化比較試験	山田貴允ほか
	41　切除不能進行・再発胃癌に対するニボルマブ治療不応・不耐後の化学療法における有効性と安全性の前向き観察研究（RIVIVE）	山田貴允ほか
	42　切除不能進行性胃癌症例におけるニボルマブのバイオマーカー探索を含めた観察研究（DELIVER 試験）：JACCRO GC-08	山田貴允ほか
	43　切除不能局所進行胸部食道扁平上皮癌に対する根治的化学放射線療法と導入Docetaxel+CDDP+5-FU療法後のConversion Surgeryを比較するランダム化第Ⅲ相試験：JCOG1510	尾形高士ほか
	44　漿膜下浸潤及び漿膜浸潤を伴う進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験：JCOG1711	山田貴允ほか
	45　高齢（70歳以上）の切除可能病期胸部食道扁平上皮がん患者に対する高齢者アセスメントツールの前向き観察研究	尾形高士ほか
	46　食道がんEMR 症例におけるヨード不染帯をバイオマーカーにした多発がん発生のリスクと多発がん発生までの期間の検討に関する多施設共同前向きコホート研究：JEC-1	尾形高士ほか
	47　食道がん内視鏡治療後のヨード不染帯程度別の異時性他臓器がんの発生状況を調査する多施設共同前向きコホート研究：JEC-2	尾形高士ほか
	48　胃がん治癒切除後の大量腹腔内洗浄に関する国際第Ⅲ相比較臨床試	尾形高士ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	験：EXPEL試験	
	49　がんと静脈血栓塞栓症の臨床研究：多施設共同前向き登録研究：Cancer-VTE Registry	山田貴允ほか消化器外科、呼吸器外科、肝胆膵内科、呼吸器内科医師
	50　Stage Ⅰ胃癌に対する胃全摘術におけるアプローチ別のQOL評価：CCOG1504	山田貴允ほか
	51　Stage Ⅰ胃癌に対する噴門側胃切除術と胃全摘術の術後QOL評価：CCOG1602	山田貴允ほか
	52　高度リンパ節転移を伴う進行胃癌に対する術前Docetaxel＋Oxaliplatin＋S-1 の第Ⅱ相試験：JCOG1704	山田貴允ほか
	53　大弯に浸潤する胃上部進行胃癌に対する腹腔鏡下脾温存脾門郭清の安全性に関する第Ⅱ相試験実：JCOG1809	山田貴允ほか
	54　高齢者臨床病期ⅠB-Ⅲ食道癌に対するPaclitaxelと放射腺同時併用療法（PTX+RT）の第Ⅰ/Ⅱ相試験	尾形高士ほか
	55　胃癌術前補助化学療法の対象選択における術前病期診断の妥当性の検討	大島　貴ほか
	56　胃癌手術における術後の経口摂取量の変化についての検討（胃全摘・幽門側胃切除の比較）	大島　貴ほか
	57　高齢者胃癌に対する胃切除術後における体組成変化の検討	大島　貴ほか
	58　胃癌術前補助化学療法の対象選択における術前病期診断の妥当性の検討	大島　貴ほか
	59　進行食道癌主病変に対する術前治療の臨床的効果判定は生存のSurrogate end point となり得るか？	大島　貴ほか
	60　周術期ERAS/ステロイド管理下における食道癌術後CRP値の長期予後予測因子としての有用性	大島　貴ほか
	61　GIST（Gastrointestinal Stromal Tumor）の悪性度、薬剤耐性に関する多施設共同研究	山田　貴允ほか
	62　胃癌周術期のSystemic inflammation scoreと予後の関係	大島　貴ほか
	63　胃癌術後合併症症例と非合併症症例の術後短期の体組成変化の比較	大島　貴ほか
	64　腹腔鏡下胃がん手術修練における腹腔鏡手術経験数と合併症発生割合に関する研究	山田貴允ほか
	65　Stage Ⅳ胃がんにおけるConversion therapy（Adjuvant surgery）の意義に関する国際多施設共同後ろ向き研究（CONVO-GC01）試験におけるサブグループ解析	山田貴允ほか
	66　腹膜播種に対する胃切除術の意義	大島　貴ほか
	67　高齢者特有の胃癌術後合併症リスク因子の検討	大島　貴ほか
	68　胃癌術中出血量が長期成績に与える影響	大島　貴ほか
	69　根治的胃切除術とS-1 補助化学療法を受けたStageⅡ/Ⅲ胃癌におけるESM-1 発現の臨床的意義	神尾一樹ほか
	70　食道癌に対する食道切除後の筋肉量減少が予後に与える影響	下田陽太ほか
	71　胃癌術後のD dimer 上昇は長期予後予測因子となる	大島　貴ほか
	72　胃癌における手術の待機時間は長期生存に影響を与えるか?	熊頭勇太ほか
	73　Clinical-T1bN0M0食道癌に対する総線量低減と予防照射の意義を検証するランダム化比較試験：JCOG1904	尾形高士ほか
	74　cT1-2N0-2胃癌におけるロボット支援下胃切除術の腹腔鏡下胃切除術に対する優越性を検証するランダム化比較試験：JCOG1907	山田貴允ほか
	75　切除可能進行食道扁平上皮癌［cT1N1-3M0-1（M1は鎖骨上リンパ節	尾形高士ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	転移陽性によるM1のみ許容），cT2-3N0-3M0-1（M1は鎖骨上リンパ節転移陽性によるM1のみ許容）］を対象とした5-FU＋ロイコボリン＋オキサリプラチン＋ドセタキセル（FOLFOX+DTX）の併用療法による術前補助化学療法の第Ⅱ相試験	
	76　Trastuzumab deruxtecan施行の切除不能再発胃癌患者に対する至適な制吐療法を検討する多施設共同ランダム化第２相試験：EN-hance試験	大島　貴ほか
	77　胃癌腹膜播種診断におけるCT colonographyの臨床応用に関する後ろ向き観察研究	大島　貴ほか
	78　胃癌手術における顕微鏡的切除断端陽性のリスク因子の検討	大島　貴ほか
	79　再発高リスク消化管間質腫瘍に対する完全切除後の治療に関する研究（STAR ReGISTry）の追跡調査	山田貴允ほか
	80　胃粘液癌の臨床病理学的特徴と予後についての検討	公盛啓介ほか
	81　胃癌・胃GIST患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析：COSMOS-GC-01	大島　貴ほか
	82　治癒切除後にS-1による補助化学療法を受けた局所進行胃癌患者におけるGLI11発現の臨床的意義	大島　貴ほか
	83　JACCRO GC -08試験における血漿検体を用いた可溶性免疫因子のバイオマーカー研究（JACRO GC-08AR）	山田貴允ほか
	84　術前GNRIによる胃癌術後の短期・長期成績についての検討	公盛啓介ほか
	85　リンパ節転移率と術前化学療法後胃癌の術後長期成績についての検討	公盛啓介ほか
	86　術後再発胃癌と非切除胃癌の長期予後についての検討	公盛啓介ほか
	87　胃癌に対する胃切除後の術後経口摂取量に関する後ろ向き観察研究	公盛啓介ほか
	88　術前化学療法後の胃癌ステージ分類（ypStage）の有用性	公盛啓介ほか
	89　胃癌に対する胃切除術の術後経口摂取量に関する後ろ向き観察研究	大島　貴ほか
	90　進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした１次治療としてのMK-3475の単独療法並びにMK-3475、シスプラチン及び５-フルオロウラシルの併用療法とプラセボ、シスプラチン及び５-フルオロウラシルの併用療法を比較する部分盲検化無作為化実薬対照バイオマーカー選択第Ⅲ相試験	大島　貴　ほか
	91　クローディン（CLDN）18.2陽性，HER2陰性の局所進行性切除不能又は転移性胃癌及び食道胃接合部（GEJ）腺癌患者を対象とした，Zolbetuximab (IMAB362) ＋CAPOXとプラセボ＋CAPOXの一次治療としての有効性を比較する，第III相国際多施設共同二重盲検ランダム化試験	大島　貴　ほか
	92　切除不能の局所進行性又は転移性の胃腺癌又は食道胃接合部腺癌の患者を対象とした一次治療としてのtislelizumab（BGB-A317）+白金製剤及びフルオロピリミジンの有効性と安全性をプラセボ+白金製剤及びフルオロピリミジンと比較する無作為化二重盲検プラセボ対照第３相臨床試験	大島　貴　ほか
	93　HER2陰性の切除不能又は転移性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした一次治療としてのMK-3475と化学療法の併用療法と、プラセボと化学療法を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（KEYNOTE-859）	大島　貴　ほか
	94　進行性／転移性食道癌患者を対象とした１次治療としてのMK-3475、シスプラチン及び５-フルオロウラシルの併用療法とプラセボ、シスプ	尾形高士　ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
	ラチン及び５-フルオロウラシルの併用療法を比較する二重盲検無作為化プラセボ対照第Ⅲ相試験	
	95　胃腺癌及び食道胃接合部腺癌患者を対象とした術前・術後補助療法としてMK-3475及び化学療法（XP又はFP）とプラセボ及び化学療法（XP又はFP）を比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（KEYNOTE-585）	大島　貴　ほか
	96　進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした１次治療としてのMK-3475、TS-1及びオキサリプラチンの併用療法とMK-3475、TS-1及びシスプラチンの併用療法の第II相試験（KEYNOTE-659）	大島　貴　ほか
	97　治療歴のない切除不能進行性，再発又は転移性の食道扁平上皮がん患者を対象に，ニボルマブとイピリムマブの併用療法又はニボルマブとフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法をフルオロウラシル及びシスプラチンの併用療法と比較する無作為化第Ⅲ相試験	尾形高士　ほか
	98　切除不能、局所進行再発性又は転移性食道扁平上皮がん患者を対象に、ファーストライン治療としてtislelizumab（BGB-A317）を化学療法と併用した場合の有効性及び安全性を評価する第３相無作為化プラセボ対照二重盲検試験	尾形高士　ほか
	99　HER2陽性進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌患者を対象とした１次治療としてのトラスツズマブ+化学療法+MK-3475療法をトラスツズマブ+化学療法+プラセボ療法と比較する二重盲検無作為化第Ⅲ相試験（KEYNOTE-811）	大島　貴　ほか
	100　ONO-4538 第Ⅲ相試験 胃がんに対する術後補助化学療法における多施設共同二重盲検無作為化試験	山田貴允　ほか
	101　ONO-4538 第Ⅱ/Ⅲ相試験　切除不能な進行又は再発胃がんに対する多施設共同無作為化試験	山田貴允　ほか
	102　ONO-4578第Ⅰ相試験　進行性又は転移性固形がんを対象としたONO-4578単剤投与及びONO-4578とONO-4538の併用投与における非盲検非対照用量漸増及び拡大試験	大島　貴　ほか
	103　根治的化学放射線療法を受ける食道癌患者を対象にMK-3475とプラセボを比較する二重盲検無作為化プラセボ対象第Ⅲ相試験（KEYNOTE-975）	尾形高士　ほか
	104　根治的同時化学放射線療法後に進行していない切除不能食道扁平上皮癌患者を対象に、アテゾリズマブ+Tiragolumab（抗TIGIT抗体）併用投与とアテゾリズマブ単剤投与を検討するランダム化，二重盲検，プラセボ対照第Ⅲ相臨床試験	大島　貴
	105　局所進行切除不能食道扁平上皮癌患者を対象とした、デュルバルマブと根治的化学放射線療法との同時併用を検討する第Ⅲ相ランダム化二重盲検プラセボ対照国際共同他施設共同試験（KUNLUN）	尾形高士　ほか
	106　プラチナ製剤及びフッ化ピリミジン系製剤による１次化学療法を受け疾患進行が認められた進行性胃腺癌又は食道胃接合部腺癌の患者を対象としたMK-3475とパクリタキセルを比較する非盲検無作為化第Ⅲ相試験	大島　貴　ほか
	107　切除不能進行・再発胃癌患者を対象としたTAS-118/Oxaliplatin療法とS-1/Cisplatin療法の他施設共同ランダム化比較第Ⅲ相試験	大島　貴　ほか
	108　フルオロピリミジン系薬剤及びプラチナ系薬剤を含む併用療法に不応又は不耐の食道がんに対する多施設共同非盲検非対照試験	尾形高士　ほか
	109　アジア人の進行固形癌患者を対象としたBI 754091単剤投与及びBI 754091とBI 754111併用投与に関する非盲検，第Ⅰ相試験	尾形高士　ほか

科　別	研　究　課　題	研究者名
消化器外科（大腸）	1　高齢切除不能進行大腸癌に対する全身化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか６名
	2　治癒切除不能進行大腸癌の原発巣切除における腹腔鏡下手術の有用性に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか６名
	3　直腸癌側方リンパ節転移の術前診断能の妥当性に関する観察研究	塩澤　学ほか６名
	4　治癒切除後病理学的StageⅠ/Ⅱ/Ⅲ小腸腺癌に対する術後化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか６名
	5　StageⅢ治癒切除大腸癌に対する術後補助療法としてのアスピリンの有用性を検証する二重盲検ランダム化比較試験	塩澤　学ほか６名
	6　化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変に対するDW-MRIの術前診断能の妥当性に関する研究	塩澤　学ほか６名
	7　直腸癌局所再発に対する術前化学放射線療法の意義に関するランダム化比較第Ⅲ相試験	塩澤　学ほか６名
	8　「再発リスク因子」を有するStageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤　学ほか６名
	9　再発危険因子を有するハイリスクStageⅡ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6またはXELOXの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤　学ほか６名
	10　RAS野生型進行大腸癌患者におけるFOLFOXIRI+CmabとFOLFOXIRI＋Bevの最大腫瘍縮小率（DpR）を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験	塩澤　学ほか６名
	11「RAS 野生型進行大腸癌患者における FOLFOXIRI＋セツキシマブと FOLFOXIRI＋ベバシズマブの 最大腫瘍縮小率（DpR）を検討する無作為化第Ⅱ相臨床試験」におけるバイオマーカー研究	塩澤　学ほか６名
	12　RAS 遺伝子（KRAS/NRAS 遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発 大腸癌患者に対する mFOLFOX6＋ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6 ＋ パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験	塩澤　学ほか６名
	13　RAS遺伝子（KRAS/NRAS 遺伝子）野生型で化学療法未治療の切除不能進行再発 大腸癌患者に対する mFOLFOX6＋ベバシズマブ併用療法と mFOLFOX6＋パニツムマブ併用療法の有効性及び安全性を比較する第Ⅲ相無作為化比較試験における治療感受性、予後予測因子の探索的研究	塩澤　学ほか６名
	14　肛門近傍の下部直腸癌に対する腹腔鏡下手術の前向き第Ⅱ相試験	塩澤　学ほか６名
	15　フッ化ピリミジン系薬剤、オキサリプラチン、イリノテカン、セツキシマブ、ベバシズマブ不応のRAS 野生型切除不能・進行再発大腸癌を対象としたセツキシマブ再投与の有効性・安全性を検討する第Ⅱ相臨床試験	塩澤　学ほか６名
	16　リンチ症候群の拾い上げ及び遺伝子診断に関する　多施設共同研究	塩澤　学ほか６名
	17　FOLFOX plus panitumumab による一次治療抵抗または不耐となったRAS wild-type、切除不能進行・再発大腸癌に対する２次治療としてのFOLFIRI plus panitumumab 療法の有効性に関す多施設共同第Ⅱ 相試験―Liquid Biopsy によるバイオマーカー発現の変化と抗腫瘍効果についての検討―	塩澤　学ほか６名
	18　切除不能進行・再発大腸癌におけるBRAF遺伝子変異に関する多施設共同観察研究	塩澤　学ほか６名
	19　結腸癌の至適切離腸管長に関する前向き研究	塩澤　学ほか６名
	20　55遺伝子発現プロファイリングを用いた新規サブタイプ分類（55	塩澤　学ほか６名

科　別	研　究　課　題	研究者名
	gene classifier; 55GC）とRASファミリー遺伝子変異によるStageⅡおよびStageⅢ大腸がんの再発予測に関する研究	
	21 「下部進行直腸癌に対する腹腔鏡下手術の意義」研究登録症例における追加調査	塩澤　学ほか６名
	22 治癒切除不能な進行・再発の結腸・直腸癌患者に対してラムシルマブとイリノテカン塩酸塩水和物、レボホリナート及びフルオロウラシルを併用したときの安全性及び有効性の評価	塩澤　学ほか６名
	23 全国大腸癌登録事業及び登録情報に基づく研究	塩澤　学ほか６名
	24 肛門管癌の病態解明とStagingに関する研究	塩澤　学ほか６名
	25 虫垂腫瘍の臨床病理学的特徴に関する後ろ向き研究	塩澤　学ほか６名
	26 全国大腸癌肝転移登録事業及び登録情報に基づく研究	塩澤　学ほか６名
	27 RAS遺伝子野生型の治癒切除不能進行・再発大腸癌に対する一次治療での抗VEGF抗体薬と抗EGFR抗体薬併用療法の有効性を腫瘍占拠部位別に比較する観察研究	塩澤　学ほか６名
	28 後期高齢者低位直腸癌（高リスクpT1、低リスクpT2）に対する準標準的治療を評価する多施設共同前向き観察研究	塩澤　学ほか６名
	29 直腸癌治療における側方郭清に関する多施設前向き観察研究	塩澤　学ほか６名
	30 次世代医療機器開発へ向けた内視鏡外科手術における暗黙知のデータベース構築	塩澤　学ほか６名
	31 直腸癌におけるOne Step Nucleic Acid Amplification 法を用いた側方リンパ節転移予測	塩澤　学ほか６名
	32 腹腔鏡下直腸癌手術における腹膜外経路人工肛門造設術の安全性に関する 非ランダム化検証的試験	塩澤　学ほか６名
	33 腹腔鏡下直腸癌手術後の縫合不全予防に対する近赤外光観察を用いた腸管血流評価の有効性に関するランダム化比較試験	塩澤　学ほか６名
	34 RAS 遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験ランダム化比較試験	塩澤　学ほか６名
	35 RAS 遺伝子野生型切除不能進行・再発大腸癌における二次治療FOLFIRI＋ラムシルマブ併用療法の第Ⅱ相試験におけるバイオマーカー研究	塩澤　学ほか６名
	36 肥満大腸癌患者に対する腹腔鏡下手術の腫瘍学的安全性を評価する後ろ向き試験	塩澤　学ほか６名
	37 結腸・直腸癌を含む消化器・腹部悪性腫瘍患者を対象としたリキッドバイオプシーに関する研究 GI-screen付随研究	塩澤　学ほか６名
	38 進行再発大腸癌におけるAngiogenesis Panelを検討する多施設共同研究	塩澤　学ほか６名
	39 抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者に対するctDNA解析に基づくパニツムマブ+イリノテカン療法リチャレンジの有効性と安全性を探索する第Ⅱ相試験	塩澤　学ほか６名
	40 抗EGFR抗体薬の治療歴のあるRAS/BRAF V600E野生型の切除不能進行・再発大腸癌患者を対象としたctDNA解析によるRAS変異モニタリングの臨床的有用性を評価する観察研究	塩澤　学ほか６名
	41 治癒切除不能な固形悪性腫瘍における血液循環腫瘍DNA のがん関連遺伝子異常及び腸内細菌叢のプロファイリング・モニタリングの多施設共同研究	塩澤　学ほか６名
	42 直腸癌術後骨盤内再発に対する重粒子線治療に関する有効性安全性試験	塩澤　学ほか６名

科　別	研　究　課　題	研究者名
	43　大腸癌Oligometastases切除例に対するmFOLFOXIRI療法の第Ⅱ相試験	塩澤　学ほか６名
	44　切除不能な進行・再発大腸癌に対する初回治療としてのCAPOXIRI＋ベバシズマブ療法とFOLFOXIRI +ベバシズマブ療法の多施設共同ランダム化第Ⅱ相臨床研究	塩澤　学ほか６名
	45　大腸癌・大腸進行腺腫患者の血液循環腫瘍DNAのゲノム・エピゲノム統合解析	塩澤　学ほか６名
	46　腹腔鏡下直腸癌術後性機能障害に関する多施設前向き観察研究	塩澤　学ほか６名
	47　高齢者StageⅢ大腸癌に対する術後補助化学療法の現状調査	塩澤　学ほか６名
	48　右側結腸癌のリンパ節転移に関する多施設前向き研究	塩澤　学ほか６名
	49　大腸切除術の機能的端々吻合における術後合併症に関する前向きコホート緩急	塩澤　学ほか６名
	50　切除不能進行直腸癌に対するFOLFOXIRI療法の治療効果と安全性に関する観察研究	塩澤　学ほか６名
	51　左右部位別のStageⅢ大腸がんリンパ節/遠隔転移進展形式と分子生物学的profileの関連性の探索研究	塩澤　学ほか６名
	52　内視鏡外科手術の多施設データベース構築	塩澤　学ほか６名
	53　血液循環腫瘍DNA陰性の高リスクStageⅡ及び低リスクStageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのCAPOX療法と手術単独を比較するランダム化第Ⅲ相比較試験	塩澤　学ほか６名
	54　根治的外科治療可能の結腸・直腸癌を対象としたレジストリ研究	塩澤　学ほか６名
	55　臨床病期Ⅰ-Ⅲ大腸癌の原発巣切除前のCT検査で認められ良悪性の診断が得られない肺結節（Indeterminate Pulmonary Nodule：IPN）に関する多施設共同前向き観察研究	塩澤　学ほか６名
	56　腹腔鏡下大腸切除術における硬膜外麻酔の使用有無による術後鎮痛効果の検討	塩澤　学ほか６名
	57　腹腔鏡下直腸癌切除における技術認定医手術参加の有用性に関する検討	塩澤　学ほか６名
	58　中央部横行結腸癌に対する腹腔鏡下拡大結腸右半切除と腹腔鏡下横行結腸切除の治療成績を検討する多施設共同観察研究	塩澤　学ほか６名
	59　中央部進行横行結腸癌に対する開腹手術と腹腔鏡手術の治療成績を検討する多施設共同観察研究"	塩澤　学ほか６名
	60　切除可能な大腸癌肝転移及びその他の遠隔臓器転移に対する遺伝子異常に基づく個別化周術期治療の開発を目的とした多施設共同研究	塩澤　学ほか６名
	61　直腸癌検体CRM評価のための新しい切り出し方法（準MERCURY、部分環状切開法）導入に関する多施設共同研究	塩澤　学ほか６名
	62　大動脈周囲リンパ節転移の治療方針に関する研究	塩澤　学ほか６名
	63　RAS遺伝子変異型腫瘍を有する切除不能進行・再発大腸癌患者における化学療法後の血液中RAS遺伝子変異を評価する観察研究	塩澤　学ほか６名
	64　切除不能進行がんおよび転移・再発固形がん患者に対するElectronic Patient-Reported Outcome（ePRO）モニタリングの有用性を検証する多施設共同非盲検ランダム化比較試験	塩澤　学ほか６名
	65　腹腔鏡下右側結腸癌手術における体腔内吻合の安全性に関する前向き観察研究	塩澤　学ほか６名
	66　リキッドバイオプシーを用いた切除不能大腸癌に対する血管新生阻害薬の効果予測	塩澤　学ほか６名
	67　閉塞性大腸癌におけるステント治療が腫瘍細胞と予後に与える影響	塩澤　学ほか６名

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
消化器外科（肝胆膵）	1　膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）「膵がん切除後の補助化学療法における塩酸ゲムシタビン療法とS-1療法の第Ⅲ相比較試験」（研究代表者　上坂克彦：静岡県立静岡がんセンター肝胆膵外科）	森永聡一郎ほか７名
	2　厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究（SURF trial）」研究代表者　國土典宏：東京大学肝胆膵外科	森永聡一郎ほか
	3　厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業H22-がん臨床「膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究」JSAP-04「膵がん切除患者を対象としたゲムシタビンとS-1の併用療法（GS療法）をゲムシタビン単独療法と比較する術後補助化学療法のランダム化第Ⅲ相試験」JSAP-04研究代表者小菅智男　国立がん研究センター中央病院	森永聡一郎ほか
	4　厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「膵癌術前化学療法としてのGemcitabine+S-1 療法（GS療法）の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験（Prep-02/JSAP-05）」研究代表者　海野倫明　東北大学　消化器外科	森永聡一郎ほか
	5　膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）「切除可能膵癌に対する術前治療としてのS-1併用放射線療法とゲムシタビン+ S-1併用療法のランダム化第Ⅱ相試験、JASPAC 04」研究代表者　上坂克彦	森永聡一郎ほか
	6　膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）「Borderline resectable膵癌に対する術前S-1併用放射線療法の第Ⅱ相試験、JASPAC 05」研究代表者　池田公史, 国立がん研究センター東病院 肝胆膵腫瘍科	森永聡一郎ほか
	7　Japan Clinical Oncology Group（日本臨床腫瘍研究グループ）「根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法の第Ⅲ相試験JCOG1202」研究代表者　小西　大　国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科	森永聡一郎ほか
	8　文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（S）括的統合的アプローチによる日本人早期膵癌の高精度診断の具現化、膵臓癌の診療向上のための分子遺伝学的および分子疫学的研究　研究代表者　森　正樹　大阪大学消化器外科	森永聡一郎
	9　Japan Clinical Oncology Group（日本臨床腫瘍研究グループ）「切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対象比較試験　JCOG1315」研究代表者：　帝京大学医学部外科学講座　佐野圭二	森永聡一郎ほか
	10　平成27年度日本医療研究開発機構研究費AMED（革新的がん医療実用化研究事業）「Borderline resectable膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究」「Borderline Resectable 膵癌を対象とした術前ゲムシタビン+ナブパクリタキセル療法と術前S-1併用放射線療法のランダム化比較試験、AMED　GABARNANCE Trial」研究代表者：高橋進一郎　国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科	森永聡一郎
	11　多施設共同臨床研究組織（J-CROS）先進Ｂ　局所進行膵癌に対するゲムシタビン併用重粒子線治療に関する有効性・安全性試験計画書 J-CROS 1502 Pancreas　研究代表者：鎌田　正　放射線医学総合研究所　病院	
	12　ヒト膵癌幹細胞の特性解析および分子発現のプロファイリング　研究代表者：大学院医学研究科臓器再生医学教授　谷口英樹	森永聡一郎ほか
	13　プロテオミクスによるがん患者の新規血清診断マーカーの開発　研	森永聡一郎

科　別	研　究　課　題	研　究　者　名
	究代表者　横浜市立大学医学部外科治療学　大島　貴	
	14　がん特異的な突然変異遺伝子に由来するがん膠原の同定　研究代表者　神奈川県立がんセンター　臨牀研究所　笹田哲郎	森永聡一郎ほか
	15　臨床研究所共同研究　膵癌術後補助化学療法施行例のtissue microarrayを　用　い　た、long noncording RNA（HOTAIR, MALAT, HOTTIP, PVT, H19）の発現と生物学的統制の解析	宮城洋平ほか１名
	16　膵癌術後再発症例におけるFOLFIRINOX療法の忍容性について、JASPAC06　副次研究	森永聡一郎ほか１名
	17　Health-related Quality of Life of Adjuvant Chemotherapy with S-1 Versus Gemcitabine for Resected Pancreatic Cancer：Results from a Randomized Phase Ⅲ Trial（JASPAC 01）	森永聡一郎ほか１名
	18　胆管癌組織におけるWilms Tumor1（WT1）分子の発現と生物学的特性の解析	笹田哲郎ほか１名
	19　膵神経内分泌腫瘍における予後予測因子ならびに転移・浸潤機構の解明	四元宏和ほか１名
	20　中部胆管癌に対するPDと胆管切除の比較	森永聡一郎
	21　肝内胆管癌に対するリンパ節郭清範囲の標準化：完全郭清 vs サンプリング	森永聡一郎
	22　浸潤性膵管癌切除後の残膵再発に対する再切除の意義の検討	村川正明
	23　Borderline resectable 膵癌に対する術前S-1併用放射線療法後のCT検査における切除可能性診断法の検討	森永聡一郎
	24　膵・消化管および肺・気管支・胸腺神経内分泌腫瘍の患者悉皆登録研究	森永聡一郎
	25　膵癌術前治療後症例における組織学的評価法の検討	森永聡一郎
	26　腹腔洗浄細胞診陽性と診断された膵がん症例に関する後ろ向き観察研究	森永聡一郎
	27　肝内胆管癌組織における免疫抑制分子の発現解析と臨床的意義の検討	山本直人
	28　long noncoding RNA（HOTTIP, PVT1, H19）の発現は膵癌術後補助化学療法の効果予測因子となるか？	神谷真梨子
	29　切除不能膵癌に対するFOLFIRINOX療法またはゲムシタビン＋ナブパクリタキセル併用療法により切除可能と判断された膵癌患者の登録解析研究	森永聡一郎
	30　十二指腸癌外科的切除症例の臨床病理学的因子と予後に関する研究	森永聡一郎
	31　膵癌PDXの遺伝子発現解析を用いた膵癌治療標的分子の同定	上岡祐人
頭　頸　部　外　科	1　頭頸部癌に対する薬物療法の検討	古川まどかほか３名
	2　頭頸部癌頸部リンパ節転移診断基準多施設研究（科学研究費補助金基盤研究Ｃ）（日本超音波医学会研究開発委員会助成）「厚生労働科学研究費補助金　がん臨床研究事業　頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する標準的手術法の確立に関する研究」班による研究の継続として施行中）	古川まどかほか３名
	3　超音波診断による頭頸部癌の治療効果判定と予後因子の解析	古川まどかほか３名
	4　造影超音波による頭頸部癌リンパ節転移診断研究	古川まどかほか３名
	5　頭頸部癌放射線治療による唾液腺超音波像の変化と口内乾燥に関するQOLの検討（かながわ県立病院がん基金研究助成金）	古川まどかほか３名
	6　唾液腺癌頸部リンパ節転移超音波診断に関する研究	古川まどかほか３名

科　　別	研　　究　　課　　題	研　究　者　名
	7　臨床的N0早期舌癌における免疫的特徴と予後因子の検討	古川まどかほか４名
	8　超音波診断による早期頭頸部癌深達度判定と予後因子の解析	古川まどかほか３名
	9　臨床的N0早期舌癌における遺伝子的特徴と予後因子の検討	橋本香里ほか３名
婦　　人　　科	1　日本人進行固形がん悪性腫瘍患者を対象とするTisotumab Vedotinの非盲検第Ⅰ/Ⅱ相試験	加藤久盛
	2　プラチナ系化学療法の実施中又は実施後に病勢進行が認められた切除不能進行頚癌患者を対象としたBintrafusp alfa（M7824）単剤療法の第Ⅱ相他施設共同非盲検試験	加藤久盛
	3　プラチナ製剤を含む化学療法による一時治療が奏功した卵巣癌患者を対象に、Rucapalib 及び　ニボルマブの維持療法を検討する、多施設共同、無作為化、二重盲検、プラセボ対照、第Ⅲ相試験（ATHENA）	加藤久盛
	4　JCOG1412リンパ節転移リスクを有する子宮体癌に対する傍大動脈リンパ節郭清の治療的意義に関するランダム化第Ⅲ相試験	小野瀬　亮
	5　JCOG1402子宮頸癌術後再発高リスクに対する強度変調放射線治療（IMRT）を用いた術後同時化学療法の多施設共同非ランダム化検証的試験	加藤久盛
	6　JGOG3020ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌Ⅰ期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第Ⅲ相比較試験	若林玲南
	7　本邦における婦人科悪性腫瘍合併妊娠の調査	祐森明日菜
	8　ONO-4538 ヒト型抗PD-1抗体　第Ⅲ相試験　卵巣がんに対する多施設共同非盲検無作為化試験	加藤久盛
	9　個別化医療に向けたマルチプレックス遺伝子パネル検査研究（Protocol No. NCCH1616）	加藤久盛ほか
	10　子宮頸がん根治的放射線治療における組織内照射併用腔内照射の第Ⅰ/Ⅱ相試験	加藤久盛
	11　JCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）－バイオバンク・ジャパン連携バイオバンク	小野瀬　亮
	12　卵巣明細胞腺癌が産生するTFPI2の臨床病理学的解析	加藤久盛
	13　卵巣がんにおけるIL-34関連分子発現の解析	加藤久盛
	14　子宮体がんリンパ節転移予測診断マーカーを用いた術中迅速検査技術の開発	加藤久盛ほか
	15　当院におけるOlaparibの使用経験	上野悠太
	16　卵巣がん患者血清における腫瘍マーカーの解析	加藤久盛ほか
	17　リムパーザ錠100mg、150mg使用成績調査白金系抗悪性腫瘍剤感受性の再発卵巣癌患者を対象とした全例調査	加藤久盛ほか
	18　BRCA遺伝子検査に関するデータベースの作成	加藤久盛
	19　JCOG1203上皮性卵巣癌の妊孕性温存治療の対象拡大のための非ランダム化検証的試験	加藤久盛ほか
	20　JCOG1101：腫瘍径２cm以下の子宮頸癌ＩＢ１期に対する準広汎子宮全摘術の非ランダム化検証的試験	加藤久盛ほか
	21　JCOG1311試験　ⅣＢ期および再発・増悪・残存子宮頸癌に対するConventional Paclitaxel/Carboplatin±Bevacizumab併用療法 vs. Dose-dense Paclitaxel/Carboplatin±Bevacizumab併用療法のランダム化第Ⅱ/Ⅲ相比較試験	加藤久盛ほか
	22　局所進行子宮頸部腺癌に対する炭素イオン線治療の第Ⅱ相臨床試験	加藤久盛ほか
	23　日本産科婦人科学会データベース登録事業（婦人科腫瘍登録）	加藤久盛ほか２名

科　別	研　究　課　題	研究者名
	24　子宮頸部上皮内腫瘍に対するME2906及び半導体レーザーを用いた光線力学的療法の多施設共同臨床第Ⅱ相試験（医師主導試験） 25　術前スコアリングを用いた子宮体癌治療成績 26　地域がんセンターにおける個別化スコアを用いた子宮体癌の術式選択　～開腹手術での実績を踏まえた，腹腔鏡下手術の実践と工夫～ 27　AYA（Adolescence and Young Adult）世代がんの個別化予防に資する遺伝要因の同定を目指す研究	近内勝幸 近内勝幸 北川雅一 北川雅一
骨軟部腫瘍外科	1　高悪性度非円形細胞軟部肉腫に対するIfosfamide，Adriamycinによる補助化学療法の第２相臨床試験（JCOG 0304） 2　骨肉腫術後補助化学療法におけるIfosfamide併用の効果に関するランダム化比較試験（JCOG 0905） 3　脊椎および骨盤骨に発生した骨肉腫･骨悪性線維性組織球腫に対する至適局所治療に関する多施設共同レトロスペクティブ研究（HOPES 003） 4　病巣掻爬可能骨巨細胞腫に対する術前デノスマブ療法のランダム化第Ⅲ相試験（JCOG 1610） 5　ドキソルビシン治療後の進行軟部肉腫に対する二次治療におけるトラベクテジン、エリブリン、パゾパニブのランダム化第Ⅱ相試験（JCOG 1802）	比留間　徹 比留間　徹 比留間　徹 比留間　徹 比留間　徹ほか１名
放射線診断・IVR科	1　骨シンチグラフィは薬剤関連顎骨壊死の早期発見が可能か？ BSIを用いた定量評価における検討 2　日本発放射性薬剤64Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究（AMED）	山本弥生ほか２名 栗原宏明ほか４名
東洋医学科	1　漢方サポートとがんのQOL	板倉英俊
免疫療法科	1　完全切除された非小細胞肺がんに対する術後補助化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン維持療法の第２相試験 2　難治性軟部肉腫に対するNY-ESO-1抗原を標的としたワクチン併用TCR遺伝子改変T細胞輸注療法の多施設共同医師主導治験 3　標準療法不応進行膵癌に対するS-1併用WT1ペプチドパルス樹状細胞（TLP0-001）の安全性・有効性を検討する二重盲検ランダム化比較試験 4　標準治療不応の切除不能な進行・再発胃がんに対する局所放射線療法とNivolumab（抗PD-1抗体）併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相臨床試験 5　免疫チェックポイント阻害剤治療におけるバイオマーカー同定および耐性メカニズムの解明 6　進行・再発非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤の患者層別化マーカーに関する探索的研究 7　放射線治療の免疫学的影響の解析 8　進行・再発胃がんにおける免疫チェックポイント阻害剤の患者層別化マーカーに関する探索的研究	笹田哲朗ほか ほか国内５施設 笹田哲朗ほか ほか国内７施設 笹田哲朗ほか ほか国内14施設 笹田哲朗ほか ほか国内１施設 笹田哲朗ほか ほか国内３施設 笹田哲朗ほか ほか国内３施設 氷室秀知ほか ほか国内１施設 笹田哲朗ほか ほか国内３施設
看護局	1　乳がん手術における入院前問診・術前オリエンテーション実施の効果の検討～患者満足度調査から～ 2　血液疾患患者と家族の終末期療養を支援するための外来看護師の役割 3　外来部門における看護連携～外来化学療法患者の外来診療科看護師との連携を振り返る～ 4　CVポート抜針指導～抜針の再指導が必要となった患者の事例を通して見えてきた今後の課題～	瀬畑善子　他 平野弘美　他 加藤英里　他 松﨑舞衣　他

第２節　研　究　業　績

糖尿病・内分泌内科

著書

1　**堀井三儀**，寺内康夫：腫瘍糖尿病学Q&A　がん患者さんの糖尿病診療マニュアル．金芳堂，118-132，2020.

学会等発表

1　**堀井三儀**，寺内康夫．当院における膵全摘後糖尿病患者の臨床経過．第63回日本糖尿病学会年次学術集会，Web，10/2020.

呼吸器内科

発表論文

1　Kenmotsu H, Niho S, Tsuboi M, Wakabayashi M, Ishii G, Nakagawa K, Daga H, Tanaka H, **Saito H**, Aokage K, Takahashi T, Menju T, Kasai T, Yoshino I, Minato K, Okada M, Eba J, Asamura H, Ohe Y, Watanabe SI: Randomized PhaseⅢ Study of Irinotecan Plus Cisplatin Versus Etoposide Plus Cisplatin for Completely Resected High-Grade Neuroendocrine Carcinoma of the Lung JCOG1205/1206. J Clin Oncol, 38(36): 4292-4301, 2020

2　Fukuhara T, **Saito H**, Furuya N, Watanabe K, Sugawara S, Iwasawa S, Tsunezuka Y, Yamaguchi O, Okada PM, Yoshimori K, Nakachi I, Gemma PA, Azuma K, Kurimoto F, Tsubata Y, Fujita Y, Nagashima H, Asai G, Watanabe S, Miyazaki M, Hagiwara PK, Nukiwa PT, Morita PS, Kobayashi PK, Maemondo PM：Evaluation of plasma EGFR mutation as an early predictor of response of erlotinib plus bevacizumab treatment in the NEJ026 study. EBioMedicine, 57, 2020

3　Manabe S, Kasajima R, **Murakami S**, Miyagi Y, Yokose T, **Kondo T**, **Saito H**, Ito H, Kaneko T, Yamada K: Analysis of targeted somatic mutations in pleomorphic carcinoma of the lung using next-generation sequencing technique. Thorac Cancer, 11(8): 2262-2269, 2020

4　Okishio K, Morita R, Shimizu J, **Saito H**, Sakai H, Kim YH, Hataji O, Yomota M, Nishio M, Aoe K, Kanai O, Kumagai T, Kibata K, Tsukamoto H, Oizumi S, Fujimoto D, Tanaka H, Mizuno K, Masuda T, Kozuki T, Haku T, Suzuki H, Okamoto I, Hoshiyama H, Yada N, Ohe Y: Nivolumab treatment of elderly Japanese patients with non-small cell lung cancer.subanalysis of a real-world retrospective observational study (CA209-9CR). ESMO Open, 5(4), 2020

5　Zenke Y, Niho S, Umemura S, Ishihara M, Seki N, Nogami N, Hosomi Y, Shimokawa T, Tokito T, Goto Y, Miura Y, **Saito H**, Hida N, Ikeda S, Tanaka H, Furuya N, Misumi T, Yamanaka T, Ohe Y, Okamoto H: Phase Ⅰ/Ⅱ study of carboplatin plus weekly nab-paclitaxel in patients aged≥75 years with squamous-cell lung cancer (TORG1322). Lung Cancer,146: 182-188, 2020

6　Nemoto D, Yokose T, Katayama K, **Murakami S**, **Kato T**, **Saito H**, Suzuki M, Eriguchi D, Samejima J, Nagashima T, Ito H, Yamada K, Nakayama H, Masuda M: Tissue surface area and tumor cell count affect the success rate of the Oncomine Dx Target Test in the analysis of biopsy tissue samples. Thorac Cancer, 12(2): 194-200, 2021

7　Shimokawa T, Yamada K, Tanaka H, Kubota K, Takiguchi Y, Kishi K, **Saito H**, Hosomi Y, **Kato T**, Harada D, Otani S, Kasai T, Nakamura Y, Misumi T, Yamanaka T, Okamoto H: Randomized phase Ⅱ trial of S-1 plus cisplatin or docetaxel plus cisplatin with concurrent thoracic radiotherapy for inoperable stage Ⅲ non-small cell lung cancer. Cancer Med, 10(2):6 26-633, 2020

8　Moda M, **Saito H**, **Kato T**, **Usui R**, **Kondo T**, **Nakahara Y**, **Murakami S**, Yamamoto K, Yamada K: Tumor invasion in the central airway is a risk factor for early-onset checkpoint inhibitor pneumonitis in patients with non-small cell lung cancer. Thorac Cancer, 11(12): 3576-3584, 2020

9　Onozawa H, **Saito H**, Sunami K, Kubo T, Yamamoto N, Kasajima R, Ohtsu T, Hiroshima Y, Kanamori H, Yokose T, Miyagi Y: Lung adenocarcinoma in a patient with a cis EGFR L858R-K860I doublet mutation identified using NGS-based profiling test: Negative diagnosis on initial companion test and successful treatment with osimertinib. Thorac Cancer, 11(12): 3599-3604, 2020

10　Wu YL, Tsuboi M, He J, John T, Grohe C, Majem M, Goldman JW, Laktionov K, Kim SW, **Kato T**, Vu HV, Lu S, Lee KY, Akewanlop C, Yu CJ, de Marinis F, Bonanno L, Domine M, Shepherd FA, Zeng L, Hodge R, Atasoy A, Rukazenkov Y, Herbst RS: Osimertinib in Resected EGFR-Mutated Non-Small-Cell Lung Cancer. N Engl J Med, 383(18): 1711-1723, 2020

11　Paik PK, Felip E, Veillon R, Sakai H, Cortot AB, Garassino MC, Mazieres J, Viteri S, Senellart H, Van Meerbeeck J, Raskin J, Reinmuth N, Conte P, Kowalski

D, Cho BC, Patel JD, Horn L, Griesinger F, Han JY, Kim YC, Chang GC, Tsai CL, Yang JC, Chen YM, Smit EF, van der Wekken AJ, Kato T, Juraeva D, Stroh C, Bruns R, Straub J, Johne A, Scheele J, Heymach JV, Le X: Tepotinib in Non-Small-Cell Lung Cancer with MET Exon 14 Skipping Mutations. N Engl J Med, 383(10): 931-943, 2020

12 Rudin CM, Awad MM, Navarro A, Gottfried M, Peters S, Csőszi T, Cheema PK, Rodriguez-Abreu D, Wollner M, Yang JC, Mazieres J, Orlandi FJ, Luft A, Gümüş M, Kato T, Kalemkerian GP, Luo Y, Ebiana V, Pietanza MC, Kim HR:Pembrolizumab or Placebo Plus Etoposide and Platinum as First-Line Therapy for Extensive-Stage Small-Cell Lung Cancer: Randomized, Double-Blind, Phase Ⅲ KEYNOTE-604 Study. J Clin Oncol, 38(21): 2369-2379, 2020

13 Ikeda S, Kato T, Kenmotsu H, Ogura T, Iwasawa S, Sato Y, Harada T, Kubota K, Tokito T, Okamoto I, Furuya N, Yokoyama T, Hosokawa S, Iwasawa T, Yamanaka T, Okamoto H: A Phase 2 Study of Atezolizumab for Pretreated NSCLC With Idiopathic Interstitial Pneumonitis. J Thorac Oncol, 15(12): 1935-1942, 2020

14 Faivre-Finn C, Vicente D, Kurata T, Planchard D, Paz-Ares L, Vansteenkiste JF, Spigel DR, Garassino MC, Reck M, Senan S, Naidoo J, Rimner A, Wu YL, Gray JE, Özgüroğlu M, Lee KH, Cho BC, Kato T, de Wit M, Newton M, Wang L, Thiyagarajah P, Antonia SJ: Four-Year Survival With Durvalumab After Chemoradiotherapy in Stage Ⅲ NSCLC-an Update From the PACIFIC Trial. J Thorac Oncol, 16(5): 860-86715, 2021

16 Gemma A, Kusumoto M, Sakai F, Endo M, Kato T, Saito Y, Baba T, Sata M, Yamaguchi O, Yabuki Y, Nogi Y, Jinushi M, Sakamoto K, Sugeno M, Tamura R, Tokimoto T, Ohe Y: Real-World Evaluation of Factors for Interstitial Lung Disease Incidence and Radiologic Characteristics in Patients With EGFR T790M-positive NSCLC Treated With Osimertinib in Japan. J Thorac Oncol, 15(12): 1893-1906, 2020

17 Ohe Y, Kato T, Sakai F, Kusumoto M, Endo M, Saito Y, Baba T, Sata M, Yamaguchi O, Sakamoto K, Sugeno M, Tamura R, Tokimoto T, Shimizu W, Gemma A: Real-world use of osimertinib for epidermal growth factor receptor T790M-positive non-small cell lung cancer in Japan. Jpn J Clin Oncol, 50(8): 909-919, 2020

18 Sakai K, Takahama T, Shimokawa M, Azuma K, Takeda M, KatoT, Daga H, Okamoto I, Akamatsu H, Teraoka S, Ono A, Ohira T, Yokoyama T, Yamamoto N, Nakagawa K, Nishio K: Predicting osimertinib-treatment outcomes through EGFR mutant-fraction monitoring in the circulating tumor DNA of EGFR T790M-positive patients with non-small cell lung cancer (WJOG8815L). Mol Oncol, 15(1): 126-137, 2021

19 Miura S, Yamanaka T, Kato T, Ikeda S, Horinouchi H, Ichihara E, Kanazu M, Takiguchi Y, Tanaka K, Goto Y, Sata M, Hagiwara K, Okamoto H, Tanaka H: Treatment Rationale and Design of a Phase Ⅲ Study of Afatinib or Chemotherapy in Patients with Non-small-cell Lung Cancer Harboring Sensitizing Uncommon Epidermal Growth Factor Receptor Mutations (ACHILLES/TORG1834). Clin Lung Cancer, 21(6): e592-e596, 2020

20 Murakami S, Yokose T, Nemoto D, Suzuki M, Usui R, Nakahara Y, Kondo T, Kato T, Saito H: Suitability of Bronchoscopic Biopsy Tissue Samples for Next-Generation Sequencing. Diagnostics (Basel). 11(3): 391, 2021

21 Blackhall F, Jao K, Greillier L, Cho BC, Penkov K, Reguart N, Majem M, Nackaerts K, Syrigos K, Hansen K, Schuette W, Cetnar J, Cappuzzo F, Okamoto I, Erman M, Langer SW, Kato T, Groen H, Sun Z, Luo Y, Tanwani P, Caffrey L, Komarnitsky P, Reinmuth N: Efficacy and Safety of Rovalpituzumab Tesirine Compared With Topotecan as Second-Line Therapy in DLL3-High SCLC. Results From the Phase 3 TAHOE Study. J Thorac Oncol, 6: S1556-0864(21)01709-3, 2021

22 Lu S, Casarini I, Kato T, Cobo M, Özgüroğlu M, Hodge R, van der Gronde T, Saggese M, Ramalingam SS:Osimertinib Maintenance After Definitive Chemoradiation in Patients With Unresectable EGFR Mutation Positive Stage Ⅲ Non-small-cell Lung Cancer(LAURA Trial in Progress). Clin Lung, 6: S1525-7304(20)30337-5, 2021,

23 Takeda M, Shimokawa M, Nakamura A, Nosaki K, Watanabe Y, Kato T, Hayakawa D, Tanaka H, Takahashi T, Kogure Y, Tachihara M, Fujimoto D, Yamaguchi K, Hamaguchi N, Okamoto I, Azuma K, Hasegawa K, Yamamoto N, Nakagawa K: A Phase Ⅱ Study to Assess the Efficacy of Osimertinib in Patients With EGFR Mutation-positive NSCLC Who Developed Isolated CNS Progression (T790M-negative or Unknown) During First- or Second-generation EGFR-TKI or Systemic Disease Progression (T790M-negative) After Treatment With First- or Second-generation EGFR-TKI and Platinum-based Chemotherapy (WJOG12819L). Clin Lung Cancer, 25: S1525-7304(20)30352-1, 2021

24 Shibaki R, Akamatsu H, Kato T, Nishino K, Okada M, Mitsudomi T, Wakuda K, Yoshimura K, Yamamoto

N, Nakagawa K: A phase Ⅱ study of cisplatin plus vinorelbine combined with atezolizumab as adjuvant therapy for completely resected non-small-cell lung cancer with EGFR mutation (West Japan Oncology Group 11719L/ADJUST study). Ther Adv Med Oncol, 13: 1758835920987647, 2021

25 Faivre-Finn C, Spigel DR, Senan S, Langer C, Perez BA, Özgüroğlu M, Daniel D, Villegas A, Vicente D, Hui R, **Murakami S**, Paz-Ares L, Broadhurst H, Wadsworth C, Dennis PA, Antonia SJ: Impact of prior chemoradiotherapy-related variables on outcomes with durvalumab in unresectable StageⅢNSCLC (PACIFIC). Lung Cancer, 151: 30-38, 2021

26 Shibata Y, **Murakami S**: Safety evaluation of durvalumab for the treatment of non-small-cell lung cancer. Expert Opin Drug Saf, 19(6): 653-659, 2020

27 Mizuno T, Horinouchi H, Watanabe S, Sato J, Morita R, **Murakami S**, Goto Y, Kanda S, Fujiwara Y, Yamamoto N, Ohe Y: Number of metastatic organs negatively affects the treatment sequence in patients with EGFR-TKI failure. Thorac Cancer, 11(4): 1038-1044, 2020

28 Shibaki R, **Murakami S**, Shinno Y, Matsumoto Y, Yoshida T, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Yamamoto N, Ohe Y: Predictive value of serum VEGF levels for elderly patients or for patients with poor performance status receiving anti-PD-1 antibody therapy for advanced non-small-cell lung cancer.Cancer Immunol Immunother, 69(7): 1229-1236, 2020

29 **Murakami S**, Shibaki R, Matsumoto Y, Yoshida T, Goto Y, Kanda S, Horinouchi H, Fujiwara Y, Yamamoto N, Ohe Y: Association between serum level soluble programmed cell death ligand 1 and prognosis in patients with non-small cell lung cancer treated with anti-PD-1 antibody. Thorac Cancer, 11(12): 3585-3595, 2020

30 Miyamoto S, Azuma K, Ishii H, Bessho A, Hosokawa S, Fukamatsu N, Kunitoh H, Ishii M, Tanaka H, Aono H, **Nakahara Y**, Kusaka K, Hosomi Y, Kikuchi N, Mori Y, Itani H, Hamada A, Yamada K, Okamoto H: Low-Dose Erlotinib Treatment in Elderly or Frail Patients With EGFR Mutation-Positive Non-Small Cell Lung Cancer: A Multicenter Phase 2 Trial. JAMA Oncol, 6(7): e201250, 2020

31 Okuma Y, Goto Y, Ohyanagi F, Sunami K, **Nakahara Y**, Kitazono S, Kudo K, Tambo Y, Kanda S, Yanagitani N, Horiike A, Horinouchi H, Fujiwara Y, Nokihara H, Yamamoto N, Nishio M, Ohe Y, Hosomi Y: PhaseⅡtrial of S-1 treatment as palliative-intent chemotherapy for previously treated advanced thymic carcinoma. Cancer Med, 9(20): 7418-7427, 2020

32 Ota T, Fukui T, **Nakahara Y**, Takeda T, Uchino J, Mouri T, Kudo K, Nakajima S, Suzumura T, Fukuoka M: Serum immune modulators during the first cycle of anti-PD-1 antibody therapy in non-small cell lung cancer: Perforin as a biomarker. Thorac Cancer, 11(11): 3223-3233, 2020

33 **Nakahara Y**, Shimokawa T, Misumi Y, Nogami N, Shinkai T, Seki N, Hosomi Y, Hida N, Okamoto H: PhaseⅠ/Ⅱ study of erlotinib plus S-1 for patients with previously treated non-small cell lung cancer: Thoracic Oncology Research Group (TORG) 0808/0913. Invest New Drugs, 39(1): 202-20, 2021

34 **Nakahara Y**, Matsutani T, Igarashi Y, Matsuo N, Himuro H, **Saito H**, Yamada K, Murotani K, Hoshino T, Azuma K, Sasada T: Clinical significance of peripheral TCR and BCR repertoire diversity in EGFR/ALK wild-type NSCLC treated with anti-PD-1 antibody. Cancer Immunol Immunother: 2021

35 小野沢博登, **斎藤春洋**, **臼井　亮**, **中原善朗**, **村上修司**, **近藤哲郎**, **加藤晃史**, 壺井貴朗, 江里口大介, 根本大士, 鮫島譲司, 永島琢也, 伊藤宏之, 山田耕三：原発性肺癌術後脳転移症例に影響するリスク因子の検討. 日本がん検診・診断学会誌28巻１号：14-19, 2020

36 **加藤晃史**：進行がんの治療継続をめぐる葛藤の共有がん薬物療法にやめどきはあるか?. 死の臨床43巻1号：63-65, 2020

37 丸山雄一郎, 中川　徹, 芦澤和人, 小林　健, **近藤哲郎**, 畠山雅行, 松迫正樹：低線量CT肺がん検診画像の読影自己演習のためのeラーニングシステムの構築. CT検診28巻１号：７, 2021

その他の出版物

1 **近藤哲郎**：病変はどこにありますか？. 肺癌診断会 胸部Ｘ線画像読影トレーニング（第25回）：7-8, 2020

2 **近藤哲郎**:この病変は良性(非がん)？それとも悪性(がん)？. 肺癌診断会　胸部Ｘ線画像読影トレーニング(第26回)：11-12, 2020

3 **加藤晃史**：【免疫チェックポイント阻害薬のirAE（免疫関連有害事象)】注意すべきirAE免疫関連肺臓炎. 医学のあゆみ276巻８号：770-773, 2021

4 **加藤晃史**：エルロチニブ+ベバシズマブ. 肺癌診療虎の巻：212-214, 2021

5 **加藤晃史**：【免疫関連有害現象の対策と治療irAE】肺障害. がん化学療法 副作用対策ハンドブック：250-253, 2020

6 **加藤晃史**：小細胞肺癌. 今日の治療指針：317-318, 2021

7 **加藤晃史**, 柴田祐司：重度の皮膚障害. 免疫チェックポイント阻害薬　使いこなすためのコツ：164-168, 2020

8　**加藤晃史**：免疫関連肺臓炎．医学のあゆみ：770-773，2021

9　**村上修司**：ドライバー遺伝子を対象とした新しい治療薬 RET肺がん．腫瘍内科25巻４号：373-378，2020

10　**中原善朗**：変遷するがん治療アルゴリズム-腫瘍内科からみる標準治療の変遷と診療ガイドライン肺がん．腫瘍内科26巻３号：228-238，2020

学会等発表

1　**村上修司**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，**斎藤春洋**，山田耕三：Pembrolizumab使用後に発症した肺結核の１例．第187回日本肺癌学会関東支部会，web，6/2020

2　**臼井　亮**，**斉藤春洋**，山田太郎，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，山田耕三，伊藤宏之，横瀬智之：進行肺腺癌に対し，細胞障害性抗がん剤とEGFR-TKIを交互に投与することにより病勢制御が得られた１例．第187回日本肺癌学会関東支部会，web，6/2020

3　根本大士，伊藤宏之，小野沢博登，壺井貴朗，江里口大介，鮫島譲司，永島琢也，中山治彦，**臼井　亮**，山田耕三，横瀬智之：肺癌術後の胸腔内に生じたびまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫の１例．第187回日本肺癌学会関東支部会，web，6/2020

4　小野沢博登，**齋藤春洋**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，伊藤宏之，山田耕三，鈴木理樹，横瀬智之，宮城洋平：コンパニオン検査で陰性であったEGFR遺伝子変異がNGSプロファイリング検査で同定された肺腺癌症例．第187回日本肺癌学会関東支部会，web，6/2020

5　**齋藤春洋**，**臼井　亮**，**中原善朗**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**：免疫チェックポイント阻害剤と化学療法の併用治療におけるMixed responseの検討，第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

6　**近藤哲郎**，**中原善朗**，**臼井　亮**，**村上修司**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**：EGFR uncommon mutationに対する第２世代EGFR TKI治療成績に関する検討，第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

7　**中原善朗**，廣島幸彦，**臼井　亮**，**村上修司**，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，鷲見公太，河内香江，横瀬智之，宮城洋平，**齋藤春洋**：胸部腫瘍に対するがん遺伝子プロファイリング検査の現状と課題．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

8　根本大士，横瀬智之，**村　修司**，三浦　隼，小野沢博登，江里口大介，足立広幸，永島琢也，伊藤宏之，中山治彦，鈴木理樹，**臼井　亮**，**中原善朗**，**加藤晃史**，**齋藤春洋**，益田宗孝：Oncomine Dx Target Test解析成否に関する要因の検討．第61回日本肺癌学会学術集会,岡山，11/2020

9　**村上修司**，**中原善朗**，**臼井　亮**，根本大士，**近藤哲郎**，**加藤晃史**，横瀬智之，**齋藤春洋**：気管支鏡検体を用いたオンコマインDx Target TestマルチCDxシステムの解析成功割合向上への取り組み．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

10　増田　健，釼持広知，仁保誠治，坪井正博，若林将史，石井源一郎，駄賀晴子，田中洋史，**齋藤春洋**，青景圭樹，高橋利明，毛受暁史，笠井　尚，吉野一郎，湊　浩一，岡田守人，淺村尚生，大江裕一郎，渡辺俊一：高悪性度神経内分泌肺癌完全切除例に対するIP療法とEP療法のランダム化比較試験：JCOG1205/1206．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

11　岩間映二，坂井和子，高濱隆幸，下川元継，東　公一，武田真幸，**加藤晃史**，駄賀晴子，寺岡俊輔，高橋利明，大平達夫，横山俊秀，山本信之，中川和彦，西尾和人：EGFR T790M変異陽性肺癌患者におけるオシメルチニブ治療とctDNAモニタリング（WJOG8815L）．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

12　池田俊吉，平野勝也，後藤　悌，葉　清隆，**加藤晃史**，細見幸生，臼井一裕，大橋靖雄，田栗正隆，國頭英夫：進行・再発非小細胞肺癌へのニボルマブ治療における効果と至適投与期間予測に関する観察研究（New Epoch）．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

13　池田　慧，**加藤晃史**，釼持広知，岩澤俊一郎，小倉高志，佐藤悠城，原田敏之，久保田　馨，時任高章，岡本勇，古屋直樹，横山俊秀，細川　忍，岩澤多恵，山中竹春，岡本浩明：間質性肺炎を合併した進行・再発非小細胞肺癌に対するアテゾリズマブの第Ⅱ相試験TORG1936/AMBITIOUS試験．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

14　武田真幸，下川元継，中村　敦，野崎　要，渡辺恭孝，**加藤晃史**，早川乃介，田中洋史，高橋利明，沖　昌英，立原素子，藤本大智，山口 覚博，野上尚之，岡本　勇，東　公一，長谷川一男，山本信之，中川和彦：EGFR-TKI治療後CNSPDもしくはプラチナ治療既治療（T790M-）EGFR+NSCLCに対するオシメルチニブの第２相試験．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

15　赤松弘朗，村上晴泰，原田英幸，林　秀敏，駄賀晴子，長谷川喜一，金　永学，**加藤晃史**，徳永章二，西村恭昌，山本信之，中川和彦：EGFR陽性の切除不能・局所進行NSCLCに対するゲフィチニブ＋胸部放射線同時併用の第Ⅱ相試験（WJOG6911L）．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

16　善家義貴，松本慎吾，**加藤晃史**，宮本信吾，今北卓間，光冨徹哉，青野ひろみ，牛尾良太，古屋直樹，西野和美，高田佐織，葉 清隆，後藤功一：ドライバー遺伝子異常を有するⅡ/Ⅲ期非小細胞肺癌（NSCLC）の国内の治療の現状．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

17　泉　大樹，松本慎吾，**加藤晃史**，西野和美，駄賀晴子，津端由佳里，吉峯晃平，宮本信吾，新行内雅斗，橋本重樹，中川　拓，船本智哉，後藤功一：扁平上皮癌の治療

戦略を考えるNFE2L2遺伝子変異を有する肺扁平上皮癌の臨床病理学的特徴．第61回日本肺癌学会学術集会,岡山，11/2020

18　**加藤晃史**：肺癌薬物療法の副作用対策リスクマネジメントとして考える．第61回日本肺癌学会学術集会, 岡山, 11/2020

19　**加藤晃史**：扁平上皮癌の治療戦略を考える肺扁平上皮癌に対する薬物療法　化学療法と免疫チェックポイント阻害薬の力．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

20　田宮裕太郎，善家義貴，松本慎吾，古屋直樹，阪本智宏，**加藤晃史**，西野和美，新行内雅斗，宮本信吾，白川千種，豊澤　亮，大橋圭明，池田喬哉，葉　清隆，後藤功一：ドライバー変異を有する肺癌をICIでいかに治療するか　KRAS変異陽性肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の治療効果の検討．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

21　酒井徹也，松本慎吾，中川　拓，大橋圭明，井谷英敏，新行内雅斗，中村　敦，豊澤　亮，森　雅秀，津田岳志，大江裕一郎，阪本智宏，**加藤晃史**，池田喬哉，葉清隆，後藤功一：ドライバー変異を有する肺癌をICIでいかに治療するか　BRAF遺伝子変異陽性肺癌に対する免疫チェックポイント阻害薬の治療効果．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

22　米嶋康臣，森田智視，安藤昌彦，中村　敦，吉岡弘鎮，近藤征史，三浦　理，細見幸生，**加藤晃史**，久保寿夫，岸本淳司，山本信之，中西洋一，岡本　勇：既治療の進行・再発非小細胞肺癌に対するドセタキセルとnab-パクリタキセルのランダム化比較第Ⅲ相試験（J-AXEL）．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

23　伊藤　淳，太田春彦，**臼井　亮**，谷澤　徹，大久保憲一：右中葉肺癌術後遠隔期気管支断端再発で5年生存した１例．第61回日本肺癌学会学術集会，岡山，11/2020

24　**加藤晃史**　免疫関連有害事象免疫チェックポイント阻害薬による肺障害．第64回日本リウマチ学会総会学術集会，web，8/2020

25　箱崎泰貴，成田翔子，内藤智之，宇田川響，後藤功一，宮脇太一，豆鞘伸昭，中島和寿，釼持広知，下川路伊亮，**加藤晃史**，大熊裕介，中村匡希，中山優子，渡辺裕一，楠本昌彦，大江裕一郎，堀之内秀仁：非小細胞肺癌患者のニボルマブによる放射線肺臓炎のリコール現象に関する研究．第60回日本呼吸器学会，web，9/2020

26　五十嵐友香，**中原善朗**，松尾規和，東　公一，笹田哲朗：非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤治療前後での末梢血TCR/BCRレパトア解析の有用性．第24回日本がん免疫学会総会，web，10/2020

呼吸器外科

論文発表

1　**Ito H**, Suzuki K, Mizutani T, Aokage K, Wakabayashi M, Fukuda H, Watanabe SI; Japan Clinical Oncology Group Lung Cancer Surgical Study Group.: Long-term survival outcome after lobectomy in patients with clinical T1 N0 lung cancer　J Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Jan 11: S0022-5223(20)30054-4.

2　**Ito H**, **Nakayama H**, **Yokose T**, **Nagashima T**, Morohoshi T, Tajiri M, Maehara T, Watanabe K, Arai H, Yamamoto T, Woo T, NIshii T, Ishikawa Y, Morita S, Masuda M. : A prophylaxis study of acute exacerbation of interstitial pneumonia after lung cancer surgery. Jpn J Clin Oncol. 2020 Feb 17; 50(2): 198-205. doi: 10.1093/jjco/hyz164.

3　Kano K, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara, Maezawa Y, Aoyama T, Fujikawa H, Hiroshima Y, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, **Ogata T**, Cho H, **Ito H**, **Shiozawa M**, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, **Oshima T**:Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy In Vivo. 2020 Jan-Feb; 34(1): 461-467.

4　Ito M, Miyata Y, Tsutani Y, **Ito H**, **Nakayama H**, Imai K, Ikeda N, Okada M.: Positive EGFR mutation status is a risk of recurrence in pN0 1 lung adenocarcinoma when combined with pathological stage and histological subtype: A retrospective multi-center analysis. Lung Cancer. 2020 Mar; 141: 107-113.

5　**Isaka T**, **Ito H**, **Nakayama H**, **Yokose T**, **Yamada K**, Masuda M Effect of epidermal growth factor receptor mutation on early-stage non-small cell lung cancer according to the 8th TNM classification: Lung Cancer. 2020 Jul; 145: 111-118

6　Suda K, Mitsudomi T, Shintani Y, Okami J, **Ito H**, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T, Watanabe S, Asamura H, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I, on behalf of The Japanese Joint Committee of Lung Cancer Registry: Clinical impacts of EGFR mutation status: analysis of 5,780 surgically resected lung cancer cases. Ann Thorac Surg. 2020 Jun 29; S0003-4975(20) 30982-6.

7　Watanabe H, Hayashi T, Komori K, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Aoyama T, Yamada T, Yamamoto N, Cho H, **Ito H**, **Shiozawa M**, Yukawa N, **Morinaga S**, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, **Ogata T**, **Oshima T**.: Impact of postoperative complications on recurrence in patients with stageⅡ/

Ⅲ gastric cancer who received adjuvant chemotherapy with S-1. Anticancer Res. 2020 Mar; 40(3):1 683-1690.

8 Mimae T, Tsutani T, Miyata Y, Imai K, Ito H, Nakayama H, Ikeda N, Okadada M: Solid tumor size of 2 cm divides outcomes of patients with mixed ground glass opacity lung tumors Ann Thorac Surg. 2020 May; 109(5): 1530-1536.

9 Iwasaki H, Toda S, Ito H, Nemoto D, Murayama D, Okubo Y, Hayashi H, Yokose T.: A Case of Unresectable Papillary Thyroid Carcinoma Treated with Lenvatinib as Neoadjuvant Chemotherapy. Case Rep Endocrinol. 2020 May 11; 2020:6438352. doi: 10.1155/2020/6438352.

10 Watanabe K, Sakamaki K, Ito H, Yokose T, Yamada K, Nakayama H, Masuda M.: Impact of the micropapillary component on the timing of recurrence in patients with resected lung adenocarcinoma. Eur J Cardiothorac Surg. 2020 May 9. pii: ezaa138. doi: 10.1093/ejcts/ezaa138.

11 Mimae T, Miyata Y, Tsutani Y, Imai K, Ito H, Nakayama H, Ikeda N, Okada M.: Wedge resection as an alternative treatment for octogenarian and older patients with early-stage non-small-cell lung cancer. Jpn J Clin Oncol. 2020 Jun 24:hyaa085. doi: 10.1093/jjco/hyaa085. Online ahead of print.

12 Kamigaichi A, Tsutani Y, Mimae T, Miyata Y, Ito H, Nakayama H, Ikeda N, Okada M.: Prognosis of segmentectomy and lobectomy for radiologically aggressive small-sized lung cancer. Eur J Cardiothorac Surg. 2020 Dec 1; 58(6): 1245-1253. doi: 10.1093/ejcts/ezaa231.

13 Handa Y, Tsutani Y, Mimae T, Miyata Y, Imai K, Ito H, Nakayama H, Ikeda N, Yoshimura K, Okada M.: Oncologic outcomes of complex segmentectomy: a multicenter propensity score-matched analysis. Ann Thorac Surg. 2021 Mar; 111(3): 1044-1051.

14 Tsutani Y, Nakayama H, Ito H, Handa Y, Mimae T, Miyata Y, Okada M.: Long-term outcomes after sublobar resection versus lobectomy in patients with clinical stage IA lung adenocarcinoma meeting the node-negative criteria defined by high-resolution computed tomography and [18F]-fluoro-2-deoxy-d-glucose positron emission tomography. Clin Lung Cancer. 2020 Jun 19; S1525-7304(20)30207-2. doi: 10.1016/j.cllc.2020.06.013.

15 Manabe S, Kasajima R, Murakami S, Miyagi Y, Yokose T, Kondo T, Saito H, Ito H, Kaneko T, Yamada K.: Analysis of targeted somatic mutations in pleomorphic carcinoma of the lung using next-generation sequencing technique. Thorac Cancer. 2020 Jun 23. doi: 10.1111/1759-7714.13536. Online ahead of print.

16 Fukumoto K, Mori S, Shintani Y, Okami J, Ito H, Ohtsuka T, Toyooka S, Mori T,Watanabe S, Asamura S, Chida M, Date H, Endo S, Nagayasu T, Nakanishi R, Miyaoka E, Okumura M, Yoshino I.: Impact of the preoperative body mass index on the postoperative outcomes in patients with completely resected non-small cell lung cancer: A retrospective analysis of 16,503 cases in a Japanese Lung Cancer Registry Study. Lung Cancer. 2020 Nov; 149: 120-129.

17 Nagashima T, Oshima T, Hiroshima Y, Yokose T, Woo T, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Ito H, Nakayama H Clinical significance of tumour CD44v and MIST1 expression in patients with non-small-cell lung cancer Anticancer Res. 2020; 40(11): 6407-6416.

18 Tsutani Y, Handa Y, Shimada Y, Ito H, Ikeda N, Nakayama H, Yoshimura K, Okada M.: Comparison of cancer control between segmentectomy and wedge resection in patients with clinical stage IA non-small cell lung cancer. J Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Oct 22;S0022-5223(20)32833-6. doi: 10.1016/j.jtcvs.2020.10.024.

19 Nemoto D, Yokose T, Katayama K, Murakami S, Kato T, Saito H, Suzuki M, Eriguchi D, Samejima J, Nagashima T, Ito H, Yamada K, Nakayama H, Masuda M.: Tissue surface area and tumor cell count affect the success rate of the Oncomine Dx Target Test in the analysis of biopsy tissue samples. Thorac Cancer. 2020 Nov 13. doi: 10.1111/1759-7714.13743. Online ahead of print.

20 Okubo Y, Sakai M, Yamazaki H, Sugawara Y, Samejima J, Yoshioka E, Suzuki M, Washimi K, Kawachi K, Hayashi H, Ito H, Iwasaki H, Yokose T.: Histopathological study of carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE) Malays J Pathol 2020; 42(2): 259 -265

21 Kamigaichi A, Tsutani Y, Mimae T, Miyata Y, Shimada Y, Ito H, Nakayama H, Ikeda N, Okada M.: Prediction of Unexpected N2 Disease Associated with Clinical T1-2N0-1M0 Non-small Cell Lung Cancer. Clin Lung Cancer. 2021 Mar; 22(2): 120-126. e3. doi: 10.1016/j.cllc.2020.12.010. Epub 2020 Dec 27.

22 小野沢博登，斎藤春洋，臼井　亮，中原善朗，村上修司，近藤哲郎，加藤晃史，壷井貴朗，江里口大介，根本大十，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，山田耕三．原発性肺癌術後脳転移症例に影響するリスク因子の検討．日本がん検診，診断学会誌；14-19，28；(1)，2020

著書

1 伊藤宏之，中山治彦．9．肺葉切除（左上）p111-

127，ビジュアルサージカル　呼吸器外科手術　肺，（編集　近藤治彦，中島　淳）．秀潤社ISBN978-4-7809-0985-2，2020/12

2　伊藤宏之．胸腔ドレーン留置のコツと注意点．胸部外科　p572，73(8)；2020/7

学会発表

1　Shimada Y, Tsutani Y, Mimae T, Ito H, Maehara S, Kudo Y, Miyata Y, Nakayama H, Okada M, Ikeda N.: Smoking extent and cessation on glucose uptake activity in patients with non-small cell lung cancer. Society of Thoracic Surgeons (STS) 56th Annual Meeting 2020, New Orleans, USA, 2020/1/25

2　Ishikura S, Takamochi K, Suzuki K, Tsuboi M, Niho S, Oyamada J, Yamaguchi T, Yoshino I, Ito H, Okumura N, Tanaka F, Saji,S, Tsuchida M, Horio H, Shiono T, Matsuura M, Ikeda N, Tanaka T, Okada M PIT-1: Randomized phase Ⅱ trial of pemetrexed-cisplatin plus bevacizumab or concurrent thoracic radiation therapy followed by surgery in stage ⅢA (N2) nonsquamous non-small cell lung cancer. 2020 ASCO Annual Meeting (web). 2020/5/29

3　伊藤宏之，中山治彦．右上葉肺癌化学放射線療法後の晩期気管分岐部狭窄に対する右肺管状切除術と合併症．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

4　永島琢也，伊藤宏之，鮫島譲司，根本大士，江里口大介，壷井貴朗，小野沢博登，中山治彦，益田宗孝．気管分岐部郭清左胸腔アプローチ．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

5　伊坂哲哉，伊藤宏之，中山治彦，菊池章友，石川善啓，益田宗孝．EGFR遺伝子変異がpathological stage 0-I（第８版TNM分類）非小細胞肺癌切除後の予後に与える影響．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

6　見前隆洋，宮田義浩，津谷康大，今井健太郎，伊藤宏之，中山治彦，池田徳彦，岡田守人．80歳以上の高齢者早期非小細胞肺癌症例における楔状切除の役割．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

7　永島琢也，伊藤宏之，鮫島譲司，根本大士，江里口大介，壷井貴朗，中山治彦，益田宗孝．ICG 静注法を用いた完全鏡視下区域切除術におけるマージン評価―開胸区域切除術との比較―．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

8　根本大士，伊藤宏之，壷井貴朗，小野沢博登，江里口大介，鮫島譲司，永島琢也，中山治彦，益田宗孝．完全切除した高悪性度神経内分泌癌の治療成績：手術の予後への寄与は組織型で異なる．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

9　鮫島譲司，伊藤宏之，永島琢也，根本大士，江里口大介，壷井貴朗，中山治彦，益田宗孝．進行肺癌に対する完全鏡視下と開胸の短期治療成績，第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

10　江里口大介，伊藤宏之，壷井貴朗，根本大士，鮫島譲司，永島琢也，中山治彦．デジタル胸腔ドレナージシステムによる肺瘻時の超低陰圧管理における実態．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/29

11　永田　仁，伊藤宏之，横瀬智之，中山治彦．肺癌根治切除後の予後における胃切除既往の影響．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/30

12　永田　仁，伊藤宏之，横瀬智之，中山治彦．肺癌の消極的縮小手術適応として具体的に何を考慮しているか：当院症例による検討. 第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/30

13　伊坂哲哉，伊藤宏之，中山治彦，菊池章友，石川善啓，益田宗孝．EGFR遺伝子変異がpathological stage 0-I（第８版TNM分類）非小細胞肺癌切除後の予後に与える影響．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/30

14　小野沢博登，江里口大介，壷井貴朗，根本大士，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，中山治彦　当院における非小細胞肺癌occult N2 の臨床病理学的特徴．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/30

15　壷井貴朗，江里口大介，根本大士，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，中山治彦．心嚢液貯留に対し，胸腔鏡下心膜開窓術を施行した症例の検討．第37回日本呼吸器外科学会総会（東京，web開催），2020/9/30

16　Niho S, akamochi K, Suzuki K, Tsuboi M, , Ishikura S, Oyamada S, Yamaguchi T, Yoshino I, Ito H, Okumura N, Tanaka F, Saji H, Tsuchida M, Horio H, Shiono S, Matsuura M, Ikeda N, Tanaka T, Okada M PIT-1: Randomized Phase Ⅱ Trial of PEM+CDDP plus Bevacizumab or TRT Followed by Surgery in Stage ⅢA Non-sq NSCLC，第18回日本臨床腫瘍学会学術集会（Web），2020/10/1

17　福本 紘一，森　正一，新谷　康，岡見次郎，伊藤宏之，大塚　崇，豊岡伸一，森　猛，渡辺俊一，淺村尚生，千田雅之，伊達洋至，遠藤 俊輔，永安　武，中西良一，宮岡悦良，奥村明之進，吉野一郎．非小細胞肺癌切除例の術前Body Mass Indexと術後合併症・周術期死亡との関連に関する検討，第73回日本胸部外科学会総会（名古屋），2020/10/30

18　清水公裕，大瀧容一，鈴木健司，伊達洋至，山下素弘，飯笹俊彦，伊藤宏之，吉村健一，岡田守人，千田雅之，；日本呼吸器外科学会．進行肺癌に対する根治的放射線治療後のサルベージ手術の意義，第73回日本胸部外科学会総会（名古屋），2020/10/30

19　大瀧容一，清水公裕，鈴木弘行，鈴木健司，坪井正博，光冨徹哉，高尾仁二，村川知弘，伊藤宏之，吉村健一，岡田守人，千田雅之，日本呼吸器外科学会．TKI治療後

の局所再発・残存病変に対するサルベージ手術　―術後経過からその意義を考える―，第73回日本胸部外科学会総会（名古屋），2020/10/30

20　伊坂哲哉，伊藤宏之，中山治彦，石川善啓，利野　靖，益田宗孝．畜痰検体を用いたdroplet digital PCRによる原発性肺腺癌EGFR遺伝子変異解析．第73回日本胸部外科学会総会（名古屋）2020/10/30

21　佐藤　知，嶋田善久，津谷康大，見前隆洋，宮田義浩，中山治彦，伊藤宏之，岡田守人，池田徳彦．“リンパ行性転移親和型肺癌（Ly+pN+）”の臨床病理学的特徴．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

22　伊坂哲哉，伊藤宏之，横瀬智之，宮城洋平，石川善啓，鷲見公太，中山治彦，益田宗孝．畜痰検体を用いたdroplet digital PCRによる原発性肺腺癌EGFR遺伝子変異解析．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

23　福本紘一，森　正一，新谷　康，岡見次郎，伊藤宏之，大塚　崇，豊岡伸一，森　毅，渡辺俊一，淺村尚生，千田雅之，伊達洋至，遠藤俊輔，永安　武，中西良一，宮岡悦良，奥村明之進，吉野一郎．非小細胞肺癌切除例の術前Body Mass Indexと予後との関連に関する検討～第7次肺癌登録事業データを用いて～．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

24　鮫島譲司，伊藤宏之，永島琢也，足立広幸，根本大士，江里口大介，中山治彦，益田宗孝，岡田守人，池田徳彦．非小細胞肺癌における解剖学的位置と転移リンパ節個数によるN分類．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

25　三浦　隼，江里口大介，小野沢博登，根本大士，足立広幸，永島琢也，伊藤宏之，中山治彦椎骨合併切除を伴った局所進行肺癌６例の経験．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

26　小野沢博登，江里口大介，三浦　隼，根本大士，足立広幸，永島琢也，伊藤宏之，中山治彦．非小細胞肺癌におけるOccult N2を示唆する術前CT画像因子の検討．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

27　根本大士，横瀬智之，村上修司，三浦　隼，小野沢博登，江里口大介，足立広幸，永島琢也，伊藤宏之，中山治彦，鈴木理樹，臼井　亮，中原善朗，加藤晃史，齋藤春洋，益田宗孝．Oncomine Dx Target Test解析成否に関する要因の検討．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/12

28　江里口大介，伊藤宏之，三浦　隼，小野沢博登，根本大士，足立広幸，永島琢也，中山治彦，池田徳彦．デジタル胸腔ドレナージシステムによる低陰圧への変更の実態．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/13

29　足立広幸，伊藤宏之，永島琢也，根本大士，江里口大介，小野沢博登，三浦　隼，中山治彦，益田宗孝．当院における局所進行肺癌に対するExtended sleeve lobectomyの治療成績．第61回日本肺癌学会学術集会（岡山），2020/11/13

30　江里口大介，伊藤宏之，壺井貴朗，根本大士，鮫島譲司，永島琢也，中山治彦　胸椎浸潤肺癌に対し側臥位のまま胸椎合併切除した１例．第185回日本胸部外科関東甲信越地方会（東京，web），2020/3/7

31　壺井貴朗，小野沢博登，江里口大介，根本大士，鮫島譲司，永島琢也，伊藤宏之，山田耕三，中山治彦．胸壁合併切除に伴う肺癌術後に肩甲骨胸腔内陥入を生じた２例．第187回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン），2020/7/25

32　小野沢博登，斎藤春洋，臼井　亮，中原善朗，村上修二，近藤哲郎，加藤晃史，伊藤宏之，鈴木理樹，宮城洋平，横瀬智之，山田耕三．コンパニオン検査で陰性であったEGFR遺伝子変異がNGSプロファイリング検査で同定された肺腺癌症例．第187回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン），2020/7/25

33　小野沢博登，臼井　亮，斎藤春洋，山田耕三，中原善朗，村上修二，近藤哲郎，加藤晃史，伊藤宏之，横瀬智之，山田耕三．進行肺腺癌に対し，細胞障害性抗がん剤とEGFR-TKIを交互に投与することにより病勢制御が得られた１例．第187回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン），2020/7/25

34　根本大士，伊藤宏之，小野沢博登，壺井貴朗，江里口大介，鮫島譲司，永島琢也，中山治彦，臼井　亮，山田耕三，横瀬智之．肺癌術後の胸腔内に生じたびまん正大細胞型Ｂ細胞リンパ腫の１例．第187回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン），2020/7/25

35　三浦　隼，伊藤宏之，足立広幸，菊池 章友，根本大士，江里口大介，小野沢博登，横瀬智之，鈴木理樹，中山治彦．限局性悪性胸膜中皮腫の１切除例．第188回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン），2020/12/19

36　菊池章友，伊藤宏之，三浦　隼，小野沢博登，江里口大介，根本大士，足立 広幸，中山治彦，臼井　亮，斎藤春洋，吉田大作，鈴木理樹，横瀬智之，益田宗孝．放射線化学療法後に完全切除し得た右上葉原発SMARCA４欠損腫瘍の１例．第188回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン），2020/12/19

血液・腫瘍内科（血液）

発表論文

1　Tachibana T, Ishizaki T, Takahashi S, Najima Y, Kimura SI, Sakaida E, Onizuka M, Mori T, Fujisawa S, Fujiwara SI, Saito T, Hagihara M, Aotsuka N, Gotoh M, Usuki K, Tsukada N, Kanda J, Kanamori H, Kanda Y, Okamoto S; Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Allogeneic hematopoietic cell transplantation in patients with untreated acute myeloid leukemia: a KSGCT multicenter retrospective analysis. Bone Marrow Transplant, 55(7): 1497-1501, 2020.

2 Tachibana T, Kanda J, Ishizaki T, Najima Y, Tanaka M, Doki N, Fujiwara SI, Kimura SI, Onizuka M, Takahashi S, Saito T, Mori T, Fujisawa S, Sakaida E, Matsumoto K, Aotsuka N, Gotoh M, Watanabe R, Shono K, Usuki K, Tsukada N, Kanamori H, Kanda Y, Okamoto S; Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Outcomes and prognostic factors for patients with relapsed or refractory acute lymphoblastic leukemia who underwent allogeneic hematopoietic cell transplantation: a KSGCT multicenter analysis. Biol Blood Marrow Transplant, 26(5), 998-1004, 2020.

3 Tachibana T, Najima Y, Akahoshi Y, Hirabayashi S, Harada K, Doki N, Uchida N, Fukuda T, Sawa M, Ogata M, Takada S, Tanaka M, Matsuhashi Y, Tanaka J, Onizuka M, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S; Adult ALL Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. The impacts of BCR-ABL1 mutations in patients with Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia who underwent allogeneic hematopoietic cell transplantation. Ann Hematol, 99(10): 2393-2404, 2020.

4 Tachibana T, Kanda J, Ishizaki T, Najima Y, Tanaka M, Doki N, Fujiwara SI, Kimura SI, Onizuka M, Takahashi S, Saito T, Mori T, Fujisawa S, Sakaida E, Miyazaki T, Aotsuka N, Gotoh M, Watanabe R, Shono K, Usuki K, Tsukada N, Kanamori H, Kanda Y, Okamoto S; Kanto Study Group for Cell Therapy (KSGCT). Clinical Benefits of Preconditioning Intervention in Patients with Relapsed or Refractory Acute Myelogenous Leukemia Who Underwent Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation: A Kanto Study of Group for Cell Therapy Multicenter Analysis. Transplant Cell Ther. 2021 Jan; 27(1): 70. e1-70. e8.

5 立花崇孝；急性骨髄性白血病における非寛解期同種造血細胞移植. 臨床血液, 62(5): 496-504, 2021.

6 Kurosawa S, Shimomura Y, Tachibana T, Ishiyama K, Ota S, Kobayashi T, Uchida N, Fukushima K, Ashida T, Matsuoka KI, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Murata M, Aoki J. Outcome of Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation in Patients with Myelodysplastic/Myeloproliferative Neoplasms-Unclassifiable: A Retrospective Nationwide Study of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Biol Blood Marrow Transplant, 26(9): 1607-1611, 2020.

7 Kanda J, Ando T, Kimura SI, Fujiwara SI, Imada K, Fujisawa S, Tachibana T, Atsuta Y, Kanda Y. Hematopoietic Stem Cell Transplantation From a Related Donor with Human Leukocyte Antigen 1-Antigen Mismatch in the Graft-Versus-Host Direction Using Low-dose Anti-thymocyte Globulin. Cell Transplant, 29: 1-12, 2020.

8 Akahoshi Y, Igarashi A, Fukuda T, Uchida N, Tanaka M, Ozawa Y, Kanda Y, Onizuka M, Ichinohe T, Tanaka J, Atsuta Y, Kako S; Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Impact of graft-versus-host disease and graft-versus-leukemia effect based on minimal residual disease in Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia. Br J Haematol. 2020 Jul; 190(1): 84-92.

9 Yanada M, Konuma T, Yamasaki S, Kondo T, Fukuda T, Shingai N, Sawa M, Ozawa Y, Tanaka M, Uchida N, Nakamae H, Katayama Y, Matsuoka KI, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S. Relapse of acute myeloid leukemia after allogeneic hematopoietic cell transplantation: clinical features and outcomes. Bone Marrow Transplant. 2020 Dec 2. Online ahead of print.

10 Yamasaki S, Mori J, Kanda J, Imahashi N, Uchida N, Doki N, Tanaka M, Katayama Y, Eto T, Ozawa Y, Takada S, Onizuka M, Hino M, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yanada M. Effect of allogeneic HCT from unrelated donors in AML patients with intermediate- or poor-risk cytogenetics: a retrospective study from the Japanese Society for HCT. Ann Hematol. 2020 Dec; 99(12): 2927-2937.

11 Akahoshi Y, Nishiwaki S, Arai Y, Harada K, Najima Y, Kanda Y, Shono K, Ota S, Fukuda T, Uchida N, Shiratori S, Tanaka M, Tanaka J, Atsuta Y, Kako S. Reduced-intensity conditioning is a reasonable alternative for Philadelphia chromosome-positive acute lymphoblastic leukemia among elderly patients who have achieved negative minimal residual disease: a report from the Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the JSHCT. Bone Marrow Transplant. 2020 Jul; 55(7): 1317-1325.

12 Yanada M, Konuma T, Mizuno S, Saburi M, Shinohara A, Tanaka M, Marumo A, Sawa M, Uchida N, Ozawa Y, Onizuka M, Yoshioka S, Nakamae H, Kondo T, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Nakasone H, Yano S. Predicting non-relapse mortality following allogeneic hematopoietic cell transplantation during first remission of acute myeloid leukemia. Bone Marrow Transplant. 2021 Feb; 56(2): 387-394.

13 Miyao K, Terakura S, Kimura F, Konuma T, Miyamura K, Yanada M, Kako S, Morhishima S, Uchida N, Toya T, Ozawa Y, Fukuda T, Tanaka M, Sawa M, Takada S, Yoshida S, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Kanda J; Donor/Source Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation.

Updated Comparison of 7/8 HLA Allele-Matched Unrelated Bone Marrow Transplantation and Single-Unit Umbilical Cord Blood Transplantation as Alternative Donors in Adults with Acute Leukemia. Biol Blood Marrow Transplant. 2020 Nov; 26(11): 2105-2114.

14 Yanada M, Fukuda T, Tanaka M, Ota S, Toya T, Mori T, Uchida N, Ozawa Y, Nakamae H, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yano S. Long-term results of reduced-intensity conditioning allogeneic hematopoietic cell transplantation for older patients with acute myeloid leukemia: a retrospective analysis of 10-year follow-up data. Bone Marrow Transplant. 2020 Oct; 55(10): 2008-2016.

15 Mizuno S, Yanada M, Kawamura K, Masuko M, Uchida N, Ozawa Y, Iwato K, Ohashi K, Ikegame K, Kim SW, Tanaka M, Eto T, Kanda Y, Fukuda T, Atsuta Y, Yano S, Takami A. Allogeneic hematopoietic cell transplantation efficacy in patients with Philadelphia chromosome-positive acute myeloid leukemia in complete remission. Bone Marrow Transplant. 2021 Jan; 56(1): 232-242.

16 Kaito S, Najima Y, Harada K, Fukuda T, Noguchi Y, Ikegame K, Tanaka M, Ozawa Y, Yoshida S, Sawa M, Ota S, Inoue Y, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Kako S; Adult Acute Lymphoblastic Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation for adult patients with B-cell acute lymphoblastic leukemia harboring t(1;19)(q23;p13.3); comparison with normal karyotype. Bone Marrow Transplant. 2020 Jul; 55(7): 1337-1346.

17 Yanada M, Takami A, Yamasaki S, Arai Y, Konuma T, Uchida N, Najima Y, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Ikegame K, Takanashi M, Ichinohe T, Okamoto S, Atsuta Y, Yano S. Allogeneic hematopoietic cell transplantation for adults with acute myeloid leukemia conducted in Japan during the past quarter century. Ann Hematol. 2020 Jun; 99(6): 1351-1360.

18 Yokoyama H, Takenaka K, Nishida T, Seo S, Shinohara A, Uchida N, Tanaka M, Takahashi S, Onizuka M, Kozai Y, Yasuhiro S, Ozawa Y, Katsuoka Y, Doki N, Sawa M, Kimura T, Kanda J, Fukuda T, Atsuta Y, Nakasone H; Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation Transplantation-Related Complication Working Group. Favorable Effect of Cytomegalovirus Reactivation on Outcomes in Cord Blood Transplant and Its Differences Among Disease Risk or Type. Biol Blood Marrow Transplant. 2020 Jul; 26(7): 1363-1370.

19 Imahashi N, Terakura S, Kondo E, Kako S, Uchida N, Kobayashi H, Inamoto Y, Sakai H, Tanaka M, Ishikawa J, Kozai Y, Matsuoka KI, Kimura T, Fukuda T, Atsuta Y, Kanda J; Donor/Source Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Comparison of reduced-intensity/toxicity conditioning regimens for umbilical cord blood transplantation for lymphoid malignancies. Bone Marrow Transplant. 2020 Nov; 55(11): 2098-2108.

20 Nagasawa R, Hara Y, Miyazaki T, Murohashi K, Watanabe H, Kaneko T: An autopsy case of ventilator-associated tracheobronchitis caused by Corynebacterium species complicated with diffuse alveolar damage. Respir Med Case Rep, 31: 101208, 2020.

21 Konuma T, Kanda J, Yamasaki S, Harada K, Shimomura Y, Terakura S, Mizuno S, Uchida N, Tanaka M, Doki N, Ozawa Y, Nakamae H, Sawa M, Matsuoka KI, Morishige S, Maruyama Y, Ikegame K, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M. Single Cord Blood Transplantation Versus Unmanipulated Haploidentical Transplantation for Adults with Acute Myeloid Leukemia in Complete Remission. Transplant Cell Ther. 2021 Apr; 27(4): 334. e1-334.e11.

22 Mizuno S, Takami A, Kawamura K, Arai Y, Kondo T, Kawata T, Uchida N, Marumo A, Fukuda T, Tanaka M, Ozawa Y, Yoshida S, Ota S, Takada S, Sawa M, Onizuka M, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M. Allogeneic Hematopoietic Cell Transplantation for Adolescent and Young Adult Patients with Acute Myeloid Leukemia. Transplant Cell Ther. 2021 Apr; 27(4): 314. e1-314. e10.

23 Isobe M, Konuma T, Masuko M, Uchida N, Miyakoshi S, Sugio Y, Yoshida S, Tanaka M, Matsuhashi Y, Hattori N, Onizuka M, Aotsuka N, Kouzai Y, Wake A, Kimura T, Ichinohe T, Atsuta Y, Yanada M; Adult Acute Myeloid Leukemia Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Single cord blood transplantation for acute myeloid leukemia patients aged 60 years or older: a retrospective study in Japan. Ann Hematol. 2021 Jul; 100(7): 1849-1861.

24 Nishiwaki S, Akahoshi Y, Mizuta S, Shinohara A, Hirabayashi S, Noguchi Y, Fukuda T, Uchida N, Tanaka M, Onizuka M, Ozawa Y, Ota S, Shiratori S, Onishi Y, Kanda Y, Sawa M, Tanaka J, Atsuta Y, Kako S. Measurable residual disease affects allogeneic hematopoietic cell transplantation in Ph+ ALL during both CR1 and CR2. Blood Adv. 2021 Jan 26; 5(2): 584-592.

25 Yokoyama H, Kanda J, Kawahara Y, Uchida N,

Tanaka M, Takahashi S, Onizuka M, Noguchi Y, Ozawa Y, Katsuoka Y, Ota S, Ohta T, Kimura T, Kanda Y, Ichinohe T, Atsuta Y, Nakasone H, Morishima S. Reduced leukemia relapse through cytomegalovirus reactivation in killer cell immunoglobulin-like receptor-ligand-mismatched cord blood transplantation. Bone Marrow Transplant. 2021 Jun; 56(6): 1352-1363.

26 Morishima S, Fukuda T, Doki N, Mori T, Onizuka M, Kawakita T, Kato C, Ozawa Y, Tanaka M, Kurokawa M, Kamimura T, Inoue M, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Morishima Y; HLA Working Group of the Japan Society for Hematopoietic Cell Transplantation. Individual HLAs influence immunological events in allogeneic stem cell transplantation from HLA-identical sibling donors. Bone Marrow Transplant. 2021 Mar; 56(3): 646-654.

学会等発表

1 泉　陽彦，立花崇孝，安藤太基，宮崎拓也，金森平和，田中正嗣，中島秀明：急性リンパ性白血病同種移植後再発に対してInotuzumab Ozogamicinを投与した９例．第82回日本血液学会学術集会．京都．2020年10月．

2 立花崇孝，安藤太基，泉　陽彦，宮崎拓也，金森平和，田中正嗣，中島秀明：急性リンパ性白血病同種移植後再発に対する再移植の治療成績．第82回日本血液学会学術集会．京都．2020年10月．

3 立花崇孝：再発・難治急性骨髄性白血病に対する同種造血幹細胞移植．第82回日本血液学会学術集会．京都．2020年10月．

4 田中正嗣，泉　陽彦，宮崎拓也，立花崇孝，金森平和，中島秀明：当院におけるFLT3阻害剤の使用経験．第82回日本血液学会学術集会．京都．2020年10月．

5 泉　陽彦，立花崇孝，宮崎拓也，金森平和，田中正嗣，中島秀明：造血幹細胞移植後に水痘脳髄膜炎を発症した１例．第665回日本内科学会関東地方会．東京．2020年12月．

6 泉　陽彦，立花崇孝，宮崎拓也，金森平和，田中正嗣，中島秀明：新型コロナウイルス感染症流行下で海外在住同胞ドナーから移植を行った治療抵抗性急性骨髄性白血病. 第43回日本造血細胞移植学会総会. 東京. 2021年３月.

7 宮崎拓也，鈴木泰生，泉　陽彦，立花崇孝，金森平和，田中正嗣，中島秀明：高齢者同種移植における栄養・炎症・免疫関連バイオマーカーを用いた予後予測．第43回日本造血細胞移植学会総会．東京．2021年３月．

8 立花崇孝，泉　陽彦，宮崎拓也，金森平和，田中正嗣，中島秀明：非寛解期骨髄系腫瘍に対する移植前連続レジメンの検討．第43回日本造血細胞移植学会総会．東京．2021年３月．

著書

1 Picture in Clinical Hematology No. 137：泉　陽彦，立花崇孝，高橋寛行，宮崎拓也，金森平和，田中正嗣．臨床血液，61巻８号855，2020年

2 Picture in Clinical Hematology No. 139：泉　陽彦，立花崇孝，宮崎拓也，金森平和，為藤葉子，田中正嗣．臨床血液，61巻11号1561，2020年

3 非寛解期AMLに対する同種移植の治療成績：立花崇孝，血液内科．81⑹，772-775，2020.

血液・腫瘍内科（腫瘍）

発表論文

1 Ando T, Fujisawa S, Teshigawara H, Matsumura A, Sakuma T, **Suzuki T**, Teranaka H, Ogusa E, Ishii Y, Miyashita K, **Takahashi H**, Nakajima Y, Miyazaki T, Hagihara M, Matsumoto K, Yamazaki E, Nakajima H: Computed tomography-defined sarcopenia: prognostic predictor of non-relapse mortality after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation: a multicenter retrospective study. Int J Hematol, 112(1) :46-56, 2020

2 Ishida T, Kimura H, Ozaki S, Kubo K, Sunami K, Takezako N, Fujita H, Hayashi T, Kiguchi T, Ohashi K, Yamamoto S, Takamatsu H, Kosugi H, Ohta K, **Sakai R**, Handa H, Kondo S, Abe Y, Omoto E, Mitani K, Morita S, Murakami H, Shimizu K: Continuous Lenalidomide Treatment After Bortezomib-Melphalan-Prednisolone Therapy for Newly Diagnosed Multiple Myeloma. Ann Hematol, 99(5) :1063-1072, 2020

3 Tomita S, Kikuti Y, Carreras J, **Sakai R**, Takata K, Yoshino T, Bea S, Campo E, Missiaglia E, Bouilly J, Letourneau A, de Leval L, Nakamura N: Monomorphic Epitheliotropic Intestinal T-Cell Lymphoma in Asia Frequently Shows SETD2 Alterations. Cancers (Basel), 12(12): 3539, 2020

4 Miyazaki K, Asano N, Yamada T, Miyawaki K, **Sakai R**, Igarashi T, Nishikori M, Ohata K, Sunami K, Yoshida I, Yamamoto G, Takahashi N, Okamoto M, Yano H, Nishimura Y, Tamaru S, Nishikawa M, Izutsu K, Kinoshita T, Suzumiya J, Ohshima K, Kato K, Katayama N, Yamaguchi M: DA-EPOCH-R combined with high-dose methotrexate in patients with newly diagnosed stage Ⅱ-Ⅳ CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma: a single-arm, open-label, phase Ⅱ study. Haematologica, 105(9): 2308-2315, 2020

5 Ito A, Kim SW, Matsuoka KI, Kawakita T, Tanaka T, Inamoto Y, Toubai T, Fujiwara SI, Fukaya M, Kondo T, Sugita J, Nara M, Katsuoka Y, Imai Y, Nakazawa H, Kawashima I, **Sakai R**, Ishii A, Onizuka M, Takemura T, Terakura S, iida H, Nakamae M, Higuchi K, Tamura S,

Yoshioka S, Togitani K, Kawano N, Suzuki R, Suzumiya J, Izutsu K, Teshima T, Fukuda T: Safety and efficacy of anti-programmed cell death-1 monoclonal antibodies before and after allogeneic hematopoietic cell transplantation for relapsed or refractory Hodgkin lymphoma: a multicenter retrospective study. Int J Hematol, 112(5) :674-689, 2020

6 Ando T, Tachibana T, Tanaka M, **Suzuki T**, Ishiyama Y, Koyama S, Ogusa E, Numata A, Matsumoto K, Kanamori H, Nakajima H: Impact of graft sources on immune reconstitution and survival outcomes following allogeneic stem cell transplantation. Blood Adv 4(2): 408-419, 2020

7 Ando T, **Suzuki T**, Ishiyama Y, Koyama S, Tachibana T, Tanaka M, Kanamori H, Nakajima H: Impact of Cytomegalovirus Reactivation and Natural Killer Reconstitution on Outcomes after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation: A Single-Center Analysis. Biol Blood Marrow Transplant, 26(1): 171-177, 2020

8 Kato H, **Takahashi H**, Sano K, Nakajima H: Corynebacterium bacteremia in patients with hematological malignancies and other medical conditions. Clinical Infection in Practice, 7–8: October 2020, 100040. https://doi.org/10.1016/j.clinpr.2020.100040

9 Iwasaki H, Toda S, Murayama D, **Takahashi H**: Three Cases of Anaplastic Thyroid Carcinoma Transformation and Leukocytosis during Lenvatinib Treatment. Case Rep Endocrinol 2020 Nov 9; 2020: 6667237. doi: 10.1155/2020/6667237. eCollection 2020

10 **Takahashi H**, **Sakai R**, **Sakuma T**, **Matsumura A**, Miyashita K, Ishii Y, Nakajima Y, Numata A, Hattori Y, Miyazaki T, Hashimoto C, Koharazawa H, Takemura S, Taguchi J, Fujimaki K, Fujita H, Nakajima H: Comparison of Clinical Features Between Primary and Secondary Breast Diffuse Large B Cell Lymphoma: A Yokohama Cooperative Study Group for Hematology Multicenter Retrospective Study. Indian J Hematol Blood Transfus, 37(1) :60–66, 2021

11 Yamauchi N, Maruyama D, Choi I, Atsuta Y, **Sakai R**, Miyashita K, Moriuchi Y, Tsujimura H, Kubota N, Yamamoto G, Igarashi T, Izutsu K, Yoshida S, Kojima K, Uchida T, Inoue Y, Tsukamoto N, Ohtsuka E, Suzuki S, Inaguma Y, Ichikawa S, Gomyo H, Ushijima Y, Nosaka K, Kurata M, Tanaka Y, Ueda R, Mizokami M, Kusumoto S: Prophylactic antiviral therapy for HBsAg-positive patients with DLBCL treated with rituximab-containing chemotherapy. Cancer Sci, 112(5): 1943-954, 2021

12 **Numata A**, **Sakai R**, Arakaki H, Ishiyama Y, Koyama M, Takasaki H, Suzuki M, Yokose T, Yamada T, Yasui K, Yoshida T, Miyashita K, Fujisawa S, Nakamura N, Nakajima H: Simultaneous Malignancy of Primary Splenic Angiosarcoma and Low Grade B-cell Lymphoma. Hematology and Oncology: Current Research. Mar 15, 2021. https://meddocsonline.org/

学会等発表

1 **高橋寛行**，**酒井リカ**，**佐久間敬之**，**松村彩子**，**本橋賢治**，中島秀明：びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫患者における中枢神経浸潤予防としてのMTX大量療法の検討．第82回日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

2 **佐久間敬之**，**酒井リカ**，**松村彩子**，**高橋寛行**，**本橋賢治**，中島秀明：高齢者に対する減量R-CHOP療法の後方視的検討．第82回 日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020.

3 **本橋賢治**, **高橋寛行**, **佐久間敬之**, **松村彩子**, **酒井リカ**. 当院における濾胞性リンパ腫に対するobinutuzumab併用化学療法の使用経験．第82回日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

4 山岸　誠，鈴木　穣，伊藤　歩，久世裕太，窪川美雪，勝俣宏伸，中野伸亮，崔　日承，田中　喬，川俣豊隆，牧山純也，中前博久，谷本一史，高瀬　謙，河北敏郎，衛藤徹也，上村智彦，大渡五月，**酒井リカ**，近藤忠一，澤山　靖，緒方正男，藤　重夫，高橋　勉，町田真一郎，宇都宮　與，福田隆浩，内丸　薫：アグレッシブATL前向きコホート（2015-2018）の臨床ゲノム解析．第82回日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

5 **貫井　淳**，大橋 卓馬，勅使川原 晴佳，小山　哲，宮崎拓也，萩原真紀，松本憲二，中島秀明：基礎疾患に多発性骨髄腫を有していた後天性血友病Ａ．第82回日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

6 田中正嗣，立花崇孝，安藤太基，鈴木泰生，泉　陽彦，宮崎拓也，金森平和，中島秀明：当院におけるFLT3阻害剤の使用経験．第82回 日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

7 加藤春美，坂田（柳元）麻実子，横山雅大，**酒井リカ**，仲里朝周，前田嘉信，吉原　哲，麻奥英毅，丸山大：再発・難治性末梢性Ｔ細胞リンパ腫患者を対象としたプララトレキサートとロイコボリン併用の第２相臨床試験．第82回 日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

8 大橋卓馬，**貫井　淳**，勅使川原晴佳，小山　哲，國本博義，宮崎拓也，萩原真紀，松本憲二，山崎悦子，中島秀明：アザシチジンが奏効した治療関連骨髄異形成症候群を発症したBloom症候群の１例．第82回日本血液学会学術集会，WEB開催，10/2020

9 **高橋寛行**，**酒井リカ**，**貫井　淳**，**松村彩子**，**鈴木泰生**，中島秀明：高齢者びまん性大細胞型Ｂ細胞リンパ腫中枢

神経再発に対するメソトレキセート大量療法．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，10/2020

10　**貫井　淳**，**徳永真由美**，**鈴木泰生**，**高橋寛行**，**酒井リカ**，**鈴木理樹**，横瀬智之，中島秀明：初回治療終了14年後に再発した限局期classical Hodgkin lymphomaの１例．日本内科学会 第665回関東地方会，web開催，12/2020

11　**髙橋寛行**，**酒井リカ**，**貫井　淳**，**徳永真由美**，**鈴木泰生**，中島秀明：Clinical course after progression of elderly diffuse large B-cell lymphoma patients．第18回日本臨床腫瘍学会学術集会，WEB開催，2/2021

12　手塚　瞬，廣島幸彦，**高橋寛行**，小林　智，上野　誠，**酒井リカ**：Clinical genome sequencing in pancreatic ductal adenocarcinoma-Comprehensive gene panel versus whole-exome sequencing．第18回日本臨床腫瘍学会学術集会，WEB開催，2/2021

13　**酒井リカ**：教育講演　30：応用編，悪性リンパ腫．第18回日本臨床腫瘍学会学術集会，WEB開催，2/2021

消化器内科（消化管）

発表論文

1　An Investigator-Initiated Phase 2 Study of Nivolumab Plus Low-Dose Ipilimumab as First-Line Therapy for Microsatellite Instability-High Advanced Gastric or Esophagogastric Junction Cancer (NO LIMIT, WJOG13320G/CA209-7W7). Kawakami H, Hironaka S, Esaki T, Chayama K, Tsuda M, Sugimoto N, Kadowaki S, Makiyama A, **Machida N**, Hirano H, Hirata K, Hara H, Yabusaki H, Komatsu Y, Muro K. Cancers (Basel). 2021 Feb 15; 13(4): 805.

2　Effect of Prognostic Nutrition Index in Gastric or Gastro-oesophageal Junction Cancer Patients Undergoing Nivolumab Monotherapy.Watanabe H, Yamada T, Komori K, Hara K, Kano K, Takahashi K, Kumazu Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, **Inokuchi Y**, **Machida N**, Shiozawa M, Yukawa N, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T.In Vivo. 2021 Jan-Feb; 35(1): 563-569.

3　Study protocol for a multi-institutional randomized phase Ⅲ study comparing combined everolimus plus lanreotide therapy and everolimus monotherapy in patients with unresectable or recurrent gastroenteropancreatic neuroendocrine tumors; Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1901 (STARTER-NET study). Shimoyama R, Hijioka S, Mizuno N, Ogawa G, Kataoka T, Katayama H, **Machida N**, Honma Y, Boku N, Hamaguchi T, Fukuda H, Terashima M, Kanemitsu Y, Furuse J; Stomach Cancer Study Group/Colorectal Cancer Study Group/Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group in Japan Clinical Oncology Group.Pancreatology. 2020 Sep; 20(6): 1183-1188.

4　Retrospective observational study of salvage line ramucirumab monotherapy for patients with advanced gastric cancer. Kawai S, Fukuda N, Yamamoto S, Mitani S, Omae K, Wakatsuki T, Kato K, Kadowaki S, Takahari D, Boku N, Muro K, **Machida N**. BMC Cancer. 2020 Apr 21; 20(1): 338.

5　Prediction of S-1 adjuvant chemotherapy benefit in StageⅡ/Ⅲ gastric cancer treatment based on comprehensive gene expression analysis.Nakamura K, Hatakeyama K, Furukawa K, Fujiya K, Kamiya S, Hikage M, Tanizawa Y, Bando E, Ohshima K, Urakami K, **Machida N**, Yasui H, Yamaguchi K, Terashima M.Gastric Cancer. 2020 Jul; 23(4): 648-658.

6　Impact of the Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio on the Survival of Patients with Gastric Cancer Treated with Nivolumab Monotherapy.Yamada T, Hayashi T, **Inokuchi Y**, Hayashi K, Watanabe H, Komori K, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T.Target Oncol. 2020 Jun; 15(3): 317-325.

7　Safety and efficacy of pembrolizumab in combination with S-1 plus oxaliplatin as a first-line treatment in patients with advanced gastric/gastroesophageal junction cancer: Cohort 1 data from the KEYNOTE-659 phaseⅡb study.Kawazoe A, Yamaguchi K, Yasui H, Negoro Y, Azuma M, Amagai K, Hara H, Baba H, Tsuda M, Hosaka H, Kawakami H, Oshima T, Omuro Y, **Machida N**, Esaki T, Yoshida K, Nishina T, Komatsu Y, Han SR, Shiratori S, Shitara K. Eur J Cancer. 2020 Apr; 129: 97-106.

その他の出版物

1　古田光寛：胃癌に対する一次治療としての導入化学療法後のAvelumabのメンテナンス療法と化学療法継続とを比較した第Ⅲ相試験（JAVELIN Gastric 100）．Webサイト「消化器癌治療の広場」：論文紹介2021年２月

2　町田　望：胃癌一次治療における抗PD-1/PD-L1抗体ICIによるメンテナンス療法は無効か？ Webサイト「消化器癌治療の広場」：論文紹介2021年２月

学会等発表

1　**Nozomu Machida**, Takehiro Okumura, Junji Kishimoto, Narikazu Boku, Tomohiro Nishina, Koichi Suyama, Yasuhisa Ohde, Katsunori Shinozaki, Hideo Baba, Shinya Tokunaga, Hisato Kawakami, Takashi Tsuda, Masahito Kotaka, Hiroyuki Okuda, Hisateru Yasui, Tadamichi Denda, Kentaro Yamazaki, Shuichi Hironaka, Kei Muro, Ichinosuke Hyodo.: PhaseⅡtrial of adjuvant mFOLFOX6 after metastasectomy

for pulmonary metastasis of colorectal cancer: WJOG5810G. ASCO Annual meeting 2020, General Poster Session. Web, 5/2020

2　町田　望：胃癌後方ラインの治療戦略．第18回日本消化器外科学会大会　サテライトシンポジウム85　切除不能・再発胃癌の治療戦略，神戸/Web,11/2020

3　林　慧，古田光寛，石田彩花，金田義弘，井口靖弘，町田　望，大島　貴：ニボルマブ（Nivo）不応胃癌に対するトリフルリジン/チピラシル（RON）の検討．日本内科学会関東支部主催第665回関東地方会，Web，12/2020

4　石田 彩花：FOLFIRI as second-line chemotherapy for advanced or recurrent small bowel adenocarcinoma refractory to FOLFOX.　第18回日本臨床腫瘍学会学術集会，Web，2/2021

5　林　慧，古田光寛，石田彩花，金田義弘，井口靖弘，町田　望，公盛啓介，渡邊勇人，神野一樹，高橋恒輔，山田貴允，尾形高士，大島　貴，前田　愼：Trifluridine/tipiracil（Ron）and irinotecan（IRI）for advanced gastric cancer refractory to third-line nivolumab（Nivo）．第18回日本臨床腫瘍学会学術集会，Web，2/2021

6　町田　望：胃がん薬物療法2021 ～切除不能進行再発から周術期まで～．第93回日本胃癌学会総会　ランチョンセミナー，大阪/Web，3/2021

消化器内科（肝胆膵）

発表論文

1　Yamamoto N, Washimi K, Murakawa M, Kamiya M, Kamioka Y, Ueno M, Kishida T, Rino Y, Masuda M, Morinaga S. Primary Duodenal Carcinoma with Embryonal Carcinoma Features in a Young Man. Case Rep Gastroenterol. 2021 Mar 4;15(1): 269-275. doi: 10.1159/000512421. PMID: 33790714; PMCID: PMC7989679.

2　Ueno M, Morizane C, Furukawa M, Sakai D, Komatsu Y, Nakai Y, Tsuda M, Ozaka M, Mizuno N, Muto M, Fukutomi A, Ikeda M, Tsuji A, Katanuma A, Moriwaki T, Kajiwara T, Ishii H, Negoro Y, Shimizu S, Nemoto N, Kobayashi S, Makino K, Furuse J. A randomized, double-blind, phase Ⅱ study of oral histone deacetylase inhibitor resminostat plus S-1 versus placebo plus S-1 in biliary tract cancers previously treated with gemcitabine plus platinum-based chemotherapy. Cancer Med. 2021 Mar; 10(6): 2088-2099. doi: 10.1002/cam4.3813. Epub 2021 Feb 26. PMID: 33635605; PMCID: PMC7957161.

3　Ueno M, Sugimori K, Taguri M, Ohkawa S, Kobayashi S, Miwa H, Kaneko T, Morimoto M, Yamanaka T. Randomized Phase Ⅱ Study of Gemcitabine Monotherapy vs. Gemcitabine with an EPA-Enriched Oral Supplement in Advanced Pancreatic Cancer. Nutr Cancer. 2021 Jan 13: 1-10. doi: 10.1080/01635581.2020.1871495. Epub ahead of print. PMID: 33438442.

4　Imaoka H, Ikeda M, Maehara K, Umemoto K, Ozaka M, Kobayashi S, Terashima T, Inoue H, Sakaguchi C, Tsuji K, Shioji K, Okamura K, Tsujimoto A, Nakamura I, Shirakawa H, Furukawa M, Ueno M, Morizane C, Furuse J. Risk stratification and prognostic factors in patients with unresectable undifferentiated carcinoma of the pancreas. Pancreatology. 2021 Jun; 21(4): 738-745. doi: 10.1016/j.pan.2021.02.008. Epub 2021 Feb 14. PMID: 33602645.

5　Umemoto K, Takahashi H, Morizane C, Yamada I, Shimizu S, Shioji K, Yoshida Y, Motoya M, Mizuno N, Kojima Y, Terashima T, Uesugi K, Ueno M, Furuse J, Akimoto T, Ikeda M. FOLFIRINOX in advanced pancreatic cancer patients with the double-variant type of UGT1A1 *28 and *6 polymorphism: a multicenter, retrospective study. Cancer Chemother Pharmacol. 2021 Mar; 87(3): 397-404. doi: 10.1007/s00280-020-04206-w. Epub 2021 Jan 2. PMID: 33386925; PMCID: PMC7889544.

6　Aoyama T, Yamamoto N, Kamiya M, Murakawa M, Tamagawa H, Sawazaki S, Numata M, Kobayashi S, Ueno M, Morimoto M, Shiozawa M, Yukawa N, Oshima T, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Morinaga S. The age-adjusted Charlson comorbidity index is an independent prognostic factor in pancreatic cancer patients who receive curative resection followed by adjuvant chemotherapy. J Cancer Res Ther. 2020 Dec; 16(Supplement): S116-S121. doi: 10.4103/jcrt.JCRT_440_18. PMID: 33380664.

7　Tamagawa H, Aoyama T, Inoue H, Fujikawa H, Sawazaki S, Numata M, Sato T, Oshima T, Yukawa N, Morimoto M, Ueno M, Rino Y, Masuda M. Therapeutic results of Denver percutaneous peritoneovenous shunt in cancer patients with malignant ascites. J Cancer Res Ther. 2020 Dec; 16(Supplement): S95-S98. doi: 10.4103/jcrt.JCRT_606_18. PMID: 33380660.

8　Maruki Y, Morizane C, Arai Y, Ikeda M, Ueno M, Ioka T, Naganuma A, Furukawa M, Mizuno N, Uwagawa T, Takahara N, Kanai M, Asagi A, Shimizu S, Miyamoto A, Yukisawa S, Kadokura M, Kojima Y, Furuse J, Nakajima TE, Sudo K, Kobayashi N, Hama N, Yamanaka T, Shibata T, Okusaka T. Correction to: Molecular detection and clinicopathological characteristics of advanced/recurrent biliary tract

carcinomas harboring the FGFR2 rearrangements: a prospective observational study (PRELUDE Study). J Gastroenterol. 2021 Mar; 56(3): 297. doi: 10.1007/s00535-020-01755-y. Erratum for: J Gastroenterol. 2021 Mar; 56(3): 250-260. PMID: 33377997; PMCID: PMC8025279.

9 Ueno M, Morinaga S, Hashimoto Y, Umemoto K, Sasahira N, Saiura A, Seyama Y, Honda G, Ioka T, Takahashi H, Miyamoto A, Nakamori S, Unno M, Takadate T, Mizuno N, Shimizu Y, Ueno H, Sugiyama M, Fukutomi A, Shimizu S, Okusaka T, Furuse J. Tolerability of Nab-Paclitaxel Plus Gemcitabine as Adjuvant Setting in Japanese Patients With Resected Pancreatic Cancer: Phase I Study. Pancreas. 2021 Jan 1; 50(1): 83-88. doi: 10.1097/MPA.0000000000001702. PMID: 33370027; PMCID: PMC7748052.

10 Takahashi H, Ikeda M, Shiba S, Imaoka H, Todaka A, Shioji K, Yane K, Kojima Y, Kobayashi S, Asagi A, Ozaka M, Takada R, Nagashio Y, Horiguchi S, Kasuga A, Suzuki E, Terashima T, Ueno M, Morizane C, Furuse J. Multicenter Retrospective Analysis of Chemotherapy for Advanced Pancreatic Acinar Cell Carcinoma: Potential Efficacy of Platinum- and Irinotecan-Containing Regimens. Pancreas. 2021 Jan 1; 50(1): 77-82. doi: 10.1097/MPA.0000000000001718. PMID: 33370026; PMCID: PMC7748047.

11 Chuma M, Uojima H, Hiraoka A, Kobayashi S, Toyoda H, Tada T, Hidaka H, Iwabuchi S, Numata K, Itobayashi E, Itokawa N, Kariyama K, Ohama H, Hattori N, Hirose S, Shibata H, Tani J, Imai M, Tajiri K, Moriya S, Wada N, Iwasaki S, Fukushima T, Ueno M, Yasuda S, Atsukawa M, Nouso K, Fukunishi S, Watanabe T, Ishikawa T, Nakamura S, Morimoto M, Kagawa T, Sakamoto M, Kumada T, Maeda S. Analysis of efficacy of lenvatinib treatment in highly advanced hepatocellular carcinoma with tumor thrombus in the main trunk of the portal vein or tumor with more than 50% liver occupation: A multicenter analysis. Hepatol Res. 2021 Feb; 51(2): 201-215. doi: 10.1111/hepr.13592. Epub 2021 Jan 5. PMID: 33270323.

12 Yamamoto M, Yoshida M, Furuse J, Sano K, Ohtsuka M, Yamashita S, Beppu T, Iwashita Y, Wada K, Nakajima TE, Sakamoto K, Hayano K, Mori Y, Asai K, Matsuyama R, Hirashita T, Hibi T, Sakai N, Tabata T, Kawakami H, Takeda H, Mizukami T, Ozaka M, Ueno M, Naito Y, Okano N, Ueno T, Hijioka S, Shikata S, Ukai T, Strasberg S, Sarr MG, Jagannath P, Hwang TL, Han HS, Yoon YS, Wang HJ, Luo SC, Adam R, Gimenez M, Scatton O, Oh DY, Takada T. Clinical practice guidelines for the management of liver metastases from extrahepatic primary cancers 2021. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Jan; 28(1): 1-25. doi: 10.1002/jhbp.868. Epub 2020 Dec 12. PMID: 33200538.

13 Ueno M, Ikeda M, Sasaki T, Nagashima F, Mizuno N, Shimizu S, Ikezawa H, Hayata N, Nakajima R, Morizane C. Phase 2 study of lenvatinib monotherapy as second-line treatment in unresectable biliary tract cancer: primary analysis results. BMC Cancer. 2020 Nov 16; 20(1):1105. doi: 10.1186/s12885-020-07365-4. PMID: 33198671; PMCID: PMC7667859.

14 Ioka T, Furuse J, Fukutomi A, Mizusawa J, Nakamura S, Hiraoka N, Ito Y, Katayama H, Ueno M, Ikeda M, Sugimori K, Okano N, Shimizu K, Yanagimoto H, Okusaka T, Ozaka M, Todaka A, Nakamori S, Tobimatsu K, Sata N, Kawashima Y, Hosokawa A, Yamaguchi T, Miyakawa H, Hara H, Mizuno N, Ishii H; Hepatobiliary and Pancreatic Oncology Group (HBPOG) of Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Randomized phase Ⅱ study of chemoradiotherapy with versus without induction chemotherapy for locally advanced pancreatic cancer: Japan Clinical Oncology Group trial, JCOG1106. Jpn J Clin Oncol. 2021 Feb 8; 51(2): 235-243. doi: 10.1093/jjco/hyaa198. PMID: 33164066.

15 Suzuki T, Kawai S, Ueno M, Lin Y, Kikuchi S. Treatment patterns in pancreatic cancer patients based on a hospital claims database in Japan. Jpn J Clin Oncol. 2021 Feb 8; 51(2): 228-234. doi: 10.1093/jjco/hyaa183. PMID: 33140097.

16 Ueno M, Nakamori S, Sugimori K, Kanai M, Ikeda M, Ozaka M, Furukawa M, Okusaka T, Kawabe K, Furuse J, Komatsu Y, Ishii H, Sato A, Shimizu S, Chugh P, Tang R, Ioka T. nal-IRI+5-FU/LV versus 5-FU/LV in post-gemcitabine metastatic pancreatic cancer: Randomized phase 2 trial in Japanese patients. Cancer Med. 2020 Dec; 9(24): 9396-9408. doi: 10.1002/cam4.3558. Epub 2020 Oct 25. PMID: 33099898; PMCID: PMC7774735.

17 Ogushi K, Chuma M, Uojima H, Hidaka H, Numata K, Kobayashi S, Hirose S, Hattori N, Fujikawa T, Nakazawa T, Wada N, Iwasaki S, Fukushima T, Sano Y, Ueno M, Kawano K, Tsuruya K, Shomura M, Watanabe T, Matsunaga K, Kunishi Y, Saigusa Y, Irie K, Iwabuchi S, Kako M, Morimoto M, Kagawa T, Tanaka K, Maeda S. Safety and Efficacy of Lenvatinib Treatment in Child-Pugh A and B Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma in Clinical Practice: A Multicenter Analysis. Clin Exp Gastroenterol. 2020 Oct 1;13:385-396. doi: 10.2147/CEG.S256691. PMID: 33061517; PMCID: PMC7534867.

18 Nakamura Y, Taniguchi H, Ikeda M, Bando H, Kato K, Morizane C, Esaki T, Komatsu Y, Kawamoto Y,

Takahashi N, Ueno M, Kagawa Y, Nishina T, Kato T, Yamamoto Y, Furuse J, Denda T, Kawakami H, Oki E, Nakajima T, Nishida N, Yamaguchi K, Yasui H, Goto M, Matsuhashi N, Ohtsubo K, Yamazaki K, Tsuji A, Okamoto W, Tsuchihara K, Yamanaka T, Miki I, Sakamoto Y, Ichiki H, Hata M, Yamashita R, Ohtsu A, Odegaard JI, Yoshino T. Clinical utility of circulating tumor DNA sequencing in advanced gastrointestinal cancer: SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA studies. Nat Med. 2020 Dec;26(12):1859-1864. doi: 10.1038/s41591-020-1063-5. Epub 2020 Oct 5. PMID: 33020649.

19 Okano N, Furuse J, Ueno M, Morizane C, Yamanaka T, Ojima H, Ozaka M, Sasaki M, Takahara N, Nakai Y, Kobayashi S, Morimoto M, Hosoi H, Maeno S, Nagashima F, Ikeda M, Okusaka T. Multicenter Phase Ⅱ Trial of Axitinib Monotherapy for Gemcitabine-Based Chemotherapy Refractory Advanced Biliary Tract Cancer (AX-BC Study). Oncologist. 2021 Feb;26(2):97-e201. doi: 10.1002/onco.13547. Epub 2020 Oct 17. PMID: 33010112; PMCID: PMC7873316.

20 Imaoka H, Ikeda M, Maehara K, Umemoto K, Ozaka M, Kobayashi S, Terashima T, Inoue H, Sakaguchi C, Tsuji K, Shioji K, Okamura K, Kawamoto Y, Suzuki R, Shirakawa H, Nagano H, Ueno M, Morizane C, Furuse J. Clinical outcomes of chemotherapy in patients with undifferentiated carcinoma of the pancreas: a retrospective multicenter cohort study. BMC Cancer. 2020 Oct 1;20(1):946. doi: 10.1186/s12885-020-07462-4. PMID: 33004032; PMCID: PMC7529509.

21 Fujimori M, Sato A, Jinno S, Okusaka T, Yamaguchi T, Ikeda M, Ueno M, Ozaka M, Takayama Y, Miyaji T, Majima Y, Uchitomi Y. Integrated communication support program for oncologists, caregivers and patients with rapidly progressing advanced cancer to promote patient-centered communication: J-SUPPORT 1904 study protocol for a randomised controlled trial. BMJ Open. 2020 Sep 23; 10(9): e036745. doi: 10.1136/bmjopen-2019-036745. PMID: 32967874; PMCID: PMC7513597.

22 Tanaka H, Hijioka S, Hosoda W, Ueno M, Kobayashi N, Ikeda M, Ito T, Kodama Y, Morizane C, Notohara K, Taguchi H, Kitano M, Komoto I, Tsuji A, Hashigo S, Kanno A, Miyabe K, Takagi T, Ishii H, Kojima Y, Yoshitomi H, Yanagimoto H, Furuse J, Mizuno N. Pancreatic neuroendocrine carcinoma G3 may be heterogeneous and could be classified into two distinct groups. Pancreatology. 2020 Oct; 20(7): 1421-1427. doi: 10.1016/j.pan.2020.07.400. Epub 2020 Aug 8. PMID: 32891532.

23 Sano Y, Morimoto M, Kobayashi S, Ueno M, Fukushima T, Asama H, Kawano K, Nagashima S, Tanaka S, Ohkawa S, Maeda S. Repeated Lusutrombopag Treatment for Thrombocytopenia in Patients with Chronic Liver Disease. Digestion. 2021; 102(4): 654-662. doi: 10.1159/000509852. Epub 2020 Aug 25. PMID: 32841939.

24 Kamiya M, Yamamoto N, Kamioka Y, Inoue H, Yotsumoto H, Murakawa M, Aoyama T, Washimi K, Kawachi K, Oshima T, Ueno M, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Morinaga S. Rapidly progressed neuroendocrine carcinoma in the extrahepatic bile duct: a case report and review of the literature. Surg Case Rep. 2020 Aug 3; 6(1): 191. doi: 10.1186/s40792-020-00945-3. PMID: 32748005; PMCID: PMC7399003.

25 Lin Y, Nakatochi M, Hosono Y, Ito H, Kamatani Y, Inoko A, Sakamoto H, Kinoshita F, Kobayashi Y, Ishii H, Ozaka M, Sasaki T, Matsuyama M, Sasahira N, Morimoto M, Kobayashi S, Fukushima T, Ueno M, Ohkawa S, Egawa N, Kuruma S, Mori M, Nakao H, Adachi Y, Okuda M, Osaki T, Kamiya S, Wang C, Hara K, Shimizu Y, Miyamoto T, Hayashi Y, Ebi H, Kohmoto T, Imoto I, Kasugai Y, Murakami Y, Akiyama M, Ishigaki K, Matsuda K, Hirata M, Shimada K, Okusaka T, Kawaguchi T, Takahashi M, Watanabe Y, Kuriki K, Kadota A, Okada R, Mikami H, Takezaki T, Suzuki S, Yamaji T, Iwasaki M, Sawada N, Goto A, Kinoshita K, Fuse N, Katsuoka F, Shimizu A, Nishizuka SS, Tanno K, Suzuki K, Okada Y, Horikoshi M, Yamauchi T, Kadowaki T, Yu H, Zhong J, Amundadottir LT, Doki Y, Ishii H, Eguchi H, Bogumil D, Haiman CA, Le Marchand L, Mori M, Risch H, Setiawan VW, Tsugane S, Wakai K, Yoshida T, Matsuda F, Kubo M, Kikuchi S, Matsuo K. Genome-wide association meta-analysis identifies GP2 gene risk variants for pancreatic cancer. Nat Commun. 2020 Jun 24; 11(1): 3175. doi: 10.1038/s41467-020-16711-w. PMID: 32581250; PMCID: PMC7314803.

26 Okano N, Morizane C, Nomura S, Takahashi H, Tsumura H, Satake H, Mizuno N, Tsuji K, Shioji K, Asagi A, Yasui K, Kitagawa S, Kashiwada T, Ishiguro A, Kanai M, Ueno M, Ogura T, Shimizu S, Tobimatsu K, Motoya M, Nakashima K, Ikeda M, Okusaka T, Furuse J. Phase Ⅱ clinical trial of gemcitabine plus oxaliplatin in patients with metastatic pancreatic adenocarcinoma with a family history of pancreatic/breast/ovarian/prostate cancer or personal history of breast/ovarian/prostate cancer (FABRIC study). Int J Clin Oncol. 2020 Oct; 25(10): 1835-1843. doi: 10.1007/s10147-020-01721-x. Epub 2020 Jun 13. PMID: 32535711.

27 Yoo C, Oh DY, Choi HJ, Kudo M, **Ueno M**, Kondo S, Chen LT, Osada M, Helwig C, Dussault I, Ikeda M. Phase I study of bintrafusp alfa, a bifunctional fusion protein targeting TGF-β and PD-L1, in patients with pretreated biliary tract cancer. J Immunother Cancer. 2020 May; 8(1): e000564. doi: 10.1136/jitc-2020-000564. PMID: 32461347; PMCID: PMC7254161.

28 Piha-Paul SA, Oh DY, **Ueno M**, Malka D, Chung HC, Nagrial A, Kelley RK, Ros W, Italiano A, Nakagawa K, Rugo HS, de Braud F, Varga AI, Hansen A, Wang H, Krishnan S, Norwood KG, Doi T. Efficacy and safety of pembrolizumab for the treatment of advanced biliary cancer: Results from the KEYNOTE-158 and KEYNOTE-028 studies. Int J Cancer. 2020 Oct 15; 147(8): 2190-2198. doi: 10.1002/ijc.33013. Epub 2020 May 2. PMID: 32359091.

29 Kobayashi N, Omae K, Horita Y, Ueno H, Mizuno N, Uesugi K, Sudo K, Ozaka M, Hayashi H, Okano N, Kamei K, Yamaguchi A, **Kobayashi S**, Suzuki S, Ishihara S, Uchiyama T, Todaka A, Fukutomi A. FOLFIRINOX as second-line chemotherapy for advanced pancreatic cancer: A subset analysis of data from a nationwide multicenter observational study in Japan. Pancreatology. 2020 Oct; 20(7): 1519-1525. doi: 10.1016/j.pan.2020.07.006. Epub 2020 Jul 28. PMID: 32972834.

30 Uojima H, Chuma M, Tanaka Y, Hidaka H, Nakazawa T, Iwabuchi S, **Kobayashi S**, Hattori N, Ogushi K, **Morimoto M**, Kagawa T, Tanaka K, Kako M, Koizumi W. Skeletal Muscle Mass Influences Tolerability and Prognosis in Hepatocellular Carcinoma Patients Treated with Lenvatinib. Liver Cancer. 2020 Apr; 9(2): 193-206. doi: 10.1159/000504604. Epub 2019 Dec 6. PMID: 32399433; PMCID: PMC7206580.

31 Takeda K, Tsurumaru Y, Yamamoto Y, Araki K, Kogure Y, Mori K, Nakagawa K, Shimizu T, Matsuda G, Niino H, Sekido H, **Kobayashi S**, **Morimoto M**, Kunisaki C, Endo I. Treatment of hepatocellular carcinoma with hepatic vein tumor thrombosis protruding into the inferior vena cava by conversion surgery following chemotherapy with regorafenib: a case report. Clin J Gastroenterol. 2020 Jun;13(3):428-433. doi: 10.1007/s12328-019-01077-4. Epub 2020 Jan 22. PMID: 31970661; PMCID: PMC7239798.

32 Nozaki A, Chuma M, Hara K, Moriya S, Fukuda H, Numata K, Tanaka K, **Morimoto M**, Sakamaki K, Yamanaka T, Kondo M, Maeda S. Sofosbuvir-based therapies associated with regression of liver fibrosis in patients with hepatitis C virus infection: A prospective observational study. Medicine (Baltimore). 2021 Mar 26; 100(12): e25110. doi: 10.1097/MD.0000000000025110. PMID: 33761674.

33 Kudo M, Tsuchiya K, Kato N, Hagihara A, Numata K, Aikata H, Inaba Y, Kondo S, Motomura K, Furuse J, Ikeda M, **Morimoto M**, Achira M, Kuroda S, Kimura A. Cabozantinib in Japanese patients with advanced hepatocellular carcinoma: a phase 2 multicenter study. J Gastroenterol. 2021 Feb; 56(2): 181-190. doi: 10.1007/s00535-020-01753-0. Epub 2021 Jan 3. PMID: 33392749; PMCID: PMC7862203.

34 Kudo M, Okusaka T, Motomura K, Ohno I, **Morimoto M**, Seo S, Wada Y, Sato S, Yamashita T, Furukawa M, Aramaki T, Nadano S, Ohkawa K, Fujii H, Kudo T, Furuse J, Takai H, Homma G, Yoshikawa R, Zhu AX. Ramucirumab after prior sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma and elevated alpha-fetoprotein: Japanese subgroup analysis of the REACH-2 trial. J Gastroenterol. 2020 Jun; 55(6): 627-639. doi: 10.1007/s00535-020-01668-w. Epub 2020 Feb 27. PMID: 32107609; PMCID: PMC7242235.

35 全身化学療法後，コンバージョン手術を施行した胆嚢癌肝転移長期生存例
Author：**長島周平（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵）**，**上野　誠**，**小林　智**，**佐野裕亮**，**福島泰人**，**浅間 宏之**，山本 直人，森永聡一郎，吉岡恵美，横瀬智之，森本　学
Source：胆道（0914-0077）34巻５号Page848-853（2020.12）

36 膵癌化学療法中にTrousseau症候群及び癌性髄膜炎を発症した１例
Author：**佐野裕亮（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵）**，**上野　誠**，**長島周平**，**河野邦幸**，**田中　聡**，**福島泰斗**，**浅間宏之**，**小林　智**，**森本　学**
Source：膵臓（0913-0071）35巻４号Page336-343（2020.08）論文種類：原著論文／症例報告
DOI：10.2958/suizo.35.336

その他の出版物

1 肝細胞がん　Advanced stage HCCに対する二次薬物療法のエビデンス
Author：小林　智（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵），上野　誠，森本　学
Source：腫瘍内科（1881-6568）27巻２号 Page139-144（2021. 02）
論文種類：解説／特集

2 【消化器領域のがん薬物療法―最近の動向―】胆道癌に対する薬物療法
Author：上野　誠（神奈川県立がんセンター消化器内科）
Source：消化器内科３巻３号 Page51-58（2021. 03）
論文種類：解説／特集

3 神経内分泌腫瘍診療の課題と展望

Author：上野　誠（神奈川県立がんセンター消化器内科），工藤　篤，肱岡　範，池田 公史
Source：胆膵Oncology Forum（2436-0287）1巻1号 Page4-10（2020. 12）
論文種類：座談会
DOI：10.34449/J0118.01.01_0004-0010

4 【臓器別やさしい消化器がん化学療法・薬物療法　32のレジメン×副作用ケア×退院指導】（Chapter 1）消化器がん化学・薬物療法の基本　治療の進めかたと治療期のサポート
Author：上野　誠（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵）
Source：消化器ナーシング（2434-4575）2020秋季増刊 Page12-14（2020. 10）
論文種類：解説/特集

5 【臓器別やさしい消化器がん化学療法・薬物療法　32のレジメン×副作用ケア×退院指導】（Chapter 1）消化器がん化学・薬物療法の基本　消化器がん化学・薬物療法薬の分類
Author：上野　誠（神奈川県立がんセンター 消化器内科肝胆膵）
Source：消化器ナーシング（2434-4575）2020秋季増刊 Page8-11（2020. 10）
論文種類：解説／特集

6 【肝細胞癌治療のパラダイムチェンジ―進化する薬物療法2020 Update Part Ⅱ―（分子標的治療）】ソラフェニブ　臨床試験における対照薬としてのソラフェニブの生存率の変遷とその解釈
Author：森本　学（神奈川県立がんセンター消化器内科），福島泰斗，小林　智，上野　誠
Source：肝胆膵（0389-4991）81巻5号 Page891-896（2020. 11）
論文種類：解説／特集

7 転移性膵癌に対する二次化学療法の新たな選択肢　ナノリポソーム型イリノテカン+フルオロウラシル/フォリン酸療法
Author：上野 誠（神奈川県立がんセンター消化器内科）
Source：癌と化学療法（0385-0684）47巻6号 Page955-962（2020.06）
論文種類：解説

8 【肝細胞癌に対する薬物療法の進歩】ソラフェニブ・レゴラフェニブの実臨床での効果と有害事象対策
Author：森本　学（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵），上野　誠，小林　智
Source：肝臓クリニカルアップデート（2189-4469）6巻1号 Page7-14（2020. 05）
論文種類：解説/特集

9 【周術期化学療法の現状と展望】膵癌周術期治療の現状と未来
Author：上野　誠（神奈川県立がんセンター消化器内科）
Source：癌と化学療法（0385-0684）47巻4号 Page578-581（2020. 04）
論文種類：解説／特集

10 【臓器別やさしい消化器がん化学療法・薬物療法　32のレジメン×副作用ケア×退院指導】（Chapter 3）消化器がんの病態と治療　膵臓がん
Author：小林　智（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵）
Source：消化器ナーシング（2434-4575）2020秋季増刊 Page107-116（2020. 10）
論文種類：解説/特集

11 【肝細胞癌治療のパラダイムチェンジ―進化する薬物療法2020 Update Part Ⅱ―（分子標的治療）】ラムシルマブ　REACH/REACH-2試験のサブ解析
Author：小林　智（神奈川県立がんセンター消化器内科）
Source：肝胆膵（0389-4991）81巻5号 Page957-966（2020. 11）
論文種類：解説/特集

12 【薬物療法がひらく新しい肝細胞癌の治療strategy】肝細胞癌に対する新規薬物療法の最新情報　カボザンチニブの最新情報
Author：小林 智（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵）
Source：臨床消化器内科（0911-601X）35巻8号 Page853-857（2020. 07）
論文種類：解説/特集

13 【膵癌診療ガイドライン改訂を外科医はこう読み解く―ディベート&ディスカッション】ディベート　十二指腸狭窄に対する治療法　十二指腸ステント留置vs胃空腸吻合「十二指腸ステント留置」の立場から
Author：小林 智（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵）
Source：臨床外科（0386-9857）75巻6号 Page723-726（2020. 06）
論文種類：解説／特集
DOI：10.11477/mf.1407212967

学会等発表

1 切除不能肝細胞癌に対し，Lenvatinib及び肝動注化学療法後に根治切除術を施行した1例（英語）
Author：神谷真梨子（神奈川県立がんセンター消化器外科），山本直人，上岡祐人，村川正明，青山　徹，鷲見公太，大島　貴，上野　誠，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎
Source：日本癌治療学会学術集会抄録集58回 Page P-189（2020. 10）
論文種類：会議録／症例報告

2 膵臓癌患者に対する重イオン放射線療法の栄養と身体組成に対する影響（英語）
Author：山本直人（神奈川県立がんセンター消化器外

科（肝胆膵）），加藤弘之，上野　誠，小林　智，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，森永聡一郎
Source：日本癌治療学会学術集会抄録集58回 Page O32-3（2020. 10）
論文種類：会議録

3　膵癌化学療法中における感染性膵嚢胞発症リスクの検討
Author：田中　聡（神奈川県立がんセンター肝胆膵内科），小林　智，上野　誠，大石梨津子，長島周平，佐野裕亮，福島泰斗，紺野直紀，森本　学
Source：日本癌治療学会学術集会抄録集58回 Page O21-4（2020. 10）
論文種類：会議録

4　膵癌治療の現状と今後　膵がんに対するゲノム医療の動向（英語）
Author：上野　誠（神奈川県立がんセンター消化器内科・肝胆膵）
Source：日本癌治療学会学術集会抄録集58回 Page SY4-4（2020. 10）
論文種類：会議録

5　局所進行膵癌（LAPC）に対する十二指腸ステントの有用性の検討
Author：長島周平（神奈川県立がんセンター），小林　智，森本　学，佐野裕亮，河野邦幸，田中　聡，福島泰斗，浅間宏之，上野　誠
Source：Gastroenterological Endoscopy（0387-1207）62巻 Suppl.1 Page1242（2020.08）
論文種類：会議録

6　肝門部領域胆管癌・遠位胆管癌・非切除胆道癌の診断と治療　ゲムシタビン+シスプラチン療法歴のある切除不能胆道癌に対する二次治療としてのS-1療法の成績
Author：佐野裕亮（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵），小林　智，上野　誠，長島 周平，河野邦幸，田中　聡，福島泰斗，浅間宏之，森本　学
Source：胆道（0914-0077）34巻３号 Page429（2020.08）
論文種類：会議録

7　GEM＋S-1併用術前補助化学療法の初期経験
Author：小林　智（神奈川県立がんセンター消化器内科肝胆膵），神谷真梨子，上野　誠，長島周平，佐野祐亮，田中　聡，福島泰斗，浅間宏之，上岡祐人，村川正明，山本直人，森永聡一郎，森本　学
Source：膵臓（0913-0071）35巻３号 Page A279（2020. 07）
論文種類：会議録

8　稀な膵腫瘍を極める！その診断と治療
Author：小林　智（神奈川県立がんセンター消化器内科（肝胆膵））
Source：神奈川医学会雑誌（0285-0680）48巻１号 Page 24（2021.01）
論文種類：会議録

消化器外科（胃食道）

発表論文

1　Kano K, Yamada T, Yamamoto K, Komori K, Watanabe H, Hara K, Shimoda Y, Maezawa Y, Fujikawa H, Aoyama T, Tamagawa H, Yamamoto N, Cho H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Association Between Lymph Node Ratio and Survival in Patients with Pathological Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer. Annals of Surgical Oncology, 27: 4235-4247, 2020.

2　Oshima T, Yoshikawa T, Miyagi Y, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, Yokose T, Hiroshima Y, Aoyama T, Hayashi T, Ogata T, Cho H, Rino Y, Masuda M, Tsuburaya A, Sakamoto J: Biomarker analysis to predict the pathological response to neoadjuvant chemotherapy in locally advanced gastric cancer: An exploratory biomarker study of COMPASS, a randomized phase Ⅱ trial. Oncotarget, 11(30): 2906-2918, 2020.

3　Komori K, Kano K, Aoyama T, Hashimoto I, Hara K, Murakawa M, Atsumi Y, Maezawa Y, Kazama K, Numata M, Tamagawa H, Yukawa N, Oshima T, Masuda M, Rino Y: The Short- and Long-term Outcomes of Gastrectomy in Elderly Patients With Gastric Cancer. In Vivo, 34(5): 2697-2703, 2020.

4　Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Kano K, Shimoda Y, Aoyama T, Yamada T, Hiroshi T, Yamamoto N, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: The Clinical Significance of Lymphovascular Invasion in Gastric Cancer. In Vivo, 34(3): 1533-1539, 2020.

5　Nagashima T, Oshima T, Hiroshima Y, Yokose T, Woo T, Rino Y, Masuda M, Miyagi Y, Ito H, Nakatyama H: Clinical Significance of Tumour CD44v and MIST1 Expression in Patients With Non-small-cell Lung Cancer. Anticancer Research, 40 (11): 6407-6416, 2020.

6　Yamada T, Hayashi T, Inokuchi Y, Hayashi K, Watanabe H, Komori K, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Impact of the Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio on the Survival of Patients with Gastric Cancer Treated with Nivolumab Monotherapy. Targeted Oncology, 15(3): 317-325, 2020.

7　Kano K, Yamada T, Oshima T: ASO Author Reflections: Association Between the Lymph Node Ratio and Survival in Patients with Pathological Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer. Annals of Surgical Oncology,

27(11): 4248-4249, 2020.

8 Yamada T, Kano K, Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Shimoda Y, Shiozawa M, Morinaga S, Aoyama T, Numata M, Tamagawa H, Rino H, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Is sufficient experience performing open gastrectomies necessary to start laparoscopic distal gastrectomy training?. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 2020 Nov 24. doi: 10.1111/ases.12901. Online ahead of print.

9 Kano K, Yamada T, Yamamoto K, Komori K, Watanabe H, Takahashi K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Tamagawa H, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: The Impact of Pretherapeutic Naples Prognostic Score on Survival in Patients with Locally Advanced Esophageal Cancer. Annals of Surgical Oncology, 2021 Jan 9. doi: 10.1245/s10434-020-09549-5. Online ahead of print.

10 Watanabe H, Yamada T, Komori K, Hara K, Kano K, Takahashi K, Kumazu Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, Inokuchi Y, Machida N, Shiozawa M, Yukawa N, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Effect of Prognostic Nutrition Index in Gastric or Gastro-oesophageal Junction Cancer Patients Undergoing Nivolumab Monotherapy. In vivo, 35(1): 563-569, 2021.

11 Kano K, Yamada T, Yamamoto K, Komori K, Watanabe H, Takahashi K, Maezawa Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, Cho H, Yukawa N, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Evaluation of Lymph Node Staging Systems as Independent Prognosticators in Remnant Gastric Cancer Patients with an Insufficient Number of Harvested Lymph Nodes. Annals of Surgical Oncology, 28(5): 2866-2876, 2021.

12 Kano K, Yamada T, Oshima T: ASO Author Reflections: Lymph Node Staging of Patients with Remnant Gastric Cancer. Annals of Surgical Oncology, 28(5): 2877-2878, 2021.

13 Watanabe H, Yamada T, Komori K, Hara K, Kano K, Takahashi K, Kumazu Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, Inokuchi Y, Machida N, Shiozawa M, Yukawa N, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Effect of Prognostic Nutrition Index in Gastric or Gastro-oesophageal Junction Cancer Patients Undergoing Nivolumab Monotherapy. In vivo, 35(1): 563-569, 2021.

14 Kano K, Yamada T, Yamamoto K, Komori K, Watanabe H, Takahashi K, Maezawa Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, Cho H, Yukawa N, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Evaluation of Lymph Node Staging Systems as Independent Prognosticators in Remnant Gastric Cancer Patients with an Insufficient Number of Harvested Lymph Nodes. Annals of Surgical Oncology, 28(5): 2866-2876, 2021.

15 Kano K, Yamada T, Oshima T: ASO Author Reflections: Lymph Node Staging of Patients with Remnant Gastric Cancer. Annals of Surgical Oncology, 28(5): 2877-2878, 2021.

16 Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Research, 40(10): 5815-5821, 2020.

17 Shimoda Y, Yamada T, Komori K, Watanabe H, Osakabe H, Kano K, Fujikawa H, Hayashi T, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Ota Y, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T: Effect of Muscle Mass Loss After Esophagectomy on Prognosis of Oesophageal Cancer. Anticancer Research, 40 (4): 2275-2281, 2020.

18 Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Research, 40(10): 5815-5821, 2020.

19 Hara K, Aoyama T, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Shiozawa M, Morinaga S, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Postoperative D-dimer elevation affects tumor recurrence and the long-term survival in gastric cancer patients who undergo gastrectomy. International Journal of Clinical Oncology volume, 25(4): 584-594, 2020.

20 Kumazu Y, Oba K, Hayashi T, Yamada T, Hara K, Osakabe H, Shimoda Y, Nakazono M, Nagasawa S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Yoshikawa T, Oshima T: Relationship Between the Waiting Times for Surgery and Survival in Patients with Gastric Cancer. World Journal of Surgery volume 44(4): 1209-1215, 2020.

21 Kumazu Y, Hayashi T, Yoshikawa T, Yamada

T, Hara K, Shimoda Y, Nakazono M, Nagasawa S, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Risk factors analysis and stratification for microscopically positive resection margin in gastric cancer patients. BMC Surgery, 20(1): 95, 2020.

22 Hara K, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Yamada T, Yamamoto N, Shiozawa M, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: An easy and reliable method to close Petersen's defect using barbed suture to prevent internal hernia from developing after gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 13(2): 238-241, 2020.

23 Shimoda Y, Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Kano K, Yamada T, Shiozawa M, Morinaga S, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T: Preoperative Utility of the Glasgow Prognostic Score on Outcomes of Patients with Locally Advanced Gastric Cancer. J Gastrointest Cancer, 2021 Jan 18. doi: 10.1007/s12029-021-00584-3. Online ahead of print.

24 Shimoda Y, Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Kano K, Yamada T, Shiozawa M, Morinaga S, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T: Prognostic Factors for Gastric Cancer Patients With One Stage IV Factor who Underwent Conversion Surgery. Anticancer Research, 41(2): 1005-1012, 2021.

25 Kano K, Yamada T, Ogata T, Oshima T: ASO Author Reflections: Pretherapeutic Naples Prognostic Score in Locally Advanced Esophageal Cancer. Annals of Surgical Oncology, 2021 Jan 28. doi: 10.1245/s10434-021-09633-4. Online ahead of print.

26 Meier A, Nekolla K, Hewitt LC, Earle S, Yoshikawa T, Oshima T, Miyagi Y, Huss R, Schmidt G, Grabsch HI: Hypothesis-free deep survival learning applied to the tumour microenvironment in gastric cancer. The Journal of Pathology Clinical Research, 6(4): 273-282, 2020.

27 Kawazoe A, Yamaguchi K, Yasui H, Negoro Y, Azuma M, Amagai K, Hara H, Baba H, Tsuda M, Hosaka H, Kawakami H, Oshima T, Omuro Y, Machida N, Esaki T, Toshida K, Nishina T, Komatsu Y, Han SR, Shiratori S, Shitara K: Safety and efficacy of pembrolizumab in combination with S-1 plus oxaliplatin as a first-line treatment in patients with advanced gastric/gastroesophageal junction cancer: Cohort 1 data from the KEYNOTE-659 phase Ⅱb study. European Journal of Cancer, 129: 97-106, 2020.

28 Maezawa Y, Aoyama T, Ju M, Komori K, Kano K, Sawazaki S, Numata M, Hayashi T, Yamada T, Tamagawa H, Sato T, Ogata T, Cho H, Oshima T, Yukawa N, Yoshikawa T, Masuda M, Rino Y: The Impact of Severe Infectious Complications on Long-term Prognosis for Gastric Cancer. Anticancer Research, 40 (7): 4067-4074, 2020.

29 Aoyama T, Yamamoto N, Kamiya M, Murakawa M, Tamagawa H, Sawazaki S, Numata M, Kobayashi S, Ueno M, Morimoto M, Shiozawa M, Yukawa N, Oshima T, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Morinaga S: The age-adjusted Charlson comorbidity index is an independent prognostic factor in pancreatic cancer patients who receive curative resection followed by adjuvant chemotherapy. Journal of Cancer Research and Therapeutics, 16: S116-S121, 2020.

30 Aoyama T, Atsumi Y, Kawahara S, Tamagawa H, Tamagawa A, Maezawa Y, Kano K, Murakawa M, Kazama K, Numata M, Oshima T, Yukawa N, Masuda M, Rino Y: The Number of Harvested LNs Is an Independent Prognostic Factor in Lymph Node Metastasis-negative Patients Who Received Curative Esophagectomy. In Vivo, 34(4): 2021-2027, 2020.

31 Tamagawa H, Aoyama T, Inoue H, Fujikawa H, Sawazai S, Numata M, Sato T, Oshima T, Yukawa N, Morimoto M, Ueno M, Rino Y, Masuda M: Therapeutic results of Denver percutaneous peritoneovenous shunt in cancer patients with malignant ascites. Journal of Cancer Research and Therapeutics, 16: S95-S98, 2020.

32 Yukawa N, Aoyama T, Tamagawa H, Tamagawa A, Atsumi Y, Kawahara S, Maezawa Y, Kano K, Murakawa M, Kazama K, Numata M, Oshima T, Masuda M, Rino Y: The Lymph Node Ratio Is an Independent Prognostic Factor in Esophageal Cancer Patients Who Receive Curative Surgery. In Vivo, 34(4): 2087-2093, 2020.

33 Aoyama T, Atsumi Y, Kawahara S, Tamagawa H, Tamagawa A, Ozawa Y, Maezawa Y, Kano K, Murakawa M, Kazama K, Segami K, Hara K, Numata M, Oshima T, Yukawa N, Masuda M, Rino Y: The Clinical Impact of the Age-adjusted Charlson Comorbidity Index on Esophageal Cancer Patients Who Receive Curative Treatment. In Vivo, 34(5): 2783-2790, 2020.

34 Kazama K, Numata M, Aoyama T, Onodeara A, Hara K, Atsumi Y, Tamagawa H, Godai T, Saeki H, Saigusa Y, Okamoto H, Shiozawa M, Oshima T, Yukawa N, Masuda M, Rino Y: Laparoscopic vs. Open Surgery for Stage Ⅱ/Ⅲ Colon Cancer Patients With Body Mass Index >25kg/m^2. In Vivo, 34(4): 2079-2085, 2020.

35 Aoyama T, Atsumi Y, Hara K, Kazama K, Tamagawa H, Tamagawa A, Komori K, Maezawa Y, Kano K, Hashimoto I, Oshima T, Murakawa M, Numata

M, Yukawa N, Masuda M, Rino Y: Postoperative Bleeding After Esophagectomy for Esophageal Cancer in Patients Receiving Antiplatelet and Anticoagulation Treatment. Anticancer Research, 40(4): 2359-2364, 2020.

36 Tamagawa H, Aoyama T, Tamagawa A, Komori K, Maezawa Y, Kano K, Murakawa M, Atsumi Y, Hara K, Kazama K, Numata M, Oshima T, Yukawa N, Masuda M, Rino Y: Influence of the Preoperative C-Reactive Protein-to-Albumin Ratio on Survival and Recurrence in Patients With Esophageal Cancer. Anticancer Research, 40(4): 2365-2371, 2020.

37 Atsumi S, Katoh H, Komura D, Hashimoto I, Furuya G, Koda H, Konishi H, Suzuki R, Yamamoto A, Yuba S, Abe H, Rino Y, Oshima T, Ushiku T, Fukayama M, Seto Y, Ishikawa S: Focal adhesion ribonucleoprotein complex proteins are major humoral cancer antigens and targets in autoimmune diseases. Communications Biology, 3(1): 588, 2020.

38 Tsuchida K, Sato T, Aoyama T, Atsumi Y, Kano K, Maezawa Y, Kazama K, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Murakami H, Oshima T, Saeki H, Cho H, Yukawa N, Yamamoto Y, Masuda M, Rino Y: Short-term results of a phase Ⅱ study of preoperative docetaxel/cisplatin/S-1 therapy for locally advanced gastric cancer. Jpn J Clin Oncol. 51(3): 371-378, 2021.

39 Kamiya M, Yamamoto N, Kamioka Y, Inoue H, Yotsumoto H, Murakawa M, Aoyama T, Washimi K, Kawachi K, Oshima T, Ueno M, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Morinaga S: Rapidly progressed neuroendocrine carcinoma in the extrahepatic bile duct: a case report and review of the literature. Surgical Case Reports, 6(1): 191, 2020.

40 Sato S, Shiozawa M, Sugano N, Higuchi A, Kazama K, Kato A, Uchiyama M, Okamoto H, Kohmura T, Oshima T, Rino Y, Masuda M: Prospective analysis of tumor spread to the small bowel mesentery in cases of right-sided colon cancer. Langenbeck's Archives of Surgery, 405(8): 1139-1145, 2020.

41 Murakami H, Yamada T, Taguri M, Hasegawa S, Yamanaka T, Rino Y, Mushiake H, Oshima T, Matsukawa H, Tani K, Suzuki Y, Ozawa Y, Tanabe H, Osaragi T, Sato T, Tamagawa H, Yukawa N, Yoshikawa T, Imada T, Masuda M, Yamamoto Y: Short-Term Outcomes from a Randomized Screening Phase Ⅱ Non-inferiority Trial Comparing Omentectomy and Omentum Preservation for Locally Advanced Gastric Cancer: the TOP-G Trial. World Journal of Surgery, 45(6): 1803-1811, 2021.

42 Sato Y, Yamada T, Yoshikawa T, Machida R, Mizusawa J, Katayama H, Tokunaga M, Boku N, Terashima M, Stomach Cancer Study Group/Japan Clinical Oncology Group: Randomized controlled Phase Ⅲ trial to evaluate omentum preserving gastrectomy for patients with advanced gastric cancer (JCOG1711, ROAD-GC). Japanese Journal of Clinical Oncology, 50(11): 1321-1324, 2020.

43 Tamagawa H, Aoyama T, Numata M, Kazama K, Maezawa Y, Atsumi Y, Hara K, Kawahara S, Kano K, Yukawa N, Saeki H, Godai T, Rino Y, Masuda M: A Comparison of Open and Laparoscopic-assisted Colectomy for Obstructive Colon Cancer. In Vivo, 34(5): 2797-2801, 2020.

44 Takahashi M, Kato K, Okada M, Chin K, Kadowaki S, Hamamoto Y, Doki Y, Kubota Y, Kawakami H, Ogata T, Hara H, Muto M, Nakashima Y, Ishihara R, Tsuda M, Motoyama S, Kodani M, Kitagawa Y: Nivolumab versus chemotherapy in Japanese patients with advanced esophageal squamous cell carcinoma: a subgroup analysis of a multicenter, randomized, open-label, phase 3 trial (ATTRACTION-3). Esophagus, 18(1): 90–99, 2021.

45 Yang HK, Ji J, Han SU, Terashima M, Li G, Kim HH , Law S, Shabbir A, Song KY, Hyung WJ, Kosai NR, Kono K, Misawa K, Yabusaki H, Kinoshita T, Lau PC, Kim YW, Rao JR, Ng E, Yamada T, Yoshida K, Park DJ, Tai BC, So JBY, EXPEL study group: Extensive peritoneal lavage with saline after curative gastrectomy for gastric cancer (EXPEL): a multicentre randomised controlled trial. The Lancet Gastroenterology & Hepatology, 6(2): 120-127, 2021.

46 Rino Y, Aoyama T, Atsumi Y, Yamada T, Yukawa N: Metabolic bone disorders after gastrectomy: inevitable or preventable?. Surgery Today, 2021 Feb 25. doi: 10.1007/s00595-021-02253-1. Online ahead of print.

47 Ito Y, Fujitani K, Sakamaki K, Ando M, Kawabata R, Tanizawa Y, Yoshikawa T, Yamada T, Hirao M, Yamada M, Hihara J, Fukushima R, Choda Y, Kodera Y, Teshima S, Shinohara H, Kondo M: QOL assessment after palliative surgery for malignant bowel obstruction caused by peritoneal dissemination of gastric cancer: a prospective multicenter observational study. Gastric Cancer, 2021 Mar 31. doi: 10.1007/s10120-021-01179-4. Online ahead of print.

48 Numata M, Tamagawa H, Kazama K, Kawahara S, Sawazaki S, Aoyama T, Maezawa Y, Kano K, Higuchi A, Godai T, Saigusa Y, Saeki H, Yukawa N, Rino Y: Lateral lymph node dissection for mid-to-low rectal cancer: is it safe and effective in a practice-based cohort? BMC Surgery, 21(1): 51, 2021.

49 佐藤　渉，國崎主税，高橋正純，大島　貴，比企直樹，

大坪毅人，小澤壯治，遠藤　格：神奈川県下の高齢者胃癌症例に対する腹腔鏡下胃切除術の現状．日本内視鏡外科学会雑誌，25(4)，254-262，2020.

50　朱　美和，青山　徹，遠藤和也，杉山敦彦，森　佳織，佐藤　勉，玉川　洋，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：腸閉塞を契機に診断された転移性小腸腫瘍の１例．癌と化学療法，47(13)：2373-2375，2020.

51　田邉美恵，澤崎　翔，沼田正勝，森　佳織，**公盛啓介**，**神尾一樹**，前澤幸男，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，益田宗孝，利野　靖：腸回転異常を伴うＳ状結腸癌に対して腹腔鏡下Ｓ状結腸切除を施行した１例．神奈川医学会雑誌，48(1):18-19，2021.

52　小野寺篤，天野新也，森　佳織，**公盛啓介**，**神尾一樹**，前澤幸男，澤崎　翔，沼田正勝，青山　徹，玉川　洋，佐藤　勉，益田宗孝，利野　靖：神奈川医学会雑誌，48(1)：19，2021.

53　神谷真梨子，山本直人，四元宏和，井上広英，**大島　貴**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：当院で経験した膵腺扁平上皮癌の解析．神奈川医学会雑誌，48(1)：22-23，2021.

学会等発表

国際学会

1　**Yamada T**, Yoshikawa T, Sato Y, Machida R, Mizusawa J, Katayama H, Tokunaga M, Nishida Y, Hihara J, Watanabe M, Choda Y, Nunobe S, Fujita J, Kaji M, Fukushima N, Ito S, Boku N, Terashima M: Randomized phase Ⅲ trial to evaluate omentum preserving gastrectomy for patients with resectable advanced gastric cancer: JCOG1711 (ROAD-GC). ASCO, Virtual, May 29-31/2020.

2　**Yamada T**, Hayashi T, **Fujikawa H**, Kumazu Y, Nagasawa S, Nakazono M, **Kano K**, Hara K, **Watanabe H**, **Komori K**, Shimoda Y, **Takahashi K**, **Ogata T**, **Oshima T**, Yoshikawa T: Phase Ⅱ study to evaluate feasibility and safety of oral nutritional supplementation with high density liquid diet after total gastrectomy for patients with gastric cancer. ESMO, Virtual, Sep 19-21/2020.

3　**Fujikawa H**, **Yamada T**, **Koumori K**, **Watanabe H**, **Kano K**, **Takahashi K**, Rino Y, Masuda M, **Ogata T**, **Oshima T**: Significance of lymphatic invasion in the indication for additional gastrectomy after endoscopic treatment. ESMO, Virtual, Nov 20-22/2020.

4　**Watanabe H**: Can the clinical stage of the 8th edition of the Union for International Cancer Control TNM classification stratify prognosis of patients with Siewert type Ⅱ/Ⅲ cancer? ESMO, Virtual, Nov 20-22/2020.

5　Imamura Y, Chin K, Tsushima T, Tsubosa Y, Hara H, Fukuda T, Nomura M, Tsunoda S, **Ogata T**, Hayashi T, Nabeya Y, Minashi K, Kuramochi H, Hamano M, Doi A, Mikami S, Mine S, Ishizuka N, Ichimura T: Phase Ⅱ study of systemic chemotherapy with S-1 plus oxaliplatin followed by surgery in patients with cT3-T4a and/or node-positive advanced adenocarcinoma of the esophagogastric junction: Primary endpoint results of the ESOX trial. 2021 ASCO ANNUAL MEETING. San Francisco Calofornia, Virtual, Jan 15-17/2021.

6　Koyanagi K, Kato K, Ito Y, Daiko H, Ozawa S, **Ogata T**, Hara H, Kojima T, Abe T, Bamba T, Watanabe M, Kawakubo H, Shibuya Y, Tsubosa Y, Tsuda M, Nozaki I, Baba H, Machida R, Fukuda H, Kitagawa H: Impact of preoperative therapy for locally advanced thoracic esophageal cancer on the risk of perioperative complications: Results from multicenter phase Ⅲ trial JCOG 1109. 2021 ASCO ANNUAL MEETING. San Francisco Calofornia, Virtual, Jan 15-17/2021.

7　**Yamada T**, Yoshikawa T, Mizusawa J, Katai H, Takagane A, Okano S, Teshima S, Matsushita H, Goto M, Hihara J, Kawashima Y, Omori T, Shinohara H, Yuasa Y, Katayama H, Fukuda H, Boku N, Terashima M, Sano T, Sasako M: Risk factors for the continuation of S-1 adjuvant chemotherapy for gastric cancer analyzed from the JCOG1104 phase Ⅲ trial. 2021 ASCO ANNUAL MEETING. San Francisco Calofornia, Virtual, Jan 15-17/2021.

国内学会

1　**神尾一樹**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，下田陽太，**藤川寛人**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：pStage Ⅱ/Ⅲ 胃癌におけるthe log ods of positive lymph nodesの有用性．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

2　**公盛啓介**，**神尾一樹**，**渡邊勇人**，下田陽太，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌の術中壁深達度による正診率についての検討．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

3　Aoyama T, Hayashi T, **Yamada T**, Sato T, **Ogata T**, Cho H, **Oshima T,** Yoshikawa T：Safety and feasibility of perioperative care by ERAS program for ODG and LADG. 第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

4　前澤幸男，石田啓之，小栗洋平，**神尾一樹**，青山　徹，**山田貴允**，林　勉，土田知史，玉川　洋，佐藤　勉，**大島　貴**，吉川貴己，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，長　晴彦：pT2N1-2 胃癌に対する腹腔鏡下胃切除術における予後の検討．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

5　**藤川寛人**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，下田陽太，**神尾一樹**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：

胃癌の内視鏡的切除症例における脈管侵襲の臨床的意義．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

6　下田陽太，**藤川寛人**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**山田貴允**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：進行胃癌に対する術前GPSと予後．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

7　**Yamada T**, Yoshikawa T, Ando M, Mizusawa J, Katai H, Misawa K, Fukagawa T, Katayama H, Terashima M, Sasako M: Quality of life results from JCOG0912　comparing open and laparoscopy-assisted distal fastrectomy．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

8　Honjo Y, **Yamada T**, Murakami H, Taguri M, Hasegawa S, Yamanaka T, Rino Y, Mushiake H, **Oshima T**, Matsukawa H, Osaragi T, Yoshikawa T: The short-term outcomes of gastrectomy with and without omentectomy for advanced gastric cancer. 第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

9　**Yamada T**, **Kano K**, **Fujikawa H**, Shimoda Y, **Watanabe H**, **Komori K**, **Ogata T**, **Oshima T**: Trals to Investigate the impact of omentum-preserving gastrectomy for advanced gastric cancer．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual, 7/2020.

10　**Watanabe H**, Hasegawa S, Kumazu Y, **Komori K**, **Kano K**, Shimoda Y, **Fujikawa H**, **Yamada T**, Yoshikawa T, Rino Y: Can the clinical stage of 15th JCGC predict prognosis in　patients with Siewert type Ⅱ/Ⅲcancer ?．第92回日本胃癌学会総会，横浜，Virtual，7/2020.

11　**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**公盛啓介**，下田陽太，**神尾一樹**，**山田貴允**，鈴木理樹，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：Nivolumabによる３次治療後にconversion surgeryを施行した胃癌の１例．第41回癌免疫外科研究会，大阪，Jul 16/2020.（ポスター）

12　下田陽太，**藤川寛人**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**山田貴允**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：進行胃癌に対する術前GPSと予後の関係．第120 回日本外科学会定期学術集会，横浜，Virtual，Aug 13-15/2020.（デジタルポスター）

13　山本直人，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，渥美陽介，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**，塩澤　学，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：75歳以上の高齢者に対する門脈合併切除を伴う膵癌根治切除の妥当性．第120 回日本外科学会定期学術集会，横浜，Virtual，Aug 13-15/2020.（デジタルポスター）

14　**渡邊勇人**，林　勉，**公盛啓介**，**神尾一樹**，下田陽太，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：S-1術後補助化学療法を施行したpStageⅡ/Ⅲ胃癌症例の術後再発に対する術後合併症の影響．第120 回日本外科学会定期学術集会，横浜，Virtual，Aug 13-15/2020.（サージカルフォラム）

15　**藤川寛人**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**下田陽太**，**神尾一樹**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌における脈管侵襲の臨床病理学的意義についての検討．第120回日本外科学会定期学術集会，横浜，Virtual, Aug 13-15/2020.（デジタルポスター）

16　青山　徹，渥美陽介，原健太郎，風間慶介，沼田正勝，**大島　貴**，玉川　洋，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：Risk factors for postoperative pneumonia after esophagectomy for esophageal cancer. 第120回日本外科学会定期学術集会, 横浜, Virtual, Aug 13-15/2020.（デジタルポスター）

17　渥美陽介，青山　徹，山本直人，村川正明，神谷真梨子，原健太朗，風間慶祐，沼田正勝，玉川　洋，**大島　貴**，塩澤　学，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵体尾部切除後における術後回復力強化プログラムの安全性と忍容性. 第120回日本外科学会定期学術集会, 横浜, Virtual, Aug 13-15/2020.（デジタルポスター）

18　菊地慶司, 廣島幸彦, **大島　貴**：胃がんにおいて高発現が予後不良に関係する遺伝子のTCGAデータを用いた検索. 第79回日本癌学会学術総会, 広島, Oct 1-3/2020.（ポスター）

19　風間慶祐，塩澤　学，菅野伸洋，佐藤純人，高村卓志，岡本浩直，井口健太，額田　卓，沼田正勝，青山　徹，玉川　洋，**大島　貴**，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：FOLFOXIRI+Bevacizumab:本邦における２種類のレジメンの比較．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，Virtual，Oct 22-24/2020.（一般口演）

20　青山　徹，**神尾一樹**，前澤幸男，**公盛啓介**，**尾形高士**，**大島　貴**，長　晴彦，吉川　貴己：胃癌術後１ヶ月の時点での５%以上の筋肉量減少は胃癌症例の予後に影響する．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，Virtual，Oct 22-24/2020.（ワークショップ）

21　下田陽太，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**山田貴允**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：進行胃癌に対する術前GPSと予後の関係．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，Virtual，Oct 22-24/2020.（ポスター）

22　神谷真梨子，山本直人，上岡祐人，村川正明，青山　徹，鷲見公太，**大島　貴**，上野　誠，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：切除不能肝細胞癌に対し, Lenvatinib及び肝動注化学療法後に根治切除術を施行した１例．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，Virtual，Oct 22-24/2020.（ポスター）

23　湯川寛夫，河原慎之輔，原健太朗，渥美陽介，風間慶祐，沼田正勝，青山　徹，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，**大島　貴**，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝：食道癌症例における再発時期別の予後因子の検討．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，Virtual, Oct 22-24/2020.（ポスター）

24　**神尾一樹**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**髙橋恒輔**，**藤川寛人**，青山　徹，玉川　洋，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：pStageⅡ/Ⅲ胃癌におけるthe log odds of positive lymph nodesの有用性．第82回日本臨床外科学会総会, 大阪, Virtual, Oct 29-31/2020.（一般演題）

25　**髙橋恒輔**，**尾形高士**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**：胃神経内分泌腫瘍術後縦隔転移の術前診断に対して胸腔鏡下縦隔リンパ節摘出施行し腎細胞癌転移と診断された１例．第82回日本臨床外科学会総会, 大阪, Virtual, Oct 29-31/2020.（ポスター）

26　**公盛啓介**，**神尾一樹**，**渡邊勇人**，下田陽太，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：胃粘液癌の臨床病理学的特徴と予後についての検討．第28回日本消化器関連学会週間，神戸，Virtual，Nov 5-8/2020.（デジタルポスター）

27　下田陽太，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**高橋恒輔**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**山田貴允**，塩澤　学，森永聡一郎，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌手術のE-pass scoreと予後の関係．第28回日本消化器関連学会週間，神戸，Virtual，Nov 5-8/2020.（デジタルポスター）

28　**神尾一樹**，**尾形高士**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，下田陽太，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**大島　貴**：術前化学療法を施行した局所進行食道癌におけるthe log odds of positive lymph nodesの有用性．第28回日本消化器関連学会週間，神戸，Virtual，Nov 5-8/2020.（デジタルポスター）

29　**渡邊勇人**，長谷川慎一，**山田貴允**，**公盛啓介**，下田陽太，**神尾一樹**，**藤川寛人**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：根治切除後の食道胃接合部腺癌の再発形式と予後．第28回日本消化器関連学会週間，神戸，Virtual，Nov 5-8/2020.（デジタルポスター）

30　湯川寛夫，原健太朗，渥美陽介，風間慶祐，沼田正勝，青山　徹，**山田貴允**，玉川　洋，佐藤　勉，**大島　貴**，吉川貴己，利野　靖，益田宗孝：術後６ヶ月以内に再発した食道癌症例の検討. 第28回日本消化器関連学会週間，神戸，Virtual, Nov 5-8/2020.（デジタルポスター）

31　佐藤純人，塩澤　学，菅野伸洋，加藤　綾，内山　護，岡本浩直，高村卓志，**大島　貴**，利野　靖，益田宗孝：右側結腸癌における小腸間膜側への病巣進展の検証．第28回日本消化器関連学会週間，神戸，Virtual, Nov 5-8/2020.（デジタルポスター）

32　青山　徹, 林　勉, **山田貴允**, 長　晴彦, 佐藤　勉, **尾形高士**, **大島　貴**, 吉川貴己: 開腹幽門側胃切除と腹腔鏡下胃切除での同一ERASプログラムの安全性と忍容性の検討. 第50回胃外科・術後障害研究会，東京，Virtual，Nov 13-14/2020.（要望演題）

33　**山田貴允**，**藤川寛人**，**神尾一樹**，下田陽太，**渡邊勇人**，**公盛啓介**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：早期食道胃接合部線癌に対する腹腔鏡補助下噴門側胃切除術後ダブルトラクト再建の工夫．第74回日本食道学会学術集会，Virtual，Dec 10-11/2020.（ポスター）

34　**神尾一樹**，**尾形高士**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**山田貴允**，利野　靖，益田宗孝，**大島　貴**: 術前化学療法を施行した局所進行食道癌におけるlymph nodes ratioの有用性．第74回日本食道学会学術集会，Virtual，Dec 10-11/2020.（ポスター）

35　**尾形高士**，下田陽太，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**: 食道癌周術期管理チームの作り方とフィードバックについて．第74回日本食道学会学術集会, Virtual, Dec 10-11/2020.（ポスター）

36　**尾形高士**，下田陽太，**神尾一樹**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**山田貴允**，**大島　貴**: Countermeasures for anastomotic leakage after esophagectomy. 第74回日本食道学会学術集会，Virtual，Dec 10-11/2020.（サージカルフォラム）

37　**大島　貴**：座長,【胃】残胃癌に対する治療戦略．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，Virtual，Dec 15-17/2020.

38　下田陽太，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，**山田貴允**，勝又健次，土田明彦，**尾形高士**，**大島　貴**：進行胃癌に対する術前GPSと術後合併症発症率の関係．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，Virtual，Dec 15-17/2020.（一般演題）

39　**神尾一樹**，**山田貴允**，**公盛啓介**，**渡邊勇人**，下田陽太，**藤川寛人**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：残胃癌におけるlymph node ratioの予後因子としての有用性．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山, Virtual, Dec 15-17/2020.（一般演題）

40　佐藤　勉，青山 徹，前澤幸男，**神尾一樹**，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**，國崎主税，利野　靖，益田宗孝：胃癌根治切除後の予後予測因子としての術前サルコペニアの有用性．　第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，Virtual，Dec 15-17/2020.（一般演題）

41　**山田貴允**，**神尾一樹**，**藤川寛人**，下田陽太，**渡邊勇人**，**公盛啓介**，利野　靖，益田宗孝，**尾形高士**，**大島　貴**：腹腔鏡補助下幽門側胃切除術術後合併症発生における修練開始前の開腹胃癌手術経験数の影響．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，Virtual，Dec 15-17/2020.（一般演題）

42　青山　徹，吉川貴己，原健太郎，沼田正勝，湯川寛夫，玉川　洋，益田宗孝，**尾形高士**，利野　靖，**大島　貴**：胃癌術後1ヶ月での5%以上の筋肉量減少は根治切除及びS-1補助化学療法施行胃癌症例の無再発生存に影響する．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，Virtual，Dec 15-17/2020.（一般演題）

43　**公盛啓介**，**神尾一樹**，**渡邊勇人**，下田陽太，**藤川寛人**，**山田貴允**，**尾形高士**，**大島　貴**：胃癌の術中臨床分類を用いた長期成績の検討. 第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，Virtual，Dec 15-17/2020.（一般演題）

44　**渡邊勇人**，**藤川寛人**，**公盛啓介**，下田陽太，**神尾一**

樹，山田貴允，利野靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：胃癌術後横行結腸転移により腸閉塞を来した1例．第45回日本外科系連合学会学術集会，久留米，Virtual，Dec 22-24/2020.（一般講演）

45　藤川寛人，山田貴允，公盛啓介，渡邊勇人，下田陽太，神尾一樹，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：胃癌の脈管侵襲についての臨床的検討．第45回日本外科系連合学会学術集会，久留米，Virtual，Dec 22-24/2020.（要望演題）

46　下田陽太，公盛啓介，渡邊勇人，神尾一樹，藤川寛人，山田貴允，勝又健次，土田明彦，尾形高士，大島　貴：進行胃癌に対する術前GPSと予後の関係．第45回日本外科系連合学会学術集会，久留米，Virtual，Dec 22-24/2020.（要望演題）

47　尾形高士，古川まどか，下田陽太，公盛啓介，渡邊勇人，神尾一樹，藤川寛人，山田貴允，大島　貴：頭頸部外科と内視鏡医による表在性咽頭癌に対する合同手術〈ELPS〉について．第45回日本外科系連合学会学術集会，久留米，Virtual，Dec 22-24/2020.（シンポジウム）

48　大島　貴，九嶋亮治，：座長，胃癌治療におけるゲノム医療の位置づけ．第93回日本胃癌学会総会，大阪，Virtual，Mar 3-5/2021.（ワークショップ）

49　山田貴允：新時代の腹腔鏡下胃切除術（LAG）教育．第93回日本胃癌学会総会，大阪，Virtual，Mar 3-5/2021.（スポンサードシンポジウム）

50　Maezawa Y, Kano K, Iwasaki K, Aoyama T, Yamada T, Hayashi T, Tsuchida K, Tamagawa H, Sato T, Oshima T, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Cho H: Is clinical Stage a prognostic factor for pathological StageI gastric cancer?. 第93回日本胃癌学会総会，大阪，Virtual, Mar 3-5/2021.（一般演題　口演）

51　Aoyama T, Yoshikawa T, Oshima T, Ogata T, Tamagawa H, Yukawa N, Rino Y: The postoperative lean body mass loss at one month leads to a poor survival in gastric cancer. 第93回日本胃癌学会総会，大阪，Virtual, Mar 3-5/2021.（一般演題　口演）

52　Ogata T, Yamada T, Shimoda Y, Komori K, Watanabe H, Kano K, Fujikawa H, Oshima T, Cho H, Yoshikawa T: Anastomosis procedure assisted with intraoperative endoscope transparent tipped hood at LTG/LPG. 第33回日本内視鏡外科学会総会，横浜，Virtual, Mar 10-13/2021.（一般演題）

53　Kano K，山田貴允，公盛啓介，渡邊勇人，下田陽太，藤川寛人，利野　靖，益田宗孝，尾形高士，大島　貴：Esophagojejunostomy with a linear stapler is safe for laparoscopic total and proximal gastrectomy. 第33回日本内視鏡外科学会総会，横浜，Virtual, Mar 10-13/2021.（デジタルポスター）

54　Kano K, Yamada T, Komori K, Watanabe H, Shimoda Y, Fujikawa H, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Esophagojejunostomy with a linear stapler for laparoscopic total and proximal gastrectomy. 第33回日本内視鏡外科学会総会，横浜，Virtual, Mar 10-13/2021.（デジタルポスター）

55　Shimoda Y, Komori K, Watanabe H, Kano K, Fujikawa H, Yamada T, Ogata T, Oshima T: Risk factor of the postoperative complication after laparoscopic gastrectomy. 第33回日本内視鏡外科学会総会，横浜，Virtual, Mar 10-13/2021.（デジタルポスター）

消化器外科（大腸）

発表論文

1　Ouchi A, Shida D, Hamaguchi T, Takashima A, Ito Y, Ueno H, Ishiguro M, Takii Y, Ikeda S, Ohue M, Fujita S, Shiozawa M, Kataoka K, Ito M, Tsukada Y, Akagi T, Inomata M, Shimada Y, Kanemitsu Y: Challenges of improving treatment outcomes for colorectal and anal cancers in Japan: the Colorectal Cancer Study Group (CCSG) of the Japan Clinical Oncology Group (JCOG). Japanese Journal of Clinical Oncology, 50(4): 368-378, 2020.

2　Numata M, Kazama K, Onodera A, Hara K, Atsumi Y, Okamoto H, Aoyama T, Tamagawa H, Godai T, Saeki H, Yukawa N, Shiozawa M, Rino Y, Masuda M: Short-term Outcomes Following Robotic-assisted Laparoscopic Surgery for Technically Demanding Rectal Cancer. Anticancer Research, 40(4): 2337-2342, 2020

3　Fujikawa H, Koumori K, Watanabe H, Kano K, Shimoda Y, Aoyama T, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: The Clinical Significance of Lymphovascular Invasion in Gastric Cancer. In Vivo, 34(3): 1533-1539, 2020.

4　Kazama K, Numata M, Aoyama T, Onodeara A, Hara K, Atsumi Y, Tamagawa H, Godai T, Saeki H, Saugusa Y, Okamoto H, Shiozawa M, Oshima T, Yukawa N, Masuda M, Rino Y : Laparoscopic vs. Open Surgery for Stage Ⅱ / Ⅲ Colon Cancer Patients With Body Mass Index >25 kg/m 2. In Vivo, 34(4): 2079-2085, 2020.

5　Shimoda Y , Yamada T, Komori K, Watanabe H, Osakabe H, Kano K, Fujikawa H, Hayashi T, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, Morinaga S, Ota Y, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T: Effect of Muscle Mass Loss After Esophagectomy on Prognosis of Oesophageal Cancer. Anticancer Research, 40(4): 2275-2281, 2020.

6　Kumazu Y, Hayashi T, Yoshikawa T, Yamada

T, Hara K, Shimoda Y, Nakazono M, Nagasawa S, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Risk factors analysis and stratification for microscopically positive resection margin ingastric cancer patients. BMC Surgery, 20(1): 95, 2020.

7 Hara K, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Yamada T, Yamamoto N, Shiozawa M, Morinaga S, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: An easy and reliable method to close Petersen's defect using barbed suture to prevent internal hernia from developing after gastrectomy with Roux-en-Y reconstruction. Asian Journal of Endoscopic Surgery, 13(2): 238-241, 2020.

8 Kano K, Yamada T, Yamamoto K, Komori K, Watanabe H, Hara K, Shimoda Y, Maezawa Y, Fujikawa H, Aoyama T, Tamagawa H, Yamamoto N, Cho H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Association Between Lymph Node Ratio and Survival in Patients with Pathological Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer. Annals of Surgical Oncology, 27(11): 4235-4247, 2020.

9 Hara K, Aoyama T, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Simoda Y, Kumazu Y, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Shiozawa M, Morinaga S, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T : Postoperative D-dimer elevation affects tumor recurrence and the long-term survival in gastric cancer patients who undergo gastrectomy. International Journal of Clinical Oncology, 25(4): 584–594: 2020.

10 Yamada T, Hayashi T, Inokuchi Y, Hayashi K, Watanabe H, Komori K, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Impact of the Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio on the Survival of Patients with Gastric Cancer Treated with Nivolumab Monotherapy. Targeted Oncology, 15(3): 317–325, 2020.

11 Tsukamoto S, Fujita S, Ota M, Mizusawa J, Shida D, Kanemitsu Y, Ito M, Shiomi A, Komori K, Ohue M, Akazai Y, Shiozawa M, Yamaguchi T, Bando H, Tsuchida A, Okamura S, Akagi Y, Takiguchi N, Saida Y, Akasu T, Moriya Y: Long-term follow-up of the randomized trial of mesorectal excision with or without lateral lymph node dissection in rectal cancer (JCOG0212). The British journal of surgery, 107(5): 586-594, 2020.

12 Kataoka K, Beppu N, Shiozawa M, Ikeda M, Tomita N, Kobayashi H, Sugihara K, W Ceelen: Colorectal cancer treated by resection and extended lymphadenectomy: patterns of spread in left- and right-sided tumours. The British journal of surgery, 107(8): 1070-1078, 2020.

13 Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Yamamoto N, Ogata T, Shiozawa M, Morinaga S, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T: Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Research, 40(10): 5815-5821, 2020.

14 Sato S, Shiozawa M, Sugano N, Higuchi A, Kazama K, Kato A, Uchiyama M, Okamoto H, Kohmura T, Oshima T, Rino Y, Masuda M: Prospective analysis of tumor spread to the small bowel mesentery in cases of right-sided colon cancer. Langenbecks Archives Surgery, 405(8): 1139-1145, 2020.

15 Vittoria Bellato, Konishi Tsuyoshi, Gianluca Pellino, Yongbo An, Alfonso Piciocchi, Bruno Sensi, Leandro Siragusa, Krishn Khanna, Brunella Maria Pirozzi, Marzia Franceschilli, Michela Campanelli, Sergey Efetov, Giuseppe S Sica, S-COVID Collaborative Group (Shiozawa M): Screening policies, preventive measures and in-hospital infection of COVID-19 in global surgical practices. Journal of Global Health, 10(2): 020507, 2020

16 Shiozawa M, Ueno H, Shiomi A, Nan Kyu Kim, Jin Cheon Kim, Petr Tsarkov, Robert Grützmann, Audrius Dulskas, Jin-Tung Liang, Narimantas Samalavičius, Nick West, Sugihara Kenichi : Study protocol for an International Prospective Observational Cohort Study for Optimal Bowel Resection Extent and Central Radicality for Colon Cancer (T-REX study). Japanese Journal of Clinical Oncology, 51(1): 145-155, 2020.

17 Iguchi K, Mushiake H, Hasegawa S, Inagaki D, Fukushima T, Numata M, Tamagawa H, Yukawa N, Rino Y, Masuda M: Rectal Cancer Surgery in Patients Older Than 80 Years: Is Hartmann's Procedure Safe?. In Vivo, 34(6): 3661-3667, 2020.

18 Aoyama T, Yamamoto N, Kamiya M, Murakawa M, Tamagawa H, Sawazaki S, Numata M, Kobayashi S, Ueno M, Morimoto M, Shiozawa M, Yukawa N, Oshima T, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Morinaga S: The age-adjusted Charlson comorbidity index is an independent prognostic factor in pancreatic cancer patients who receive curative resection followed by adjuvant chemotherapy. Journal of Cancer Research and Therapeutics, 16(8): 116-121, 2020.

19 Hasegawa H, Taniguchi H, Nakamura Y, Kato T, Fujii S, Ebi H, Shiozawa M, Yuki S, Masuishi T, Kato K, Izawa N, Moriwaki T, Oki E, Kagawa

Y, Denda T, Nishina T, Tsuji A, Hara H, Esaki T, Nishida T, Kawakami H, Sakamoto Y, Miki I, Okamoto W, Yamazaki K, Yoshino T: FMS-like tyrosine kinase 3 (FLT3) amplification in patients with metastatic colorectal cancer. Cancer Science, 112(1): 314-322, 2020.

20 Yamazaki K, Yamanaka T, **Shiozawa M**, Manaka D, Kotaka M, Gamoh M, Shiomi A, Makiyama A, Munemoto Y, Rikiyama T, Fukunaga M, Ueki T, Shitara K, Shinkai H, Tanida N, Oki E, Sunami E, Ohtsu A, Maehara Y, Yoshino T: Oxaliplatin-based adjuvant chemotherapy duration (3 versus 6 months) for high-risk stage Ⅱ colon cancer: the randomized phase Ⅲ ACHIEVE-2 trial. Annals of Onclology, 32(1): 77-84, 2021.

21 **Shiozawa M**, Ueno H, Shiomi A, N K Kim, J C Kim, P Tsarkov, R Grützmann, A Dulskas, J T Liang, N Samalavičius, N West, Sugihara K: Study protocol for an International Prospective Observational Cohort Study for Optimal Bowel Resection Extent and Central Radicality for Colon Cancer (T-REX study). Japanese Journal of Clinical Oncology, 51(1): 145-155, 2021.

22 Watanabe H, Yamada T, Komori K, Hara K, Kano K, Takahashi K, Kumazu Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, Inokuchi Y, Machida N, **Shiozawa M**, Yukawa N, Morinaga S, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T: Effect of Prognostic Nutrition Index in Gastric or Gastro-oesophageal Junction Cancer Patients Undergoing Nivolumab Monotherapy. In Vivo, 35(1): 563-569, 2021.

23 **Sato S**, Sugamo N, **Shiozawa M**, Uchiyama M, Kazama K, Kato A, Oshima T, Rino Y, Masuda M: Application and outcomes of a standardized lymphadenectomy in laparoscopic right hemicolectomy requiring ligationof the middle colic artery. Techniques in Coloproctology, 25(2): 223-227, 2021.

24 Shimoda Y, Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Kano K, Yamada T, **Shiozawa M**, Morinaga S, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T: Prognostic Factors for Gastric Cancer Patients With One Stage Ⅳ Factor who Underwent Conversion Surgery. Anticancer Research, 41(2): 1005-1012, 2021.

著書

1 塩澤 学：【外科医のための-悪性腫瘍補助療法のすべて】総論 薬物療法の施行前検査とリスクファクター. 臨床外科, 76(2)：134-137, 2021.

学会等発表

1 Nakamura Y, Taniguchu H, Bando H, Esaki T, Komatsu Y, Kato K, Takahashi N, Kagawa Y, Kato T, Nishima T, Satoh T, Oki E, Sunakawa Y, **Shiozawa M**, Yamamoto Y, Kawakami H, Denda T, Ohtsu A, Yoshino T: Utility of circulating tumor DNA (ctDNA) versus tumor tissue genotyping for enrollment of patients with metastatic colorectal cancer (mCRC) to matched clinical trials: SCRUM-Japan GI-SCREEN and GOZILA combined analysis. ASCO20 Virtual, 2020, 5.

2 Manaka D, **Shiozawa M**, Kotaka M, Gamoh M, Shiomi A, Makiyama A, Munemoto Y, Rikiyama T, Fukunaga M, Ueki T, Shitara K, Shinkai H , Tanida N, Oki E, Yamazaki K, Sunami E, Yamanaka T, Yoshino T, Ohtsu A, Maehara Y: Impact of high-risk features on disease-free survival (DFS) in patients (pts) with high-risk stage Ⅱ colon cancer (CC) in ACHIEVE-2 trial as part of the IDEA collaboration. ASCO20 Virtual, 2020, 5.

3 Kotaka M, Manaka D, Eto T, Hasegawa J, Takagane A, Nakamura M, Kato T, Munemoto Y, Nakamura F, Bando H, Taniguchi H, Gamoh M, **Shiozawa M**, Nishi M, Horiuchi T, Mizusima T, Yamanaka T, Yoshino T, Ohtsu A, Mori M: Association of postoperative serum carcinoembryonic antigen (CEA) with disease-free survival in patients with stage Ⅲ colon cancer: ACHIEVE phase Ⅲ randomized clinical trial. ASCO20 Virtual, 2020, 5.

4 Kanemitsu Y, Shimizu Y, Mizusawa J, Inada Y, Hamaguchi T, Shiba D, Ohue M, Komori K, Shiomi A, **Shiozawa M**, Watanabe J, Suto T, Kinugasa Y, Takii Y, Bando H, Kobatake T, Kato T, Shimada Y, Katayama H, Fukuda H: A randomized phase Ⅱ/Ⅲ trial comparing hepatectomy followed by mFOLFOX6 with hepatectomy alone for liver metastasis from colorectal cancer: JCOG0603 study. ASCO20 Virtual, 2020, 5.

5 **Sato S**, **Shiozawa M**, **Sugano N**, Kazama K, Kato A, Uchiyama M, **Okamoto H**, Kohmura T, Oshima T, Rino Y, Masuda M: Application and Outcomes of a Standardized Complete Mesocolic Excision with Central Vessel Ligation (CVL) Technique in Patients with Advanced Right-Sided Colon Cancer. SAGES 2020 Annual Meeting, Cleveland (online), 2020, 8.

6 Watanabe T, Tsuji A, **Shiozawa M**, Ota H, Satake H, Yabuno T, Hasegawa J, Kochi M, Manaka D, Sagawa T, Kotaka M, Kubota Y, Sunakawa Y, Sekikawa T, Nakamura M, Takeuchi M, Ichikawa W, Fujii M：Safety analysis of the randomized phase Ⅱ study of FOLFOXIRI plus cetuximab versus FOLFOXIRI plus bevacizumab as the first-line treatment in metastatic colorectal cancer with RAS wild-type tumors: The DEEPER trial (JACCRO CC-13). Gastrointestinal Cancer Symposium, Virtual, 2021, 1.

7 Oki E, Kotaka M, Manaka D, **Shiozawa M**, Sakamoto

Y, Munemoto Y, Eto T, Shitara K, Kato T, Shiomi A, Hasegawa J, Makiyama A, Yamanaka T, Mizushima T, Yamazaki K, Sunami E, Ohtsu A, Maehara Y, Mori M, Yoshino T: Clinicopathological characteristics and impact on efficacy of three versus six months of adjuvant chemotherapy in early-onset colon cancer: ACHIEVE and ACHIEVE-2 trials. Gastrointestinal Cancer Symposium, Virtual, 2021, 1.

8　山本直人，村川正明，神谷真梨子，上岡祐人，渥美陽介，山田貴允，尾形高士，大島　貴，**塩澤　学**，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：75歳以上の高齢者に対する門脈合併切除を伴う膵癌根治切除の妥当性．第120回日本外科学会定期学術集会，完全Web開催，2020，8.

9　片岡幸三，別府直仁，**塩澤　学**，池田正孝，冨田尚裕，小林宏寿，杉原健一，Wim Ceelen：Prognostic significance of lymphatic spread pattern in right versus left node positive colon cancer．第120回日本外科学会定期学術集会，完全Web開催，2020，8.

10　渥美陽介，青山　徹，山本直人，村川正明，神谷真梨子，原健太朗，風間慶祐，沼田正勝，玉川　洋，大島　貴，**塩澤　学**，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，森永聡一郎：膵体尾部切除後における術後回復力強化プログラムの安全性と忍容性．第120回日本外科学会定期学術集会，完全Web開催，2020, 8.

11　片岡幸三，高橋侑子，寺田参省，盛　啓太，池田正孝，**塩澤　学**，金光幸秀，Serge Evrard，中村健一，福田治彦，Denis Lacombe：COVID-19感染症拡大下におけるJCOG-EORTC 国際共同研究の現状．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020，10.

12　間中　大，**塩澤　学**，小髙雅人，坂本康寛，塩見明生，牧山明資，宗本義則，力山 敏樹，福永　睦，山中竹春，須並英二，山﨑健太郎，大津　敦，前原喜彦，吉野孝之：ハイリスクstageⅡ結腸癌患者におけるリスク因子の予後に与える影響：ACHIEVE-2試験．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

13　吉野孝之，加藤健志，江崎泰斗，高島淳生，**塩澤　学**，中島貴子，竹内伸司，佐藤 太郎，小松嘉人，室 圭：BRAF V600E変異転移性大腸がんにおけるEncorafenib±Binimetinib+Cetuximab併用療法．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

14　風間慶祐，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，**佐藤純人**，**高村卓志**，**岡本浩直**，**井口健太**，**額田　卓**，沼田正勝，青山　徹，玉川　洋，大島　貴，湯川寛夫，益田宗孝，利野　靖：FOLFOXIRI＋Bevacizumab：本邦における２種類のレジメンの比較．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

15　小髙雅人，**塩澤　学**，間中　大，坂本康寛，塩見明生，牧山明資，宗本義則，沖　英次，山中竹春，須並英二，山﨑健太郎，大津　敦，前原喜彦，吉野孝之：高リスクステージⅡ結腸癌に対する術後化学療法の長期末梢神経障害：ACHIEVE-2試験．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

16　山中竹春，吉野孝之，小髙雅人，間中　大，**塩澤　学**，坂本康寛，宗本義則，江頭徹哉，沖　英次，山﨑健太郎，水島恒和，須並英二，大津　敦，前原喜彦，森　正樹：早期結腸癌におけるCAPOX術後補助療法（３ vs ６ヶ月）の有効性に対するT4/N2の影響．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

17　塩見明生，**塩澤　学**，間中　大，小髙雅人，坂本康寛，牧山明資，宗本義則，沖　英次，山中竹春，須並英二，山﨑健太郎，大津　敦，前原喜彦，吉野孝之：ハイリスクStage 2 結腸癌における術後CEAの予後への影響：ACHIEVE-2試験からの検討．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

18　高草木陽介，**塩澤　学**，**佐藤純人**，**菅野伸洋**，加納希生，阿武　和，土田圭祐，溝口信貴，芹澤慈子，加藤弘之，鎌田　正，吉田大作：肛門管癌に対する放射線治療成績の検討．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

19　下田陽太，公盛啓介，渡邊勇人，高橋恒輔，神尾一樹，藤川寛人，山田貴允，**塩澤　学**，森永聡一郎，勝又健次，土田明彦，尾形高士，大島　貴：胃癌手術のE-pass scoreと予後の関係．第28回日本消化器関連学会週間，神戸，2020, 11.

20　**佐藤純人**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，加藤　綾，内山　護，**岡本浩直**，**高村卓志**，大島　貴，利野 靖，益田宗孝：右側結腸癌における小腸間膜側への病巣進展の検証．第28消回日本化器関連学会週間，神戸，2020, 11.

21　**佐藤純人**，**塩澤　学**，**菅野伸洋**，加藤　綾，内山　護，**高村卓志**，**岡本浩直**，**井口健太**，**額田　卓**，大島　貴，利野　靖，益田宗孝：当科におけるMSI-Highを有する進行再発大腸癌の現状と治療経験．第75回日本大腸肛門病学会学術集会，WEB開催，2020, 11.

22　白畑　敦，石田康男，**佐藤純人**，大賀純一，曽田　均：当院における痔核に対する手術の工夫．第75回日本大腸肛門病学会学術集会，WEB開催，2020, 11.

23　片岡幸三，**塩澤　学**，別府直仁，小林宏寿，杉原健一，冨田尚裕，池田正孝，Wim Ceelen：転移リンパ節部位と原発部位に基づいた治療戦略はStageⅢ大腸癌で必要か?．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，2020, 12.

24　加藤　綾，**塩澤　学**，内山　護，**岡本浩直**，**高村卓志**，**佐藤純人**，菅野伸洋，利野　靖，益田宗孝：肝転移を伴うStageⅣ大腸癌に対する肝切除後早期再発の検討．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，2020, 12.

25　内山　護，**塩澤　学**，菊池慶司，宮城洋平，中村圭晴，吉原光代，横瀬智之，利野　靖，益田宗孝：大腸癌肝転移巣におけるセリンプロテアーゼPRSS22の発現と肝転移切除後再発の相関．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，2020, 12.

26　**井口健太**，虫明寛行，**三箇山　洋**，稲垣大輔，上田倫夫，長谷川誠司，福島忠男，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：80歳以上の高齢者直腸癌治療のreal world ～吻合する？吻合しない？～．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，2020, 12.

27　**井口健太**，虫明寛行，森　佳織，木下颯花，古賀大靖，斎藤　学，瀬上顕貴，**三箇山　洋**，稲垣大輔，上田倫夫，長谷川誠司，福島忠男，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝：3D CT colonography/angiographyを用いた脾湾曲部結腸癌の局在診断と血管variationの検討．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，2020, 12.

28　**井口健太**，國崎主税，佐藤　圭，宮本　洋，佐藤　勉，湯川寛夫，秋山浩利，利野　靖，遠藤　格，益田宗孝：StageⅡ/Ⅲ 進行食道癌に対する胸腔鏡下食道切除術の有用性の検討．第74回日本食道学会総会，徳島（ハイブリッド），2020, 12.

29　井上　彬，村田幸平，小森孝通，武田　和，福長洋介，山口達郎，塩田哲也，森田俊治，鈴木陽三，伊藤雅昭，金光幸秀，**塩澤　学**，安井昌義，賀川義規，杉原健一：虫垂癌に対する開腹手術 vs 腹腔鏡下手術の長期成績 ―多施設共同比較試験―．第33回日本内視鏡外科学会総会，横浜，2021, 1.

消化器外科（肝胆膵）

発表論文

1　**Yamamoto N**, Washimi K, **Murakawa M**, **Kamiya M**, **Kamioka Y**, Ueno M, Kishida T, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**. Primary Duodenal Carcinoma with Embryonal Carcinoma Features in a Young Man. Case Rep Gastroenterol. 2021 Mar 4; 15(1): 269-275.

2　**Kamiya M**, **Yamamoto N**, **Kamioka Y**, Inoue H, Yotsumoto H, **Murakawa M**, Aoyama T, Washimi K, Kawachi K, Oshima T, Ueno M, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S.** Rapidly progressed neuroendocrine carcinoma in the extrahepatic bile duct: a case report and review of the literature. Surg Case Rep. 2020 Aug 3; 6(1): 191.

3　Takahashi S, Ohno I, Ikeda M, Konishi M, Kobayashi T, Akimoto T, Kojima M, **Morinaga S**, Toyama H, Shimizu Y, Miyamoto A, Tomikawa M, Takakura N, Takayama W, Hirano S, Otsubo T, Nagino M, Kimura W, Sugimachi K, Uesaka K. Neoadjuvant S-1 With Concurrent Radiotherapy Followed by Surgery for Borderline Resectable Pancreatic Cancer: A Phase Ⅱ Open-Label Multicenter Prospective Trial (JASPAC05). Ann Surg. 2020 Oct 15. doi: 10.1097/SLA.0000000000004535. Online ahead of print.

4　Hara K, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Yamada T, **Yamamoto N**, Shiozawa M, **Morinaga S**, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Impact of Postoperative Complications on Recurrence in Patients With StageⅡ/Ⅲ Gastric Cancer Who Received Adjuvant Chemotherapy With S-1. Asian J Endosc Surg. 2020 Apr; 13(2): 238-241.

5　Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, Hiroshima Y, Hara K, Maezawa Y, Kano K, Fujikawa H, Aoyama T, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, **Yamamoto N,** Ogata T, Shiozawa M, **Morinaga S**, Rino Y, Yasui W, Masuda M, Miyagi Y, Oshima T. Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Res. 2020 Oct; 40(10): 5815-5821.

6　Yasuta S, Kobayashi T, Aizawa H, Takahashi S, Ikeda M, Konishi M, Kojima M, Kuno H, Uesaka K, **Morinaga S,** Miyamoto A, Toyama H, Takakura N, Sugimachi K, Takayama W. Relationship between surgical R0 resectability and findings of peripancreatic vascular invasion on CT imaging after neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy in patients with borderline resectable pancreatic cancer. BMC Cancer. 2020 Dec 2; 20(1): 1184.

7　Fujikawa H, Koumori K, Watanabe H, Kano K, Shimoda Y, Aoyama T, Yamada T, Hiroshi T, **Yamamoto N**, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. The Clinical Significance of Lymphovascular Invasion in Gastric Cancer. In Vivo. 2020 May-Jun; 34(3): 1533-1539.

8　Shimoda Y, Yamada T, Komori K, Watanabe H, Osakabe H, Kano K, Fujikawa H, Hayashi T, Cho H, Shiozawa M, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Ota Y, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T. Effect of Muscle Mass Loss After Esophagectomy on Prognosis of Oesophageal Cancer. Anticancer Res. 2020 Apr; 40(4): 2275-2281.

9　Yamada T, Kano K, Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Shimoda Y, Shiozawa M, **Morinaga S**, Aoyama T, Numata M, Tamagawa H, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Is sufficient experience performing open gastrectomies necessary to start laparoscopic distal gastrectomy training? Asian J Endosc Surg. 2020 Nov 24. doi: 10.1111/ases.12901. Online ahead of print.

10　Kumazu Y, Hayashi T, Yoshikawa T, Yamada T, Hara K, Shimoda Y, Nakazono M, Nagasawa S, Shiozawa M, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Risk factors analysis and stratification for

microscopically positive resection margin in gastric cancer patients. BMC Surg. 2020 May 7; 20(1): 95.

11 Kano K, Yamada T, Yamamoto K, Komori K, Watanabe H, Hara K, Shimoda Y, Maezawa Y, Fujikawa H, Aoyama T, Tamagawa H, **Yamamoto N**, Cho H, Shiozawa M, Yukawa N, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Association Between Lymph Node Ratio and Survival in Patients with Pathological Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer. Ann Surg Oncol. 2020 Oct; 27(11): 4235-4247.

12 Yamada T, Hayashi T, Inokuchi Y, Hayashi K, Watanabe H, Komori K, Kano K, Shimoda Y, Fujikawa H, Shiozawa M, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Impact of the Neutrophil-to-Lymphocyte Ratio on the Survival of Patients with Gastric Cancer Treated with Nivolumab Monotherapy. Target Oncol. 2020 Jun; 15(3): 317-325.

13 Tamagawa H, Aoyama T, **Yamamoto N**, Kamiya M, Murakawa M, Atsumi Y, Numata M, Kazama K, Hara K, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**. The Impact of Intraoperative Blood Loss on the Survival of Patients With Stage Ⅱ/Ⅲ Pancreatic Cancer. In Vivo. 2020 May-Jun; 34(3): 1469-1474.

14 Hara K, Aoyama T, Hayashi T, Nakazono M, Nagasawa S, Shimoda Y, Kumazu Y, Numata M, Yamada T, Tamagawa H, Shiozawa M, **Morinaga S**, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Postoperative D-dimer elevation affects tumor recurrence and the long-term survival in gastric cancer patients who undergo gastrectomy. Int J Clin Oncol. 2020 Apr; 25(4): 584-594.

15 **Morinaga S**, Takita M, Yoshizawa A, Kamei K, Nakamori S, Ishihara S, Kuramochi H, Yokoyama Y, Uchiyama T, Murohisa G, Ishigaki M, Todaka A, Fukutomi A. FOLFIRINOX for Recurrent Pancreatic Cancer After Pancreatic Resection: A Secondary Analysis of the Nationwide Multicenter Observational Study Conducted by the Japan Adjuvant Study Group of Pancreatic Cancer 06. Pancreas. 2020 Nov/Dec; 49(10): 1372-1377.

16 Aoyama T, **Yamamoto N**, Kamiya M, Murakawa M, Tamagawa H, Sawazaki S, Numata M, Kobayashi S, Ueno M, Morimoto M, Shiozawa M, Yukawa N, Oshima T, Yoshikawa T, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**. The age-adjusted Charlson comorbidity index is an independent prognostic factor in pancreatic cancer patients who receive curative resection followed by adjuvant chemotherapy. J Cancer Res Ther. 2020 Dec; 16 (Supplement): S116-S121.

17 Watanabe H, Yamada T, Komori K, Hara K, Kano K, Takahashi K, Kumazu Y, Fujikawa H, Numata M, Aoyama T, Tamagawa H, Inokuchi Y, Machida N, Shiozawa M, Yukawa N, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Effect of Prognostic Nutrition Index in Gastric or Gastro-oesophageal Junction Cancer Patients Undergoing Nivolumab Monotherapy. In Vivo. 2021 Jan-Feb; 35(1):5 63-569.

18 Ueno M, **Morinaga S**, Hashimoto Y, Umemoto K, Sasahira N, Saiura A, Seyama Y, Honda G, Ioka T, Takahashi H, Miyamoto A, Nakamori S, Unno M, Takadate T, Mizuno N, Shimizu Y, Ueno H, Sugiyama M, Fukutomi A, Shimizu S, Okusaka T, Furuse J. Tolerability of Nab-Paclitaxel Plus Gemcitabine as Adjuvant Setting in Japanese Patients With Resected Pancreatic Cancer: Phase I Study. Pancreas. 2021 Jan 1; 50(1): 83-88.

19 Nakazono M, Aoyama T, Hayashi T, Hara K, Segami K, Shimoda Y, Nagasawa S, Kumazu Y, Yamada T, Tamagawa H, Shiozawa M, **Morinaga S**, Rino Y, Masuda M, Ogata T, Oshima T. Comparison of the Dietary Intake Loss Between Total and Distal Gastrectomy for Gastric Cancer. In Vivo. 2021 Jul-Aug; 35(4): 2369-2377.

20 Shimoda Y, Fujikawa H, Komori K, Watanabe H, Kano K, Yamada T, Shiozawa M, **Morinaga S**, Katsumata K, Tsuchida A, Ogata T, Oshima T. Prognostic Factors for Gastric Cancer Patients With One Stage IV Factor who Underwent Conversion Surgery. Anticancer Res. 2021 Feb; 41(2): 1005-1012.

21 長島周平，上野　誠，小林　智，佐野裕亮，福島泰人，浅間宏之，**山本直人**，**森永聡一郎**，吉岡恵美，横瀬智之，森本　学，全身化学療法後，コンバージョン手術を施行した胆嚢癌肝転移長期生存例．胆道（0914-0077）34巻５号 Page848-853（2020. 12）

学会等発表

1 **Yuto Kamioka**, **Masaaki Murakawa**, Kota Washimi, **Mariko Kamiya**, **Naoto Yamamoto**, Hiroshi Tamagawa, Yasushi Rino, Munetaka Masuda, **Soichiro Morinaga**: A Resected Case of Hepatocellular Carcinoma with Bile Duct Tumor Thrombus. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会，東京，2021, 3.

2 **Kamiya M**, Yotsumoto H, **Kamioka Y**, **Murakawa M**, **Yamamoto N**, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Morinaga S**：Clinicopathological features of resected Solid-pseudopapillary neoplasm of the pancreas. The 32nd Meeting of Japanese Society of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Tokyo, 2020, 6→2021.2へ延期.

3 **神谷真梨子**，**山本直人**，**上岡祐人**，**村川正明**，青山　徹，鷲見公太，河内香江，大島　貴，上野　誠，

湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**：A case of primary unresectable huge HCC with portal vein thrombus (VP4) who reached conversion surgery after combination treatment of Lenvatinib and transhepatic arterial infusion chemotherapy. 第58回日本癌治療学会学術集会，京都，2020, 10.

4　**Masaaki Murakawa**, **Naoto Yamamoto**, **Yuto Kamioka**, **Mariko Kamiya**, Toru Aoyama, Hiroshi Tamagawa, Norio Yukawa, Yasushi Rino, Munetaka Masuda, **Soichiro Morinaga**：The clinical implication of the pre-operative C-reactive protein-albumin ratio as a prognostic factor of patients with pancreatic ductal adenocarcinoma 第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，2020. 12（Hybrid）general presentation

5　**Masaaki Murakawa**, **Naoto Yamamoto**, **Yuto Kamioka**, **Mariko Kamiya**, Hiroshi Tamagawa, Norio Yukawa, Yasushi Rino, Munetaka Masuda, and **Soichiro Morinaga**：Safety and Feasibility of Conversion surgery for initially unresectable pancreatic ductal adenocarcinoma 第32回日本肝胆膵外科学会・学術集会，東京，2021. 02 Workshop

6　**山本直人**，**村川正明**，**神谷真梨子**，**上岡祐人**，渥美陽介，山田貴允，尾形高士，大島　貴，塩澤　学，利野 靖，益田宗孝，**森永聡一郎**．75歳以上の高齢者に対する門脈合併切除を伴う膵癌根治切除の妥当性．第120回日本外科学会定期学術集会，WEB開催，2020. 08

7　**山本直人**，加藤弘之，上野　誠，小林　智，**村川正明**，**神谷真梨子**，**上岡祐人**，**森永聡一郎**．膵臓癌患者に対する重イオン放射線療法の栄養と身体組成に対する影響．第58回日本癌治療学会学術総会，京都，2020. 10

8　**山本直人**，**村川正明**，**神谷真梨子**，**上岡祐人**，青山徹，湯川寛夫，利野　靖，益田宗孝，**森永聡一郎**．The outcome after pancreaticoduodenectomy with splenic vein ligation; a single center experience. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会, 東京, 2021.2

9　**森永聡一郎**，**上岡祐人**，**神谷真梨子**，**村川正明**，**山本直人**，森本　学，加藤弘之．初発，単発肝細胞癌に対する炭素イオン線治療と切除治療の比較　単施設の経験．日本癌治療学会学術集会抄録集 58回 Page O59-7（2020. 10）

10　小林　智，**神谷真梨子**，上野　誠，長島周平，佐野祐亮，田中　聡，福島泰斗，浅間宏之，**上岡祐人**，**村川正明**，**山本直人**，**森永聡一郎**，森本　学．GEM+S-1併用術前補助化学療法の初期経験．第51回膵臓学会　2021. 1. 8-9，神戸

11　里井壮平（関西医科大学 外科），杉浦禎一，福冨　晃，外山博近，平野　聡，松本逸平，高橋進一郎，**森永聡一郎**，吉田真誠，佐久間康成，清水泰博，上坂克彦．切除可能膵癌に対する術前治療　切除可能膵癌の術前S-1併用放射線療法とゲムシタビン＋S-1療法の第２相比較試験．第51回膵臓学会　2021. 1. 8-9，神戸

12　Toyama Hirochika, Takahashi Shinichiro, **Morinaga Soichiro**, Shimizu Yasuhiro, Nakamori Shoji, Hishinuma Shoichi, Takakura Norihisa, Takayama Wataru, Hirano Satoshi, Uesaka Katsuhiko. What is the optimal preoperative treatment for resectable and borderline resectable pancreatic cancer? Final results of JASPAC05: neoadjuvant S-1 and concurrent radiotherapy followed by surgery in borderline resectable pancreatic cancer. 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会，2021. 2. 23-24. 東京

13　Nakamura Toru, Sugiura Teiichi, Fukutomi Akira, Asakura Hirofumi, Takeda Yuriko, Yamamoto Kouji, Toyama Hirochika, Satoi Sohei, Matsumoto Ippei, Takahashi Shinichiro, **Morinaga Soichiro**, Yoshida Makoto, Sakuma Yasunaru, Iwamoto Hidetaka, Shimizu Yasuhiro, Uesaka Katsuhiko. What is the optimal preoperative treatment for resectable and borderline resectable pancreatic cancer? Results of randomized phase Ⅱ trial of chemoradiotherapy with S-1 versus combination chemotherapy with gemcitabine and S-1 as neoadjuvant treatment for resectable pancreatic cancer (JASPAC 04). 第32回日本肝胆膵外科学会学術集会，2021. 2. 23-24. 東京

14　Uesaka Katsuhiko (Division of Hepato-Biliary-Pancreatic Surgery, Shizuoka Cancer Center), Takahashi Shinichiro, Toyama Hirochika, Hirano Satoshi, Satoi Sohei, Matsumoto Ippei, **Morinaga Soichiro**, Shimizu Yasuhiro, Nakamori Shoji, Hishinuma Shoichi. 膵臓外科における臨床研究の現状と将来の展望　ArtとScienceの融合によるエビデンスの発信　切除可能膵癌（JASPAC 04）と切除可能境界膵癌（JASPAC 05）に対する第Ⅱ相試験．第75回日本消化器外科学会総会2020. 12. 15.-17. 和歌山

脳神経外科

発表論文

1　**Oshima A**, Yoshida D, Hiruma T, Washimi K, Okubo Y, **Sato H**. Intraoperatie extracorporeal irradiation for giant sarcoma-infiltrated calvarium: a case report. Br J Neurosurg. 28 Feb 2021 online

学会等発表

1　**大島聡人**，立石健祐，**佐藤秀光**，吉井幸恵，宮北康二，高橋雅道，大野　誠，山本哲哉，成田善孝，栗原宏明：治療用放射性薬剤^{64}Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する新規治療法の開発．第79回日本脳神経外科学会学術総会，大阪，10/2020

頭頸部外科

発表論文

1　Yukiko Hori, Akira Kubota, Tomoyuki Yokose, Madoka Furukawa, Takeshi Matsushita, Nobuhiko Oridate: Association between pathological invasion patterns and late lymph node metastases in patients with surgically treated clinical N0 early oral tongue carcinoma. Head and Neck. 42: 238-243, 2020.

2　古川まどか：頸部領域　3．唾液腺　必修エコー―体表から“せまる”全身エコーのアプローチ法―．診断と治療（増刊号）108 Suppl. 233-236, 2020

3　古川まどか：特集11　パネルディスカッション４「咽喉頭・気管食道科診察に直結する診断技法」１．気管食道・咽喉頭領域の超音波診断．日気食会報71⑵；180-182，2020.

4　古川まどか：『リンパ節超音波診断の標準化を目指して』 リンパ節超音波診断に必要な用語及び基本手技について．乳腺甲状腺超音波医学　9⑴ 11-14，2020.

5　古川まどか：頸部に発生する甲状腺外の嚢胞性疾患，嚢胞状腫瘤．乳腺甲状腺超音波医学　9：27-31，2020.

著書

1　古川まどか：39章，眼の超音波．Point-of-Care超音波原書第２版．編集　Nilam J. Soni，Robert Arntfield，Pierre Kory，山田　徹，南　太郎．391-401，丸善出版株式会社，東京，2020.

2　古川まどか：40章，甲状腺．Point-of-Care超音波 原書第２版．編集　Nilam J. Soni，Robert Arntfield，Pierre Kory，山田　徹，南　太郎．402-412，丸善出版株式会社，東京，2020.

3　古川まどか：41章，リンパ節．Point-of-Care超音波原書第２版．編集　Nilam J. Soni，Robert Arntfield，Pierre Kory，山田　徹，南　太郎．413-419，丸善出版株式会社，東京，2020.

4　古川まどか：頸部領域　唾液腺．必修エコー―体表から“せまる”全身エコーのアプローチ法―．森　秀明（編集）．P233-236，診断と治療社（東京）2020.

学会等発表

1　古川まどか，久保田　彰，勝又徳行，岩村　泰：早期口腔癌の超音波診断：血流パターンと弾性イメージングを用いた深達度と浸潤パターン評価．第121回日本耳鼻咽喉科学会総会，岡山，2020. 10.

2　古川まどか：頭頸部領域の point of care ultrasound（POCUS）．日本超音波医学会第93回学術集会．仙台（WEB），2020. 12.

3　古川まどか：前頸部痛を生じる甲状腺外の疾患 JABTS43（奈良　誌上発表）2020．4.

4　古川まどか：リンパ節超音波診断のコツと注意点 JABTS44（つくばWEB）2020．9.

5　古川まどか：プラチナ抵抗性症例における検討．Head and Neck Immuno-Oncology Seminar in Kanagawa．2020. 10.

6　古川まどか：診断に苦慮した頸部リンパ節疾患の超音波像と鑑別ポイント．第28回頭頸部超音波研究会（R2年度第２回日本超音波医学会頸部リンパ節診断研究会共催（WEB），2020. 11.

7　古川まどか：「頭頸部・甲状腺」keynote lecture．日本超音波医学会第93回学術集会．仙台（WEB），2020. 12.

8　古川まどか：「意外に便利な頸部 POCUS ―頸部 POCUS で診断可能な疾患・病態―」第10回POCUS研究会，さいたま，2021. 1

9　川野雅子，古川まどか，橋本香里，勝又徳行：舌下腺がん（上皮筋上皮癌）の一例．第195回日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会　学術講演会，横浜，2021. 3，研究会主催

形 成 外 科

学会発表

1　清水　調：人工乳房を用いた乳房再建術の合併症―ナトレルシリーズを用いた手術の当院の総括―．第63回日本形成外科学会総会・学術集会，名古屋，8/2020

乳腺内分泌外科（乳腺）

発表論文

1　Iwase M, Ando M, Aogi K, Aruga T, Inoue K, Shimomura A, Tokunaga E, Masuda N, Yamauchi H, Yamashita T, Iwata H.Long-term survival analysis of addition of carboplatin to neoadjuvant chemotherapy in HER2-negative breast cancer　Breast Cancer Res Treat. 2020 Apr; 180(3): 687-694.

2　Nakayama H, Kawachi K, Suganuma N, Yoshida T, Yamashita T, Yamanaka T, Matsubara Y, Kohagura K, Toda S, Nakamura Y, Miyagi Y, Rino Y, Masuda M. EZH2 and MMSET Were Identified as Potentially Useful Therapeutic Targets in Metaplastic Breast Carcinoma　Anticancer Res. 2020 Apr; 40(4): 2133-2139.

3　Nakamura M, Takano A, Thang PM, Tsevegjav B, Zhu M, Yokose T, Yamashita T, Miyagi Y, Daigo Y.Characterization of KIF20A as a prognostic biomarker and therapeutic target for different subtypes of breast cancer　International Journal of Oncology, 07 May 2020, 57(1): 277-288

4　Yamashita T, Masuda N, Saji S, Araki K, Ito Y, Takano T, Takahashi M, Tsurutani J, Koizumi K, Kitada M, Kojima Y, Sagara Y, Tada H, Iwasa T,

Kadoya T, Iwatani T, Hasegawa H, Morita S, Ohno S. Trastuzumab, pertuzumab, and eribulin mesylate versus trastuzumab, pertuzumab, and a taxane as a first-line or second-line treatment for HER2-positive, locally advanced or metastatic breast cancer: study protocol for a randomized controlled, non-inferiority, phase Ⅲ trial in Japan (JBCRG-M06/EMERALD) Trials. 2020 May 7; 21(1): 391.

5 Kawaguchi H, Masuda N, Nakayama T, Aogi K, Anan K, Ito Y, Ohtani S, Sato N, Saji S, Takano T, Tokunaga E, Nakamura S, Hasegawa Y, Hattori M, Fujisawa T, Morita S, Yamaguchi M, Yamashita H, **Yamashita T**, Yamamoto Y, Yotsumoto D, Toi M, Ohno S. Factors associated with prolonged overall survival in patients with postmenopausal estrogen receptor-positive advanced breast cancer using real-world data: a follow-up analysis of the JBCRG-C06 Safari study Breast Cancer. 2020 May; 27(3): 389-398.

6 Rugo HS, André F, **Yamashita T**, Cerda H, Toledano I, Stemmer SM, Jurado JC, Juric D, Mayer I, Ciruelos EM, Iwata H, Conte P, Campone M, Wilke C, Mills D, Lteif A, Miller M, Gaudenzi F, Loibl S. Time course and management of key adverse events during the randomized phaseⅢ SOLAR-1 study of PI3K inhibitor alpelisib plus fulvestrant in patients with HR-positive advanced breast cancer Ann Oncol. 2020 Aug; 31(8): 1001-1010

7 André F, Ciruelos EM, Juric D, Loibl S, Campone M, Mayer IA, Rubovszky G, **Yamashita T**, Kaufman B, Lu YS, Inoue K, Pápai Z, Takahashi M, Ghaznawi F, Mills D, Kaper M, Miller M, Conte PF, Iwata H, Rugo HS Alpelisib plus fulvestrant for PIK3CA-mutated, hormone receptor-positive, human epidermal growth factor receptor-2-negative advanced breast cancer: final overall survival results from SOLAR-1 Ann Oncol. 2021 Feb; 32(2): 208-217..

8 Tsuda H, Tsugawa K, Akiyama F, Horii R, Kurosumi M, Moriya T, Takano T, Takei H, Nakayama T, Miyagi Y, Yamauchi C, **Yamashita T**, Aogi K, Mukai H, Sugie T, Iwata H, Masuda S. Histological classification of breast tumors in the General Rules for Clinical and Pathological Recording of Breast Cancer(18th edition) Breast Cancer 2020 27(3): 309-321

9 **Yamashita T**, Kawaguchi H, Masuda N, Kitada M, Narui K, Hattori M, Yoshinami T, Matsunami N, Yanagihara K, Kawasoe T, Nagashima T, Bando H, Yano H, Hasegawa Y, Nakamura R, Kashiwaba M, Morita S, Ohno S, Toi M. Efficacy of the eribulin, pertuzumab, and trastuzumab combination therapy for human epidermal growth factor receptor 2–positive advanced or metastatic breast cancer: a multicenter, single arm, phase Ⅱ study (JBCRG-M03 study) Invest New Drugs. 2021 Feb; 39(1): 217-225.

10 **Yamashita T** The counterattack of anti-HER2 small molecule compounds has started Translational Breast Cancer Research 2020; 1: 10

11 **古波藏かおり**，**山下年成**，**山中隆司**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**松原由佳**，**菅沼伸康**，河内香江，利野　靖，益田宗孝　Olaparibが奏効したBRCA遺伝子変異陽性G-CSF産生乳癌の１例　乳癌の臨　35巻４号：297-302，2020.

その他出版物

1 **山下年成**　進行再発HER2陽性乳癌の最近の進歩と展開　CLINICIAN　Vol.68，NO.687　16-24，2021

学会発表

1 Jerusalem G, Park YH, **Yamashita T**, Hurvitz SA, Chen S, Cathcart J, Lee C, Perrin C CNS metastases in HER2-positive metastatic breast cancer treated with trastuzumab deruxtecan: DESTINY-Breast01 subgroup analyses European Society for Medical Oncology (ESMO) Breast Cancer Virtual Meeting, 2020. 5. 23

2 Modi S, Andre F, Krop I, Saura C, **Yamashita T**, Kim S-B, Tamura K, Chen S, Suto F, Kuwahara Y, Lee C, Park YH Trastuzumab deruxtecan for HER2-positive metastatic breast cancer: DESTINY-Breast01 subgroup analysis ASCO Virtual Scientific Program 2020, 2020. 5. 29-31

3 Kamiyama E, Garimella T, **Yamashita T**, Shimomura A, LaCreta F, Ishizuka H, Abutarif M Evaluation of pharmacokinetics and QT/QTc interval prolongation with concentration-QT analysis after multiple dosing of trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in patients with HER2-expressing metastatic and/or unresectable breast cancer Annual Meeting American College of Clinical Pharmacy 2020, Bethesda(Web) 2020. 9. 20

4 André F, Ciruelos FM, Juric D, Loibl S, Campone M, Mayer IA, Rubovszky G, **Yamashita T**, Kaufman B, Lu Y-S, Inoue K, Zsuzsanna Pápai Z, Takahashi M, Ghaznawi F, Mills D, Kaper M, Miller M, Conte P, Iwata H, Rugo HS Overall survival (OS) results from SOLAR-1, a phase 3 study of alpelisib (ALP) + fulvestrant (FUL) for hormone receptor-positive (HR+), human epidermal growth factor receptor 2-negative (HER2–) advanced breast cancer (ABC) ESMO Virtual Congress 2020, Barcelona, 2020. 9. 19

5 Harbeck N, Johnston S, Fasching PA, Martin M, Toi M, Rastogi P, Song C, Molthrop D, Vuky J, **Yamashita T**, Jaliffe GG, Gumus M, Headley D, Wei R, Barriga S, Munoz M, Method M, André V, Kreipe

H, O'Shaughnessy J　High Ki-67 as a biomarker for identifying patients with high risk early breast cancer treated in monarchE　The San Antonio Breast Cancer Symposium2020, San Antonio, 2020. 12. 9

6　Modi S, Saura C, **Yamashita T**, Park Y.H, Kim S.-B, Tamura K, André F, Iwata H, Ito Y, Tsurutani J, Sohn J, Denduluri N, Perrin C, Aogi K, Tokunaga E, Im S.-A, Lee K.S, Hurvitz S.A, Cortes J, Lee C, Lin Y, Zhang L, Shahidi J, Yver A, Baselga J, Krop I　Updated results from DESTINY-Breast01, a phase 2 trial of trastuzumab deruxtecan (T-DXd) in HER2 positive metastatic breast cancer　The San Antonio Breast Cancer Symposium2020, San Antonio, 2020. 12. 9

7　Mezawa Y, Daigo Y, Takano A, Miyagi Y, Yokose T, **Yamashita T**, Maruyama R, Seimiya H, Orimo A　Global histone deacetylation mediates the myofibroblast-like state in carcinoma-associated fibroblasts　第79回　日本癌学会学術総会　広島, 2020. 10. 1 ～ 2020. 10. 3

8　Takano T, Shimomura A, Takahashi S, Sagara Y, Watanabe J, Tokunaga E, Kikumori K, Kamiyama E, Kamio T, Fujisaki Y, Shinkai T, **Yamashita T**　A phase 1 study of trastuzumab deruxtecan (T-DXd; DS-8201) to assess the effect on QTc and PK in advanced breast cancer patients　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

9　**Yamashita T**, Krop I, Saura C, Park YH, Tamura K, Kim SB, André F, Iwata H, Hurvitz S, Modi S　Phase 2 study of DS-8201 in subjects with HER2-positive metastatic breast cancer pretreated by T-DM1 (DESTINY-Breast01)　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

10　増山美里，川口英俊，増田慎三，中山貴寛，青儀健二郎，阿南敬生，伊藤良則，大谷彰一郎，金子耕司，佐治重衡，徳永えり子，中村清吾，長谷川善枝，藤澤知巳，山口美樹，**山下年成**，山本　豊，森田智視，戸井雅和，大野真司　ホルモン陽性HER2陽性進行再発乳癌におけるフルベストラントの治療成績（JBCRG-C06 Safari試験）の検討．28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

11　**岡本　咲**，**山中隆司**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**菅沼伸康**，**山下年成**　当院におけるpaclitaxelまたはpaclitaxel+bevacizumab使用時のNLRとALCの意義の検討　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

12　**松原由佳**，**山下年成**，**山中隆司**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**菅原裕子**，**菅沼伸康**，利野　靖，益田宗孝　当院におけるdose dense AC＋dose dense PTX療法施行症例の検討　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web 開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

13　中山貴寛，川口英俊，増田慎三，青儀健二郎，阿南敬生，伊藤 良則，大谷彰一郎，金　耕司，佐治重衡，徳永えり子，中村清吾，長谷川善枝，藤澤知巳，山口美樹，**山下年成**，山本　豊，森田智視，戸井雅和，大野真司　術後内分泌療法がER+HER2−進行再発乳癌の内分泌療法に及ぼす影響　JBCRG-C06サブ解析　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

14　金子耕司，川口英俊，増田慎三，中山貴寛，青儀健二郎，阿南敬生，伊藤良則，大谷彰一郎，佐治重衡，徳永 えり子，中村清吾，長谷川善枝，藤澤知巳，山口美樹，**山下年成**，山本　豊，森田智視，戸井雅和，大野真司　大規模コホート研究からの閉経後ER陽性進行・再発乳癌におけるOSに関与する因子の検討（JBCRG-C06:Safari）28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

15　戸津舞衣子，瀬畑善子，出井あゆみ，京谷充崇，若崎優美，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**山中隆司**，**菅沼伸康**，**山下年成**，岸本 有佳　乳がん術後化学療法での副作用について患者自身評価と医療者評価の相違の研究　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

16　**菅沼伸康**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**山中隆司**，**山下年成**，吉岡恵美，河内香江，横瀬智之，藤田久栄，吉田達也，利野　靖，益田宗孝　乳癌手術標本の品質管理　タイムスタンプシステムの導入　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web 開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

17　**山中　歩**，**山中隆司**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**菅沼伸康**，**山下年成**，益田宗孝　タモキシフェンが奏効した男性オカルト乳癌肺転移の１例　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web 開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

18　**古波蔵かおり**，**山下年成**，**山中隆司**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**松原由佳**，**菅原裕子**，**菅沼伸康**，利野　靖，益田宗孝　当院における針生検でLCISと診断された9症例の検討　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web 開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

19　**菅原裕子**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**古波蔵かおり**，**松原由佳**，**山中隆司**，**菅沼伸康**，**山下年成**，佐藤　杏，羽恵梨，益田宗孝　当院におけるBRCA2乳癌症例の検討　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web 開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

20　佐藤　杏，羽田恵梨，瀬畑善子，**菅沼伸康**，**山下年成**，成松宏人　当院における遺伝性乳がん卵巣がん症候群の懇話会の取り組み　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web 開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

21　田村研治，鶴谷純司，岩田広治，高橋俊二，Krop Ian，Saura Cristina，**山下年成**，相良安昭，杉原匡周，神尾恭弘，藤崎良彦，齊藤　格，Modi Shanu　HER2陽性進行乳癌患者を対象としたDS-8201のfirst-inhuman第

１相試験及び第２相試験（DESTINY-Breast01）における併合解析及び日本人サブセット解析　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 9 ～ 2020. 10. 18

22　**山下年成**，鶴谷純司，増田慎三，原　文堅，内藤陽一　ESMOでの発表を徹底議論　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 12

23　**山下年成**　共催セミナー　HER2陽性再発乳癌　28回　日本乳癌学会総会，名古屋（Web開催），2020. 10. 10

24　**Yamashita T**, Jerusalem G, Park YH, Hurvitz SA, Chen S, Cathcart J, Lee C, Perrin C　CNS metastases in HER2-positive metastatic breast cancer treated with trastuzumab deruxtecan: DESTINY-Breast01 subgroup analyses　第58回　日本癌治療学会学術集会　京都，2020. 10. 22 ～ 2020. 10. 24

25　**Yamashita T**, Modi S, Andre F, Krop I, Saura C, Kim SB, Tamura K, Liu Y, Suto F,　Kuwahara Y, Lee C, Park YH Trastuzumab deruxtecan for HER2-positive metastatic breast cancer: DESTINY-Breast01 subgroup analysis　JSMO2021 Virtual Congress; Feb 18-21, 2021

26　**Yamanaka T**, Fujisawa T, Naito Y, Masuda N, **Yamashita T**, Fukasawa Y, Yasoshima H, **Matsubara Y**, Mukohara T, Otani Y, Horasawa S, Kuramoto N, Sakamoto Y, Nakamura Y, Taniguchi H, Yoshino T, Iwata H　Genomic Landscape of tissue DNA in Patients with Advanced Breast Cancer: Non planned interim analysis of SCRUM-Japan MONSTAR-SCREEN JSMO2021 Virtual Congress; Feb 18-21, 2021

27　Rugo HS, O'Shaughnessy J, Song C, Broom R, Gumus M, **Yamashita T**, Antonio BS, Shahir A, Zimmermann A, Zagouri F, Reinisch M　Safety outcomes from monarchE: phase 3 study of abemaciclib combined with endocrine therapy for the adjuvant treatment of HR+, HER2－, node-positive, high risk, early breast cancer　St Gallen Breast Cancer Conference, March 17-21, 2021

乳腺内分泌外科（内分泌）

発表論文

1　Iwasaki H, Toda S, Ito H, Nemoto D, Murayama D, Okubo Y, et al. A Case of Unresectable Papillary Thyroid Carcinoma Treated with Lenvatinib as Neoadjuvant Chemotherapy. Case Reports in Endocrinology. 2020; 2020: 6438352.

2　Iwasaki H, Toda S, Murayama D, Takahashi H. Three Cases of Anaplastic Thyroid Carcinoma Transformation and Leukocytosis during Lenvatinib Treatment. Case Rep Endocrinol. 2020; 2020: 6667237.

3　Iwasaki H, Toda S, Suganuma N, Murayama D, Nakayama H, Masudo K. Lenvatinib vs. palliative therapy for stage IVC anaplastic thyroid cancer. Mol Clin Oncol. 2020; 12(2): 138-43.

4　Iwasaki H, Toda S, Murayama D, Kato S, Matsui A. Relationship between adverse events associated with lenvatinib treatment for thyroid cancer and patient prognosis. Mol Clin Oncol. 2021; 14(2): 28.

5　Iwasaki H, Toda S, Murayama D, Kato S, Matsui A. Surgical indications and clinical management of benign and malignant follicular thyroid tumors: An algorithmic-based approach. Mol Clin Oncol. 2021; 14(2): 32.

6　Toda S, Iwasaki H, Suganuma N, Okubo Y, Hayashi H, Masudo K, et al. Occult Thyroid Carcinoma without Malignant Thyroid Gland Findings during Preoperative Examination: Report of Three Cases. Case Rep Endocrinol. 2020; 2020: 4249067.

7　Yamazaki H, Yokose T, Hayashi H, Iwasaki H, Osanai S, Suganuma N, et al. Expression of fibroblast growth factor receptor 4 and clinical response to lenvatinib in patients with anaplastic thyroid carcinoma: a pilot study. Eur J Clin Pharmacol. 2020; 76(5): 703-9.

8　Yoshida T, Suganuma N, Sato S, Toda S, Nakayama H, Masudo K, et al. Membrane type 1 matrix metalloproteinase regulates anaplastic thyroid carcinoma cell growth and invasion into the collagen matrix. Biochem Biophys Res Commun. 2020; 529(4): 1195-200.

著書

1　**岩崎博幸**，**戸田宗治**，**村山大輔**「内分泌腺腫瘍（第２版）Ⅳ甲状腺腫瘍，甲状腺濾胞癌の治療方針」日本臨床 78(4) 385-390，2020

2　**岩崎博幸**，クリニシャン「甲状腺がん「腫瘍径に着目したレンバチニブ導入タイミング」」21(687) 76-79, 2021

学会等発表

1　**岩崎博幸**，**戸田宗治**，**村山大輔**：進行甲状腺癌の縦隔リンパ節転移に対する治療方針と成績．第53回日本内分泌外科学会学術大会2020/11/26-27Web

2　**岩崎博幸**，**戸田宗治**，**村山大輔**，**加藤　真**，**益戸功彦**，**菅沼伸康**，**中山博貴**：進行甲状腺癌の腫瘍量と評価病変から判断するTKIの開始時期．第53回日本内分泌外科学会学術大会 2020/11/26-27 Web

3　**岩崎博幸**，**戸田宗治**，**村山大輔**，**松井愛唯**，**羽鳥慎祐**，**中山博貴**：甲状腺分化癌の骨転移治療の変遷とその成績．外科系連合学会 2020/12/22-23 Web

4　**村山大輔**，**岩崎博幸**，**松井愛唯**，**安川美緒**，**岡本　咲**，**戸田宗治**，**松原由佳**，**山中隆司**，**山下年成**：急速に増大し針生検にて未分化癌を疑い切除した微少浸潤型濾胞

癌の１例．第82回日本臨床外科学会総会2020/10/29-31 Web

5　戸田宗治，松原由佳，菅沼伸康，中山博貴，岩崎博幸：甲状腺濾胞癌，骨転移に対して重粒子線治療が行われた１例．第32回日本内分泌外科学会総会 2020/9/17-18 Web

6　戸田宗治，星野大輔，村山大輔，菅沼伸康，岩崎博幸：レンバチニブ投与中に未分化転化し小腸穿孔が生じた甲状腺濾胞癌の１例．第53回日本内分泌外科学会学術大会 2020/11/26-27 Web

婦　人　科

発表論文

1　Namiko Onuki. Koji Matsumoto. Takashi Iwata. Kasumi Yamamoto. Yoichi Aoki. Shoji Maenohara. Naotake Tsuda.　Shoji Kamiura. Kazuhiro Takehara. Koji Horie. Nobutaka Tasaka. Hideaki Yahata. Yuji Takei.　Yoichi Aoki. Hisamori Kato. Takeshi Motohara. Keiichiro Nakamura. Mitsuya Ishikawa. Tatsuya Kato. Hiroyuki Yoshida. Noriomi Matsumura. Hidekatsu Nakai. Shogo Shigeta. Fumiaki Takahashi. Kichiro Noda. Nobuo Yaegashi.　Hiroyuki Yoshikawa: Human papillomavirus genotype contribution to cervical cancer and precancer:Implictions for screening and vaccination in Japan. Cancer Science, 24, 1129-1136, 2020

2　Iwao Kukimoto. Koji Matsumoto, Fumiaki Takahashi, Takashi Iwata, Kohsei Tanaka, Mayuko　Yamaguchi-Naka, Kasumi Yamamoto, Hideaki Yahata, Makoto Nakabayashi, Hisamori Kato, Naotake Tsuda, Mamiko Onuki and Nobuo Yaegashi for MINT Study 2 Group: Human Papillomavirus (HPV) Genotyping Assay Suitable for Monitoring the Impact of the 9-Valent HPV Vaccine. Tohoku J. Exp. Med 251; 287-294, 2020

3　磯崎太一，沼崎令子，新井　努，ルイズ横田奈朋，吉田　浩，杉浦　賢，大原　樹，高田恭臣，木挽貢慈，佐々木　康，米山剛一，林　康子，平澤　猛，八代藍子，土屋　聡，中田さくら，森岡　幹，三上幹男，加藤久盛，中野眞佐男，宮城悦子，高橋恒男：令和元年度神奈川産科婦人科学会　婦人科悪性腫瘍登録集計報告．神奈川県産科婦人科学会誌57(2)：13-20，2020

学会等発表　シンポジウム（S）ワークショップ（W）

1　Shin Nishio. Koji Matsuo, Satoshi Yamaguchi, Hiroyuki Kanao, Kazuhiro Takehara, Nobuhiro Kado, Akiko Tozawa, Hideki Tokunaga, Tatsuya Matsunaga, Hisamori Kato, Koji Horie, Akira Kikuchi, Mikio Mikami, Takayuki Enomoto: Changes in clinicopathological demographics of 1061 patients with vulvar cancer in Japan：　Increasing oldest-old,stage-shifting,and decreasing cohort level survaival .The 72 Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. web, 4/2020

2　Emiko Yoshida. Yasuhisa Terao, Yosuke Ito, Yuta Ueno, Masayo Ozawa, Tomoyasu Kato, Hisamori Kato, Kazunari Fujino, Takashi Hirayama, Maiko Yamaguchi, Satoru Takeda, Atsuo Itakura: Validation　of ethnic difference in novel predictive biomarker of lymph node metastasis for uterine cancer:International joint research with Russia.The 72 Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology.Web, 4/2020

3　Yuta Ueno, Hisamori Kato, Masayo Ozawa, Aya Uchiyama, Masakazu Kitagawa, Katsuyuki Konnai, Ryo Onose, Yosuke Ito, Emiko Yoshida, Yasuhisa Terao, Tomoyasu Kato, Toshiyuki Takeshita: Reanalysis on significance of four parameters in Uterine Cancer Lymph Node Metastasis Prediction Score (Kanagawa Cancer Center (KCC) Score). The 72 Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology. web, 4/2020

4　近内勝幸，北川雅一，祐森明日菜，上野悠太，若林玲南，小野瀬亮，加藤久盛．：術前スコアリングを用いた子宮体癌治療成績．第60回日本産科婦人科内視鏡学会．web. 12/2020

5　北川雅一，近内勝幸，北川雅一，祐森明日菜，上野悠太，若林玲南，小野瀬　亮，加藤久盛．：地域がんセンターにおける個別化スコアを用いた子宮体癌の術式選択～開腹手術での実績を踏まえた，腹腔鏡下手術の実践と工夫～．第60回日本産科婦人科内視鏡学会.web.12/2020

6　上野悠太，加藤久盛，祐森明日菜，若林玲南，北川雅一，近内勝幸，小野瀬　亮，竹下俊行：『子宮体癌における術中腹水細胞診の意義』ワークショップ．第62回日本婦人科腫瘍学会．web. 2021. 1

7　祐森明日菜，納富嗣人，上野悠太，若林玲南，北川雅一，近内勝幸，小野瀬　亮，加藤久盛：１次検診での細胞診AGCが長期フォローを経て子宮頸部腺癌ＩＡ１期の診断につながった１例．第39回神奈川県臨床細胞学会 新型コロナウイルス感染症の影響により中止

8　若林玲南，小野瀬　亮，上野悠太，祐森明日菜，北川雅一，近内勝幸，加藤久盛：妊娠を強く希望され経過観察している最中に，CIN3よりリンパ節転移陽性の子宮頸癌１Ａ１期に進行した一例．第39回神奈川県臨床細胞学会　新型コロナウイルス感染症の影響により中止

泌 尿 器 科

発表論文

原著論文

1　Singh N, Mizoguchi S, Suzuki T, Zabbarova I,

Ikeda Y, Kanai A, Chermansky C, Yoshimura N, Tyagi P: Excitatory effect of acotiamide on rat and human bladder: Implications for underactive bladder treatment. Life Sci, 258: 118179, 2020.

2 Noguchi G, Nakaigawa N, Umemoto S, Kobayashi K, Shibata Y, Tsutsumi S, Yasui M, Ohtake S, Suzuki T, Osaka K, Muraoka K, Hasumi H, Kondo K, Igarashi Y, Sasada T, Kishida T, Yao M: C-reactive protein at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. Cancer Chemother Pharmacol, 86(1): 75-85, 2020.

3 Motoyama D, Matsushita Y, Watanabe H, Tamura K, Suzuki T, Ito T, Sugiyama T, Otsuka A, Miyake H: Initial learning curve for robot-assisted partial nephrectomy performed by a single experienced robotic surgeon. Asian J Endosc Surg, 13(1): 59-64, 2020.

4 Takaoka EI, Kurobe M, Suzuki T, Shimizu N, Kwon J, Okada H, Yoshimura N, Chermansky CJ: Urethral dysfunction and therapeutic effects of a PDE 5 inhibitor (tadalafil) in a rat model of detrusor underactivity induced by pelvic nerve crush injury. Neurourol Urodyn, 39(3): 916-925, 2020.

5 Shimizu N, Wada N, Shimizu T, Suzuki T, Kurobe M, Kanai AJ, de Groat WC, Hashimoto M, Hirayama A, Uemura H, Yoshimura N: Role of p38 MAP kinase signaling pathways in storage and voiding dysfunction in mice with spinal cord injury. Neurourol Urodyn, 39(1): 108-115, 2020.

6 Kasajima R, Yamaguchi R, Shimizu E, Tamada Y, Niida A, Tremmel G, Kishida T, Aoki I, Imoto S, Miyano S, Uemura H, Miyagi Y.Variant analysis of prostate cancer in Japanese patients and a new attempt to predict related biological pathways. Oncol Rep. 2020 Mar; 43(3): 943-952.

7 Noguchi G, Kawahara T, Kobayashi K, Tsutsumi S, Ohtake S, Osaka K, Umemoto S, Nakaigawa N, Uemura H, Kishida T, Yao M.A lower psoas muscle volume was associated with a higher rate of recurrence in male clear cell renal cell carcinoma. PLoS One. 2020 Jan 2; 15(1): e0226581.

8 Tatenuma T, Tsutsumi S, Yasui M, Noguchi G, Umemoto S, Kishida T. Outcome of Palliative Urinary Diversion and Observation for Malignant Extrinsic Ureteral Obstruction.J Palliat Med. 2020 Feb; 23(2): 254-258.

9 Sawada Y, Kikugawa T, Iio H, Sakakibara I, Yoshida S, Ikedo A, Yanagihara Y, Saeki N, Győrffy B, Kishida T, Okubo Y, Nakamura Y, Miyagi Y, Saika T, Imai Y. GPRC5A facilitates cell proliferation through cell cycle regulation and correlates with bone metastasis in prostate cancer.Int J Cancer. 2020 Mar 1; 146(5): 1369-1382.

10 Yasui M, Sakaguchi M, Jikuya R, Tsutsumi S, Tatenuma T, Noguchi G, Umemoto S, Katayama K, Narimatsu H, Uemura H, Kishida T.Comparative effectiveness of surgery and radiotherapy for survival of patients with clinically localized prostate cancer: A population-based coarsened exact matching retrospective cohort study. Oncol Lett. 2020 Nov; 20(5): 150. doi: 10.3892/ol.2020.12013. Epub 2020 Aug 24.

11 Okubo Y, Nukada S, Shibata Y, Osaka K, Yoshioka E, Suzuki M, Washimi K, Kawachi K, Kishida T, Yokose T, Miyagi Y.Primary solitary fibrous tumour of the prostate: A case report and literature review. Malays J Pathol. 2020 Dec; 42(3): 449-453.

12 Kishida T. Editorial Comment to Synchronous bilateral renal cell carcinomas with differing histologies. IJU Case Rep. 2020 Jul 27; 3(5): 199-200.

13 Noguchi G, Nakaigawa N, Umemoto S, Kobayashi K, Shibata Y, Tsutsumi S, Yasui M, Ohtake S, Suzuki T, Osaka K, Muraoka K, Hasumi H, Kondo K, Igarashi Y, Sasada T, Kishida T, Yao M. C-reactive protein at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. Cancer Chemother Pharmacol. 2020 Jul; 86(1): 75-85.

14 Tomita Y, Naito S, Sassa N, Takahashi A, Kondo T, Koie T, Obara W, Kobayashi Y, Teishima J, Takahashi M, Matsuyama H, Ueda T, Yamaguchi K, Kishida T, Shiroki R, Saika T, Shinohara N, Oya M, Kanayama HO. Sunitinib Versus Sorafenib as Initial Targeted Therapy for mCC-RCC With Favorable/Intermediate Risk: Multicenter Randomized Trial CROSS-J-RCC. Clin Genitourin Cancer. 2020 Aug; 18(4): e374-e385.

15 Jikuya R, Kishida T, Sakaguchi M, Yokose T, Yasui M, Hashizume A, Tatenuma T, Mizuno N, Muraoka K, Umemoto S, Kawai M, Yoshihara M, Nakamura Y, Miyagi Y, Sasada T. Galectin-9 expression as a poor prognostic factor in patients with renal cell carcinoma. Cancer Immunol Immunother. 2020 Oct; 69(10): 2041-2051.

16 Furuya M, Iribe Y, Nagashima Y, Kambe N, Ohe C, Kinoshita H, Sato C, Kishida T, Okubo Y, Numakura K, Nanjo H, Nakaigawa N, Makiyama K, Hasumi H, Iwashita H, Ohta J, Kitamura H, Nakajima T, Yoshida T, Nakagawa M, Tanaka R, Yao M. Clinicopathological and molecular features of hereditary leiomyomatosis and renal cell cancer-associated renal cell carcinomas. J Clin Pathol. 2020 Dec; 73(12): 819-825.

17 Kishida T.Editorial Comment to Prediction models for the viability of pulmonary metastatic lesions after

chemotherapy in nonseminomatous germ cell tumors. Int J Urol. 2020 May; 27(5): 474.

18 Kishida t.Editorial Comment to Synchronous bilateral renal cell carcinomas with differing histologies. IJU Case Rep. 2020 Jul 27; 3(5): 199-200.

19 Aoki S, Yasui M, Tajirika H, Terao H, Funahashi M, Ohta J. Pembrolizumab-Induced Severe Neuropathy in a Patient with Metastatic Urothelial Carcinoma after Achieving Complete Response: Guillain-Barré Syndrome-Like Onset.Case Rep Oncol. 2020 Dec 17; 13(3): 1490-1494. doi: 10.1159/000511567. eCollection 2020 Sep-Dec.

20 Yamashita S, Suzukamo Y, Kakimoto K, Uemura M, Kishida T, Kawai K, Nakamura T, Goto T, Osawa T, Yamada S, Nishimura K, Nonomura N, Nishiyama H, Shiraishi T, Ukimura O, Ogawa O, Shinohara N, Ito A, Arai Y. Validation study of the Japanese version of the European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire-Testicular Cancer 26 for patients with testicular cancer. Int J Urol. 2021 Feb; 28(2): 176-182

和文

1 小林幸太，堤　壮吾，野口　剛，逢坂公人，梅本　晋，竹山昌伸，比留間　徹，岸田　健：後腹膜腔に発生した骨外性ユーイング肉腫の一例.日本泌尿器科学会雑誌（0021-5287）111巻３号 Page89-93（2020. 07）

2 小泉充之，中島健寛，西村玲応奈，深澤佳高，藤川　敦：前立腺肥大症に対するツリウムレーザーを用いた蒸散術および核出術の検討．泌尿器外科，34：71-76，2021.

3 青木俊太郎，田尻下紘直，安井将人，寺尾秀行，舩橋亮，太田純一：診断に苦慮した前立腺癌の頭蓋底転移の一例　泌尿器外科（0914-6180）33巻５号 Page551

4 青木俊太郎，田尻下紘直，安井将人，寺尾秀行，舩橋亮，太田純一：Pembrolizumab投与後に潰瘍性大腸炎を発症した膀胱癌の一例．泌尿器外科（0914-6180）33巻５号 Page548（2020. 05）

5 青木俊太郎，田尻下紘直，安井将人，寺尾秀行，舩橋　亮，太田 純一：Pembrolizumab投与により重症末梢神経障害をきたした尿管癌の一例．神奈川医学会雑誌（0285-0680）47巻１号 Page96-97（2020. 01）

著書

1 【徹底解説　泌尿器科の開腹手術―何を準備し，どう管理するか―】（chapter 6）その他　精巣腫瘍の後腹膜リンパ節郭清術：岸田　健　Uro-Lo：泌尿器 Care & Cure（2189-8545）25巻１号 Page118-124（2020.02）

その他の出版物

1 Author：山下慎一，垣本健一，植村元秀，岸田　健，河合弘二，中村晃和，後藤崇之，大澤崇宏，伊藤明宏，荒井陽一：精巣がんサバイバーにおける生殖医療の現状（会議録），Source：日本内分泌学会雑誌（0029-0661）96巻４号 Page1079（2021. 04）

2 Author：山下慎一，鈴鴨よしみ，垣本健一，植村元秀，岸田　健，河合弘二，中村晃和，後藤崇之，大澤崇宏，山田成幸，荒井陽一：精巣癌患者に対するEORTC QLQ-TC26日本語版の妥当性検証（会議録），Source：日本泌尿器科学会総会 108回 Page1718（2020. 12）

3 Author：沢田雄一郎，飯尾浩之，柳原裕太，池戸　葵，佐伯法学，榊原伊織，BalazsGyoerffy，岸田　健，宮城洋平，菊川忠彦，雑賀隆史，今井祐記：GPRC5Aは前立腺癌の細胞増殖および骨転移を促進する（会議録），Source：日本泌尿器科学会総会 108回 Page1532（2020. 12）

4 Author：米山脩子，三好康秀，安井将人，河原崇司，上村博司，岸田健，滝沢明利，太田純一：ハイリスク未治療転移性前立腺癌に対するupfront abirateroneの治療成績（会議録），Source：日本泌尿器科学会総会 108回 Page1155（2020. 12）

5 Author：山下慎一，垣本健一，植村元秀，岸田　健，河合弘二，中村晃和，後藤崇之，大澤崇宏，山田成幸，鈴鴨よしみ，荒井陽一：EORTC QLQ-TC26日本語版を用いた精巣癌サバイバーのQOLに関する横断的多施設共同研究（会議録），Source：日本泌尿器科学会総会 108回 Page807（2020. 12）

6 Author：鈴木孝尚，柴田洋佑，野口　剛，逢坂公人，岸田　健：術後難治性下痢の治療に苦慮したGanglioneuromaの１例（会議録／症例報告），Source：神奈川医学会雑誌（0285-0680）48巻１号 Page47-48（2021. 01）

7 Author：**柴田洋佑**，野口毅朗，小泉充之，鈴木孝尚，逢坂公人，**岸田　健**：当院における胚細胞腫瘍脳転移症例の検討（会議録），Source：日本癌治療学会学術集会抄録集 58回 Page P-374（2020. 10）

学会等発表

1 Suzuki T, Saito T, Shimizu N, Shimizu T, Kishida T, Yao M, Goins WF, Glorioso JC, Yoshimura N: Improvement of detrusor overactivity by ivermectin-mediated activation of double mutant glycine receptors delivered by herpes simplex virus (HSV) vectors in mice with spinal cord injury (SCI). American Urological Association (AUA), Washington DC, 2020, 5.

2 Kurobe M, Takaoka E, Cao N, Suzuki T, Saito T, Gotoh D, Alexandre EC, Igarashi T, Miyazaki J, Nishiyama H, Yoshimura N: Characterization of functional and histological changes of the urethra in rat models of stress urinary incontinence (SUI) induced by simulated birth trauma or estrogen deficiency.

American Urological Association (AUA), Washington DC, 2020, 5.

3　Suzuki T, Mizoguchi S, Kurobe M, Saito T, Takaoka E, Kishida T, Yao M, Yoshimura N: Long-lasting bladder hypersensitivity with frequent urination induced by intravesical application of hydrogen peroxide in rats with pelvic venous congestion. The 50th annual meeting of the International Continence Society (ICS), Las Vegas, 2020, 11.

4　小泉充之，野口毅朗，柴田洋祐，鈴木孝尚，逢坂公人，岸田　健：当院での前立腺癌に対するロボット支援下前立腺全摘（RARP）および拡大リンパ節郭清についての検討．第34回日本泌尿器内視鏡学会，2020, 11.

5　鈴木孝尚，柴田洋佑，野口　剛，逢坂公人，岸田　健：術後難治性下痢の治療に苦慮したGanglioneuromaの１例．神奈川泌尿器科医会　2020. 1

6　柴田洋佑，野口毅朗，小泉充之，鈴木孝尚，逢坂公人，岸田　健：当院における胚細胞腫瘍脳転移症例の検討.第58回　日本癌治療学会学術集会

7　河合弘二，河原貴史，小島崇宏，丸尾和司，松浦　幹，篠原信雄，山下慎一，米盛　勧，岸田　健，浮村　理，西村和郎，小林泰之，西山博之：２次化学療法後の治療抵抗性胚細胞腫瘍に対するニボルマブ単独療法の第２相臨床試験．第58回　日本癌治療学会学術集会

8　柴田洋佑，野口　剛，鈴木孝尚，梅本　晋，逢坂公人，岸田　健：IrAE中止後ニボルマブ再投与により再度PRが得られた転移性腎癌の一例．神奈川地方会　2020. 3

9　鈴木孝尚，溝口晋輔，黒部匡広，齊藤徹一，高岡栄一郎，岸田　健，矢尾正祐，吉村直樹：骨盤うっ血ラットにおける過酸化水素水（H_2O_2）の単回膀胱内注入は頻尿を伴う膀胱過敏状態を遷延させる．第27回日本排尿機能学会，品川，2020, 10.

10　黒部匡広，高岡栄一郎，鈴木孝尚，溝口晋輔，齊藤徹一，後藤大輔，五十嵐太郎，稲村　聡，宮崎　淳，吉村直樹：部分的膀胱出口部閉塞ラットの排尿筋過活動における，アデノシン受容体サブタイプA2BおよびA3の役割．第27回日本排尿機能学会，品川，2020, 10.

12　小泉充之，野口毅朗，柴田洋佑，鈴木孝尚，逢坂公人，岸田　健：当院におけるロボット支援下前立腺全摘（RARP）および拡大リンパ節郭清の検討．第34回日本泌尿器内視鏡学会，岡山，2020, 11.

13　鈴木孝尚，柴田洋佑，野口　剛，梅本　晋，逢坂公人，岸田　健：ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術（RARP）における拡大リンパ節郭清の質は術者間で違いがあるか？第108回日本泌尿器科学会総会，神戸，2020, 12.

14　野口　剛，中井川　昇，柴田洋佑，大竹慎二，鈴木孝尚，逢坂公人，村岡研太郎，梅本　晋，蓮見壽史，近藤慶一，笹田哲朗，岸田　健，矢尾正祐：治療開始後１ヶ月後のCRP値は進行性腎細胞癌に対するNivolumab単独治療の効果予測因子である．第108回日本泌尿器科学会総会，神戸，2020, 12.

15　柴田洋佑，野口　剛，鈴木孝尚，梅本　晋，逢坂公人，岸田　健：Pembrolizumab療法終了後の尿路上皮癌に対する白金製剤再投与の有効性の検討．第108回日本泌尿器科学会総会，神戸，2020, 12.

骨軟部腫瘍外科

論文発表

1　Akito Oshima, **Toru Hiruma**, et al.Intraoperative extracorporeal irradiation for giant sarcoma-infiltrated calvarium:a case report. British Journal of Neurosurgery Received 07 Dec 2020, Accepted 08 Feb 2021, Published online: 28 Feb 2021.

学会等発表

学会および講演発表

1　**比留間　徹**，ほか：当施設における骨・軟部肉腫に対する重粒子線治療―再発例の検討と計画的切除術併用の可能性―．第53回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会（シンポジウム），オンライン開催，2020. 9. 11 ～ 9. 30.

2　芹澤慈子，**比留間　徹**，ほか：手術不能な骨・軟部腫瘍に対する重粒子線治療．第53回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会，オンライン開催，2020. 9.11 ～ 9.30.

講演発表

1　**比留間　徹**：転移性骨腫瘍および骨軟部腫瘍の最新の治療―遺伝子パネル検査とエヌトレクニブを交えて―．第8回京葉骨転移研究会，千葉県浦安市（ハイブリット開催），2020. 9. 12.

その他出版物

1　**比留間　徹**：肉腫の病期とアウトカムの評価－機能評価（MSTS）．肉腫．日本臨牀78巻増刊号５：244-250, 2020.

放射線治療科

発表論文

1　**Takakusagi Y**, **Katoh H**, **Kano K**, **Anno W**, **Tsuchida K**, **Mizoguchi N**, **Serizawa I**, **Yoshida D**, **Kamada T**. Preliminary result of carbon-ion radiotherapy using the spot scanning method for prostate cancer. Radiat Oncol. 2020 May 27; 15(1): 127.

2　**Takakusagi Y**, **Oike T**, **Kano K**, **Anno W**, **Tsuchida K**, **Mizoguchi N**, **Serizawa I**, **Yoshida D**, **Katoh H**, **Kamada T**. Prostate-specific antigen dynamics after neoadjuvant androgen-deprivation therapy and carbon

ion radiotherapy for prostate cancer. PLoS One. 2020 Nov 6; 15(11): e0241636.

3　Takakusagi Y, Yoshida D, Kusano Y, Kano K, Anno W, Tsuchida K, Mizoguchi N, Serizawa I, Katoh H, Imura K, Takayama Y, Minohara S, Kamada T. Dosimetric Comparison Between Carbon-ion Radiotherapy and Photon Radiotherapy for Stage I Esophageal Cancer.In Vivo. 2021 Jan-Feb; 35(1): 447-452.

4　溝口信貴，白井克幸，加納希生，阿武　和，土田圭祐 高草木陽介，芹澤慈子，赤羽佳子，川原正寛，鎌田　正，吉田大作，加藤弘之，頭頸部腺様嚢胞癌に対する放射線治療，頭頸部癌，2021（受理済み）

学会発表

1　高草木陽介，塩澤　学，佐藤純人，菅野伸洋，加納希生，阿武　和，土田圭祐，溝口信貴，芹澤慈子，加藤弘之，鎌田　正，吉田大作：肛門管癌に対する放射線治療成績の検討．第58回癌治療学会学術集会，京都，10/2020

2　高草木陽介：2020年度がん患者支援講座　最新の放射線治療，2020. 9. 18

3　芹澤慈子，加納希生，阿武　和，土田圭祐，高草木陽介，溝口信貴，吉田大作，鎌田　正，加藤 弘之，徳永雅彦，藤田真太朗，比留間　徹：手術不能な原発性骨軟部腫瘍に対する重粒子線治療，第53回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 WEB 2020年９月

4　芹澤慈子，加納希生，阿武　和，土田圭祐，高草木陽介，溝口信貴，吉田大作，鎌田　正，加藤弘之：吸収性スペーサーを挿入し，重粒子線治療を施行した後腹膜肉腫の３例，日本放射線腫瘍学会第33回学術大会　WEB 2020年10月

5　溝口信貴，阿武　和，田　圭祐，高草木陽介，芹澤慈子，古川まどか，久保田　彰，加藤弘之，鎌田　正，吉田大作：頭頸部腺様嚢胞癌に対する放射線治療の遡及的解析．第44回 日本頭頸部癌学会，オンライン開催，7/2020

6　溝口信貴，加納希生，阿武　和，土田圭祐，高草木陽介，芹澤慈子，吉田大作，鎌田　正，加藤弘之：膵癌に対する重粒子線治療の初期経験．日本放射線腫瘍学会学術大会　第33回学術大会，オンライン開催，10/2020

放射線診断・IVR科

発表論文

1　Igaki H, Nakamura S, Kurihara H, Abe Y, Nishioka S, Fujii R, Nakamura M, Nakayama Y, Morita T, Okamoto H, Imahori Y, Itami J. Comparison of ^{18}FBPA uptake with ^{18}FDG uptake in cancer patients. Appl Radiat Isot. 157: 109019, 2020

2　Yamamoto Y, Mitsunaga S, Horikawa A, Hino A, Kurihara H. Quantitative bone scan imaging using BSI and BUV: an approach to evaluate ARONJ early. Ann Nucl Med. 34(1): 74-49.2020

3　Makita S, Maruyama D, Maeshima AM, Taniguchi H, Yuda S, Toyoda K, Yamauchi N, Fukuhara S, Munakata W, Kobayashi Y, Kurihara H, Izutsu K, Tobinai K . A comparison of clinical staging using the Lugano versus Ann Arbor classifications in Japanese patients with Hodgkin lymphoma. Asia Pac J Clin Oncol. 16(3): 108-114, 2020.

4　Miyakita Y, Ohno M, Takahashi M, Kurihara H, Katai H, Narita Y. Usefulness of carbon-11-labeled methionine positron-emission tomography for assessing the treatment response of primary central nervous system lymphoma. Jpn J Clin Oncol. 50(5): 512-518, 2020

著書

1　栗原宏明：放射性薬剤 64Cu-ATSM を用いた悪性脳腫瘍に対する新たな RI 治療法の開発．臨床放射線 65（09）：1009-1015，2020

学会等発表

1　栗原宏明：医学専門医教育セミナー核医学指導者コース 腫瘍核医学（本邦における最新のトピック）．第 20 回日本核医学会春季大会，東京 /WEB 開催，4/2020

2　栗原宏明：核医学専門医教育セミナー PET エキスパートコース．第 20 回日本核医学会春季大会，東京 /WEB 開催，4/2020

3　加納希生，山本弥生，日野彩子，芹澤慈子，比留間徹，栗原宏明：骨軟部腫瘍の重粒子線治療に用いられたスペーサーの CT 所見．日本医学放射線学会秋季臨床大会，WEB 開催，2020

4　山本弥生：珍しい組織型の乳癌の画像診断　病理像と対比させて．横浜乳腺画像診断勉強会，横浜，2020

東洋医学科

その他出版物

1　喩　静，田中耕一郎，板倉英俊：東洋医学各家学説講座第６回：宋・金元時代における中国医学の発展（一）～方書を中心に～　月刊誌「漢方研究．月刊誌「漢方研究」109-112，5/2020

2　喩　静，田中耕一郎，板倉英俊：東洋医学各家学説講座第７回：宋・金元時代における中国医学の発展（二）～本草書を中心に～．月刊誌「漢方研究．月刊誌「漢方研究」245-2449，9/2020

学会等発表

1　板倉英俊：漢方サポートチーム介入によるがん患者 QOLの変化についての検討．第58回日本癌治療学会学術集会，京都，10/2020

2　板倉英俊：第30回漢方治療研究会，会頭指定ディベー

ト表熱表寒の定義．千葉，9/2020

免疫療法科

発表論文

1 Jikuya R, Kishida T, Sakaguchi M, Yokose T, Yasui M, Hashizume A, Tatenuma T, Mizuno N, Muraoka K, Umemoto S, Kawai M, Yoshihara M, Nakamura Y, Miyagi Y, **Sasada T**. Galectin-9 expression as a poor prognostic factor in patients with renal cell carcinoma. Cancer Immunol Immunother. 69(10): 2041-2051, 2020.

2 Suekane S, Yutani S, Yamada A, **Sasada T**, Matsueda S, Takamori S, Toh U, Kawano K, Yoshiyama K, Sakamoto S, Sugawara S, Komatsu N, Yamada T, Naito M, Terasaki M, Mine T, Itoh K, Shichijo S, Noguchi M. Identification of biomarkers for personalized peptide vaccination in 2,588 cancer patients. Int J Oncol. 56(6): 1479-1489, 2020.

3 Ohkuma R, Yada E, Ishikawa S, Komura D, Kubota Y, Hamada K, Horiike A, Ishiguro T, Hirasawa Y, Ariizumi H, Shida M, Watanabe M, Onoue R, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Kobayashi S, Tsunoda T, Wada S. High expression levels of polymeric immunoglobulin receptor correlate with chemoresistance and poor prognosis in pancreatic cancer. Oncol Rep. 44(1): 252-262, 2020.

4 Noguchi G, Nakaigawa N, Umemoto S, Kobayashi K, Shibata Y, Tsutsumi S, Yasui M, Ohtake S, Suzuki T, Osaka K, Muraoka K, Hasumi H, Kondo K, Igarashi Y, **Sasada T**, Kishida T, Yao M. C-reactive protein at 1 month after treatment of nivolumab as a predictive marker of efficacy in advanced renal cell carcinoma. Cancer Chemother Pharmacol. 86(1): 75-85, 2020.

5 Kazama K, Otake J, Shiozawa M, Sugano N, Sato S, Atsumi Y, Kano K, Murakawa M, Maezawa Y, Hashimoto I, Numata M, Satoyoshi T, Oshima T, Yukawa N, Rino Y, Masuda M, **Sasada T**. Distribution of Regulatory T-Cells and Other Phenotypes of T-Cells in Tumors and Regional Lymph Nodes of Colorectal Cancer Patients. In Vivo. 4(2): 849-856, 2020.

6 Uchino Y, Muroya D, Yoshitomi M, Shichijo S, Yamada A, **Sasada T**, Yamada T, Okuda K, Itoh K, Yutani S. Investigation of factors associated with reduced clinical benefits of personalized peptide vaccination for pancreatic cancer. Mol Clin Oncol. 14(2): 39, 2021.

7 Ohkuma R, Yada E, Ishikawa S, Komura D, Kubota Y, Hamada K, Horiike A, Ishiguro T, Hirasawa Y, Ariizumi H, Shida M, Watanabe M, Onoue R, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, **Sasada T**, Aoki T, Murakami M, Norose T, Ohike N, Takimoto M, Kobayashi S, Tsunoda T, Wada S. High levels of human epididymis protein 4 mRNA and protein expression are associated with chemoresistance and a poor prognosis in pancreatic cancer. Int J Oncol. 58(1): 57-69, 2020.

8 Nakahara Y, Matsutani T, Igarashi Y, Matsuo N, **Himuro H**, Saito H, Yamada K, Murotani K, Hoshino T, Azuma K, **Sasada T**. Clinical significance of peripheral TCR and BCR repertoire diversity in EGFR/ALK wild-type NSCLC treated with anti-PD-1 antibody. Cancer Immunol Immunother. 2021, in press.

9 Igarashi Y, **Sasada T**. Cancer Vaccines: Toward the Next Breakthrough in Cancer Immunotherapy. J Immunol Res. Volume 2020; Article ID 5825401, 2020.

10 **Himuro H**, Kurata S, Nagata S, Sumi A, Tsubaki F, Matsuda A, Fujimoto K, Abe T. Imaging features in patients with SAPHO/CRMO: a pictorial review. Jpn J Radiol. 38(7): 622-629, 2020.

その他の出版物

1 **氷室秀知**，**笹田哲朗**．バイオマーカー研究の最前線：腫瘍遺伝子変異量（TMB）とがん免疫応答　腫瘍内科 26(1)：10-17，2020.

学会等発表

1 長谷川香子，紅露　拓，中村有子，上田宏生，五十嵐友香，東島直子，近岡洋子，辰野健二，中村徳弘，川村　猛，油谷浩幸，**笹田哲朗**：がん組織のペプチドミクス解析によるHLA class I 結合ネオアンチゲン同定法の開発．24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

2 五十嵐友香，中原善朗，松尾規和，東　公一，**笹田哲朗**：非小細胞肺がんにおける免疫チェックポイント阻害剤治療前後での末梢血TCR/BCRレパトア解析の有用性．第24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

3 Kouro T, Higashijima N, Tsuji S, Imai K, **Sasada T**: 4-1BB CAR T cells targeting a novel malignant mesothelioma-specific antigen inhibit growth of mesothelioma cells. 第24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

4 影山愼一，宮原慶裕，石原幹也，北野滋久，山本　昇，加藤栄史，三嶋秀行，服部浩佳，舩越　建，小島隆嗣，**笹田哲朗**，岡本幸子，戸村大助，糠谷育衛，蝶野英人，峰野純一，池田裕明，渡辺　隆，珠玖　洋：NY-ESO-1/TCR-T細胞輸注後のサイトカイン放出症候群と輸注細胞の特性解析．第24回日本がん免疫学会総会，札幌，10/2020

5 Hasegawa K, Kouro T, Igarashi Y, Ueda H, Nakamura N, Aburatani H, **Sasada T**: Efficient

identification of HLA-binding neoepitopes through peptidome analysis with clinical tumor tissues. 第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

6　Ohkuma R, Yada E, Ishikawa S, Komura D, Kubota Y, Hamada K, Horiike A, Ando K, Tsurutani J, Yoshimura K, **Sasada T**, Murakami M, Takimoto M, Tsunoda T, Wada S: High expression of human epididymis protein 4 correlates with chemoresistance and poor prognosis for pancreatic cancer. 第79回日本癌学会学術総会, 広島, 10/2020

麻　酔　科

学会等発表

1　谷口英喜，**佐々木俊郎**，竹ノ内正紀，眞野匠智：ERASにおける硬膜外鎮痛の役割について．シンポジウム(7)　再考硬膜外麻酔・鎮痛法－３．日本臨床麻酔学会第40回大会，WEB開催，11/2020

2　**髙野修身**, **藤田久栄**, **佐々木俊郎**, **加治真由**, **大塚明子**：患者情報の共有に関し，集中治療室看護師に望むこと．第31回日本臨床モニター学会総会，東京（オンライン），21-22/11/2020

ＩＣＵ科

学会等発表

1　**髙野修身**，**藤田久栄**，**佐々木俊郎**，**加治真由**，**大塚明子**，：患者情報の共有に関し，集中治療室看護師に望むこと．第31回日本臨床モニター学会総会，東京（オンライン），21-22/11/2020

緩和ケア内科

学会等発表

1　**太田周平**，**田村文彦**：緩和ケア病棟におけるイレウス管留置患者の長期管理についての検討．第25回日本緩和医療学会学術集会，横浜＆web，8/2020

2　馬渡弘典，結束貴臣，鈴木理央，日下部明彦，**太田周平**：神奈川県内で緩和ケア医として働くことを考えている医師へのキャリア情報の集約・提供を目的とした「かながわ緩和ケア医キャリアパス説明会」の活動報告．第25回日本緩和医療学会学術集会，横浜＆web，8/2020

歯科口腔外科

論文発表

1　Niikura N, Nakatukasa K, Amemiya T, Watanabe KI, Hata H, Kikawa Y, Taniike N, Yamanaka T, **Mitsunaga S**, Nakagami K, Adachi M, Kondo N, Shibuya Y, Hayashi N, Naito M, Kashiwabara K, Yamashita T, Umeda M, Mukai H, Ota Y. Oral Care Evaluation to Prevent Oral Mucositis in Estrogen Receptor-Positive Metastatic Breast Cancer Patients Treated with Everolimus (Oral Care-BC): A Randomized Controlled Phase Ⅲ Trial. Oncologist. 25(2): e223-e230, 2020.

2　Yamamoto Y, **Mitsunaga S**, Horikawa A, Hino A, Kurihara H. Quantitative bone scan imaging using BSI and BUV: an approach to evaluate ARONJ early. Ann Nucl Med. 34(1): 74-79, 2020.

3　Nakatsukasa K, Niikura N, Kashiwabara K, Amemiya T, Watanabe KI, Hata H, Kikawa Y, Taniike N, Yamanaka T, **Mitsunaga S**, Nakagami K, Adachi M, Kondo N, Shibuya Y, Hayashi N, Naito M, Yamashita T, Umeda M, Mukai H, Ota Y. Secondary endpoints analysis in patients with estrogen receptor-positive metastatic breast cancer treated with everolimus and exemestane enrolled in Oral Care-BC. BMC Cancer. 7; 21(1): 34, 2021.

4　Katsura K, Soga Y, Zenda S, Nishi H, Soga M, Usubuchi M, **Mitsunaga S**, Tomizuka K, Konishi T, Yatsuoka W, Ueno T, Aragaki T, Hayashi T. A cost-minimization analysis of measures against metallic dental restorations for head and neck radiotherapy. J Radiat Res. 62(2): 374-378, 2021.

5　山隈　優，廣田　誠，**小栗千里**，南山周平，**光永幸代**，光藤健司．ペントキシフィリン，トコフェロール，クロドロネート併用療法(PENTOCLO療法）による放射線性下顎骨壊死の治療経験．日本口腔外科学会雑誌66巻12号 610-615，2020.

著書

1　**光永幸代**：JASCCがん支持医療ガイドシリーズ　がん治療に伴う粘膜障害マネジメントの手引き2020年版：金原出版株式会社，2020．その他出版物

リハビリテーション科

発表論文

1　**渡邉知美**，**結城　士**，**山増正樹**，**松本充寿**，**藤本亜希**，**水落和也**：長期無菌病棟入院後に母親役割獲得を果たした急性骨髄性白血病の１例．OTジャーナル 2020；54(4)：394-397

2　宇高千恵，齋藤和代，大野憲子，田中孝子，有澤歩美，**水落和也**，根津敦夫：片麻痺脳性麻痺児に対する上肢ボツリヌス療法と作業療法併用の効果．総合リハ 2020；48(4)：379-382

3　**水落和也**，**薄井さとみ**，**松本充寿**，**上原立資**，**萩尾裕希恵**，**結城　士**，**渡邉知美**，**須藤奈津子**：周術期のリハビリテーション診療―何を考え何を診て何をするのか―

消化器手術　食道癌，膵臓癌．総合リハ2020；48(5)：431-438

4　**水落和也**：がんのリハビリテーション総論　医師の立場から―神奈川県のがんリハビリテーション―　理学療法―技術と研究―2021；49：27-32

著書

1　**水落和也**，坂本安令：関節リウマチ．伊藤利之，江藤文夫編，新版日常生活活動（ADL）第２版，pp217-234，2020，医歯薬出版

2　**水落和也**，小林　毅：進行がん・末期がん　運動機能低下に対するリハビリテーションの効果．日本がんリハビリテーション研究会編，がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス第２版．pp248-253，2020，金原出版

3　小林　毅，**水落和也**：進行がん・末期がん　疼痛や呼吸困難などに対する患者教育（教育プログラム）の効果．日本がんリハビリテーション研究会編，がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス第２版．pp254-266，2020，金原出版

4　**水落和也**，小林　毅：進行がん・末期がん　倦怠感，疼痛に対する患者教育，物理療法などの効果．日本がんリハビリテーション研究会編，がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス第２版．pp267-274，2020，金原出版

5　小林　毅，**水落和也**：進行がん・末期がん　リハビリテーション専門職を含むチーム医療･アプローチの効果．日本がんリハビリテーション研究会編，がんのリハビリテーション診療ベストプラクティス第２版．pp275-282，2020，金原出版

学会発表

1　**須藤奈津子**，**松本充寿**，**薄井さとみ**，**萩尾裕希恵**，**上原立資**，**結城　士**，**渡邉知美**，**水落和也**：食道癌周術期リハビリテーションにおける言語聴覚療法．第21回日本言語聴覚学会，抄録参加，2020，６月

2　**水落和也**，大曽根有三：頸椎病的骨折に対する装具療法―２症例の報告．第36回日本義肢装具学会学術集会．東京．2020，11月

3　稲田雅也，**水落和也**，中村　健：全身性強皮症患者の屈曲拘縮に対する動的手指装具の効果－シングルケースデザインによる検討．第36回日本義肢装具学会学術集会．東京．2020，11月

4　**渡邉知美**，**結城　士**，**水落和也**：重粒子線治療に伴う機能障害に対する作業療法介入．第９回日本がんリハビリテーション研究会 Web Conference　2021，１月

5　**水落和也**，**薄井さとみ**，**松本充寿**，**上原立資**，**萩尾裕希恵**，**結城　士**，**渡邉知美**，**須藤奈津子**：リハビリテーションセンター開設から３年間の実績報告．第９回日本がんリハビリテーション研究会 Web Conference　2021，１月

6　**水落和也**，**薄井さとみ**，**松本充寿**，**上原立資**，**萩尾裕希恵**，**結城　士**，**渡邉知美**，**須藤奈津子**：造血幹細胞移植後１か月のリハビリテーション治療中止の分析．第９回日本がんリハビリテーション研究会 Web Conference 2021，１月

病理診断科

発表論文

1　Yusuke Nakamura, Akihiro Takemasa, Yoshitomo Kushima, Sayo Soda, Naoya Ikeda, Ryo Arai, Kazuyuki Chibana, Yoshimasa Nakazato, **Tomoyuki Yokose**, Yasuo Shimizu, Seiji Niho：A case of spindle cell dominant histiocytic sarcoma showing a complete remission after first-line chemotherapy with doxorubicin and ifosfamide. J Chemother 32(8): 445-450, 2020

2　**Okubo Y**, Sakai M, Yamazaki H, Sugawara Y, Samejima J, **Yoshioka E**, **Suzuki M**, **Washimi K**, **Kawachi K**, Hayashi H, Ito H, Iwasaki H, **Yokose T**: Histopathological study of carcinoma showing thymus-like differentiation (CASTLE). Malays J Pathol 42(2): 259-265, 2020

3　Yatabe Y, Sunami K, Goto K, Nishio K, Aragane N, Ikeda S, Inoue A, Kinoshita I, Kimura H, Sakamoto T, Satouchi M, Shimizu J, Tsuta K, Toyooka S, Nishino K, Hatanaka Y, Matsumoto S, Mikubo M, **Yokose T**, Dosaka-Akita H: Multiplex gene-panel testing for lung cancer patients. Pathol Int 70(12): 921-931, 2020

4　**Okubo Y**, Nukada S, Shibata Y, Osaka K, **Yoshioka E**, **Suzuki M**, **Washimi K**, **Kawachi K**, Kishida T, **Yokose T**, Miyagi Y: Primary solitary fibrous tumour of the prostate: A case report and literature review. Malays J Pathol 42(3): 449-453, 2020

5　**Masaki Suzuki**, Rika Kasajima, **Tomoyuki Yokose**, Hiroyuki Ito, Eigo Shimizu, Seira Hatakeyama, Kazuaki Yokoyama, Rui Yamaguchi, Yoichi Furukawa, Satoru Miyano, Seiya Imoto, **Emi Yoshioka**, **Kota Washimi**, **Yoichiro Okubo**, **Kae Kawachi**, Shinya Sato, Yohei Miyagi: Comprehensive molecular analysis of genomic profiles and PD-L1 expression in lung adenocarcinoma with a high-grade fetal adenocarcinoma component. Transl Lung Cancer Res Mar; 10(3): 1292-1304, 2021

著書

1　**鷲見公太**，干川晶弘，高木正之：巨細胞の出現する腫瘍の鑑別．腫瘍病理鑑別診断アトラス「骨腫瘍」，小田義直，吉田朗彦編集，文光堂，194-203，2021

その他出版物

1　南　優子，田口健一，**横瀬智之**：CQ-14，肺癌診療ガイドライン2020年版，日本肺癌学会編，金原出版，2021

2　清水淳市，木村英晴，阪本智宏，蔦　幸治，谷田部　恭，荒金尚子，池田貞勝，井上　彰，木下一郎，後藤功一，里内美弥子，角南久仁子，豊岡伸一，西尾和人，西野和美，畑中　豊，松本慎吾，三窪将史，**横瀬智之**，秋田弘俊：肺癌患者における PD-L1 検査の手引き，第2.0版，日本肺癌学会バイオマーカー委員会編，肺癌学会，2020

3　谷田部　恭，後藤功一，松本慎吾，畑中　豊，荒金尚子，池田貞勝，井上　彰，木下一郎，木村英晴，阪本智宏，里内美弥子，清水淳市，角南久仁子，蔦　幸治，豊岡伸一，西尾和人，西野和美，三窪将史，**横瀬智之**，秋田弘俊：肺癌患者におけるMETex14 skipping 検査の手引き，第1.0版，日本肺癌学会バイオマーカー委員会編，肺癌学会，2020

学会等発表

1　**横瀬智之**：NGS検査における細胞診材料の有用性と課題．第59回日本臨床細胞学会秋期大会，横浜，11/2020

遺伝診療科

発表論文

1　**Narimatsu H**, Sakaguchi M, Nakamura S, Katayama K. Future Patient Incidence in Hemato-Oncology: A Study Using Data from Cancer Registries in Japan. Risk management and healthcare policy. 2020; 13: 2407-14. Epub 2020/11/12.

2　Sugawara Y, Murakami M, **Narimatsu H**. Use of Social Media by Hospitals and Clinics in Japan: Descriptive Study. JMIR Med Inform. 2020;8(11):e18666. Epub 2020/11/28.

3　Takeuchi K, Naito M, Kawai S, Tsukamoto M, Kadomatsu Y, Kubo Y, Okada R, Nagayoshi M, Tamura T, Hishida A, Nakatochi M, Sasakabe T, Hashimoto S, Eguchi H, Momozawa Y, Ikezaki H, Murata M, Furusyo N, Tanaka K, Hara M, Nishida Y, Matsuo K, Ito H, Oze I, Mikami H, Nakamura Y, Kusakabe M, Takezaki T, Ibusuki R, Shimoshikiryo I, Suzuki S, Nishiyama T, Watanabe M, Koyama T, Ozaki E, Watanabe I, Kuriki K, Kita Y, Ueshima H, Matsui K, Arisawa K, Uemura H, Katsuura-Kamano S, Nakamura S, **Narimatsu H**, Hamajima N, Tanaka H, Wakai K. Study profile of the Japan Multi-institutional Collaborative Cohort (J-MICC) Study. J Epidemiol. 2020. Epub 2020/09/24.

4　Watanabe K, Katayama K, Yoshioka T, **Narimatsu H**. Impact of individual background on the unmet needs of cancer survivors and caregivers - a mixed-methods analysis. BMC Cancer. 2020; 20(1): 263. Epub 2020/04/02.

5　Yasui M, Sakaguchi M, Jikuya R, Tsutsumi S, Tatenuma T, Noguchi G, Umemoto S, Katayama K, **Narimatsu H**, Uemura H, Kishida T. Comparative effectiveness of surgery and radiotherapy for survival of patients with clinically localized prostate cancer: A population-based coarsened exact matching retrospective cohort study. Oncol Lett. 2020; 20(5): 150. Epub 2020/09/17.

6　Okamura Y, Sugiura T, Ito T, Yamamoto Y, Ashida R, Ohgi K, Sasaki K, **Narimatsu H**, Uesaka K. The prognostic roles of the prognostic nutritional index in patients with intraductal papillary mucinous neoplasm. Sci Rep. 2021; 11(1): 568. Epub 2021/01/14.

7　**Sato A**, **Haneda E**, Suganuma N, **Narimatsu H**. Preliminary Screening for Hereditary Breast and Ovarian Cancer Using a Chatbot Augmented Intelligence Genetic Counselor: Development and Feasibility Study. JMIR Form Res. 2021; 5(2): e25184. Epub 2021/02/06.

その他の出版物

1　**成松宏人**：AIによる遺伝診療支援の現在 -AIに対する失望と期待を含めて-．新医療 2020 Vol. 47 Issue 5 Pages 84-86

学会等発表

1　**羽田恵梨**，**佐藤　杏**，谷島和美，緒方文子，山内桂子，瀬畑善子，山中隆司，清水　哲，**成松宏人**：がん医療の多職種連携における認定遺伝カウンセラー®の役割．第26回日本遺伝性腫瘍学会学術集会，［オンライン開催］，8/2020

2　**佐藤　杏**，**羽田恵梨**，瀬畑善子，菅沼伸康，山下年成，**成松宏人**：当院における遺伝性乳がん卵巣がん症候群の懇話会の取り組み．第28回日本乳癌学会学術総会，［オンライン開催］，10/2020

3　長澤　誠，中村　翔，小熊祐子，齋藤義信，粕川隆士，**成松宏人**：HAL腰タイプを使用した運動プログラムがフレイル状態にある高齢者の運動self efficacyへの与える影響について　日本地域・支援工学・教育合同理学療法学会学術大会2020　2020年11月７日㈯～８日㈰［オンライン開催

4　中村　翔，齋藤義信，**成松宏人**：Quality of life関連指標とME-BYO indexとの関連　第31回日本疫学会学術総会　令和３年１月27-29日（佐賀［オンライン開催］）

5　齋藤義信，小熊祐子，今村晴彦，田島敬之，中村　翔，**成松宏人**　フレイルと住民主体のグループ運動との関連：横断研究　第31回日本疫学会学術総会　令和３年１月27-29日（佐賀［オンライン開催］）

6　市原青葉，小熊祐子，齋藤義信，**成松宏人**，中村　翔，粕川隆士．ヘルスケアロボットHALの運動プログラムが身体活動・身体機能に与える影響について．第79回日本公衆衛生学会総会．一般演題．令和２年10月20日（京都［オンライン開催］）

7　田中琴音，中村　翔，中島　啓，**成松宏人**．低血糖と抑うつ状態の関連第．31回日本疫学会学術総会．オンデマンド口演．令和３年１月27-29日（佐賀［オンライン開催］）

がんゲノム診療科

発表論文

1　Kobayashi N, Takeda Y, Okubo N, Suzuki A, Tokuhisa M, **Hiroshima Y**, Ichikawa Y. Phase Ⅱ study of temozolomide monotherapy in patients with extrapulmonary neuroendocrine carcinoma. Cancer Sci. 2021 Jan 16. IF=4.966

2　Matsuki H, **Hiroshima Y**, Miyake K, Murakami T, Homma Y, Matsuyama R, Morioka D, Kurotaki D, Tamura T, Endo I. Reduction of gender-associated M2-like tumor-associated macrophages in the tumor microenvironment of patients with pancreatic cancer after neoadjuvant chemoradiotherapy. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2021 Feb; 28(2): 174-182. IF=4.16

3　Murata T, Hozumi C, **Hiroshima Y**, Shimoya K, Hongo A, Inubushi S, Tanino H, Hoffman RM. Co-implantation of Tumor and Extensive Surrounding Tissue Improved the Establishment Rate of Surgical Specimens of Human-Patient Cancer in Nude Mice: Toward the Goal of Universal Individualized Cancer Therapy. In Vivo. 2020 Nov-Dec; 34(6): 3241-3245. IF=1.609

4　**Nagashima T**, **Oshima T**, **Hiroshima Y**, **Yokose T**, Woo T, Rino Y, Masuda M, **Miyagi Y**, **Ito H**, **Nakayama H**. Clinical Significance of Tumour CD44v and MIST1 Expression in Patients With Non-small-cell Lung Cancer. Anticancer Res. 2020 Nov; 40(11): 6407-6416. IF=1.99

5　Hashimoto I, Oue N, Kimura Y, **Hiroshima Y**, Hara K, Maezawa Y, **Kano K**, **Fujikawa H**, Aoyama T, Numata M, **Yamada T**, Tamagawa H, **Yamamoto N**, **Ogata T**, **Shiozawa M**, **Morinaga S**, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, **Oshima T**. Clinical Significance of Glioma-associated Oncogene 1 Expression in Patients With Locally Advanced Gastric Cancer Administered Adjuvant Chemotherapy With S-1 After Curative Surgery. Anticancer Res. 2020 Oct; 40(10): 5815-5821. IF=1.99

6　**Oshima T**, Yoshikawa T, **Miyagi Y**, Morita S, Yamamoto M, Tanabe K, Nishikawa K, Ito Y, Matsui T, Kimura Y, **Yokose T**, **Hiroshima Y**, Aoyama T, Hayashi T, Ogata T, Cho H, Rino Y, Masuda M, Tsuburaya A, Sakamoto J. Biomarker analysis to predict the pathological response to neoadjuvant chemotherapy in locally advanced gastric cancer: An exploratory biomarker study of COMPASS, a randomized phase Ⅱ trial. Oncotarget. 2020 Jul 28; 11(30): 2906-2918. IF=3.93

7　Igarashi K, Kawaguchi K, Murakami T, Miyake K, Kiyuna T, Miyake M, **Hiroshima Y**, Higuchi T, Oshiro H, Nelson SD, Dry SM, Li Y, Yamamoto N, Hayashi K, Kimura H, Miwa S, Singh SR, Tsuchiya H, Hoffman RM. Patient-derived orthotopic xenograft models of sarcoma. Cancer Lett. 2020 Jan 28; 469:332-339. IF=6.508

8　Yazawa K, Nakamura F, Masukawa D, Sato S, **Hiroshima Y**, Yabushita Y, Mori R, Matsuyama R, Kato I, Taniguchi H, Goshima Y, Endo I. Low Incidence of High-Grade Pancreatic Intraepithelial Neoplasia Lesions in a Crmp4 Gene-Deficient Mouse Model of Pancreatic Cancer. Transl Oncol. 2020 Mar; 13(3): 100746. IF=3.558

9　**Hiroto Onozawa**, **Haruhiro Saito**, Kuniko Sunami, Takashi Kubo, Noboru Yamamoto, **Rika Kasajima**, **Takashi Ohtsu**, **Yukihiko Hiroshima**, **Heiwa Kanamori**, **Tomoyuki Yokose**, **Yohei Miyagi**. Lung adenocarcinoma in a patient with a cis EGFR L858R-K860I doublet mutation identified using NGS-based profiling test: Negative diagnosis on initial companion test and successful treatment with Osimertinib. Thoracic Cancer. 2020 Dec; 11(12): 3599-3604. IF=2.22

10　**Kano K**, Sakamaki K, Oue N, Kimura Y, Hashimoto I, Hara K, Maezawa Y, Aoyama T, **Fujikawa H**, **Hiroshima Y**, **Yamada T**, Tamagawa H, **Yamamoto N**, **Ogata T**, Cho H, **Ito H**, **Shiozawa M**, Yukawa N, Yoshikawa T, **Morinaga S**, Rino Y, Yasui W, Masuda M, **Miyagi Y**, **Oshima T**. Impact of the ESM-1 Gene Expression on Outcomes in Stage Ⅱ/Ⅲ Gastric Cancer Patients Who Received Adjuvant S-1 Chemotherapy. In Vivo. 2020 Feb; 34(1): 461-467. IF=1.609

11　**Hiroshima Y**, **Kasajima R**, Kimura Y, Komura D, Ishikawa S, Ichikawa Y, Bouvet M, **Yamamoto N**, **Oshima T**, **Morinaga S**, Singh SR, Hoffman RM, Endo I, **Miyagi Y**. Novel targets identified by integrated cancer-stromal interactome analysis of pancreatic adenocarcinoma. Cancer Lett. 2020 Jan 28; 469: 217-227. IF=6.508

その他出版物

1　**廣島幸彦**：がんゲノム医療，Journal of Clinical Rehabilitation Vol.30 No.7 2021

学会発表等

1　**手塚　瞬**，**廣島幸彦**，**高橋寛行**，**小林　智**，**上野　誠**，**酒井リカ**：第18回日本臨床腫瘍学会 Clinical genome sequencing in pancreatic ductal adenocarcinoma．京都（Web開催），2/2021

2　**廣島幸彦**，**笠島理加**，**大津　敬**，**宮城洋平**：NFAT family contributes to early recurrence in pancreatic ductal adenocarcinoma.. 第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

3　**大津　敬**，**笠島理加**，**鷲見公太**，**廣島幸彦**，片山琴絵，清水英悟，山口　類，井元清哉，宮野　悟，河村大輔，石川俊平，**横瀬智之**，**比留間　徹**，**宮城洋平**：肉腫患者由来ゼノグラフトのRNA発現解析．第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

4　**菊地慶司**，**廣島幸彦**，**大島　貴**：Screening of the genes of which expression correlate with poor outcome in stomach cancer using TCGA data. 第79回日本癌学会学術総会，広島，10/2020

5　**内山　護**，**菊地慶司**，**塩澤　学**，**中村圭靖**，**吉原光代**，**宮城洋平**，**横瀬智之**：Correlation between expression of PRSS22 and recurrence after surgical resection of liver metastasis in CRC．第75回日本消化器外科学会総会，和歌山，12/2020

放射線診断技術科

学会等発表

1　**長瀬智明**：UHRコリメータを用いた骨SPECTガイドラインの評価：LEHRコリメータとの比較と撮像時間の検討．第40回日本核医学技術学会学術大会，兵庫，11/2020

放射線治療技術科

学会等発表

1　**吉野慎一**，草野陽介，香取孝夫，**大澤幸夫**，高草木陽介，溝口信貴，芹沢慈子，吉田大作，鎌田　正，加藤弘之：前立腺癌に対する重粒子線治療における計画用CT前処置の有無による線量再現性の検討．日本放射線腫瘍学会第33回学術大会，Web開催，10/2020

2　**鴇矢雄治**，**高橋　友**，**塩入憲二**，**齋藤雄介**，高草木陽介，**大津和義**，**大澤幸夫**　加藤弘之：前立腺癌重粒子線治療における患者セットアップシステムの改善．日本放射線腫瘍学会第33回学術大会，Web開催，10/2020

3　**塚原愛海**，尾池貴洋，草野陽介，吉田大作，蓑原伸一，宮城洋平，加藤弘之，幡多政治：神奈川県立がんセンター・重粒子線治療施設におけるRBE検証のための実験環境整備．塚原愛海，尾池貴洋，草野陽介，吉田大作，蓑原伸一，宮城洋平，加藤弘之，幡多政治，10/2020

栄養管理科

学会等発表

1　**伊藤洋平**，**藤井理恵薫**，原田知彦，平野弘美，市橋麻由美，泉　陽彦，宮崎拓也，立花崇孝，田中正嗣，金森平和：同種造血幹細胞移植中に嚥下機能障害を発症し胃瘻造設が有効であった１例．第43回日本造血細胞移植学会総会，東京都，3/2021

検　査　科

学会等発表

1　**酒井麻衣**，**那須隆二**，**杉﨑加奈**，**澤口芽生**，**岩撫成子**，横瀬智之：神奈川県立がんセンター病理検査室におけるISO15189への取り組み，第61回日本臨床細胞学会春期大会，Webのみ，6/20 ～ 7/19

2　**那須隆二**，宮城洋平，横瀬智之，佐藤慎哉，吉原光代，**酒井麻衣**，**杉﨑加奈**，**北村和久**：セルブロックでの固定・固定後プロセスの違いによるゲノム診療への影響．第61回日本臨床細胞学会春期大会，Webのみ，6/20 ～ 7/19

3　**杉山加奈**，鷲見公太，佐藤慎哉，**酒井麻衣**，**那須隆二**，**澤口芽生**，**岩撫成子**，**北村和久**，**蓮本智美**，吉岡恵美，鈴木理樹，大久保陽一郎，河内香江，横瀬智之：脂肪腫と高分化型脂肪肉腫の細胞診標本による鑑別診断の試み．第59回日本臨床細胞学会秋期大会，パシフィコ横浜&Web，11/21・22 ～ 12/27

薬　剤　科

学会等発表

1　**戸津舞衣子**：がん術後化学療法での副作用について患者自身評価と医療者評価の相違の研究，第28回日本乳癌学会学術総会，Web開催，10/9/2020（ポスター発表）

看　護　局

著書

1　**嘉山雅子**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法易感染状態，貧血，出血傾向，COLUMN，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P87-93，P138，2/2021

2　**末竹亜紀**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法便秘，下痢，口内炎（口腔粘膜炎），やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P94-99，2/2021

3　**簑島文子**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法肝障害，腎障害，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P134-137，2/2021

4　**橋本あや子**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法 悪心・嘔吐，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社 法研，P80-86，2/2021

5　**関　宣明**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法 皮膚障害，肛門周囲の皮膚炎，ざ瘡様皮疹，手足症候群，爪囲炎，皮膚乾燥，創傷治癒遅延・多形紅斑，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P100-109，2/2021

6　**山本香奈恵**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法 むくみ（浮腫），やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P128-133，2/2021

7　**大政智枝**：第２章　がんの薬物療法とがんの種類 胃がん，肺がん，大腸がん，肝臓がん，乳がん，血液のがん，その他のがん，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P44-78，2/2021

8　**坪井　香**：はじめに，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P3および編著，2/2021

9　**塩澤　綾**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法 末梢神経障害，倦怠感，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P116-127，2/2021

10　**勝呂加奈子**：第１章　がんと診断されたら，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P10-30，2/2021

11　**成川明子**：第４章　Q&A　こんなときどうしたらいいの？，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～株式会社　法研，P140-162，2/2021

12　**宮坂文緒**：第３章　抗がん剤の副作用とその対処法 脱毛，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P110-115，2/2021

13　**清水奈緒美**：はじめに，やさしくわかる抗がん剤の副作用とその対処法～いつもと同じ日常を過ごすために～，株式会社　法研，P3および編著，2/2021

14　**渡邊千景**：がんのリハビリテーション看護師の立場から，理学療法-技術と研究-第49号特集　がんのリハビリテーション，公益社団法人　神奈川県理学療法士会，P15，2/2021

15　**塩澤　綾**:夜間に患者が「痛い」と訴える場合のケア，緩和ケア，株式会社　青海社，P209-212，5/2020

16　Satoshi Ikeda，Yuichi Ozawa, Ken Harada, Kazuo Hasegawa, **Naomi Shimizu**, Takako Seki, Yoshinori Hasegawa, and Tetsuya Mitsudomi：Importance of doctor-initiated management of the balance between work and treatment for lung cancer patients: results of a nationwide survey, Cancer Medicine, Web掲載，https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1002/cam4.3307, 9/2020

17　**清水奈緒美**：外来における看護，看護学テキスト NICEがん看護　様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える，南江堂，P240-242，11/2020

18　**谷島和美**：認知症患者が終末期を迎えるときの家族ケア精神看護の視点から，緩和ケア　第30巻　増刊，株式会社　青海社，P121-124，6/2021

学会等発表

1　**米田咲貴**，**佐藤裕子**，**久保田顕子**，Ａ病院における緩和ケア病棟看護師の退院支援に対する思い，第35回日本がん看護学会学術集会，Web開催，2021年２月27日～４月30日

2　薬剤師 戸津舞衣子，**瀬畑善子**，**出井あゆみ**，薬剤師，乳腺外科医師，乳がん術後化学療法での副作用について患者自身評価と医療者評価の相違の研究，第28回乳癌学会学術総会，Web開催，2020年10月９日～31日

第３節　その他の学術講演

テレビ・ラジオ・Web等（メディア）

氏　名	題　　名	メディア名	年　月　日	形　式
〈呼吸器内科〉 加藤晃史	坂本梨沙のヘルシー・メルシー！	ニッポン放送	2020. 11. 1	収録出演
加藤晃史	非小細胞肺がんの最新薬物療法	東京スポーツ新聞社	2021. 2. 2、9. 16	取材
＜婦人科＞ 加藤久盛	名医が教える日本人の病気の最新治療-子宮体癌	週刊朝日	2020. 7. 1	Web取材
〈免疫療法科〉 笹田哲朗	国内初！ iPS細胞を使ったがん治療	テレビ朝日「サタデーステーション」	2020. 10. 24	取材
笹田哲朗	がん免疫療法の現状と展望	Clinical Cloud （クリニカルクラウド）	2020. 12 配信	講演
〈遺伝診療科〉 成松宏人	BS-1スペシャル　私たちのデジタル医療革命2021	NHK-BS-1	2021. 1. 2	取材

講演会等

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
〈呼吸器外科〉 永島琢也	この症例切れる？	第183回日本胸部外科学会．関東甲信越地方会スポンサードセミナー	2020. 7. 16	Web学会
永島琢也	management of surgical margin and air leaks in thoracoscopic segmentectomy	Asia thoracic surgery online forum	2020. 7. 18	Web
伊藤宏之	Management of Locally Advanced Lung Cancer; Sleeve Resections with or without PA Reconstruction	South east Asian thoracic society, school of webinars	2020. 7. 20	Web
伊藤宏之	コロナ後の肺癌手術の展望と拡大手術	エチコン社内向けセミナー	2020. 9. 17	オンライン
伊藤宏之	肺癌区域切除における肺瘻閉鎖の工夫； 区域間切離はステープラーの方が良い	m3 web講演会	2020. 9. 25	オンライン
伊藤宏之	肺がん手術中にできる合併症対策―特にリンパ節郭清面と肺切離面―	第37回日本呼吸器外科学会総会（東京, web開催），ランチョンセミナー	2020. 9. 30	講演、Web
伊藤宏之	外科医の教育をどうしているか？ ～神奈川県立がんセンター編～	第37回日本呼吸器外科学会総会（東京, web開催），ランチョンセミナー	2020. 9. 30	講演、Web
伊藤宏之	複雑区域切除 肺葉切除＋区域切除の場合	第37回日本呼吸器外科学会総会（東京, web開催），ランチョンセミナー	2020. 9. 30	講演、Web

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
伊藤宏之, 中山治彦, 足立広幸, 菊池章友, 江里口大介, 根本大士, 小野沢博登, 三浦　隼	巨大な右上葉肺癌の手術経験	第１回横浜呼吸器外科症例検討会	2020. 12. 15	
伊藤宏之	肺癌手術４	第37回日本呼吸器外科学会総会	2020.　9. 30	講演、Web
永島琢也	外科治療１	第187回日本肺癌学会関東支部学術集会	2020.　7. 25	オンライン
伊藤宏之	肺葉切除術におけるpitfall	第１回神奈川オンライン呼吸器セミナー	2020.　7.　7	オンライン
伊藤宏之	肺癌に対するロボット手術における“Controversies”	第187回日本肺癌学会関東支部学術集会	2020.　7. 25	オンライン
〈腫瘍内科〉 酒井リカ	悪性リンパ腫	日本臨床腫瘍学会　第36回教育セミナーＢセッション	2020.　6.	講演、 Web配信
酒井リカ	リンパ腫②知っておきたい基本的なこと	NPO法人キャンサーネットジャパン　かながわ血液がんフォーラム2020	2020.　6.	講演、 Web配信
酒井リカ	神奈川県がんの取り組み	令和２年度都道府県指導者養成研修（がん化学療法チーム研修企画）および同フォローアップ研修	2021.　1.	講演、 Web配信
酒井リカ	悪性リンパ腫	日本臨床腫瘍学会　第37回教育セミナーＢセッション	2021.　3.	講演、 Web配信
〈消化器内科・消化管〉 町田　望	胃癌２次化学療法以降の治療戦略	サイラムザWeb講演会 in 神奈川（横浜→神奈川）	2020.　8. 24	Web講演
町田　望	胃がん後方治療の実践	エキスパートWebライブセミナー～胃癌に対するオプジーボ～（横浜→神奈川）	2020. 10. 16	Web講演
町田　望	胃癌薬物療法の新たな治療戦略	Gastric Cancer Expert Seminar（横浜→岡山）	2020. 11. 11	Web講演
町田　望	消化器ケモ屋のキャリアパス ～いまさら注腸検査かよ～	Tokyo GI Oncology Seminar（東京）	2020. 11. 27	Web講演
町田　望	胃がん薬物療法～後方ラインでの実践～	Taiho Web Lecture on Gastric Cancer（横浜→全国）	2020. 12.　8	Web講演

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
町田　望	消化管進行がん患者さんの治療2020年版 ～当科紹介も兼ねて～	消化器疾患WEB講演 （旭区）	2020. 12. 18	Web講演
井口靖弘	早期消化管がん内視鏡治療、過去・現在とこれから	消化器疾患WEB講演 （旭区）	2020. 12. 18	Web講演
町田　望	HER2陽性切除不能進行・再発胃癌 3rd-lineの治療戦略	Gastric Cancer Forum 2020（東京→全国）	2020. 12. 19	Web講演
町田　望	HER2陽性胃癌薬物療法 ～新たなエビデンスとマネジメント～	Gastric Cancer Web Seminar（横浜→全国）	2021.　1. 25	Web講演
町田　望	HER2陽性胃癌 ～新たな治療戦略とマネジメント～	Oncology Total Care Web Seminar（横浜→久留米）	2021.　3. 25	Web講演
〈消化器外科・胃食道〉 尾形高士	変わる食道癌薬物治療！ ～ニボルマブの登場～	オプチーボWEBライブセミナー	2020.　4. 28	Web講演
尾形高士	変わる食道癌薬物治療！ ～ニボルマブ投与の実際～	オプジーボWEBライブセミナー　～食道癌～	2020.　7.　3	Webセミナー
尾形高士	切除不能進行・再発食道癌におけるオプジーボ投与における奏効期間の特徴	m3 食道癌動画シリーズ5	2020.　7. 21	Web動画
山田貴允	胃癌2nd lineにおけるアブラキサンの位置付け	TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer	2020.　8.　7	Web講演
尾形高士	国際共同第Ⅲ相臨床試験ATTRACTION-3にみる有効性と安全性について	日本における食道がんの最新免疫療法	2020.　8. 21	座談会
大島　貴	胃癌化学療法の新展開	Lilly GC Web Conference（座長）	2020.　8. 24	研究会
尾形高士	食道癌に対するオプジーボ ～実際の投与例、irAE対策含め～	エキスパート Webライブセミナー	2020.　8. 25	Webセミナー
尾形高士	食道癌に対するオプジーボについて ～実際の投与例、irAE対策含め～	オプジーボ　ワンポイントレクチャ―in多摩　～食道癌～	2020.　9.　4	Web講演会
尾形高士	私がニボルマブを食道癌２次治療で使用する理由	オプジーボWEBライブセミナー	2020.　9. 23	Web講演会
神尾一樹	胃癌術後の体重および筋肉減少への対策と課題	京浜外科栄養セミナー（座長）	2020.　9. 24	Web研究会
神尾一樹	進行・再発胃癌における治療について	外科治療学　web seminar	2020. 10.　8	Webセミナー
大島　貴	胃癌の診断と治療	横浜市立大学医学部　講義	2020. 10. 16	Web講義
尾形高士	（アドバイザリーボード）	MSD JCAP Regional Esophageal Expert Input Forum	2020. 10. 25	Web Forum
髙橋恒輔	胸腔鏡下縦隔リンパ節生検が有用であった孤立性縦隔リンパ節腫大の一例	食道疾患研究会	2020. 11. 20	Web研究会

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
尾形高士	私がニボルマブを食道癌２次治療で使用する理由	Gastrointestinal cancer I-O Seminar in Kawasaki	2020. 11. 25	Web講演
尾形高士	食道がんに対するニボルマブ治療の実際について	西湘食道癌Webセミナー	2020. 12.　1	Web講演
山田貴允	令和時代の腹腔鏡胃癌手術	TAIHO Web Lecture on Gastric Cancer	2020. 12.　9	Web講演
尾形高士	ATTRACTION試験 長期フォローアップを含む食道癌ニボルマブ治療の今後の展望	食道癌講演会 in 広島	2021.　1. 28	Web講演会
尾形高士	動脈ステントグラフトを留置して治療を行った食道癌	第48回食道癌集学的治療検討会（司会）	2021.　2. 12	Web研究会
尾形高士	当施設での食道癌に対するNivolumab治療成績	オプジーボWEBライブセミナー　～食道がん承認から１年を迎えて～	2021.　2. 24	Webセミナー
大島　貴	胃癌研究における新しい取り組み	北陸がん化学療法WEBカンファランス ～胃癌2021～	2021.　2. 26	Web研究会
神尾一樹	当施設での胃癌に対するNivolumab治療成績	GI Cancer WEB Meeting	2021.　3. 18	Web講演
〈消化器外科・大腸〉 塩澤　学	大腸がん個別化治療の変遷“これまで”と“これから”	Erbitux CRC Expert Webinar	2020.　6. 22	講演
塩澤　学	特別講演：神奈川県立がんセンターにおける大腸癌薬物療法の実際	九州CRC Surgical Oncologist Seminar	2020.　7. 10	講演
塩澤　学	【教育講演２】「大腸癌　肝転移治療の今後」 【Discussion】「ニューノーマル時代　大腸癌治療の現場」	第８回 神奈川CRC Conference	2020.　7. 17	講演
塩澤　学	特別講演：大腸癌薬物療法2nd lineの実際	CRC Surgical Oncologist WEB Seminar	2020.　8.　8	Webセミナー
塩澤　学	【特別講演】「エビデンスベースの進行再発大腸癌の分子標的治療」	埼玉西北部大腸癌Web講演会	2020.　8. 21	Web講演
塩澤　学	【特別講演】大腸外科医の使命とは？	下部消化管外科Web講演会	2020.　9. 30	Web講演
塩澤　学	大腸癌における手術と化学療法	CRC Interactive Web Seminar in Himeji	2020. 10.　2	Web講演
塩澤　学	「Total Trea t ment Sequence for CRC」 ～治療全体を見据えた二次治療の薬剤選択～	CRC 全国講演会	2020. 10. 15	講演
塩澤　学	【特別講演】「がんゲノム時代の進行再発大腸癌薬物療法」	第9回 Colorectal Cancer Seminar	2020. 11. 16	講演
塩澤　学	抗GFR抗体薬の位置付け ～新発売から12年を経て迎える、新たな展開～	ERBITUX MASTERCLASS WEB Seminar	2020. 11. 19	Webセミナー
塩澤　学	大腸癌に対する血管新生阻害薬の使い分け	東葛大腸がん最新治療講演会	2020. 11. 25	講演

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
塩澤　学	進行再発大腸癌の化学療法・大腸癌に対する腹腔鏡下手術	神奈川CRC Conference	2020. 11. 27	講演
塩澤　学	Total Treatment Sequence for CRC ～手術から薬物療法まで～	第75回日本消化器外科学会総会　ランチョンセミナー 14	2020. 12. 16	講演
塩澤　学	進行再発大腸癌に対する手術へ向けた治療戦略	Tokai Young Doctors Summit for CRC	2020. 12. 19	講演
塩澤　学	大腸癌における治療展望 ～手術と薬物療法最新の話題～	第94回大腸癌研究会セミナー	2021.　1. 22	講演
塩澤　学	大腸癌肝転移に対する周術期治療戦略	Colorectal Cancer Web Seminaar	2021.　2. 15	Webセミナー
塩澤　学	【特別講演】「大腸がんの治療展望について ～新規薬物治療と遺伝子検査～」	ビラフトビ・メクトビ承認追加　WEBセミナー	2021.　3.　1	Webセミナー
塩澤　学	技術認定医取得～指導的立場から～	神奈川大腸疾患腹腔鏡下手術セミナー 第21回学術集会	2021.　3. 19	講演
塩澤　学	大腸癌の治療展望について～新規薬物治療と遺伝子検査～	Colorectal Cancer Web ライブセミナー in Ota	2021.　3. 19	講演
塩澤　学	「大腸がん治療の現状と今後」 ～抗EGFR抗体薬の役割を踏まえて～	Colorectal Cancer Web Seminar	2021.　3. 26	講演
〈乳腺内分泌外科〉 岩崎博幸	経験とエビデンスに裏打ちされた肺転移DTCの治療戦略	LENVIMA甲状腺癌Webセミナー	2020.　6. 26	Webセミナー
岩崎博幸	甲状腺がんにおける分子標的薬の最適な導入タイミングと治療成績	いわて甲状腺癌を考える会	2020.　7.　2	Web 講演
岩崎博幸	Identify initiation timing of lenvatinib to maximize the benefit for DTC	Asia Web seminar	2020.　9. 16	Webセミナー
岩崎博幸	進行甲状腺癌手術の将来展望―手術と化学療法　optimal treatmentを考えて―	第32回日本内分泌外科学会総会ランチョンセミナー	2020.　9. 18	Web配信
岩崎博幸	実臨床の経験から導き出されたDTCのTKI導入判断	TOYOAKE甲状腺WEBセミナー	2020. 10.　1	Webセミナー
岩崎博幸	甲状腺癌肺転移に対する薬物療法導入タイミングについて	甲状腺WEBセミナー	2020. 11.　6	Webセミナー
岩崎博幸	放射性ヨウ素不応性甲状腺分化癌に対する分子標的薬治療の実際	第63回日本甲状腺学会学術集会シンポジウム	2020. 11. 19	Web
岩崎博幸	進行甲状腺癌の縦隔リンパ節転移に対する治療方針と成績	第53回日本内分泌外科学会学術大会シンポジウム司会、発表	2020. 11. 26	Web
岩崎博幸	進行甲状腺癌の腫瘍量と評価病変からTKIの開始時期	第53回日本内分泌外科学会学術大会シンポジウム	2020. 11. 27	Web
岩崎博幸	甲状腺がんにおける分子標的薬の最適な導入タイミングと治療成績	Thyroid Cancer Experts Meeting in Kanagawa	2020. 12.　2	Web

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
岩崎博幸	甲状腺分化癌肺転移のlenvatinib導入タイミングと治療成績	甲状腺がんセミナー（宮城）	2021. 2. 15	Webセミナー
岩崎博幸	実臨床の経験から導き出されたDTCの治療戦略	LENVIMA Meet The EXPERT（浜松）	2021. 2. 25	Web
岩崎博幸	甲状腺分化癌肺転移症例におけるlenvatinib開始時期と治療成績	Lenvatinib users Meeting（南大阪）	2021. 3. 2	Web
岩崎博幸	実臨床の経験から導き出された肺転移DTCの治療戦略	甲状腺癌Webセミナー（東京）	2021. 3. 24	Webセミナー
〈泌尿器科〉鈴木孝尚	下部尿路症状（LUTS）の診断・治療　up to date	旭区医師会講演会，横浜	2020. 11.	講演会
〈放射線診断・IVR科〉栗原宏明	正当化とリスク、放射線障害への対応	医療放射線安全管理責任者講習会	2020. 12. 20	講演
〈東洋医学科〉板倉英俊	感染症と漢方	溝口KAMPO勉強会	2020. 10. 27	講義
板倉英俊	がんサポートチームとQOL	積雪会	2020. 11. 27	講義
板倉英俊	心不全と漢方	実線東洋医学講座	2021. 3. 28	講義
〈免疫療法科〉笹田哲朗	がん免疫療法update ―基礎・TRの観点から―	乳癌メディカルセミナー横浜（WEB）	2021. 3. 3	講演
〈歯科口腔外科〉光永幸代	Life-longな口腔サポートを考える～歯性感染リスクへの対応～	鎌倉市歯科医師会主催鎌倉乳腺・歯科連携会	2021. 1.	講演
光永幸代	がん治療と周術期口腔機能管理　主に放射線治療や薬物療法について	横浜市歯科医師会市民公開講座	2021. 1.	講演
〈リハビリテーション科〉水落和也	規定講習会（感染対策）講演　医療現場における感染対策の基本	第57回日本リハビリテーション医学会学術集会（京都）	2020. 8.	講演
水落和也	がんリハビリテーションRemote Lecture. 基礎知識から病態別リハビリテーションの実際	神奈川県立保健福祉大学2020年度がん患者支援講座	2020. 12.	講義
須藤奈津子	周手術期の摂食嚥下リハビリテーション. 基礎知識から病態別リハビリテーションの実際	神奈川県立保健福祉大学令和２年度がん患者支援講座	2020. 12.	講義
結城　士	がんリハビリテーション―基礎知識から病期別リハビリの実際―. 基礎知識から病態別リハビリテーションの実際	神奈川県立保健福祉大学令和２年度がん患者支援講座	2020. 12.	講義
水落和也	がんリハビリテーションの概要	令和２年度神奈川がんリハビリテーション研究会（オンライン開催）	2021. 2. 27	講義
水落和也	化学療法、放射線療法の合併症とリスク管理	令和２年度神奈川がんリハビリテーション研究会（オンライン開催）	2021. 2. 27	講義

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
遠原まりえ	周術期リハビリテーション―乳がん、頭頸部がん―	令和２年度神奈川がんリハビリテーション研究会（オンライン開催）	2021. 2. 27	講義
岩崎知美	ADL･IADL障害に対するリハビリテーション	令和２年度神奈川がんリハビリテーション研究会（オンライン開催）	2021. 2. 27	講義
須藤奈津子	がん患者の摂食嚥下障害、コミュニケーション障害	令和２年度神奈川がんリハビリテーション研究会（オンライン開催）	2021. 2. 28	講義
須藤奈津子	口腔ケア	令和２年度神奈川がんリハビリテーション研究会（オンライン開催）	2021. 2. 28	講義
松本充寿	当院における造血幹細胞移植患者のリハビリテーション治療	第２回南関東移植推進拠点病院セミナー（Web会議）	2021. 3. 14	会議
〈遺伝診療科〉成松宏人	シリーズ　統計学講義	日本海総合病院　山形県酒田市	2020. 8. 31、9. 16、10. 14、11. 16、12. 16	講義
〈がんゲノム診療科〉廣島幸彦	がんゲノム医療の現状と課題	がん診療連携拠点病院等意見交換会	2021. 3. 4	講演
廣島幸彦	膵癌間質プロテオミクスデータを用いた統合インタラクトーム解析	マルチオミックスによる遺伝子発現制御の先端的医学共同研究拠点研究報告会	2020. 11. 27	講演
廣島幸彦	膵癌間質プロテオミクスデータを用いた統合インタラクトーム解析	患者由来がんモデル講演会	2020. 10. 29	講演
廣島幸彦	がんゲノム医療の現状と課題	横浜市立大学医学部附属病院キャンサーボード	2020. 7. 2	講演
〈栄養管理科〉藤井理恵薫	がん予防の食生活、がん治療中の食生活の工夫	令和２年度がん患者支援講座	2020. 12.	講義
〈患者医療対話推進室〉平田京子	医療メディエーションとは	山形県病院事業局新規採用職員研修. オンライン（ZOOM）	2020. 10.	講義
〈看護局〉シュワルツ史子	がん医療の動向と最新のがん治療 最新の放射線療法の看護	2020年度がん患者支援講座（神奈川県立保健福祉大学実践教育センター）	2020. 9. 19	Web講義
シュワルツ史子	放射線治療とその看護	がん看護学特論Ⅲ（横浜市立大学大学院医学研究科）	2020. 11. 5	Web講義
シュワルツ史子	コンサルテーションと組織の課題	コンサルテーション論（東京慈恵会医科大学大学院）	2020. 12. 4	Web講義

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
シュワルツ史子	がん看護の魅力を語る	ナーシング･サイエンス･カフェ（第35回日本がん看護学会学術集会）	2020.　2. 27	事前収録
出井あゆみ	女性生殖器機能障害を持つ人の看護	成人看護学方法論Ⅳ（神奈川県立衛生看護専門学校）	2020. 11. 24	講義
浅野あさみ	病と共に生きる人々が最期までありのままに生きる支援～ ACPについて知ろう～	ACPについて（緩和ケアリンクナース会議）	2020. 10. 13	講義
関　宣明	ストーマを造設する患者の看護	成人看護学Ⅱ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	2020.　9. 15	講義
大政智枝	造血幹細胞移植を受ける患者の看護	がん看護学特講Ⅲ（横浜市立大学大学院）	2020. 12.　7	Web講義
大高良子	慢性期にある対象の看護　がんとともに生きる人の看護	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	2021.　1. 13	Web講義
瀬畑善子	乳がん手術を受ける患者さんへの支援 ～看護師の立場から～	共催セミナー（第28回日本乳癌学会学術総会）	2020. 10.　9～ 10. 31配信	Web講義
末竹亜紀	化学療法を受けている人の看護	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	2021.　1. 14	Web講義
坪井　香	がん看護援助論	がん看護学特講Ⅲ（横浜市立大学大学院）	2020.　6.　4	Web講義
坪井　香	がん化学療法を受ける患者の症状マネジメントと安全な薬物の管理	臨床薬理（北里大学大学院看護学研究科）	2020.　6. 13	Web講義
坪井　香	外来で治療を受けている人の看護	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	2021.　1. 18	Web講義
田中　妙	・病院・病棟の特徴と設備 ・病院の機能と役割 ・入院患者の状況　　・職員組織	看護臨地実習（神奈川県立二俣川看護福祉高等学校）	2020. 10. 22	講演
塩澤　綾	看護倫理	看護のための倫理学（神奈川県立よこはま看護専門学校）	2020.　9. 10 2020.　9. 30 2020. 10.　8	講義・演習
塩澤　綾	看護倫理	医療・看護倫理（神奈川県立平塚看護大学校）	2020. 11. 20 2020. 11. 25 2020. 12.　4	講義・演習
塩澤　綾	大腸がんの薬物療法を受ける患者の症状マネジメントと療養過程の支援	がん看護学特講Ⅴ（横浜市立大学大学院医学研究科看護学専攻博士前期課程）	2020. 11. 19	Web講義

氏　名	題　　名	会　合　名	年　月　日	形　式
平澤真弓	ストーマを造設する患者の看護	成人看護学Ⅱ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	2020. 9. 15	講義
清水奈緒美	看護倫理	医療・看護倫理（神奈川県立平塚看護大学校）	2020. 10. 8、 2020. 10. 12、 2020. 10. 13	講義・演習
齊木由紀子	看護管理	（神奈川県歯科大学短期大学部）	2020. 10. 22 2020. 11. 19	講義
山内桂子	療養場所の選択と地域連携（グループワーク）	緩和ケア研修会（神奈川県立がんセンター）	2020. 10. 4	講義・ グループワーク
山内桂子	慢性期にある患者の看護⑮ がんとともに生きる人の看護⑤	健康段階別看護論Ⅱ（神奈川県立平塚看護大学校）	2021. 1. 19	Web講義
得　みさえ 村田　美梨	移植後就労について	南関東移植推進拠点病院セミナー（造血幹細胞移植推進地域拠点病院）	2020. 12. 6	Web講義
得　みさえ	新型コロナ時代の相談支援	がん相談員のための研修会（日本がん相談研究会）	2020. 9. 5	Web講義
谷島和美	がん看護理論 ―がん患者および家族の精神的看護―	がん看護学特講Ⅰ（横浜市立大学大学院）	2020. 7. 14	Web講義
谷島和美	ストレスマネジメント	新人看護師研修（神奈川県立循環器呼吸器病センター）	2020. 9. 28	Web講義
谷島和美	大人の発達障害 ―共に働く私たちにできること―	３支部合同研修（神奈川県看護協会）	2020. 10. 5	講義
谷島和美	サイコオンコロジー領域におけるコンサルテーション活動	看護コンサルテーション論（横浜市立大学大学院）	2020. 10. 26	Web講義
山口里枝	・がん患者等へ支援 ・コミュニケーションのロールプレイ ・療養場所の選択と地域連携グループワーク	緩和ケア研修（神奈川県立がんセンター）	2020. 10. 4	講義 ファシリテーター
佐藤裕子	成人期の健康問題と看護の専門性について（がん看護の視点）	成人看護（急性期）Ⅰ（神奈川県立保健福祉大学）	2020. 11. 19	Web講義
舛田佳子	ストーマケア	成人看護学Ⅱ（神奈川県立よこはま看護専門学校）	2020. 9. 15	演習
舛田佳子	がん治療の今と緩和ケア病棟について	横浜市在宅医療連携拠点事業講義（横浜市泉区医師会）	2020. 11. 12	Web講義

第４節　公的研究費による研究一覧

１　厚生労働省・文部科学省・日本医療研究開発機構

研　究　費　名：AMED革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：進行肺癌の血漿遊離DNAを利用したマルチ遺伝子解析法に基づく個別化医療の確立を目指した研究
主任研究者名(所属)：野崎　要（国立がん研究センター東病院）
分　担　課　題　名：医師主導治験・付随研究の実施
分担研究者名(所属)：加藤晃史（呼吸器内科）

研　究　費　名：AMED革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対する標準治療開発に関する研究
主任研究者名(所属)：岡本　勇（九州大学病院）
分　担　課　題　名：「特発性肺線維症合併進行非小細胞肺癌に対するカルボプラチン＋nab-パクリタキセル＋ニンテダニブ療法とカルボプラチン＋nab-パクリタキセル療法のランダム化比較試験」の実施
分担研究者名(所属)：加藤晃史（呼吸器内科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）
課　　題　　名：肺癌における化学放射線療法の免疫チェックポイント療法効果増強メカニズムの解明
主任研究者名(所属)：中原喜朗（呼吸器内科）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：高悪性度神経内分泌肺癌切除例に対する術後補助化学療法の標準治療確立
研　究　代　表　者：淺村尚生
分担研究者名(所属)：伊藤宏之（呼吸器外科）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：非浸潤または小型非小細胞肺がんに対する機能温存手術の確立に関する研究
研　究　代　表　者：渡辺俊一
分担研究者名(所属)：伊藤宏之（呼吸器外科）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験
主任研究者名(所属)：寺島雅典（静岡県立静岡がんセンター胃外科）
分　担　課　題　名：局所進行胃癌に対する術前化学療法の有効性を検証する臨床第Ⅲ相試験
分担研究者名(所属)：町田　望（神奈川県立がんセンター消化器内科消化管）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究
主任研究者名(所属)：森實千種（国立がん研究センター中央病院肝胆膵内科）
分　担　課　題　名：消化器神経内分泌癌に対する標準治療の確立に関する研究
分担研究者名(所属)：町田　望（神奈川県立がんセンター消化器内科消化管）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
主任研究者名(所属)：金光幸秀（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：臨床研究・治験推進研究事業
課　　題　　名：産学連携全国がんゲノムスクリーニング（SCRUM-Japan）患者レジストリを活用した HER2陽性の切除不能または再発胆道癌に対する医師主導治験
主任研究者名(所属)：森実千種（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：HER2発現胆道癌患者の抽出、医師主導治験の体制整備・実施、ヒストリカルデータの作成
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：革新的がんバイオマーカーラミニンγ2単鎖測定による高悪性度膵がん診断の実用化研究
主任研究者名(所属)：山下太郎（金沢大学）
分　担　課　題　名：血清ラミニンγ2単鎖を用いた高悪性度膵がん診断法の確立
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：急速進行性がん患者・家族と医師の共感的コミュニケーション促進のための統合支援プログラムの有効性を検証する無作為化比較試験
主任研究者名(所属)：藤森麻衣子（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：急速進行性がん患者・家族と医師の共感的コミュニケーション促進のための統合支援プログラムの有用性を検証する無作為化比較試験：フォローアップ研究（データ集積およびデータ分析によりプログラムの有効性を検討、論文作成）
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：臨床研究・治験推進研究事業
課　　題　　名：SCRUM-Japanの基盤を活用した血液循環腫瘍DNAゲノムスクリーニングに基づくBRCA変異を有する胆道がんに対する医師主導治験
主任研究者名(所属)：川本泰之（北海道大学）
分　担　課　題　名：医師主導治験の計画・立案・実施
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：次世代がん医療創生研究事業
課　　題　　名：Liquid biopsyによる腫瘍特異的蛋白質分解断片をバイオマーカーとした早期膵癌診断法の開発
主任研究者名(所属)：越川直彦（東京工業大学）
分　担　課　題　名：EphA2遊離断片のPDAC早期診断バイオマーカーとしての臨床的有用性の確認
分担研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：文部科学省科学研究費助成事業　基盤（C）
課　　題　　名：人工知能技術を用いた内視鏡外科手術における止血支援システムの開発
主任研究者（所属）：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：局所進行食道癌に対して治療の有効性向上を目指した新しい術前治療を確立する研究
主任研究者（所属）：加藤　健（国立がんセンター）
分 担 研 究 者 名：尾形高士（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：病理学的StageⅡ/Ⅲでvulnerableな80歳以上の高齢者胃癌に対する開始減量したS-1術後補助化学療法に関するランダム化比較第Ⅲ相試験
主任研究者（所属）：吉田和弘先生（岐阜大学）
分 担 研 究 者 名：山田貴允（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：進行胃癌を対象とした大網切除に対する大網温存の非劣性を検証するランダム化比較第Ⅲ相試験
主任研究者（所属）：吉川貴己（国立がんセンター）
分 担 研 究 者 名：山田貴允（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
主任研究者名(所属)：金光幸秀（国立がん研究センター）
分　担　課　題　名：小腸腺癌に対する標準治療の確立に関する研究
分担研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：化学療法にて消失した大腸癌肝転移病変のDW-MRIを用いた術前診断能の妥当性に関する研究
主任研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）
分　担　課　題　名：日本側の研究の統括と被験者の安全性の確保
分担研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：StageⅡ大腸癌に対する術後補助化学療法の有用性に関する研究
主任研究者名(所属)：上野秀樹（防衛医科大学校）
分　担　課　題　名：患者登録・治療・評価
分担研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：直腸癌局所再発に対する標準治療確立のための研究開発
主任研究者名(所属)：伊藤雅昭（国立がん建久センター東病院）
分　担　課　題　名：症例登録
分担研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：AMED　革新的がん医療実用化研究事業
課　　題　　名：Borderline resectable膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究
分　担　研　究　者：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））

研　究　費　名：厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
課　　題　　名：初発肝細胞癌に対する肝切除とラジオ波焼灼療法の有効性に関する多施設共同研究（SURF trial）
研究代表者（所属）：國土典宏（東京大学肝胆膵外科）
分担研究者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
課　　題　　名：H22-がん臨床「膵がん切除例に対する補助療法の向上を目指した多施設共同研究」 JSAP-04「膵がん切除患者を対象としたゲムシタビンとS-1の併用療法（GS療法）をゲムシタビン単独療法と比較する術後補助化学療法のランダム化第 Ⅲ相試験」JSAP-04
研究代表者（所属）：小菅智男（国立がん研究センター中央病院）
研究分担者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：厚生労働省厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業
課　　題　　名：「膵癌術前化学療法としてのGemcitabine＋S-1 療法（GS療法）の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験（Prep-02/JSAP-05）」
研究代表者（所属）：海野倫明（東北大学　消化器外科）
研究分担者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究（S）
課　　題　　名：括的統合的アプローチによる日本人早期膵癌の高精度診断の具現化、膵臓癌の診療向上のための分子遺伝学的および分子疫学的研究
研究代表者（所属）：森　正樹（大阪大学消化器外科）
分担研究者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：平成27年度日本医療研究開発機構研究費AMED（革新的がん医療実用化研究事業）
課　　題　　名：「Borderline resectable膵癌の集学的治療法確立に関する多施設共同研究」「Borderline Resectable 膵癌を対象とした術前ゲムシタビン+ナブパクリタキセル療法と術前S-1併用放射線療法のランダム化比較試験、AMED　GABARNANCE Trial」
研究代表者（所属）：高橋進一郎（国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科）
分担研究者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））

研　究　費　名：革新的医療シーズ実用化研究事業
課　　題　　名：日本発放射性薬剤64Cu-ATSMを用いた悪性脳腫瘍に対する革新的治療法の開発研究
研究代表者（所属）：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分　担　課　題　名：治験の実施
分担研究者（所属）：佐藤秀光（脳神経外科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　感染症実用化研究事業
課　　題　　名：新興・再興感染症に対する革新的医薬品等開発推進研究事業
主任研究者（所属）：松本光司（昭和大学 産婦人科）
分　担　課　題　名：思春期女性へのHPVワクチン公費助成開始後における子宮頸癌のHPV16/18陽性割合の推移に関する疫学研究（第Ⅱ期；2019年4月-2026年12月）Study for Monitoring the Impact of a National HPV vaccination program in Japan: MINT study Ⅱ
分　担　研　究　者：加藤久盛　小野瀬亮　近内勝幸　北川雅一　若林玲南　祐森明日菜　上野悠太

研　究　費　名：日本医療研究開発機構
課　　題　　名：革新的がん医療実用化研究事業
主任研究者（所属）：渡利英道（北海道大学病院婦人科）
分　担　課　題　名：シスプラチンを含む化学療法を施行される子宮がん患者の嘔気・嘔吐に対する六君子湯の効果
―プラセボ対照無作為化二重盲検比較検証試験
分　担　研　究　者：加藤久盛　小野瀬亮　近内勝幸　北川雅一　若林玲南　祐森明日菜　上野悠太

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代がん医療創生研究事業
課　　題　　名：研究領域Ｄ・患者に優しい高感度・高精度ながん診断法の研究（ア）
主任研究者（所属）：寺尾泰久（順天堂大学産婦人科）
分　担　課　題　名：子宮体がんリンパ節転移予測診断マ－カ－を用いた術中迅速検査技術の開発　～がんと向き合う女性に優しい個別化医療を目指して～
分　担　研　究　者：加藤久盛　上野悠太

研　究　費　名：AMED　令和２年度革新的がん医療実用化研究事業　領域３
課　　題　　名：難治性悪性脳腫瘍に対する日本発放射性薬剤64Cu-ATSMによる新治療法開発－早期承認を目指す第Ⅰ相拡大コホート試験の実施
主任研究者（所属）：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分　担　課　題　名：総括
分担研究者（所属）：栗原宏明（放射線診断・IVR科）

研　究　費　名：AMED　令和２年度革新的がん医療実用化研究事業　領域３
課　　題　　名：難治性悪性脳腫瘍に対する日本発放射性薬剤64Cu-ATSMによる新治療法開発－早期承認を目指す第Ⅰ相拡大コホート試験の実施
主任研究者（所属）：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分　担　課　題　名：治験の実施
分担研究者（所属）：山本弥生（放射線診断・IVR科）

研　究　費　名：AMED　令和２年度革新的がん医療実用化研究事業　領域３
課　　題　　名：難治性悪性脳腫瘍に対する日本発放射性薬剤64Cu-ATSMによる新治療法開発－早期承認を目指す第Ⅰ相拡大コホート試験の実施
主任研究者（所属）：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分　担　課　題　名：治験の実施
分担研究者（所属）：日野彩子（放射線診断・IVR科）

研　究　費　名：AMED　令和２年度革新的がん医療実用化研究事業　領域３
課　　題　　名：難治性悪性脳腫瘍に対する日本発放射性薬剤64Cu-ATSMによる新治療法開発－早期承認を目指す第Ⅰ相拡大コホート試験の実施
主任研究者（所属）：栗原宏明（放射線診断・IVR科）
分　担　課　題　名：治験の実施
分担研究者（所属）：小嶋大地（放射線診断・IVR科）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究（B）
課　　題　　名：IL-22BP依存性制御性Ｂ細胞がアブスコパル効果に及ぼす影響の検討（平成28－令和２年度）
主任研究者名(所属)：氷室秀知（免疫療法科）

研　究　費　名：文部科学省科学研究費補助金・若手研究
課　　題　　名：放射線誘発HIF依存microbiome変化による転移抑制とabscopal効果（令和２年－令和４年度）
主任研究者名(所属)：氷室秀知（免疫療法科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構　次世代治療・診断実現のための創薬基盤技術開発事業
課　　題　　名：アミノ酸プロファイルによるがん免疫微小環境の代謝リプログラミング評価とがん免疫治療患者層別化技術の開発（令和元年－令和５年度）
主任研究者名(所属)：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：日本医療研究開発機構・次世代がん医療創生研究事業
課　　題　　名：新規マーカーによる悪性中皮腫の精密・早期診断の開発（平成28－令和３年度）
主任研究者名(所属)：今井浩三（神奈川県立がんセンター）
分担研究者名(所属)：笹田哲朗（免疫療法科）

研　究　費　名：文部科学省　科学研究費　基盤研究（C）
課　　題　　名：膵消化管神経内分泌腫瘍の危険因子と浸潤転移機構の解明および新規治療法の基盤形成
主任研究者名(所属)：大久保陽一郎（臨床研究所/病理診断科）

研　究　費　名：文部科学省　科学研究費　基盤研究（C）
課　　題　　名：未分化肉腫と粘液線維肉腫の分子生物学的解析および鑑別診断
主任研究者名(所属)：鷲見公太（臨床研究所/病理診断科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：低酸素かつ栄養飢餓の微小環境で発現誘導される膵癌早期診断マーカーの開発（2020－2022年度）
代表研究者名(所属)：宮城洋平（臨床研究所）
分担研究者名(所属)：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：がん微小環境情報を考慮したがんゲノム解析モデルの開発（2020－2022年度）
代表研究者名(所属)：笠島理加（臨床研究所）
分担研究者名(所属)：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：膵癌微小環境におけるTGFβシグナリングの制御と腫瘍免疫との関連（2019－2021年度）
代表研究者名(所属)：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

研　究　費　名：科学研究費助成事業（科研費）基盤研究（C）
課　　題　　名：膵癌における癌局所免疫が果たす役割の解明（2019－2021年度）
代 表 研 究 者 名：遠藤　格
分担研究者名(所属)：廣島幸彦（がんゲノム診療科）

２　その他

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金助成金
課　　題　　名：限局型小細胞肺癌への予防的全脳照射による認知機能への影響を評価する前向き観察研究
主任研究者(所属)：斉藤春洋（呼吸器内科）
分担研究者名(所属)：中原善朗（呼吸器内科）

研　究　費　名：治験実施業務委託（東京大学）
課　　題　　名：完全切除された非小細胞肺がんに対する術後補助化学療法後のS-588410によるペプチドワクチン維持療法の第２相試験
研 究 代 表 者　醍醐弥太郎
分担研究者名(所属)：伊藤宏之（呼吸器外科）

研　究　費　名：令和２年度かながわ県立病院がん基金研究助成
課　　題　　名：高齢者に対する同種造血幹細胞移植の移植前リスク評価方法の確立
研究代表者(所属)：宮崎拓也（血液内科）

研　究　費　名：令和２年度かながわ県立病院がん基金研究助成
課　　題　　名：成人白血病関連疾患に対する同種造血幹細胞移植の成績向上に関する研究
研究代表者(所属)：田中正嗣（血液内科）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　　名：高齢者悪性リンパ腫の研究
主任研究者名(所属)：酒井リカ（腫瘍内科）
分 担 課 題 名：高齢者悪性リンパ腫に対する抗がん剤治療の後方視的検討
分担研究者名(所属)：佐久間敬之、貫井　淳、松村彩子、鈴木泰生、高橋寛行

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　　名：原発不明がんの検討
主任研究者名(所属)：酒井リカ（腫瘍内科）
分　担　課　題　名：原発不明がんの臨床病理学的検討
分担研究者名(所属)：貫井　淳、松村彩子、鈴木泰生、高橋寛行

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　　名：悪性リンパ腫の臨床病理学的研究
主任研究者名(所属)：高橋寛行（腫瘍内科）
分　担　課　題　名：びまん性細胞型B細胞リンパ腫に対するメソトレキセート大量療法の検討
分担研究者名(所属)：貫井　淳、松村彩子、鈴木泰生、酒井リカ

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金指定研究助成金
課　　題　　名：局所進行膵癌（LAPC）症例に対する十二指腸ステントの有効性の検討
主任研究者名(所属)：上野　誠（消化器内科（肝胆膵））

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　　名：胃癌腹膜播種の免疫学的メカニズムの解明
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　　名：腹腔内洗浄液中microRNA解析による胃癌再発予測マーカーの探索
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　　名：治癒切除後にS-1による補助化学療法を受けた局所進行胃癌患者におけるGLI11遺伝子の臨床的意義
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　　名：胃癌・食道癌における臨床研究およびバイオマーカー研究（食道胃接合部癌におけるバイオマーカーとしてのcancer stem cellマーカー発現の意義）
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金
課　　題　　名：胃癌における癌幹細胞マーカー発現の意義
研究担当者名(所属)：大島　貴（消化器外科・胃食道）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金助成事業
課　　題　　名：大腸癌におけるcancer stem cellマーカー発現の臨床的意義
主任研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：かながわ県立病院がん基金助成事業
課　　題　　名：大腸癌における癌肝細胞マーカー発現の臨床的意義
主任研究者名(所属)：塩澤　学（消化器外科・大腸）

研　究　費　名：膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）
課　　題　　名：膵がん切除後の補助化学療法における塩酸ゲムシタビン療法とS-1療法の第Ⅲ相比較試験
研究代表者（所属）：上坂克彦（静岡県立静岡がんセンター肝胆膵外科）
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）
課　　題　　名：「切除可能膵癌に対する術前治療としてのS-1併用放射線療法とゲムシタビン＋S-1併用療法のランダム化第Ⅱ相試験、JASPAC 04」
研究代表者（所属）：上坂克彦（静岡県立静岡がんセンター肝胆膵外科）
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）
課　　題　　名：「Borderline resectable膵癌に対する術前S-1併用放射線療法の第Ⅱ相試験、JASPAC 05」
研究代表者（所属）：池田公史（国立がん研究センター東病院 肝胆膵腫瘍科）
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：Japan Clinical Oncology Group（日本臨床腫瘍研究グループ）
課　　題　　名：「根治切除後胆道癌に対する術後補助療法としてのS-1療法の第Ⅲ相試験　JCOG1202」
研究代表者（所属）：小西　大（国立がん研究センター東病院 肝胆膵外科）
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：Japan Clinical Oncology Group（日本臨床腫瘍研究グループ）
課　　題　　名：「切除可能肝細胞癌に対する陽子線治療と外科的切除の非ランダム化同時対象比較試験　JCOG1315」
研究代表者（所属）：佐野圭二（帝京大学医学部外科学講座）
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科（肝胆膵））ほか

研　究　費　名：多施設共同臨床研究組織（J-CROS）先進B
課　　題　　名：局所進行膵癌に対するゲムシタビン併用重粒子線治療に関する有効性・安全性試験計画書　J-CROS 1502 Pancreas
研究代表者（所属）：鎌田　正（放射線医学総合研究所　病院）

研　究　費　名：臨床研究所共同研究
課　　題　　名：膵癌術後補助化学療法施行例のtissue microarrayを用いた、long noncording RNA（HOTAIR, MALAT, HOTTIP, PVT, H19）の発現と生物学的統制の解析
研究代表者（所属）：宮城洋平（臨床研究所）
研究代表者（所属）：神谷真梨子ほか（消化器外科）

研　究　費　名：膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）
課　　題　　名：膵癌術後再発症例におけるFOLFIRINOX療法の忍容性について、JASPAC06　副次研究
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科）
研究代表者（所属）：戸高明子（静岡県立がんセンター）

研　究　費　名：膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）
課　　題　　名：Health-related Quality of Life of Adjuvant Chemotherapy with S-1 Versus Gemcitabine for Resected Pancreatic Cancer: Results from a Randomized Phase Ⅲ Trial（JASPAC 01）
研究代表者（所属）：萩原康博（東京大学大学院 医学系研究科　健康科学・看護学専攻 生物統計学分野）
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科）

研　究　費　名：臨床研究所共同研究
課　　題　　名：胆管癌組織におけるWilms Tumor1（WT1）分子の発現と生物学的特性の解析
研究代表者（所属）：笹田哲郎（臨床研究所　免疫療法科）
研究代表者（所属）：渥美陽介（消化器外科）

研　究　費　名：臨床研究所共同研究
課　　題　　名：膵神経内分泌腫瘍における予後予測因子ならびに転移・浸潤機構の解明
研究代表者（所属）：四元宏和（消化器外科）
研究代表者（所属）：横瀬智之（病理診断科）

研　究　費　名：膵癌補助化学療法研究グループ（JASPAC）
課　　題　　名：腹腔洗浄細胞診陽性と診断された膵がん症例に関する後ろ向き観察研究
研究代表者（所属）：森永聡一郎（消化器外科）

研　究　費　名：臨床研究所共同研究
課　　題　　名：肝内胆管癌組織における免疫抑制分子の発現解析と臨床的意義の検討
研究代表者（所属）：山本直人（消化器外科）

研　究　費　名：臨床研究所共同研究
課　　題　　名：long noncoding RNA（HOTTIP, PVT1, H19）の発現は膵癌術後補助化学療法の効果予測因子となるか?
研究代表者（所属）：神谷真梨子（消化器外科）

研　究　費　名：臨床研究所共同研究
課　　題　　名：膵癌PDXの遺伝子発現解析を用いた膵癌治療標的分子の同定
研究代表者（所属）：上岡祐人（消化器外科）

研　究　費　名：神奈川県立がんセンター病院・臨床研究所共同研究課題
課　　題　　名：がん性髄膜炎における免疫チェックポイント阻害薬の抗腫瘍効果およびその機序の解明
研究代表者（所属）：大島聡人（脳神経外科）
分　担　課　題　名：検体の採取
研究代表者（所属）：佐藤秀光（脳神経外科）笹田哲郎, 氷室秀知（臨床研究所　がん免疫療法研究開発学部）

研　究　費　名：GSKジャパン研究助成
課　　題　　名：過活動膀胱モデル動物を用いた下部尿路機能障害の病態生理の解明・新規治療法の開発
研究代表者（所属）：鈴木孝尚（泌尿器科）

第５節　主催学会・セミナー

学 会 名 称：第23回肺がん画像診断セミナー（オンライン開催）
主　催　者：呼吸器内科　齋藤春洋
学 会 規 模：102名（参加者数）
開催年月日：2021年３月６日
開 催 場 所：神奈川県立がんセンター

学 会 名 称：第187回日本肺癌学会関東支部学術集会（オンライン開催）
会　　長：東京ミッドタウンクリニック山田耕三（世話人：呼吸器内科　齋藤春洋）
学 会 規 模：1,600名（参加者）
開 催 日 時：2020年７月25日

研究会名称：第２回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会（WEB開催）
代　　表：頭頸部外科　古川まどか
開 催 日 時：2020年11月26日

研究会名称：第３回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会（WEB開催）
代　　表：頭頸部外科　古川まどか
開 催 日 時：2020年12月17日

研究会名称：第４回日本超音波医学会頸部リンパ節超音波研究会（WEB開催）
代　　表：頭頸部外科　古川まどか
開 催 日 時：2021年１月14日

名　　称：第５回神奈川婦人科腫瘍カンファレンス
代表世話人：加藤久盛（神奈川県立がんセンター　婦人科）
当番世話人：米山剛一（日本医科大学武蔵小杉病院　産婦人科）
学 会 規 模：出席者　約60名
開催年月日：2020年２月14日
開 催 場 所：横浜ロイヤルパークホテル

第６節　県民のための公開行事

Ⅰ　かながわサイエンスサマー行事

新型コロナウイルス感染症予防のため参加を中止した。

Ⅱ　市民公開講座等公開行事

市民公開講座及びキッズセミナー（県内の小中高生を対象とした手術体験等）について、新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

第３章　所　内　研　究　会

第１節　所内カンファレンス一覧（臓器ボード含む）

曜日	名　　称	時　　間	場　　所
月	血液内科腫瘍内科合同抄読会	８：05～	管理研究棟総合診断室
	放射線診断技術科連絡会	８：15～	病院棟１階中央操作室
	放射線治療科新患カンファレンス	８：15～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	緩和ケア病棟入退棟判定会議	11：30～	7E病棟カンファレンス室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	呼吸器内科病棟カンファレンス	16：00～	総合診断室
	消化器内科肝胆膵カンファレンス	17：00～	4W病棟
	婦人科放射線治療科合同カンファレンス	17：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	婦人科医局会	17：15～	管理研究棟総合診断室
火	放射線治療科抄読会	８：15～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	腫瘍分子生物検査室抄読会	９：30～	腫瘍分子生物検査室
	呼吸器外科カンファレンス	15：00～	6W病棟
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	泌尿器科臨床検討会	16：00～	5E病棟
	消化器疾患カンファレンス（大腸・肝胆膵）	16：00～	管理研究棟総合診断室
	緩和ケアチームカンファレンス	16：00～	504会議室
	重粒子線治療計画カンファレンス	16：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	呼吸器科化学療法カンファレンス	16：30～	呼吸器科医局
	消化管術前症例検討会	17：00～	内視鏡読影室
	乳腺・甲状腺手術症例カンファレンス	17：00～	504会議室
	血液内科・腫瘍内科・移植症例合同カンファレンス	17：00～	7W病棟カンファレンス室
	臨床病理肝胆膵カンファレンス	17：00～19：00（第４）	病理診断部門カンファレンス室
	腫瘍内科放射線治療科合同カンファレンス	17：00～（第２、４週）	重粒子線治療棟カンファレンス室
	腫瘍内科抄読会	17：30～	医局応接室
	消化管術後症例検討会カンファレンス	18：00～	内視鏡読影室
	臨床研究所抄読会（各部門別）	原則各週１回	原則臨床研究所作業室
	臨床研究所研究報告会	16：00～（第２、第４）	管理研究棟中会議室
水	腫瘍免疫化学療法抄読会	８：15～	管理研究棟503会議室
	３科（頭頚部外科・骨軟部腫瘍外科・リハ科）合同抄読会	８：15～８：30	管理研究棟総合診断室
	緩和ケア病棟入退棟判定会議	11：30～	7E病棟カンファレンス室
	リハビリテーションカンファレンス	16：00～16：30	リハビリテーションセンター
	NST症例検討会	13：00～	301会議室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	腫瘍内科症例検討会	16：00～	5W病棟カンファレンス室
	消化器疾患カンファレンス（食道・胃）	16：00～	管理研究棟総合診断室
	乳腺術後カンファレンス	17：30～	504会議室
	病理CPC	18：00～（不定期）	病理診断部門カンファレンス室
	MMG読影会	17：00～（不定期）	202会議室
	免疫療法科カンファレンス	17：00～（不定期）	管理研究棟がんワクチン･免疫センター
	エキスパートパネル	18：00～	中会議室
木	泌尿器科抄読会リサーチカンファレンス	７：30～	管理研究棟503会議室
	頭頚部外科放射線治療科合同カンファレンス	８：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	消化器切出症例画像カンファレンス	８：30～	病院棟１階読影室
	がん分子病態学部カンファレンス	13：00～（隔週）	臨床研究所ミーティング室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	婦人科症例カンファレンス及び病理検討会	16：00～17：30	管理研究棟総合診断室→病理診断室
	腫瘍内科病理検討会	16：00～17：00（第３・不定期）	病理診断部門カンファレンス室
	重粒子線治療計画カンファレンス	16：00～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	血液内科症例検討会	17：00～（不定期）	管理研究棟総合診断室
	呼吸器科CT読影カンファレンス	17：00～	病院棟１階読影室
	検査科合同抄読会	17：30～18：30（第４）	検査科技術室
	消化管術前症例検討会	17：30～	内視鏡読影室
	甲状腺薬物療法カンファレンス	17：30～（第２・４）	504会議室
	乳腺・内分泌外科webカンファレンス	19：00～（第３）	504会議室
	遺伝診療科カンファレンス	17：30～（第４）	中会議室または大会議室
	前立腺センター合同カンファレンス	16：00～（第１、３週）	重粒子線治療棟カンファレンス室
	内視鏡治療カンファレンス	18：00～	内視鏡読影室
	胃食道外科抄読会・研究カンファレンス	18：00～	医局応接室
	消化管病棟カンファレンス	18：30～	内視鏡読影室
	神奈川骨軟部腫瘍臨床病理カンファレンス	18：30～（第4）	病理診断部門カンファレンス室
金	呼吸器科抄読会	８：00～８：30	管理研究棟総合診断室
	麻酔科ICU科勉強会	８：00～８：20	麻酔科医局
	放射線治療科医局会	８：15～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	気管支鏡フィルム検討会	８：30～	管理研究棟総合診断室
	放射線グループカンファレンス	８：30～	重粒子線治療棟カンファレンス室
	緩和ケア病棟入退棟判定会議	11：30～	7E病棟カンファレンス室
	呼吸器外科抄読会	15：00～16：00	管理研究棟総合診断室
	放射線治療計画カンファレンス	15：30～	放射線治療計画室
	臨床病理検討会	15：30～17：00（第４、不定期）	管理研究棟総合診断室
	呼吸器グループカンファレンス	16：00～18：00	管理研究棟総合診断室
	放射線診断技術科技術カンファレンス	17：15～（不定期）	病院棟１階中央捜査室

第２節　所 内 研 究 会

１　病院・研究所研究会

研　究　会　名　称	演　　題	演者・講師（所属）	開催年月日
肺がん・呼吸器研究会	※新型コロナウィルス感染症の影響により中止		
横浜乳腺画像診断勉強会	珍しい組織型の乳癌の画像診断　病理像と対比させて	山本弥生（放射線診断・IVR科）	2020. 10. 7
がん遺伝子パネル検査実施体制研修会	がんゲノム診療センター概要、がん遺伝子パネル検査の手順他	廣島幸彦（がんゲノム診療科）他	2020. 7. 20

２　看護研究会

研 究 会 名 称	開催年月日	内　　容	演者・講師	出席者数
第１回 看護研究等発表会	2020. 12. 18 ～ 2021. 1. 8 事前録画 動画配信	看護研究 1　乳がん手術における入院前問診・術前オリエンテーション実施の効果の検討 ～患者満足度調査から～ 実践報告 1　血液疾患患者と家族の終末期療養を支援するための外来看護師の役割 業務改善報告 1　内視鏡室におけるCOVID-19感染対策 2　看護補助者との協働 3　新型コロナウイルス感染症疑い患者の受け入れ体制の整備	1　瀬畑善子　他 1　平野弘美　他 1　高野ひとみ　他 2　秋山良恵　他 3　皆川真弓　他	131名
第２回 看護研究等発表会	２月26日 ～ ３月19日 事前録画 動画配信	実践報告 1　外来部門における看護連携～外来化学療法患者の外来診療科看護師との連携を振り返る～ 2　CVポート抜針指導～抜針の再指導が必要となった患者の事例を通して見えてきた今後の課題～ 業務改善報告 1　新型コロナウイルス陽性患者の緊急手術を想定した準備～防護具着脱の技術習得に向けて～ 2　全てのスタッフが診療報酬取得の書類・記録処理が行えるための取り組み～業務チェックリストを活用して～ 3　4E病棟のドレーン管理に関する取り組み～ドレーン固定のテープは常にオメガ貼りの状態にする～	1　加藤英里　他 2　松﨑舞衣　他 1　石橋優友　他 2　植村敏子　他 3　金子英明　他	140名

研 究 会 名 称	開催年月日	内　　容	演者・講師	出席者数
		4　麻薬及び向精神薬の安全な管理と転倒転落防止を目指して～内視鏡室での安全な環境への取り組み～ 5　より効果的な大腸内視鏡検査を目指して 6　内科外来における課題と今年度の業務改善 7　内科外来における今年度の業務改善　看護相談外来 研修報告 1　がん化学療法看護認定看護師教育課程をおえて 2　認定看護管理者教育課程　セカンドレベル 3　認定看護管理者教育課程　セカンドレベル	4　中平祐子　他 5　松橋絵里　他 6　山本香奈恵　他 7　伊藤八重子 1　末竹亜紀 2　坪井　香 3　佐藤陽子	

3　臨床腫瘍セミナー

新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

4　学術セミナー

新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。

統　　計　　編

（令和２年）

凡　　例

1　記述内容は各暦年の数値である。
2　当センターのカルテは一患者一診療録としている。
3　この内容における字句の定義および算出方法は次のとおりである。

新　患　数	外来における新患者数
外来患者延数	暦年内における毎日の外来患者数を合計した数
一日平均患者数	
外来患者	暦年内の外来患者延数を実外来診療日数で除した数
入院患者	暦年内の入院患者延数を暦日で除した数
入院患者数	暦年内における毎日の新入院患者を合計した数
退院患者数	暦年内における退院患者数（死亡退院も含む。）
入院患者延数	暦年内における毎日（24時現在）の在院患者数を合計した数
病床利用率	病床数に対する入院患者の割合。次の算出方法によった。

$$\text{病床利用率} = \frac{\text{一日平均患者数}}{\text{病床数}} \times 100 = \frac{\text{入院患者数}}{\text{定床数} \times \text{暦日数}} \times 100$$

平均在院日数　　1人の患者が入院してから退院するまでの在院日数で次の算出方法によった。

$$\text{平均在院日数} = \frac{\text{入院患者延数}}{(\text{入院患者数} + \text{退院患者数}) \times 1/2}$$

病床回転率　　利用病床（病床数×病床利用率）の暦年内回転数で次の算出方法によった。

$$\text{病床回転率} = \frac{(\text{入院患者数} + \text{退院患者数}) \times 1/2}{\text{病床数} \times \text{病床利用率}} = \frac{\text{暦日数}}{\text{平均在院日数}}$$

平均通院回数　　1人の患者の初診から転帰までの通院回数で次の算出方法によった。

$$\text{平均通院回数} = \frac{\text{外来患者延数}}{\text{新患実数}}$$

院内死亡率　　暦年内における退院患者に対する年間死亡数の比率で次の算出方法によった。

$$\text{院内死亡率} = \frac{\text{年間死亡患者数}}{\text{退院患者数}} \times 100$$

解剖率　　院内死亡者に対する解剖件数の割合。次の算出方法によった。

$$\text{解剖率} = \frac{\text{年間解剖数}}{\text{年間死亡患者数}} \times 100$$

表1　診療業務総括表

区分 ＼ 年度			令和２年度	令和元年度
病床数（A）			415 床	415 床
稼働病床数（B）			※※※415 床	※※※415 床
入院患者	延患者数（C）		121,470人	137,159人
	前年度からの繰越患者数（D）		315人	300人
	当年度内新入院患者数（E）		11,259人	11,862人
	当年度内退院患者数（F）		11,295人	11,846人
	病床利用率	病床 $\frac{(C)}{(A)\times 暦日数}\times 100$	80.2%	90.3%
		稼働 $\frac{(C)}{(B)\times 暦日数}\times 100$	80.2%	90.3%
	平均在院日数 $\frac{(C)}{1/2\,(E+F)}$（G）		10.8	11.6
	病床回転率 $\frac{暦日数}{(G)}$		33.9回	31.6回
外来患者	実患者数（H）		25,776人	26,477人
	延患者数（I）		257,220人	258,824人
	平均通院日数 $\frac{(I)}{(H)}$		10.0日	9.8日
入院・外来患者比率 $\frac{(I)}{(C)}$			2.12	1.89

※　平成23年11月５日より稼動387床
※※　平成24年５月８日より稼動393床
※※※平成25年11月２日より稼動415床

表２　収益的収入及び支出（令和２年度）

⑴がんセンター

収　　入

区　　分	令和元年度	令和２年度	増　　減
営業収益	22,470,379,185	22,977,498,235	507,119,050
医業収益	19,895,472,147	19,919,387,786	23,915,639
入院収益	10,129,399,211	9,566,333,314	△ 563,065,897
外来収益	8,641,632,025	9,362,085,748	720,453,723
その他医業収益	1,124,440,911	990,968,724	△ 133,472,187
補助金等収益	36,320,000	672,668,386	636,348,386
運営費負担金収益	2,440,286,000	2,257,064,791	△ 183,221,209
寄附金収益	23,874,333	20,143,012	△ 3,731,321
資産見返負債戻入	74,426,705	108,234,260	33,807,555
営業外収益	264,250,565	187,874,411	△ 76,376,154
受取利息及び配当金	1,101	1,281	180
運営費負担金収益	147,282,000	100,713,000	△ 46,569,000
その他営業外収益	116,967,464	87,160,130	△ 29,807,334
臨時利益	0	0	0
収入合計	22,734,629,750	23,165,372,646	430,742,896

費　　用

区　　分	令和元年度	令和２年度	増　　減
営業費用	21,742,832,463	21,663,053,650	△ 79,778,813
医業費用	20,635,598,607	20,400,794,273	△ 234,804,334
給与費	7,418,791,723	7,404,027,164	△ 14,764,559
材料費	7,656,744,502	7,561,478,460	△ 95,266,042
うち薬品費	6,350,304,270	6,268,701,850	△ 81,602,420
うち診療材料費	1,288,601,402	1,275,061,127	△ 13,540,275
経費	3,297,024,377	3,484,065,009	187,040,632
減価償却費	1,445,971,425	1,277,447,901	△ 168,523,524
研究研修費	817,066,580	673,775,739	△ 143,290,841
寄附金支出	21,099,649	11,733,649	△ 9,366,000
控除対象外消費税	1,086,134,207	1,250,525,728	164,391,521
営業外費用	213,878,040	232,791,459	18,913,419
支払利息及び病院債取扱諸費	213,150,780	201,826,145	△ 11,324,635
雑支出	727,260	30,965,314	30,238,054
臨時損失	2,700,758	30,463,311	27,762,553
固定資産除却損	2,700,758	30,463,311	27,762,553
費用合計	21,959,411,261	21,926,308,420	△ 33,102,841

収　　支

区　　分	令和元年度	令和２年度	増　　減
医業損益	△ 740,126,460	△ 481,406,487	258,719,973
営業損益	727,546,722	1,314,444,585	586,897,863
経常損益	777,919,247	1,269,527,537	491,608,290
純損益	775,218,489	1,239,064,226	463,845,737

表２　収益的収入及び支出（令和２年度）

⑵重粒子線治療施設

収　　入

区　　分	令和元年度	令和２年度	増　　減
営業収益	1,541,670,203	1,479,050,236	△ 62,619,967
医業収益	933,651,618	1,152,224,622	218,573,004
入院収益	122,375,000	96,375,000	△ 26,000,000
外来収益	809,971,158	1,054,347,589	244,376,431
その他医業収益	1,305,460	1,502,033	196,573
運営費負担金収益	536,132,000	256,016,000	△ 280,116,000
資産見返負債戻入	71,886,585	70,809,614	△ 1,076,971
営業外収益	41,855,172	40,460,000	△ 1,395,172
運営費負担金収益	41,855,000	40,460,000	△ 1,395,000
その他営業外収益	172	0	△ 172
臨時利益	0	0	0
収入合計	1,583,525,375	1,519,510,236	△ 64,015,139

費　　用

区　　分	令和元年度	令和２年度	増　　減
営業費用	1,601,420,526	1,649,013,974	47,593,448
医業費用	1,548,291,656	1,592,758,360	44,466,704
給与費	296,013,120	320,067,601	24,054,481
材料費	14,782,266	16,176,292	1,394,026
うち薬品費	1,022,511	604,545	△ 417,966
うち診療材料費	13,759,755	15,571,094	1,811,339
経費	521,337,462	512,207,857	△ 9,129,605
減価償却費	716,158,808	744,306,610	28,147,802
控除対象外消費税	53,128,870	56,255,614	3,126,744
営業外費用	84,708,025	80,922,452	△ 3,785,573
支払利息及び病院債取扱諸費	84,708,025	80,922,452	△ 3,785,573
費用合計	1,686,128,551	1,729,936,426	43,807,875

収　　支

区　　分	令和元年度	令和２年度	増　　減
医業損益	△ 614,640,038	△ 440,533,738	174,106,300
営業損益	△ 59,750,323	△ 169,963,738	△ 110,213,415
経常損益	△ 102,603,176	△ 210,426,190	△ 107,823,014
純損益	△ 102,603,176	△ 210,426,190	△ 107,823,014

表 3　診療報酬診療行為別割合（令和 2 年度）

外　来　収　益　　（単位：円）

年度 / 行為別	令和2年度	令和元年度	前年度比
初診料	21,681,117	22,795,087	95.1%
再診料	124,692,786	125,246,220	99.6%
指導料	336,719,603	319,433,101	105.4%
投薬料	393,337,024	366,839,628	107.2%
注射料	5,363,300,942	4,847,371,662	110.6%
検査料	1,361,579,861	1,225,112,789	111.1%
処置及び手術料	139,512,778	139,428,900	100.1%
放射線料	2,285,207,104	2,187,195,990	104.5%
輸血料	34,436,172	24,606,620	139.9%
麻酔料	39,970	37,650	106.2%
その他	73,478,572	76,129,509	96.5%
合計	10,133,985,929	9,334,197,156	108.6%

入　院　収　益　　（単位：円）

年度 / 行為別	令和2年度	令和元年度	前年度比
入院料 重症者特別加算 特別食	5,242,528,637	5,703,931,809	91.9%
初診料	491,300	492,020	99.9%
指導料	112,770,747	113,307,483	99.5%
投薬料	116,810,706	122,402,249	95.4%
注射料	689,359,750	688,531,237	100.1%
検査料	155,112,284	155,861,463	99.5%
処置及び手術料	2,311,614,392	2,357,025,044	98.1%
放射線料	288,786,972	311,219,860	92.8%
輸血料	260,706,300	305,882,801	85.2%
麻酔料	406,327,434	406,510,450	100.0%
その他	42,169,464	50,069,126	84.2%
合計	9,626,677,986	10,215,233,542	94.2%

表 4　診療科別外来患者数

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
循環器内科		新患者数	0	1	0	1	0	0
		再来患者数	600	589	608	615	479	535
		延患者数	600	590	608	616	479	535
糖尿病内科		新患者数	0	1	0	0	1	0
		再来患者数	229	222	256	249	225	249
		延患者数	229	223	256	249	226	249
呼吸器内科		新患者数	73	87	80	111	59	79
		再来患者数	1,763	1,683	1,808	1,688	1,536	1,688
		延患者数	1,836	1,770	1,888	1,799	1,595	1,767
呼吸器外科		新患者数	7	6	6	4	5	5
		再来患者数	654	677	715	746	685	808
		延患者数	661	683	721	750	690	813
血液・腫瘍内科	血液	新患者数	10	11	12	15	9	14
		再来患者数	337	312	371	351	318	384
		延患者数	347	323	383	366	327	398
	腫瘍	新患者数	21	24	25	15	12	14
		再来患者数	1,068	985	1,136	1,047	881	1,088
		延患者数	1,089	1,009	1,161	1,062	893	1,102
消化器内科	消化管	新患者数	84	59	84	78	45	74
		再来患者数	1,144	1,064	1,159	1,134	893	1,160
		延患者数	1,228	1,123	1,243	1,212	938	1,234
	肝・胆・膵	新患者数	93	90	78	101	60	76
		再来患者数	2,185	2,161	2,296	2,092	2,019	2,315
		延患者数	2,278	2,251	2,374	2,193	2,079	2,391
消化器外科	胃食道	新患者数	13	8	11	11	5	3
		再来患者数	915	926	978	909	934	973
		延患者数	928	934	989	920	939	976
	大腸	新患者数	14	14	20	18	13	16
		再来患者数	1,050	1,049	1,093	1,127	975	1,177
		延患者数	1,064	1,063	1,113	1,145	988	1,193
	肝・胆・膵	新患者数	5	3	4	7	3	5
		再来患者数	410	374	466	418	366	423
		延患者数	415	377	470	425	369	428
精神腫瘍科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	115	105	105	77	73	84
		延患者数	115	105	105	77	73	84
脳神経外科		新患者数	2	1	3	5	6	4
		再来患者数	139	118	134	161	142	166
		延患者数	141	119	137	166	148	170
頭頸部外科（耳鼻・口腔）		新患者数	22	20	24	26	23	31
		再来患者数	681	804	710	583	640	718
		延患者数	703	824	734	609	663	749
形成外科		新患者数	2	0	0	1	0	0
		再来患者数	79	94	116	87	72	129
		延患者数	81	94	116	88	72	129
皮膚科		新患者数	1	1	1	0	0	0
		再来患者数	115	85	106	95	95	120
		延患者数	116	86	107	95	95	120

（令和２年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	1日平均	構成比（%）
0 584 584	0 541 541	0 568 568	1 612 613	1 551 552	0 632 632	4 6,914 6,918	28.7	2.7%
0 219 219	0 206 206	0 247 247	0 228 228	0 228 228	0 233 233	2 2,791 2,793	11.6	1.1%
77 1,822 1,899	87 1,673 1,760	80 1,710 1,790	94 1,848 1,942	92 1,672 1,764	108 1,764 1,872	1,027 20,655 21,682	90.0	8.5%
6 684 690	5 653 658	7 719 726	2 771 773	12 680 692	4 838 842	69 8,630 8,699	36.1	3.4%
9 330 339	14 320 334	17 348 365	10 378 388	11 322 333	12 349 361	144 4,120 4,264	17.7	1.7%
15 1,116 1,131	19 937 956	14 1,046 1,060	28 1,107 1,135	17 937 954	22 1,060 1,082	226 12,408 12,634	52.4	5.0%
63 1,165 1,228	73 1,048 1,121	76 1,141 1,217	71 1,209 1,280	84 1,134 1,218	67 1,194 1,261	858 13,445 14,303	59.3	5.6%
80 2,336 2,416	83 2,209 2,292	110 2,282 2,392	104 2,511 2,615	85 2,278 2,363	95 2,381 2,476	1,055 27,065 28,120	116.7	11.0%
12 988 1,000	8 921 929	7 1,061 1,068	15 989 1,004	12 924 936	12 1,006 1,018	117 11,524 11,641	48.3	4.6%
10 1,129 1,139	10 968 978	17 1,183 1,200	21 1,108 1,129	13 1,072 1,085	27 1,223 1,250	193 13,154 13,347	55.4	5.2%
0 438 438	2 344 346	2 464 466	3 424 427	5 392 397	2 433 435	41 4,952 4,993	20.7	2.0%
0 80 80	0 57 57	0 84 84	0 105 105	0 80 80	0 98 98	0 1,063 1,063	4.4	0.4%
0 158 158	3 134 137	5 164 169	5 177 182	1 156 157	2 135 137	37 1,784 1,821	7.6	0.7%
28 652 680	29 822 851	31 715 746	28 608 636	20 715 735	23 735 758	305 8,383 8,688	36.0	3.4%
0 128 128	0 103 103	0 85 85	0 145 145	0 131 131	0 133 133	3 1,302 1,305	5.4	0.5%
0 114 114	0 81 81	0 109 109	0 119 119	0 87 87	0 75 75	3 1,201 1,204	5.0	0.5%

表 4　診療科別外来患者数

（つづき）

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
乳腺内分泌外科		新患者数	62	91	94	62	50	76
		再来患者数	2,503	2,538	2,891	2,622	2,363	2,750
		延患者数	2,565	2,629	2,985	2,684	2,413	2,826
婦人科		新患者数	38	49	44	44	33	41
		再来患者数	1,276	1,127	1,257	1,163	1,017	1,414
		延患者数	1,314	1,176	1,301	1,207	1,050	1,455
泌尿器科		新患者数	84	83	117	97	80	68
		再来患者数	1,083	907	1,116	1,061	861	1,009
		延患者数	1,167	990	1,233	1,158	941	1,077
骨軟部腫瘍外科		新患者数	24	21	27	32	13	33
		再来患者数	332	352	473	383	320	421
		延患者数	356	373	500	415	333	454
放射線診断・IVR科		新患者数	0	0	2	1	0	0
		再来患者数	6	12	5	4	2	3
		延患者数	6	12	7	5	2	3
放射線治療科	光子線	新患者数	4	7	7	5	4	6
		再来患者数	1,314	1,505	1,819	1,663	1,354	1,650
		延患者数	1,318	1,512	1,826	1,668	1,358	1,656
	重粒子	新患者数	0	0	0	2	1	0
		再来患者数	835	1,021	905	733	713	1,193
		延患者数	835	1,021	905	735	714	1,193
東洋医学科		新患者数	3	2	2	1	2	0
		再来患者数	420	382	384	365	262	359
		延患者数	423	384	386	366	264	359
免疫療法科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	0	3	2	3	2	3
		延患者数	0	3	2	3	2	3
麻酔科		新患者数	0	0	0	0	0	0
		再来患者数	107	107	129	110	105	106
		延患者数	107	107	129	110	105	106
緩和ケア内科		新患者数	4	3	6	4	1	1
		再来患者数	52	54	71	36	20	22
		延患者数	56	57	77	40	21	23
歯科口腔外科		新患者数	56	44	60	39	39	60
		再来患者数	538	526	555	357	404	496
		延患者数	594	570	615	396	443	556
リハビリテーション科		新患者数	0	0	0	0	1	0
		再来患者数	68	62	68	47	37	46
		延患者数	68	62	68	47	38	46
遺伝診断科		新患者数	0	0	0	1	2	1
		再来患者数	21	13	24	19	20	31
		延患者数	21	13	24	20	22	32
がんゲノム診療科		新患者数	5	9	7	2	7	8
		再来患者数	4	5	9	12	8	11
		延患者数	9	14	16	14	15	19
合計		**新患者数**	**627**	**635**	**714**	**683**	**474**	**615**
		再来患者数	**20,043**	**19,862**	**21,765**	**19,957**	**17,821**	**21,531**
		延患者数	**20,670**	**20,497**	**22,479**	**20,640**	**18,295**	**22,146**

（令和２年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	１日平均	構成比（%）
68 2,749 2,817	80 2,676 2,756	88 2,603 2,691	87 2,601 2,688	79 2,466 2,545	94 2,606 2,700	931 31,368 32,299	134.0	12.7%
47 1,372 1,419	53 1,189 1,242	41 1,396 1,437	58 1,390 1,448	58 1,290 1,348	55 1,388 1,443	561 15,279 15,840	65.7	6.2%
77 1,088 1,165	84 950 1,034	78 1,033 1,111	90 1,022 1,112	87 992 1,079	80 1,047 1,127	1,025 12,169 13,194	54.7	5.2%
27 398 425	40 365 405	37 449 486	34 450 484	39 446 485	31 443 474	358 4,832 5,190	21.5	2.0%
0 4 4	0 3 3	0 5 5	2 6 8	0 2 2	0 8 8	5 60 65	0.3	0.0%
6 1,648 1,654	6 1,610 1,616	4 1,576 1,580	5 1,852 1,857	8 1,505 1,513	6 1,690 1,696	68 19,186 19,254	79.9	7.6%
1 947 948	0 978 978	0 1,083 1,083	0 993 993	0 920 920	0 1,003 1,003	4 11,324 11,328	47.0	4.4%
2 351 353	1 331 332	4 368 372	0 356 356	5 344 349	2 375 377	24 4,297 4,321	17.9	1.7%
0 2 2	0 3 3	0 9 9	0 1 1	0 2 2	0 2 2	0 32 32	0.1	0.0%
0 149 149	0 117 117	0 111 111	0 139 139	0 118 118	0 114 114	0 1,412 1,412	5.9	0.6%
0 30 30	1 22 23	2 27 29	0 28 28	0 27 27	1 25 26	23 414 437	1.8	0.2%
44 510 554	67 556 623	58 535 593	43 534 577	43 542 585	39 545 584	592 6,098 6,690	27.8	2.6%
0 46 46	0 47 47	1 68 69	1 50 51	1 37 38	0 33 33	4 609 613	2.5	0.2%
0 26 26	0 26 26	0 29 29	0 38 38	0 52 52	0 47 47	4 346 350	1.5	0.1%
3 9 12	10 6 16	4 13 17	3 8 11	7 7 14	5 10 15	70 102 172	0.7	0.1%
575 21,272 21,847	675 19,896 20,571	683 21,231 21,914	705 21,807 22,512	680 20,109 20,789	687 21,625 22,312	7,753 246,919 254,672	1,056.7	100.0%

表５　外来新患者年齢別数（令和２年）

（単位：人）

年齢別＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
～19	1	2	2	2	2	3	2	4	2	2	5	0	27	0.3%
20～29	15	10	18	18	14	16	7	18	13	13	17	9	168	2.2%
30～39	25	30	29	22	17	28	27	33	28	36	27	25	327	4.2%
40～49	71	72	84	74	47	60	59	71	84	72	73	83	850	11.0%
50～59	90	107	119	110	70	82	90	98	100	92	100	128	1,186	15.3%
60～64	52	75	64	57	49	59	57	66	55	76	65	61	736	9.5%
65～69	71	65	91	88	63	76	64	81	89	78	90	78	934	12.0%
70～74	121	104	117	130	78	121	104	121	120	134	123	111	1,384	17.9%
75以上	181	170	190	182	134	170	165	183	192	202	180	192	2,141	27.6%
合　計	**627**	**635**	**714**	**683**	**474**	**615**	**575**	**675**	**683**	**705**	**680**	**687**	**7,753**	**100.0%**

表６　外来新患者地域別数（令和２年）

（単位：人）

市町村別＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
横浜市	375	407	443	413	301	395	373	434	437	457	456	448	4,939	63.7%
鶴見区	5	6	13	6	2	7	2	10	12	11	10	9	93	1.2%
神奈川区	8	7	17	10	9	12	7	15	18	6	14	11	134	1.7%
西区	8	6	12	4	7	6	3	10	8	7	8	6	85	1.1%
中区	1	7	6	7	7	5	6	7	5	6	5	1	63	0.8%
南区	10	14	13	12	9	13	12	16	10	9	15	8	141	1.8%
港南区	10	7	10	8	9	6	12	5	12	9	12	6	106	1.4%
保土ヶ谷区	25	38	29	37	23	31	26	26	26	39	35	42	377	4.9%
旭区	131	166	142	135	83	112	129	140	137	129	158	145	1,607	20.7%
磯子区	8	4	6	5	4	11	13	6	8	2	7	11	85	1.1%
金沢区	4	2	4	6	9	7	5	6	4	4	4	5	60	0.8%
港北区	12	8	14	18	10	12	18	14	18	12	9	14	159	2.1%
緑区	12	7	14	16	10	18	15	14	16	20	17	15	174	2.2%
戸塚区	35	28	42	24	20	37	25	32	32	43	32	41	391	5.0%
瀬谷区	37	40	44	54	37	50	38	46	67	67	49	51	580	7.5%
栄区	5	7	3	4	4	4	2	4	4	4	3	4	48	0.6%
泉区	45	39	55	43	35	49	43	59	41	62	51	56	578	7.5%
青葉区	11	11	8	12	9	6	3	15	13	17	16	13	134	1.7%
都筑区	8	10	11	12	14	9	14	9	6	10	11	10	124	1.6%
川崎市	20	18	24	28	18	13	16	22	12	16	19	21	227	2.9%
横須賀市	17	11	11	19	9	17	8	9	12	12	16	8	149	1.9%
平塚市	3	7	6	5	3	11	2	4	3	9	3	7	63	0.8%
鎌倉市	7	5	9	8	6	9	6	10	3	7	10	8	88	1.1%
藤沢市	18	21	23	21	14	14	19	24	35	21	22	19	251	3.2%
小田原市	2	4	3	3	1	1	4	7	5	1	1	2	34	0.4%
茅ヶ崎市	8	13	13	13	10	11	4	11	14	11	9	12	129	1.7%
逗子市	1	3	1	1	2	2	3	0	7	0	1	0	21	0.3%
相模原市	32	24	22	29	35	26	36	33	17	26	21	32	333	4.3%
三浦市	3	1	0	3	2	0	1	1	2	3	0	1	17	0.2%
秦野市	1	6	4	6	3	3	0	8	4	5	1	5	46	0.6%
厚木市	8	12	9	10	8	4	3	7	10	7	5	6	89	1.1%
大和市	41	24	44	36	22	41	32	28	35	38	41	33	415	5.4%
伊勢原市	3	2	0	1	1	1	3	5	1	2	3	1	23	0.3%
海老名市	14	8	13	14	8	20	11	14	13	14	12	9	150	1.9%
座間市	15	11	15	10	5	5	7	12	9	14	9	11	123	1.6%
南足柄市	2	3	1	3	2	5	2	0	4	2	2	3	29	0.4%
綾瀬市	9	8	15	17	5	8	11	5	5	11	12	13	119	1.5%
葉山町	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	0	8	0.1%
寒川町	3	2	1	0	0	2	3	3	1	2	2	1	20	0.3%
愛川町	1	1	1	2	0	1	1	2	0	0	0	2	11	0.1%
清川村	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
大磯町	2	0	1	1	1	0	0	1	0	2	0	0	8	0.1%
二宮町	1	2	3	0	1	1	0	0	0	1	0	1	10	0.1%
中井町	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	0.1%
大井町	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	4	0.1%
松田町	1	1	2	1	1	0	0	1	1	0	0	1	9	0.1%
山北町	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1	5	0.1%
開成町	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	0.0%
箱根町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
真鶴町	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0.0%
湯河原町	0	2	2	0	0	0	1	1	0	1	1	2	10	0.1%
県内計	**590**	**598**	**667**	**647**	**460**	**591**	**549**	**642**	**633**	**665**	**647**	**649**	**7,338**	**94.6%**
県外計	**37**	**37**	**47**	**36**	**14**	**24**	**26**	**33**	**50**	**40**	**33**	**38**	**415**	**5.4%**
総計	**627**	**635**	**714**	**683**	**474**	**615**	**575**	**675**	**683**	**705**	**680**	**687**	**7,753**	**100.0%**

表７　診療科別入院・退院患者数

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
循環器内科		入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
呼吸器内科		入院	99	90	104	98	76	110
		退院	87	91	97	94	83	101
		在院延数	930	827	923	900	764	760
呼吸器外科		入院	51	42	45	43	38	29
		退院	45	44	47	41	39	32
		在院延数	419	399	404	401	437	397
血液・腫瘍内科	血液	入院	28	22	20	17	25	21
		退院	18	20	21	20	27	24
		在院延数	783	808	936	746	868	655
	腫瘍	入院	53	55	53	48	51	56
		退院	44	57	48	41	57	54
		在院延数	695	816	676	747	720	767
消化器内科	消化管	入院	101	81	94	75	76	103
		退院	78	82	87	77	71	97
		在院延数	764	695	803	619	559	792
	肝・胆・膵	入院	202	189	201	215	180	240
		退院	182	196	190	198	192	216
		在院延数	1,835	1,372	1,407	1,553	1,484	1,470
消化器外科	胃食道	入院	65	58	65	58	56	56
		退院	42	62	69	68	55	46
		在院延数	836	1,011	845	859	786	878
	大腸	入院	52	41	44	35	35	51
		退院	37	47	44	39	35	48
		在院延数	727	765	835	724	656	685
	肝・胆・膵	入院	31	29	25	27	17	27
		退院	25	29	31	25	22	22
		在院延数	431	475	472	406	307	343
脳神経外科		入院	4	11	5	9	10	9
		退院	5	12	9	5	8	10
		在院延数	247	217	100	154	212	231
頭頸部外科		入院	51	45	51	46	40	65
		退院	39	46	51	47	49	47
		在院延数	566	602	529	406	317	456
形成外科		入院	3	1	4	2	0	1
		退院	3	1	3	3	0	1
		在院延数	12	4	13	11	0	8
皮膚科		入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
乳腺内分泌外科		入院	69	60	76	80	70	73
		退院	53	65	77	71	71	70
		在院延数	533	535	560	633	664	674

（令和２年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	平均在院日数	構成比（%）
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
105 99 930	91 89 982	95 91 788	79 75 840	91 89 895	70 81 795	1,108 1,077 10,334	9.5	8.0%
38 36 333	35 33 329	42 42 372	34 38 338	33 29 337	47 53 464	477 479 4,630	9.7	3.6%
26 22 832	25 24 804	23 23 812	24 24 832	32 32 863	19 23 882	282 278 9,821	35.1	7.6%
38 49 642	59 47 928	60 60 918	53 50 740	60 64 847	65 76 791	651 647 9,287	14.3	7.2%
93 86 849	75 75 830	76 70 691	87 88 789	78 75 667	78 90 671	1,017 976 8,729	8.8	6.8%
227 218 1,446	201 218 1,429	225 208 1,530	240 248 1,651	210 194 1,424	221 241 1,696	2,551 2,501 18,297	7.2	14.2%
53 60 886	61 51 825	63 64 865	71 65 1,053	49 53 1,011	53 66 917	708 701 10,772	15.3	8.4%
53 53 798	50 47 784	27 36 578	32 27 469	43 40 666	29 40 528	492 493 8,215	16.7	6.4%
30 30 488	26 25 449	22 22 409	28 29 525	25 27 375	26 30 435	313 317 5,115	16.2	4.0%
4 6 184	7 11 132	10 9 157	9 9 62	5 5 69	5 2 135	88 91 1,900	21.2	1.5%
65 73 649	61 63 537	67 65 518	57 62 457	61 59 412	52 55 434	661 656 5,883	8.9	4.6%
0 0 0	3 3 12	0 0 0	4 4 16	6 6 24	2 2 8	26 26 108	4.2	0.1%
0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	0 0 0	—	0.0%
70 65 653	70 60 688	61 69 601	63 59 535	70 66 674	57 73 564	819 799 7,314	9.0	5.7%

表７　診療科別入院・退院患者数

（つづき）

科別		区分＼月別	1	2	3	4	5	6
婦人科		入院	84	58	68	55	55	65
		退院	68	67	60	60	58	55
		在院延数	861	709	708	774	532	678
泌尿器科		入院	106	93	120	108	100	106
		退院	89	104	112	111	98	109
		在院延数	779	800	775	814	799	885
骨軟部腫瘍外科		入院	28	22	32	34	29	31
		退院	22	25	29	32	35	27
		在院延数	377	358	305	380	321	276
放射線治療科	光子線	入院	0	0	0	1	1	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	1	1	0
	重粒子	入院	0	0	0	0	0	0
		退院	0	0	0	0	0	0
		在院延数	0	0	0	0	0	0
緩和ケア内科		入院	4	2	8	2	4	6
		退院	26	22	30	25	13	19
		在院延数	542	561	553	374	303	514
合計		**入院**	**1,031**	**899**	**1,015**	**953**	**863**	**1,049**
		退院	**863**	**970**	**1,005**	**957**	**913**	**978**
		在院延数	**11,337**	**10,954**	**10,844**	**10,502**	**9,730**	**10,469**

（令和２年）

（単位：人）

7	8	9	10	11	12	計	平均在院日数	構成比（%）
74	66	53	58	74	54	764		
71	66	57	59	62	67	750	11.3	6.6%
809	818	582	522	744	794	8,531		
93	116	106	116	93	104	1,261		
91	106	104	123	90	110	1,247	7.9	7.7%
736	858	832	974	755	858	9,865		
36	31	29	34	37	28	371		
30	32	27	43	30	36	368	11.3	3.2%
376	360	343	372	351	347	4,166		
0	0	0	0	0	0	2		
0	0	0	0	0	0	0	—	0.0%
0	0	0	0	0	0	2		
0	0	0	0	0	0	0		
0	0	0	0	0	0	0	—	0.0%
0	0	0	0	0	0	0		
5	3	4	3	5	8	54		
29	23	22	20	22	30	281	20.1	4.4%
504	390	417	459	493	529	5,639		
1,010	980	963	992	972	918	11,645		
1,018	973	969	1,023	943	1,075	11,687	11.0	100.0%
11,115	11,155	10,413	10,634	10,607	10,848	128,608		

表 8　入院患者年齢階級別数（令和 2 年）

（単位：人）

年齢別＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
～ 19	1	2	6	1	3	3	4	7	8	8	9	5	57	0.5%
20 ～ 29	10	11	7	15	9	10	12	11	13	8	16	7	129	1.1%
30 ～ 39	34	33	25	21	27	23	28	27	21	28	32	24	323	2.8%
40 ～ 49	70	60	82	64	66	81	69	63	67	73	83	62	840	7.2%
50 ～ 59	157	130	150	160	133	148	160	139	148	146	160	155	1,786	15.3%
60 ～ 64	127	95	108	105	90	104	102	91	95	100	106	100	1,223	10.5%
65 ～ 69	143	113	159	142	120	167	170	138	122	137	120	135	1,666	14.3%
70 ～ 74	197	184	199	203	176	218	205	234	219	224	220	184	2,463	21.2%
75以上	292	271	279	242	239	295	260	270	270	268	226	246	3,158	27.1%
合　計	**1,031**	**899**	**1,015**	**953**	**863**	**1,049**	**1,010**	**980**	**963**	**992**	**972**	**918**	**11,645**	**100.0%**

表９　入院患者地域別数（令和２年）

（単位：人）

市町村別＼月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
横浜市	595	514	612	550	530	616	619	591	595	616	598	545	6,981	59.9%
鶴見区	10	4	10	13	11	12	7	9	11	11	9	9	116	1.0%
神奈川区	19	13	21	22	21	22	22	11	19	22	26	25	243	2.1%
西区	11	12	15	14	13	7	13	8	10	7	12	10	132	1.1%
中区	3	2	4	4	5	8	8	7	8	8	11	8	76	0.7%
南区	13	12	21	12	17	16	14	19	16	13	16	10	179	1.5%
港南区	9	8	10	16	13	22	18	21	16	12	8	19	172	1.5%
保土ヶ谷区	48	42	55	48	42	50	36	55	51	47	43	46	563	4.8%
旭区	180	165	186	179	160	171	182	190	173	196	162	155	2,099	18.0%
磯子区	13	12	11	8	7	5	14	16	9	11	11	11	128	1.1%
金沢区	3	4	5	3	6	5	0	3	3	5	7	5	49	0.4%
港北区	22	11	13	17	17	25	20	18	22	24	27	15	231	2.0%
緑区	31	20	20	19	18	30	34	19	25	22	24	15	277	2.4%
戸塚区	46	44	60	43	46	45	54	47	47	47	50	39	568	4.9%
瀬谷区	88	64	68	59	63	84	72	68	84	72	77	74	873	7.5%
栄区	10	9	13	7	9	11	8	8	8	8	5	8	104	0.9%
泉区	51	58	53	45	50	53	63	54	55	61	67	53	663	5.7%
青葉区	17	16	27	18	15	20	18	19	17	22	24	23	236	2.0%
都筑区	21	18	20	23	17	30	36	19	21	28	19	20	272	2.3%
川崎市	14	18	22	25	28	24	34	30	23	21	32	36	307	2.6%
横須賀市	30	19	19	31	17	32	23	19	20	15	17	20	262	2.2%
平塚市	4	6	11	13	4	11	7	7	14	7	9	12	105	0.9%
鎌倉市	12	9	12	8	4	9	14	10	13	4	10	13	118	1.0%
藤沢市	42	35	41	27	31	43	36	34	38	43	54	40	464	4.0%
小田原市	3	4	4	6	5	4	4	8	12	9	5	5	69	0.6%
茅ヶ崎市	21	12	16	13	17	26	14	15	21	25	19	15	214	1.8%
逗子市	1	2	1	2	0	2	3	5	3	2	2	2	25	0.2%
相模原市	48	38	41	44	47	43	65	52	44	39	41	40	542	4.7%
三浦市	4	5	4	1	5	2	3	4	2	3	2	2	37	0.3%
秦野市	5	3	4	8	3	6	10	8	4	7	5	3	66	0.6%
厚木市	16	13	17	16	13	17	13	11	14	20	8	14	172	1.5%
大和市	60	61	70	69	50	66	62	69	46	54	60	59	726	6.2%
伊勢原市	3	2	1	1	2	3	10	6	0	0	3	3	34	0.3%
海老名市	28	25	24	27	24	34	28	23	24	26	13	15	291	2.5%
座間市	31	28	22	22	19	20	15	30	20	22	18	26	273	2.3%
南足柄市	0	3	4	0	1	3	5	1	3	7	2	2	31	0.3%
綾瀬市	21	20	22	28	19	24	23	20	24	20	28	18	267	2.3%
葉山町	0	0	3	3	1	2	2	1	4	0	2	2	20	0.2%
寒川町	6	9	3	2	2	4	5	11	4	5	3	3	57	0.5%
愛川町	0	0	0	2	2	4	1	2	3	3	2	3	22	0.2%
清川村	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
大磯町	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	0.0%
二宮町	2	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	0	7	0.1%
中井町	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.0%
大井町	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0.0%
松田町	1	0	2	2	1	0	0	0	1	1	0	0	8	0.1%
山北町	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3	0.0%
開成町	2	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	1	8	0.1%
箱根町	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0%
真鶴町	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	1	5	0.0%
湯河原町	0	0	1	1	1	0	0	2	3	3	0	1	12	0.1%
県内計	**949**	**827**	**958**	**903**	**829**	**998**	**999**	**961**	**938**	**955**	**936**	**882**	**11,135**	**95.6%**
県外計	**82**	**72**	**57**	**50**	**34**	**51**	**11**	**19**	**25**	**37**	**36**	**36**	**510**	**4.4%**
総計	**1,031**	**899**	**1,015**	**953**	**863**	**1,049**	**1,010**	**980**	**963**	**992**	**972**	**918**	**11,645**	**100.0%**

表10　科別死亡退院患者数・剖検数

月別		1			2			3			4			5			6		
科別	性別	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
内科		**0**	**0**	**0**	**2**	**2**	**4**	**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
		14	**5**	**19**	**15**	**12**	**27**	**14**	**3**	**17**	**10**	**4**	**14**	**19**	**4**	**23**	**7**	**4**	**11**
消化器内科	消化管							1		1									
		1	1	2	3		3	3		3		1	1	2		2	1	1	2
	肝胆膵				1		1												
		10	2	12	6	6	12	6	2	8	3	2	5	5	3	8	5	2	7
呼吸器内科					1	1	2												
		1	2	3	3	4	7	3	1	4	5	1	6	5		5	1		1
血液科																			
		1		1							1		1	2		2		1	1
腫瘍内科						1	1												
		1		1	3	2	5	2		2	1		1	5	1	6			
循環器内科																			
外科		**0**	**0**	**0**	**1**	**0**	**1**	**2**	**0**	**2**	**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
		7	**6**	**13**	**10**	**7**	**17**	**7**	**4**	**11**	**1**	**2**	**3**	**0**	**1**	**1**	**9**	**3**	**12**
消化器外科	胃食道																		
		3	1	4	2		2	2		2		1	1				1		1
	大腸																		
		2	1	3	2	1	3		1	1							1		1
	肝胆膵							1		1									
		1		1	1		1	1		1							1	1	2
呼吸器外科																			
								1		1							2		2
乳腺内分泌外科																			
			2	2					1	1					1	1	1	1	2
婦人科																			
			2	2		5	5		2	2									
泌尿器科								1		1									
					2		2	3		3							1		1
皮膚科																			
頭頸部外科																			
					2		2												
形成外科																			
脳神経外科					1		1				1		1						
					1		1				1		1				2		2
骨軟部腫瘍外科																			
		1		1		1	1					1	1					1	1
放射線腫瘍科																			
緩和ケア内科																			
		12	10	22	7	13	20	8	17	25	13	9	22	8	3	11	9	9	18
合計		**0**	**0**	**0**	**3**	**2**	**5**	**3**	**0**	**3**	**1**	**0**	**1**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
		33	**21**	**54**	**32**	**32**	**64**	**29**	**24**	**53**	**24**	**15**	**39**	**27**	**8**	**35**	**25**	**16**	**41**

※　ゴシックは各科合計数　　※　外来剖検数　なし

（令和２年）

上段の数字は剖検数　　剖検率1.6%　（単位：人）

7			8			9			10			11			12			合　計		
男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	5
12	3	15	9	6	15	6	7	13	15	9	24	14	3	17	8	7	15	143	67	210
																		1	0	1
1	1	2					1	1	4		4	1		1	1		1	17	5	22
																		1	0	1
5		5	3	2	5	2	2	4	5	6	11	4	2	6	3	5	8	57	34	91
																		1	1	2
6	1	7	6	3	9	4	3	7	3		3	7		7	4	1	5	48	16	64
																		0	0	0
				1	1					2	2	2	1	3				6	5	11
																		0	1	1
	1	1					1	1	3	1	4					1	1	15	7	22
																		0	0	0
																		0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	4
7	3	10	5	1	6	1	1	2	5	3	8	1	4	5	2	5	7	55	40	95
																		0	0	0
2		2	2		2				2		2	1		1	1	1	2	16	3	19
																		0	0	0
1		1	1		1													7	3	10
																		1	0	1
									1		1							5	1	6
																		0	0	0
						1		1		1	1							4	1	5
																		0	0	0
1	2	3					1	1		1	1		3	3	1		1	3	12	15
																		0	0	0
	1	1		1	1											3	3	0	14	14
																		1	0	1
3		3	2		2				1		1		1	1				12	1	13
																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
																		2	0	2
																		0	0	0
																		0	0	0
																		2	0	2
									1	1	2							5	1	6
																		0	0	0
																1	1	1	4	5
																		0	0	0
																		0	0	0
																		0	0	0
9	14	23	13	9	22	14	6	20	8	7	15	8	11	19	14	13	27	123	121	244
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	9
28	20	48	27	16	43	21	14	35	28	19	47	23	18	41	24	25	49	321	228	549

表11－(1)　臓器別・部位別手術件数（令和２年）

（単位：件）

臓器別分類	診療科	形成外科	呼吸器外科	乳腺内分泌外科	骨軟部腫瘍外科	消外胃食道	消外肝胆膵	消外大腸	頭頸部外科	脳神経外科	泌尿器科	皮膚科	婦人科	血液内科	腫瘍内科	合計
中枢神経系	脳									49						49
顔面頭頸部	咽頭								18							18
	喉頭								20							20
	舌・口腔								13							13
	副鼻腔								5							5
	唾液腺								18							18
内分泌	甲状腺			122												122
乳房胸部呼吸器	乳腺			32												32
	乳房	24		427												451
	気管		5	1		8			36	1			1	1		53
	胸腺		3													3
	縦隔		18			4										22
	肺		428			1										429
消化器	食道					68										68
	胃					174	1									175
	胃＋肝胆膵					6										6
	肝臓						48	23								71
	胆道						6									6
	胆嚢					3	16									19
	膵臓						139									139
	十二指腸					5	4									9
	小腸					2	4	10	1				1			18
	大腸					8	12	277					3			300
	腹膜				4	14	6	10			11		6			51
泌尿器生殖	腎										54					54
	腎・尿管										48		1			49
	膀胱										157		1			158
	前立腺										419					419
	睾丸・会陰							2			34					36
	子宮							1					228			229
	卵巣							2					66			68
	外陰												4			4
骨筋肉	悪性軟部				62											62
	悪性骨				14				5							19
	良性軟部	1			82											83
	良性骨				28											28
	転移骨				7											7
造血	骨髄													18		18
	リンパ	88	3	14	1	6		6	21		9					148
皮膚組織	頭部・頸部	5							1							6
	四肢				3											3
	皮下	20	1	4	7		1	2			2		3			40
	皮膚	12		2												14
全体	その他		10	2	9	14	6	6	6		1		6			60
総計		150	468	604	217	313	243	339	144	50	735	0	320	19	0	3,602

表11ー(2)　科別手術件数（令和２年）

（単位：件）

月別 診療科	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計	構成比 (%)
形成外科	10	14	14	10	5	10	11	12	7	22	18	16	**149**	4.1%
呼吸器外科	45	41	42	44	39	32	35	35	36	33	36	48	**466**	12.9%
総合内科内分泌														0.0%
骨軟腫瘍外科	14	13	19	22	12	19	18	18	19	24	20	19	**217**	6.0%
消外胃食道	20	24	24	26	27	29	24	26	34	31	20	27	**312**	8.7%
消外肝胆膵	25	22	20	19	15	22	23	19	18	20	19	18	**240**	6.7%
消外大腸	29	26	35	30	26	31	36	30	26	22	26	22	**339**	9.4%
消内肝胆膵														0.0%
消内消化管					1		1	1		1		1	**5**	0.1%
頭頸部外科	11	13	12	11	7	14	11	14	13	12	12	11	**141**	3.9%
乳腺科	56	52	58	58	53	53	50	46	39	45	50	44	**604**	16.8%
脳神経外科	1	8	2	5	5	7	2	5	6	1	3	3	**48**	1.3%
泌尿器科	66	56	71	64	52	64	54	64	59	67	53	65	**735**	20.5%
皮膚科														
婦人科	29	23	27	26	25	28	30	25	28	24	26	29	**320**	8.9%
血液内科	2	2	2	1	3		2	1		2	2	2	**19**	0.5%
腫瘍内科			1										**1**	0.0%
その他	2	1											**3**	0.1%
合　計	**310**	**295**	**327**	**316**	**270**	**309**	**297**	**296**	**285**	**304**	**285**	**305**	**3,599**	**100.0%**

表12　麻酔別手術件数（令和２年）

（単位：件）

月別 麻酔法	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計	構成比 (%)
全身麻酔	264	250	283	281	253	268	270	263	260	265	252	267	**3,176**	88.2%
局所麻酔	18	23	18	14	12	23	14	15	14	22	15	19	**207**	5.8%
腰椎麻酔	0	2	2	0	0	1	2	1	1	2	0	1	**12**	0.3%
静脈麻酔	28	20	24	21	6	17	10	17	10	14	19	18	**204**	5.7%
未分類														
合　計	**310**	**295**	**327**	**316**	**271**	**309**	**296**	**296**	**285**	**303**	**286**	**305**	**3,599**	**100.0%**

表13　放射線検査件数

撮影別	月別	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月	
		件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
単純撮影	頭部	4	8	13	33	10	20	11	25	15	32	16	34	7	12
	胸部	3,327	4,138	3,067	3,971	3,339	4,194	3,280	4,111	3,004	3,659	3,396	4,112	3,523	4,273
	腹部	1,181	1,929	1,194	2,138	1,236	2,177	1,232	2,118	1,059	1,802	1,206	2,058	1,299	2,211
	椎骨	31	58	27	50	28	51	31	48	32	53	30	56	26	42
	四肢骨	84	141	67	123	68	123	69	127	55	96	78	138	77	139
	乳房	274	1,853	328	2,195	336	2,327	285	1,871	236	1,608	250	1,627	323	2,155
	乳房生検	6	44	4	35	4	48	4	58	1	14	1	12	5	38
	軟部組織	48	107	39	78	43	89	42	86	41	88	42	92	34	75
	計	4,955	8,278	4,739	8,623	5,064	9,029	4,954	8,444	4,443	7,352	5,019	8,129	5,294	8,945
造影撮影	食道・胃	71	300	65	278	92	357	86	392	65	311	70	310	65	325
	注腸法	12	60	7	31	9	32	16	80	13	65	18	86	18	91
	胆嚢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	PTCD	34	123	29	92	39	115	37	140	17	56	12	37	21	75
	ERCP	162	442	162	368	152	316	157	373	183	465	161	423	180	456
	泌尿器	30	94	34	113	35	135	39	155	28	91	43	177	32	119
	ミエロ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血管	46	6,700	40	7,023	47	6,926	42	8,073	38	3,614	61	4,227	61	4,400
	その他	13	59	15	68	3	16	9	41	1	2	8	41	3	11
	計	368	7,778	352	7,973	377	7,897	386	9,254	345	4,604	373	5,301	380	5,477
特殊撮影	断層	54	55	53	53	58	58	54	54	57	57	68	69	59	61
	CT単純	2,376	241,959	1,976	204,635	2,298	227,470	2,139	214,458	2,087	207,987	2,661	268,687	2,523	250,789
	CT造影	4,254	463,740	3,866	433,818	4,750	514,226	4,281	463,869	3,847	411,391	4,690	500,737	4,526	474,472
	MRI	831	130,360	837	145,567	924	172,669	884	159,389	783	147,389	954	179,203	894	169,653
	計	7,515	836,114	6,732	784,073	8,030	914,423	7,358	837,770	6,774	766,824	8,373	948,696	8,002	894,975
総合計		12,838	852,170	11,823	800,669	13,471	931,349	12,698	855,468	11,562	778,780	13,765	962,126	13,676	909,397

（令和２年）

8　月		9　月		10　月		11　月		12　月		合　計		１日平均		構成比（%）	
件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数	件数	回数
12	24	13	30	6	13	6	11	7	16	120	258	0.6	1.3	0.08%	0.00%
3,500	4,233	3,472	4,247	3,565	4,304	3,496	4,276	3,695	4,482	40,664	50,000	203.3	250.0	25.89%	0.47%
1,224	2,063	1,261	2,159	1,176	2,001	1,155	1,948	1,216	2,088	14,439	24,692	72.2	123.5	9.19%	0.23%
24	39	28	45	31	50	33	57	20	37	341	586	1.7	2.9	0.22%	0.01%
68	114	72	130	75	130	106	185	67	128	886	1574	4.4	7.9	0.56%	0.01%
306	2,028	289	1,924	251	1,707	306	1,970	279	1,870	3,463	23,135	17.3	115.7	2.20%	0.22%
3	30	4	48	3	38	2	22	4	54	41	441	0.2	2.2	0.03%	0.00%
35	76	31	64	35	80	37	78	30	64	457	977	2.3	4.9	0.29%	0.01%
5,172	8,607	5,170	8,647	5,142	8,323	5,141	8,547	5,318	8,739	60,411	101,663	302.1	508.3	38.46%	0.96%
67	322	75	312	62	296	69	274	63	246	850	3,723	4.3	18.6	0.54%	0.04%
10	42	11	47	10	49	15	80	28	136	167	799	0.8	4.0	0.11%	0.01%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00%	0.00%
25	95	29	108	35	151	41	150	39	153	358	1,295	1.8	6.5	0.23%	0.01%
162	396	178	477	157	447	162	411	207	473	2023	5,047	10.1	25.2	1.29%	0.05%
51	201	32	124	38	164	35	153	43	173	440	1,699	2.2	8.5	0.28%	0.02%
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	0.0	0.00%	0.00%
61	4,839	52	6,689	63	7,102	55	7,519	63	9,403	629	76,515	3.1	382.6	0.40%	0.72%
14	73	7	36	6	32	11	59	3	8	93	446	0.5	2.2	0.06%	0.00%
390	5,968	384	7,793	371	8,241	388	8,646	446	10,592	4560	89,524	22.8	447.6	2.90%	0.84%
75	76	61	61	61	61	58	58	56	57	714	720	3.6	3.6	0.45%	0.01%
2,422	244,454	2,370	231,059	2,654	261,091	2,239	225,482	2,483	248,496	28,228	2,826,567	141.1	14,132.8	17.97%	26.65%
4,304	467,379	4,557	485,684	4,669	499,259	4,246	453,267	4,641	501,490	52,631	5,669,332	263.2	28,346.7	33.51%	53.44%
890	163,742	887	162,804	915	169,518	846	157,166	875	162,892	10,520	1,920,352	52.6	9,601.8	6.70%	18.10%
7,691	875,651	7,875	879,608	8,299	929,929	7,389	835,973	8,055	912,935	92,093	10,416,971	460.5	52,084.9	58.63%	98.20%
13,253	890,226	13,429	896,048	13,812	946,493	12,918	853,166	13,819	932,266	157,064	10,608,158	785.3	53,040.8	100.0%	100.0%

表14　放射線治療件数（光子線）（令和２年）

⑴第１リニアック

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 － 12 合計
脳	人数	3	1	2	2	4	4	5	4	2	2	4	3	36
	件数	3	1	2	2	4	4	5	4	2	2	4	3	36
	延人数	22	6	20	15	30	27	42	23	20	7	21	22	255
	延回数	88	24	80	60	120	110	176	92	80	28	84	88	1,030
頭頸部	人数			1	2	1				1	1			6
	件数			1	2	1				1	1			6
	延人数			18	31	19				16	17			101
	延回数			36	62	38				32	34			202
乳房	人数	25	34	35	29	26	31	33	35	28	31	33	31	371
	件数	35	43	49	43	40	44	47	58	47	52	52	48	558
	延人数	351	416	492	490	331	414	546	556	546	598	491	572	5,803
	延回数	1,349	1,605	1,793	1,748	1,157	1,478	2,036	1,927	1,918	2,128	1,779	2,071	20,989
胸部	人数		1				1	1		1	1			5
	件数		1				1	1		1	1			5
	延人数		10				2	8		2	8			30
	延回数		40				10	40		8	32			130
消化器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
婦人科	人数						1	1	1					3
	件数						1	1	1					3
	延人数						12	3	10					25
	延回数						12	3	40					55
骨／軟部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
血／リンパ	人数			1	2									3
	件数			1	2									3
	延人数			1	14									15
	延回数			4	46									50
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
全身	延人数	10	10	7	5	6	4	10	2	6	9	3	4	76
	延回数	36	38	26	20	24	14	38	8	24	31	12	16	287
合計	人数	28	36	39	35	31	37	40	40	32	35	37	34	424
	件数	38	45	53	49	45	50	54	63	51	56	56	51	611
	延人数	383	442	538	555	386	459	609	591	590	639	515	598	6,305
	延回数	1,473	1,707	1,939	1,936	1,339	1,624	2,293	2,067	2,062	2,253	1,875	2,175	22,743

⑵第２リニアック

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数	2	3	5	2	1	2		1	2	7	3	2	30
	件数	2	3	5	2	1	2		1	2	7	3	2	30
	延人数	7	10	34	20	9	11		10	24	43	15	21	204
	延回数	28	34	134	60	36	44		40	72	162	60	84	754
頭頸部	人数	1	1	1	2	1	4	4	5	1	1	1	2	24
	件数	1	1	1	3	1	5	12	6	1	1	2	3	37
	延人数	11	14	4	28	15	28	112	30	2	2	4	6	256
	延回数	22	28	8	96	60	124	430	105	8	16	16	24	937
乳房	人数	3	5	7	9	6	5	7	7	6	4	2	3	64
	件数	6	9	9	11	8	8	10	7	8	5	2	3	86
	延人数	61	86	82	94	41	64	88	44	66	72	4	21	723
	延回数	213	328	282	319	143	230	310	186	251	274	16	78	2,630
胸部	人数	5	9	12	9	6	5	4	5	6	2	2	2	67
	件数	6	13	14	11	9	5	5	5	7	3	2	2	82
	延人数	53	66	134	75	68	24	44	27	52	31	8	34	616
	延回数	192	198	505	279	289	98	131	71	138	62	16	102	2,081
消化器	人数	10	9	9	11	7	9	16	18	11	16	19	19	154
	件数	10	9	9	11	9	10	23	24	14	19	25	28	191
	延人数	113	82	110	105	71	82	167	201	155	171	215	276	1,748
	延回数	410	301	420	374	260	303	514	627	564	616	711	854	5,954
泌尿器	人数	1	3	1	1	1		2	3	3				15
	件数	1	3	1	1	1		2	3	3				15
	延人数	13	22	10	15	13		17	37	17				144
	延回数	52	61	20	45	39		82	148	68				515
前立腺	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
婦人科	人数	3	7	8	7	2	6	6	4	6	3	2	1	55
	件数	7	10	12	13	4	8	10	5	8	6	3	1	87
	延人数	52	48	117	90	19	82	49	23	68	34	10	17	609
	延回数	160	164	414	298	62	288	144	104	290	111	24	68	2,127
骨／軟部	人数	14	11	7	8	11	13	13	11	10	22	15	10	145
	件数	16	12	10	10	12	15	14	13	11	23	17	11	164
	延人数	89	50	83	69	58	91	79	75	72	134	96	64	960
	延回数	249	121	167	127	147	215	152	172	207	316	242	154	2,269
血／リンパ	人数	12	14	11	15	12	13	13	7	5	16	14	12	144
	件数	15	19	12	17	13	14	13	7	5	17	15	19	166
	延人数	101	148	118	125	137	147	116	85	30	162	96	125	1,390
	延回数	300	406	337	250	401	511	407	240	103	409	259	307	3,930
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数				2	2	1	2	3	1		1	1	13
	件数				2	2	1	2	3	1		1	1	13
	延人数				10	14	3	31	39	1		3	2	103
	延回数				27	33	3	82	90	3		6	4	248
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	51	62	61	66	49	58	67	64	51	71	59	52	711
	件数	64	79	73	81	60	68	91	74	60	81	70	70	871
	延人数	500	526	692	631	445	532	703	571	487	649	451	566	6,753
	延回数	1,626	1,641	2,287	1,875	1,470	1,816	2,252	1,783	1,704	1,966	1,350	1,675	21,445

⑶第３リニアック

区分 ＼ 月別		2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数	1					1		1	1	4	1	5	14
	件数	1					3		1	1	4	1	5	16
	延人数	10					3		10	10	38	15	50	136
	延回数	20					6		40	30	122	60	166	444
脳 IMRT	人数										1	1		2
	件数										1	1		2
	延人数										4	11		15
	延回数										8	22		30
頭頸部	人数											1	1	2
	件数											1	2	3
	延人数											5	20	25
	延回数											15	55	70
頭頂部 IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
乳房	人数	1												1
	件数	1												1
	延人数	1												1
	延回数	2												2
胸部	人数	2	2	2	4	4	3	5	4	3		1	2	32
	件数	3	3	3	4	4	3	5	5	3		1	2	36
	延人数	24	17	30	40	40	29	46	26	20		9	11	292
	延回数	78	34	84	136	108	100	97	54	58		18	22	789
胸部 IMRT	人数	4	2	1			4	6	3	2	2	1	2	27
	件数	4	2	1			6	6	3	2	2	1	2	29
	延人数	39	22	2			67	77	38	18	33	12	13	321
	延回数	132	52	4			173	184	96	36	66	24	33	800
消化器	人数	1	3	6	7	6	6	7	5	4	2	3	6	56
	件数	1	3	6	7	6	7	7	5	4	2	3	6	57
	延人数	20	16	63	55	43	65	37	46	64	22	20	72	523
	延回数	80	64	190	177	131	196	117	184	256	88	80	281	1,844
消化器 IMRT	人数	2	2	1	2	3	4	5	2		2	2	1	26
	件数	2	2	1	2	3	4	7	2		2	3	2	30
	延人数	17	30	3	25	34	50	49	22		18	29	6	283
	延回数	34	60	6	50	68	117	93	44		36	58	12	578
泌尿器	人数		4	2				3	2				1	12
	件数		4	3				3	2				1	13
	延人数		35	25				15	34				5	114
	延回数		137	80				47	104				20	388
泌尿器 IMRT	人数			1	2	2								5
	件数			1	3	2								6
	延人数			4	25	26								55
	延回数			8	50	52								110
前立腺	人数	1							1	1				3
	件数	1							1	1				3
	延人数	4							3	2				9
	延回数	8							6	4				18
前立腺 IMRT	人数	11	12	16	13	12	9	10	10	12	6	2	4	117
	件数	12	12	17	13	13	11	11	10	12	6	2	4	123
	延人数	113	153	192	190	146	115	115	153	139	65	22	48	1,451
	延回数	217	288	381	380	292	221	229	306	278	130	44	96	2,862

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
婦人科	人数	2	2	1			4	6	3	1	2	2	2	25
	件数	2	3	3			4	9	6	1	2	4	3	37
	延人数	17	23	31			18	78	34	8	7	22	23	261
	延回数	65	58	88			68	296	104	16	24	74	76	869
婦人科IMRT	人数	4	4	4	2	1	4	5	6	8	9	7	5	59
	件数	4	4	5	2	2	4	5	7	8	10	7	5	63
	延人数	46	54	60	12	13	54	65	71	80	106	101	34	696
	延回数	102	108	120	24	26	108	130	142	160	212	202	68	1,402
骨／軟部	人数	9	10	7	9	4	9	12	8	9	10	10	16	113
	件数	10	11	9	12	4	11	14	9	10	10	11	17	128
	延人数	51	72	49	65	26	37	60	28	56	47	25	89	605
	延回数	129	144	102	140	85	92	142	75	113	108	63	206	1,399
骨／軟部IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部SRT	人数											1		1
	件数											1		1
	延人数											5		5
	延回数											10		10
血／リンパ	人数	5	1	2	8	4	5	4	2	2	3	6	4	46
	件数	6	1	2	8	5	5	4	3	2	4	7	5	52
	延人数	27	1	13	67	22	12	20	7	15	34	60	29	307
	延回数	72	3	30	194	61	39	56	25	50	92	198	88	908
血／リンパIMRT	人数		1	2	2		1	1	1	2	3	4	2	19
	件数		1	2	2		1	1	1	2	3	4	2	19
	延人数		6	36	15		15	2	20	4	44	43	5	190
	延回数		12	72	30		45	4	40	8	88	86	10	395
原体	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数	2	1						1				1	5
	件数	2	1						1				1	5
	延人数	6	4						5				5	20
	延回数	24	16						10				10	60
その他IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	45	44	45	49	36	50	64	49	45	44	42	52	565
	件数	49	47	53	53	39	59	72	56	46	46	47	57	624
	延人数	375	433	508	494	350	465	564	497	416	418	379	410	5,309
	延回数	963	976	1,165	1,181	823	1,165	1,395	1,230	1,009	974	954	1,143	12,978

⑷第４リニアック

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数		1			1	1	1						4
	件数		1			1	1	1						4
	延人数		5			5	4	1						15
	延回数		20			10	20	5						55
脳 IMRT	人数		1	1		1	1	2	2					8
	件数		1	2		1	2	3	3					12
	延人数		6	19		7	18	38	14					102
	延回数		12	38		14	36	76	28					204
脳 SRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数	5	4				3	5	3	1		1	1	23
	件数	5	5				3	6	4	1		2	1	27
	延人数	22	25				15	33	32	5		10	5	147
	延回数	111	110				60	131	99	20		35	25	591
頭頸部 IMRT	人数	13	17	11	14	14	17	22	18	17	17	18	17	195
	件数	19	23	17	16	18	22	30	26	22	24	23	25	265
	延人数	195	167	137	159	183	207	300	243	186	244	227	226	2,474
	延回数	482	354	292	318	366	442	658	502	374	520	528	507	5,343
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
乳房 IMRT	人数						1	1						2
	件数						1	1						2
	延人数						16	9						25
	延回数						48	27						75
胸部	人数			1	2	3			1	2	2			11
	件数			1	2	3			1	2	2			11
	延人数			4	19	22			5	16	34			100
	延回数			8	38	49			10	76	156			337
胸部 IMRT	人数	7	3	6	6	6	4	2	5	6	6	8	9	68
	件数	7	3	6	6	6	4	2	5	6	6	8	9	68
	延人数	50	47	63	88	61	50	13	52	72	42	79	117	734
	延回数	138	160	164	233	149	121	39	150	193	102	180	237	1,866
胸部 SRT	人数	3	2	3	1		2	1	1	5	4	4	4	30
	件数	3	2	3	1		2	2	1	5	4	4	4	31
	延人数	16	8	12	4		8	8	4	20	20	17	15	132
	延回数	44	28	36	8		24	16	8	40	68	38	54	364
消化器 IMRT	人数	2	3	4	4	5	4	1	1	3	7	4		38
	件数	2	3	4	5	5	5	1	1	3	8	4		41
	延人数	6	43	45	47	49	66	4	15	24	66	20		385
	延回数	14	104	108	99	98	132	8	30	48	140	32		813
消化器 SRT	人数	1					1	2	3	1			1	9
	件数	1					1	2	3	1			1	9
	延人数	5					7	5	14	4			5	40
	延回数	20					14	12	41	28			10	125
消化器	人数			3	1	1	1	3	2	6	5			22
	件数			3	1	1	3	3	4	7	6			28
	延人数			26	17	9	22	17	25	38	70			224
	延回数			54	68	36	60	39	55	134	223			669
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器 IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数							1						1
	件数							1						1
	延人数							5						5
	延回数							25						25

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
前立腺 IMRT	人数		1	1	1			1	1	1				6
	件数		1	1	1			1	2	1				7
	延人数		4	21	5			7	20	3				60
	延回数		12	63	15			14	40	6				150
婦人科 IMRT	人数	2				1	1	1						5
	件数	2				1	1	1						5
	延人数	19				2	22	4						47
	延回数	45				4	44	8						101
婦人科	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部 IMRT	人数	1		1	1					1	1	1	1	7
	件数	1		1	1					1	1	1	2	8
	延人数	11		14	19					11	6	5	21	87
	延回数	22		42	57					22	12	10	42	207
骨／軟部 SRT	人数									1	1	1	1	4
	件数									1	2	1	1	5
	延人数									4	5	4	4	17
	延回数									8	10	8	8	34
血／リンパ	人数	2	1			3	2		1	2	3	2		16
	件数	2	1			5	2		2	2	3	2		19
	延人数	10	3			24	20		30	21	16	23		147
	延回数	25	6			71	76		60	47	48	85		418
血／リンパ IMRT	人数	3	4	4	3	6	8	6	4	6	7	5	6	62
	件数	4	4	4	3	6	10	7	5	8	7	5	8	71
	延人数	36	51	22	54	42	135	47	25	74	66	49	78	679
	延回数	104	120	51	108	86	288	108	50	148	122	98	156	1,439
血／リンパ SRT	人数							1	3	1			1	6
	件数							2	4	1			1	8
	延人数							6	22	2			10	40
	延回数							15	46	4			20	85
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数		1											1
	件数		1											1
	延人数		5											5
	延回数		15											15
その他 IMRT	人数		1	1								1		3
	件数		1	1								1		3
	延人数		3	17								4		24
	延回数		6	34								28		68
その他 SRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性 IMRT	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	39	39	36	33	41	46	50	45	53	53	45	41	521
	件数	46	46	43	36	47	57	63	61	61	63	51	52	626
	延人数	370	367	380	412	404	590	497	501	480	569	438	481	5,489
	延回数	1,005	947	890	944	883	1,365	1,181	1,119	1,148	1,401	1,042	1,059	12,984

⑸小線源治療

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
消化器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
婦人科	人数													
	件数													
	延人数	15	9	15	31	13	6	9	9	12	9	5	6	139
	延回数	15	9	15	31	13	6	9	9	12	9	5	6	139
骨／軟部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
血／リンパ	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
組織内	延人数	3		3			1	8	5	3	1	2	3	29
	延回数	3		3			1	8	5	3	1	2	3	29
合計	人数													
	件数													
	延人数	18	9	18	31	13	7	17	14	15	10	7	9	168
	延回数	18	9	18	31	13	7	17	14	15	10	7	9	168

表15　放射線治療件数（重粒子線）（令和２年）

⑴重粒子照射室１

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
消化器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数	19	41	31	24	24	30	28	31	29	29	29	24	339
	件数	19	41	31	24	24	30	28	31	29	29	29	24	339
	延人数	109	256	233	160	174	241	192	201	228	197	198	197	2,386
	延回数	109	256	233	160	174	241	192	201	228	197	198	197	2,386
婦人科	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
血／リンパ	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	19	41	31	24	24	30	28	31	29	29	29	24	339
	件数	19	41	31	24	24	30	28	31	29	29	29	24	339
	延人数	109	256	233	160	174	241	192	201	228	197	198	197	2,386
	延回数	109	256	233	160	174	241	192	201	228	197	198	197	2,386

（注）１．延人数：１部位の照射につき，１件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
　　２．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

⑵重粒子照射室２

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数										1	1	1	3
	件数										1	1	1	3
	延人数										11	4	16	31
	延回数										22	8	32	62
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数										1			1
	件数										1			1
	延人数										1			1
	延回数										2			2
消化器	人数			2	1	1		1	1		1			7
	件数			2	1	1		1	1		1			7
	延人数			2	6	10		1	1		1			21
	延回数			4	6	10		1	1		1			23
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数	26	30	32	30	26	21	19	28	33	26	23	20	314
	件数	26	30	32	30	26	21	19	28	33	26	23	20	314
	延人数	169	228	249	177	170	166	150	215	264	144	173	134	2,239
	延回数	169	228	249	177	170	166	150	215	264	144	173	134	2,239
婦人科	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
骨／軟部	人数							1	1	1	2	2	2	9
	件数							1	1	1	2	2	2	9
	延人数							9	7	1	14	6	22	59
	延回数							18	14	2	28	12	34	108
血／リンパ	人数												1	1
	件数												1	1
	延人数												1	1
	延回数												1	1
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	26	30	34	31	27	21	21	30	34	31	26	24	335
	件数	26	30	34	31	27	21	21	30	34	31	26	24	335
	延人数	169	228	251	183	180	166	160	223	265	171	183	173	2,352
	延回数	169	228	253	183	180	166	169	230	266	197	193	201	2,435

１．延人数：１部位の照射につき，１件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
２．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

⑶重粒子照射室３

区分	月別	2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1－12 合計
脳	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
頭頸部	人数	3	3	2	2	4	3	3	3	3	3	3	2	34
	件数	3	3	2	2	4	3	3	3	3	3	3	2	34
	延人数	25	33	15	21	35	15	27	21	22	20	20	16	270
	延回数	50	66	30	42	70	30	54	42	44	40	40	32	540
乳房	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
胸部	人数	3	1	1		2	1	1	2	1	2	2	3	19
	件数	3	1	1		2	1	1	2	1	2	2	3	19
	延人数	12	4	4		8	4	4	16	4	5	6	12	79
	延回数	24	8	8		16	8	8	20	8	10	12	24	146
消化器	人数	2	10	8	10	6	12	13	8	10	14	9	11	113
	件数	2	10	8	10	6	12	13	8	10	14	9	11	113
	延人数	6	82	38	64	20	63	98	54	66	116	54	80	741
	延回数	6	84	46	72	28	83	98	60	88	130	60	100	855
泌尿器	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
前立腺	人数	7	3	2			1	4	1	1	3			22
	件数	7	3	2			1	4	1	1	3			22
	延人数	38	22	11			9	4	1	4	3			92
	延回数	38	22	11			9	4	1	4	3			92
婦人科	人数			1	3	2			2	2		1	2	13
	件数			1	3	2			2	2		1	2	13
	延人数			6	32	10			22	10		4	22	106
	延回数			6	38	16			40	28		4	29	161
骨／軟部	人数	3	3	5	5	3	3	4	4	6	7	7	8	58
	件数	3	3	5	5	3	3	4	4	6	7	7	8	58
	延人数	16	30	39	32	31	24	34	24	65	38	66	52	451
	延回数	35	54	39	41	62	48	68	48	108	65	98	80	746
血／リンパ	人数	2	1						2	1			1	7
	件数	2	1						2	1			1	7
	延人数	15	10						15	9			11	60
	延回数	30	20						27	9			11	97
小児	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
その他	人数				1	1		1	1			1	1	6
	件数				1	1		1	1			1	1	6
	延人数				3	13		14	2			4	12	48
	延回数				3	13		28	4			8	24	80
良性	人数													
	件数													
	延人数													
	延回数													
合計	人数	20	21	19	21	18	20	26	23	24	29	23	28	272
	件数	20	21	19	21	18	20	26	23	24	29	23	28	272
	延人数	112	181	113	152	117	115	181	155	180	182	154	205	1,847
	延回数	183	254	140	196	205	178	260	242	289	248	222	300	2,717

（注）１．延人数：１部位の照射につき，１件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
２．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

⑷重粒子照射室４

区分 ＼ 月別		2020 1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	2021 1	2	3	1－12 合計
脳	人件数																
	延人数																
	延回数																
頭頸部	人件数																
	延人数																
	延回数																
乳房	人件数																
	延人数																
	延回数																
胸部	人件数																
	延人数																
	延回数																
消化器	人件数																
	延人数																
	延回数																
泌尿器	人件数																
	延人数																
	延回数																
前立腺	人件数													10			
	延人数													10			
	延回数													26			
														26			
婦人科	人件数																
	延人数																
	延回数																
骨／軟部	人件数																
	延人数																
	延回数																
血／リンパ	人件数																
	延人数																
	延回数																
小児	人件数																
	延人数																
	延回数																
その他	人件数																
	延人数																
	延回数																
良性	人件数																
	延人数																
	延回数																
合計	人件数													10			
	延人数													10			
	延回数													26			
														26			

（注）１．延人数：１部位の照射につき，１件とする．複数部位の場合は，その部位数に準じる．
　　２．延回数：運動照射の場合はアーク数とする．

⑸その他関連業務件数（重粒子）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
固定具作成	延人数	64	50	49	43	44	44	51	61	45	54	52	36	53
位置決めX線撮影	延人数	2	6	4	3	8	5	4	4	5	7	7	6	61
CTシミュレータ	延人数	59	51	44	49	42	44	52	60	44	56	49	35	585
治療関連	外部同期	4	9	7	7	5	11	9	6	8	11	5	13	95
	内部同期													0
保険	先進医療	5	9	6	9	5	11	9	11	8	12	6	13	104
	保険	38	48	38	34	34	34	36	41	45	34	43	23	448
	合計	43	57	44	43	39	45	45	52	53	46	49	36	552

表16　ラジオアイソトープ検査件数（体外測定）（令和２年）

検査項目			月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
シンチグラム	脳		人数													0
			SPECT													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	甲状腺摂取率	^{123}I	人数													0
			部分シンチ													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		^{99m}Tc	人数											1	1	2
			部分シンチ											1	1	2
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	甲状腺	^{131}I	人数	4	5	8	8	3	9	7	6	4	6	3	6	69
			全身シンチ	8	10	16	16	6	18	14	12	8	12	6	12	138
			部分シンチ													0
			SPECT		1	5	2			1	4	1	3		3	20
			業務件数	8	11	21	18	6	18	15	16	9	15	6	15	158
	副甲状腺		人数	1	1		1		1	1		1	1			7
			部分シンチ	4	4		4		4	4		4	4			28
			SPECT													0
			業務件数	4	4	0	4	0	4	4	0	4	4	0	0	28
	肺血流		人数		1		1		1					1		4
			部分シンチ		8		8		8					8		32
			SPECT		1		1		8					1		11
			業務件数	0	9	0	9	0	16	0	0	0	0	9	0	43
	心筋		人数	2	3	2	6	3	1	6	4	8	7	7	6	55
			部分シンチ	2	3	2	11	3	1	9	4	8	8	7	6	64
			SPECT	4	6	4	6	6	2	11	8	16	12	14	12	101
			業務件数	6	9	6	17	9	3	20	12	24	20	21	18	165
	肝・脾		人数													0
			部分シンチ													0
			SPECT													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	副腎		人数	2	1	1										4
			全身シンチ	4	2	2										8
			部分シンチ	4	2	2										8
			SPECT		1	1										2
			業務件数	8	5	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
	骨		人数	60	64	65	62	55	58	54	44	43	43	60	48	656
			全身シンチ	120	130	130	124	110	115	108	88	86	86	120	96	1,313
			部分シンチ	180	193	195	186	165	176	162	132	129	129	180	144	1,971
			SPECT		1	1			1				1	1		5
			業務件数	300	324	326	310	275	292	270	220	215	216	301	240	3,289
	骨髄（ゼヴァリンの確認含）		人数													0
			全身シンチ													0
			部分シンチ													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腫瘍	^{67}Ga	人数													0
			全身シンチ													0
			部分シンチ													0
			SPECT													0
			業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ソマトスタチン受容体 ^{111}In	人数	1		3	2	1	3			1	4	1		16
			全身シンチ	4		8	8	4	12			4	16	4		60
			部分シンチ	4		7	8	4	12			4	12	4		55
			SPECT	2		4	4	4	8			2	11	2		37
			業務件数	10	0	19	20	12	32	0	0	10	39	10	0	152
	センチネルリンパ節		人数	36	31	29	33	34	39	22	24	28	20	23	27	346
			全身シンチ													0
			部分シンチ	114	96	90	108	104	123	78	74	84	67	69	86	1,093
			SPECT													0
			業務件数	114	96	90	108	104	123	78	74	84	67	69	86	1,093

（つづき）

検査項目		月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
動態シンチグラム	心臓	人数											1		1
		部分シンチ											14		14
		SPECT											2		2
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	16
	肝胆道	人数													0
		部分シンチ													0
		SPECT													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腎動態（レノグラム）	人数		1											1
		部分シンチ		2											2
		血流件数（動態）		1											1
		業務件数	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	腹部	人数											1		1
		部分シンチ											4		4
		SPECT													
		血流件数											1		1
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	5
	上下肢動態	人数													0
		部分シンチ													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	人数													0
		全身シンチ													0
		部分シンチ													0
		血流件数													0
		業務件数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PET	PETCT	PET人数（早期）	223	212	238	227	169	219	213	192	232	251	216	232	2,624
		PET件数（早期）	8,810	8,447	9,722	9,085	6,774	8,792	8,475	7,615	9,265	9,940	8,570	9,235	104,730
		PET人数（後期）	2	1		3	1	1	1		3			3	15
		PET件数（後期）	80	40		125	45	45	50		130			90	605
		単純CT件数	225	217	238	230	170	220	214	192	235	251	216	235	2,643
		単純CT回数	54,320	52,397	57,666	56,182	41,567	53,737	52,013	46,715	57,309	60,693	52,298	57,103	642,000
		造影CT件数													0
		造影CT回数													0
		業務件数	63,210	60,884	67,388	65,392	48,386	62,574	60,538	54,330	66,704	70,633	60,868	66,428	747,335
合計		人数	329	319	346	340	265	331	303	270	317	332	314	320	3,786
		全身シンチ	136	142	156	148	120	145	122	100	98	114	130	108	1,519
		部分シンチ	308	308	296	325	276	324	253	210	229	220	287	237	3,273
		血流件数（動態）	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
		ECT	6	10	15	13	10	19	12	12	19	27	20	15	178
		業務件数	63,660	61,345	67,855	65,878	48,792	63,062	60,925	54,652	67,050	70,994	61,306	66,788	752,307

２日間にわたる検査でも１人とカウント。ゼヴァリンは撮影１人、治療１人とカウント。
PETの「業務件数」は「PET件数（早期）」「PET件数（後期）」「単純CT回数」の合計数。「単純CT件数」「単純CT回数」は別表の件数と単純スライス。合計の「ECT」と「データ処理」は別表から記入。

放射性同位元素内用療法人数（非密封線源治療）

区分		月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
放射性同位元素内用療法		甲状腺治療（入院治療）	3	3	5	4	2	5	4	3	3	4	3	3	42
		甲状腺治療（外来アブレーション）	1	3	3	4	1	4	2	4	1			3	26
		ゼヴァリンによるRI標識抗体療法													0
		塩化ラジウムを用いたRI内用療法	1												1
		放射性同位元素内用療法人数	5	6	8	8	3	9	6	7	4	4	3	6	69

表17ー(1) 臨 床 検 査 統 計

分類		令和２年１月～12月の院内検査統計											
大分類	中分類	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月
1 一般	一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ａ．尿一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｂ．糞便一般検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｃ．髄液検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｚ．その他（穿刺液）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 血液	血液学的検査	5,939	5,662	5,997	5,886	5,386	6,065	6,160	5,943	6,040	6,096	5,834	6,150
	Ａ．血液一般形態検査	5,772	5,491	5,813	5,699	5,246	5,886	5,978	5,749	5,864	5,905	5,634	5,959
	Ｂ．凝固・線溶検査	166	170	184	187	139	179	182	194	176	191	200	191
	Ｃ．血球化学検査	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	Ｚ．その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3 生化学	生化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ａ．蛋白・膠質反応	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｂ．酵素及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｃ．低分子・窒素化合物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｄ．糖質及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｅ、Ｆ．脂質及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｇ．ビタミン及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｈ．電解質・血液ガス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｉ．生体微量金属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｊ．生体色素関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ＬＭ．薬物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｚ．その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	再記	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（５～７）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（８～９）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	生化学丸め（10以上）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 内分泌	内分泌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ａ．下垂体ホルモン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ＢＣ．甲状腺・副甲状腺H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ＤＥ．副腎皮質・副腎髄質H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｆ．性腺・胎盤H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｇ．消化管H	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ＨＺ．ホルモン受容体・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 免疫	免疫学的検査	4,666	4,326	4,629	4,418	3,695	4,207	4,265	4,312	4,330	4,422	4,340	4,477
	Ａ．免疫グロブリン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｂ．補体及び関連物質	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｃ．血漿蛋白	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｄ．腫瘍関連抗原	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｅ．非ウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ＦＧ．ウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｈ．輸血免疫検査	4,341	4,026	4,373	4,276	3,584	4,065	4,118	4,186	4,193	4,267	4,195	4,311
	Ｉ．細胞性免疫検査	111	122	107	87	89	103	104	97	101	121	104	113
	Ｊ．サイトカイン	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	K,Ｚ．その他	214	178	149	55	22	39	43	29	36	34	41	53
6 微生物	細菌学的検査	1,728	1,575	1,534	1,577	1,589	1,833	1,984	1,823	1,780	1,624	1,898	3,218
	Ａ．塗抹・形態検査	305	275	295	295	286	332	333	321	311	306	320	1,821
	Ｂ．培養検査	674	593	548	627	583	702	767	715	707	568	725	671
	Ｂ．同定検査	447	386	404	420	428	476	529	461	460	456	500	406
	Ｃ．薬剤感受性（一般細菌）	300	234	253	235	267	313	348	317	285	270	298	240
	Ｃ．薬剤感受性（抗酸菌）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｚ．その他	2	87	34	0	25	10	7	9	17	24	55	80
7 病理	病理学的検査	13,658	13,308	14,609	14,472	5,309	7,805	12,431	12,924	12,251	13,035	12,868	8,841
	Ａ．細胞診検査	1,913	1,676	1,999	1,798	1,883	1,889	1,865	1,776	1,935	2,010	1,868	2,058
	Ｂ．病理組織（生検組織）検査	1,598	1,659	1,717	1,687	568	1,692	1,419	1,824	1,272	1,728	1,690	1,821
	Ｂ．病理組織（試験切除）検査	595	523	466	352	204	453	491	412	405	442	348	381
	Ｂ．病理組織（手術切除）検査	9,105	9,168	9,827	10,365	2,527	3,537	8,456	8,772	8,491	8,740	8,769	4,476
	Ｃ．迅速凍結組織検査	206	162	175	145	121	146	114	130	148	115	131	105
	Ｄ．電子顕微鏡検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｚ．病理組織（剖検）検査	241	115	422	124	5	88	86	10	0	0	62	0
	Ｚ．解剖（体数）	0	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	0
8 その他	その他検体検査	25	8	25	9	10	24	12	10	13	17	7	19
	Ａ．負荷試験・機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｂ．遺伝子関連検査	25	8	25	9	10	24	12	10	13	17	7	19
	Ｃ．腫瘍分子検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｚ．その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 生理検査	生理機能検査	3,610	3,435	3,845	3,538	2,913	3,520	3,561	3,612	3,499	3,889	3,597	3,699
	Ａ．循環器機能検査	930	871	966	933	733	836	893	910	854	991	890	939
	Ｂ．脳・神経機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	Ｃ．呼吸器機能検査	944	952	1,014	988	728	890	962	974	958	1,068	986	976
	Ｄ．前庭・聴力検査	4	4	6	6	2	8	4	6	4	2	4	8
	Ｆ．超音波検査	1,732	1,608	1,859	1,611	1,450	1,786	1,702	1,722	1,683	1,828	1,717	1,776
	Ｚ．その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		29,626	28,314	30,639	29,900	18,902	23,454	28,413	28,624	27,913	29,083	28,544	26,404

（令和２年）

（単位：件）

令和２年１月～12月の院内委託検査統計												各種検査総合計		
１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	院内検査	院内委託	院内合計
5,084	4,611	4,883	5,023	4,340	4,943	5,138	4,871	4,982	4,812	4,818	5,061	0	58,566	58,566
4,919	4,472	4,762	4,851	4,192	4,786	4,959	4,740	4,781	4,663	4,647	4,863	0	56,635	56,635
38	30	39	40	39	40	46	34	51	57	33	53	0	500	500
56	72	48	88	72	68	96	56	76	68	88	76	0	864	864
71	37	34	44	37	49	37	41	74	24	50	69	0	567	567
23,754	22,597	24,072	23,354	21,152	24,149	24,460	23,893	24,150	24,283	23,645	24,415	71,158	283,924	355,082
17,754	16,859	17,875	17,537	16,065	18,129	18,456	17,729	18,052	18,061	17,373	18,165	68,996	212,055	281,051
5,984	5,719	6,188	5,801	5,083	6,016	5,999	6,158	6,096	6,220	6,268	6,243	2,159	71,775	73,934
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
16	19	9	16	4	4	5	6	2	2	4	7	0	94	94
185,639	175,971	187,002	182,675	167,392	190,682	194,349	186,434	190,502	179,546	173,923	180,527	0	2,194,642	2,194,642
20,774	19,800	21,092	20,526	18,692	21,238	21,771	20,652	21,184	21,121	20,399	21,269	0	248,518	248,518
63,367	59,941	64,017	62,617	57,470	65,472	66,277	63,754	65,334	65,213	63,016	65,580	0	762,058	762,058
26,838	25,207	26,832	26,238	24,167	27,654	28,134	26,825	27,415	27,390	26,657	27,487	0	320,844	320,844
10,107	9,664	10,178	10,001	9,009	10,430	10,859	10,368	10,587	0	0	0	0	91,203	91,203
4,015	3,915	3,994	3,782	3,593	3,991	3,873	3,939	4,193	4,054	4,023	4,069	0	47,441	47,441
36	30	24	31	25	27	30	26	32	44	33	30	0	368	368
45,006	42,711	45,336	44,354	40,502	46,104	46,960	45,207	45,953	46,018	44,616	46,355	0	539,122	539,122
787	708	687	604	617	787	912	831	782	785	736	690	0	8,926	8,926
14,511	13,779	14,580	14,303	13,138	14,789	15,279	14,629	14,803	14,729	14,267	14,854	0	173,661	173,661
198	216	262	219	179	190	254	203	219	192	176	193	0	2,501	2,501
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11,428	10,807	11,493	11,239	10,322	11,707	11,884	11,412	11,648	11,644	11,257	11,723	0	5,468	5,468
71	68	76	93	94	100	93	82	106	85	81	90	0	135	135
140	105	102	132	132	116	100	113	95	114	106	106	0	188	188
11,217	10,634	11,315	11,014	10,096	11,491	11,691	11,217	11,447	11,445	11,070	11,527	0	5,145	5,145
104	58	70	70	70	60	46	78	62	92	78	58	0	846	846
24	18	17	19	23	19	19	31	21	29	20	22	0	262	262
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
52	29	35	35	35	30	23	39	31	46	39	29	0	423	423
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	11	18	16	12	11	4	8	10	17	19	7	0	161	161
25,517	24,341	25,792	24,724	22,742	25,816	25,650	25,589	25,772	26,228	25,366	26,025	52,087	303,562	355,649
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10,683	10,005	10,669	10,442	9,607	10,939	11,123	10,641	10,855	10,896	10,524	10,981	0	127,365	127,365
10,956	10,423	10,856	10,352	10,030	11,087	10,851	10,927	10,983	11,222	10,954	11,112	0	129,753	129,753
1,511	1,558	1,643	1,516	1,231	1,463	1,460	1,583	1,561	1,615	1,538	1,571	0	18,250	18,250
2,367	2,355	2,624	2,414	1,874	2,327	2,216	2,438	2,373	2,495	2,350	2,361	0	28,194	28,194
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	49,935	0	49,935
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,259	0	1,259
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	893	0	893
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,163	0	22,163
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,200	0	5,200
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,880	0	7,880
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,373	0	5,373
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3,360	0	3,360
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	350	0	350
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	141,511	0	141,511
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,670	0	22,670
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18,675	0	18,675
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,072	0	5,072
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	92,233	0	92,233
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,698	0	1,698
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,153	0	1,153
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10
109	316	100	105	91	116	127	99	113	118	108	114	179	1,516	1,695
93	299	87	87	72	88	98	81	91	80	81	79	0	1,236	1,236
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	179	0	179
16	17	13	18	19	28	29	18	22	38	27	35	0	280	280
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	42,718	0	42,718
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10,746	0	10,746
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11,440	0	11,440
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58	0	58
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20,474	0	20,474
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
240,207	227,894	241,919	235,951	215,787	245,766	249,770	240,964	245,581	235,079	227,938	236,200	329,816	2,843,056	3,172,872

表17ー⑵　病理検査（7A ～ 7Z）詳細（令和２年）

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
7 A　細胞診　中計	1,913	1,676	1,999	1,798	1,587	1,889	1,865	1,776	1,935	2,010	1,868	2,058	22,374
婦人科　子宮膣・頚部	634	507	554	529	483	638	623	546	592	655	588	627	6,976
子宮体部	200	180	196	184	148	226	203	179	218	218	209	242	2,403
外陰・卵巣等	1	2	3	4	5	3	1	5	2	4	7	4	41
呼吸器科　喀　痰	4	12	0	0	10	4	0	0	4	0	0	8	42
気管支	108	103	112	82	110	104	112	118	95	164	122	153	1,383
穿　刺	8	6	38	31	10	5	2	4	10	6	1	8	129
消化器	89	98	117	127	73	76	102	97	113	98	88	117	1,195
泌尿器	125	92	111	82	84	100	95	98	117	111	107	138	1,260
体膣液．髄液	324	309	371	373	321	341	348	349	398	352	369	351	4,206
造血器．リンパ	83	55	127	101	84	72	62	95	75	99	50	87	990
乳腺	70	72	83	31	34	42	55	55	18	34	48	42	584
甲状腺	77	49	67	37	27	43	40	30	38	65	53	80	606
軟部組織	0	6	0	0	0	10	4	0	3	5	5	0	33
その他	0	4	0	0	0	4	0	0	8	0	4	0	20
免疫細胞診検査	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
特殊染色	179	177	212	209	190	195	202	196	236	187	213	197	2,393
術中迅速細胞診	11	4	8	8	6	26	16	4	8	12	4	4	111
7 B　病理組織検査中計	11,298	11,350	12,010	12,404	9,832	10,974	10,366	11,008	10,168	10,910	10,807	11,301	132,404
7B-1　生検組織小計	1,598	1,659	1,717	1,687	1,224	1,692	1,419	1,824	1,272	1,728	1,690	1,821	19,331
1臓器	1,219	1,117	1,267	1,179	925	1,214	1,085	1,144	1,008	1,332	1,229	1,417	14,136
2臓器	279	506	361	455	288	394	297	508	250	336	332	347	4,353
3臓器	100	36	89	53	11	84	37	172	14	60	129	57	842
7B-2　試験切除小計	595	523	466	352	278	453	491	412	405	442	348	381	5,146
1臓器	353	346	296	264	233	327	292	261	241	322	223	277	3,435
2臓器	134	119	104	54	31	74	132	127	87	84	88	68	1,102
3臓器	108	58	66	34	14	52	67	24	77	36	37	36	609
7B-3　手　術　小　計	9,105	9,168	9,827	10,365	8,330	8,829	8,456	8,772	8,491	8,740	8,769	9,099	107,927
7B-3-1　手術切除	4,793	4,542	4,756	5,355	4,424	4,722	4,377	4,528	4,350	4,304	4,268	4,476	54,895
1臓器	943	691	951	868	843	825	709	510	1,014	831	656	732	9,573
2臓器	2,693	2,992	2,635	3,262	2,861	2,840	2,476	2,523	2,204	2,525	2,481	2,642	32,134
3臓器	1,157	859	1,170	1,225	720	1,057	1,192	1,495	1,132	948	1,131	1,102	13,188
7B-3-2　組織診断のみ	1,146	1,492	1,695	1,347	1,088	887	1,051	1,195	984	1,020	1,106	1,146	14,157
組織診断	1,146	1,492	1,695	1,347	1,088	887	1,051	1,195	984	1,020	1,106	1,146	14,157
7B-3-3　免疫組織・特殊	3,166	3,134	3,376	3,663	2,818	3,220	3,028	3,049	3,157	3,416	3,395	3,477	38,875
免疫組織化学検査	1,384	1,300	1,550	1,747	1,340	1,539	1,414	1,462	1,547	1,663	1,766	1,613	18,325
特殊染色	1,449	1,526	1,400	1,529	1,209	1,313	1,286	1,234	1,287	1,440	1,301	1,533	16,507
特殊免疫染色①（ER/PgR/Her-2）	237	232	304	291	207	275	248	245	219	229	246	229	2,962
特殊免疫染色②（EGFR）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
特殊免疫染色③（DISH）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
FISH	42	34	64	50	22	34	22	44	30	30	24	36	432
ALK結合ﾀﾝﾊﾟｸ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PDL-1	52	40	58	46	38	59	58	56	70	52	56	64	649
EWSR1・MDM2	2	2	0	0	2	0	0	8	4	2	2	2	24
7 C　迅速凍結組織検査中計	206	162	175	145	141	146	114	130	148	115	131	105	1,718
組織検査	194	149	159	135	139	141	102	125	138	105	120	101	1,608
特殊染色	12	13	16	10	2	5	12	5	10	10	11	4	110
7 D　電子顕微鏡検査中計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
電顕　透過型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 Z　解剖中計	241	115	422	124	70	88	86	10	0	0	62	0	1,218
7Z-1　解剖（体数）	0	5	3	1	0			0	0	0	0	0	9
7Z-2　剖検　小計	241	110	419	123	70	88	86	10	0	0	62	0	1,209
剖検切除組織	143	99	348	58	61	0	0	0	0	0	62	0	771
免疫組織化学検査	64	4	26	4	6	67	52	6	0	0	0	0	229
特殊染色	34	7	45	61	3	21	34	4	0	0	0	0	209
合　計	13,658	13,303	14,606	14,471	11,630	13,097	12,431	12,924	12,251	13,035	12,868	13,464	157,714

病理組織件数

病理組織	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
生検件数	652	630	754	635	527	636	610	626	599	694	617	685	7,665
試切件数	139	110	116	85	76	98	116	93	91	110	100	100	1,234
手術件数	218	202	220	239	199	218	198	211	202	205	199	208	2,519
合　計	1,009	942	1,090	959	802	952	924	930	892	1,009	916	993	11,418

細胞診検査件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
婦人科件数	413	343	357	352	327	424	405	374	396	436	391	414	4,632
その他件数	303	278	334	296	250	279	291	277	307	314	296	331	3,556
合　計	716	621	691	648	577	703	696	651	703	750	687	745	8,188

表17ー(3)　血液形態検査（2A ～ 2B・5I・8B）詳細（令和２年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
2A	血液形態小計	5,696	5,426	5,728	5,634	5,155	5,812	5,910	5,677	5,793	5,824	5,566	5,877	68,991
	血液像	5,515	5241	5,536	5,476	5,016	5,637	5,746	5,500	5,630	5,628	5,404	5,679	66,008
	骨髄像	76	83	85	65	68	74	68	72	71	81	68	82	893
	骨髄細胞数	76	83	85	65	68	74	68	72	71	81	68	82	1,786
	特殊染色	29	19	22	28	3	27	28	33	21	34	26	34	304
2B	血液凝固小計	165	169	184	187	138	179	182	194	176	191	200	191	2,156
	出血時間	165	169	184	187	138	179	182	194	176	191	200	191	2,156
5I	細胞性免疫小計	109	122	127	87	89	103	104	103	101	121	104	113	1,283
	造血器悪性腫瘍	83	90	94	75	70	90	80	82	78	101	86	96	1,025
	Ｔｗｅ-ｃｏｌｏＴ	4	2	5	6	2	3	3	4	1	2	1	1	34
	細胞百分率	2	1	1	0	0	0	1	1	2	1	0	1	10
	B細胞表面マーカ		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	20	29	27	6	17	10	20	16	20	17	17	15	214
8B	染色体小計	25	8	25	9	10	22	12	10	13	17	7	19	177
	異性間染色体	7	7	13	7	6	11	6	5	7	8	3	11	91
	その他	18	1	12	2	4	11	6	5	6	9	4	8	86
合計		5,995	5,725	6,064	5,917	5,392	6,116	6,208	5,984	6,083	6,153	5,877	6,200	72,607

表17ー(4)　細菌検査（6A ～ 6Z）詳細（令和２年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
一般細菌小計		1,375	1,185	1,223	1,279	1,277	1,483	1,609	1,433	1,427	1,316	1,470	1,309	16,386
	塗沫	272	241	257	265	259	295	297	288	276	258	282	282	3,272
	培養	356	324	309	359	323	399	435	367	406	332	390	381	4,381
	同定	447	386	404	420	428	476	529	461	460	456	500	406	5,373
	感受性	300	234	253	235	267	313	348	317	285	270	298	240	3,360
好酸菌小計		33	34	38	30	27	37	36	33	35	48	38	47	436
	塗沫	33	34	38	30	27	37	36	33	35	48	38	47	436
	培養	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液培養小計		318	269	239	268	260	303	332	348	301	236	335	290	3,499
	培養	318	269	239	268	260	303	332	348	301	236	335	290	3,499
環境・感染症他小計		216	265	183	55	47	49	50	38	53	58	96	133	1,243
	クロストリジウムD－1毒素	27	16	15	28	12	33	34	27	32	20	23	35	302
	大腸菌ベロトキシン検出検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ	169	139	123	23	2	2	1	0	0	2	8	5	474
	ノロウイルス	11	10	10	0	0	0	1	0	0	8	8	8	56
	肺炎球菌莢膜抗原	4	7	1	2	4	2	4	1	2	2	1	2	32
	レジオネラ抗原	3	6	0	2	4	2	3	1	2	2	1	3	29
	ＨＨＶ－6													0
	その他（5月からR2含む）	2	87	34	0	25	10	7	9	17	24	55	80	350
合　計		1,942	1,753	1,683	1,632	1,611	1,872	2,027	1,852	1,816	1,658	1,939	1,779	21,564

表17ー(5)　生理機能・超音波検査（9A ～ 9Z）詳細（令和２年）

（単位：件）

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
9A	心電図検査	930	871	966	933	733	836	893	910	854	991	890	939	10,746
	標準心電図	873	821	913	890	700	792	840	880	819	945	850	893	10,216
	ポータブル心電図	27	21	11	13	16	16	23	15	16	25	26	17	226
	ホルター型心電図	12	13	15	8	1	9	10	2	7	6	3	11	97
	トレッドミル負荷心機能検査	18	16	27	22	16	19	20	13	12	15	11	18	207
	タリウムシンチ負荷心機能検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9B	脳波検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	覚醒脳波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	覚醒・睡眠脳波	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9C	呼吸機能検査	944	952	1,014	988	728	890	962	974	958	1,068	986	976	11,440
	肺気量分画測定	416	413	452	439	315	390	424	429	412	467	431	424	5,012
	フローボリウム（強制呼出曲線）	416	413	452	439	315	390	424	429	412	467	431	424	5,012
	機能的残気量	56	63	55	55	49	55	57	58	67	67	62	64	708
	肺拡散能力検査	56	63	55	55	49	55	57	58	67	67	62	64	708
	最大換気量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クロージングボリウム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9D	聴力 9F眼科	4	4	6	6	2	8	4	6	4	2	4	8	58
	標準純音聴力検査	2	2	3	3	1	5	2	4	2	1	2	5	32
	チンパノメトリー	2	2	3	3	1	3	2	2	2	1	2	3	26
9F	超音波検査	1,732	1,608	1,859	1,611	1,450	1,786	1,702	1,722	1,683	1,828	1,717	1,776	19,350
	心臓断層+Mモード法	220	209	237	220	184	218	214	225	209	235	216	242	2,629
	心臓Pドップラー法	215	204	233	216	181	214	207	218	205	233	213	235	2,574
	頚部断層撮影法	193	204	209	166	168	225	199	227	202	220	207	209	2,429
	頚部Pドップラー法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	乳房断層撮影法	199	212	275	188	150	195	212	202	227	207	191	214	2,472
	乳房Pドップラー法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	腹部断層撮影法	237	199	227	213	224	247	228	233	204	236	259	239	2,746
	腹部Pドップラー法	1	2	2	1	0	1	2	0	0	3	2	4	18
	他の断層撮影法	55	31	53	42	43	46	46	46	48	44	44	34	532
	他のPドップラー法	13	8	25	16	11	8	15	12	13	14	5	10	150
	造影エコー	27	35	32	23	16	27	24	23	28	39	24	30	328
	婦人科断層法	209	199	229	194	195	259	229	211	248	272	230	255	2,730
	泌尿器科	78	81	95	95	90	85	90	87	87	99	87	87	1,061
	放射線治療科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	手術室	70	59	64	59	49	57	57	59	51	57	54	56	692
	その他（血管エコー）	101	71	85	86	64	95	85	81	77	80	87	77	989
	その他（フィブロスキャン+血管Pドップラー）	114	94	93	92	75	109	94	98	84	89	98	84	1,124
	合計	3,610	3,435	3,845	3,538	2,913	3,520	3,561	3,612	3,499	3,889	3,597	3,699	41,594

表17ー(6)　治験検体処理検査（8C）詳細（令和２年）

（単位：件）

分類	項　　目	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	院内合計
検体種類	末梢血	1,039	1,140	1,367	1,188	1,160	1,336	1,396	1,341	1,419	1,468	1,460	1,434	15,748
	尿	12	9	7	15	7	11	7	3	4	8	18	9	110
	骨髄血	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	1	1	6
	胆汁	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	子宮頚部擦過細胞	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	唾液	0	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
	気管支擦過・洗浄液	0	0	0	0	0		0	0	0	0	0	0	0
	胸水	2	2	0	2	6	2	0	0	8	4	4	6	36
	便	17	26	34	27	28	26	28	37	32	32	33	22	342
	組織	30	24	44	28	30	29	30	30	21	41	29	35	371
	その他	20	23	38	13	19		18	23	19	22	36	31	262
	再生医療製品	0	0	0	0	0		0	0		0	0	0	0
	検体種別合計	**1,120**	**1,224**	**1,490**	**1,277**	**1,250**	**1,404**	**1,479**	**1,439**	**1,503**	**1,575**	**1,581**	**1,538**	**16,880**
特殊作業	有核細胞採取	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	5
	標本作成	11	8	6	12	7	5	13	14	8	9	8	8	109
	トロポニン測定	2	6	8	3	4	7	4	5	10	1	3	4	57
	尿定性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血糖値測定		1	1	4	1	1	0	0	0	0	0	0	8
	合　計	**13**	**15**	**15**	**19**	**12**	**14**	**18**	**20**	**18**	**11**	**12**	**12**	**179**
依頼件数	遺伝外来（その他）	5	27	49	15	34	37	32	35	33	27	53	37	384
	治　　験	162	166	190	180	150	181	170	163	167	184	173	162	2,048
	研　　究	258	251	320	287	277	305	339	326	336	336	328	349	3,712
	合　計	**425**	**444**	**559**	**482**	**461**	**523**	**541**	**524**	**536**	**547**	**554**	**548**	**6,144**

表17ー⑺　輸血検査（5H）詳細（令和２年）

⑴輸血検査件数

（単位：件）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
ABO式及びRh式血液型	999	934	1,021	994	819	944	939	976	982	995	970	1,001	11,574
不規則抗体検査	999	934	1,021	994	819	944	939	976	982	995	970	1,001	11,574
交差試験（バッグ数）	49	60	50	51	43	44	45	11	9	23	33	22	440
コンピュータークロスマッチ（バッグ数）	242	165	185	191	219	198	265	253	244	238	243	258	2,701
直接クームス	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
間接クームス	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
不規則抗体同定	5	4	4	7	3	2	0	7	3	3	6	5	49
同種血球凝集素価	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
血液型亜型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑵血液製剤使用状況

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
赤血球製剤	使用	バッグ	257	187	222	205	233	203	245	233	209	227	237	240	2,698
		単位	514	374	444	410	466	406	490	466	418	454	474	480	5,396
	廃棄	バッグ	2	4	1	5	2	3	1	0	1	0	1	3	23
		単位	4	8	2	10	4	6	2	0	2	0	2	6	46
新鮮凍結血漿	使用	バッグ	21	5	11	1	12	57	21	16	13	21	18	21	217
		ℓ	5.04	1.20	2.64	0.24	2.88	15.12	5.04	3.84	3.12	5.04	4.32	5.04	52.08
	廃棄	バッグ	0	0	0	0	3	1	5	0	0	0	0	0	9
		ℓ	0	0	0	0	0.72	0.24	1.20	0	0	0	0	0	2.16
濃厚血小板	使用	バッグ	159	174	219	151	148	170	174	130	151	105	151	159	1,891
		単位	1,660	1,750	2,240	1,550	1,500	1,730	1,760	1,320	1,595	1,110	1,540	1,590	19,345
	廃棄	バッグ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		単位	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	0	20
自己血（全血）	採取	バッグ	13	15	15	17	17	8	17	14	17	16	17	18	184
		単位	25	28	30	33	33	16	31	26	34	31	33	36	356
	使用	バッグ	9	10	11	8	15	10	13	9	13	11	10	18	137
		単位	17	19	21	15	30	20	24	16	25	22	18	36	263
	廃棄	バッグ	4	2	6	3	9	2	1	0	5	2	6	7	47
		単位	8	4	12	6	18	4	2	0	10	4	12	14	94
アルブミン製剤	使用	25% 50ml（本）	54	42	41	35	51	31	47	45	54	59	88	60	607
		5% 250ml（本）	30	14	29	19	14	26	19	17	26	21	19	11	245
		合計 g	1,050	700	875	675	813	713	825	775	1,000	1,000	1,338	888	10,650

赤血球製剤（赤血球液、洗浄赤血球液、解凍赤血球液、合成血液、人全血液）

表17 ー(8)　委託検査の概要（令和２年）

(1)委託検査依頼患者数　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
依頼患者数　外　来	11,902	11,333	12,343	12,191	10,932	12,258	12,329	11,588	12,218	12,440	11,622	12,059	143,215
依頼患者数　入　院	5,552	4,942	5,206	5,262	4,906	5,430	5,674	5,699	5,323	5,164	5,091	5,520	63,769
依頼患者数　内日直	1,213	1,069	841	798	1,169	658	745	1,045	871	697	895	1,013	11,014
依頼患者数　全　体	17,454	16,275	17,549	17,453	15,838	17,688	18,003	17,287	17,541	17,604	16,713	17,579	206,984
稼働１日平均患者数	563	561	566	582	511	590	581	558	585	568	557	567	566
稼　働　日　数	31	29	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	366
外　来　／　入　院（%）	2.14	2.29	2.37	2.32	2.23	2.26	2.17	2.03	2.30	2.41	2.28	2.18	2.25

(2)委託検査患者数の年動態　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
H28年　依　頼　患　者　数	13,948	14,816	15,778	14,483	14,478	15,546	14,698	16,130	15,552	15,795	15,702	15,146	182,072
H29年　依　頼　患　者　数	14,882	14,901	16,802	14,586	15,353	15,977	15,116	16,482	15,191	16,360	16,400	15,923	187,973
H30年　依　頼　患　者　数	15,040	15,009	16,340	15,102	16,698	15,651	16,224	17,542	15,236	17,122	16,919	16,100	192,983
R 1年　依　頼　患　者　数	16,339	16,436	16,957	17,525	17,537	16,860	17,946	17,465	16,614	17,804	17,083	17,698	206,264
R 2年　依　頼　患　者　数	17,454	16,275	17,549	17,453	15,838	17,688	18,003	17,287	17,541	17,604	16,713	17,579	206,984

(3)委託検査　生化学丸め検査件数　（単位：人）

項　目　数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合　計
包括項目１　５～７	71	68	76	93	94	100	93	82	106	85	81	90	1,039
包括項目２　８～９	140	105	102	132	132	116	100	113	95	114	106	106	1,361
包括項目３　10～14	4,552	4,247	4,598	4,563	4,169	4,629	4,589	4,399	4,469	4,578	4,334	4,498	53,625
包括項目３　15～19	5,833	5,638	5,946	5,663	5,245	6,054	6,294	6,032	6,154	6,044	5,854	6,167	70,924
包括項目３　20以上	832	749	771	788	682	808	808	786	824	823	882	862	9,615
合　　計	11,428	10,807	11,493	11,239	10,322	11,707	11,884	11,412	11,648	11,644	11,257	11,723	136,564
15～29項目合計	6,665	6,387	6,717	6,451	5,927	6,862	7,102	6,818	6,978	6,867	6,736	7,029	67,487

表17ー⑼　日直・当直検査の詳細（令和２年）

⑴土曜・祭日等休日および当直の輸血検査業務内容　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日直日数・当直日数	31	29	31	30	31	30	31	31	30	31	30	31	366
血液型・交差試験（人）	278	234	207	198	248	193	237	225	199	143	237	134	2,533
入庫件数	22	21	21	15	19	20	17	19	19	19	19	24	235
出庫件数	122	98	87	66	111	77	94	103	86	79	113	96	1,132
返品件数	1	6	2	1	0	3	2	2	4	5	10	2	38
血培（人）塗沫、グラム（土）	16	2	4	2	8	5	7	8	2	8	10	11	83
インフルエンザ（人）	70	51	49	12	1	0	0	0	0	1	4	6	194
ノロウイルス（人）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
検体預かり（人）	215	212	164	185	203	171	194	229	196	171	201	237	2,378
病理処理（人）	3	7	3	12	9	12	3	10	9	5	5	5	83

＊交差試験・入庫・照射・出庫の件数はそれぞれ１人１件として数えています。

⑵土曜・祭日等休日の委託検査への検査依頼患者数　（単位：人）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
日直日数	12	11	10	9	13	8	10	11	10	10	11	11	126
検体検査外来患者数	211	195	154	134	195	86	113	118	86	70	70	95	1,527
検体検査入院患者数	1,002	874	687	664	974	572	632	927	785	627	825	918	9,487
検体検査合計患者数	1,213	1,069	841	798	1,169	658	745	1,045	871	697	895	1,013	11,014

表18　内視鏡室実績（2020年）

（単位：件）

令和２年	１月	２月	３月	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	合計
EGD	480	444	464	399	383	462	453	449	463	493	484	473	5,447
CS	167	145	179	144	95	153	145	123	135	167	149	141	1,743
ERCP	67	70	69	61	80	76	82	74	82	75	64	88	888
BF	42	36	48	44	47	40	36	37	32	49	38	51	500
EUS（EBUS含）	60	62	81	49	47	56	58	64	55	78	64	78	752
FNA	16	22	22	21	14	25	15	19	18	26	16	29	243
食道EMR・ESD[+]	8	9	6	7	6	7	5	5	7	4	5	7	76
胃・十二指腸EMR・ESD[++]	22	14	14	11	6	9	12	11	11	15	19	16	160
大腸EMR・ESD[+++] ・cold polypectomy	96	72	85	56	44	72	75	55	57	67	64	62	804
EVL	0	1	3	0	1	3	3	0	1	1	4	2	19
（ERCP 下治療）	98	79	85	81	110	83	106	85	101	87	87	110	1,112
消化管バルーン拡張	17	11	12	11	16	24	37	32	18	22	32	31	263
消化管ステント	12	8	10	6	5	5	5	5	8	5	16	7	92
胃瘻造設・交換	3	3	7	8	3	5	4	8	9	10	9	5	74
内視鏡的止血術*	14	24	21	16	16	10	10	20	10	11	13	13	178
緊急内視鏡	83	77	81	83	106	107	107	94	93	70	79	83	1,063
生検件数	225	177	198	171	162	182	171	155	181	182	181	172	2,157

* 止血内訳（EMR・ESD後予防的止血含む）

[+]食道EMR・ESD内訳

EMR	0	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	0	5
ESD	8	9	6	6	6	4	5	5	6	4	5	7	71

[++]胃・十二指腸EMR・ESD内訳

EMR	2	0	0	0	0	1	2	1	0	1	1	0	8
ESD	19	14	14	11	6	8	10	12	11	14	18	15	152

胃・十二指腸内訳

胃EMR	1	0	0	0	0	1	2	0	0	1	1	0	6
胃ESD	19	14	14	11	6	8	10	12	11	14	18	15	145
十二指腸EMR＋ Cold Polypectomy	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2
十二指腸ESD	1	0	1	1	0	1	0	0	0	2	0	1	7

[+++]大腸EMR+cold polypectomy・ESD内訳

EMR + Cold polypectomy***	86	65	78	51	40	67	69	52	54	60	63	59	744
ESD	11	7	7	5	4	5	6	4	3	7	1	3	60

表19　外来化学療法室／処置室／外来採血室実績（令和２年）

⑴外来化学療法室業務量　（単位：件）

月　　別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
外来化学療法	2,236	2,039	2,223	2,198	2,143	2,215	2,237	2,032	2,025	2,129	2,093	2,343	25,913
注射（皮下・筋肉）	581	486	516	540	550	519	572	624	488	395	651	808	6,730

⑵処置室業務量　（単位：件）

月　　別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
点　　滴	100	103	136	142	143	135	131	106	112	100	112	130	1,450
輸　　血	63	46	57	51	48	54	75	52	48	40	50	65	649
処　置　等	378	303	330	394	319	339	367	319	378	299	395	603	4,424

※ 処置には、ネブライザーなどの件数も含む

⑶外来化学療法数の年次推移（平成20年度～令和２年度）　（単位：件）

年　度　別	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年	令和２年
化　学　療　法	12,130	12,323	11,747	11,785	11,624	12,565	15,067	16,377	18,594	19,933	22,403	24,299	25,913

⑷外来採血室業務量

月　　別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
採　　血（件）	8,556	8,201	8,882	8,430	7,689	8,834	8,926	8,273	8,830	8,922	8,482	8,813	102,838
日平均件数（件）	450	456	423	402	427	402	425	414	442	406	447	441	

表20　薬剤科業務統計

⑴薬剤件数

⑴―１　調剤数

薬剤内訳 ＼ 月別		1月	2月	3月	4月	5月	6月
外来	処方箋枚数	776	730	749	717	620	686
	調剤数	1,301	1,227	1,228	1,189	1,023	1,153
	延剤数	15,359	14,017	14,829	16,257	13,646	14,542
入院	処方箋枚数	7,169	6,658	7,046	7,756	6,356	7,182
	調剤数	11,246	10,445	10,751	11,607	9,717	11,064
	延剤数	57,328	52,900	54,090	60,691	49,070	56,306
院外	処方箋枚数	7,330	7,158	7,753	7,664	6,738	7,542
計	処方箋枚数	15,275	14,546	15,548	16,137	13,714	15,410
	調剤数	12,547	11,672	11,979	12,796	10,740	12,217
	延剤数	72,687	66,917	68,919	76,948	62,716	70,848

⑴―２　注射箋枚数

	1月	2月	3月	4月	5月
注射箋枚数	59,097	53,016	52,027	51,118	49,037
（うち麻薬注射箋枚数）	2,451	2,031	1,737	1,406	1,222
入院化学療法無菌製剤件数	934	762	851	892	778
外来化学療法無菌製剤件数	2,230	2,068	2,267	2,292	2,094

⑴―３　注射剤本数

（単位：本）

区分	室温保存薬品				冷所保存薬品			合計
	100mℓ未満	100mℓ～500mℓ未満	500mℓ以上	計	100mℓ未満	100mℓ以上	計	
年計	683,494	281,210	179,099	1,143,803	83,410	60	83,470	1,227,273
日平均	2,790	1,148	731	4,669	340	0	341	5,009

⑵医薬品情報（D.I）業務件数

項目 ＼ 月別	1月	2月	3月	4月	5月	6月
薬品名	32	30	31	30	26	28
新薬・治験薬	0	0	0	0	0	0
効能・効果	64	60	63	60	51	56
用法・用量	321	301	313	301	257	282
使用方法	1	0	1	2	1	2
副作用	3	3	1	1	1	1
保管方法	3	2	0	0	1	1
使用期限	3	0	2	0	1	1
他剤併用（他科）	1	2	0	0	1	0
他剤併用（他院）	3	3	0	0	0	0
他剤併用（市販薬）	2	0	0	0	0	0
配合変化	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0
計	433	401	411	394	339	371

⑶薬剤管理指導業務

		1月	2月	3月	4月	5月
外来	人数	802	753	783	752	643
	薬剤情報提供料算定件数	339	292	295	288	258
入院	人数	505	413	506	546	476
	薬剤管理指導料算定件数	554	464	559	574	489
	（うち退院加算件数）	0	0	1	1	0
	（うち麻薬加算件数）	5	4	6	6	3
	実施回数	702	583	663	623	523

（2020年）

今年は245日　　（単位：件）

7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	一日平均	構成比（%）
792	678	759	751	722	718	35.5	4.7
1,324	1,170	1,208	1,181	1,133	1,197	58.5	
15,957	14,232	15,547	14,883	13,981	16,936	735.5	
7,467	7,393	7,251	7,252	7,258	7,635	352.7	46.7
11,435	11,168	11,312	11,281	11,201	12,292	545.0	
59,805	57,179	59,110	59,073	56,794	65,141	2,806.1	
7,880	7,159	7,710	7,892	7,366	7,914	367.8	48.6
16,139	15,230	15,720	15,895	15,346	16,267	756.0	
12,759	12,338	12,520	12,462	12,334	13,489	603.5	
75,762	71,411	74,657	73,956	70,775	82,077	3,541.5	

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合　　計
51,192	56,614	53,095	51,687	51,277	52,234	51,324	631,718
1,548	1,746	1,350	1,473	1,457	1,550	1,614	19,585
870	937	781	806	904	725	806	10,046
2,275	2,346	2,210	2,287	2,318	2,096	2,092	26,575

(1)－4　製剤数

区　　分	内用液剤（mℓ）	外用液剤（g）	軟膏剤（g）	注射剤（mℓ）	坐薬（個）	ｶﾞｰｾﾞ（含抗生物質）（枚）
非　滅　菌　製　剤	0	130,595	9,840	0	0	0
滅　菌　製　剤	0	223,715	0	10	0	120
合　計	0	354,310	9,840	10	0	120

（単位：件）

7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	一日平均	構成比（%）
33	28	31	31	30	30	1.5	7.6
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
66	56	62	62	60	60	2.9	15.1
331	282	311	310	298	299	14.7	75.8
2	1	2	0	1	1	0.1	0.3
1	1	2	2	1	2	0.1	0.4
0	2	0	1	1	1	0.0	0.3
0	0	2	3	0	0	0.0	0.3
0	0	0	0	0	1	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
0	0	0	0	0	1	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
0	0	0	0	0	0	0.0	0.0
433	370	410	409	391	395	19.4	

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	合　　計
704	827	704	778	776	746	748	9,016
268	337	299	274	306	271	305	3,532
610	594	577	581	548	512	488	6,356
631	630	622	601	596	536	526	6,782
1	0	1	0	1	0	0	5
3	6	2	3	5	3	2	48
701	682	669	657	686	592	616	7,697

⑷麻薬使用数量

	単位	1月	2月	3月	4月	5月
アヘンチンキ	㎖	123	41	101.5	54	69
イーフェンバッカル錠 50μg	錠	113	105	83	25	73
イーフェンバッカル錠 100μg	錠	206	111	66	24	8
イーフェンバッカル錠 200μg	錠	214	168	66	0	0
MSコンチン錠 10mg	錠	30	160	160	204	284
MSコンチン錠 30mg	錠	0	0	0	30	80
オキシコドン徐放錠 5mg	錠	1,354	1,048	1,689	1,409	1,137
オキシコドン徐放錠 10mg	錠	1,964	1,352	2,672	2,756	1,916
オキシコドン徐放錠 40mg	錠	581	478	548	551	727
オキノーム散 2.5mg	包	1,596	1,051	1,292	1,267	1,253
オキノーム散 5mg	包	1,067	570	902	996	678
オキノーム散 10mg	包	662	664	584	1,097	781
オキノーム散 20mg	包	603	367	392	493	484
オプソ内服液 5mg	包	848	1,051	791	608	606
オプソ内服液 10mg	包	130	111	79	0	40
タペンタ錠 25mg	錠	192	118	148	6	118
タペンタ錠 50mg	錠	223	310	100	168	84
ナルサス錠 2mg	錠	186	171	106	232	129
ナルサス錠 6mg	錠	102	138	126	102	77
ナルラピド錠 1mg	錠	177	245	159	520	428
モルペス細粒2% 10mg/包	包	311	488	406	88	161
コデインリン酸塩錠 20mg	錠	372	708	510	543	669
内服トータル		11,054	9,455	10,980.5	11,173	9,802
アンペック坐剤 10mg	個	46	16	2	6	10
アンペック坐剤 20mg	個	2	0	0	2	0
フェンタニルクエン酸塩テープ「第一三共」 1mg	枚	294	255	268	362	389
フェンタニルクエン酸塩テープ「第一三共」 2mg	枚	324	299	207	173	204
フェンタニルクエン酸塩テープ「第一三共」 4mg	枚	67	114	73	54	52
フェンタニルクエン酸塩テープ「第一三共」 6mg	枚	84	53	36	4	23
フェンタニルクエン酸塩テープ「第一三共」 8mg	枚	210	59	32	0	28
フェンタニルクエン酸塩テープ「テイコク」 1mg	枚	0	0	0	0	0
フェンタニルクエン酸塩テープ「テイコク」 2mg	枚	0	0	0	0	0
フェンタニルクエン酸塩テープ「テイコク」 4mg	枚	0	0	0	0	0
フェンタニルクエン酸塩テープ「テイコク」 6mg	枚	0	0	0	0	0
フェンタニルクエン酸塩テープ「テイコク」 8mg	枚	0	0	0	0	0
外用トータル		1,027	796	618	601	706
オキファスト 10mg	A	90	93	160	46	67
オキファスト 50mg	A	234	163	78	54	30
ケタラール 200mg 20㎖	㎖	60	0	20	0	0
ナルベイン注 2mg	A	4	30	4	8	36
ナルベイン注 20mg	A	0	0	0	0	0
フェンタニル注射液 0.1mg	A	847	874	377	8	4
フェンタニル注射液 0.5mg	A	520	251	6	0	0
フェンタニル注射液「テルモ」 0.1mg	A	0	28	615	836	777
フェンタニル注射液「テルモ」 0.5mg	A	0	147	448	363	323
ペチジン塩酸塩注射液 35mg	A	216	195	240	187	136
モルヒネ塩酸塩注射液 10mg	A	136	134	110	129	122
モルヒネ塩酸塩注射液 50mg	A	242	320	173	106	96
塩酸モルヒネ注射液 200mg	A	248	146	119	52	2
レミフェンタニル静注用 2mg	A	306	326	336	345	313
注射トータル	本	2,903	2,707	2,686	2,134	1,906

今年は366日

6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	計	1 日平均
51	10.5	109	75.5	166	206.5	126	1,133	3.10
192	112	169	129	145	133	114	1,393	3.81
47	34	102	14	43	47	68	770	2.10
56	0	12	0	15	40	0	571	1.56
314	331	21	11	165	64	122	1,866	5.10
70	0	0	0	0	0	0	180	0.49
1,649	1,770	1,749	1,345	1,720	1,826	2,203	18,899	51.64
2,622	2,812	3,466	3,139	2,549	2,516	2,828	30,592	83.58
710	674	218	160	136	518	300	5,601	15.30
1,449	1,381	1,467	1,279	1,487	1,174	1,940	16,636	45.45
904	1,454	1,301	845	1,292	1,155	1,193	12,357	33.76
1,305	1,305	958	1,254	1,347	1,133	1,368	12,458	34.04
386	533	203	123	82	428	478	4,572	12.49
1,277	1,556	1,674	1,440	941	879	925	12,596	34.42
162	579	374	233	141	157	73	2,079	5.68
94	150	66	10	0	0	15	917	2.51
208	182	84	198	224	438	44	2,263	6.18
169	249	208	161	268	149	142	2,170	5.93
284	488	277	91	108	139	236	2,168	5.92
673	882	916	289	296	452	486	5,523	15.09
282	712	570	141	277	329	305	4,070	11.12
716	355	503	737	438	564	542	6,657	18.19
13,620	15,569.5	14,447	11,674.5	11,840	12,347.5	13,508	145,471	397.46
7	10	55	4	68	34	37	295	0.81
7	0	34	0	12	0	0	57	0.16
401	408	349	386	501	19	0	3,632	9.92
240	252	293	301	373	171	0	2,837	7.75
65	37	132	81	78	8	2	763	2.08
49	17	53	51	51	37	15	473	1.29
30	37	50	0	16	36	52	550	1.50
0	0	0	0	0	47	289	336	0.92
0	0	0	0	0	123	293	416	1.14
0	0	0	0	0	76	54	130	0.36
0	0	0	0	0	0	15	15	0.04
0	0	0	0	0	0	54	54	0.15
799	761	966	823	1,099	551	811	9,558	26.11
26	52	88	37	94	59	53	865	2.36
89	227	68	116	126	168	194	1,547	4.23
20	0	0	0	0	20	0	120	0.33
93	0	0	31	4	6	16	232	0.63
3	0	0	8	0	0	8	19	0.05
1	0	0	0	0	0	0	2,111	5.77
0	0	0	0	0	0	0	777	2.12
866	824	811	899	750	757	703	7,866	21.49
304	386	363	409	334	341	309	3,727	10.18
191	193	169	173	0	0	54	1,754	4.79
139	123	43	102	99	196	79	1,412	0.11
212	243	100	116	64	212	165	2,049	0.16
12	61	224	14	2	5	0	885	2.42
345	339	332	313	312	329	309	3,905	10.67
2,301	2,448	2,198	2,218	1,785	2,093	1,890	27,269	74.51

表21ー(1)　患 者 給 食 数（令和２年）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	1日平均	構成比
常　　食	8,172	8,250	8,223	9,070	8,561	9,517	9,655	9,626	8,420	9,097	9,237	9,430	107,258	293.1	39%
軟　流　動	3,385	3,129	3,265	2,699	2,270	3,169	3,065	2,775	2,590	2,737	2,675	2,315	34,074	93.1	12%
（ 全 粥 ）	1,971	1,653	1,907	1,406	1,101	1,770	1,785	1,590	1,364	1,616	1,576	1,321	19,060	52.1	7%
（ 5 分 粥 ）	770	661	499	550	450	643	675	456	463	430	489	413	6,499	17.8	2%
（ 3 分 粥 ）	332	461	470	355	337	423	353	452	385	297	317	266	4,448	12.2	2%
（ 流 動 食 ）	312	354	389	388	382	333	252	277	378	394	293	315	4,067	11.1	1%
がん治療支援食	5,670	5,298	4,994	5,417	5,597	4,987	5,524	6,674	6,146	5,564	5,732	6,765	68,368	186.8	25%
特別食（治療食）	5,709	6,106	6,482	5,648	5,037	4,618	4,920	5,104	5,096	4,962	4,610	4,656	62,948	172.0	23%
検　　食	186	174	186	180	186	180	186	186	180	186	180	186	2,196	6.0	1%
総　　数	23,122	22,957	23,150	23,014	21,651	22,471	23,350	24,365	22,432	22,546	22,434	23,352	274,844	751	100%

がん治療支援食とは、特別食には該当しないが、がん治療中の栄養状態維持を目的に症状、病態に合わせて準備している食種を分類した。

表21ー(2)　栄養相談・指導数（令和２年）

区分 ＼ 月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
外　　来	指 導 件 数	250	225	195	213	228	227	222	193	224	193	194	217	2,581
入　　院	指 導 件 数	583	570	607	561	454	542	534	527	508	489	482	487	6,344
総　　数	指 導 件 数	833	795	802	774	682	769	756	720	732	682	676	704	8,925

表22　退院患者年齢階級別性別数（令和２年）

（単位：人）

年齢別	月別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	構成比（%）
～19	男		1	1		4			4	5	9	7	3	34	0.5
	女	1	1	3	1	1	3	2	2	3	1	1	2	21	
	計	1	2	4	1	5	3	2	6	8	10	8	5	55	
20～24	男		2	4	4	3	2	5	2	4	1	1	1	29	0.4
	女	1	1		1	3	2	1		4	2	2	2	19	
	計	1	3	4	5	6	4	6	2	8	3	3	3	48	
25～29	男	5	5	3	6	6	4	5	2	2	4	6	3	51	0.7
	女	2	4	2	2		1	3	5	3	4	7	1	34	
	計	7	9	5	8	6	5	8	7	5	8	13	4	85	
30～34	男	10	11	6	6	5	8	5	5	6	7	7	8	84	1.3
	女	6	4	10	5	7	1	2	4	4	8	7	7	65	
	計	16	15	16	11	12	9	7	9	10	15	14	15	149	
35～39	男	4	11	6	4	8	8	10	5	6	7	6	8	83	1.5
	女	8	12	8	7	7	8	9	10	7	8	5	8	97	
	計	12	23	14	11	15	16	19	15	13	15	11	16	180	
40～44	男	7	14	6	5	11	10	11	9	10	7	11	13	114	2.8
	女	17	17	24	9	15	16	20	18	21	14	22	15	208	
	計	24	31	30	14	26	26	31	27	31	21	33	28	322	
45～49	男	10	16	21	20	26	27	23	12	18	18	27	18	236	4.4
	女	21	20	24	29	24	17	21	24	21	25	22	30	278	
	計	31	36	45	49	50	44	44	36	39	43	49	48	514	
50～54	男	35	36	37	35	23	32	36	20	33	24	28	40	379	6.4
	女	22	32	23	31	33	38	32	27	37	33	27	35	370	
	計	57	68	60	66	56	70	68	47	70	57	55	75	749	
55～59	男	37	44	44	50	44	41	48	43	50	46	58	59	564	8.9
	女	42	32	38	41	40	39	39	40	38	39	45	48	481	
	計	79	76	82	91	84	80	87	83	88	85	103	107	1,045	
60～64	男	59	63	63	59	58	68	63	58	55	49	67	57	719	10.4
	女	41	37	50	37	36	40	33	47	25	56	41	56	499	
	計	100	100	113	96	94	108	96	105	80	105	108	113	1,218	
65～69	男	86	67	105	87	86	96	105	89	83	91	61	94	1,050	14.4
	女	47	53	45	57	52	50	68	48	49	51	46	67	633	
	計	133	120	150	144	138	146	173	137	132	142	107	161	1,683	
70～74	男	92	114	126	122	124	130	122	148	148	165	132	161	1,584	21.1
	女	67	80	76	78	62	72	83	76	74	73	77	70	888	
	計	159	194	202	200	186	202	205	224	222	238	209	231	2,472	
75～79	男	84	92	100	99	91	96	95	87	99	94	78	105	1,120	15.9
	女	57	69	66	57	47	61	71	72	64	66	47	56	733	
	計	141	161	166	156	138	157	166	159	163	160	125	161	1,853	
80～	男	62	75	73	59	60	62	79	78	61	75	67	62	813	11.3
	女	40	57	41	46	37	46	29	38	39	46	38	46	503	
	計	102	132	114	105	97	108	108	116	100	121	105	108	1,316	
合計	男	491	551	595	556	549	584	607	562	580	597	556	632	6,860	100.0
	女	372	419	410	401	364	394	413	411	389	426	387	443	4,829	
	計	863	970	1,005	957	913	978	1,020	973	969	1,023	943	1,075	11,689	

表23　退院患者地域別数（令和２年）

（　）は上皮内癌　退院内数　（単位：人）

主部位別 / 地区別	計				食道	胃	結腸	直腸	肝	胆道・胆嚢	膵	肺	乳	子宮頚	子宮体	前立腺	膀胱	甲状腺	悪性リンパ腫	白血病（MDS）	他	悪性腫瘍構成比（%）	地区別構成比（%）
	合計	悪性新生物	上皮内	非悪性新生物																			
計	11,689	10,553	(240)	1,136	729 (2)	654 0	394 (17)	363 (4)	578 0	431 (3)	1,601 (6)	1,317 (5)	658 (55)	311 (62)	219 0	367 0	299 (56)	158 0	527 (1)	300 (21)	1,647 (8)	90.3	
横浜市	7,013	6,295	(171)	718	489 (2)	428	247 (14)	196 (3)	331	179 (1)	807 (2)	819 (2)	511 (46)	190 (44)	163	273	196 (45)	77	321 (1)	136 (5)	932 (6)	53.9	60.0
鶴見区	118	112	(3)	6	9			3	3	6	17	20	11	1	4	2	4 (2)	2	3	7	20 (1)	1.0	1.0
神奈川区	242	221	(3)	21	6	5	6	10	18	11	43	32	13	4 (2)	6	3	3 (1)	2	9	9	41	1.9	2.1
西区	130	120	(5)	10	10	15	5	1	8	1	13	17	12 (2)	3 (3)	2	1			7	5	20	1.0	1.1
中区	76	72		4	5	12	5	3	3		17	12	6			1	1	1	3		3	0.6	0.7
南区	182	159	(2)	23	22	5	7	1	4	1	18	13	5 (1)	5 (1)	4	6	10	4	3	1	50	1.4	1.6
保土ヶ谷区	565	513	(15)	52	29	52	33 (1)	17	31	5	88	59	46 (3)	19 (4)	4	26	14 (6)	6	17	1	66 (1)	4.4	4.8
磯子区	130	118	(5)	12	10	6	2	4	14	2	13 (1)	24	16 (4)	1		3		5	1	4	13	1.0	1.1
金沢区	50	41	(1)	9	11	5	2		6		1	1	1	10 (1)		1			1		2	0.4	0.4
港北区	231	208	(2)	23	27	4	8	1	11	4	54	22	4	21	1	11		1	7	6 (2)	26	1.8	2.0
戸塚区	566	505	(21)	61	47	48	16 (1)	14	21	11	63	50	42 (6)	22 (8)	23	20	10 (3)	8	28	10 (1)	72 (2)	4.3	4.8
港南区	175	164	(3)	11	10	6	9	1	15	6	12	18	13 (1)	4	3	7	4 (2)	3	2	1	50	1.4	1.5
旭区	2,118	1,860	(57)	258	138 (1)	162	84 (6)	80 (2)	87	32 (1)	189 (1)	261 (1)	183 (16)	45 (6)	36	121	89 (23)	22	100	27	204	15.9	18.1
緑区	276	250	(2)	26	25	7	12	7	17	12	31	33	10	1 (1)	5	11	15 (1)		21	12	31	2.1	2.4
瀬谷区	874	780	(30)	94	71 (1)	49	31 (3)	17 (1)	39	22	82	120 (1)	59 (7)	29 (9)	25	31	27 (5)	10	24 (1)	5	139 (2)	6.7	7.5
栄区	102	95	(5)	7	11	1	1	1	6	2	6	18	1	5 (5)	2	1	2	2		16	20	0.8	0.9
泉区	672	604	(13)	68	20	43	18 (1)	26	35	21	43	84	81 (5)	15 (4)	43	16	10 (1)	7	33	23 (2)	86	5.2	5.7
青葉区	235	214	(2)	21	15	5	3	8	4	12	50	19	2 (1)		2	8	6 (1)	4	17	2	57	1.8	2.0
都筑区	271	259	(2)	12	23	3	5 (2)	2	9	31	67	16	6	5	3	4	1		45	7	32	2.2	2.3
川崎市	310	276	(5)	34	13		7	1	8	16 (1)	53 (3)	25	5	1	2	4	11 (1)	6	17	6	101	2.4	2.7
横須賀市	266	241	(1)	25	12	12	11	21	15	21	57	18	10	1	9	1	1	6	2	4 (1)	40	2.1	2.3
平塚市	104	99	(1)	5	7	6			6	5	32	25				4	1	3	3	1 (1)	6	0.8	0.9
鎌倉市	118	105	(1)	13	3	9	5	2	4	4	19	14	1	2 (1)		2		5	2	6	27	0.9	1.0
藤沢市	473	445	(8)	28	36	22	8	6	25	18	55	56	21 (3)	20 (2)	6	6	4 (1)	12	19	40 (2)	91	3.8	4.0
小田原市	69	65	(1)	4		1			4	1	13	15	2 (1)			3	1	6	8	8	3	0.6	0.6
茅ヶ崎市	216	198	(4)	18	4	14	3	9	2	4	23	17	5 (2)	6	7	4	6	3	27	25 (2)	39	1.7	1.8
逗子市	25	25			6	1		4	3		5	1	2		1	1					1	0.2	0.2
相模原市	562	498	(12)	64	17	24	18 (1)	27 (1)	25	39	133	37	19	16 (5)	4	9	20 (2)	8	35	20 (3)	47	4.3	4.8
三浦市	36	34	(1)	2	2		3 (1)	1	2	4	15	4	1		1						1	0.3	0.3
秦野市	66	59	(1)	7	11	3	2 (1)		6	8	15		2			1	5	2	1		3	0.5	0.6
厚木市	175	165	(1)	10	6	16	12	14	14	7	41	11	3	1 (1)		7	1	1	6	1	24	1.4	1.5
大和市	719	645	(12)	74	40	41	26	26	37	50	94 (1)	109	17 (1)	31 (4)	7	19	21 (4)	8	28	11 (1)	80 (1)	5.5	6.2
伊勢原市	34	30		4		3	1	2	3	1	11		1								8	0.3	0.3
海老名市	291	274	(2)	17	28	19	19	14	35	12	46	28	20	8 (2)	2	5	8	2	7	1	20	2.3	2.5
座間市	274	248	(5)	26	8	15	7	7	19	20	36	24	10 (1)	3		1	9		15	4 (3)	70 (1)	2.1	2.3
南足柄市	31	28	(2)	3			1			3	3	8 (1)		1 (1)		6	3	1			2	0.2	0.3
綾瀬市	266	249	(1)	17	18	18	5	10	19	6	45	26	11	6	11	3	1 (1)	3	7		60	2.1	2.3
三浦郡	19	17		2	2				1	2	4			4		1					3	0.1	0.2
高座郡	58	54		4		2	2	4	3	1	10	12	1	2					9		8	0.5	0.5
愛甲郡	23	22	(1)	1		1		2	2	1	2	9	1 (1)								4	0.2	0.2
中郡	11	10	(1)	1			1				3	3 (1)	1		1			1			0	0.1	0.1
足柄上郡	21	19		2						3	2	3	2		3	1		1			4	0.2	0.2
足柄下郡	17	15		2	5	1					3							2	2		2	0.1	0.1
県外	492	437	(9)	55	22	18	16	17	14	26 (1)	74	53 (1)	12	19 (2)	2	16	11 (2)	11	18	37 (3)	71	3.7	4.2

表24－(1)　退院患者（延）疾病分類(1)

（令和２年）

疾病別				計		男		女	
				全退院	死亡	全退院	死亡	全退院	死亡
合計				**11,689**	**549**	**6,860**	**319**	**4,829**	**230**
Ⅰ	A00～B99	感染症及び寄生虫症		2	0			2	
	A15～A19	結核（再掲）		0	0				
	B15～B19	ウィルス肝炎（再掲）		0	0				
Ⅱ	C00～D48	新生物	悪性新生物（C00～C97）	10,313	542	6,116	313	4,197	229
			上皮内新生物、その他悪性新生物（D00～D09、D45～D46、D471. 3. 4. 5. 9）	240	0	92		148	
			その他の新生物（D10～D48）※上記D45～D47を除く	936	2	563	2	373	
Ⅲ	D50～D89	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害		1	0			1	
Ⅳ	E00～E90	内分泌、栄養および代謝疾患		22	0	4		18	
	E10～E14	糖尿病（再掲）		0	0				
Ⅴ	F00～F99	精神および行動の障害		0	0				
Ⅵ	G00～G99	神経系の疾患		1	1	1	1		
Ⅶ	H00～H59	眼および付属器の疾患		0	0				
Ⅷ	H60～H95	耳および乳様突起の疾患		0	0				
Ⅸ	I00～I99	循環器系の疾患		12	3	6	2	6	1
	I10～I15	高血圧性の疾患（再掲）		0	0				
	I20～I25	虚血性心疾患（再掲）		0	0				
	I30～I52	その他の型の心疾患（再掲）		3	1	1	1	2	
	I60～I69	脳血管疾患（再掲）		8	2	5	1	3	1
Ⅹ	J00～J99	呼吸器系の疾患		11	0	5		6	
Ⅺ	K00～K93	消化器系の疾患		66	1	40	1	26	
	K25～K27	胃・十二指腸潰瘍（再掲）		2	0	1		1	
	K70～K74	肝硬変・慢性肝炎（再掲）		3	0	2		1	
	K80～K81	胆石症・胆のう炎（再掲）		12	0	8		4	
Ⅻ	L00～L99	皮膚および皮下組織の疾患		1	0			1	
ⅩⅢ	M00～M99	筋骨格系および結合組織の疾患		3	0			3	
ⅩⅣ	N00～N99	尿路性器系の疾患		28	0	3		25	
	N00～N39	泌尿器（再掲）		4	0	2		2	
	N40～N51	男性性器（再掲）		1	0	1			
	N70～N77 N80～N98	女性性器（再掲）		21	0			21	
ⅩⅤ	O00～O99	妊娠・分娩および産じょく〈褥〉		0	0				
ⅩⅥ	P00～P96	周産期に発生した病態		0	0				
ⅩⅦ	Q00～Q99	先天奇形、変形および染色体異常		8	0	4		4	
ⅩⅧ	R00～R99	症状、兆候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの		5	0	2		3	
ⅩⅨ	S00～T98	損傷、中毒およびその他の外因の影響		6	0	2		4	
ⅩⅩ	V01～Y98	傷病および死亡の外因		0	0				
ⅩⅩⅠ	Z00～Z99	健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用		31	0	20		11	
	Z520	血液提供者〈ドナー〉（再掲）		11	0	8		3	
	Z523	骨髄提供者〈ドナー〉（再掲）		20	0	12		8	
	Z526	肝臓提供者〈ドナー〉（再掲）		0	0				
ⅩⅩⅡ	U00～U99	特殊目的用コード		3	0	2		1	
	U071	コロナウイルス感染症2019,ウイルスが同定されたもの		3	0	2		1	
	U072	コロナウイルス感染症2019，ウイルスが同定されていないもの		0	0				
	U08	コロナウイルス感染症2019の既往歴		0	0				
	U09	コロナウイルス感染症2019後の病態		0	0				

死亡は全退院の内数

表24－(2)　退院患者（延）疾病分類(2)
悪性新生物部位別内訳

	部　　位	計					男					女				
		全退院			死　亡		全退院			死　亡		全退院			死　亡	
		悪性	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS
C00 ～ C97	**総　　数**	**10,553**	**10,313**	**240**	**542**		**6,208**	**6,116**	**92**	**313**		**4,345**	**4,197**	**148**	**229**	
C00 ～ C14	**口唇・口腔及び咽頭　計**	**432**	**427**	**5**	**3**	**0**	**342**	**338**	**4**	**3**	**0**	**90**	**89**	**1**	**0**	**0**
C00	口唇	1		1			1		1							
C01	舌根〈基底〉部	5	3	2			4	3	1			1		1		
C02	その他及び部位不明の舌	61	61		1		46	46		1		15	15			
C03	歯肉	37	37				16	16				21	21			
C04	口腔底	33	33				33	33								
C05	口蓋	1	1				1	1								
C06	その他及び部位不明の口腔	6	6				6	6								
C07	耳下腺	13	13				12	12				1	1			
C08	その他及び部位不明の大唾液腺	4	4		1		2	2		1		2	2			
C09	扁桃	6	6				6	6								
C10	中咽頭	91	91				70	70				21	21			
C11	鼻〈上〉咽頭	25	25				9	9				16	16			
C12	梨状陥凹〈洞〉	77	77				74	74				3	3			
C13	下咽頭	72	70	2	1		62	60	2	1		10	10			
C14	その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭															
C15 ～ C26	**消化器　計**	**4,795**	**4,763**	**32**	**280**	**0**	**3,095**	**3,071**	**24**	**172**	**0**	**1,700**	**1,692**	**8**	**108**	**0**
C15	食道	729	727	2	26		600	598	2	21		129	129		5	
C16	胃	654	654		42		461	461		30		193	193		12	
C17	小腸	44	44		1		26	26		1		18	18			
C18	結腸	394	377	17	23		179	168	11	12		215	209	6	11	
C19	直腸Ｓ状結腸移行部	93	93		2		63	63		2		30	30			
C20	直腸	258	254	4	14		184	181	3	11		74	73	1	3	
C21	肛門及び肛門管	12	12		1		5	5				7	7		1	
C22	肝及び肝内胆管	578	578		32		395	395		24		183	183		8	
C23	胆のう〈嚢〉	101	101		13		38	38		5		63	63		8	
C24	その他及び部位不明の胆道	330	327	3	13		238	235	3	10		92	92		3	
C25	膵	1,601	1,595	6	113		905	900	5	56		696	695	1	57	
C26	その他及び部位不明確の消化器	1	1				1	1								
C30 ～ C39	**呼吸器及び胸腔内臓器　計**	**1,480**	**1,474**	**6**	**119**	**0**	**1,117**	**1,115**	**2**	**84**	**0**	**363**	**359**	**4**	**35**	**0**
C30	鼻腔及び中耳	4	4				4	4								
C31	副鼻腔	38	38				36	36				2	2			
C32	喉頭	68	68				56	56				12	12			
C33	気管	3	2	1	1		3	2	1	1						
C34	気管支及び肺	1,317	1,312	5	118		979	978	1	83		338	334	4	35	
C37	胸腺	19	19				8	8				11	11			
C38	心臓、縦隔及び胸膜	31	31				31	31								
C39	その他及び部位不明確の呼吸器及び胸腔内臓器															
C40 ～ C41	**骨及び関節軟骨　計**	**35**	**35**	**0**	**2**	**0**	**24**	**24**	**0**	**1**	**0**	**11**	**11**	**0**	**1**	**0**
C40	（四）肢の骨及び関節軟骨	8	8		1		6	6				2	2		1	
C41	その他及び部位不明の骨及び関節軟骨	27	27		1		18	18		1		9	9			
C43 ～ C44	**皮膚の黒色腫及びその他　計**	**69**	**69**	**0**	**4**	**0**	**8**	**8**	**0**	**1**	**0**	**61**	**61**	**0**	**3**	**0**
C43	皮膚の黒色腫	67	67		4		8	8		1		59	59		3	
C44	皮膚のその他	2	2									2	2			
C45 ～ C49	**中皮及び軟部組織　計**	**298**	**298**	**0**	**10**	**0**	**148**	**148**	**0**	**1**	**0**	**150**	**150**	**0**	**9**	**0**
C45	中皮腫	42	42		2		28	28		1		14	14		1	
C46	カポジ〈Kaposi〉肉腫															
C47	末梢神経及び自律神経	1	1				1	1								
C48	後腹膜及び腹膜	99	99		5		30	30				69	69		5	
C49	その他の結合組織及び軟部組織	156	156		3		89	89				67	67		3	

（つづき）　　死亡・死亡上皮内癌は全退院の内数　　上皮内にMDSも含む　　（令和２年）

	部　　位	計					男					女				
		全退院			死　亡		全退院			死　亡		全退院			死　亡	
		悪性	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS	小計	浸潤	上皮内・MDS	浸潤	上皮内・MDS
C50	**乳房　計**	**658**	**603**	**55**	**28**	**0**	**4**	**4**				**654**	**599**	**55**	**28**	
C51 ～ C58	**女性性器　計**	**668**	**606**	**62**	**26**	**0**						**668**	**606**	**62**	**26**	**0**
C51	外陰	5	5		1							5	5		1	
C52	膣	8	8									8	8			
C53	子宮頚（部）	311	249	62	12							311	249	62	12	
C54	子宮体部	219	219		5							219	219		5	
C55	子宮の部位不明															
C56	卵巣	112	112		7							112	112		7	
C57	その他及び部位不明の女性性器	13	13		1							13	13		1	
C58	胎盤															
C60 ～ C63	**男性性器　計**	**471**	**471**	**0**	**8**	**0**	**471**	**471**	**0**	**8**	**0**					
C60	陰茎	7	7				7	7								
C61	前立腺	367	367		7		367	367		7						
C62	精巣〈睾丸〉	97	97		1		97	97		1						
C63	その他及び部位不明の男性性器															
C64 ～ C68	**尿路　計**	**528**	**470**	**58**	**16**	**0**	**394**	**346**	**48**	**12**	**0**	**134**	**124**	**10**	**4**	**0**
C64	腎盂を除く腎	113	113		2		80	80		2		33	33			
C65	腎盂	60	58	2	3		23	21	2	2		37	37		1	
C66	尿管	56	56		1		53	53				3	3		1	
C67	膀胱	299	243	56	10		238	192	46	8		61	51	10	2	
C68	その他及び部位不明の泌尿器															
C69 ～ C72	**眼，脳及び中枢神経系のその他　計**	**23**	**23**	**0**	**3**	**0**	**19**	**19**	**0**	**3**	**0**	**4**	**4**	**0**	**0**	**0**
C69	眼及び付属器															
C70	髄膜	4	4				4	4								
C71	脳	19	19		3		15	15		3		4	4			
C72	脊髄，脳神経及び中枢神経系のその他の部位															
C73 ～ C75	**甲状腺及びその他の内分泌腺　計**	**160**	**160**	**0**	**7**	**0**	**62**	**62**	**0**	**4**	**0**	**98**	**98**	**0**	**3**	**0**
C73	甲状腺	158	158		7		60	60		4		98	98		3	
C74	副腎															
C75	その他の内分泌腺及び関連組織	2	2				2	2								
C76 ～ C80	**部位不明確，続発部位及び部位不明　計**	**109**	**109**	**0**	**10**	**0**	**77**	**77**	**0**	**7**	**0**	**32**	**32**	**0**	**3**	**0**
C76	その他及び部位不明確															
C77	リンパ節の続発性及び部位不明	2	2				1	1				1	1			
C78	呼吸器及び消化器の続発性	17	17				7	7				10	10			
C79	その他の部位の続発性	6	6				5	5				1	1			
C80	部位の明示されないもの	84	84		10		64	64		7		20	20		3	
C81 ～ C96	**リンパ組織，造血組織及び関連組織　計**	**827**	**805**	**22**	**26**	**0**	**447**	**433**	**14**	**17**	**0**	**380**	**372**	**8**	**9**	**0**
C81	ホジキン〈Hodgkin〉リンパ腫	29	29		1		16	16		1		13	13			
C82	ろ〈濾〉胞性リンパ腫	71	70	1			36	35	1			35	35			
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫	307	307		8		162	162		8		145	145			
C84	成熟 T/NK 細胞リンパ腫	12	12		2		6	6		1		6	6		1	
C85	非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫のその他及び詳細不明の型	74	74		2		39	39				35	35		2	
C86	T/NK 細胞リンパ腫のその他の明示された型	23	23		1		15	15				8	8		1	
C88	悪性免疫増殖性疾患	11	11				5	5				6	6			
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞腫瘍	65	65		1		35	35		1		30	30			
C91	リンパ性白血病	98	98		2		50	50		2		48	48			
C92	骨髄性白血病	118	98	20	8		72	59	13	3		46	39	7	5	
C93	単球性白血病	3	3				3	3								
C94	細胞型の明示されたその他の白血病	4	3	1	1		2	2		1		2	1	1		
C95	細胞型不明の白血病	12	12				6	6				6	6			
C96	リンパ組織，造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明															
C97	**独立した（原発性）多部位**		**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

表25　院内がん登録

表25ー(1)　院内がん新登録（令和元年）

A：手術（開創・体腔鏡・内視鏡）　B：放治　C：化学療法（ホルモン剤他を含む）　手術内訳は開創・体腔鏡・内視鏡の重複も含む　（単位：人）

ICD10　悪性新生物 ※1	総数（再掲）			外来（再掲）			初回治療状況									手術内訳			年内死亡		
部位別 ＼ 合計	計	男	女	計	男	女	A	B	C	A+B	A+C	B+C	A+B+C	他	無	開創	体腔鏡	内視鏡	計	男	女
	5,270 (278)	3,004 (80)	2,266 (198)	2,061	1,369	692	818	59	123	3	72	75	6	0	4,114	0	0	0	0	0	0
C00 ～ C14　口唇・口腔及び咽頭の悪性新生物　小計	**144 (6)**	**105 (5)**	**39 (1)**	**74**	**52**	**22**	**21**	**0**	**2**	**0**	**0**	**1**	**0**	**0**	**120**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C00　口唇	0 0			0															0		
C01　舌根〈基底〉部	4 0	3	1	1	1				2			1			1				0		
C02　その他及び部位不明の舌	27 (1)	17	10 (1)	10	6	4	8								19				0		
C03　歯肉	18 0	11	7	10	4	6	1								17				0		
C04　口腔底	6 0	5	1	3	2	1	1								5				0		
C05　口蓋	3 0		3	2		2	1								2				0		
C06　その他及び部位不明の口腔	6 0	3	3	3	2	1	1								5				0		
C07　耳下腺	11 0	6	5	9	4	5	2								9				0		
C08　その他及び部位不明の大唾液腺	3 0	2	1	1	1		1								2				0		
C09　扁桃	3 0	2	1	0			2								1				0		
C10　中咽頭	19 (2)	19 (2)		13	13		2								17				0		
C11　鼻〈上〉咽頭	11 0	6	5	6	3	3									11				0		
C12　梨状陥凹〈洞〉	22 (3)	21 (3)	1	9	9		2								20				0		
C13　下咽頭	11 0	10	1	7	7										11				0		
C14　その他及び部位不明確の口唇、口腔及び咽頭	0 0			0															0		
C15 ～ C26　消化器の悪性新生物　小計	**1,799 (28)**	**1,171 (20)**	**628 (8)**	**624**	**404**	**220**	**510**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1,289**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C15　食道	239 (16)	204 (14)	35 (2)	74	63	11	68								171				0		
C16　胃	424 0	307	117	120	82	38	221								203				0		
C17　小腸	26 0	17	9	10	7	3	12								14				0		
C18　結腸	242 (2)	121	121 (2)	88	48	40	87								155				0		
C19　直腸S状結腸移行部	47 0	22	25	6	3	3	21								26				0		
C20　直腸	105 (1)	70 (1)	35	39	27	12	39								66				0		
C21　肛門及び肛門管	4 0	1	3	2		2	2								2				0		
C22　肝及び肝内胆管	169 0	132	37	90	70	20	16								153				0		
C23　胆のう〈嚢〉	34 0	18	16	12	6	6	5								29				0		
C24　その他及び部位不明の胆道	72 (1)	52 (1)	20	26	20	6	18								54				0		
C25　膵	436 (8)	226 (4)	210 (4)	156	77	79	21								415				0		
C26　その他及び部位不明確の消化器	1 0	1		1	1										1				0		
C30 ～ C39　呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物　小計	**797 (47)**	**521 (20)**	**276 (27)**	**232**	**161**	**71**	**287**	**59**	**121**	**3**	**72**	**74**	**6**	**0**	**175**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C30　鼻腔及び中耳	10 0	7	3	9	6	3									10				0		
C31　副鼻腔	14 0	9	5	10	7	3									14				0		
C32　喉頭	23 (1)	19	4 (1)	17	14	3									23				0		
C33　気管	0 0			0															0		
C34　気管支及び肺	727 (46)	475 (20)	252 (26)	190	130	60	287	59	121	3	72	74	6	0	105				0		
C37　胸腺	19 0	8	11	6	4	2									19				0		
C38　心臓、縦隔及び胸腺	4 0	3	1	0											4				0		
C39　その他及び部位不明確の呼吸器系及び胸腔内臓器	0 0			0															0		
C40 ～ C41　骨及び関節軟骨の悪性新生物　小計	**22 0**	**12 0**	**10 0**	**10**	**6**	**4**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**22**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C40　（四）肢の骨及び関節軟骨	6 0	1	5	3	1	2									6				0		
C41　その他及び部位不明の骨及び関節軟骨	16 0	11	5	7	5	2									16				0		
C43 ～ C44　皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物　小計	**22 0**	**7 0**	**15 0**	**15**	**6**	**9**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**22**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C43　皮膚の悪性黒色腫	12 0	3	9	5	2	3									12				0		
C44　皮膚のその他	10 0	4	6	10	4	6									10				0		
C45 ～ C49　中皮及び軟部組織の悪性新生物　小計	**107 0**	**59 0**	**48 0**	**38**	**21**	**17**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**107**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C45　中皮腫	15 0	10	5	4	3	1									15				0		
C46　カポジ〈Kaposi〉肉腫	0 0			0															0		
C47　末梢神経及び自律神経	1 0		1	0											1				0		
C48　後腹膜及び腹膜	29 0	10	19	13	5	8									29				0		

C49	その他の結合組織及び軟部組織	62	0	39		23		21	13	8										62				0		
C50	**乳房の悪性新生物　小計**	**601**	**(64)**	**3**		**598**	**(64)**	**162**	**2**	**160**										**601**				**0**		
C51 ～ C58	**女性性器の悪性新生物　小計**	**344**	**(78)**	**0**	**0**	**344**	**(78)**	**61**	**0**	**61**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**344**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C51	外陰	4	0			4		2		2										4				0		
C52	膣	2	0			2		1		1										2				0		
C53	子宮頚（部）	170	(70)			170	(70)	25		25										170				0		
C54	子宮体部	103	0			103		16		16										103				0		
C55	子宮の部位不明	1	0			1		1		1										1				0		
C56	卵巣	59	(8)			59	(8)	15		15										59				0		
C57	その他及び部位不明の女性性器	5	0			5		1		1										5				0		
C58	胎盤	0	0					0																0		
C60 ～ C63	**男性性器の悪性新生物　小計**	**749**	**0**	**749**	**0**	**0**	**0**	**575**	**575**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**749**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C60	陰茎	1	0	1				0												1				0		
C61	前立腺	725	0	725				565	565											725				0		
C62	精巣〈睾丸〉	23	0	23				10	10											23				0		
C63	その他及び部位不明の男性性器	0	0					0																0		
C64 ～ C68	**尿路の悪性新生物　小計**	**208**	**(31)**	**155**	**(22)**	**53**	**(9)**	**68**	**53**	**15**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**208**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C64	腎盂を除く腎	72	0	53		19		24	18	6										72				0		
C65	腎盂	16	0	10		6		3	3											16				0		
C66	尿管	14	(1)	9		5	(1)	8	6	2										14				0		
C67	膀胱	105	(30)	82	(22)	23	(8)	33	26	7										105				0		
C68	その他及び部位不明の泌尿器	1	0	1				0												1				0		
C69 ～ C72	**眼、脳及び中枢神経系のその他の悪性新生物　小計**	**15**	**(2)**	**6**	**0**	**9**	**(2)**	**9**	**5**	**4**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**15**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C69	眼及び付属器	0	0					1	1															0		
C70	髄膜	1	(1)			1	(1)	1		1										1				0		
C71	脳	13	0	6		7		7	4	3										13				0		
C72	脊髄、脳神経及び中枢神経系のその他の部位	1	(1)			1	(1)	0												1				0		
C73 ～ C75	**甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物　小計**	**152**	**0**	**47**	**0**	**105**	**0**	**53**	**14**	**39**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**152**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C73	甲状腺	147	0	42		105		51	12	39										147				0		
C74	副腎	4	0	4				2	2											4				0		
C75	その他の内分泌腺及び関連組織	1	0	1				0												1				0		
C76 ～ C80	**部位不明確、続発部位及び部位不明の悪性新生物　小計**	**50**	**0**	**33**	**0**	**17**	**0**	**24**	**16**	**8**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**50**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C76	その他及び部位不明確	10	0	7		3		4	3	1										10				0		
C77	リンパ節の続発性及び部位不明	0	0					0																0		
C78	呼吸器及び消化器の続発性	0	0					0																0		
C79	その他の部位の続発性	0	0					0																0		
C80	部位の明示されないもの	40	0	26		14		20	13	7										40				0		
C81 ～ C96	**リンパ組織、造血組織及び関連組織の悪性新生物　小計**	**260**	**(22)**	**136**	**(13)**	**124**	**(9)**	**116**	**54**	**62**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**260**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**
C81	ホジキン〈Hodgkin〉病	4	0	2		2		1		1										4				0		
C82	ろ〈濾〉胞性リンパ腫	19	0	5		14		12	3	9										19				0		
C83	非ろ〈濾〉胞性リンパ腫	84	0	47		37		20	8	12										84				0		
C84	成熟T/NK細胞リンパ腫	13	0	10		3		5	3	2										13				0		
C85	非ホジキン〈non-Hodgkin〉リンパ腫のその他及び詳細不明の型	13	0	8		5		5	4	1										13				0		
C86	T／NK細胞リンパ腫のその他の明示された型	6	0	3		3		2		2										6				0		
C88	悪性免疫増殖性疾患	20	0	9		11		15	9	6										20				0		
C90	多発性骨髄腫及び悪性形質細胞腫瘍	17	0	7		10		11	5	6										17				0		
C91	リンパ性白血病	7	0	6		1		3	3											7				0		
C92	骨髄性白血病	43	0	22		21		22	10	12										43				0		
C93	単球性白血病	5	0	1		4		3		3										5				0		
C94	細胞型の明示されたその他の白血病	25	(22)	14	(13)	11	(9)	16	8	8										25				0		
C95	細胞型不明の白血病	3	0	1		2		0												3				0		
C96	リンパ組織、造血組織及び関連組織のその他及び詳細不明	1	0	1				1	1											1				0		
C97	**独立した（原発性）多部位の悪性新生物　小計**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**	**0**

※１　登録対象は、C00 ～ C97（悪性）、D00 ～ D090、D45 ～ D46，D47（0, 1, 3, 4, 5, 9）、D（境界悪性および上皮内）は総数の再掲。

※２　セカンドオピニオンは登録対象外。

表25ー(2)　年次別院内がん登録数及び追跡調査状況

部位別＼年次別	性別	S38～45		S46～50		S51～55		S56～60		S61～63		H1～5		H6～10		H11～15	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
口唇・口腔・咽頭の悪性新生物		39	23	27	14	36	10	24	6	49	21	125	41	207	64	288	93
消化器の悪性新生物																	
	食道	64	10	55	19	74	16	79	23	118	19	242	38	327	57	504	62
	胃	606	374	606	335	464	337	472	271	372	187	691	304	821	391	957	426
	結腸	18	18	41	32	66	72	102	71	73	61	226	165	285	188	359	224
	直腸	48	45	41	44	40	35	52	55	74	38	150	92	201	118	255	141
	肝臓	7	2	22	7	41	18	65	21	97	28	207	77	239	74	267	104
	胆のう・胆管	8	13	6	15	21	30	21	33	19	18	30	51	42	38	64	33
	膵臓	12	10	25	14	30	21	25	19	33	24	48	42	63	50	140	75
	その他	13	6	13	6	5	6	6	2	5	3	12	6	7	7	14	12
呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物																	
	鼻腔・中耳・副鼻腔・喉頭	22	12	19	16	9	1	5		34	7	85	14	120	17	112	18
	肺	119	37	225	91	301	91	354	147	326	144	586	185	806	339	1,243	591
	その他	3	3	6	2	8	2	4	5	9	4	12	7	18	9	21	15
骨及び関節軟骨の悪性新生物		2	2	1	3			1		15	7	21	11	31	13	32	23
皮膚の黒色腫及びその他の悪性新生物		15	12	2	5	9	3	3	4	10	24	30	41	31	28	59	44
中皮及び軟部組織の悪性新生物		5	4	4	4	6	5		2	17	17	41	25	49	43	99	65
乳房の悪性新生物		1	343	1	397		535	3	612	3	409	4	799	2	968	6	1,543
女性性器の悪性新生物																	
	子宮頚部		590		635		633		665		375		633		723		820
	子宮体部		26		59		70		117		89		170		211		272
	その他		38		68		70		95		75		126		153		196
男性性器の悪性新生物																	
	前立腺	8		29		26		43		49		90		141		355	
	その他	17		16		10		12		13		22		28		46	
尿路の悪性新生物																	
	膀胱	23	8	48	22	58	29	61	24	42	7	92	30	108	33	164	35
	その他	3	5	13	13	24	11	29	15	35	6	79	38	92	42	154	49
眼・脳及び中枢神経系のその他の悪性新生物																	
	脳	2	4	5	4		2	6	2	27	13	29	25	35	27	41	36
	その他	1		1	1					2	4	1	2	7	5	3	1
甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物																	
	甲状腺	5	7	6	15	7	13	7	21	8	27	36	90	33	121	64	189
	その他の内分泌腺						2		2	1	1	4	2	1	3	4	2
部位不明確・続発部位及び部位不明の悪性新生物		26	18	21	17	19	21	13	12	16	16	30	18	49	19	39	31
リンパ組織・造血組織及び関連組織の悪性新生物																	
	ホジキン病	4	2	7	5	3	3	10	1	7	4	4	5	12	5	9	6
	非ホジキンリンパ腫	28	20	19	7	28	10	24	22	51	35	89	71	97	66	123	103
	白血病	7	4	11	7	9	4	15	10	54	27	101	70	93	59	77	67
	その他	1	1	4	2	1	4	2	2	7	3	10	6	17	6	19	8
合計		1,107	1,637	1,274	1,859	1,295	2,054	1,438	2,259	1,566	1,693	3,097	3,184	3,962	3,877	5,518	5,284

（令和元年）

（単位：人）

H16～H20		H21～H25		H26		H27		H28		H29		H30		R1		S38～R1	死亡判明数
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	合　計	S38～R1末
390	118	370	115	88	39	110	31	115	42	92	37	97	44	105	39	2,899	1,639
516	61	614	109	179	36	198	27	191	43	183	45	194	35	204	35	4,377	2,668
1,307	516	1,392	591	324	156	374	136	363	148	316	147	291	136	307	117	14,235	7,278
485	314	451	357	120	120	150	113	146	115	136	93	118	121	121	121	5,082	2,084
320	186	371	215	100	46	120	60	104	70	124	56	114	53	92	60	3,520	1,311
334	126	489	191	112	40	111	53	116	39	134	51	156	59	132	37	3,456	2,488
102	74	190	114	48	30	72	47	55	29	64	49	66	50	70	36	1,538	1,095
294	182	467	321	156	128	154	123	149	139	170	155	200	160	226	210	3,865	2,734
23	13	41	20	11	3	7	5	9	10	17	15	12	20	19	12	360	162
166	18	165	21	34	6	36	6	26	6	31	11	25	10	35	12	1,099	570
1,384	693	1,521	854	344	187	379	248	431	235	443	262	447	229	475	252	13,969	8,272
24	19	29	16	7	5	10	5	14		11	6	11	11	11	12	319	159
46	19	34	30	2	5	4	6	13	1	12	4	5	6	12	10	371	184
46	36	66	45	13	13	21	13	24	18	9	11	7	4	7	15	668	299
126	104	141	116	34	35	47	27	50	24	44	39	60	49	59	48	1,389	553
5	1,900	4	2,255	1	507	1	522	1	600	2	567	5	567	3	598	13,164	3,264
	808		823		190		215		213		183		145		170	7,821	2,434
	388		395		98		87		101		101		88		103	2,375	619
	246		255		70		56		61		57		65		71	1,702	916
608		668		216		271		358		394		488		725		4,469	981
58		73		13		10		18		22		25		24		407	97
179	51	240	68	72	18	76	24	92	19	75	20	79	26	82	23	1,928	948
181	60	215	91	63	24	52	25	55	36	71	36	73	34	72	30	1,726	814
51	37	23	14	8	5	1	3	7	5	5	4	4	5	6	7	443	334
6		1	4		2			1		1	3		2	1	2	51	28
93	229	125	246	29	66	44	138	49	112	39	85	37	68	42	105	2,156	482
2	2	2	2	3		4		1				3	1	5		47	28
52	31	68	39	18	14	20	11	22	6	23	11	15	13	33	17	758	504
12	11	11	11	3	5	2	5	3	1	2	4	5	5	2	2	171	55
201	156	278	248	64	68	69	67	78	55	74	78	85	73	82	73	2,542	977
103	71	119	75	28	23	37	19	37	17	32	22	48	16	44	39	1,345	868
20	10	47	27	8	10	13	11	14	20	26	14	22	12	8	10	365	192
7,134	6,479	8,215	7,668	2,098	1,949	2,393	2,083	2,542	2,165	2,552	2,166	2,692	2,107	3,004	2,266	98,617	43,852

表25ー(3)　新登録患者数（主要部位別・性別・年齢階級別）

上皮内癌、良性の一部を含む　令和元年（単位：人）

部位 / 性別 / 年齢別	全部位（上皮内癌またはMDS再掲）			食　道			胃			結　腸			直　腸			肝　臓			胆のう・胆管			膵　臓		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全年齢	5,270 (278)	3,004 (80)	2,266 (198)	239	204	35	424	307	117	242	121	121	152	92	60	169	132	37	106	70	36	436	226	210
～19	6 0	5	1	0			0			0			0			0			0			0		
20～24	17 (1)	10	7 (1)	0			0			0			0			0			0			1		1
25～29	23 (4)	10 (1)	13 (3)	0			1		1	2	2		0			0			0			0		
30～34	60 (17)	21	39 (17)	0			2	1	1	2	1	1	0			0			0			0		
35～39	85 (14)	26 (1)	59 (13)	1		1	3	2	1	3	2	1	3	1	2	1	1		0			3	3	
40～44	160 (21)	56 (2)	104 (19)	2	2		9	7	2	5	3	2	3	1	2	4	4		3	1	2	6	4	2
45～49	292 (29)	92 (1)	200 (28)	4	3	1	22	11	11	12	4	8	9	7	2	7	7		4	2	2	14	8	6
50～54	331 (22)	134 (4)	197 (18)	8	8		14	8	6	13	8	5	18	13	5	10	10		3	3		31	17	14
55～59	402 (24)	195 (9)	207 (15)	14	13	1	26	19	7	21	10	11	15	10	5	11	9	2	5	2	3	26	14	12
60～64	512 (18)	306 (3)	206 (15)	32	27	5	36	30	6	31	20	11	17	13	4	16	13	3	6	2	4	45	26	19
65～69	761 (39)	475 (16)	286 (23)	46	38	8	62	37	25	34	15	19	20	11	9	19	16	3	20	15	5	68	37	31
70～74	982 (39)	624 (15)	358 (24)	51	39	12	84	63	21	38	21	17	27	15	12	36	25	11	17	10	7	98	51	47
75～79	895 (32)	583 (17)	312 (15)	41	40	1	72	58	14	46	19	27	20	12	8	28	24	4	27	21	6	81	32	49
80以上	744 (18)	467 (11)	277 (7)	40	34	6	93	71	22	35	16	19	20	9	11	37	23	14	21	14	7	63	34	29

部位 / 性別 / 年齢別	肺			乳　房			子宮頚		子宮体		前立腺		膀　胱			甲状腺			悪性リンパ腫			白血病			その他		
	計	男	女	計	男	女	計	女	計	女	計	男	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全年齢	727	475	252	601	3	598	170	170	103	103	725	725	105	82	23	147	42	105	159	84	75	84	45	39	681	396	285
～19	0			0			0		0		0		0			2	1	1	0			1	1		3	3	0
20～24	0			0			1	1	0		0		0			6	2	4	1	1		1	1		7	6	1
25～29	0			3		3	4	4	0		0		0			1	1		2	1	1	3	1	2	7	5	2
30～34	3	3		7		7	21	21	1	1	0		0			3	2	1	2	1	1	3	1	2	16	12	4
35～39	5	1	4	13		13	20	20	1	1	1	1	0			11	3	8	4	2	2	3	2	1	13	8	5
40～44	10	9	1	45		45	20	20	4	4	1	1	0			8	2	6	5		5	5	4	1	30	18	12
45～49	22	11	11	89		89	24	24	10	10	2	2	1		1	9	2	7	6	4	2	9	3	6	48	28	20
50～54	36	17	19	78		78	12	12	20	20	13	13	3	3		8	3	5	10	4	6	8	5	3	46	22	24
55～59	43	33	10	66		66	12	12	19	19	31	31	3	2	1	12	4	8	15	9	6	12	5	7	71	34	37
60～64	55	33	22	62	2	60	15	15	13	13	69	69	5	5		11	4	7	18	11	7	17	12	5	64	39	25
65～69	118	80	38	69		69	10	10	14	14	142	142	21	20	1	17	6	11	15	7	8	7	1	6	79	50	29
70～74	156	102	54	79		79	10	10	10	10	205	205	20	15	5	28	7	21	27	14	13	5	3	2	91	54	37
75～79	150	101	49	55	1	54	11	11	6	6	170	170	25	20	5	22	3	19	26	15	11	6	4	2	109	63	46
80以上	129	85	44	35		35	10	10	5	5	91	91	27	17	10	9	2	7	28	15	13	4	2	2	97	54	43

表25－(4)　新登録患者数（地区別）

令和元年（単位：人）

全登録数（a）		食　道	胃	結腸	直腸	肝	胆のう胆道	膵	肺	乳	子宮頚	子宮体	前立腺	膀胱	甲状腺	悪性リンパ腫	白血病(MDS含)	他
4,799	部位別登録数（b）	239	424	242	152	169	106	436	727	601	170	103	725	105	147	159	84	681
	部位別構成比 b/a%	4.5	8.0	4.6	2.9	3.2	2.0	8.3	13.8	11.4	3.2	2.0	13.8	2.0	2.8	3.0	1.6	12.9

地区名	地区別登録数(c)	(c)構成比 c/a%	地区別部位別登録数(d)	(d)構成比 d/b%																														
横浜市	3,194	60.6	153	64.0	257	60.6	156	64.5	90	59.2	84	49.7	45	42.5	217	49.8	437	60.1	462	76.9	105	61.8	79	76.7	440	60.7	72	68.6	88	59.9	93	58.5	38	45.2	378	55.5
鶴見区	65	1.2	2	0.8	3	0.7	3	1.2	3	2.0	2	1.2	3	2.8	4	0.9	7	1.0	3	0.5	1	0.6	5	4.9	6	0.8			3	2.0	1	0.6	6	7.1	13	1.9
神奈川区	109	2.1	5	2.1	6	1.4	5	2.1	6	3.9	2	1.2	2	1.9	12	2.8	14	1.9	11	1.8	8	4.7	2	1.9	10	1.4			3	2.0	2	1.3	2	2.4	19	2.8
西区	59	1.1	3	1.3	2	0.5	3	1.2	1	0.7	2	1.2			4	0.9	9	1.2	13	2.2	5	2.9	2	1.9	10	1.4			1	0.7					4	0.6
中区	41	0.8	1	0.4	3	0.7	2	0.8	1	0.7	3	1.8			2	0.5	9	1.2	3	0.5	2	1.2	1	1.0	6	0.8					2	1.3			6	0.9
南区	78	1.5	4	1.7	3	0.7	4	1.7			3	1.8			5	1.1	17	2.3	6	1.0	5	2.9	2	1.9	14	1.9	2	1.9			3	1.9			10	1.5
保土ヶ谷区	251	4.8	10	4.2	30	7.1	13	5.4	9	5.9	9	5.3	6	5.7	18	4.1	29	4.0	38	6.3	6	3.5	3	2.9	30	4.1	3	2.9	7	4.8	7	4.4	1	1.2	32	4.7
磯子区	67	1.3	3	1.3	3	0.7					3	1.8			6	1.4	10	1.4	10	1.7			3	2.9	14	1.9			3	2.0	1	0.6	2	2.4	9	1.3
金沢区	35	0.7	4	1.7	1	0.2	2	0.8	2	1.3			1	0.9	6	1.4	2	0.3	3	0.5					4	0.6	1	1.0	1	0.7	1	0.6	2	2.4	5	0.7
港北区	86	1.6	4	1.7	7	1.7	2	0.8			1	0.6	1	0.9	16	3.7	8	1.1	8	1.3	9	5.3	4	3.9	10	1.4			3	2.0	2	1.3	1	1.2	10	1.5
戸塚区	282	5.4	13	5.4	21	5.0	14	5.8	13	8.6	3	1.8	2	1.9	20	4.6	30	4.1	38	6.3	13	7.6	11	10.7	35	4.8	3	2.9	10	6.8	11	6.9	4	4.8	41	10.8
港南区	95	1.8	9	3.8	12	2.8	6	2.5	2	1.3	1	0.6	1	0.9	7	1.6	13	1.8	9	1.5	1	0.6	3	2.9	4	0.6	3	2.9	7	4.8	5	3.1	1	1.2	11	1.6
旭区	949	18.0	51	21.3	94	22.2	57	23.6	23	15.1	27	16.0	11	10.4	39	8.9	124	17.1	171	28.5	23	13.5	19	18.4	132	18.2	40	38.1	17	11.6	23	14.5	4	4.8	94	13.8
緑区	127	2.4	5	2.1	7	1.7	7	2.9	3	2.0	2	1.2	4	3.8	14	3.2	10	1.4	8	1.3	4	2.4	5	4.9	22	3.0	3	2.9	5	3.4	7	4.4	1	1.2	20	2.9
瀬谷区	408	7.7	17	7.1	24	5.7	13	5.4	17	11.2	9	5.3	4	3.8	21	4.8	80	11.0	61	10.1	14	8.2	7	6.8	62	8.6	10	9.5	11	7.5	5	3.1	7	8.3	46	6.8
栄区	50	0.9	5	2.1			2	0.8	1	0.7					6	1.4	6	0.8	4	0.7	3	1.8			10	1.4			4	2.7	1	0.6	2	2.4	6	0.9
泉区	319	6.1	12	5.0	33	7.8	11	4.5	3	2.0	9	5.3	4	3.8	8	1.8	52	7.2	70	11.6	8	4.7	8	7.8	36	5.0	7	6.7	8	5.4	17	10.7	5	6.0	28	4.1
青葉区	83	1.6	3	1.3	5	1.2	4	1.7	3	2.0	4	2.4	1	0.9	11	2.5	10	1.4	2	0.3	1	0.6	2	1.9	23	3.2			3	2.0	4	2.5			7	1.0
都筑区	90	1.7	2	0.8	3	0.7	8	3.3	3	2.0	4	2.4	5	4.7	18	4.1	7	1.0	4	0.7	2	1.2	2	1.9	12	1.7			2	1.4	1	0.6			17	2.5
川崎市	130	2.5	7	2.9	9	2.1	5	2.1	1	0.7	6	3.6	3	2.8	12	2.8	11	1.5	7	1.2	2	1.2			28	3.9	2	1.9	3	2.0	4	2.5			30	4.4
横須賀市	117	2.2	12	5.0	11	2.6	5	2.1	7	4.6	6	3.6	5	4.7	29	6.7	9	1.2	3	0.5	1	0.6			7	1.0			3	2.0	3	1.9	2	2.4	14	2.1
平塚市	36	0.7	2	0.8	5	1.2	1	0.4			4	2.4			3	0.7	9	1.2	1	0.2	1	0.6			5	0.7			2	1.4					3	0.4
鎌倉市	73	1.4	6	2.5	6	1.4	3	1.2			1	0.6			4	0.9	16	2.2	4	0.7	1	0.6	3	2.9	8	1.1	3	2.9	4	2.7			2	2.4	12	1.8
藤沢市	211	4.0	11	4.6	21	5.0	5	2.1			9	5.3	4	3.8	16	3.7	21	2.9	19	3.2	14	8.2	6	5.8	15	2.1	2	1.9	8	5.4	10	6.3	17	20.2	33	4.8
小田原市	35	0.7			1	0.2			1	0.7			1	0.9	3	0.7	6	0.8	4	0.7	1	0.6	1	1.0	8	1.1	1	1.0	5	3.4					3	0.4
茅ヶ崎市	62	1.2	4	1.7	2	0.5	2	0.8	2	1.3	2	1.2	5	4.7	4	0.9	6	0.8	1	0.2	2	1.2			6	0.8			2	1.4	4	2.5	4	4.8	16	2.3
逗子市	9	0.2					1	0.4	1	0.7							3	0.4							4	0.6										
相模原市	230	4.4	7	2.9	16	3.8	10	4.1	8	5.3	9	5.3	12	11.3	40	9.2	22	3.0	7	1.2	9	5.3	4	3.9	24	3.3	6	5.7	4	2.7	16	10.1	11	13.1	25	3.7
三浦市	22	0.4			2	0.5	1	0.4	1	0.7	1	0.6	3	2.8	4	0.9	1	0.1	1	0.2							1	1.0							7	1.0
秦野市	33	0.6	3	1.3	3	0.7	1	0.4	1	0.7	2	1.2	1	0.9	4	0.9	3	0.4	3	0.5	1	0.6	1	1.0	3	0.4			2	1.4	1	0.6			4	0.6
厚木市	80	1.5	4	1.7	12	2.8	4	1.7	2	1.3	5	3.0	3	2.8	9	2.1	15	2.1	5	0.8	1	0.6			9	1.2					1	0.6			10	1.5
大和市	313	5.9	17	7.1	29	6.8	11	4.5	14	9.2	4	2.4	8	7.5	23	5.3	56	7.7	42	7.0	14	8.2	1	1.0	35	4.8	5	4.8	4	2.7	8	5.0	4	4.8	38	5.6
伊勢原市	17	0.3			2	0.5	1	0.4			3	1.8			2	0.5	1	0.1	1	0.2			1	1.0	2	0.3	1	1.0			1	0.6			2	0.3
海老名市	122	2.3	2	0.8	12	2.8	17	7.0	6	3.9	8	4.7	1	0.9	10	2.3	15	2.1	12	2.0	3	1.8	3	2.9	11	1.5	2	1.9	2	1.4	1	0.6			17	2.5
座間市	90	1.7	3	1.3	10	2.4	2	0.8	6	3.9	8	4.7	7	6.6	10	2.3	8	1.1	8	1.3	5	2.9	1	1.0	4	0.6	2	1.9	1	0.7	3	1.9	1	1.2	11	1.6
南足柄市	18	0.3					1	0.4	1	0.7	1	0.6					6	0.8							3	0.4	1	1.0	2	1.4					3	0.4
綾瀬市	80	1.5	2	0.8	13	3.1	5	2.1	4	2.6	4	2.4			6	1.4	16	2.2	7	1.2	3	1.8	1	1.0	5	0.7			2	1.4	1	0.6	1	1.2	10	1.5
三浦郡	7	0.1	1	0.4									1	0.9	1	0.2					1	0.6			2	0.3									1	0.1
高座郡	18	0.3									1	0.6			2	0.5	5	0.7	1	0.2	1	0.6			1	0.1			1	0.7	2	1.3			4	0.6
愛甲郡	9	0.2					1	0.4	1	0.7			1	0.9	2	0.5	1	0.1							2	0.3									1	0.1
中郡	12	0.2			3	0.7									1	0.2	3	0.4	1	0.2					2	0.3					1	0.6			1	0.1
足柄上郡	24	0.5	1	0.4	1	0.2			1	0.7			1	0.9	2	0.5	11	1.5	1	0.2							2	1.9							4	0.6
足柄下郡	3	0.1																							1	7.3			1	35.9	1	33.1				
県外	325	6.2	4	1.7	9	2.1	10	4.1	5	3.3	11	6.5	5	4.7	32	7.3	46	6.3	11	1.8	5	2.9	2	1.9	100	13.8	5	4.8	13	8.8	9	5.7	4	4.8	54	7.9

表26ー(1)ー１　がん罹患数・粗罹患率・年齢調整罹患率（人口10万対）
―部位・性別―

2017年

部位	国際疾病分類(ICD-10)	罹患数			粗罹患率		年齢調整罹患率(日本人人口)		年齢調整罹患率(世界人口)	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女
全部位	**C00-C96,D06**	**39,251**	**30,447**	**69,698**	**869.0**	**669.5**	**470.8**	**389.6**	**326.4**	**291.5**
口唇	C00	3	4	7	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0
舌	C01-C02	253	143	396	5.6	3.2	3.6	1.8	2.6	1.3
歯肉	C03	95	90	185	2.1	2.0	1.1	0.7	0.8	0.4
口腔底	C04	41	15	56	0.9	0.3	0.5	0.2	0.4	0.2
口蓋	C05	23	8	31	0.5	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1
その他及び不明の口腔	C06	35	26	61	0.8	0.6	0.4	0.2	0.3	0.1
耳下腺	C07	45	32	77	1.0	0.7	0.7	0.4	0.5	0.3
大唾液腺	C08	19	9	28	0.4	0.2	0.3	0.1	0.2	0.1
扁桃	C09	44	10	54	1.0	0.2	0.6	0.2	0.5	0.1
中咽頭	C10	121	28	149	2.7	0.6	1.6	0.4	1.2	0.3
鼻＜上＞咽頭	C11	37	14	51	0.8	0.3	0.6	0.2	0.4	0.2
梨状陥凹＜洞＞	C12	166	16	182	3.7	0.4	2.1	0.2	1.5	0.2
下咽頭	C13	135	11	146	3.0	0.2	1.7	0.2	1.2	0.1
部位不明確な口腔・咽頭	C14	8	1	9	0.2	0.0	0.1	—	0.1	—
食道	C15	1,571	359	1,930	34.8	7.9	19.1	4.0	13.2	2.9
胃	C16	5,818	2,432	8,250	128.8	53.5	66.4	23.3	44.7	16.1
小腸	C17	186	117	303	4.1	2.6	2.4	1.4	1.7	1.0
結腸	C18	5,643	4,030	9,673	124.9	88.6	69.4	42.1	48.4	29.6
直腸	C19-C20	2,729	1,446	4,175	60.4	31.8	36.1	17.8	26.1	13.1
肛門及び肛門管	C21	45	34	79	1.0	0.8	0.5	0.3	0.3	0.3
肝及び肝内胆管	C22	1,381	681	2,062	30.6	15.0	16.0	6.0	10.9	4.2
胆のう及び肝外胆管	C23-C24	759	599	1,358	16.8	13.2	8.0	4.7	5.3	3.1
膵	C25	1,429	1,280	2,709	31.6	28.2	17.2	11.6	11.9	7.9
その他及び部位不明の消化器	C26	4	4	8	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0
鼻腔・中耳・副鼻腔	C30-C31	82	46	128	1.8	1.0	1.0	0.6	0.8	0.5
喉頭	C32	286	30	316	6.3	0.7	3.5	0.3	2.4	0.2
気管・気管支・肺	C33-C34	5,057	2,575	7,632	112.0	56.6	57.9	25.1	39.2	17.4
胸膜・胸腺・心・縦隔	C37-C38	93	54	147	2.1	1.2	1.4	0.8	1.2	0.6
その他及び部位不明確な呼吸器	C39	—	—	—	—	—	—	—	—	—
骨及び関節軟骨	C40-C41	34	29	63	0.8	0.6	0.6	0.4	0.5	0.4
皮膚の黒色腫	C43	60	57	117	1.3	1.3	0.8	0.7	0.5	0.5
皮膚、その他	C44	774	783	1,557	17.1	17.2	8.8	6.8	6.0	4.8
中皮腫	C45	112	13	125	2.5	0.3	1.3	0.1	0.9	0.1
カポジ肉腫	C46	1	—	1	0.0	—	0.0	—	—	—
末梢神経・自律神経	C47	—	3	3	—	0.1	—	0.1	—	0.2
後腹膜・腹膜	C48	35	96	131	0.8	2.1	0.5	1.3	0.4	1.0
結合組織、他軟部組織	C49	106	81	187	2.4	1.8	1.5	1.2	1.2	0.9

（つづき）

部位	国際疾病分類（ICD-10）	罹患数			粗罹患率		年齢調整罹患率（日本人人口）		年齢調整罹患率（世界人口）	
		男	女	計	男	女	男	女	男	女
乳房	C50	44	7,453	7,497	1.0	163.9	0.5	114.9	0.4	88.1
子宮	C53-C55	・	1,794	1,794	・	39.5	・	29.6	・	22.7
子宮頸部（上皮内がんを除く）	（C53）	・	652	652	・	14.3	・	11.2	・	8.7
子宮体部	（C54）	・	1,114	1,114	・	24.5	・	18.1	・	13.8
子宮、部位不明	（C55）	・	28	28	・	0.6	・	0.3	・	0.2
卵巣	C56	・	903	903	・	19.9	・	15.3	・	12.3
外陰・膣・他女性性器	C51-C52, C57	・	144	144	・	3.2	・	1.8	・	1.3
胎盤	C58	・	2	2	・	0.0	・	0.0	・	0.0
子宮頸部（上皮内がん）	D06	・	1,422	1,422	・	31.3	・	33.4	・	27.4
前立腺	C61	6,103	・	6,103	135.1	・	68.8	・	45.7	・
睾丸	C62	161	・	161	3.6	・	3.7	・	3.2	・
陰茎他男性性器	C60・C63	67	・	67	1.5	・	0.8	・	0.6	・
腎盂を除く腎	C64	832	376	1,208	18.4	8.3	11.5	4.4	8.4	3.1
膀胱	C67	1,988	585	2,573	44.0	12.9	22.6	5.3	15.2	3.6
その他の泌尿器	C65-C66, C68	451	209	660	10.0	4.6	5.1	1.7	3.3	1.1
眼	C69	7	5	12	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
脳	C71	161	155	316	3.6	3.4	2.5	2.0	2.0	1.6
その他・部位不明の神経系	C70・C72	19	24	43	0.4	0.5	0.3	0.4	0.2	0.3
甲状腺	C73	201	586	787	4.5	12.9	3.2	9.2	2.4	7.3
その他の内分泌腺	C74・C75	21	11	32	0.5	0.2	0.4	0.2	0.5	0.3
その他及び不明確な部位	C76	12	14	26	0.3	0.3	0.2	0.2	0.1	0.2
リンパ節、続発性及び部位不明	C77	4	1	5	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
続発性の呼吸器及び消化器	C78	7	14	21	0.2	0.3	0.1	0.1	0.1	0.1
続発性のその他の部位不明	C79	2	1	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
部位不明	C80	254	235	489	5.6	5.2	2.9	1.8	2.0	1.3
ホジキン病	C81	54	31	85	1.2	0.7	1.0	0.6	0.8	0.5
ろ胞性非ホジキンリンパ腫	C82	122	133	255	2.7	2.9	1.7	1.9	1.2	1.4
びまん性非ホジキンリンパ腫	C83	586	438	1,024	13.0	9.6	7.4	5.0	5.4	3.6
皮膚T細胞リンパ腫	C84	42	29	71	0.9	0.6	0.6	0.3	0.4	0.2
非ホジキン詳細不明	C85	146	150	296	3.2	3.3	1.5	1.1	1.0	0.8
多発性骨髄腫・形質細胞腫	C90	211	213	424	4.7	4.7	2.4	2.0	1.7	1.3
リンパ性白血病	C91	126	89	215	2.8	2.0	2.2	1.6	2.1	1.7
骨髄性白血病	C92	266	200	466	5.9	4.4	4.0	2.9	3.3	2.4
単球性白血病	C93	48	17	65	1.1	0.4	0.6	0.2	0.4	0.1
その他の白血病	C94	6	2	8	0.1	0.0	0.1	0.1	0.1	0.1
細胞型不明の白血病	C95	46	35	81	1.0	0.8	0.5	0.2	0.4	0.2
リンパ、造血、関連組織のその他及び詳細不明	C96	—	—	—	—	—	—	—	—	—

表26－(1)－2　罹　患　数

―主要部位・性・年齢階級別―

2017年

部　位 ICD-10	全部位 C00-C96, D06			口腔・咽頭 C00-C14			食　道 C15			胃 C16			結　腸 C18			直　腸 C19-C20			肝・肝内胆管 C22			胆のう・胆管 C23, C24			膵 C25		
年　齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全年齢	39,251	30,447	69,698	1,025	407	1,432	1,571	359	1,930	5,818	2,432	8,250	5,643	4,030	9,673	2,729	1,446	4,175	1,381	681	2,062	759	599	1,358	1,429	1,280	2,709
0 － 4	25	30	55	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	5	5	—	—	—	—	—	—
5 － 9	14	18	32	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—
10－14	14	17	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
15－19	24	24	48	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
20－24	22	71	93	1	3	4	—	—	—	—	1	1	4	3	7	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—
25－29	60	194	254	4	3	7	—	—	—	2	1	3	2	4	6	6	5	11	1	—	1	—	—	—	—	2	2
30－34	127	475	602	9	3	12	—	—	—	12	7	19	14	11	25	8	8	16	3	—	3	1	—	1	2	1	3
35－39	191	796	987	9	6	15	1	—	1	13	24	37	19	25	44	18	22	40	1	3	4	1	—	1	4	3	7
40－44	411	1,376	1,787	23	22	45	6	8	14	37	21	58	68	68	136	50	32	82	6	5	11	5	2	7	17	10	27
45－49	692	2,022	2,714	36	22	58	19	7	26	58	46	104	136	88	224	103	61	164	7	8	15	8	5	13	31	14	45
50－54	1,154	1,972	3,126	46	20	66	50	12	62	112	68	180	227	158	385	144	88	232	44	8	52	5	8	13	38	23	61
55－59	1,760	1,905	3,665	74	19	93	76	20	96	197	81	278	286	224	510	187	104	291	64	20	84	23	17	40	75	39	114
60－64	3,092	2,134	5,226	104	22	126	162	42	204	401	120	521	513	254	767	319	143	462	113	34	147	37	28	65	122	74	196
65－69	6,049	3,514	9,563	162	42	204	276	52	328	906	313	1,219	861	551	1,412	476	223	699	203	65	268	92	51	143	218	141	359
70－74	7,533	3,916	11,449	195	47	242	332	73	405	1,154	403	1,557	1,107	596	1,703	488	211	699	235	74	309	124	61	185	281	212	493
75－79	7,811	4,024	11,835	173	55	228	325	53	378	1,232	436	1,668	1,081	698	1,779	478	212	690	260	140	400	144	103	247	288	239	527
80－84	5,884	3,513	9,397	108	65	173	201	43	244	979	385	1,364	767	620	1,387	276	175	451	243	128	371	150	122	272	198	212	410
85以上	4,388	4,446	8,834	80	77	157	123	49	172	715	526	1,241	558	729	1,287	175	161	336	201	190	391	169	202	371	155	310	465

部　位 ICD-10	喉　頭 C32			肺 C33, C34			骨 C40, C41			皮　膚 C43, C44			乳房 C50	子　宮 C53-C55・D06	頸癌	体癌	上皮内	卵巣 C56	前立腺 C61	膀　胱 C67			腎 C64			白血病 C91-C95		
															（再　掲）													
年　齢	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	女					女	男	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全年齢	286	30	316	5,057	2,575	7,632	34	29	63	834	840	1,674	7,453	3,216	652	1114	1422	903	6,103	1,988	585	2,573	832	376	1,208	492	343	835
0 － 4	—	—	—	—	—	—	—	1	1	1	1	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	1	12	13	25
5 － 9	—	—	—	—	—	—	—	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—	—	—	8	7	15
10－14	—	—	—	—	—	—	1	—	1	1	2	3	—	—	—	—	—	2	—	—	—	—	—	—	—	4	5	9
15－19	—	—	—	—	—	—	2	1	3	—	2	2	—	—	—	—	—	8	—	—	—	—	—	—	—	5	4	9
20－24	—	—	—	2	—	2	1	—	1	2	—	2	1	26	1	2	23	12	—	—	—	—	—	—	—	6	7	13
25－29	—	—	—	2	—	2	—	—	—	2	2	4	28	111	9	3	99	19	—	1	—	1	1	—	1	7	2	9
30－34	—	—	—	3	4	7	1	—	1	6	—	6	82	289	33	17	239	23	—	2	2	4	5	6	11	8	3	11
35－39	—	—	—	13	11	24	—	—	—	5	4	9	217	366	47	18	301	34	1	5	1	6	11	5	16	17	10	27
40－44	1	—	1	28	29	57	4	1	5	16	14	30	571	410	72	47	290	69	3	14	4	18	27	9	36	14	18	32
45－49	7	—	7	64	43	107	1	1	2	9	28	37	1,016	411	76	119	213	90	13	26	9	35	44	13	57	25	17	42
50－54	7	1	8	105	63	168	2	2	4	22	29	51	866	343	65	180	97	111	77	52	14	66	52	18	70	16	16	32
55－59	17	1	18	194	97	291	7	—	7	46	25	71	649	296	64	179	52	103	176	83	28	111	62	16	78	22	18	40
60－64	24	2	26	332	164	496	2	3	5	39	23	62	684	182	46	108	28	77	421	129	20	149	103	30	133	34	17	51
65－69	52	8	60	796	341	1,137	6	3	9	87	66	153	886	219	69	112	35	103	1,012	283	63	346	125	56	181	74	23	97
70－74	61	4	65	1,018	449	1,467	2	6	8	127	109	236	791	203	61	121	19	82	1,389	320	79	399	140	65	205	76	31	107
75－79	52	8	60	1,039	462	1,501	1	2	3	138	115	253	698	153	44	91	16	62	1,449	431	108	539	119	70	189	62	46	108
80－84	34	4	38	801	409	1,210	2	2	4	174	128	302	482	109	25	73	5	52	986	349	112	461	85	39	124	65	49	114
85以上	31	2	33	660	503	1,163	2	5	7	159	292	451	482	98	40	44	5	53	576	293	145	438	57	49	106	37	57	94

表26－(1)－3　罹　患　率

―主要部位・性・年齢階級別―

2017年

部　位 ICD-10	全部位 C00-C96, D06		口腔・咽頭 C00-C14		食　道 C15		胃 C16		結　腸 C18		直　腸 C19-C20		肝・肝内胆管 C22		胆のう・胆管 C23, C24		膵 C25		喉　頭 C32	
年　齢	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全年齢	326.4	291.5	9.8	3.5	13.2	2.9	44.7	16.1	48.4	29.6	26.0	13.1	10.9	4.2	5.3	3.1	11.9	7.9	2.4	0.2
粗罹患	869.0	669.5	22.7	9.0	34.8	7.9	128.8	53.5	124.9	88.6	60.4	31.8	30.6	15.0	16.8	13.2	31.6	28.2	6.3	0.7
0 － 4	14.0	17.0	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	2.8	－	－	－	－	－	－
5 － 9	7.2	9.7	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	－	－	－	－	－	－
10－14	7.1	9.0	－	－	－	－	－	－	－	0.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
15－19	11.0	11.6	0.5	0.5	－	－	－	－	－	－	0.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－
20－24	8.5	30.2	0.4	1.3	－	－	－	0.4	1.5	1.3	－	0.4	－	－	－	－	－	－	－	－
25－29	24.0	84.2	1.6	1.3	－	－	0.8	0.4	0.8	1.7	2.4	2.2	0.4	－	－	－	－	0.9	－	－
30－34	45.1	180.5	3.2	1.1	－	－	4.3	2.7	5.0	4.2	2.8	3.0	1.1	－	0.4	－	0.7	0.4	－	－
35－39	60.3	266.8	2.8	2.0	0.3	－	4.1	8.0	6.0	8.4	5.7	7.4	0.3	1.0	0.3	－	1.3	1.0	－	－
40－44	106.7	377.0	6.0	6.0	1.6	2.2	9.6	5.8	17.7	18.6	13.0	8.8	1.6	1.4	1.3	0.6	4.4	2.7	0.3	－
45－49	174.4	545.7	9.1	5.9	4.8	1.9	14.6	12.4	34.3	24.0	26.0	16.4	1.8	2.2	2.0	1.4	7.8	3.8	1.8	－
50－54	359.1	671.8	14.3	6.8	15.6	4.1	34.9	23.1	70.6	53.7	44.8	29.9	13.7	2.7	1.6	2.7	11.8	7.8	2.2	0.3
55－59	668.3	762.7	28.0	7.6	29.2	8.0	75.0	32.4	108.7	89.9	70.8	41.6	24.2	8.0	8.7	6.8	28.4	15.6	6.4	0.4
60－64	1,224.6	844.6	41.1	8.7	64.0	16.6	158.5	47.4	203.5	100.4	126.5	56.5	44.7	13.4	14.6	11.1	48.2	29.3	9.9	0.8
65－69	1,886.9	1,033.4	50.5	12.3	86.3	15.3	282.5	91.9	268.5	161.8	148.6	65.5	63.5	19.1	28.7	15.0	67.9	41.4	16.2	2.4
70－74	3,138.6	1,451.8	81.1	17.4	138.5	27.0	480.9	149.1	460.6	220.9	203.4	78.1	98.6	27.4	51.6	22.6	116.9	78.5	25.4	1.5
75－79	3,864.0	1,689.8	85.4	23.1	160.5	22.3	608.9	183.4	534.3	293.4	236.0	89.0	128.9	58.8	71.6	43.2	142.2	100.3	25.7	3.4
80－84	4,364.0	1,918.6	80.0	35.5	148.9	23.5	727.2	210.6	568.7	338.3	204.4	95.5	180.0	69.9	111.1	67.1	146.6	115.7	25.2	2.2
85以上	4,736.4	2,271.3	86.1	39.3	132.4	25.0	769.7	270.2	601.7	371.7	188.4	82.1	216.4	96.9	181.9	103.5	166.9	158.1	33.4	1.0

部　位 ICD-10	肺 C33, C34		骨 C40, C41		皮　膚 C43, C44		乳房 C50	子　宮 C53-C55・D06	頸癌 (再掲)	体癌 (再掲)	上皮内 (再掲)	卵巣 C56	前立腺 C61	膀　胱 C67		腎 C64		白血病 C91-C95	
年　齢	男	女	男	女	男	女	女					女	男	男	女	男	女	男	女
全年齢	39.2	17.4	0.5	0.4	6.6	5.3	88.1	50.1	8.7	13.8	27.4	12.3	45.7	15.2	3.6	8.4	3.1	6.3	4.6
粗罹患	112.0	56.6	0.8	0.6	18.5	18.5	163.9	70.7	14.4	24.6	31.3	19.9	135.1	44.0	12.9	18.4	8.3	10.9	7.5
0 － 4	－	－	－	0.6	0.5	0.6	－	－	－	－	－	－	－	－	－	0.5	－	7.0	7.4
5 － 9	－	－	－	1.1	－	－	－	－	－	－	－	1.6	－	－	－	－	－	4.1	3.8
10－14	－	－	0.5	－	0.5	1.1	－	－	－	－	－	1.1	－	－	－	－	－	2.0	2.6
15－19	－	－	0.9	0.5	－	1.0	－	－	－	－	－	3.9	－	－	－	－	－	2.3	1.9
20－24	0.8	－	0.4	－	0.8	－	0.4	11.1	0.4	0.9	9.8	5.1	－	－	－	－	－	2.3	3.0
25－29	0.8	－	－	－	0.8	0.9	12.1	48.1	3.9	1.3	42.9	8.2	－	0.4	－	0.4	－	2.8	0.9
30－34	1.1	1.5	0.4	－	2.1	－	31.2	109.8	12.5	6.5	90.8	8.7	－	0.7	0.8	1.8	2.3	2.8	1.1
35－39	4.1	3.7	－	－	1.6	1.3	72.8	122.9	15.7	6.7	100.5	11.4	0.3	1.6	0.3	3.5	1.7	5.4	3.3
40－44	7.3	7.9	1.0	0.3	4.2	3.8	156.6	112.3	19.7	12.9	79.4	18.9	0.8	3.6	1.1	7.0	2.5	3.6	4.9
45－49	16.1	11.6	0.3	0.3	2.3	7.6	274.1	111.0	20.5	32.1	57.7	24.3	3.3	6.6	2.4	11.1	3.5	6.3	4.6
50－54	32.7	21.4	0.6	0.7	6.9	9.9	295.0	116.9	22.1	61.5	33.0	38.1	24.0	16.2	4.8	16.2	6.1	5.0	5.4
55－59	73.5	38.8	3.0	－	17.4	10.0	259.7	118.3	25.6	71.5	20.8	41.2	66.6	31.4	11.6	23.5	6.4	8.3	7.2
60－64	132.0	65.2	0.8	1.2	15.4	9.1	270.4	72.3	18.2	43.1	11.1	30.4	166.4	51.0	7.9	41.1	11.9	13.4	6.7
65－69	247.9	100.1	1.9	0.9	27.4	19.4	261.1	64.6	20.6	32.9	10.3	30.3	315.8	88.2	18.5	38.9	16.5	23.4	6.8
70－74	424.4	166.2	0.8	2.2	52.8	40.3	293.5	75.1	22.6	44.8	7.0	30.4	578.7	133.1	29.2	58.2	24.1	31.6	11.8
75－79	514.5	193.9	0.5	0.8	68.6	48.3	293.0	64.2	18.5	38.2	6.7	26.0	718.0	212.8	45.3	58.8	29.4	30.6	19.3
80－84	595.4	223.2	1.5	1.1	129.6	69.9	263.6	59.5	13.6	39.8	2.7	28.4	730.9	258.5	61.1	63.0	21.3	48.1	26.7
85以上	713.7	256.5	2.2	2.6	173.3	149.4	245.7	50.0	20.4	22.4	2.6	27.0	621.1	318.6	73.9	61.4	25.0	39.8	29.6

全年齢は世界人口を用いた年齢調整罹患率

表26－(2)－1　罹　患　数

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

2017年

部位名	地域	神奈川県計			横浜北部			横浜西部			横浜南部			川崎北部			川崎南部		
	ICD-10	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全部位	C00-C96・D06	39,251	30,447	69,698	5,849	4,816	10,665	5,021	3,859	8,880	5,149	3,892	9,041	2,781	2,345	5,126	2,601	2,040	4,641
口腔・咽頭	C00-C14	1,025	407	1,432	168	53	221	119	58	177	156	47	203	67	29	96	77	36	113
食道	C15	1,571	359	1,930	260	52	312	201	43	244	211	55	266	112	24	136	98	30	128
胃	C16	5,818	2,432	8,250	757	326	1,083	740	324	1,064	759	353	1,112	413	167	580	421	166	587
結腸	C18	5,643	4,030	9,673	819	602	1,421	706	540	1,246	803	544	1,347	394	292	686	375	269	644
直腸	C19-C20	2,729	1,446	4,175	413	219	632	338	161	499	358	189	547	207	104	311	233	115	348
肝・肝内胆管	C22	1,381	681	2,062	209	95	304	184	82	266	190	86	276	89	43	132	83	42	125
胆のう・胆管	C23-C24	759	599	1,358	97	86	183	108	87	195	104	68	172	64	52	116	43	41	84
膵	C25	1,429	1,280	2,709	216	197	413	172	171	343	192	175	367	114	108	222	83	78	161
喉頭	C32	286	30	316	40	5	45	40	4	44	49	5	54	21	2	23	20	3	23
肺	C33-C34	5,057	2,575	7,632	748	361	1,109	654	320	974	676	331	1,007	353	193	546	335	185	520
骨	C40-C41	34	29	63	4	7	11	4	1	5	4	2	6	2	3	5	1	2	3
皮膚	C43-C44	834	840	1,674	143	132	275	111	104	215	96	107	203	53	66	119	62	60	122
乳房	C50	44	7,453	7,497	8	1,240	1,248	6	957	963	4	925	929	5	625	630	1	465	466
子宮	C53-C55・D06	・	3,216	3,216	・	605	605	・	348	348	・	339	339	・	271	271	・	225	225
卵巣	C56	・	903	903	・	158	158	・	111	111	・	123	123	・	69	69	・	58	58
前立腺	C61	6,103	・	6,103	957	・	957	806	・	806	737	・	737	402	・	402	322	・	322
腎	C64	832	376	1,208	134	66	200	112	64	176	103	46	149	42	36	78	63	23	86
膀胱	C67	1,988	585	2,573	322	104	426	259	71	330	244	74	318	159	40	199	128	40	168
脳	C71	161	155	316	26	26	52	19	18	37	14	18	32	16	12	28	17	8	25
甲状腺	C73	201	586	787	40	104	144	36	81	117	24	86	110	10	42	52	12	34	46
白血病	C91-C95	492	343	835	59	54	113	55	44	99	74	48	122	45	33	78	29	23	52

部位名	地域	横須賀・三浦			湘南東部			湘南西部			県央			相模原			県西		
	ICD-10	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
全部位	C00-C96・D06	3,856	2,946	6,802	3,024	2,393	5,417	2,680	2,019	4,699	3,755	2,685	6,440	2,931	2,210	5,141	1,604	1,242	2,846
口腔・咽頭	C00-C14	99	43	142	94	36	130	62	23	85	89	43	132	60	26	86	34	13	47
食道	C15	162	31	193	127	31	158	86	31	117	146	30	176	105	21	126	63	11	74
胃	C16	510	219	729	477	189	666	401	162	563	572	227	799	497	187	684	271	112	383
結腸	C18	591	413	1,004	400	306	706	385	270	655	536	323	859	426	304	730	208	167	375
直腸	C19-C20	229	144	373	182	89	271	190	96	286	256	145	401	206	116	322	117	68	185
肝・肝内胆管	C22	135	78	213	103	54	157	97	48	145	128	69	197	92	47	139	71	37	108
胆のう・胆管	C23-C24	73	44	117	49	46	95	57	45	102	76	56	132	57	50	107	31	24	55
膵	C25	138	101	239	123	94	217	104	85	189	139	113	252	94	104	198	54	54	108
喉頭	C32	26	4	30	22	1	23	16	2	18	21	3	24	19	1	20	12	―	12
肺	C33-C34	479	261	740	351	183	534	343	177	520	501	232	733	424	208	632	193	124	317
骨	C40-C41	5	2	7	2	3	5	8	2	10	2	6	8	1	1	2	1	―	1
皮膚	C43-C44	99	101	200	50	65	115	62	65	127	71	67	138	50	52	102	37	21	58
乳房	C50	4	705	709	1	641	642	4	450	454	4	659	663	4	515	519	3	271	274
子宮	C53-C55・D06	・	288	288	・	260	260	・	238	238	・	282	282	・	241	241	・	119	119
卵巣	C56	・	81	81	・	74	74	・	60	60	・	73	73	・	54	54	・	42	42
前立腺	C61	658	・	658	527	・	527	426	・	426	581	・	581	432	・	432	255	・	255
腎	C64	74	26	100	78	21	99	62	22	84	75	34	109	63	27	90	26	11	37
膀胱	C67	205	61	266	159	49	208	108	40	148	179	46	225	143	32	175	82	28	110
脳	C71	12	15	27	14	17	31	9	9	18	16	12	28	14	12	26	4	8	12
甲状腺	C73	23	54	77	13	43	56	7	31	38	18	50	68	8	41	49	10	20	30
白血病	C91-C95	46	38	84	33	26	59	47	22	69	50	24	74	31	16	47	23	15	38

表26－(2)－2　粗罹患率（人口10万対）

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

2017年

部位名	地域	神奈川県		横浜北部		横浜西部		横浜南部		川崎北部		川崎南部	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	869.0	669.5	744.1	615.6	929.3	688.8	998.7	742.7	680.6	568.7	795.9	668.4
口腔・咽頭	C00-C14	22.7	9.0	21.4	6.8	22.0	10.4	30.3	9.0	16.4	7.0	23.6	11.8
食道	C15	34.8	7.9	33.1	6.7	37.2	7.7	40.9	10.5	27.4	5.8	30.0	9.8
胃	C16	128.8	53.5	96.3	41.7	137.0	57.8	147.2	67.4	101.1	40.5	128.8	54.4
結腸	C18	124.9	88.6	104.2	77.0	130.7	96.4	155.8	103.8	96.4	70.8	114.8	88.1
直腸	C19-C20	60.4	31.8	52.5	28.0	62.6	28.7	69.4	36.1	50.7	25.2	71.3	37.7
肝・肝内胆管	C22	30.6	15.0	26.6	12.1	34.1	14.6	36.9	16.4	21.8	10.4	25.4	13.8
胆のう・胆管	C23-C24	16.8	13.2	12.3	11.0	20.0	15.5	20.2	13.0	15.7	12.6	13.2	13.4
膵	C25	31.6	28.2	27.5	25.2	31.8	30.5	37.2	33.4	27.9	26.2	25.4	25.6
喉頭	C32	6.3	0.7	5.1	0.6	7.4	0.7	9.5	1.0	5.1	0.5	6.1	1.0
肺	C33-C34	112.0	56.6	95.2	46.1	121.0	57.1	131.1	63.2	86.4	46.8	102.5	60.6
骨	C40-C41	0.8	0.6	0.5	0.9	0.7	0.2	0.8	0.4	0.5	0.7	0.3	0.7
皮膚	C43-C44	18.5	18.5	18.2	16.9	20.5	18.6	18.6	20.4	13.0	16.0	19.0	19.7
乳房	C50	1.0	163.9	1.0	158.5	1.1	170.8	0.8	176.5	1.2	151.6	0.3	152.4
子宮	C53-C55・D06	・	70.7	・	77.3	・	62.1	・	64.7	・	65.7	・	73.7
卵巣	C56	・	19.9	・	20.2	・	19.8	・	23.5	・	16.7	・	19.0
前立腺	C61	135.1	・	121.7	・	149.2	・	143.0	・	98.4	・	98.5	・
腎	C64	18.4	8.3	17.1	8.4	20.7	11.4	20.0	8.8	10.3	8.7	19.3	7.5
膀胱	C67	44.0	12.9	41.0	13.3	47.9	12.7	47.3	14.1	38.9	9.7	39.2	13.1
脳	C71	3.6	3.4	3.3	3.3	3.5	3.2	2.7	3.4	3.9	2.9	5.2	2.6
甲状腺	C73	4.5	12.9	5.1	13.3	6.7	14.5	4.7	16.4	2.5	10.2	3.7	11.1
白血病	C91-C95	10.9	7.5	7.5	6.9	10.2	7.9	14.4	9.2	11.0	8.0	8.9	7.5

部位名	地域	横須賀・三浦		湘南東部		湘南西部		県央		相模原		県西	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	1,120.0	812.0	858.5	660.8	917.8	697.1	881.0	646.6	819.0	618.1	961.4	705.0
口腔・咽頭	C00-C14	28.8	11.9	26.7	9.9	21.2	7.9	20.9	10.4	16.8	7.3	20.4	7.4
食道	C15	47.1	8.5	36.1	8.6	29.5	10.7	34.3	7.2	29.3	5.9	37.8	6.2
胃	C16	148.1	60.4	135.4	52.2	137.3	55.9	134.2	54.7	138.9	52.3	162.4	63.6
結腸	C18	171.7	113.8	113.6	84.5	131.8	93.2	125.8	77.8	119.0	85.0	124.7	94.8
直腸	C19-C20	66.5	39.7	51.7	24.6	65.1	33.2	60.1	34.9	57.6	32.4	70.1	38.6
肝・肝内胆管	C22	39.2	21.5	29.2	14.9	33.2	16.6	30.0	16.6	25.7	13.2	42.6	21.0
胆のう・胆管	C23-C24	21.2	12.1	13.9	12.7	19.5	15.5	17.8	13.5	15.9	14.0	18.6	13.6
膵	C25	40.1	27.8	34.9	26.0	35.6	29.4	32.6	27.2	26.3	29.1	32.4	30.7
喉頭	C32	7.6	1.1	6.3	0.3	5.5	0.7	4.9	0.7	5.3	0.3	7.2	―
肺	C33-C34	139.1	71.9	99.7	50.5	117.5	61.1	117.6	55.9	118.5	58.2	115.7	70.4
骨	C40-C41	1.5	0.6	0.6	0.8	2.7	0.7	0.5	1.4	0.3	0.3	0.6	―
皮膚	C43-C44	28.8	27.8	14.2	18.0	21.2	22.4	16.7	16.1	14.0	14.5	22.2	11.9
乳房	C50	1.2	194.3	0.3	177.0	1.4	155.4	0.9	158.7	1.1	144.0	1.8	153.8
子宮	C53-C55・D06	・	79.4	・	71.8	・	82.2	・	67.9	・	67.4	・	67.6
卵巣	C56	・	22.3	・	20.4	・	20.7	・	17.6	・	15.1	・	23.8
前立腺	C61	191.1	・	149.6	・	145.9	・	136.3	・	120.7	・	152.8	・
腎	C64	21.5	7.2	22.1	5.8	21.2	7.6	17.6	8.2	17.6	7.6	15.6	6.2
膀胱	C67	59.6	16.8	45.1	13.5	37.0	13.8	42.0	11.1	40.0	9.0	49.2	15.9
脳	C71	3.5	4.1	4.0	4.7	3.1	3.1	3.8	2.9	3.9	3.4	2.4	4.5
甲状腺	C73	6.7	14.9	3.7	11.9	2.4	10.7	4.2	12.0	2.2	11.5	6.0	11.4
白血病	C91-C95	13.4	10.5	9.4	7.2	16.1	7.6	11.7	5.8	8.7	4.5	13.8	8.5

表26－(2)－3　年齢調整罹患率（標準人口は日本人人口を使用）

―主要部位・性・二次保健医療圏別―

2017年

部位名	地域	神奈川県		横浜北部		横浜西部		横浜南部		川崎北部		川崎南部	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	470.8	389.6	469.7	394.3	472.5	384.7	491.6	402.4	434.9	367.1	532.5	423.7
口腔・咽頭	C00-C14	13.6	4.7	14.9	3.9	12.9	4.8	16.6	4.6	10.7	4.1	17.1	6.9
食道	C15	19.1	4.0	21.2	3.9	18.2	3.5	20.8	5.1	18.2	3.5	20.6	5.0
胃	C16	66.4	23.3	58.4	22.0	63.6	24.4	70.5	26.8	61.8	19.3	83.5	26.0
結腸	C18	69.4	42.1	66.8	42.1	68.7	42.9	77.7	45.2	62.9	39.4	79.0	48.7
直腸	C19-C20	36.1	17.8	35.2	16.2	36.1	15.8	38.8	18.9	35.2	16.2	50.3	25.1
肝・肝内胆管	C22	16.0	6.0	16.1	5.4	16.3	6.2	17.3	6.4	13.8	4.0	16.7	6.7
胆のう・胆管	C23-C24	8.0	4.7	7.4	5.0	9.0	4.9	8.2	4.3	9.2	5.2	8.1	5.0
膵	C25	17.2	11.6	17.4	11.6	16.9	11.8	17.4	13.3	18.7	13.7	16.8	11.8
喉頭	C32	3.5	0.3	3.3	0.3	3.7	0.4	4.8	0.4	3.3	0.4	4.1	0.4
肺	C33-C34	57.9	25.1	57.0	23.5	58.7	23.8	61.7	25.5	53.8	23.4	66.6	31.4
骨	C40-C41	0.6	0.4	0.5	0.6	0.5	0.2	0.8	0.5	0.4	0.8	0.3	0.6
皮膚	C43-C44	9.6	7.4	11.0	7.3	9.8	6.4	8.3	7.1	8.4	7.3	12.4	8.3
乳房	C50	0.5	114.9	0.5	116.8	0.7	117.8	0.3	120.5	0.7	115.9	0.2	112.5
子宮	C53-C55・D06	・	63.0	・	68.2	・	56.5	・	55.4	・	58.0	・	68.0
卵巣	C56	・	15.3	・	16.0	・	15.6	・	18.3	・	13.0	・	15.4
前立腺	C61	68.8	・	74.3	・	71.9	・	65.1	・	60.2	・	63.5	・
腎	C64	11.5	4.4	12.0	5.0	12.4	5.5	11.4	4.4	7.2	5.5	14.2	4.3
膀胱	C67	22.6	5.3	24.7	6.5	23.3	4.5	21.5	5.6	23.3	4.5	25.3	5.7
脳	C71	2.5	2.0	2.7	1.9	2.4	1.7	1.6	2.0	2.7	2.2	4.2	1.4
甲状腺	C73	3.2	9.2	4.0	9.8	4.5	11.3	2.7	10.2	1.8	7.4	2.9	9.1
白血病	C91-C95	7.4	4.9	5.6	5.5	6.7	5.2	9.1	5.3	7.9	4.3	6.2	5.6

部位名	地域	横須賀・三浦		湘南東部		湘南西部		県央		相模原		県西	
	ICD-10	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
全部位	C00-C96・D06	497.1	412.4	463.2	389.2	462.2	392.6	480.6	383.1	436.2	365.3	429.1	362.5
口腔・咽頭	C00-C14	14.3	5.6	16.4	4.9	11.1	3.7	12.0	6.4	9.4	4.4	11.5	3.3
食道	C15	21.4	3.5	19.2	4.5	15.1	4.7	18.7	4.0	15.4	3.6	17.9	1.8
胃	C16	62.2	20.2	70.4	23.4	65.8	22.3	69.0	24.5	70.3	23.1	67.9	26.2
結腸	C18	80.5	44.6	61.9	39.1	67.1	45.5	69.3	37.6	67.8	41.0	57.1	33.2
直腸	C19-C20	35.4	18.2	30.9	14.8	36.0	18.2	35.5	20.1	33.7	19.0	34.2	16.5
肝・肝内胆管	C22	16.6	7.8	14.1	5.4	16.0	5.4	16.7	7.4	13.8	4.7	18.2	7.2
胆のう・胆管	C23-C24	7.1	3.6	7.0	4.3	8.0	5.6	8.8	5.1	7.5	5.2	6.8	4.2
膵	C25	17.2	9.4	19.7	10.9	18.4	10.1	17.8	11.3	12.8	12.8	16.2	9.4
喉頭	C32	3.6	0.3	3.2	0.1	3.0	0.3	2.4	0.5	3.1	0.1	3.0	―
肺	C33-C34	57.8	24.6	50.8	23.6	54.5	23.7	62.0	26.2	60.9	27.3	51.2	28.7
骨	C40-C41	1.6	0.1	0.3	0.3	1.8	0.5	0.3	0.8	0.1	0.1	0.3	―
皮膚	C43-C44	12.1	9.8	7.7	7.7	10.2	7.5	8.9	8.1	7.5	7.6	9.8	3.8
乳房	C50	0.5	120.9	0.1	121.8	0.9	106.2	0.5	110.9	0.7	102.4	0.6	105.7
子宮	C53-C55・D06	・	70.0	・	62.8	・	78.3	・	59.5	・	59.0	・	61.7
卵巣	C56	・	17.4	・	16.1	・	16.7	・	12.5	・	10.2	・	17.4
前立腺	C61	77.0	・	75.3	・	67.4	・	69.1	・	59.4	・	63.9	・
腎	C64	12.1	3.3	13.6	3.6	12.5	3.5	11.0	4.2	10.5	3.9	7.5	1.8
膀胱	C67	23.4	5.4	24.1	6.3	18.3	4.6	22.1	5.2	19.9	3.8	20.9	5.7
脳	C71	2.5	2.4	2.6	3.0	1.9	1.7	2.3	1.5	3.1	2.4	1.0	2.6
甲状腺	C73	4.6	11.5	2.7	7.7	2.1	7.0	3.0	9.0	1.6	9.3	3.8	7.5
白血病	C91-C95	7.9	6.2	6.6	5.1	11.3	4.4	8.8	4.8	5.7	2.4	7.9	5.3

表26－(3)　届出罹患者５年相対生存率
―主要部位・性別―

2013年

患者種類	部位	ICD-10	5年相対生存率（%）		観察数（人）	
			男	女	男	女
届出罹患者	**全部位**	**C00-C96**	**64.9**	**71.8**	**31,090**	**21,355**
	口腔・咽頭	C00-C14	59.3	65.7	745	278
	食道	C15	45.0	52.3	1,305	253
	胃	C16	66.1	67.0	4,625	2,040
	結腸	C18	78.7	76.3	3,946	2,912
	直腸	C19-C20	74.5	79.7	2,113	1,112
	肝・肝内胆管	C22	33.8	33.6	1,309	517
	胆のう・胆管	C23-C24	28.9	24.5	567	488
	膵	C25	9.1	12.1	958	756
	喉頭	C32	79.9	87.8	264	28
	肺	C33-C34	31.9	49.0	3,885	1,741
	骨	C40-C41	68.8	58.1	19	23
	皮膚	C43-C44	96.2	97.3	607	557
	乳房	C50	94.4	91.2	19	5,548
	子宮	C53-C55	・	78.4	・	1,468
	（子宮頸）	C53	・	74.4	・	597
	（子宮体）	C54	・	81.8	・	851
	卵巣	C56	・	61.9	・	593
	前立腺	C61	96.4	・	4,624	・
	腎	C64	78.2	78.4	695	252
	膀胱	C67	84.9	76.1	1,616	432
	脳	C71	26.5	33.4	153	99
	甲状腺	C73	92.4	91.9	183	446
	白血病	C91-C95	46.4	49.9	379	260

届出罹患とは、医療機関より届出のあった、罹患情報

凡　例

表26－(1)から(3)の数表の記号は、次のような場合に使用した。

計数のない場合　―
統計項目のありえない場合　・
数値が微少（0.05未満）の場合　0.0

年報編集員

編集長　金　森　平　和（病　院　長）

編集員　森　本　　学（副　院　長）
森　永　総一郎（医療技術部長）
齋　藤　春　洋（呼吸器内科）
菊　地　慶　司（臨床研究所）
市　橋　麻由美（看　護　局）
堀　口　早　苗（検　査　科）
呉　谷　佐　苗（総務企画課）

事務局　総務企画課

神奈川県立がんセンター年報
（第36号）
令和３年12月
発　行　者　神奈川県立がんセンター
横浜市旭区中尾２－３－２
ＴＥＬ　045－520－2222（代表）
ＦＡＸ　045－520－2202
編集責任者　年　報　編　集　会　議
印　　刷　文明堂印刷株式会社　横浜営業所
ＴＥＬ　045－731－1441

地方独立行政法人　神奈川県立病院機構　神奈川県立がんセンター
横浜市旭区中尾二丁目３番２号　〒241-8515　電話 045-520-2222（代表）　FAX 045-520-2202